㈶岐阜市教育文化振興事業団報告書第10集

鷺山仙道遺跡

ー岐阜市鷺山・下土居土地区画整理事業における太平町下西郷線建設に伴う緊急発掘調査ー

2002

岐阜市鷺山・下土居土地区画整理組合
㈶岐阜市教育文化振興事業団

調査区から鷲山を望む

調査区から福光・金華山を望む

例　　言

1．本書は、鷺山仙道遺跡に所在する埋蔵文化財の発掘調査報告書である。

2．調査は、鷺山・下土居土地区画整理事業における都市計画道路太平町下西郷線建設に伴う緊急調査として、業務委託契約に基づき、委託者・岐阜市鷺山・下土居土地区画整理組合の調査経費負担により、受託者・㈶岐阜市教育文化振興事業団が実施した。

3．調査期間は下記の通りである。

現地調査	平成11年12月24日～平成12年３月31日
	平成12年10月30日～平成13年３月28日
整理・報告	平成12年７月28日～平成12年10月29日
	平成13年５月23日～平成14年３月22日
	平成14年５月24日～平成14年11月22日

4．調査組織は下記の通りである。

調査主体者	㈶岐阜市教育文化振興事業団理事長　後藤左右吉
事務局	㈶岐阜市教育文化振興事業団埋蔵文化財調査事務所長
	中尾義晃（㈶岐阜市教育文化振興事業団事務局長）（平成11～13年度）
	佐藤俊正（　　同　　）（平成14年度）
	吉田陽子（㈶岐阜市教育文化振興事業団埋蔵文化財調査事務所）
調査担当	高木　晃（㈶岐阜市教育文化振興事業団埋蔵文化財調査事務所）
調査員	山田宜久・沢田伊一郎・川橋靖子
調査補助員	棚橋英子・辻　啓子・森　和子・和田啓子
作業員	青木小夜・安藤久子・臼井郷弘・江崎栄子・大野照雄・大野美智子・大藪和代・奥田孝道・小椋　登・可児　昇・蒲　鉄幸・苅谷克己・河合　茂・河合弘公・篠田次生・鷲見竜雄・高岡良夫・高瀬貞子・田島健吉・立川　力・田保國男・中村光嗣・服部高信・福田基二・藤吉　清・前田博司・牧野利治・松野国雄・松久康子・三島　彰・村瀬清則・森　忠則・安田金一・安田忠夫・山内知子・山口和子・山口友治・山田定一・山田御秩子・山本正雄・吉田侑弘・吉田拓史

5．調査の進行及び本書の作成は、内堀信雄（岐阜市教育委員会社会教育課）、恩田裕之、井川祥子（㈶岐阜市教育文化振興事業団埋蔵文化財調査事務所）の指導と協力のもと、高木が行い、山田宜久がこれを補佐した。また調査に関する事務処理および調査経費の執行は、高木と吉田陽子が行った。

6．調査区はA１～２区、A５～８区に分け、A２区の調査と整理は山田宜久が主に行い、残りの調査区の調査と整理及び遺物整理は高木が行った。

7．本書の執筆は、第１章から第５章のうち第２章第１節は内堀氏が、残りは高木が行い、以降は冒頭に記名した。また、全体の編集は高木が行った。

8．木製品の保存処理は㈱吉田生物研究所に委託した。

9．遺構・遺物の自然化学分析は㈱パレオ・ラボに委託した。

10．調査区の写真測量及び道路基準杭の復元は㈱イビソクに委託した。

11．遺物の写真撮影は佐藤右文氏に依頼した。

12. 出土遺物については下記の各氏に御教示を頂いた。

須恵器	渡辺博人	（各務原市埋蔵文化財調査センター）
灰釉陶器・輸入陶磁器	尾野善裕	（京都国立博物館）
山茶碗・古瀬戸・大窯・近世陶磁器	藤澤良祐	（㈶瀬戸市埋蔵文化財センター）
中近世土師器	金子健一	（㈶瀬戸市埋蔵文化財センター）
常滑製品	中野晴久	（常滑市民俗資料館）
	青木　修	（㈶瀬戸市埋蔵文化財センター）
近世陶磁器	成瀬晃司	（東京大学埋蔵文化財調査室）
鋳造関連遺物	五十川伸矢	（京都橘女子大学）

13. 調査、現地公開及び報告書作成の過程で下記の各氏に及び機関にご指導・ご協力を賜わった。深く感謝する次第である。

天野敬也・大平愛子・小野木　学・鬼頭　剛・小島道裕・斉藤　理・鈴木　元・鈴木正貴・中井　均・平尾政幸・古田憲司・三宅唯美・山田哲也・吉川義彦・安養寺・岐阜市教育委員会・岐阜市都市計画部区画整理課・岐阜市歴史博物館・青山中学校（敬称略）

14. 調査記録及び出土遺物は㈶岐阜市教育文化振興事業団が管理している。

凡　　例

遺　構

1．図中の方位は真北を示し、座標は国家座標第Ⅶ座標系に準拠した。

2．遺構実測図の縮尺は1/25、1/50、1/75である。

3．遺構の略号は下記の通り用いた。

住居－SB、井戸－SE、溝－SD、土壙－SK、土塁状遺構－SA、柱穴・小穴・ピット－P、その他－SX

4．遺構番号は、原則として発掘調査時の番号を用いた。

遺　物

1．遺物実測図の縮尺は1/3を基本とし、一部金属製品は2/3、一部木製品は1/8、一部石製品は1/6である。

2．かわらけの実測図中、外面の横ナデ調整の範囲は実線で記し、断面図のみのものは引き出し線で範囲を示した。

3．遺物実測図中の一点鎖線は施釉範囲を示す。アミについてはキャプションの通りである。かわらけの黒く塗った部分はタール痕である。

4．第14～26表中法量欄の口径は復元値を含む。

5．第14～26表の口径について、（　）は復元値である。また、かわらけの口径、器高は最大値と最小値の平均で求めた。

6．第８～13表の集計値は接合後の破片数である。

目　次

第１章　発掘調査の経過
第１節　遺跡の立地 …… 1
第２節　周辺の遺跡 …… 1
第２章　遺跡の立地と環境
第１節　発掘調査に至る経緯 …… 4
第２節　発掘調査の経過 …… 4
第３章　遺跡の概要
第１節　層位 …… 6
第２節　遺構の概要 …… 10
第３節　遺物の分類 …… 10
第４章　遺構と遺物
第１節　１期の遺構と遺物 …… 13
第２節　２期の遺構と遺物 …… 23
第３節　３期の遺構と遺物 …… 27
第４節　４－１期の遺構と遺物 …… 30
第５節　４－２期の遺構と遺物 …… 51
第６節　５期の遺構と遺物 …… 66
第７節　その他の遺構と遺物 …… 72
第５章　まとめ
第１節　鷺山仙道遺跡の遺構変遷 …… 123
第２節　鷺山地区の歴史的位置 …… 125
第３節　鷺山仙道遺跡の出土遺物について …… 129
第４節　鷺山仙道遺跡検出の井戸について …… 131
第６章　自然科学分析
第１節　出土木製品の樹種同定 …… 135
第２節　花粉化石群集 …… 142
第３節　Ａ１区東Ⅰ層出土山茶碗内残留物のFT-IR分析 …… 147
第４節　SK１・SK14埋土の寄生虫卵分析 …… 148
第５節　SX11盛土の蛍光X線分析 …… 149
第６節　赤色漆質物の成分および化学組成 …… 151
第７節　遺物付着物の成分分析 …… 153
第８節　検出遺構・遺物の年代測定 …… 158

挿図目次

第1図　周辺遺跡分布図 …… 3
第2図　調査区地区割り図 …… 5
第3図　土層模式図 …… 7
第4図　主要遺構切り合い図 …… 9
第5図　主要遺物分類図 …… 12
第6図　SB10, 11実測図 …… 14
第7図　SB 8 実測図 …… 15
第8図　SB12実測図 …… 16
第9図　SB 9 , SD49, 54, SK19実測図 …… 17
第10図　SB 5 , SX25, SB 4 実測図 …… 18
第11図　SB 6 , SX 4 実測図 …… 19
第12図　SD51, 52, 56実測図 …… 20
第13図　SD50, 57, SX22, 23, 27, 9 実測図 …… 21
第14図　SB 7 , SK16実測図 …… 23
第15図　SB 1 , 2 , 3 実測図 …… 24
第16図　SD35, SK17, 13実測図 …… 25
第17図　SD 1 , 7 実測図 …… 28
第18図　SK25実測図 …… 29
第19図　SE 1 実測図 …… 31
第20図　SE 2 実測図 …… 32
第21図　SE 3 , SK18, SX24実測図 …… 33
第22図　SE 4 , SX18実測図 …… 34
第23図　SD22, 29, 31実測図 …… 35
第24図　SD32, 34, 36, 53実測図 …… 36
第25図　SK 1 , 12, 14, SX20実測図 …… 38
第26図　SD37～43実測図 …… 40
第27図　SK20, 26, SX12～16, 19, 26実測図 …… 41
第28図　SD44～48, SK28実測図 …… 43
第29図　SD11, 12, 14, 17, SK 6 , 7実測図 …… 44
第30図　SX 7 , SD15, 27, SK 8 , 9 , 11, 24, 27
実測図 …… 45
第31図　SX11実測図 …… 47
第32図　SX 1 , 2 , 5 実測図 …… 48
第33図　A 1 区柱穴列実測図 …… 49
第34図　SD 9 , 10, SK 2 , 3 実測図 …… 51
第35図　SB13, SK23実測図 …… 52
第36図　SB14, 15, SK15, 21, 22実測図 …… 53～54
第37図　SB16実測図 …… 55～56
第38図　SX17実測図 …… 58
第39図　A 8 区柱穴列, SD58実測図 …… 59～60
第40図　A 8 区柱穴列掘立柱建物想定図 …… 62
第41図　SA 1 実測図 …… 67
第42図　SD16, 18, 19, SX10実測図 …… 69
第43図　SD23～25, 28実測図 …… 70
第44図　SX 8 , 21実測図 …… 71
第45図　SD13, 20, 21, 33, 55, SK 4 , 5 , 10,
SX 3 実測図 …… 73
第46図　P22, 23, 363, 364実測図 …… 74
第47～68図　遺物実測図(1)～(22) …… 78～99
第69図　主要遺構変遷図 …… 124
第70図　岐阜市内守護所位置図 …… 126
第71図　かわらけ法量グラフ(全体) …… 130
第72図　かわらけ法量グラフ(SK14) …… 130
第73図　井戸側の種類 …… 132
第74図　井戸側構造の時期毎の比率 …… 133
第75図　古代の木材利用文化圏 …… 138
第76図　花粉化石分布図 …… 144
第77図　プラント・オパール分布図 …… 144
第78図　生漆及び山茶碗内残留物のFT-IR
スペクトル図 …… 147
第79図　漆質物および標準生漆のFT-IR
スペクトル図 …… 152
第80図　赤色漆質物の蛍光X線
スペクトル図 …… 152
第81図　繊維部, 生漆および標準繊維試料の
FT-IRスペクトル図 …… 154
第82図　トリベの各測定位置での蛍光X線
スペクトル図 …… 156
第83図　鞴の羽口の各測定位置での蛍光
X線スペクトル図 …… 157
第84図　かわらけの各測定位置での蛍光
X線スペクトル図 …… 157

別　添　図

別添図１　Ａ２区全体図
別添図２　Ａ５，６区全体図
別添図３　Ａ１，７区全体図
別添図４　Ａ８区全体図

表　目　次

第１表　工程表 …… 5
第２表　時期区分表 …… 9
第３～７表　遺構表(1)～(5) …… 99～103
第８～13表　遺物集計表(1)～(6) …… 104～109
第14～26表　遺物観察表(1)～(13) …… 110～122
第27表　鋳造関連かわらけの分類別破片数 …… 130
第28表　出土木材の樹種同定結果 …… 139
第29表　遺構別の出土樹種 …… 139
第30表　出土木製品の樹種同定結果 …… 141
第31表　花粉化石一覧表 …… 143
第32表　試料１ｇ当たりのプラント・オパール個数 …… 144
第33表　花粉化石一覧表 …… 146
第34表　試料の特徴 …… 150
第35表　SX11固結層土壌等分析結果の主成分元素と微量元素 …… 150
第36表　各資料の詳細と検出された元素 …… 156
第37表　放射性炭素年代測定および暦年代較正の結果 …… 159

写真図版目次

口絵カラー　調査区から鷺山を望む
調査区から福光・金華山を望む
図版１～11　遺構図版 …… 161～171
図版12～23　遺物図版 …… 172～183
図版24～30　自然科学分析図版 …… 184～190

第１章　遺跡の立地と環境

第１節　遺跡の立地

岐阜市の地勢を概観した場合、北部の美濃山地、中～南部の濃尾平野に分けることができる。また岐阜市を横断するように北東から南西方向に長良川が流れ、形成された扇状地は、岐阜市中川原付近を扇頂とする半径約６㎞、高度差約15mの緩扇状地である。この長良川扇状地の北限は、鷺山のほぼ北麓を通る東西線付近で、それより北は鳥羽川まで後背湿地状の相対的な低地が広がる。鷺山仙道遺跡はこの扇状地北端から後背湿地状の低地に立地する。遺跡範囲内には南北方向に延びる堤が残存しており、また調査において河道もしくはそれを利用したと考えられる南東ー北西方向の溝を確認しており、鷺山仙道遺跡を含めた周辺地域は、古来より水との関わりが深かったと考えられる。

第２節　周辺の遺跡（第１図）

鷺山仙道遺跡が位置する岐阜市の中北部域では、平成２～７年度に行われた岐阜市遺跡詳細分布調査により縄文時代から近世までの遺物が散布する遺跡が多く確認された[1]。

縄文時代の遺跡には、長良川右岸の自然堤防状に立地する西野々遺跡がある。中期から晩期に属する土器片が採集されており、また平成５年度に区画整理事業に伴う発掘調査が行われている[2][3]。

弥生時代から古墳時代は城之内遺跡に代表される。平成12年度までに計10回の発掘調査が実施されており、膨大な数の遺構が見つかっている[4]。また古墳について、遺跡の北には多くの古墳群があり、また長良川を挟んだ南側、金華山の西麓には岐阜城千畳敷遺跡があり、平成11年度までに３度の発掘調査が行われ[5]、その２次調査では横穴式石室を持つ千畳敷古墳が検出されている。

古代には、城之内遺跡の範囲内に長良廃寺が造営されていたとされ、市教委の昭和61年度の調査では大量の瓦が確認されている。また城之内遺跡近辺には方県駅があったとされ、さらにここから鷺山に至る微高地上には東山道ルートが推定されている。この推定ルート付近には福光花ノ木遺跡、鷺山蟬遺跡、鷺山仙道遺跡、鷺山市場遺跡が立地している。平成10年度試掘調査において、鷺山蟬遺跡では、９世紀前葉の竪穴住居２棟、遺物は二彩陶器、緑釉陶器が確認されている[6]。また鷺山市場遺跡では奈良時代に比定される竪穴住居１棟が、下土居若宮遺跡では平安時代の可能性のあるピットが確認されている[7]。

中世前期には下城田寺丘陵から西へのびる尾根上に立地する下城田寺中世墓がある。前述の分布調査では古瀬戸四耳壺、瀬戸美濃産四耳壺が採集されている[8]。また岐阜城千畳敷遺跡２次調査で地鎮遺構が確認されている。

戦国時代において、周辺には城館推定地がいくつかあり、鷺山仙道遺跡の西約0.6kmにある鷺山東麓には鷺山館推定地、東0.5kmには蟬封彊（せみどて）、また平成４年度の城之内遺跡の調査では守護館枝広館の可能性が高い館の堀北西コーナーが確認されている。さらに平成11年度の試掘調査でも幅7.3m、深さ２mを測る堀跡北東コーナーが確認されている。この城之内遺跡から鷺山地区にかけての範囲（東西約３㎞、南北約１㎞）では、該当期のかわらけが大量に採集でき、この範囲は江戸時代の「中島両以記文」にある、鷺山から堀田（城之内遺跡の近辺）までの間に侍屋敷と百姓屋敷が入り交じって散々にあったという部分と合う、という見解もある[9]。鷺山仙道遺跡の北北西約1.5kmには城田寺葭原遺跡があり、この範囲内には1496年の城田寺合戦で舞台となった舎衛寺が含まれる。

岐阜城千畳敷遺跡３次調査では15世紀に比定される鋳造遺構が検出されている。また16世紀に比定される遺構として、１次調査の巨石列、礎石建物、２次調査の竈、石積み施設、３次調査の階段、通路、井戸が確認されている。このほか岐阜城下町遺跡では平成７年度と９年度の試掘調査で大窯第１～３段階の製品、北部系山茶碗（生田２号窯式）、15世紀後葉から16世紀前葉に比定されるかわらけが出土している[10]。平成10年度の正明寺城之前遺跡の試掘調査で２基の土坑、鷺山市場遺跡で東西方向の溝（幅約2.5m、深さ約0.8m）が確認されている[11]。また平成12年度試掘調査では、鷺山市場遺跡で２条の区画溝が確認されている[12]。昭和53年には、岐阜市鷺山雨屋地内で行われた道路工事の際、該当期の陶磁器（古瀬戸・大窯製品、かわらけ、中国製青磁・白磁など）をはじめ、多くの遺物が宇佐見政則氏により採集された[13]。

近世以降には平成９年度の岐阜奉行所跡の調査があり、近世（17～19世紀中頃）、近代（19世紀中頃以降）の２時期の遺構と遺物が確認されている。近代については濃尾震災以後の廃棄土坑がある[14]。

註

(1)岐阜市教育委員会　1996　『岐阜市遺跡詳細分布調査報告書』
(2)岐阜市　1979　『岐阜市史　史料編　考古・文化財』
(3)真福寺南土地区画整理組合・岐阜市遺跡調査会　1994　『西野々遺跡発掘調査報告書』
(4)岐阜県教育委員会　1990　『城之内遺跡　長良高等学校体育館建設に伴う岐阜大学跡地の緊急発掘調査報告書』
　岐阜県教育委員会・㈶岐阜県文化財保護センター　1991　『城之内遺跡Ⅱ』
　岐阜市遺跡調査会　1996　『堀田・城之内』
　岐阜市教育委員会　1990　『城之内遺跡ー東長良中学校建設に伴う岐阜大学跡地の緊急発掘調査ー』
　岐阜市教育委員会　1999　『城之内遺跡ー長良公園整備事業に伴う緊急発掘調査ー(第１分冊)』
　岐阜市教育委員会　2000　『城之内遺跡ー長良公園整備事業に伴う緊急発掘調査ー(第２分冊)』
　岐阜市教育委員会　1999　『平成９・10年度岐阜市市内遺跡発掘調査報告書』
　㈶岐阜県文化財保護センター　1997　『堀田城之内遺跡　岐阜県環状線建設工事に伴う緊急発掘調査報告書』
　㈶岐阜市教育文化振興事業団　1997　『堀田・城之内Ⅱ』
　㈶岐阜市教育文化振興事業団　1999　『北町堀田線・宮口町高見線街路事業に伴う緊急発掘調査報告書』
　岐阜市教育委員会　㈶岐阜市教育文化振興事業団　2001　『平成11・12年度岐阜市市内遺跡発掘調査報告書』
(5)岐阜市教育委員会　1990　『千畳敷織田信長居館跡伝承地の発掘調査と史跡整備』
　岐阜市教育委員会　1991　『千畳敷Ⅱー財団法人加藤栄三・東一記念館建設に係る緊急発掘調査の記録ー』
　㈶岐阜市教育文化振興事業団　2000『千畳敷Ⅲー岐阜公園再整備事業に伴う岐阜城千畳敷遺跡の緊急発掘調査ー』
(6)岐阜市教育委員会　1999　『平成９・10年度岐阜市市内遺跡発掘調査報告書』
(7)岐阜市教育委員会　㈶岐阜市教育文化振興事業団　2000　『平成10・11年度岐阜市市内遺跡発掘調査報告書』
(8)前掲(1)と同
(9)高田徹　内堀信雄　1994　「美濃における一五・一六世紀代の守護所の変遷」『守護所から戦国城下へー地方政治都市論の試みー』
(10)岐阜市教育委員会　1996　『平成５～７年度岐阜市埋蔵文化財調査報告書』
　岐阜市教育委員会　1998　『平成９年度岐阜市市内遺跡発掘調査報告書』
(11)前掲(8)と同
(12)岐阜市教育委員会　㈶岐阜市教育文化振興事業団　2002　『平成12・13年度岐阜市市内遺跡発掘調査報告書』
(13)岐阜市教育委員会　1991　「付篇３　鷺山雨屋採集の陶磁器について」
　　『千畳敷Ⅱー財団法人加藤栄三・東一記念館建設に係る緊急発掘調査の記録ー』
(14)岐阜市教育委員会　1998　『平成９年度岐阜市市内遺跡発掘調査報告書』

1. 鷺山仙道遺跡　2. 坂尻古墳群　3. 山向古墳群　4. 鶴山古墳群
5. 城田寺葭原遺跡　6. 下城田寺中世墓　7. 鎌磨古墳群　8. 打越遺跡
9. 下城田寺遺跡　10. 中野古墳群　11. 鎌磨遺跡　12. 西屋敷古墳群
13. 富塚古墳　14. 八代遺跡　15. 岩崎第２古墳群　16. 下土居遺跡
17. 下土居若宮遺跡　18. 下土居北門遺跡　19. 正明寺城之前遺跡　20. 鷺山古墳群
21. 鷺山市場遺跡　22. 鷺山蟬遺跡　23. 鷺山次郎丸遺跡　24. 福光東Ｂ遺跡
25. 太田遺跡　26. 福光東Ａ遺跡　27. 福光花ノ木町遺跡　28. 長良天神遺跡
29. 西野々遺跡　30. 城之内遺跡　31. 西山第２古墳群　32. 長良福泉遺跡
33. 西山第１古墳群　34. 西山洞古墳群　35. 龍門寺遺跡　36. 龍門寺古墳群
37. 長良窯跡群　38. 雄総第１古墳群　39. 岐阜城千畳敷遺跡　40. 岐阜城下町遺跡
41. 岐阜奉行所跡　42. 北洞古墳群　43. 岐阜城跡　44. 上加納山古墳群

第１図　周辺遺跡分布図（国土地理院発行1:25,000地形図（岐阜北部）使用）

第２章　発掘調査の経過

第１節　発掘調査に至る経緯

平成７年度、岐阜市都市計画部区画整理課から岐阜市教育委員会文化課（当時）に、都市計画道路太平町下西郷線に関連する埋蔵文化財の取り扱いについて照会があった。市教育委員会は、当事業予定地が鷺山仙道遺跡の範囲内に及ぶことから、文化財保護法上の手続きと本調査前の試掘調査等について説明を行った。平成11年10月13～15日に行った試掘調査の結果、１トレンチでは古墳時代から古代の遺構と遺物、２トレンチでは中世前期の溝と遺物を確認した。試掘調査の結果を受けて、平成11年度から発掘調査（調査主体は㈶岐阜市教育文化振興事業団）を実施することとした。

平成11年10月22日付けで岐阜市鷺山・下土居土地区画整理組合理事長から文化庁長官あてに文化財保護法第57条の２の規定による工事の届出がなされた。これに対し、平成11年11月４日付けで岐阜県教育委員会教育長から区画整理組合理事長あてに工事着手前の発掘調査実施の指示があった。これを受けて平成11年12月３日付けで㈶岐阜市教育文化振興事業団理事長から文化庁長官あてに文化財保護法第57条の規定による発掘調査の届出がなされ、平成11年12月16日付けで岐阜県教育委員会教育長から㈶岐阜市教育文化振興事業団理事長あてに発掘調査を慎重に実施する旨の指示があった。平成11年12月24日付けで岐阜市鷺山・下土居土地区画整理組合、岐阜市教育委員会、㈶岐阜市教育文化振興事業団の3者間で鷺山・下土居土地区画整理事業に関係する埋蔵文化財の取り扱いについて協定を締結した。

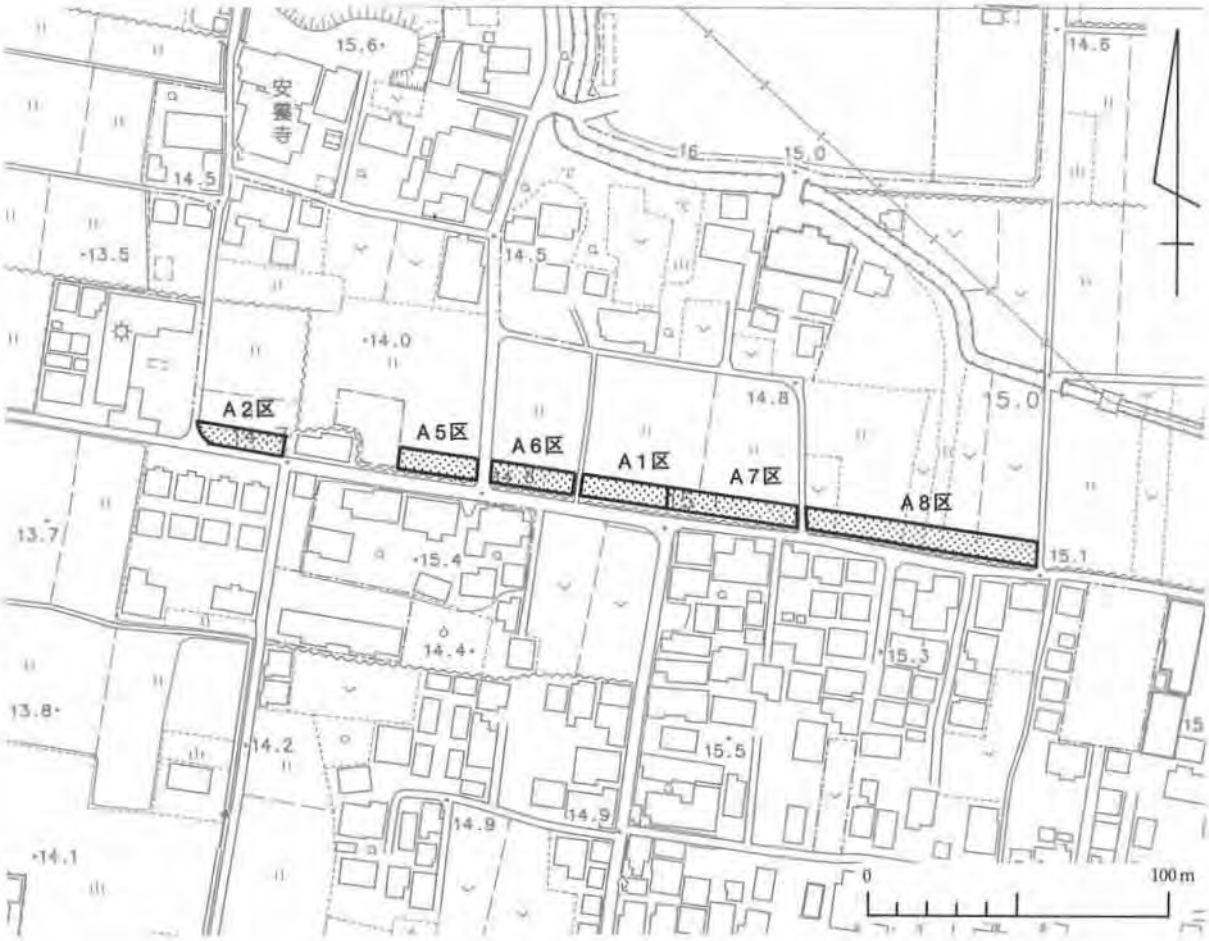
第２節　発掘調査の経過（第２図、第１表）

平成11年度の調査は平成11年12月24日に着手し、準備作業を行った。試掘調査箇所の付近にＡ１区を設定し、平成12年１月６日から表土掘削を行った。試掘調査で確認した溝（SD１）以外に、井戸（SE１）、柱穴列、長方形土坑（SK１）などを確認し、３月３日に写真測量を行った。２月26日に現地公開、２月末から３月初めに鷺山小学校５、６年生と青山中学校３年生の見学会を行った。３月31日に平成11年度の調査を終了し、岐阜市鷺山・下土居土地区画整理組合の完了検査を受けた。

平成12年度の調査は７月28日に着手し、調査開始までの間、前年度調査の整理作業と準備作業を行った。西から便宜的にＡ２区、Ａ５区～Ａ８区を設定し、10月30日からＡ２区、Ａ５区、Ａ６区の重機掘削を開始した。Ａ２区において掘立柱建物４棟（SB13～16）、Ａ６区で井戸（SE２）を確認した。Ａ７区の表土掘削は11月22日に行い、西部で竪穴住居７棟（SB１～７）、戦国時代の溝（SD34、36）や土坑（SK14）などを確認した。12月22日にＡ２区上層遺構面、Ａ５区、Ａ６区の写真測量を行い、12月29日にＡ５区、２月14日にＡ６区の埋め戻しを行った。

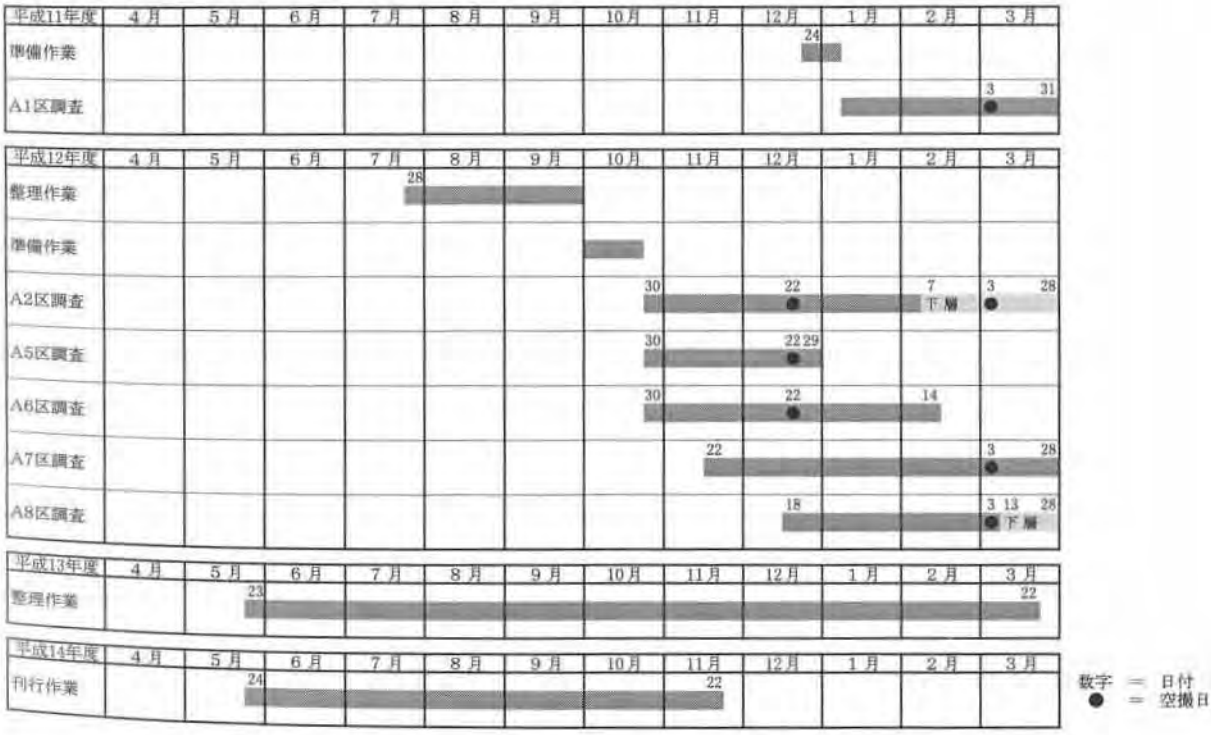
Ａ８区の表土掘削は12月18日と１月11日に行い、中央部では柱穴を多数確認した。Ａ２区下層遺構面の調査は２月７日より開始し、溝（SD51など）などを確認した。２月18日に鷺山市場遺跡の成果とあわせて現地公開を行った。Ａ２区下層遺構面、Ａ７区、Ａ８区の写真測量は３月３日に行い、Ａ８区中央部下層遺構面の調査は３月13日から開始し、竪穴住居５棟（SB８～12）を確認した。３月27日に全工程を終了し、３月28日に岐阜市鷺山・下土居土地区画整理組合の完了検査を受けた。

以後、平成13年度（平成13年５月23日～平成14年３月22日）、平成14年度（平成14年５月24日～11月22日）に整理作業、報告書刊行作業を行った。



第2図　調査区地区割り図

（「平成14年6月11日　岐阜市第6号」「No47：平成11年測量」）



第1表　工程表

第３章　遺跡の概要

第１節　層位（第３図）

以下に記す層位は、一部を除いて各調査区の北壁で確認したものである。

Ⅰ①層（表土層）：現代の田の耕作土で、床土も本層に含む。

Ⅰ②層（表土層）：現代の畑の耕作土。Ａ８区中央部で確認した。

Ⅱ層：基本的にシルト質である。古墳時代から近世までの遺物を含む層である。

Ⅲ層（焼土・炭密集層）：Ａ８区中央部で確認した。茶褐色シルトに焼土と炭が大量に混じる。

Ⅳ①層（Ａ８区中央部上層遺構の基盤層）：茶褐色シルトで、硬く締まる。Ａ８区中央部では遺構検出面を２面確認したが、その上層遺構（戦国期）の基盤層である。

Ⅳ②層（Ａ２区上層遺構の基盤層）：淡灰黄褐色砂質土で硬く締まる。Ａ２区でも遺構検出面を２面確認しており、本層はその上層遺構の基盤層である。

以下に記すⅤ層は地山である。

Ⅴ①層：黄褐色シルト。Ａ８区中央部で確認した層で、下層遺構の基盤層である。さらに西と東に範囲が広がると考えられるが、削平を受けている。

Ⅴ②層：Ａ７区中央部以東で確認した層で、各遺構は本層の上面で確認した。西方は青灰色砂質土、東方は茶褐色砂質土で部分的に茶褐色砂質シルトが混じる。

Ⅴ③層：黄褐色シルトで硬く締まる。Ａ７区西部で確認した。

Ⅴ④層：茶褐色シルトで、西方は砂質土になり、東方では砂質が強くなる。Ａ７区で確認した。

Ⅴ⑤層：暗黄灰色砂質シルト。Ａ１区で確認し、Ａ１区西部の遺構は本層の上面で検出した。

Ⅴ⑥層：黄色粘質土。Ａ１、Ａ７区で確認し、Ⅴ⑬層と似るが、堆積の状況から別の層と判断した。

Ⅴ⑦層：黄褐色シルト。Ａ５区で確認した。SD12などＡ５区西半の遺構は本層の上面で検出した。

Ⅴ⑧層：茶色砂質土。SD13などＡ５区中央部の遺構は本層の上面で検出した。

Ⅴ⑨層：淡灰色シルト。Ａ２区下層遺構の基盤層である。

Ⅴ⑩層：Ａ２区の西方で確認した砂の堆積である。

Ⅴ⑪層：茶褐色砂質土で、西方で黄橙色になる。Ａ２区東方で確認し、西に向かって落ち込む。

Ⅴ⑫層：上方は砂質シルト、下方は砂質土。水流により運搬された土砂が堆積したような様相を呈する。部分的な確認となったため、西側の様子は不明である。

Ⅴ⑬層：黄色粘質土。Ａ５～Ａ８区の広い範囲で確認した層である。SE２などＡ５区の遺構は本層の上面で検出した。本層は旧地形をある程度反映していると考えられる。

Ⅴ⑭層：茶褐色シルト。Ａ１区で確認した。

Ⅴ⑮層：茶褐色粘質土。Ａ１区で確認した。

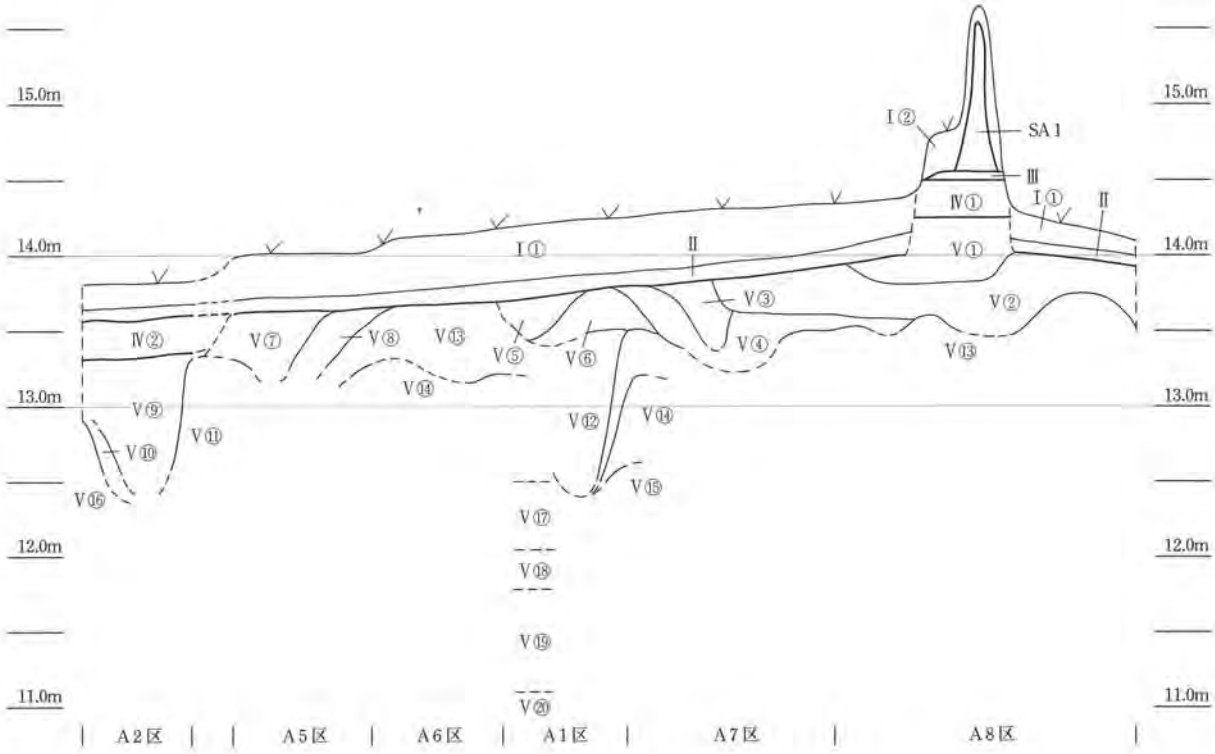
Ⅴ⑯層：砂礫層。Ａ２区西部でのみ確認した。

Ⅴ⑰層：赤褐色砂層。Ａ１区、SE１の掘削の際に確認した。

Ⅴ⑱層：灰色砂質シルト。Ⅴ⑰層と同様、Ａ１区SE１の掘削の際に確認した。

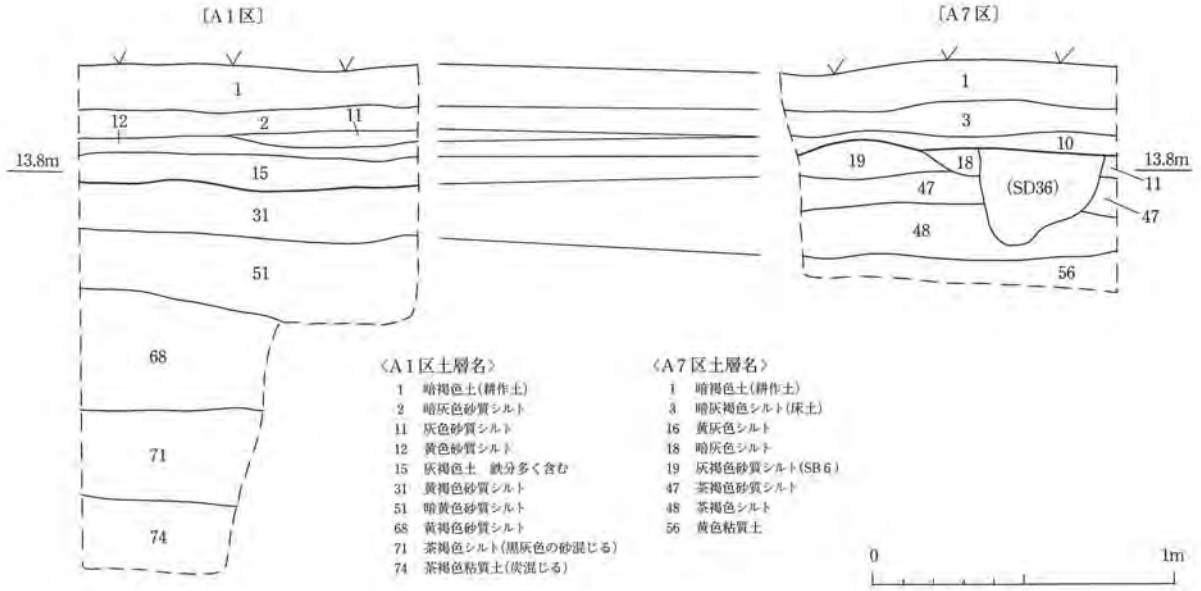
Ⅴ⑲層：灰色粘質土。Ⅴ⑰、Ⅴ⑱層と同様、Ａ１区SE１の掘削の際に確認した。

Ⅴ⑳層：暗灰色砂層。Ⅴ⑰、Ⅴ⑱、Ⅴ⑲層と同様、Ａ１区SE１の掘削の際に確認した。水溜の桶が据えられていた層であり、当時の湧水層と考えられる。



Ⅰ層　表土、床土
① 田の耕作土、床土
② 畑の耕作土、(SA 1 含む)
Ⅱ層　シルト質土
Ⅲ層　焼土・炭密集層
茶褐色シルト
Ⅳ層　上層遺構の基盤層
① 茶褐色シルト　硬く締まる
② 淡灰黄褐色砂質土　硬く締まる

Ⅴ層　地山
① 黄褐色シルト
② 西方は青灰色砂質土、東方は茶褐色砂質土、中央付近は茶褐色砂質シルト
③ 黄褐色シルト　硬く締まる
④ 茶褐色シルト　西方は砂質土、東方は砂気強くなる
⑤ 暗黄灰色砂質シルト
⑥ 黄色粘質土
⑦ 黄褐色シルト
⑧ 茶色砂質土
⑨ 淡灰色シルト
⑩ 砂層
⑪ 茶褐色砂質土　西方で黄橙色になる
⑫ 上方は砂質シルト、下方は砂質土
⑬ 黄色粘質土
⑭ 茶褐色シルト
⑮ 茶褐色粘質土
⑯ 砂礫層
⑰ 赤褐色砂層
⑱ 灰色砂質シルト
⑲ 灰色粘質土
⑳ 暗灰色砂層



第３図　土層模式図

旧地形と各層の形成時期について

今回の土層観察で、広範囲で確認したⅤ⑬層を中心に旧地形の復元を試みる。Ⅴ⑬層によれば、A６区が地形的に最も高い場所であり、これより西では、A５区中央部で急激に下がる様子が確認でき、A２区においてⅤ⑬層は確認できなかった。A２区付近はかなり落ち込んだ部分であったと考えられる。A６区以東は、全体的にA７区の辺りまで緩やかな傾斜で下がり、それ以東では大きな変化は見られない。細かく見た場合、まずA１区でⅤ⑫層ような堆積が確認できることから、地形が高い場所のすぐ東側に自然流路があった可能性があり、また付近に掘削されたSD１はこの地形を利用した可能性も考えられる。またA7区西部で、さらに一度地形が落ち込む部分がある。

各層の形成時期について、前述のような地形の時期の後、西方ではⅤ⑦～⑨層、東方ではⅤ①～⑥層が堆積し、中世前期（本報告３期）までの遺構が形成された（A２区のⅤ⑩・⑪・⑯層とⅤ⑬層との前後関係は不明）。さらにその後、Ⅳ①・②層が堆積し（均質であること、厚いことから自然堆積と考える）、戦国時代（本報告４期）の遺構が形成されるが、A２区Ⅳ②層の形成時期は、下層遺構の下限が中世前期であることから、中世前期以降戦国時代以前となる。A８区Ⅳ①層について、本層の最新の遺物は戦国時代のものである（混入を除く）。しかし、本層と埋土が酷似する遺構を見逃した可能性が考えられるため、形成時期は絞り込めず、古代以降戦国時代以前となる。Ⅲ層については本層出土の遺物を検討した結果、戦国時代（本報告４－２期）に形成された整地層と判断した。Ⅱ層は圃場整備以降に形成された層と考えている。

戦国時代以降、A８区中央部では17世紀後半にSA１が造られる。今回の調査では、Ⅲ層上面からSA１が造られたとしたが、鷺山仙道遺跡G１区の調査では、Ⅲ層とSA１との間に整地層があることが判明した。つまり戦国時代から17世紀後半までに数度の整地があり、SA１が形成されたことになる。

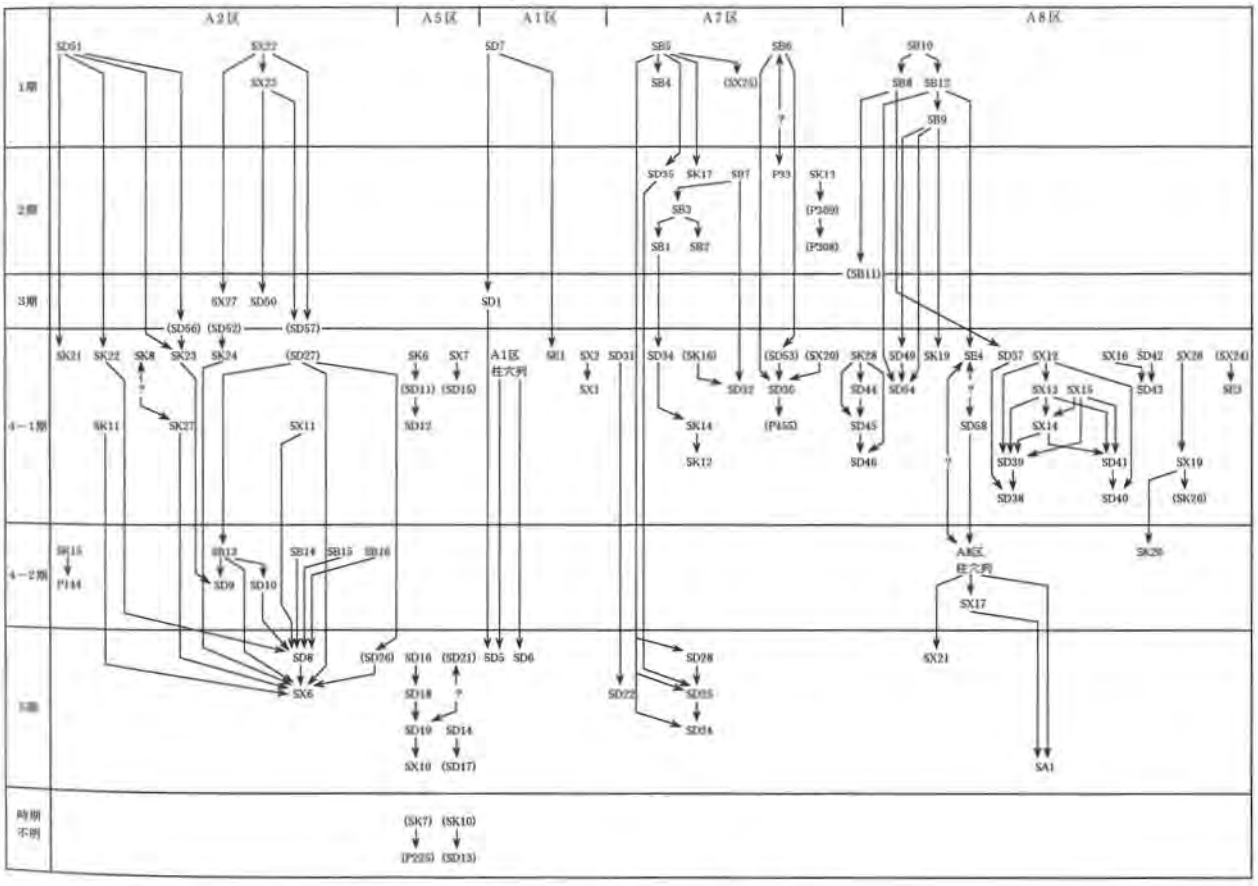
以上が土層観察から復元した旧地形の様子である。また遺構の大半が圃場整備による削平されており、遺構残存状況が極めて悪い。その中でもA２区は旧地形自体が低く、またA８区中央部はSA１の存在があったという理由からほとんど削平を受けず、結果的に多くの遺構が保存されたのである。

A１区の検出面について

A１区（平成11年度調査）の北壁断面図と、A７区（平成12年度調査）の北壁断面図の検討を行った結果、遺構検出面に食い違いが生じてしまった（A１区31層上面とA７区18、19層上面）。調査区の設定に際し、A１区とA７区の間に未調査区ができてしまったため、現場で検討できなかったことが原因である。図面上で堆積状況を検討した結果に加え、A１区の遺物整理の際、第Ⅱ層（10層～16層）の遺物と遺構出土の遺物が数点接合できたことから、遺構検出面は31層上面ではなく15層上面とし、本報告の記述を行う。

時期		城之内遺跡 時期区分	考古学フォーラム 編年
1期	松河戸Ⅱ式併行～古墳時代後期	10～12期	Ⅴ・Ⅵ期
2期	古代（7世紀後半～9世紀前葉）	13～14期	
3期	中世前期（南部系山茶碗4～7型式）	17～18期	
4－1期	戦国時代（第Ⅲ層形成以前）	20期	
4－2期	戦国時代（第Ⅲ層形成以後）		
5期	近世以降		

第2表　時期区分表



第4図　主要遺構切り合い図

第２節　遺構の概要（第２表）

今回の調査では、竪穴住居12棟、掘立柱建物４棟（柱穴列２組）、井戸４基、溝54条、堤状遺構１基、土坑28基、不明遺構27基、ピット566基を確認し、時代は古墳時代から近世にまで及ぶ。前節に記述した基本層位をふまえ、遺構の主となる時期は２つある。１つは古墳時代後半から古代、もう１つは戦国時代である。本報告では、記述の便宜上第２表のように時期を区分した。１期については第６回東海考古学フォーラムの成果に、その他については城之内遺跡の時期区分に従った[1][2]。また４期の遺構について、埋土中の焼土塊と炭の有無で時期を区分した。第Ⅲ層（焼土・炭密集層）形成以前に掘削された遺構は４－１期、第Ⅲ層形成以降に掘削された遺構は４－２期とした。

またＡ２区、Ａ８区中央部の遺構は深いが、それ以外のものは浅い。前述のようにＡ６区からＡ７区西部は地形的に高かったため、圃場整備でかなり遺構が削平されたと考えられる。Ａ６区を中心に遺構が浅く、密度が希薄であることは以上のことが原因と考えられる。

註
(1)内堀信雄・横幕大祐　1998　「山中～宇田式併行期の美濃西部城土器編年」『第６回東海考古学フォーラム　土器・墓は語る』
(2)岐阜市教育委員会　1999　『城之内遺跡－長良公園整備事業に伴う緊急発掘調査－(第１分冊)』

第３節　遺物の分類（第５図）

今回の調査では、弥生時代から近代までの遺物が出土した。遺物の整理にあたり、各遺物についてすでに分類・編年研究が進んでいるものについてはその成果に従った[1]。

古墳時代～古代の土器

宇田型甕：S字甕に後出する台付甕である。口縁部の形状について、S字甕に比べ肥厚し、端部には面が形成される、もしくは沈線が施される。S字甕の特徴である外面の稜は消失する。

伊勢型甕１類：丸底甕で、頸部から口縁部にかけて肥厚する。口縁端部は、上方に鋭くつまみ上げられる。体部の外面、内面の上半部はハケ調整、内面下半部はケズリ調整が施される。

伊勢型甕２類：１類と同じく丸底甕であるが、口頸部の形状、調整などが異なる。

平底甕B２類：器壁が非常に薄い。口縁部は弧状に外反し、外面は横ナデ調整、内面は横ハケ調整が施される。体部外面にはやや粗いハケ調整が施される。底部については、今回の調査で出土を確認していないため不明である。

焼塩土器：口縁部、体部の破片が出土し、器壁がやや厚めであることから、そのほとんどが美濃式２類に分類できる。口縁部の形状は直立するもの、外反するものなどがある。

須恵器：胎土に角がない丸い川砂が混和されるものがあり、老洞古窯の製品の可能性がある[2]。

かわらけ（土師器Ⅲ）

今回の調査ではＭ１類、Ｃ１類の出土は確認していない。

Ｍ２類：内面底部に一方向ナデを施した後、内面体部～口縁部外面に横ナデ調整を施す。外面のナデは１段。口縁端部の形状については外面に面を持つものが大半を占める。

Ｍ３類：内面底部に一方向ナデを施した後、内面体部～口縁部外面に横ナデ調整を施す。外面のナデは１段。口縁端部は丸みを持つもの、尖るものがある。Ｍ２類に比べ器壁がやや薄く、また器形も深

いものが多い。

M４類：内面底部に一方向ナデを施した後、内面体部～口縁部外面に横ナデ調整を施す。外面のナデは１段。Ｍ３類に比べ、さらに器壁が薄くなる。

Ｂ１類：京都形の土師器皿（かわらけ）を模倣した在地産製品とされるもののうち、体部が外反するもの。器壁は厚め。口縁部外面の横ナデ調整は、施されるものと施されないものの両者がある。

Ｂ２－ａ類：京都形の土師器皿（かわらけ）を模倣した在地産製品とされるもののうち、体部が直線的なもの。内面底部に一方向ナデを施した後、内面体部～口縁部外面に横ナデ調整を施す。今回の調査で出土したものは、内面底部の一方向ナデが施されない、または口縁部外面の横ナデ調整の範囲が狭い、もしくは部分的にしか施されないという雑なつくりのものが多い(3)。

Ｂ２－ｂ類：京都形の土師器皿（かわらけ）を模倣した在地産製品とされるもののうち、体部が直線的なもの。内面底部に一方向ナデを施した後、内面体部に横ナデ調整を施す。Ｂ２－ａ類と同様、内面底部の一方向ナデが施されないものが多い。

Ｂ２－ｃ類？：京都形の土師器皿（かわらけ）を模倣した在地産製品とされるもののうち、体部が直線的なもの。Ｂ２－ｂ類と似るが、やや深い器形を呈する。千畳敷タイプに近いか？

Ｃ２類：調整は内面に一方向ナデが施されるのみである。体部外面は無調整で凹凸がない。

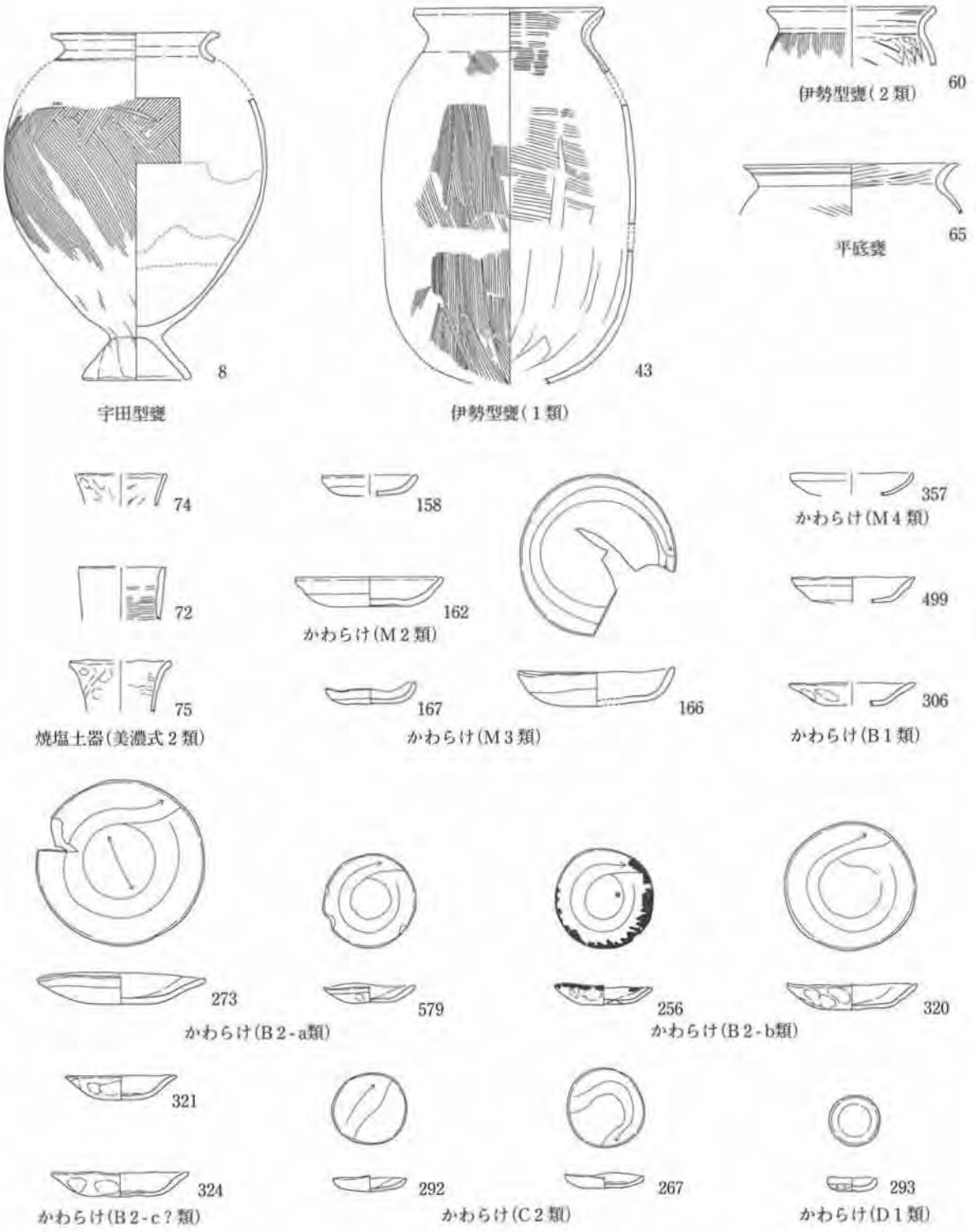
Ｄ１類：内面底部に一方向ナデを施した後、内面体部～口縁部外面に横ナデ調整を施す。外面のナデは１段。口縁端部の形状は丸みを持つもの、尖るものの両者がある。

焼土塊

今回の調査で、第Ⅲ層と４－２期以降の遺構埋土から焼土塊が多く出土し、平成13年度鷺山仙道遺跡G区の調査でも確認されている。同時期の遺構からは鋳造に関する遺物が出土していることから、これらの焼土塊は炉壁の一部、もしくは鋳型の破片である可能性がある(4)。

註

(1)内堀信雄・横幕大祐　1998　「山中～宇田式併行期の美濃西部城土器編年」『第６回東海考古学フォーラム　土器・墓は語る』
内堀信雄　2000　「宇田型甕から伊勢型甕へ－岐阜市における事例検討－」『第７回東海考古学フォーラム　S字甕を考える』
森　泰通　1997　「東海地方における消費地出土の製塩土器－特に固形塩の問題をめぐって－」
『シンポジウム　製塩土器の諸問題－古代における塩の生産と流通－』
渡辺博人　1984　「美濃須衛古窯跡群における須恵器編年」『美濃須衛古窯跡群資料調査報告書』
藤澤良祐　1994　「山茶碗の現状と課題」『研究紀要』第３号　三重県埋蔵文化財センター
赤羽一郎・中野晴久　1994　「生産地における編年について」『全国シンポジウム「中世常滑をおって」資料集』
藤澤良祐　1991　「瀬戸古窯址群Ⅱ－古瀬戸後期様式の編年－」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要』Ⅹ
藤澤良祐　1986　「瀬戸大窯発掘調査報告書」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要』Ⅴ
小野正敏　1982　「15～16世紀の染付碗、皿の分類と年代」『貿易陶磁研究』No.２
上田秀夫　1982　「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』No.２
上田秀夫　1982　「14～16世紀の白磁の型式分類と編年」『貿易陶磁研究』No.２
恩田裕之　2000　「遺物の分類」『千畳敷Ⅲ－岐阜公園再整備事業に伴う岐阜城千畳敷遺跡の緊急発掘調査－』
井川祥子　2000　「第８章第３節　岐阜市城の15世紀から17世紀の土師器皿」
『城之内遺跡－長良公園整備事業に伴う緊急発掘調査－(第２分冊)』
(2)渡辺博人氏の御教示による。
(3)井川祥子氏の御教示による。
(4)五十川伸矢氏の御教示による。


8
宇田型甕
43
伊勢型甕（１類）
60
伊勢型甕（２類）
65
平底甕
74
158
357
かわらけ（Ｍ４類）
72
162
かわらけ（Ｍ２類）
499
75
焼塩土器（美濃式２類）
167
166
かわらけ（Ｍ３類）
306
かわらけ（Ｂ１類）
273
579
256
320
かわらけ（Ｂ２-ａ類）
かわらけ（Ｂ２-ｂ類）
321
324
かわらけ（Ｂ２-ｃ？類）
292
267
かわらけ（Ｃ２類）
293
かわらけ（Ｄ１類）

第５図　主要遺物分類図

第４章　遺構と遺物

第１節　１期の遺構と遺物

SB10（第６図、第47図１～６）

調査時にはSB８、11、12を切ると判断したが、遺物を検討したところ、SB８、12よりも古い様相を呈した（SB11の時期は不明）。本遺構をSB８、12より先に掘削したため、遺物が一部混じってしまった。カマドの南半分が遺構に切られていると気づいていたが、それがSB12であるという考えには至らず、後の図面整理で気付いた。以上のことをふまえて記述する。

Ａ８区中央部下層遺構面で検出した。SB８、12に切られ、平面形は方形を呈する。北西壁の中央やや南寄り部分に土坑状のプランがあり、掘削したところ、焼土と炭、遺物が密集していたことから、ここをカマドと判断した。また焚き口付近で、支脚に使用されたと考えられる石を１つ確認した。石は、長さ0.2m、幅0.08mを測る。カマドは住居の床よりも若干掘り込んで構築されている。住居内ピット、床の硬化面は検出できなかった。

１～４は土師器である。１はS字甕Ｄ３類で、胎土は明橙色である。２は甕脚台で、胴部から続くハケ調整が板状工具によるナデ調整で消される。３は宇田型甕、４は底部２孔の甑で、胎土はくの字甕と似る。５、６は須恵器で、５は杯身、６は杯蓋である。

以上より、本遺構の時期は松河戸Ⅱ式併行期～宇田式併行期と考えられる。

SB８（第７図、第47図７～13）

調査時にはSB10、11に切られると判断したが、遺物を検討したところ、SB10よりも新しい様相を呈した。また本遺構の遺物は６世紀前葉と６世紀末～７世紀中葉の２時期に分かれるが、後者の時期の遺物はSB11の範囲が不明瞭であったことから、掘削した際に遺物が混じった可能性も考えられる。切り合い関係は結局のところ判断できなかったが、以上のことからSB11が本遺構を切る可能性と、プランの検出ミスで２基の遺構が切り合っている可能性がある。このことをふまえて記述を行う。

Ａ８区中央部下層遺構面で検出し、SB10を切る。SB11との関係は前述の通り。SD37、P648、649、650に切られる。平面形は方形を呈すると考えられる。本遺構の範囲中、SA１の西側、Ａ８区中央部東壁の焼土と炭密集部分で宇田型甕、須恵器杯身、杯蓋が出土し、ここをカマドと判断した。P650の西側で甑の破片密集部分を確認した。図中、点線で示した掘り方は、SB10、11よりも本遺構が深かったため検出できたラインである。住居内ピット、床の硬化面は検出できなかった。

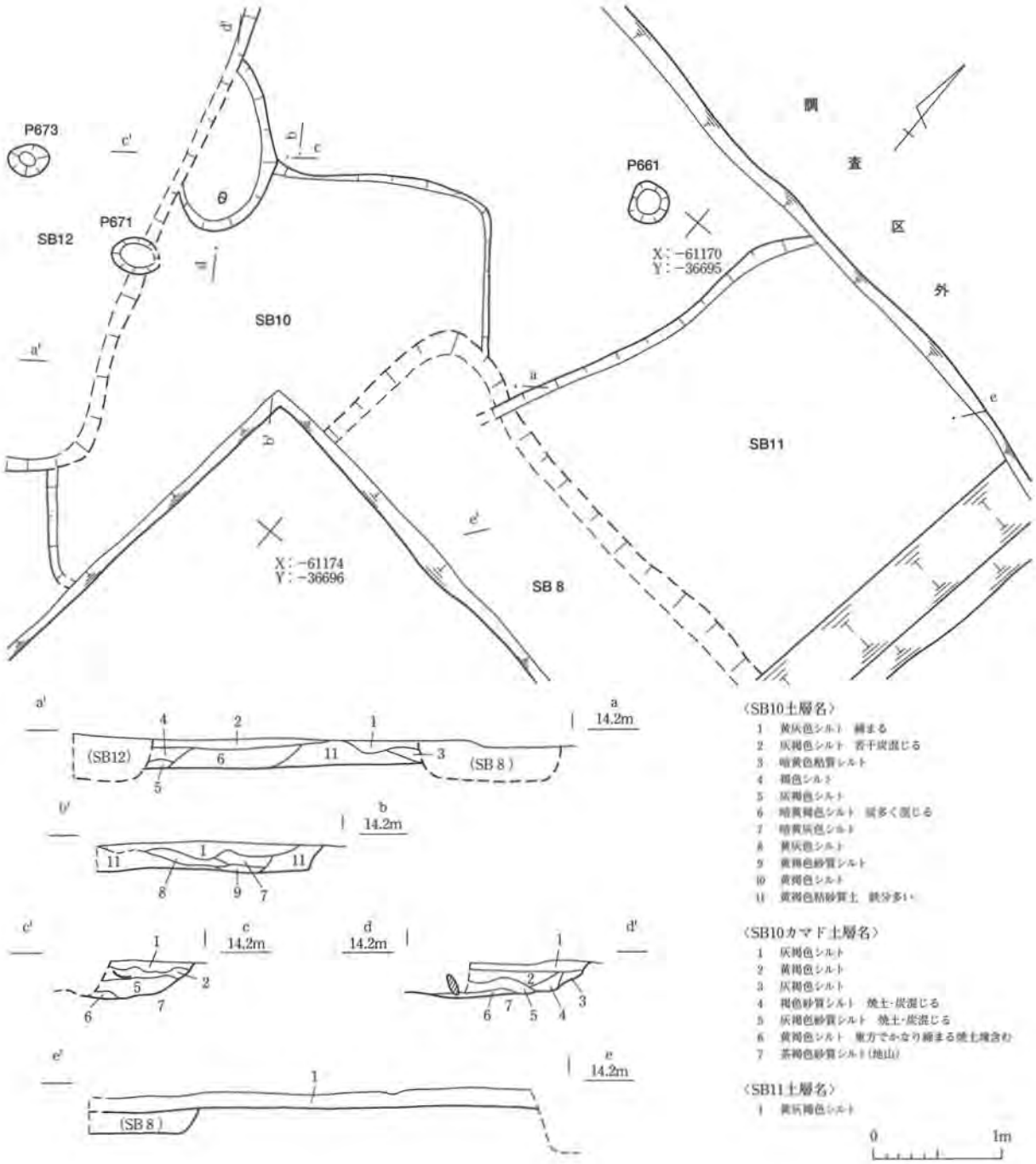
７～９は土師器である。７はS字甕C類である。８は宇田型甕で、内面体部中と底部には煮炊きの使用痕がある。脚台には板状工具によるナデ調整が施される。９は底部２孔の甑で、胎土は伊勢型と似る。10～13は須恵器である。10は杯蓋、11は杯身だが、10の胎土には直径約２mmの石が混じる。12は猿投産の高杯口縁部、13は無台杯で底部と胴部の境にはヘラ切り痕がある。

以上より、本遺構の時期は宇田式併行期～古墳時代後期と考えられる。

SB12（第８図、第48図14～30）

Ａ８区中央部下層遺構面で検出し、SB10との関係は前述の通り。SB９、SE4、SD54、SX18、P671、673、674、675に切られる。平面形は方形を呈する。カマド、床の硬化面、住居内ピットは検出できなかった。

14～20は土師器である。14は壺(？)口縁部、15は宇田型甕、16～19は伊勢型甕で、18、19は口縁部が肥厚しない。20は壺底部か。21～30は須恵器で、21～26は畿内系、27～30は美濃須衛産である。21は坏蓋、22は杯身、23は瓶口縁部で外面に波状文が施される。24は坏蓋で天井部にヘラ記号がある。25は杯身、26、27は高杯脚部、28、29は平瓶だが、出土地点を記録していないため、同一個体かどうかは不明。また29の



第6図 SB10、11実測図

胴部にはヘラ記号(?)がある。30は杯身である。

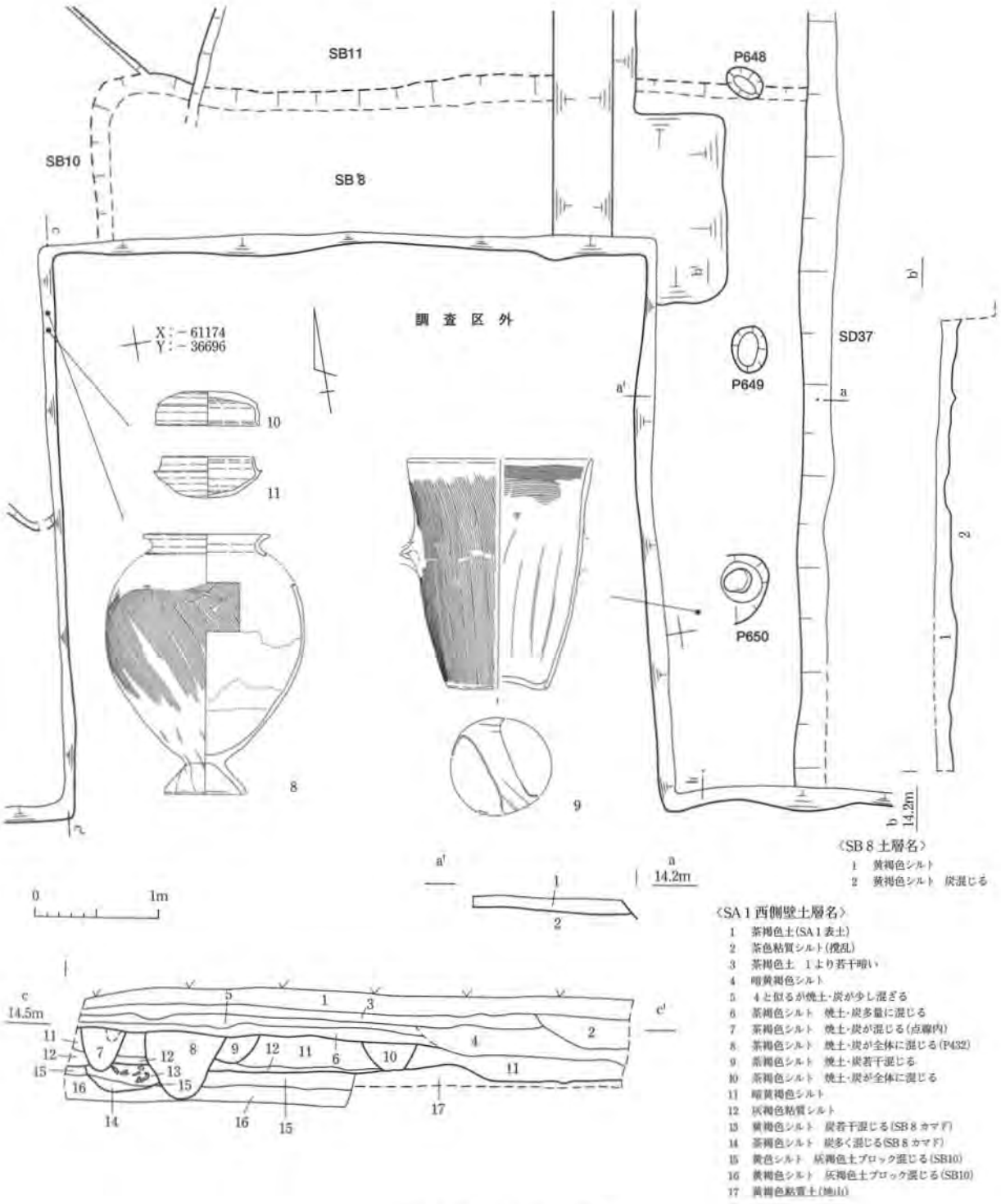
以上より、本遺構の時期は古墳時代後期と考えられる。

SB9 (第9図、第48図31)

A8区西部に位置し、SB12を切る。SD49、54、SK19、P396、397、398、399、401、464、680に切られる。平面形は正方形を呈し、カマド、住居内ピット、床の硬化面は検出できなかった。

31は伊勢型甕で、頸部が肥厚しないタイプである。

以上より、本遺構の時期は古墳時代後期と考えられる。

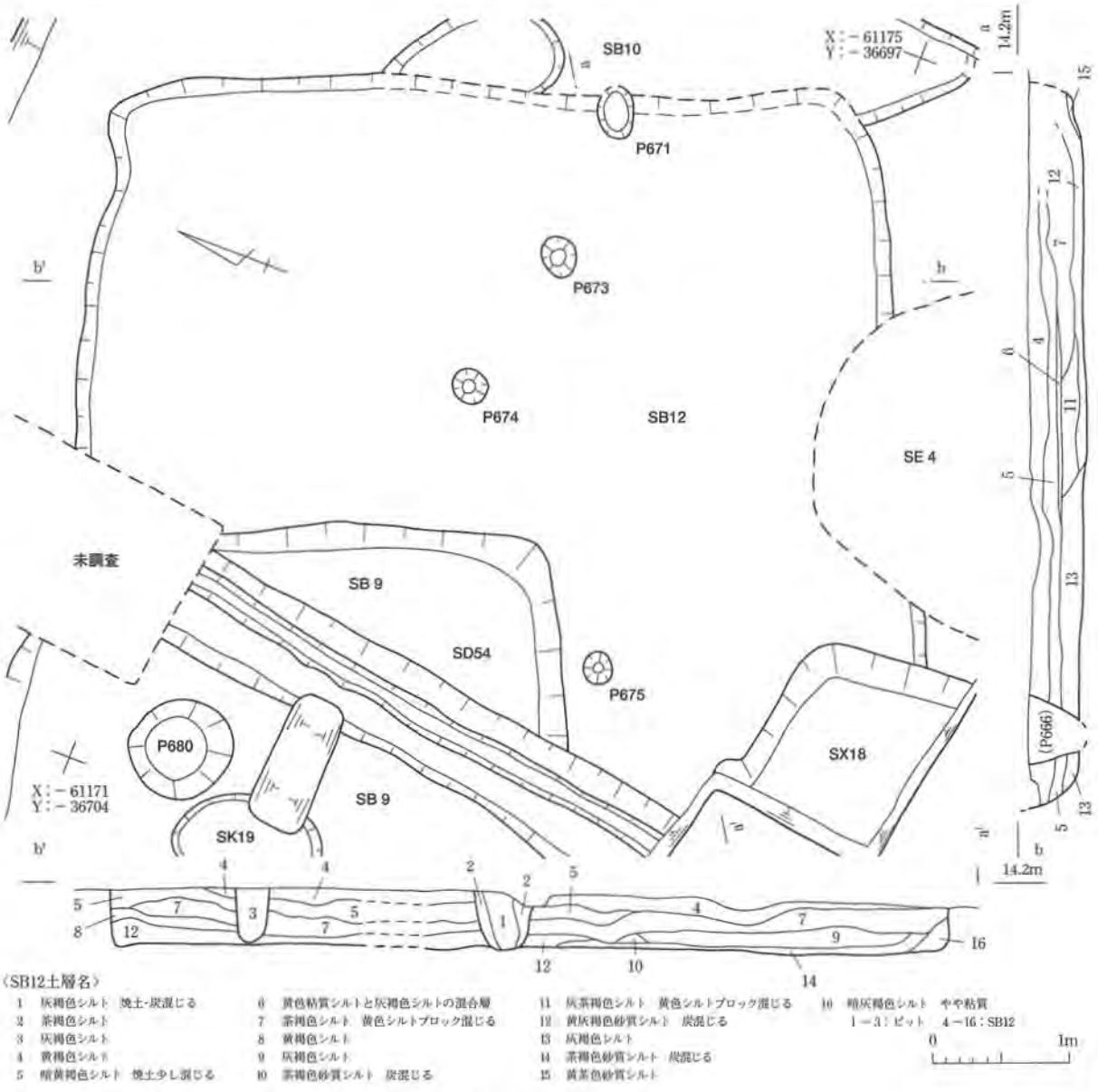


第7図 SB 8 実測図

SB 5（第10図、第48図32～35）

A 7 区西部に位置する。SB 4 、SK17、SD24、25、28、35、SX25、P294、295、310、311、312、317、318に切られる。平面形は長方形を呈する。削平が激しく、掘り方は非常に浅い。住居北コーナー部分、SK17とSD35に囲まれる部分で遺物が密集する部分を確認した。カマド、床の硬化面、住居内ピットは検出できなかった。

32は土師器の平底甕で、外面口縁部は横ナデ調整、体部はハケ調整、内面口縁部は横ハケ調整が施される。また、外面にはススが付着する。33～35は須恵器で、33は畿内系杯蓋、34は杯蓋か。35は瓶類底部で、



第８図　SB12実測図

生焼けである。

以上より、本遺構の時期は古墳時代後期（７世紀中葉）と考えられる。

SB４（第10図、第48図36、37）

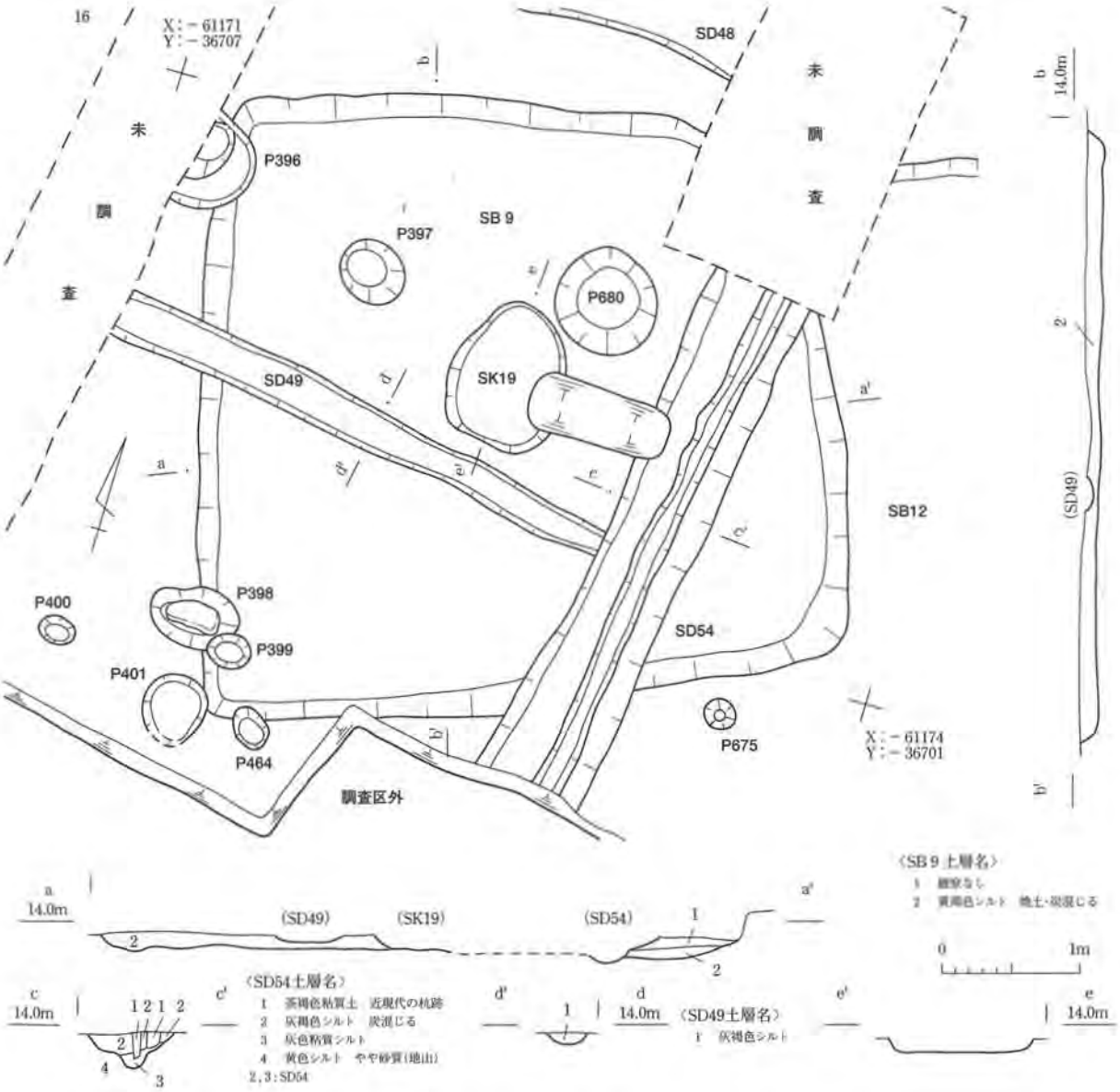
Ａ７区西部に位置し、SB５を切る。P291に切られる。南に向かって住居が浅くなり、南側の掘り方は検出できなかったが、隅丸方形を呈すると考えられる。北西壁で焼土と炭が集中する部分を検出し、この部分をカマドと判断した。カマドは住居の床を掘り込んで構築されている。床の硬化面、住居内ピットは検出できなかった。

36は壺の口縁部か。37は伊勢型甕である。

以上より、本遺構の時期は古墳時代後期と考えられる。

SB６・P33（第11図、第48図38～41）

本遺構は平成12年度調査、Ａ７区で検出した遺構である。その位置からＡ１区にもプランがあったはずであるが検出していなかった。またＡ１区東壁の土層観察の際、SB６の延長と考えられる堆積を確認し、P33を切ると判断した。しかしSB６の出土遺物は本報告１期のものが中心で、またP33から



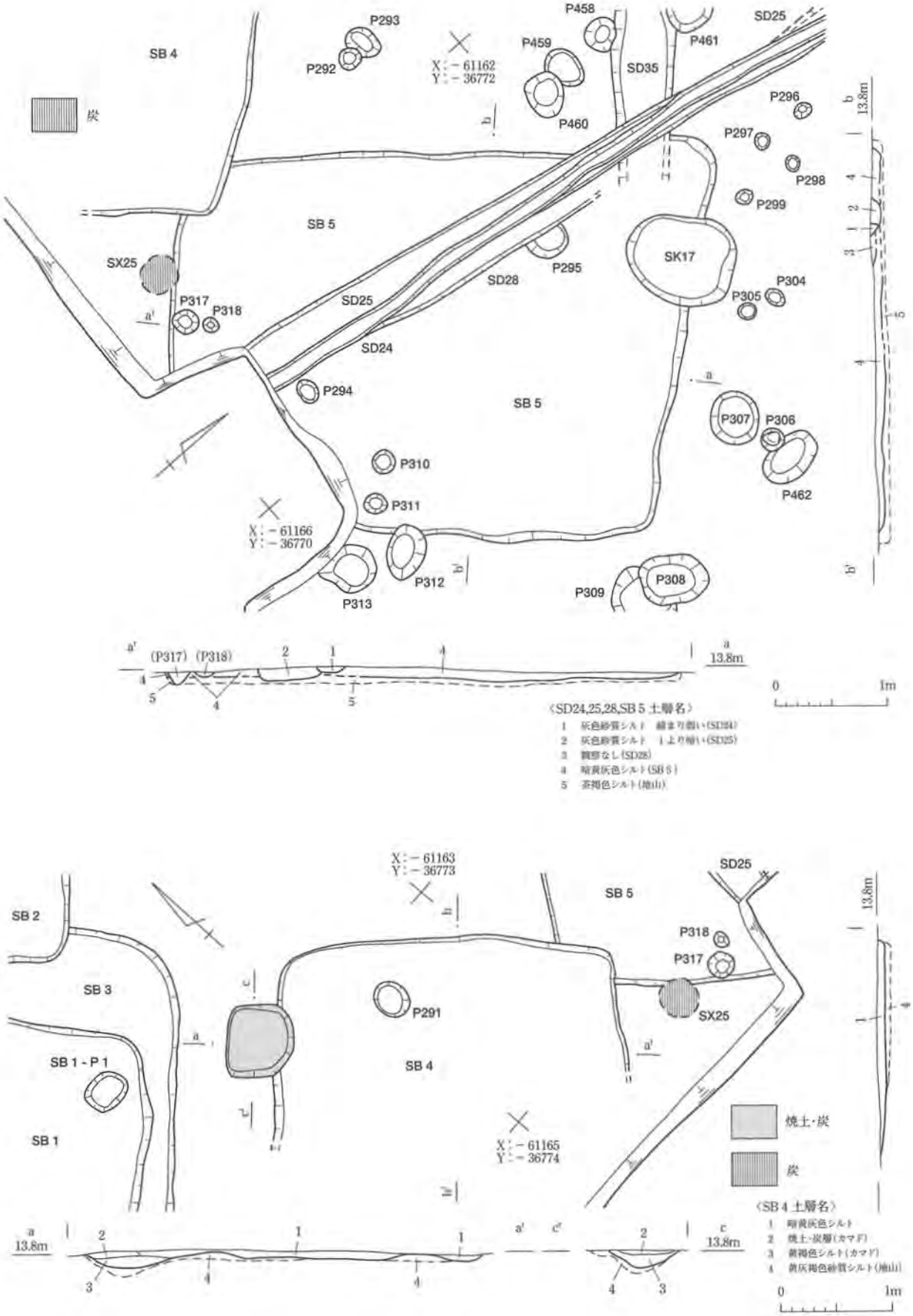
第９図　SB９、SD49、54、SK19実測図

は７世紀後葉の無台杯が出土していることから切り合いが逆になる。この場合、(1)P33の掘り方ラインを見逃した、(2)P33はSB６に伴うピット、という２つの可能性が考えられる。これを決定する他のデータを取っていないため断定することはできないが、以下はこれをふまえて記述する。

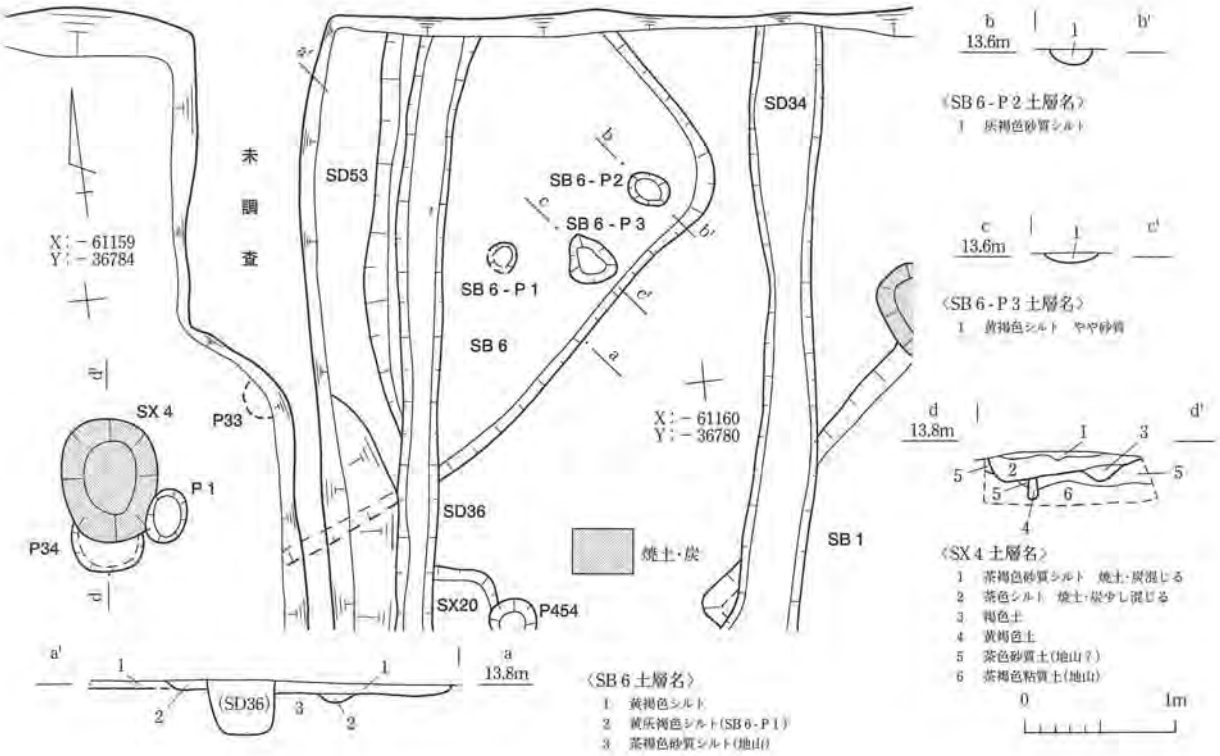
Ａ７区西部に位置し、SD36、53に切られる。P33との関係は前述の通り。住居の大半は調査区外にあるが、東コーナー部分があることから、方形を呈すると考えられる。床の硬化面、カマドは検出できなかった。住居床面でピットを３基検出した。そのうちＰ２は位置から考えて柱穴となる可能性がある。

Ａ１区東端付近で焼土と炭の密集部分であるSX４を検出した。調査時に第Ⅱ層の遺物に紛れてしまったが、検出時には伊勢型甕が出土していた。SX４がSB６に関係する可能性も考えられる。

38、39は土師器、40、41は須恵器である。38は杯部椀形高杯の脚部である。39は伊勢型甕の口縁部であり、頸部が肥厚するタイプである。外面は横ナデ、内面は横ハケ調整が施される。40は高坏脚部である。41は美濃須衛産の無台杯であり、底部には回転ヘラケズリ調整が施される。また、内面底部には使用痕があり、器面が滑らかである。



第10図　SB 5 、SX25、SB 4 実測図



第11図　SB 6 、SX 4 実測図

以上より、両遺構の時期は、前述の(1)の可能性の場合はSB 6 が古墳時代後期（ 7 世紀前葉)、P33が 7 世紀後葉となり、(2)の場合は両遺構共に 7 世紀後葉となる。

SD 7（第17図、第48図42～44）

A 1 区中央部に位置し、SE 1 、SD 1 に切られる。北東一南西方向に流路をとり、南西側はSE 1 付近で浅くなり検出できなくなる。北東側は調査区外に延びる。断面形は扁平なU字形を呈する。

42、43は土師器、44は須恵器である。42はS字甕D 3 類であり、口縁部内外面に横ナデ調整が施される。43は伊勢型甕で、調査区北壁付近でまとまって出土した。内面上半部には横ハケ調整、下半部には若干不明瞭であるが縦ケズリ調整が施される。口縁部外面には横ナデ調整、体部には斜めハケ調整が施される。44は高杯脚部である。端部の器面が滑らかであることから使用痕と考えられる。

以上より、本遺構の時期は古墳時代後期（ 6 世紀末～ 7 世紀初）と考えられる。

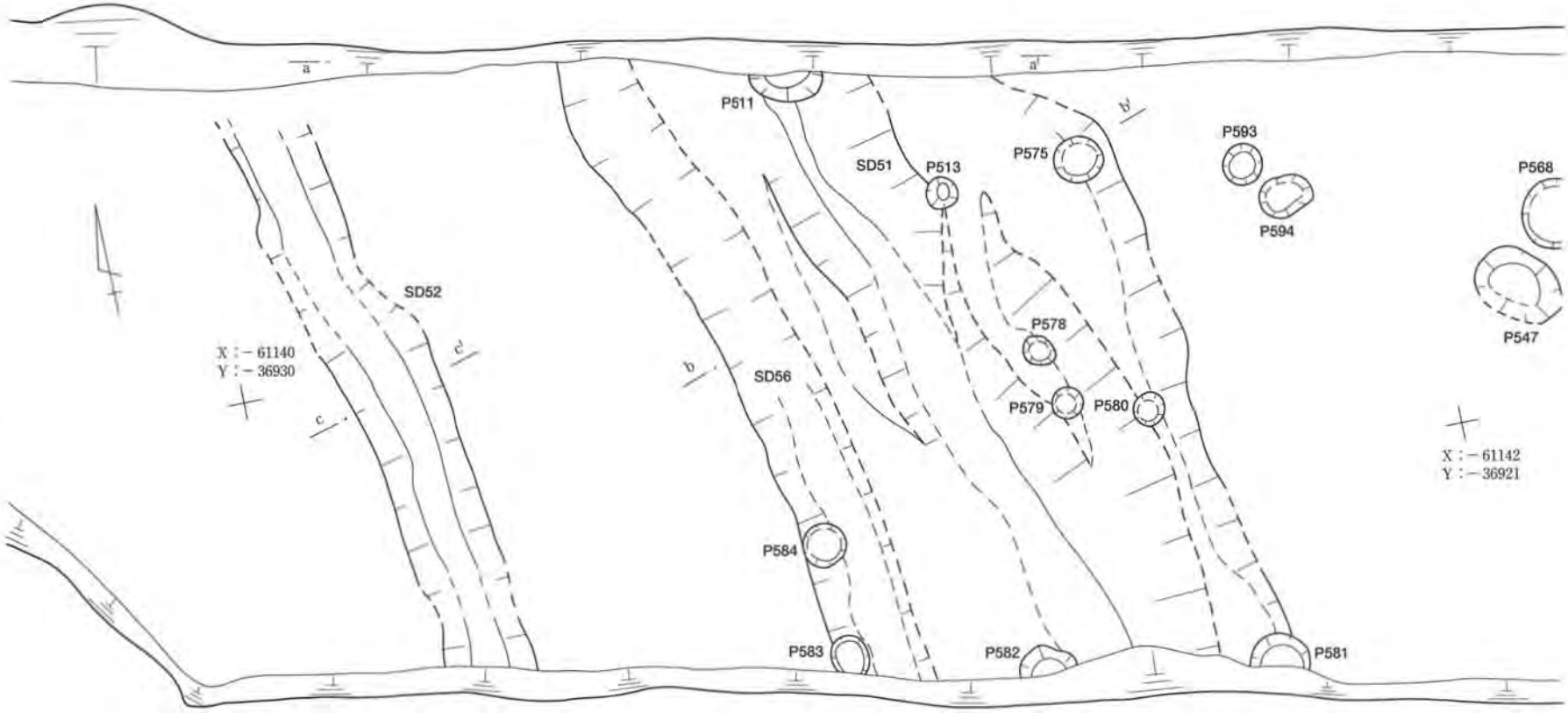
SD51（第12図、第48図45、46）

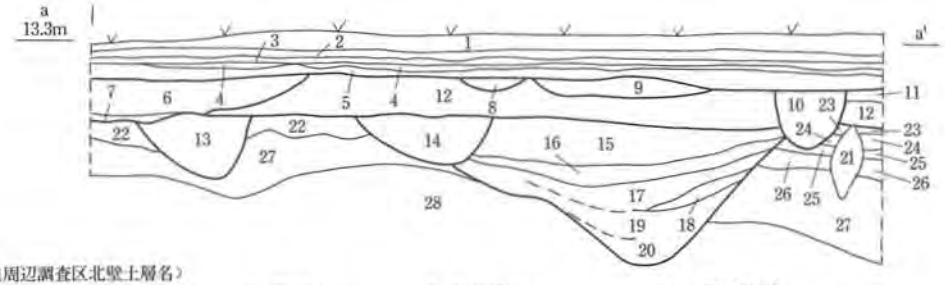
A 2 区西部、下層遺構面で検出した。SD56、P511、513、575、578～584に切られる。南北に流路をとり、両端は調査区外に延びる。断面形は不整V字形を呈する。自然流路の可能性もあるが、地山が砂質であるにもかかわらず掘り方がしっかりしている。調査区南壁付近で掘り直しの様相が見られる。埋土の下層は炭化物を含む粘質土が堆積する。

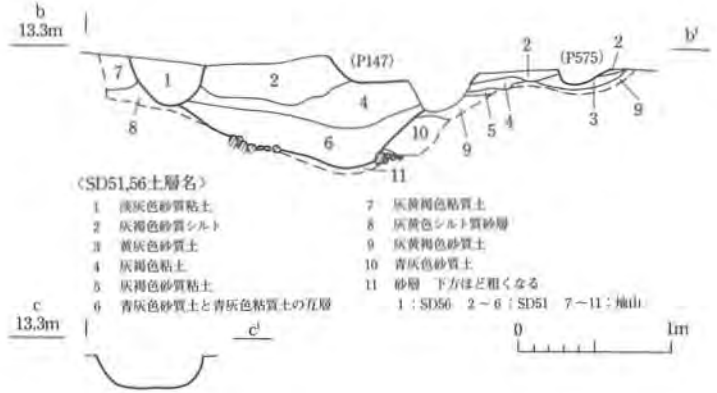
45は土師器で、丸底壺の口縁部か。46はS字甕脚台である。ともに時期は絞り込めないが、古墳時代の遺物であると考えられる。

SX22（第13図、第48図47、48）

A 2 区東部、下層遺構面で検出した。SD50、57、SX23、P502、503に切られる。平面形はSD51と同じ方向で、南北に長軸をとる溝状を呈し、両端は調査区外に延びる。底部が平坦で、東側掘り方に段差があるという、特異な形状をした性格不明遺構である。断面観察より、埋土はシルト～粘質土のブロック状で、一気に埋められたように見える。







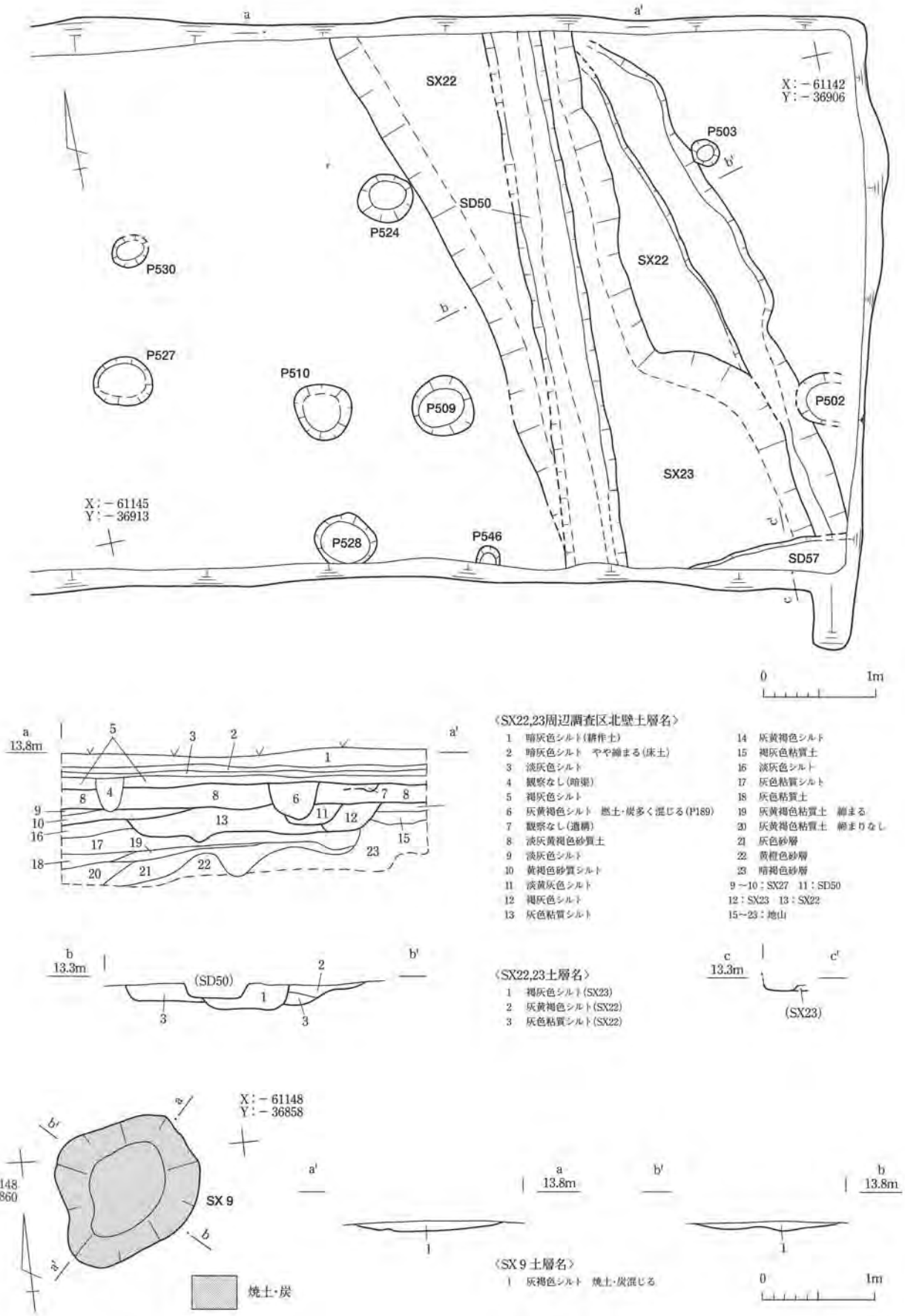
〈SD51周辺調査区北壁土層名〉

1 暗灰色シルト（耕作土）
2 暗灰色シルト　やや締まる（床土）
3 灰色粘質土
4 淡灰色シルト
5 褐灰色シルト
6 灰色粘質土
7 灰褐色粘質シルト
8 褐灰色シルト
9 褐灰色シルト
10 観察なし
11 淡灰黄褐色砂質土
12 淡灰色砂質土
13 灰黄褐色砂質土
14 灰色細砂層
15 灰色砂質シルト
16 灰色シルト
17 灰色砂質シルト
18 砂礫層
19 灰色砂層と暗灰色粘土の互層
20 灰色砂層
21 観察なし
22 灰色砂質シルト
23 淡灰色シルト
24 砂礫層
25 青灰色粘質土
26 黄灰色シルト質砂層
27 砂層
28 砂礫層
6，7：SX6　8：SD9　9：SD10
10：SK15　14：SD56　15～20：SD51
22～28：地山

〈SD51,56土層名〉

1 淡灰色砂質粘土
2 灰褐色砂質シルト
3 黄灰色砂質土
4 灰褐色粘土
5 灰褐色砂質粘土
6 青灰色砂質土と青灰色粘質土の互層
7 灰黄褐色粘質土
8 灰黄色シルト質砂層
9 灰黄褐色砂質土
10 青灰色砂質土
11 砂層　下方ほど粗くなる
1：SD56　2～6：SD51　7～11：地山

第12図　SD51、52、56実測図



第13図　SD50、57、SX22、23、27、9実測図

47は有段高杯脚部であり、外面には縦ミガキ調整、内面には横ナデ調整が施される。48は伊勢型甕の口縁部が肥厚するタイプであるが、内外面の調整は不明瞭である。

以上より、本遺構の時期は古墳時代後期と考えられる。

SX23（第13図、第48図49、50）

A２区東部、下層遺構面で検出した。SD50、57に切られ、SX22を切る。平面形はSD51やSX22と同じ方向で、南北に長軸をとる溝状を呈し、両端は調査区外に延びる。北部で幅が急に狭くなる特異な形状をした性格不明遺構である。掘り方底部は平坦である。断面観察より、埋土はシルト～粘質土のブロック状で、一気に埋められたように見える。SX22と埋土の状況、方向などが似ることもあり、同一遺構の可能性も考えられる。

49はS字甕A類の口縁部で、押し引き刺突文が施される。50はS字甕脚台である。

SX９（第13図）

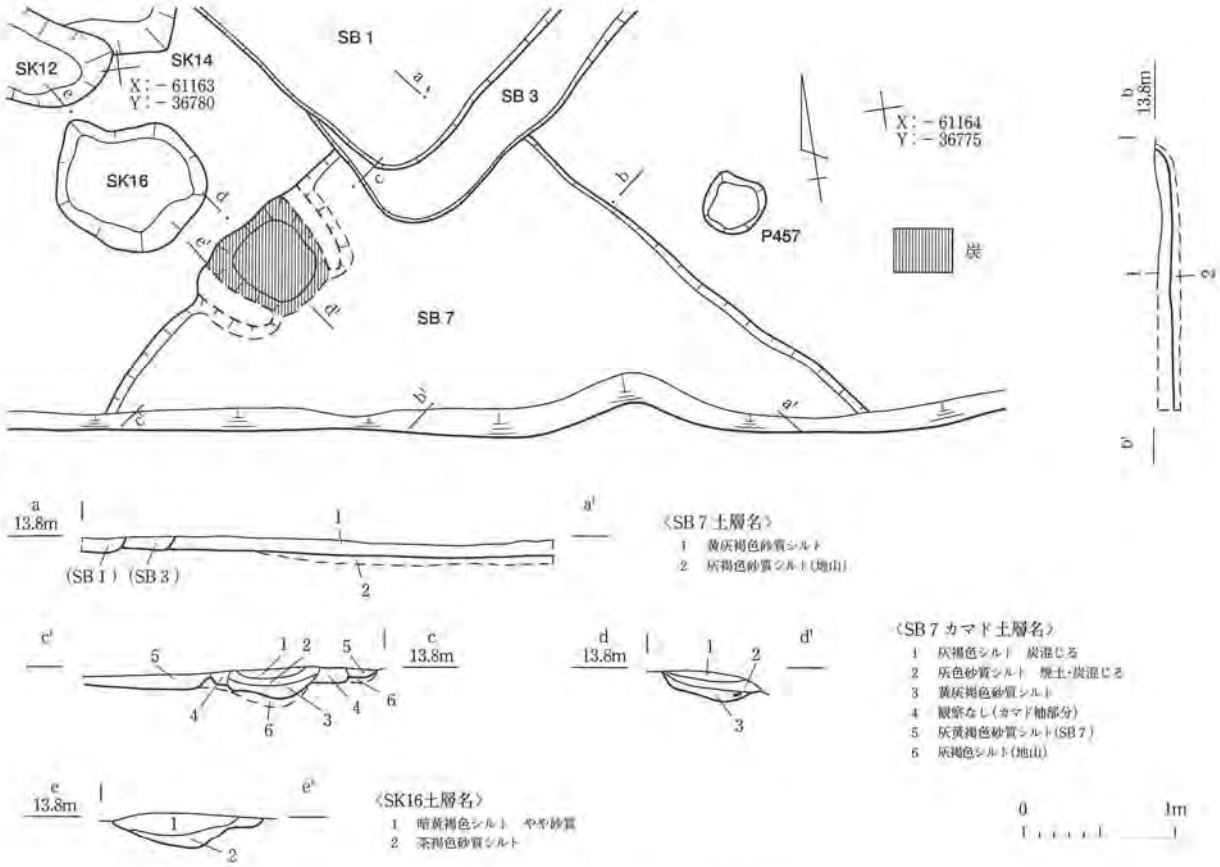
A５区西部に位置する。平面形は不整形を呈し、埋土には焼土と炭が混じる。図示できる遺物はないが、検出時に付近で伊勢型甕などが出土したことから本期とした。

ピットと出土遺物（第48、49図51～56）

１期に属するピットから出土した遺物について記述する。

51はA６区P39出土の土師器の把手である。時期は絞り込めないが、古墳時代の遺物と考えられる。52はA６区P76出土のS字甕の脚台であり、ピットの底部より出土した。外面にはやや粗めの斜めハケ調整が施される。S字甕D類の脚台か。53、54はA７区P333出土遺物である。53は有段高杯口縁部で、内面には多条沈線、外面にはミガキ調整が施される。54は杯蓋で、時期は７世紀中葉である。55はP38出土の伊勢型甕で、体部内面には横ハケ調整、外面には斜めハケ調整が施される。56はA８区西部P680出土の産地不明の須恵器で、台付長頸壺の蓋である。時期は６世紀末である。

第２節　２期の遺構と遺物



第14図　SB７、SK16実測図

SB７（第14図、第49図57～59）

Ａ７区西部に位置し、SB３、SD32に切られる。平面形は方形を呈すると考えられ、住居の南側は調査区外である。北西壁で炭が集中する部分があり、ここをカマドと判断した。この部分でサブトレンチを設定し、断面観察を行ったところ、カマドの袖と考えられる堆積を確認した。範囲を確定できなかったが、炭の範囲から、図中の点線のような形であったと思われる。袖は地山の掘り残しではなく、土を盛って構築している。カマドは住居の床面を掘り込んで構築されている。床の硬化面、住居内ピットは検出できなかった。

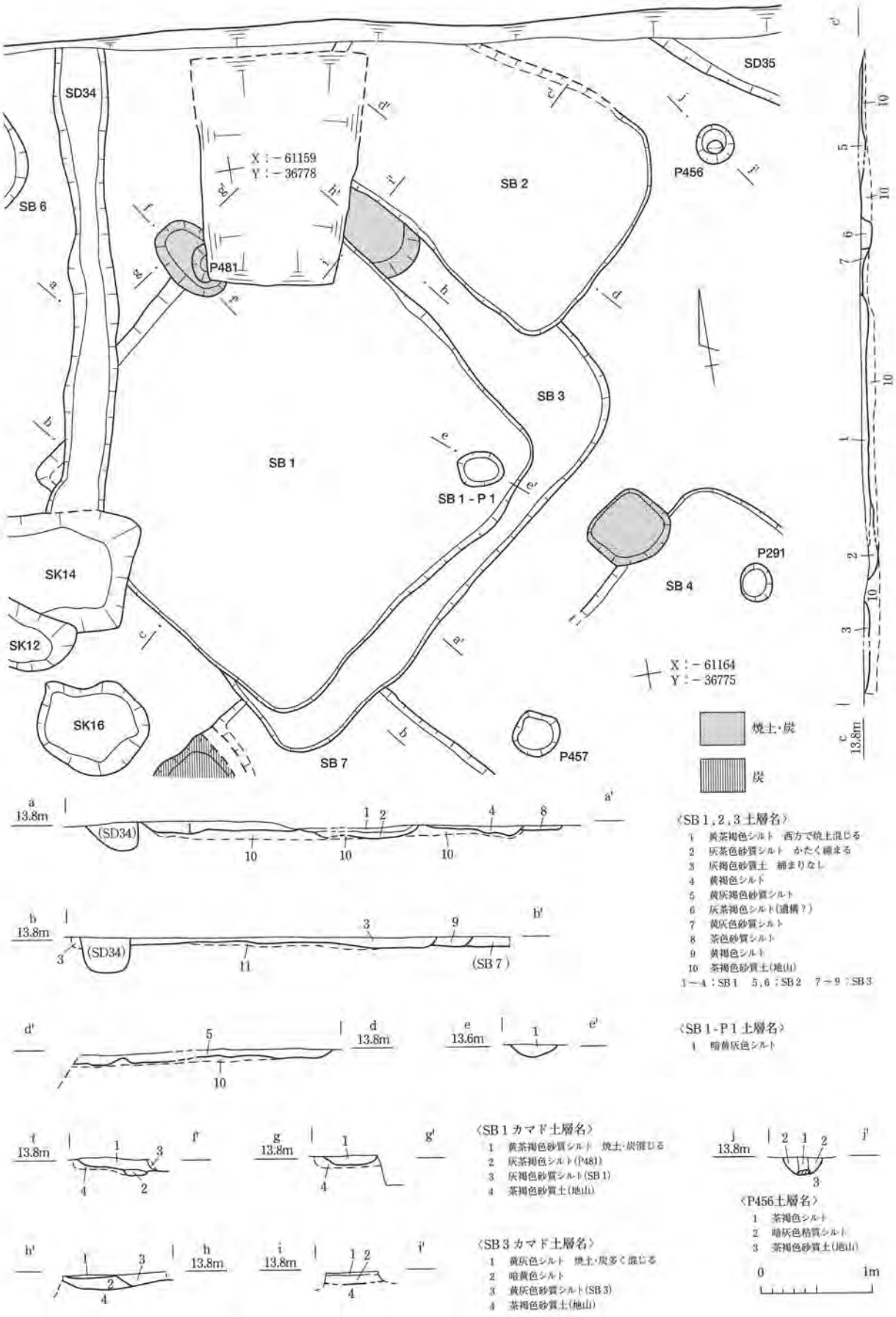
57～59は土師器で、57は伊勢型甕口縁部で、器壁が肥厚しないタイプである。口縁部内面には横ハケ調整が施される。58は伊勢型甕の体部で、内外面ともに斜めハケ調整が施される。59は焼塩土器であり、被熱による器壁の劣化が激しい。器壁が厚いタイプである。

以上より、本遺構の時期は７世紀後半～８世紀初と考えられる。

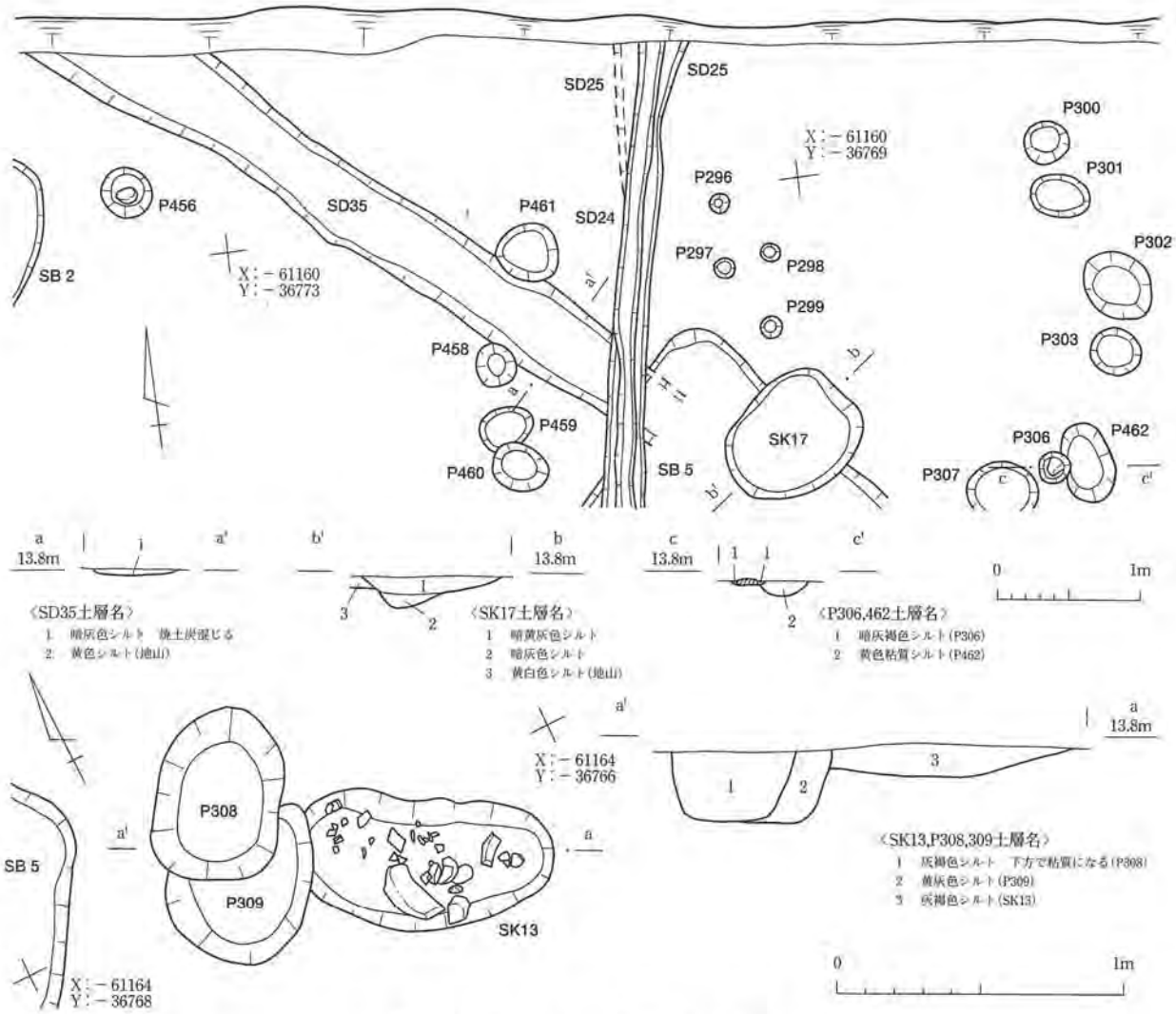
SB３（第15図、第49図60～62）

Ａ７区西部に位置し、SB１、２に切られ、SB７を切る。平面形は方形を呈すると考えられる。SB１とSB２のプランの間で焼土と炭が集中する部分があり、ここを本遺構のカマドと判断した。カマドは床よりも若干掘り下げて構築されている。床の硬化面、住居内ピットは検出できなかった。

60、61は伊勢型甕であり、ともに口縁部が肥厚しないタイプである。60の体部外面には縦ハケ調整、内面にはハケ調整の後、ケズリ調整が施されている。62は美濃須衛産須恵器の鉄鉢である。体部外面



第15図 SB 1 、 2 、 3 実測図



第16図　SD35、SK17、13実測図

下半には回転ヘラケズリ調整が施される。

以上より、本遺構の時期は７世紀末～８世紀と考えられる。

SB２（第15図、第49図63）

Ａ７区西部に位置し、SB３を切る。平面形は長方形を呈する。Ａ７区北壁で本遺構の堆積と思われる箇所を確認したことからプランを推測したが、南西ー北東方向がやや短いこと、また床面がフラットでないことから住居でない可能性も考えられる。

63は須恵器無台杯である。外面底部には回転ヘラケズリ調整が施される。

SB１、P481（第15図、第49図64～76）

Ａ７区西部に位置し、SK14、SD36に切られる。SB３を切る。平面形は正方形を呈する。北西壁の中央北寄りに焼土と炭が集中する部分を検出したことから、ここをカマドと判断した。カマドは住居の床面よりも掘り下げて構築され、また底部でP481を検出した。遺物は焼塩土器が中心であるが、時期が近いことからカマドに伴う可能性も考えられる。床の硬化面は検出できなかった。住居内東部コーナーでピットを１基検出した。位置から考えて柱穴の可能性が高い。カマドの南約1.5mの位置で遺物が集中して出土したが、掘り込みなどは確認できなかった。

64は伊勢型甕で、口縁部が肥厚しないタイプである。口縁部内面には横ハケ調整が施される。65は平底甕である。外面口縁部には横ナデ調整、体部には斜めハケ調整が施される。口縁部内面には横ハ

ケ調整が施される。外面にはススが付着しており、器面が若干劣化している。66、72～75は焼塩土器で、器壁がやや厚めのタイプである。かなり被熱しており、器面の劣化が激しい。72の体部内面には横ハケ調整、74、75の体部内面には横ナデ調整が施される。67～70、76は須恵器である。67は杯身である。68、76は無台杯で底部に回転ヘラケズリ調整が施される。69、70は有台杯である。69の内面底部と高台接地部、70の口縁端部、内面底部、高台接地部の器面は滑らかで使用痕と考えられる。また70の内面底部にはヘラ状工具による文様がある。70、76の胎土には川砂（水流により丸い）が混和されており、老洞古窯で焼かれた製品の可能性がある。71は土錘である。

以上より、本遺構の時期は７世紀後葉～８世紀初め頃と考えられる。

SD35（第16図、第49図77～81）

Ａ７区西部に位置し、SD24、25、P458、461に切られる。SB５を切る。流路を北西ー南東にとり、北西側は調査区外、南東側はSK17付近で浅くなる。断面形は扁平なU字形を呈する。

77～81は須恵器である。77は高坏脚部である。78は横瓶で、体部内面には同心円当て具によるタタキ調整が施される。79、80は杯蓋で、80の天井部には回転ヘラケズリ調整が施される。81は尾張産で器種は不明である。体部外面に平行タタキ調整が施される。

以上より、本遺構の時期は８世紀末～９世紀初と考えられる。

SK17（第16図、第49図82）

Ａ７区西部に位置し、SB５を切る。平面形は楕円形を呈し、北東ー南西に長軸をとる。

82は須恵器無台杯で、口縁端部に使用痕がある。SB１の70と同様、胎土に川砂が混和されることから、これも老洞古窯の製品の可能性がある。

以上より、本遺構の時期は７世紀後葉と考えられる。

SK13（第16図、第49図83～91）

Ａ７区西部に位置し、P309に切られる。平面形は東西に長軸をとる楕円形を呈する。埋土から多くの須恵器と角礫が出土した。

83～91は須恵器である。83は水瓶で、金属器の写しである。84、85は杯蓋、86は有台杯で内面底部高台接地部に使用痕がある。87は無台杯で外面底部に回転ヘラケズリ調整が施される。88、89は盤、90は鉢か？91は平瓶である。

以上より、本遺構の時期は９世紀前葉と考えられる。

第３節　３期の遺構と遺物

SD１（第17図、第50、51図92～176）

Ａ１区中央部に位置し、SD７を切る。SD５、６、P17、18、21、27に切られる。北西ー南東に流路をとり、両端は調査区外に延びる。断面形は扁平なU字形を呈する。土層観察において、掘り直しと考えられるラインがあったが、検出面までは繋がらなかった。場所、深さに関わらず埋土中からは大量の遺物が出土した。また掘り下げ時に、プラン西側で埋土中に木が残存するP35を検出した。検出面について、出土遺物の中に第Ⅱ層出土の遺物と接合できるものがあったことから、第３章第１節で述べたように検出段階で掘り過ぎていたと考えられる。

92～100は土師器である。92はS字甕Ｄ１類、93はくの字甕脚台、94は壺底部で外面に木葉痕がある。95、96は伊勢型甕、97、98は甑で、ともに伊勢型甕と同様の胎土である。99は伊勢型鍋で、口縁部外面は横ナデ、内面は横ハケ調整が施される。外面にはススが多く付着する。100は把手である。101～111は須恵器である。101は杯身、102は杯蓋、103は高杯、104は甕、105、106は無台杯、107は有台杯、108は長頸瓶底部である。109は杯蓋で、佐波理写しである。時期的には７世紀前半～８世紀後半までのものが中心で、Ａ１区では検出できなかったが、付近にはこの時期の遺構があったと考えられる。112～118は灰釉陶器である。内面に使用痕があるものが多い。119～150は南部系山茶碗である。128は加工円盤である。136の高台内部には墨書で「大」とある。151～153は北部系山茶碗で、152の内面には使用痕がある。154～157は中国製磁器である。156の外面には鎬蓮弁文が施され、157の内面には弧状の櫛目文が施される。158～169はM類のかわらけである。170は瓦器で、器種は風炉か。171は常滑産の羽釜で生焼けである。172は常滑甕である。173は古瀬戸後Ⅳ期新段階の壺口縁部で、内外面に鉄釉が施釉される。174～176は土錘である。

以上より、本遺構の時期は13世紀代と考えられる。

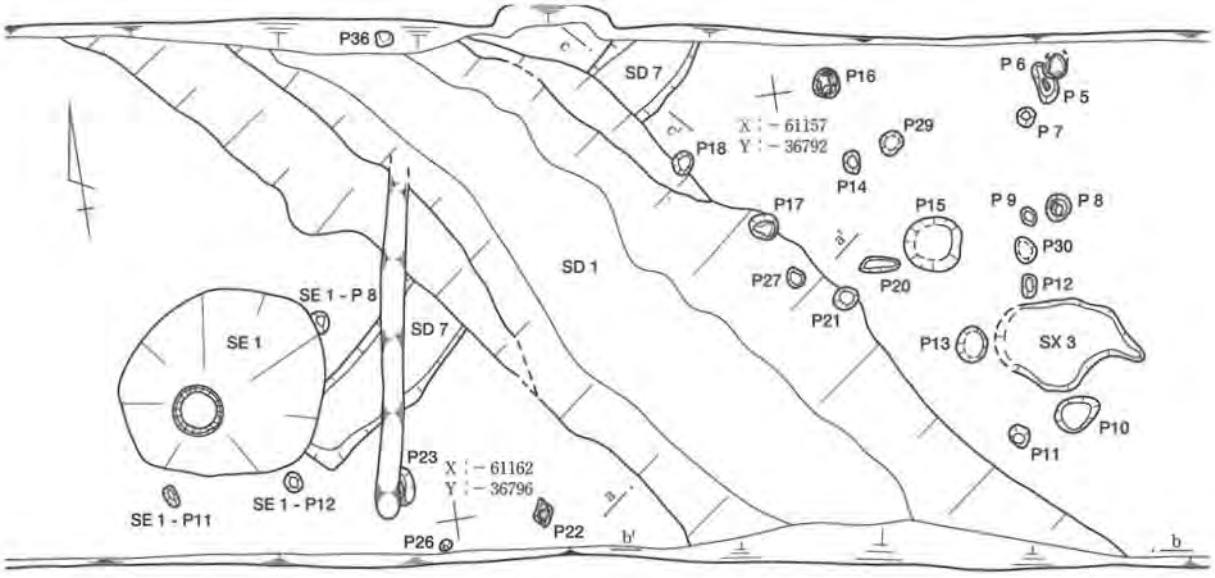
SD50（第13図）

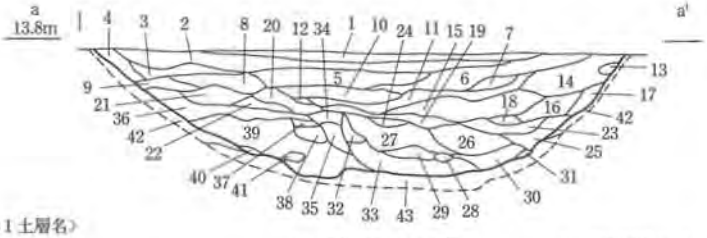
Ａ２区東部、下層遺構面で検出した。SX22、23を切る。SD51と同様に流路を南北にとり、両端は調査区外に延びる。断面形は逆台形を呈する。本遺構に限らず、Ａ２区下層遺構面で検出した溝は同様の方向（真北の方向）に揃う。

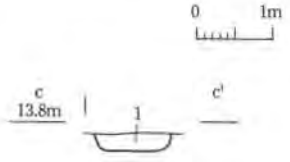
埋土中に南部系山茶碗が混じることから、３期の遺構と判断した。

SX27（第13図）

Ａ２区下層遺構検出時に、SX22の西側で遺物を多く含む淡灰色シルトの堆積を確認した。遺構プランが見えなかったため、上層遺構の基盤層が掘り下げ足りないか、もしくは窪地状の部分に堆積した層と考え、遺物を分けながら掘削を行ったが、結局範囲は確定できなかった。調査区北壁の観察では、堆積が西に向かって厚さを増す様子が見られた。埋土中に南部系山茶碗が混じることから３期の遺構と判断した。





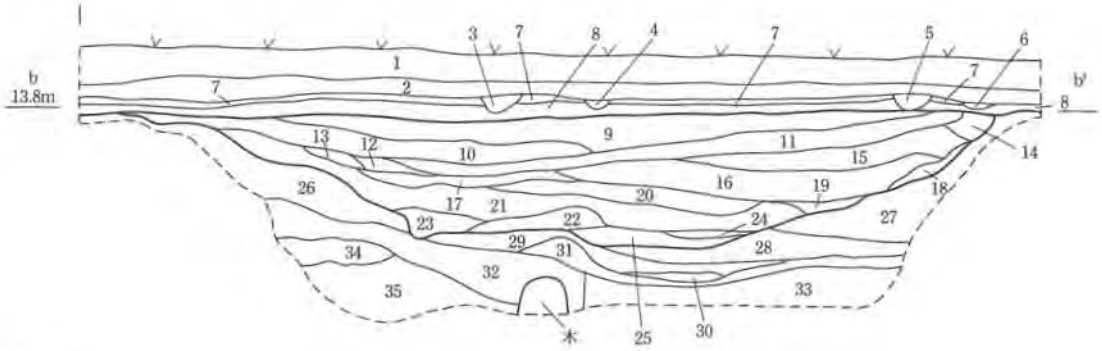


〈SD 7 土層名〉

1　灰褐色シルト

〈SD 1 土層名〉

1　黄褐色シルト
2　黄灰色シルト
3　灰褐色砂質シルト
4　暗灰色砂質シルト
5　灰色砂質シルト
6　灰褐色土
7　灰褐色シルト
8　茶褐色砂質土
9　灰色砂質シルト　茶色土ブロック混じる
10　暗茶色砂質土シルト　灰色ブロック混じる
11　茶灰色シルト
12　茶褐色砂質土
13　黄色砂質シルト
14　灰褐色土　炭混じる
15　灰色粘質土
16　灰褐色シルト　やや砂質
17　暗灰色土　鉄分混じる
18　黄色シルトブロック
19　茶灰色砂質シルト
20　灰褐色粘質土　茶色砂質土混じる
21　暗灰褐色砂質シルト
22　灰褐色砂質シルト
23　暗灰褐色シルト
24　灰褐色シルト
25　黒灰色粘質シルト
26　灰茶色シルト
27　灰茶色粘質シルト
28　茶灰色粘質土ブロック
29　灰色粘質土
30　暗黒灰色粘質土
31　黄白色砂質シルト
32　茶灰色粘質土
33　暗黒灰色粘質土　30より明るい
34　暗灰褐色土
35　黄色粘砂質土
36　灰褐色シルト
37　灰色砂質シルト
38　茶色砂質土
39　黒灰色粘質土
40　茶色砂質シルト
41　茶色砂質土ブロック
42　黄白色砂質シルト（地山）
43　茶色砂層（地山）



〈SD 1 土層名②〉

1　暗茶褐色土（耕作土）
2　暗灰褐色土（床土）
3　灰色シルト　黄色ブロック混じる（遺構？）
4　灰黄色シルト（遺構？）
5　灰色土　炭混じる（遺構？）
6　灰黄色シルト　4と似る（遺構？）
7　黄褐色土
8　灰茶色シルト　鉄分多く混じる
9　暗黄灰色シルト
10　灰褐色シルト
11　暗黄褐色シルト
12　灰色砂質シルト
13　黄色砂質シルト
14　茶灰色シルト
15　灰茶色シルト
16　灰色粘質シルト
17　灰色砂質土と黄褐色砂質土の混合層
18　黄白色砂質シルト
19　赤茶色砂層　灰色土ブロック混じる
20　灰色粘質土と赤茶色砂質土の混合層
21　暗灰色粘質土
22　暗灰色砂層　灰白色粘土粒混じる
23　暗灰色シルト　灰色粘土ブロック混じる
12　灰色砂層
25　暗灰色砂質シルト
26　黄褐色砂質シルト
27　赤茶色砂層
28　黄褐色砂層　灰色砂質土混じる
29　黒灰色砂質シルト　黒褐色粘土ブロック混じる
30　暗青紫色土　植物遺存体多く混じる
31　黒灰色砂質シルト
32　灰色粘土　東方で黄褐色になる
33　茶色砂層と灰色砂層の混合層
34　灰色粘質土　黄褐色ブロック混じる
35　灰色砂質シルト
9～25：SD 1　26～35：地山

第17図　SD 1、7 実測図

1～3期のその他の遺構

SB11（第6図）

SB8、10との切り合い関係は前述の通り。A8区中央部、下層遺構面で検出した。平面形は不明で、西辺が直線的であること、掘り方底部が平らであることから住居と判断した。SB8の遺物が2時期に分かれることはすでに述べたが、本遺構はその新しい方の時期になる可能性がある。出土遺物が少なく、結局時期を確定できなかったが、1期か2期に属すると考えられる。

SD52（第12図）

A2区西部、下層遺構面で検出した。流路は南北にとり、両端は調査区外に延びる。断面形は扁平なU字形を呈する。出土遺物が少なく時期を確定できなかったが、A2区Ⅳ②層の形成時期から1～3期に属すると考えられる。

SD56（第12図）

A2区西部、下層遺構面で検出した。SD51を切る。流路はSD51と同じで南北にとり、両端は調査区外に延びる。断面形は扁平なU字形を呈する。時期は不明であるが、A2区Ⅳ②層の形成時期から1～3期に属すると考えられる。

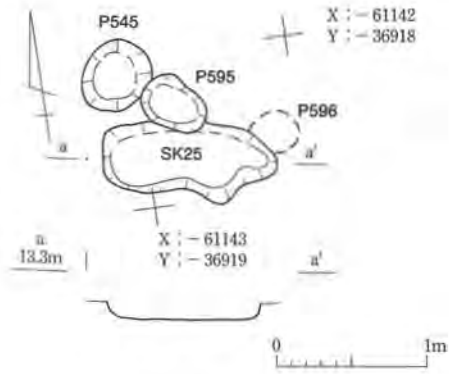
SD57（第13図）

A2区東部、下層遺構面で検出した。SX22、23を切る。SD50との関係は調査区外であるため不明である。流路を南西ー北東方向にとり、両端は調査区外に延びる。断面形は扁平なU字形を呈し、掘り方は非常に浅い。

時期不明であるが、A2区Ⅳ②層の形成時期から1～3期に属すると考えられる。

SK25（第18図）

A2区東部、下層遺構面で検出した。P595に切られる。P596を切る。平面形は不整形を呈し、東西に長軸をとる。掘り方は非常に浅く、底部は平らである。性格、時期ともに不明であるが、A2区Ⅳ②層の形成時期から1～3期に属すると考えられる。



第18図　SK25実測図

第４節　４－１期の遺構と遺物

SE１（第19図、第52、53図177～204）

Ａ１区西部に位置し、SD７を切る。掘り方の平面形は不整円形を呈する。井戸側プランは円形で掘り方の南西に寄る。検出段階で井戸側の周囲に12基のピット（１つの石を含む）を検出した。

掘り方の深さは約3.20mを測り、砂礫層に達してから約0.6m掘り込み、水溜め用の桶を正位に設置している。当時はこの層が湧水層であったと思われる。井戸側について、13.5mから11.1mの間に合計８本の竹箍を検出した。このことから井戸側には桶が用いられていたことがわかる。箍の間隔には規則性がみられ、１つの桶に２本の竹箍とすれば、おそらく４個の桶が積まれていたことになる。

水溜め用の桶の直上で折れた板材を検出した。下端は地面に突き刺し易いように加工してあったことから、側板の残欠と考えられる。これにより、他の側板は抜き取られていることが確定した。井戸側埋土中からは木製の楔が数点出土した。これは箍を締めるのに使用することから上部の桶は井戸専用に作られたものであることがわかる。

水溜め用の桶はかなり良い状態で残存していた。側板内面には底板の痕跡があることから、容器からの転用であることがわかる。また板の中央付近に帯状の付着物が1周巡ることから、水が常時ここまであった、もしくは容器として使用されていたときの内容物などの可能性が考えられる。上部の桶、水溜用の桶の材質はサワラである（詳細は第６章第１節を参照）。また、12.9m付近から最下部まで１本の竹が検出された。節が抜けていることから、井戸廃棄の際に入れた息抜きの竹と考えられる。

調査時の安全確保のため、掘り下げの途中で重機を投入し周囲を広げた。作業効率の関係でやむを得ず最下部のみセクションの方向が東西になる。

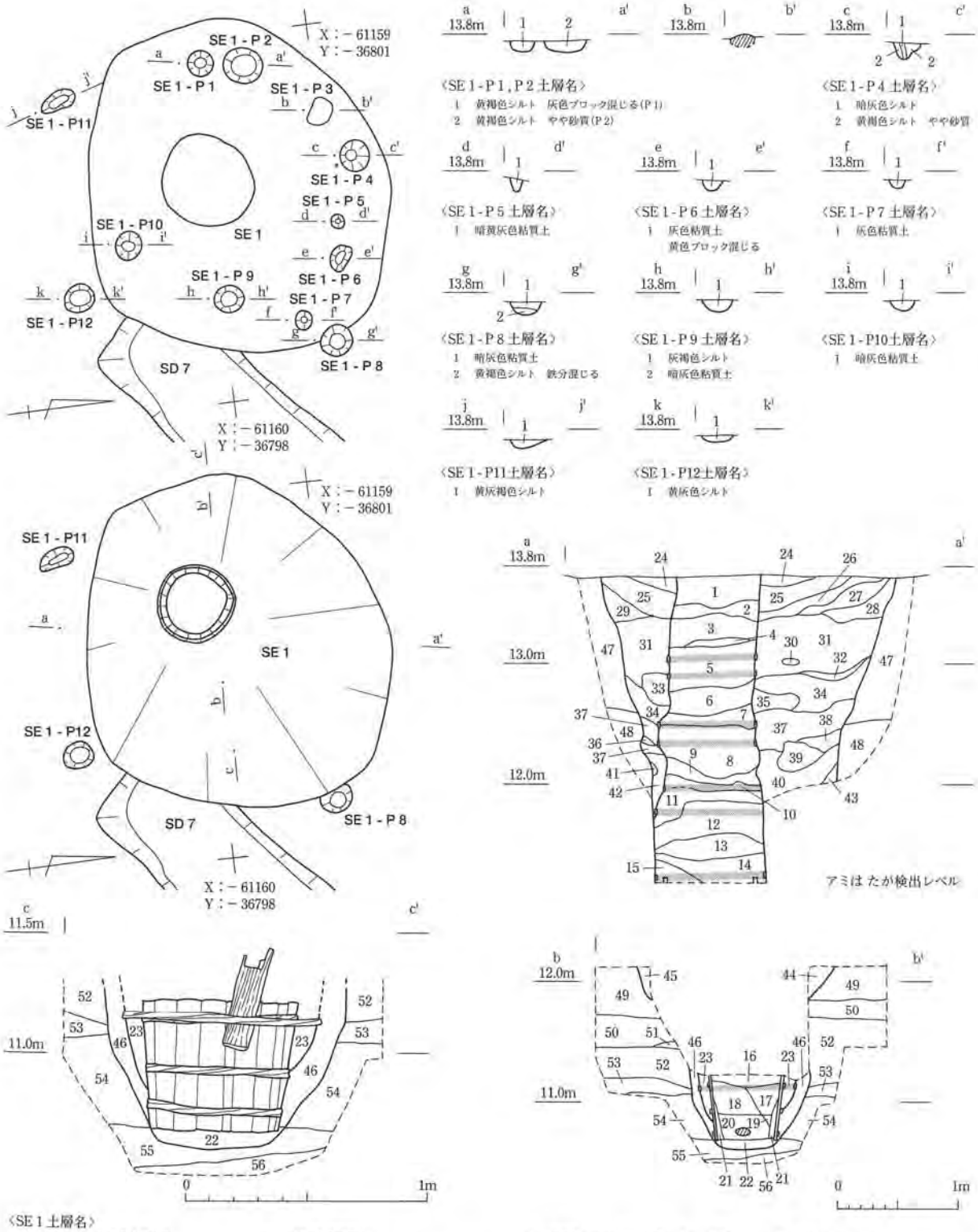
177～181はかわらけである。179は灯明皿で内面底部に油染みが残る。182は壺底部で時期は古瀬戸後Ⅳ期。183は鉄釘、184は銭貨（元豊通寶）であり、ともに全く錆びておらず、184は赤銅色の部分が残る。185～204は木製品で、185～191は箸である。192～194は本遺構最下部から出土した棒状木製品である。用途は不明。195～198は井戸側の桶に使用された楔である。器面には製作痕が残るものが多い。199は角材、200は板材である。201～203は桶側板、204は水溜めの桶である。箍は３本で右ねじり編みである。前述のように本来は容器として使用されていたため、内外面の調整は丁寧で、工具の痕跡はほとんど図示できなかった。

SE２（第20図、第53、54図205～219）

Ａ６区東部に位置する。遺構の約半分は調査区外であるが、平面形は円形を呈すると考えられる。井戸側は掘り方の東側に寄る。検出時に井戸側とほぼ同じ範囲に焼土と炭が密集しているのを確認した。堆積状況を観察したところ、焼土と炭が入る部分は、井戸側内の上部のみ（第７層まで）であることから、焼土層（第Ⅲ層）が形成される以前に廃棄されていたが窪みが残っており、焼土層形成時に完全に埋まった可能性が考えられる。

井戸側は桶積み構造である。調査では安全性を考え、掘り方底部まで掘削できず、また桶は３段目までは確認したものの、２段目までしか取り上げることができなかった。１段目は上部が腐朽していたが、２段目はほぼ完全に残存していた。SE１との距離が約15mと近いことから、湧水層と考えられる砂礫層のレベルがそれほど変わらないとすると、桶積みの残存は３段であると思われる。焼土の範囲が井戸側よりも若干大きいことから、上部の桶は抜き取られた可能性もある。桶は下部の方が直径が広く0.8mを測る。

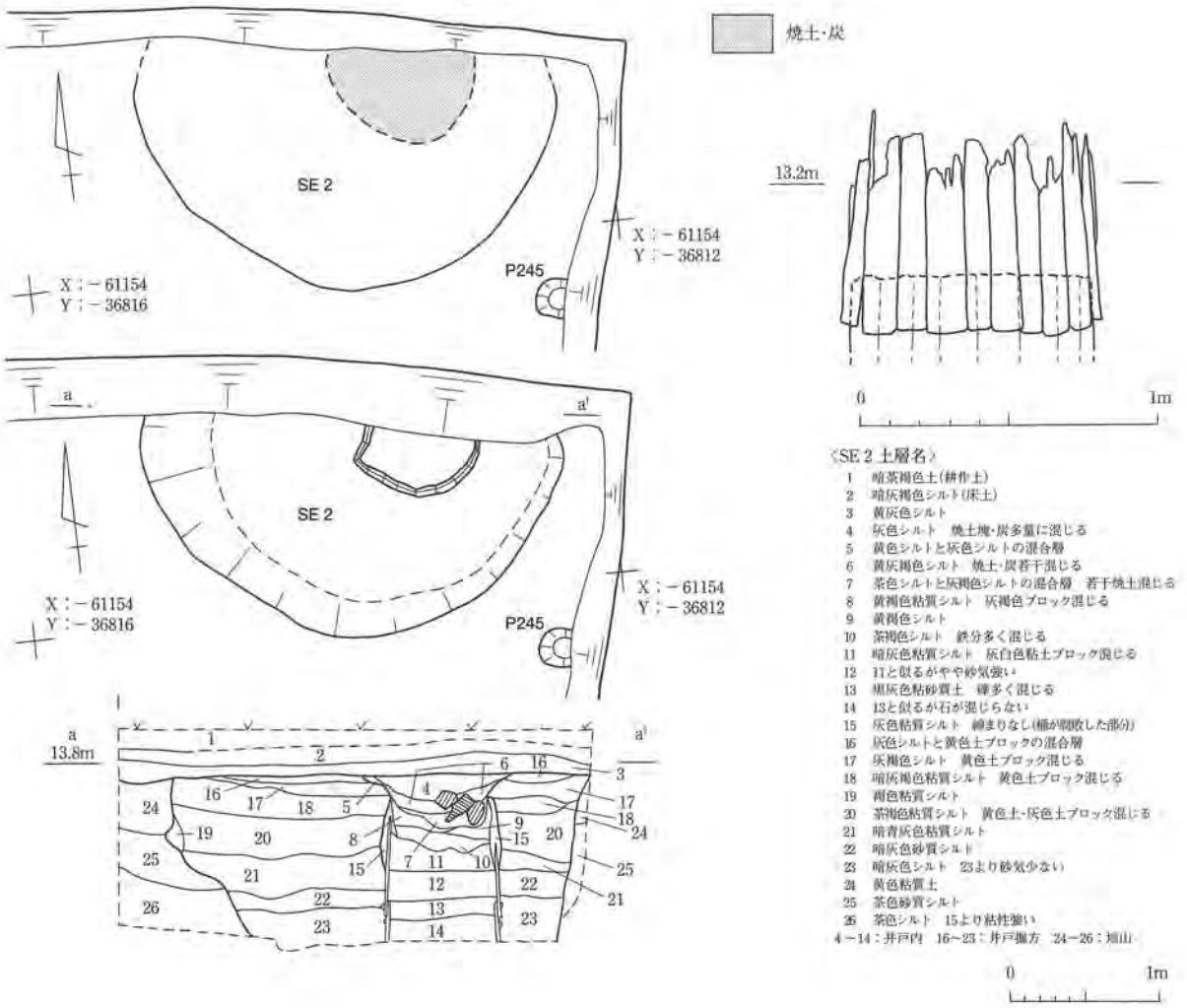
井戸側内から楔が出土したこと、側板に表面には製作時の痕跡が明瞭に見られることなどから、井戸側専用に作られた桶と考えられ、また桶側板の下端部分（本来の桶の口縁部）は角がカットされて



〈SE 1 土層名〉

1 茶褐色土 鉄分多く混じる
2 灰褐色土 黄色砂質ブロック混じる
3 灰色土
4 暗灰色粘砂質土
5 黒灰色砂質土
6 暗灰褐色粘質土 植物遺存体混じる
7 黒灰色砂質土
8 灰茶色粘質土 植物遺存体混じる
9 灰色粘質シルト
10 黒色砂質土
11 暗灰褐色粘質土 黒色砂質土混じる
12 暗灰色粘質土と黒色砂質土の混合層
13 暗灰色粘質土
14 暗灰色粘質土と黒灰色砂質土の混合層
15 暗灰色粘質土 13と同質
16 暗灰白色粘質土
17 灰色砂質シルト 灰褐色粘質土混じる
18 灰色砂質シルト 17より少し暗い
19 観察なし
20 灰色砂質シルト 17,18より砂の粒子粗い
21 灰色シルト やや粘質
22 黒灰色砂層
23 黒灰色砂層
24 茶褐色土 黄色ブロック混じる
25 黄褐色土 灰色粘質土ブロック混じる
26 褐色土 黄色・灰色ブロック混じる
27 灰色土・茶色土・黄白色粘質土の混合層
28 茶色土 灰色粘質土ブロック混じる
29 青灰色土 茶色ブロック混じる
30 灰色シルト 粘質土混じる
31 暗灰色シルト 灰色粘質土ブロック混じる
32 暗青灰色シルト 黄灰色ブロック混じる
33 灰色粘質土
34 暗黄灰色砂質シルト
35 灰色粘質土
36 暗褐色粘質土ブロック
37 暗灰色粘質土
38 暗灰色砂質シルト 灰色粘質土混じる
39 灰色粘質土ブロック
40 暗灰色砂質シルト 黄褐色シルト混じる
41 灰褐色粘質シルト 黒色砂質土混じる
42 灰褐色粘質シルト
43 灰色砂質シルト
44 灰色砂質シルト
45 暗灰色砂質シルト
46 暗灰黄色粘質土
47 赤褐色砂質土
48 灰褐色砂質シルト
49 灰色砂質シルト 黄色土混じる
50 暗灰白色粘質土
51 灰白色粘質土 50より暗い
52 灰色粘質土
53 暗灰色砂礫層
54 暗灰色砂層
55 暗灰色砂層 54より砂の粒子細かい
56 黄褐色砂層
1～22：井戸側 23～46：井戸掘方
47～56：地山

第19図 SE 1 実測図



第20図　SE 2 実測図

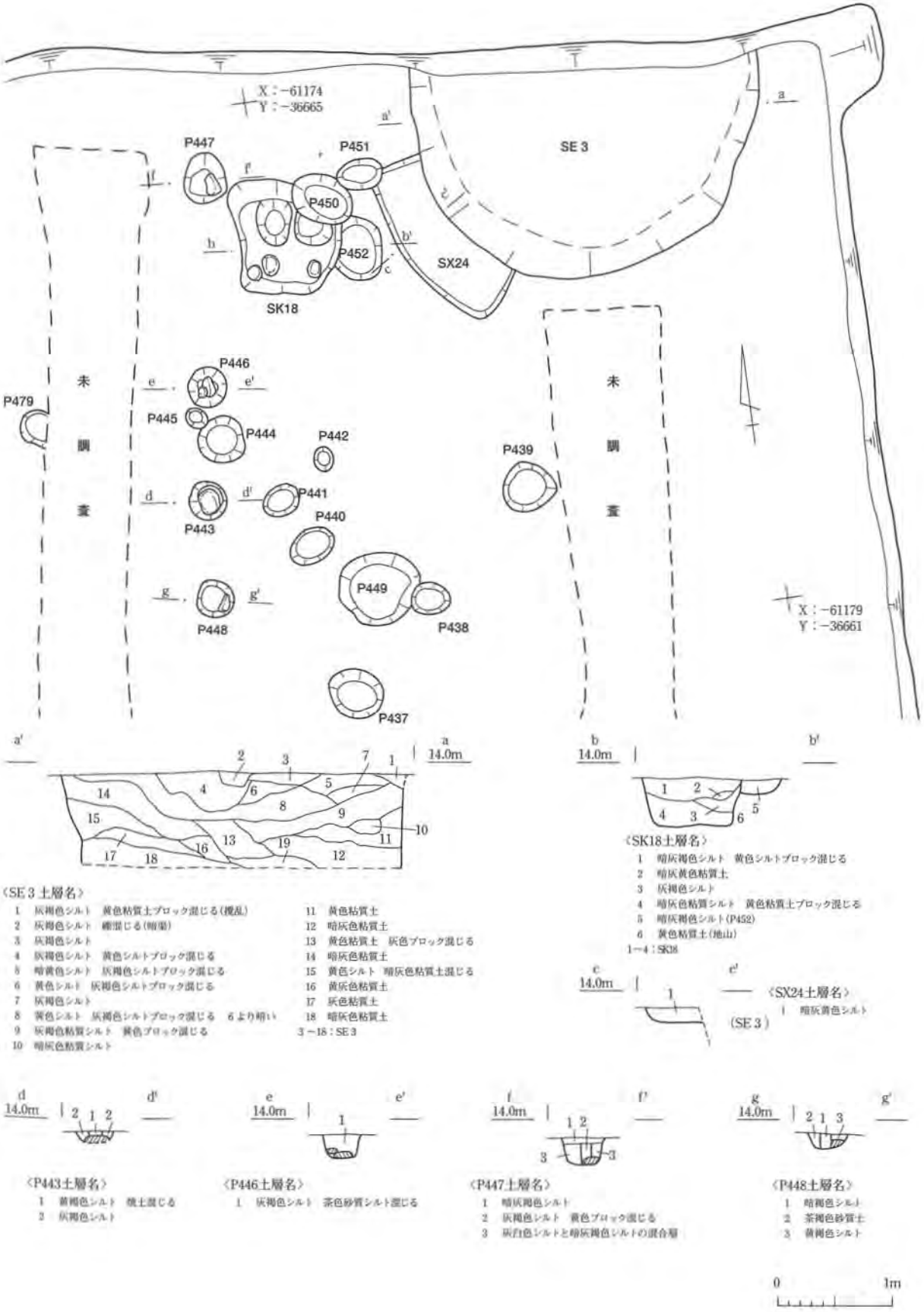
いる。材質はサワラである（詳細は第６章第２節を参照）。

205は壺、206は腰折皿でともに古瀬戸後Ⅳ期新段階である。207は瓦器の浅鉢形火鉢である。外面にはミガキ調整が施される。208～211はかわらけである。212～219は木製品で、212～214は井戸側の桶に使用された楔、215～218は桶側板で、215、216は1段目、217、218は2段目のものである。側板下部のコーナーがカットされているのは、桶を地面に突き刺し易くするための工夫か。２つの桶は内外面ともに調整痕が明瞭に見える。219は２段目の桶である。箍は3本で右ねじり編みである。

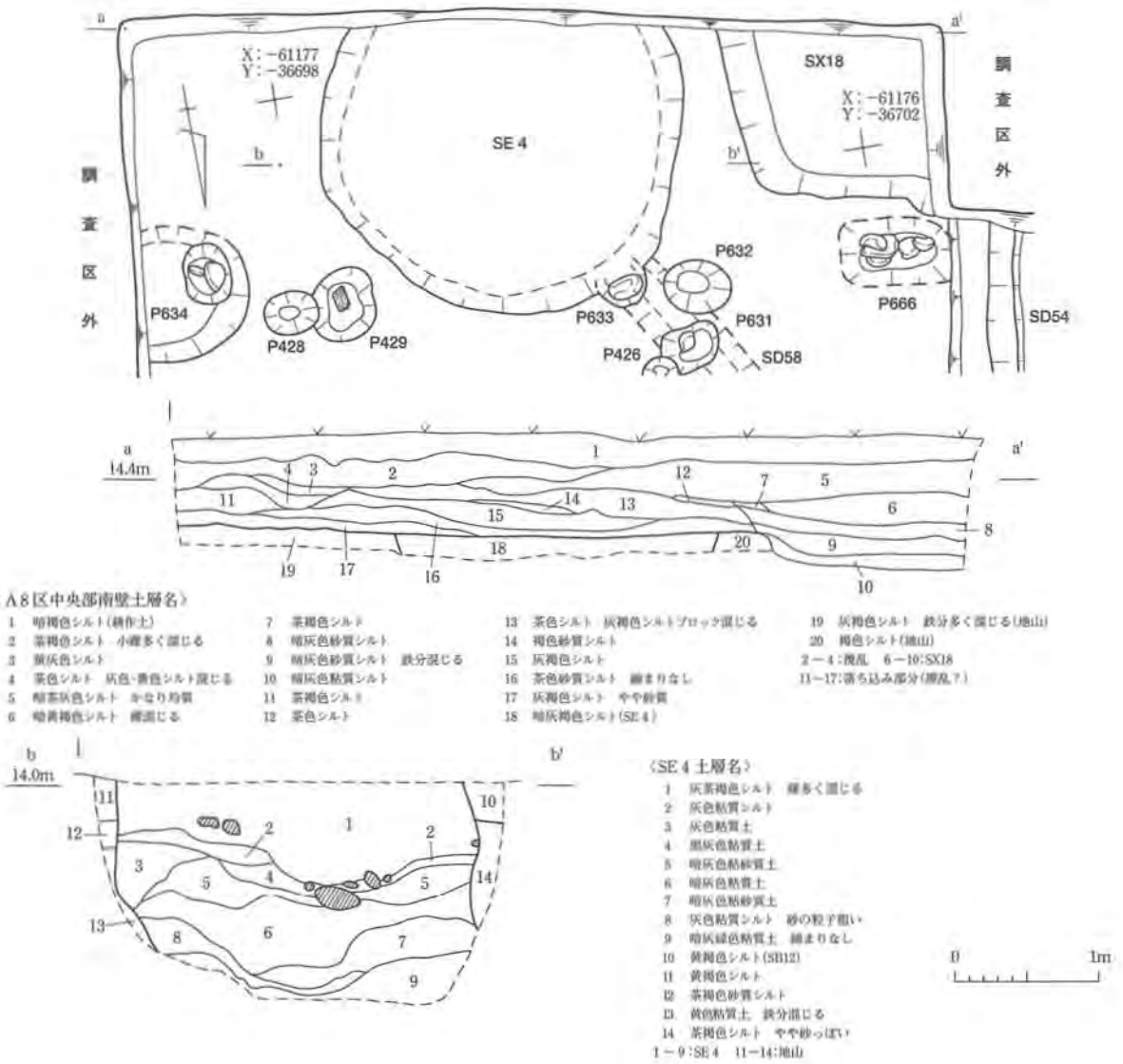
SE 3（第21図、第54図220～230）

Ａ８区東部の東端に位置し、SX24を切る。Ａ８区東端にある攪乱により、東部分を一部破壊される。平面形は円形を呈し、プランの約半分が調査区外にあると思われる。検出段階で井戸側のプランはなく、また掘削を行っても検出できなかった。埋土の状況も井戸の様相を呈しないものの、掘り方ラインがほぼ鉛直方向に延びること、掘り方の平面形が円形を呈することから、廃棄された井戸と判断した。安全性を考え、検出面から0.9mまでの掘削となったが、さらに下方に続くと考えられる。

220は中国製白磁で器種は不明である。221は不明土器である。222は卸目皿で時期は古瀬戸中Ⅰ～中Ⅱ期。223は古瀬戸後Ⅳ期新段階の擂鉢で、二次被熱を受け釉調が変化している。224～227はかわらけで、228の内面底部には刻線文（?）がある。229は土錘、230は碁石である。



第21図　SE 3 、SK18、SX24実測図

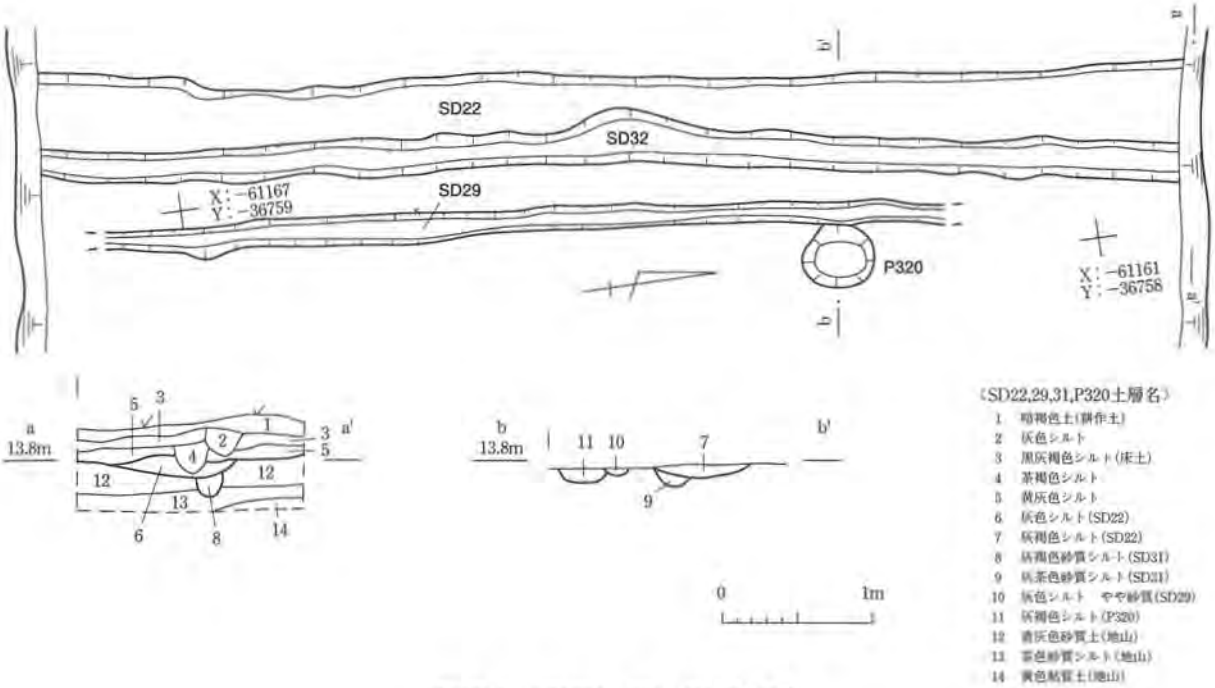


第22図　SE 4 、SX18実測図

SE 4（第22図、第54、55図231～249）

A 8 区中央部、上層遺構面で検出した。SD58との関係について、A 8 区中央部分の南側は第Ⅱ層が厚くなり、検出面が南に向かって落ち込む。本遺構は落ち込みの下面で検出したが、SD58の底部のレベルは落ち込みの下面よりも高いため、結局は切り合い関係を確定できなかった。平面形は円形を呈し、プランの約４分の１が調査区外にあると考えられる。検出段階で井戸側のプランはなく、また掘削途中でも検出できなかったが、掘り方ラインが鉛直方向に延びること、平面形が円形を呈することから、廃棄された井戸であると判断した。埋土の上部に大量の礫が入っており、井戸側の一部は石組であった可能性も考えられる。安全性を考えて約1.5mで掘削を中止した。

231、232は古瀬戸後Ⅳ期の壺である。233～238は古瀬戸後Ⅳ期新段階のもので、233は縁釉小皿である。234、235は天目茶碗で、235は加工円盤である。236は筒形香炉、237、238は擂鉢である。239～241は常滑甕である。239は胴部で、外面に押印文が施されることから、本期以前の遺構を破壊したための混入と考えられる。240は底部で漆継ぎの残欠が付着している。242～244はかわらけである。245は鉄釘、246は上臼で、247は下臼である。内面の器面は滑らかであり、外面には調整痕と考えられるやや細かい凹凸がある。248は砥石、249も砥石か。また遺物として判断に迷ったため図示しなかったが、埋土中から直径10cm、長さ24.7cmに切断された丸太状の木も出土している。



第23図　SD22、29、31実測図

SD58（第39図、第56図250）

A 8 区中央部に位置するが、埋土と第Ⅳ層の判別ができず、上層遺構面では検出できなかった。結局下層遺構面で検出し、調査区北壁で確認したところ、上層遺構面から掘り込まれていることが判明した。流路は南北にとるが、西方に弧を描く。断面形は逆台形を呈する。SE 4 との関係は前述の通り不明である。埋土に焼土は混じらない。

250はかわらけである。

SD11（第29図）

A 5 区西部に位置し、SK 6 を切る。SD12に切られる。流路はSK 6 の掘り方に沿うように見える。掘り方は浅く、断面形は不明。西側はSD12に切られ、それより西では検出できない。東側は暗渠により検出できなかったが、それ以東でも検出できなかった。

SD12（第29図）

A 5 区に位置し、SD11を切る。流路を南北にとり、北側は調査区外に延びる。南側は攪乱により破壊される。断面形は緩いV字形を呈する。

SD29（第23図）

A 7 区中央部に位置し、P320を切る。流路を南北にとり、両端は徐々に浅くなり途切れる。非常に浅く、断面形は不明である。

SD31（第23図）

A 7 区中央部に位置し、SD22とは切り合い関係と判断したが、同一遺構の可能性も考えられる。流路は南北にとり、両端は調査区外に続く。断面形はU字形を呈し、幅が狭く浅い。

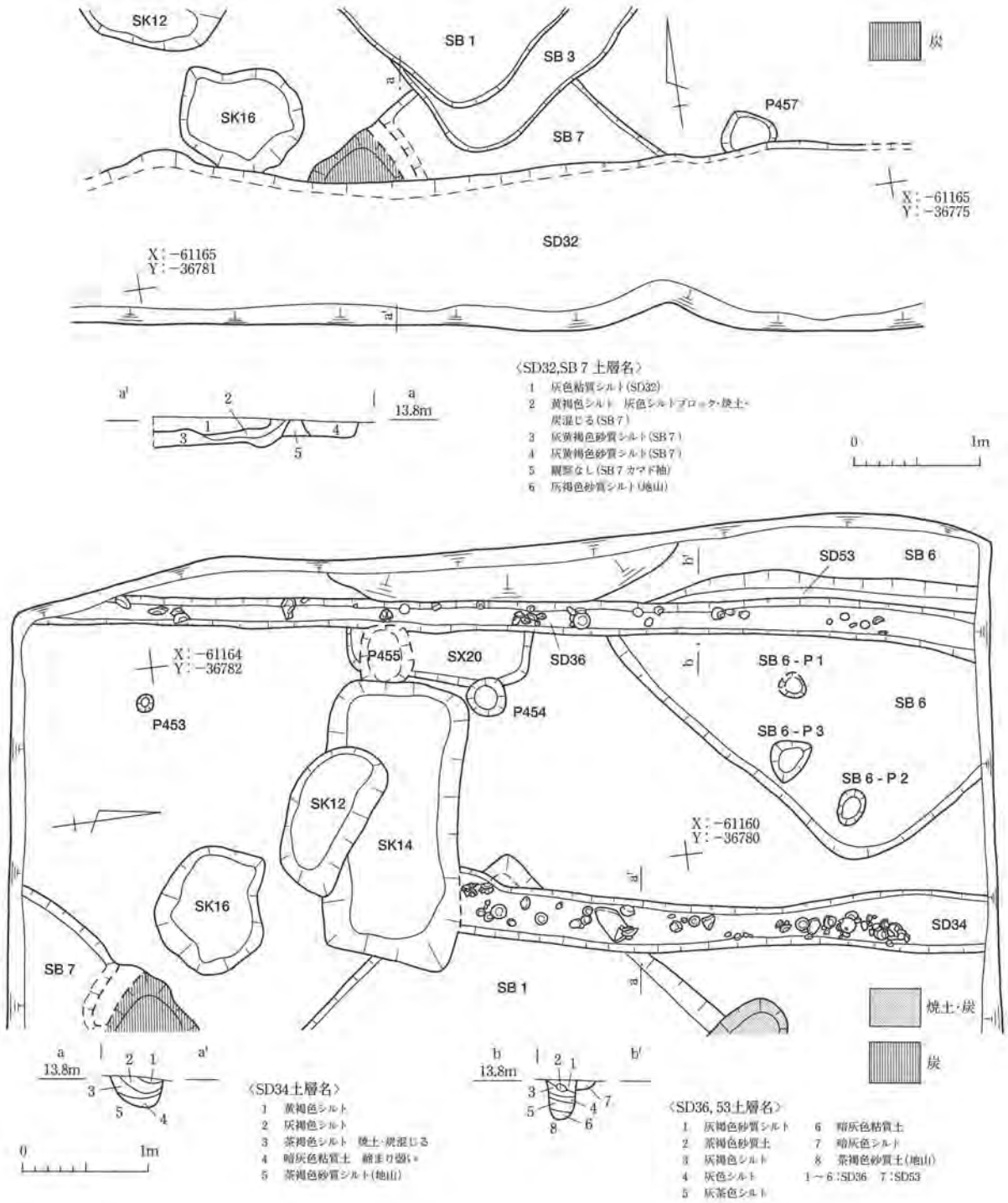
SD32（第24図、第56図251）

A 7 区西部に位置し、SB7、SK16、P457を切る。東西に流路をとり、両端は徐々に浅くなり検出できなくなる。また掘り方南側は調査区外である。浅く、断面形は不明である。

251はかわらけである。

SD34（第24図、第56図252～272）

SK14との切り合い関係について、両遺構の埋土が酷似しており判別が困難であった。しかしSK14



第24図　SD32、34、36、53実測図

の東西断面の観察においてSD34の掘り方が見られなかったことから、SK14がSD34を切る、もしくはSK14とSD34は同一の遺構という 2 つの可能性が残った。以上のことをふまえて記述する。A 7 区西部に位置し、SB 1 を切る。南北に流路をとり、北側は調査区外に延び、南側はSK14北辺までは確認できた。断面形はU字形を呈する。埋土には焼土塊・炭は混じらない。かわらけ、古瀬戸製品などの遺物、礫などが埋土に混じる。

252は須恵器有台坏で、胎土に川砂が混じる。SB 1 の所で記述したが、老洞古窯の製品である可能性がある。253は腰折Ⅲ、254は口広有耳壺で、両者とも古瀬戸後Ⅳ期新段階の製品である。また内面底部にトチンが残存する。255～272はかわらけである。255～259はB 2 －a類で、第 3 章第 3 節でも

述べたが、口縁部外面のナデが一部分にしか施されず調整が雑である。また、256、258の底部には穿孔がある。260～264はB２－b類、265～272はC２類である。法量について、B２－a類は10cm弱、B２－b類は12cm前後のものが特に多く、C２類は７cm台のものがほとんどである。

SD36（第24図、第56図273～293）

A７区西部に位置し、SB６、SD53、SX20を切る。P455に切られ、プランの一部を攪乱（平成11年度A１区調査時の東壁の崩落）により破壊される。流路を南北にとり、両端は調査区外に延びる。断面形はU字形を呈する。埋土には焼土塊・炭は混じらず、かわらけや円礫が多く出土した。SD34と規模、遺物の出土状況などが大変似ており、何らかの関連があると考えられる。

本遺構の出土遺物はかわらけが大半を占める。273～276はB２－a類、283～292はC２類である。277～282はB２－b類であるが、内面底部の一方向ナデが確認できるものは少ない。276の底部には穿孔がある。293はD１類で、口縁部内外面、内面底部のナデ調整は丁寧に施されている。法量について、B２－a類は15cm台、B２－b類は11～13cm、C２類は７cm台のものが多い。

SK１（第25図、第57図294～298）

A１区東部に位置する。平面形は長方形を呈し、長軸を東西にとる。底部は平らであるが、掘削時に掘りすぎてしまったため底部掘り方のみ点線で図示した。検出時に掘り方の壁際で暗灰色粘質土が帯状に巡ることを確認した。また土層観察から、この粘質土は掘り方底部にも堆積することが確認できた。また、埋土の一部ではシルト質土と砂質土が互層になる部分がある。本遺構の東約2.5mの所にSK14がある。SK14の方が遺構の規模が大きく、かわらけの出土量もかなり違うが、これら２つの遺構には何らかの関係がある可能性がある。性格について、トイレの可能性が指摘されたが、埋土中から寄生虫卵は検出されなかった（第６章第４節参照）。

294は古瀬戸後Ⅳ期新段階の天目茶碗である。295～298はかわらけである。

SK14（第25図、第57図299～336）

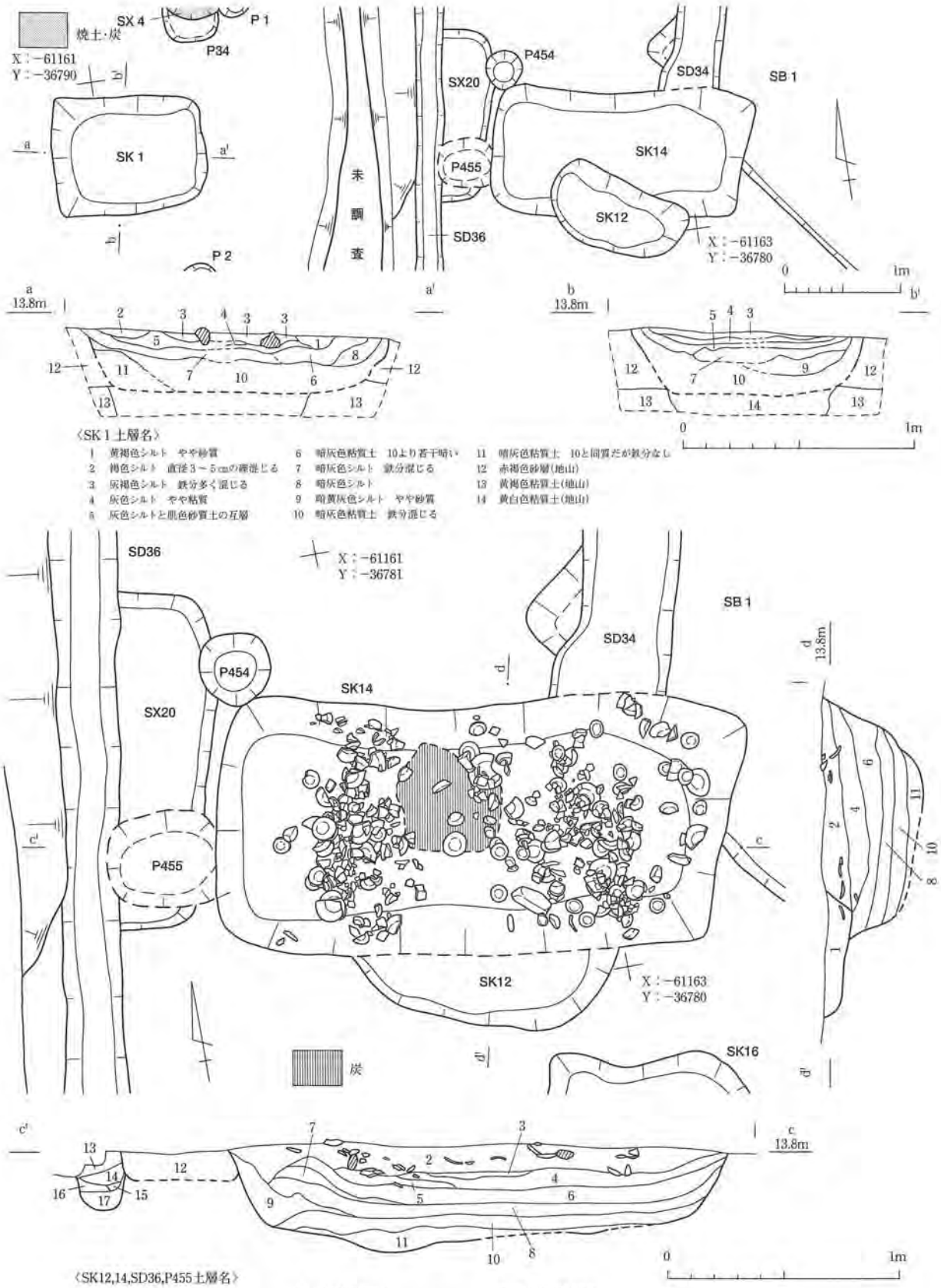
A７区西部に位置し、SK12に切られる。SB１、P455を切る。SD34との関係については前述の通り。平面形は長方形を呈し、長軸を東西にとる。底部も若干の凹凸はあるが、ほぼ水平である。前述の通り、SK１の東側2.5mの所に位置し、平面形も似る。しかし、SK１は完形のかわらけが数枚出土した程度だが、本遺構は検出段階ですでに大量のかわらけが確認でき、底部付近まで入っていた。かわらけの出土量は今回の調査の遺構中最多である。また、断面観察、遺物の出土状況から一括廃棄と考えられる。中央部には炭が密集する部分があり、繊維などは見えたが、特に編んである様子は確認できなかった。SK１同様、埋土の一部ではシルト質土と砂質土が互層になる部分がある。

299は中国製染付碗で、外面には唐草文が描かれる。300は土師器の壺の底部である。割れ口が滑らかに研磨され、皿状に再加工されている。301、302は大窯第１段階の擂鉢である。303は土錘である。304～336はかわらけである。304～306はB１類で11cm台の中型品である。307～310はB２－a類で、11～13cmや15cm台の小中型品、17cm台の大型品がある。311～320はB2－b類で、８cm台の小型品、10～12cmの中型品がある。321～324は調整はB２－b類と同様であるが、やや深い形状を呈し、B２－c類に近いと考えられる。以上のB２類については、やはり調整が雑なものが多く、特に内面底部の一方向ナデ調整が施されないものが多い。325～336はC２類で７cm台のものがほとんどである。327、334はへそ皿である。335の底部には穿孔がある。

SK12（第25図、第57図337）

A７区西部に位置し、SK14を切る。平面形は不整楕円形を呈し、東西に長軸をとる。掘り方は浅く、また底部も平らではなかった。

337はかわらけである。



第25図 SK 1 、12、14、SX20実測図

SD37（第26図、第58図338～341）

A８区東部の西端に位置し、SD38に切られる。SB８を切る。流路を南北にとり、両端は調査区外に延びる。断面形は逆台形で、底部は平らである。平成13年度の鷺山仙道遺跡G区で確認された溝と規模、掘り方の形状などが酷似している。区画溝の可能性も考えられる。

338は中国製磁器の白磁碗である。339、340はかわらけである。両者とも二次被熱を受け、胎土が硬化し、一部変色している。内面には鉱滓が付着する。同様のかわらけは他の遺構でも出土した。以上のことから、これらのかわらけは鋳造作業に関連するもので、トリベや坩堝のように溶かした原料をすくい取る、もしくは直接火にかけ原料を溶かすのに使用されたと考えられる。平成13年の鷺山仙道遺跡の調査では鋳造に関連する遺構が見つかっており、特に銅製品の鋳造が行われていたと考えられる（詳細は第６章第７節を参照）。341は犬形土製品の足である。

SD38（第26図、第58図342）

A８区東部の西端に位置し、SD37、39を切る。南北に流路をとり、両端は調査区外に延びる。断面形はV字形を呈する。

342は鋳造作業に関連するかわらけで、二次被熱して胎土が硬化し、内面には鉱滓が付着する。

SD39（第26図、第58図343）

A８区東部の西端に位置し、SD38に切られる。SX12～15、P469を切る。流路を南北にとり、両端は調査区外に延びる。断面形は扁平なU字形を呈する。掘り方は幅のわりに浅い。

343はかわらけである。

SD40（第26図）

A８区東部の中央付近に位置し、SD41、SX12、13を切る。流路を南北にとり、北側は調査区外に延び、南側は徐々に浅くなり検出できなくなる。非常に浅いため断面形は不明である。SD41と同一の溝である可能性も考えられる。

SD41（第26図、第58図344）

A８区東部の中央付近に位置し、SD40に切られる。SX13～15を切る。流路を南北にとり、北側はSD40に、南側は攪乱に切られる。非常に浅いが、断面形は緩いV字形を呈すると考えられる。SD40と同一の溝の可能性も考えられる。

344は北部系山茶碗である。

SD42（第26図）

A８区東部の中央付近に位置する。SD43に切られる。流路は南北で、北側は調査区外に延び、南側はSD43に切られる。断面形は扁平なU字形を呈すると考えられる。SD43と同一の溝の可能性も考えられる。

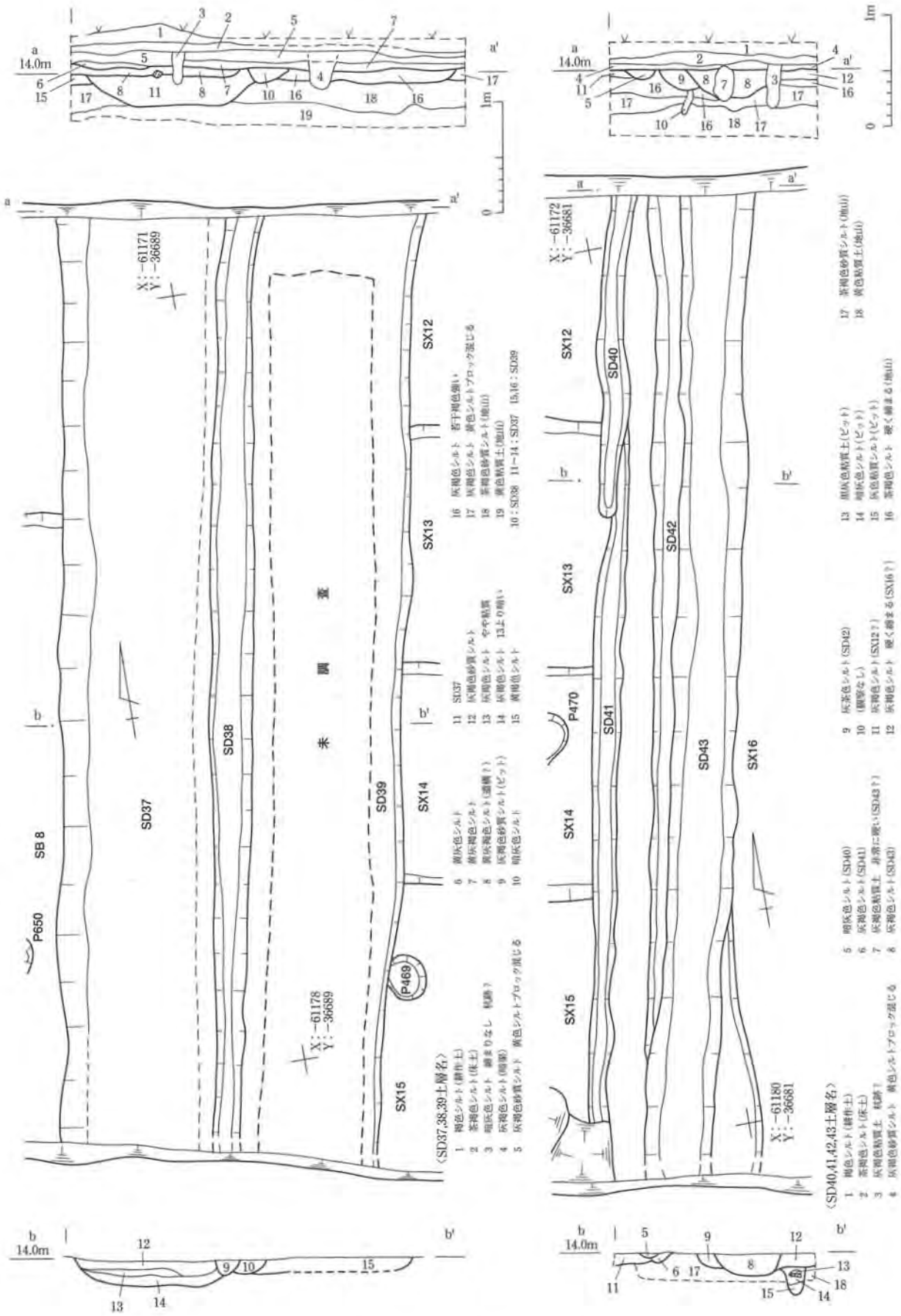
SD43（第26図、第58図345、346）

A８区東部の中央付近に位置し、SD42、SX16を切る。流路を南北にとり、両端は調査区外に延びる。断面形は緩いV字形を呈する。SD42と同一の溝の可能性も考えられる。

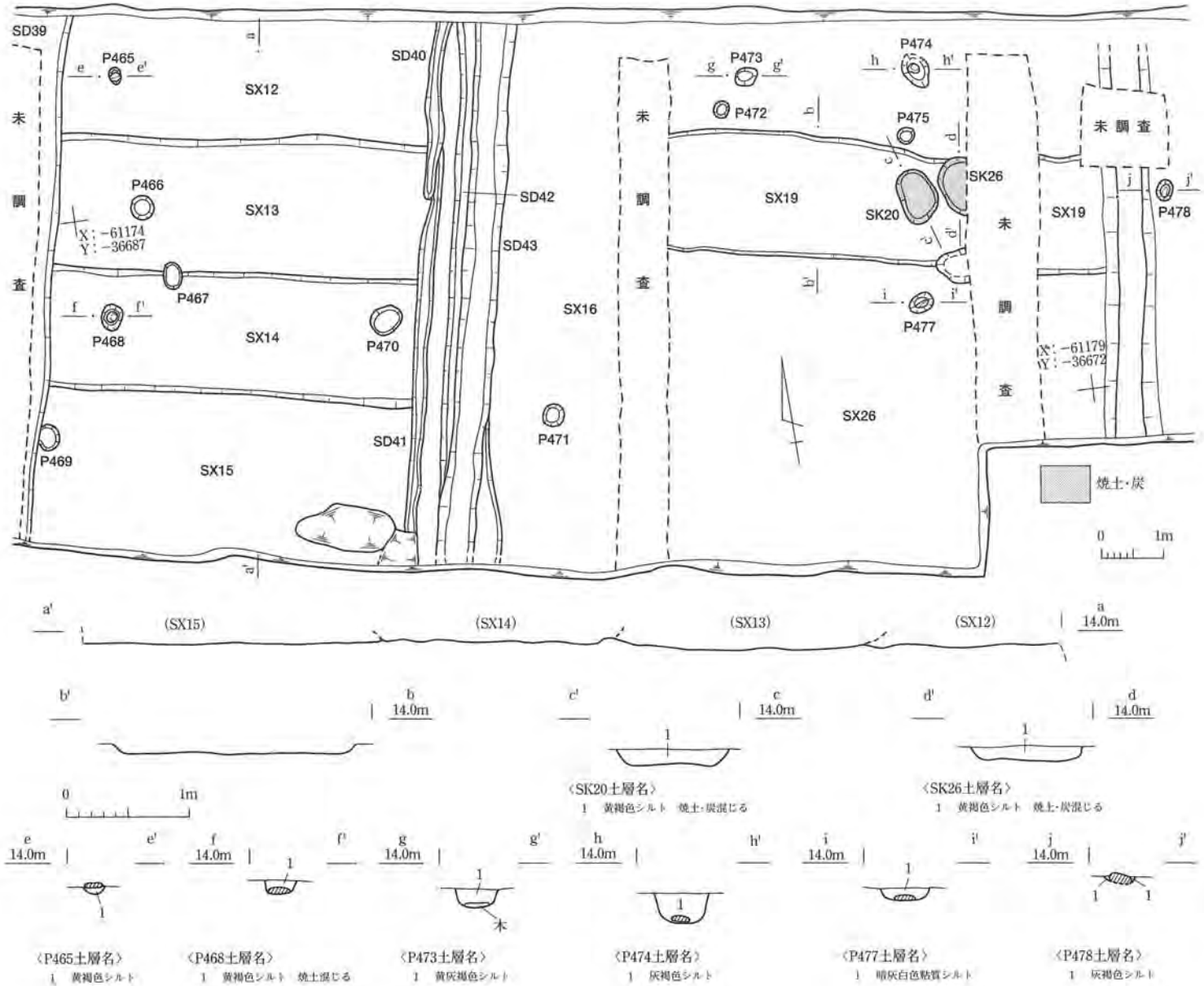
345は中国製磁器の青磁碗である。内外面に凹線文が施される。346はかわらけである。口縁部にタール痕が残る。

SX12～16、19、26（第27図、第58図347～372）

A８区東部の中央付近に位置する。SD37～39の東側で、帯状に土質、土色が異なる部分を確認した。それぞれに遺物を多く含むことから遺構と判断したが性格は不明である。これらの遺構の範囲について、南北は調査区外にも広がり、東西については、SD37より西側では検出できず、SX19東部にある擬似暗渠状の高まり以東では検出できなかった。平面形について、SX12～15、19は東西に長い帯状を呈する。SX16、26は確定できなかった。掘り方底部は平らでなく凹凸が目立つ。



第26図　SD37～43実測図



第27図 SK20、26、SX12～16、19、26実測図

347はSX12出土遺物で、古瀬戸後Ⅳ期新段階の縁釉小皿である。二次被熱しており、胎土が変質している。348～351はSX13出土遺物で、348は北部系山茶碗で、大畑大洞４号窯式古段階の皿である。349は古瀬戸後Ⅰ期の卸皿、350、351はかわらけである。352、353はSX14出土遺物で、352は北部系山茶碗、白土原１号窯式の皿である。353は鋳造作業に関連するかわらけである。二次被熱し胎土が硬化している。354～357はSX15出土遺物である。354は須恵器杯身、355は灰釉陶器の輪花椀である。356は北部系山茶碗で、357はM４類のかわらけである。358～365はSX16出土遺物で、358は南部系山茶碗、359は北部系山茶碗である。360、361は中国製磁器で360は白磁碗、361は青磁碗である。362～364は古瀬戸後Ⅳ期新段階のもので、362は擂鉢、363は折縁深皿、364は腰折皿である。365はかわらけである。366～368はSX19出土遺物である。366、367は古瀬戸後Ⅳ期新段階のもので、366は天目茶碗、367は擂鉢である。368はかわらけである。369～372はSX26出土遺物である。369は古瀬戸後Ⅳ期新段階の擂鉢、370は大窯第１段階の丸碗で、中国製青磁碗の模倣であるが、内外面は無釉である。371、372はかわらけである。

SD44（第28図）

Ａ８区西部の中央付近に位置し、SK28、P653を切る。SD45に切られる。流路を南北にとり、両端は調査区外に延びる。非常に浅く、断面形は不明。

SD45（第28図）

Ａ８区西部の中央付近に位置し、SK28、SD44を切る。SD46に切られる。流路を南北にとり、両端は調査区外に延びる。非常に浅く、断面形は不明。

SD46（第28図、第58図373）

Ａ８区西部の中央付近に位置し、SK28、SD45を切る。流路を南北にとり、両端は調査区外に延びる。断面形は緩いV字形を呈する。

373は古瀬戸後Ⅳ期新段階の香炉（袴腰形か）で、二次被熱により釉調が変化している。

SD47（第28図）

Ａ８区西部の中央付近に位置する。P654を切る。流路を南北にとり、北側は調査区外に延び、南側は徐々に浅くなり、検出できなくなる。断面形は不整U字形を呈する。

SD48（第28図）

Ａ８区西部の東端に位置し、P652を切る。北側の掘り方は、調査区外であるため検出できなかった。そのため、本当に溝であるかどうかは不明。長軸を東西にとり西側は徐々に浅くなり検出できなくなる。東側はＡ８区中央部に続くと思われたが検出できなかった。その場合、SD54との関係が問題となるが、その部分は調査不可能な部分であったため確認できなかった。断面形は扁平なU字形を呈し、非常に浅い。

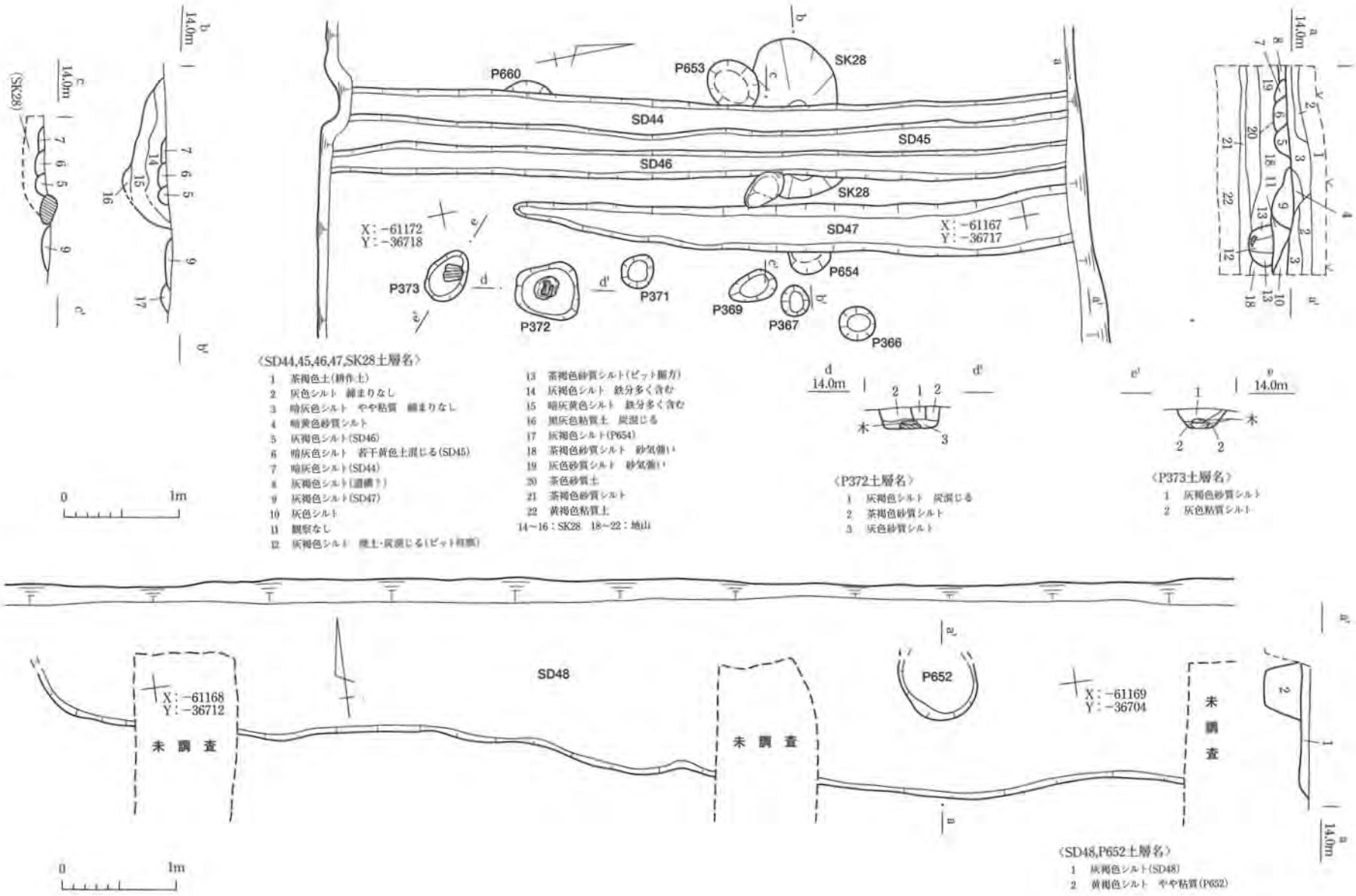
SD49（第９図）

Ａ８区西部の東端に位置し、SB９を切る。SD54に切られる。流路を東西にとり、西側は暗渠より西側では検出できず、東側はSD54より東では検出できなかった。SD54に連結する溝の可能性も考えられる。断面形は扁平なU字形を呈し、非常に浅い。

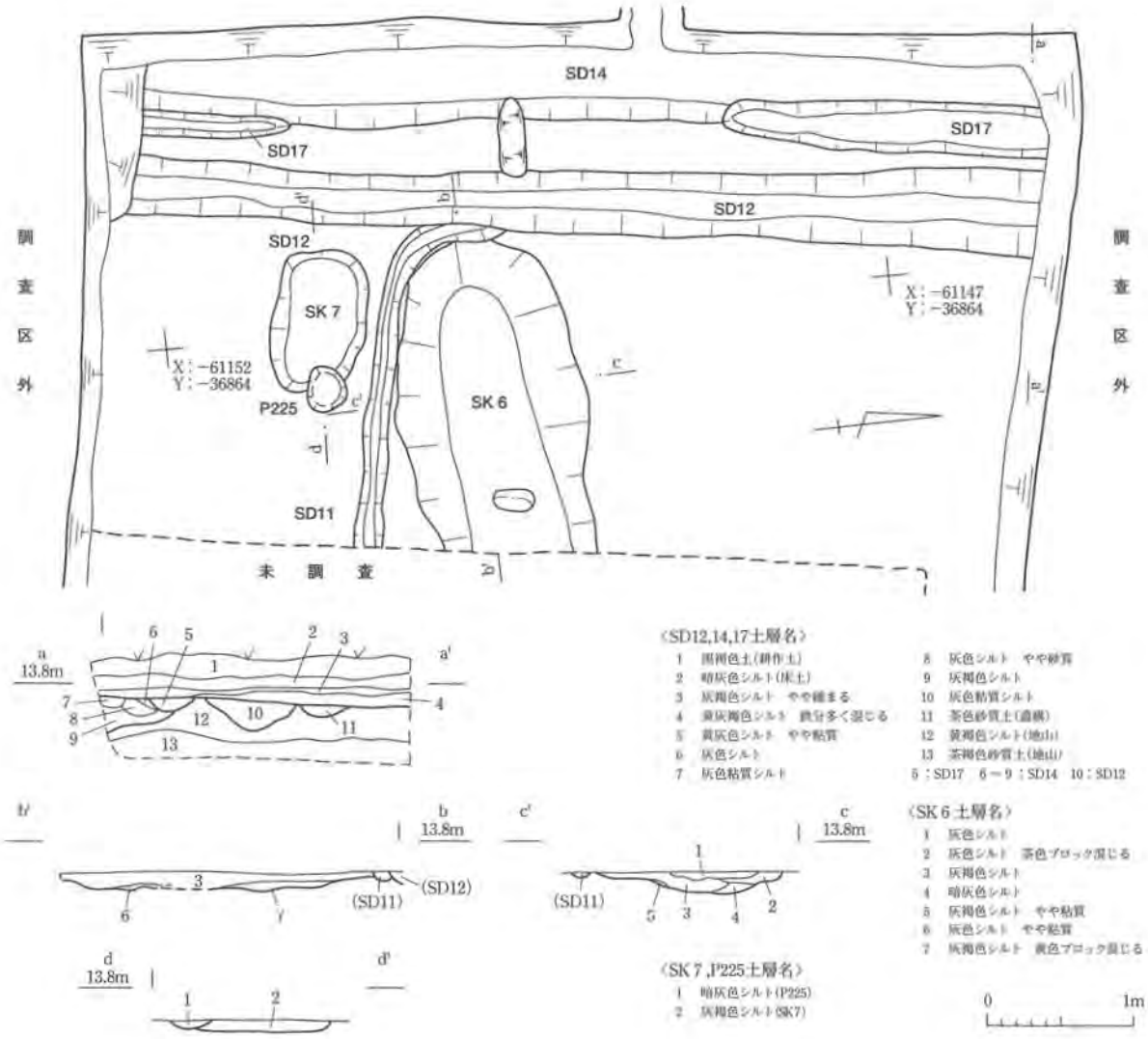
SD54（第９図、第58図374、375）

Ａ８区西部の東端に位置し、SB９、12、SD49を切る。流路を南北にとり、両端は調査区外に延びる。断面形は不整V字形を呈し、両側の掘り方中程には狭い平坦面がある。西側の掘り方には、杭が数本打ち込まれていたが、地元住民の話によれば昭和に入ってから打ち込んだものと言うことで、本遺構との関係は薄いと思われる。

374、375は古瀬戸後Ⅳ期新段階の擂鉢である。



第28図 SD44～48、SK28実測図



第29図　SD11、12、14、17、SK 6 、 7 実測図

SK 6 （第29図、第58図376、377）

A 5 区に位置し、SD11に切られる。平面形は不整楕円形を呈し、東西に長軸をとる。プランの一部は調査区を縦断する暗渠のため調査していない。また暗渠より東側では、プランの続きは検出できなかった。

376は須恵器杯身、377はかわらけである。

SX 7 （第30図、第58図378）

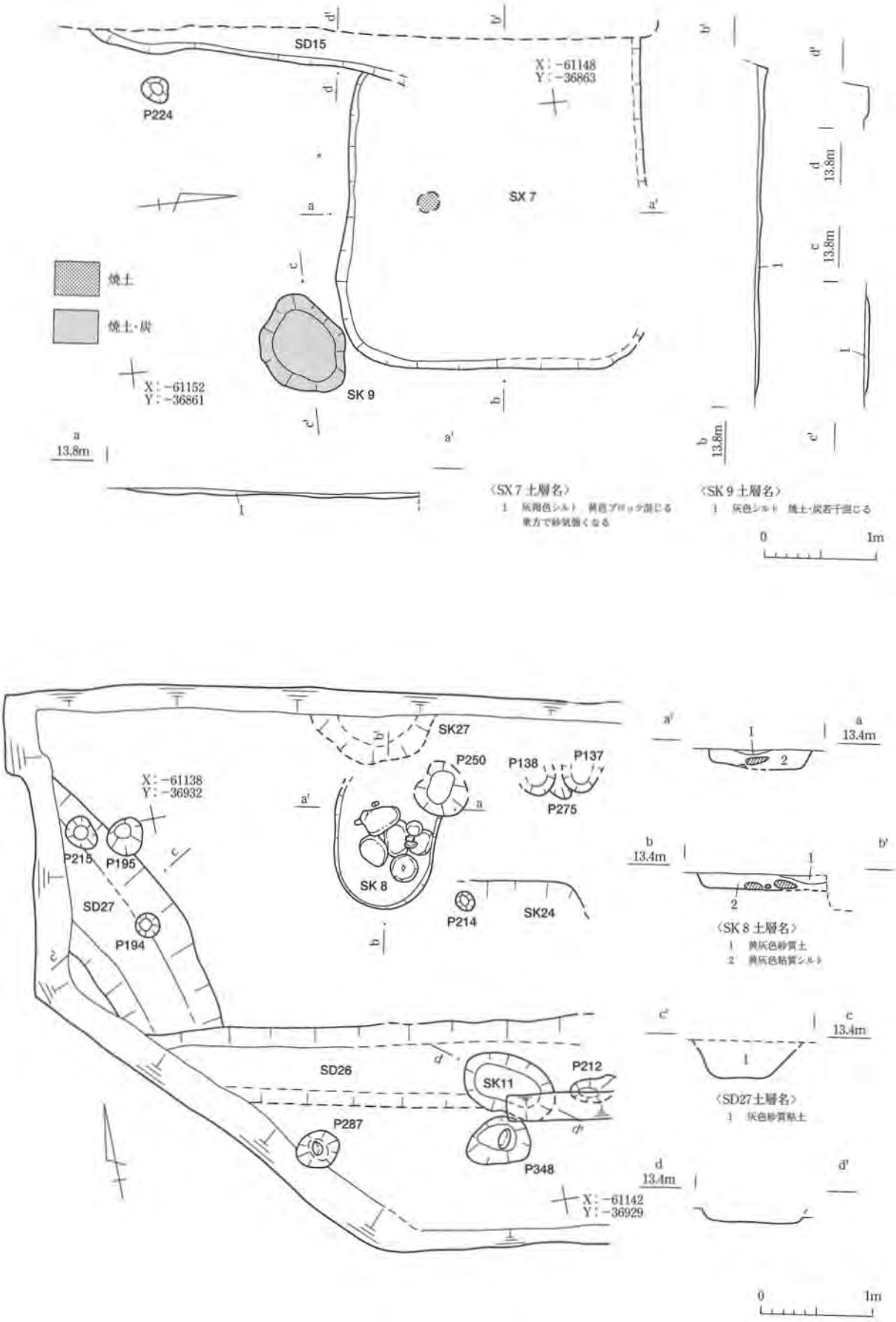
A 5 区西部に位置し、SD15に切られる。平面形は長方形を呈する。中央南寄りには焼土が密集する部分がある。竪穴状遺構の可能性もあるが、非常に浅く、性格を確定できなかった。

378はかわらけである。

SK 8 （第30図、第58図379）

A 2 区西部に位置し、SX 6 、P250に切られる。調査開始時に調査区北壁沿いにトレンチを掘削したため、SK27との切り合い関係は検討できなかった。平面形は楕円形で、南北に長軸をとる。掘り方内には、大きめの円礫が上面が平らになるように 5 ～ 6 個置かれている。付近に関連するような遺構はなく、単体のものであるため、建物の基礎の可能性は低いと考えられる。

379はかわらけである。



第30図　SX 7 、SD15、27、SK 8 、 9 、11、24、27実測図

SK27（第30図、第58図380）

A２区西部に位置し、SX６に切られる。調査区北壁の断面で確認した遺構で、SK８との関係は前述の通り。トレンチの底部でプランの一部を検出したが、平面形は不明である。埋土に焼土と炭は混じらない。

380はかわらけである。

SK11（第30図）

A２区西部に位置し、SX６に切られ、また攪乱（暗渠）によりプランの一部を破壊される。平面形は楕円形を呈し、東西に長軸をとる。柱穴の可能性が考えられるが、掘り方底部に石は入っていなかった。

SK21（第36図）

A２区西部、下層遺構面で検出した。平面形は長方形を呈し、東西に長軸をとる。SK22～24と一連のものであり、SK22からかわらけが多く出土していることから、上層遺構面に伴うものと判断した。埋土には焼土と炭は混じらない。上層検出ピットの掘り方の可能性があり、SK22～24についても同様。

SK22（第36図、第58図381）

A２区西部、下層遺構面で検出した。平面形は長方形を呈し、東西に長軸をとる。埋土中から多くのかわらけ片が出土したことから、４期の遺構と判断した。埋土には焼土と炭が混じらず、掘り方ラインの大半が他の遺構に切られたことから、上層では見逃してしまったと考えられる。

381はかわらけで、口径17cm台の大型品である。

SK23（第35図）

A２区西部、下層遺構面で検出した。平面形は長方形を呈し、東西に長軸をとる。SK21、22、24と一連のものであると考えられることから、本期の遺構と判断した。上層では検出できなかったと考えられる。埋土に炭・焼土は混じらない。この場合、SD９に切られることになる。

SK24（第30図）

A２区西部、下層遺構面で検出した。プラン全体を確認できたわけではないため平面形は不明。SK21～23と一連のものであると考えられることから、本期の遺構と判断した。埋土に焼土と炭は混じらない。

SX11（第31図、第58図382～392）

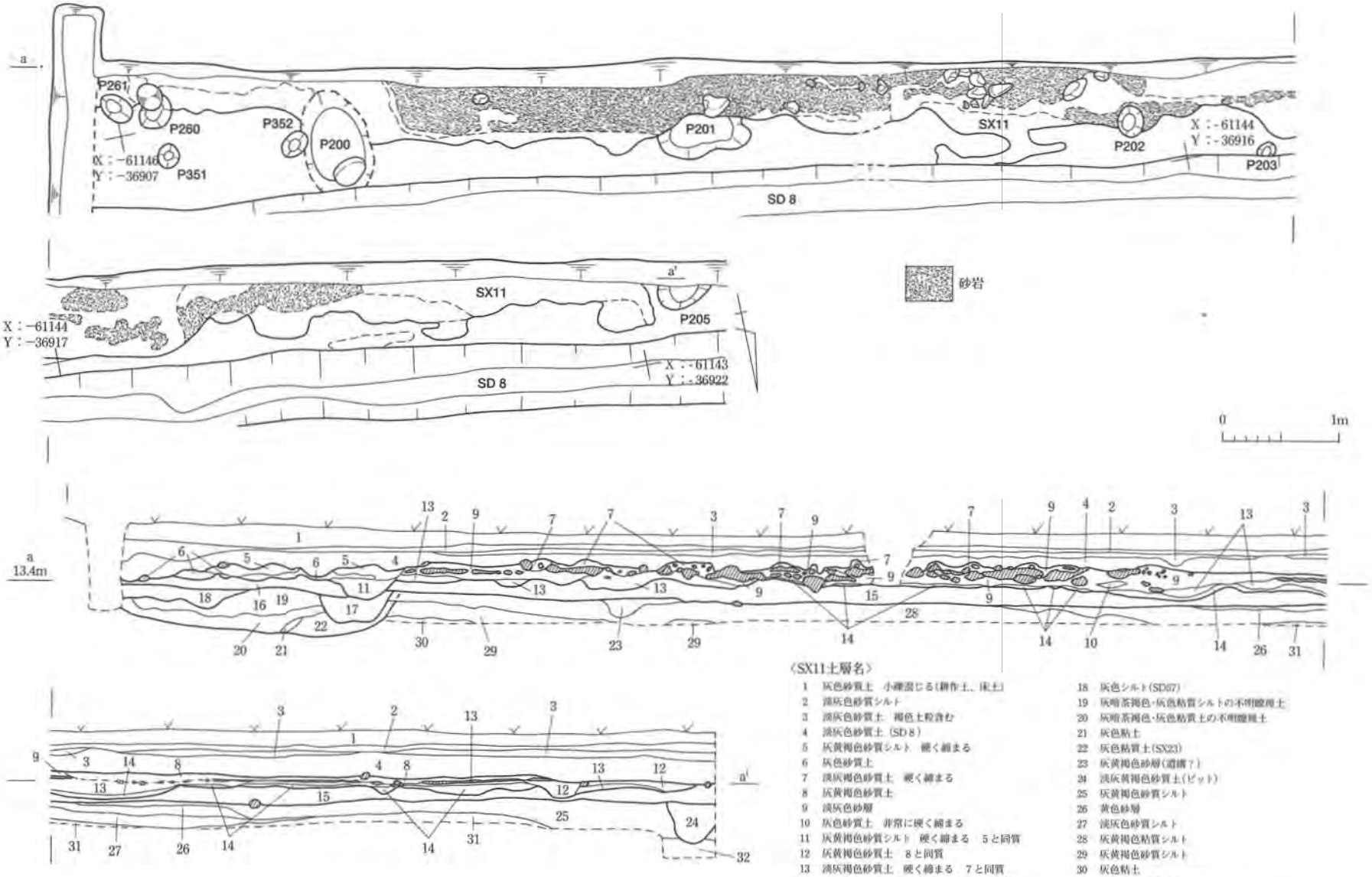
A２区東半部の南端に位置し、SD８、P200、202、260、261に切られる。P201を切る。東西長さ約13m、確認した南北幅約１m、残存厚さ平均で0.23m、残存上面レベル15m前後の盛土状遺構である。北辺はSD８に切られ、南辺は調査区外。盛土は砂岩礫・砂・砂質土で構成され一部互層を成しながら突き固められた様相を呈す。破砕された砂岩の小礫や砂粒が隙間を埋めることでより堅く締まると考えられる。また、突き固める際ににがりや石灰などを混ぜると思われたが、成分分析では検出されなかった（詳細は第６章第５節を参照）。

基礎または基壇状もしくは道路状などの性格が考えられるが特定はできない。盛土中、特に地山との境界付近で遺物が多く出土した。基底部は平坦ではなく、東西方向の短い溝状の掘り込みと平坦部とで構成されているようである。また掘り込み部分には道具痕と思われる凹凸が認められる。

382はM４類のかわらけである。383は中国製磁器の白磁皿で、菊皿であり、外面には花弁を表現した線刻が施される。384～386は古瀬戸後Ⅳ期新段階の擂鉢、387は大窯第１段階の擂鉢である。388は染付であるが、産地・時期は不明。新しい時期のものならば混入か。389～392は銭貨である。

SK19（第９図、第58図393）

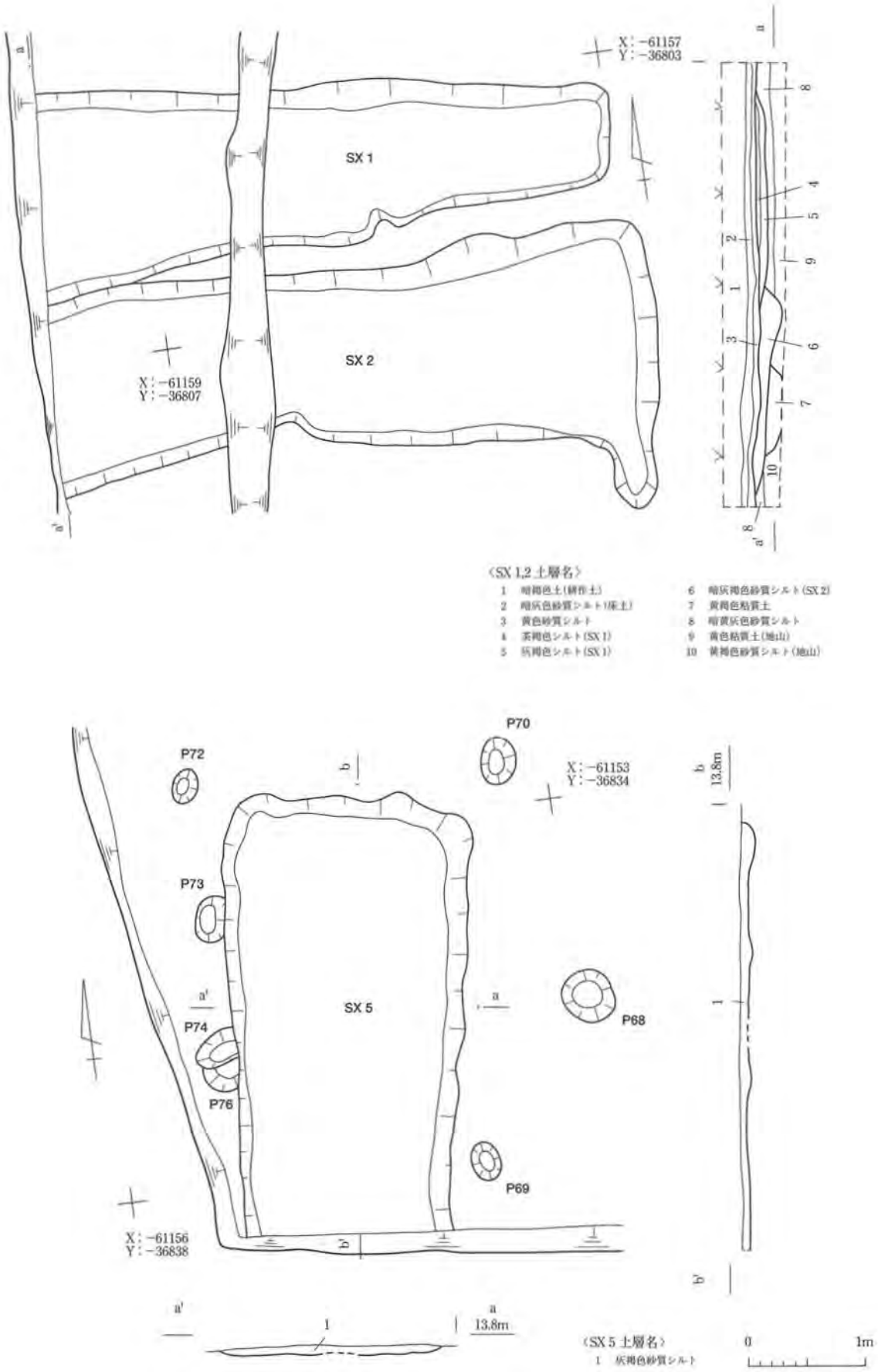
A８区西部の東端に位置し、SB９を切る。プランの一部を攪乱により破壊される。平面形は不整楕



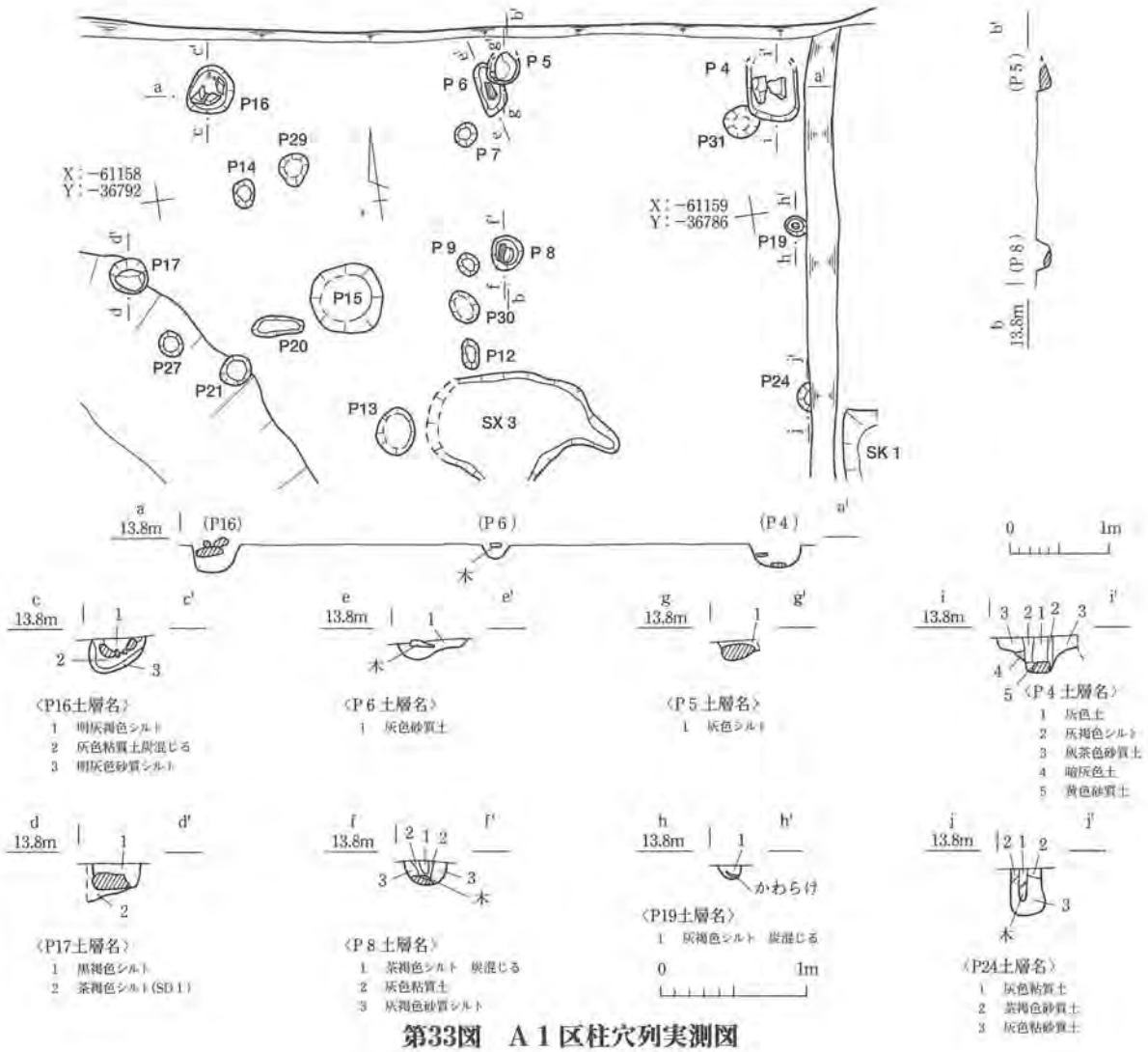
〈SX11土層名〉

1 灰色砂質土　小礫混じる(耕作土、床土)
2 淡灰色砂質シルト
3 淡灰色砂質土　褐色土粒含む
4 淡灰色砂質土（SD８）
5 灰黄褐色砂質シルト　硬く締まる
6 灰色砂質土
7 淡灰褐色砂質土　硬く締まる
8 灰黄褐色砂質土
9 淡灰色砂層
10 灰色砂質土　非常に硬く締まる
11 灰黄褐色砂質シルト　硬く締まる　5と同質
12 灰黄褐色砂質土　8と同質
13 淡灰褐色砂質土　硬く締まる　7と同質
14 灰色砂質土　非常に硬く締まる　10と同質
15 淡褐灰色砂質土
16 灰色粘質シルト
17 灰色砂質シルト(SX22)
18 灰色シルト(SD37)
19 灰暗茶褐色･灰色粘質シルトの不明瞭層土
20 灰暗茶褐色･灰色粘質土の不明瞭層土
21 灰色粘土
22 灰色粘質土(SX23)
23 灰黄褐色砂層(遺構？)
24 淡灰黄褐色砂質土(ピット)
25 灰黄褐色砂質シルト
26 黄色砂層
27 淡灰色砂質シルト
28 灰黄褐色粘質シルト
29 灰黄褐色砂質シルト
30 灰色粘土
31 灰色シルト質砂層
32 青灰色砂質シルト　硬く締まる
5－14：SX11　25～32：地山

第31図　SX11実測図



第32図　SX 1 、 2 、 5 実測図



第33図　A１区柱穴列実測図

円形を呈し、南北に長軸をとる。底部は平らである。

393はかわらけである。

SK28（第28図）

A８区西側の中央付近に位置し、SD44～46、P653に切られる。平面形は楕円形を呈し、東西に長軸をとる。掘り方底部は平らではなく、また埋土に焼土と炭は混じらない。

SX１（第32図）

A１区西部に位置し、SX２を切る。プランは不整長方形を呈する。掘り方底部は平らではない。掘り方西側は調査区外に延びるが、A６区で続きは検出できなかった。

SX２（第32図、第58図394～396）

A１区西部に位置し、SX１に切られる。プランは不整長方形を呈し、西側ほど浅くなる。

394、395はかわらけ、396は土鈴である。

SX５（第32図）

A６区西端に位置し、P73、74、76を切る。平面形は長方形を呈し、南北に長軸をとる。南側は調査区外に延びる。掘り方は非常に浅く、底部は平らでない。

A１区柱穴列（第33図、第58図397～400）

P４、５（もしくは６）、16が約３m間隔で東西に並ぶ。またP５、６の南側約1.9mの所にP８があるが、これと対になるピットはない。この柱穴列は調査区北側に続く可能性がある。P４は南北に長軸

をとる長方形を呈し、掘り方底部に角礫が据えられていた。断面観察で柱状の堆積を確認し、また、掘り方埋土中、常滑甕の破片が平らな面を作るかのような状態で出土した。P 5 は南北に長軸をとる楕円形を呈し、掘り方底部に円礫がある。P 6 はP 5 に切られ、平面形は楕円形を呈する。掘り方埋土内には柱の残欠と考えられる木がある。P16は不整円形を呈し、検出時、掘り方の中央部を除き角礫が入っていた。P 8 は円形を呈し、掘り方底部には円礫が据えられており、また円礫の上に非常に薄い板状の木を検出した。

397はP 4 出土の上記の常滑甕の肩部である。398～400はP 5 出土のかわらけである。

ピットと出土遺物（第58図401～413）

本期に属するピットの内、特記すべき要素があるもの、または図示した遺物について記述する。

P19（第33図、第58図403）

A 1 区東部に位置する。平面形は円形を呈し、掘り方底部にかわらけが正位に置かれていた。地鎮の可能性が考えられるが、担当者の不注意により埋土の検討ができなかったが、五穀が入れられていた可能性も考えられる。

403は上記のかわらけである。内面に接合痕がある。

P193（第35図、第59図405、406）

A 2 区西部に位置し、SD 8 に切られる。掘り方北側を攪乱により壊されるため、平面形は不明である。掘り方底部には上面が平らな石が据えられる。

405は古瀬戸後Ⅳ期新段階の縁釉小皿である。406はかわらけである。

P209（第36図、第59図407）

A 2 区中央付近に位置し、SK22、P210を切る。SB14、15の範囲内にある。平面形は円形を呈する。掘り方中央に柱状に灰黄褐色シルトが堆積し、その部分、検出面から深さ約0.07mの所で銭貨が 1 枚出土した。

407は上記した銭貨（大觀通寶）である。

以下、その他のピット出土遺物について記述する。

401、402はA 1 区P 3 出土遺物でかわらけである。404はA 2 区西部P134出土のかわらけである。408、409はA 8 区東部P446の出土遺物で、408は北部系山茶碗、409はかわらけである。410はA 7 区西部P454出土のかわらけである。411はA 8 区中央部P651出土の大窯第 1 段階の天目茶碗である。412、413は、A 8 区中央部の調査区北壁で確認したP686出土のかわらけである。

第５節　４－２期の遺構と遺物

SD９（第34図）

Ａ２区西部に位置し、SK23、P132、135（SB13）、252を切る。P213に切られる。流路を南北にとり、北側は調査区外、南側は徐々に浅くなり検出できなくなる。

SD10（第34図、第59図414）

Ａ２区西部に位置し、P135（SB13）、136を切る。P77、SD８に切られる。流路を南北にとり、北側は調査区外に延び、南側は徐々に浅くなり検出できなくなる。

414は古瀬戸後Ⅳ期新段階の天目茶碗である。

SK２（第34図）

Ａ２区東部に位置する。P272を切る。平面形は不整形で、掘り方は非常に浅い。埋土などの状況から第Ⅱ層の掘り残しである可能性も考えられる。

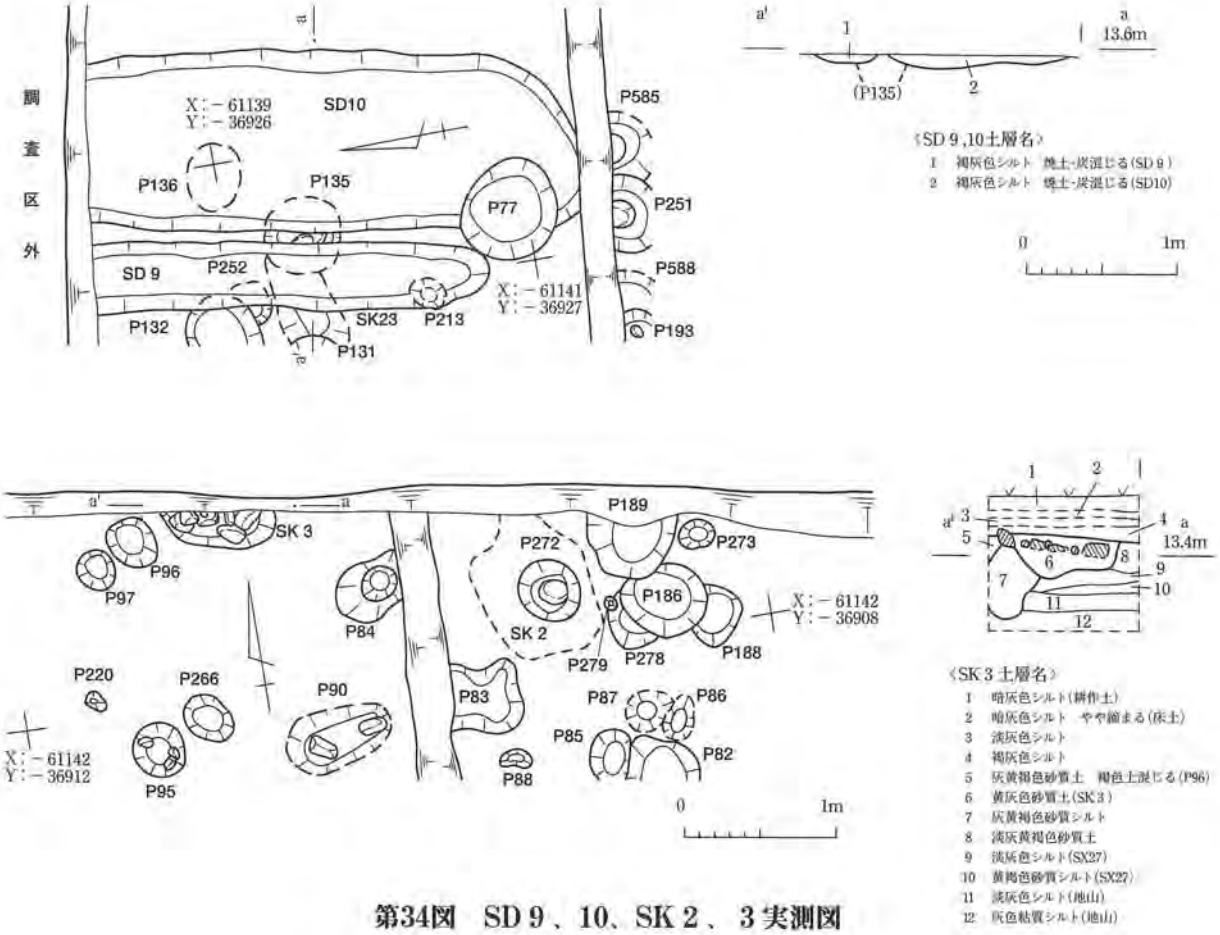
SK３（第34図）

Ａ２区東部に位置する。平面形は不明である。SB16を構成する柱穴で、後に詳述する。

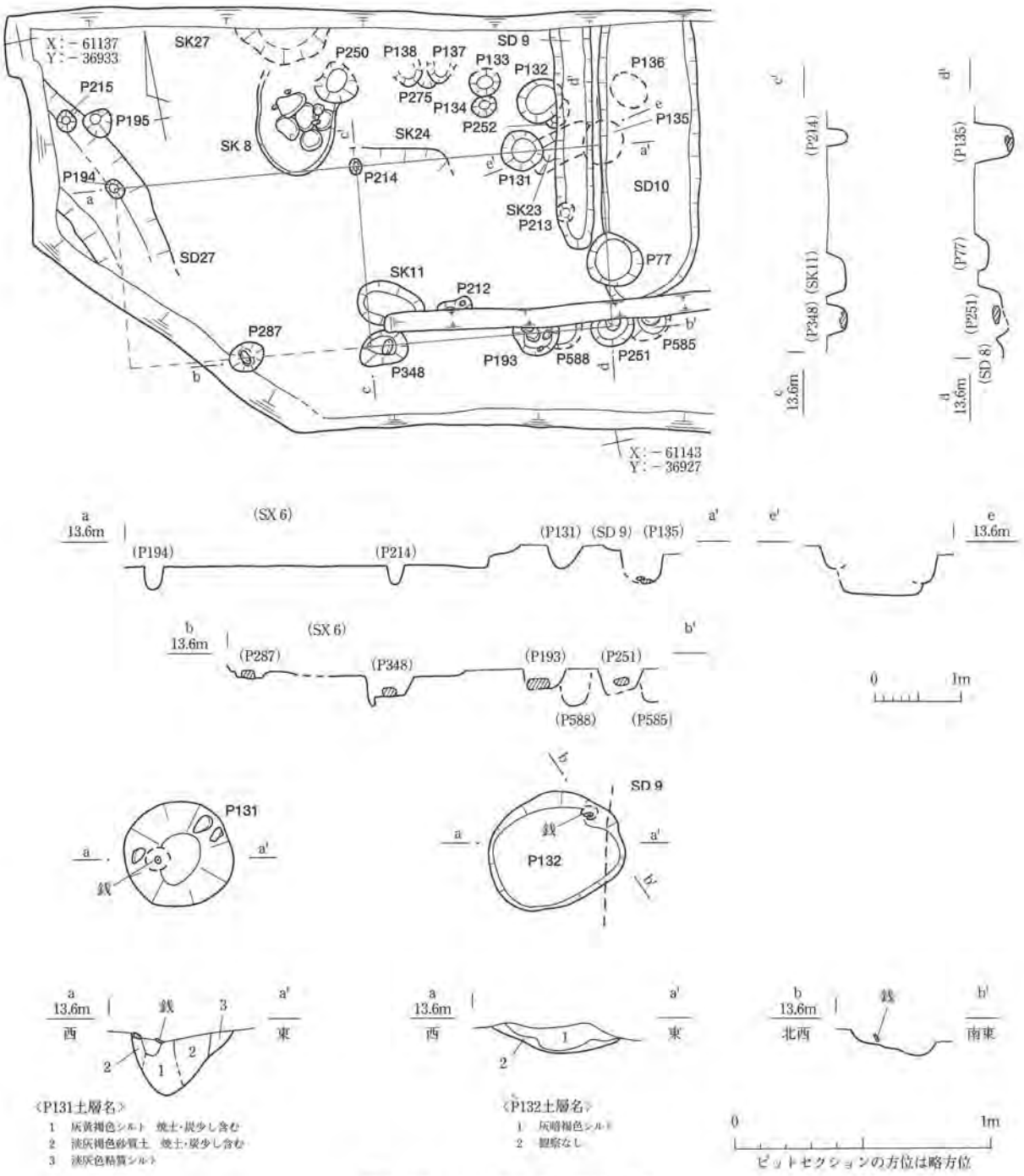
SK15（第36図、第59図415～423）

検出が困難を極めた遺構であり、半裁後の土層観察で複数の遺構の切り合いであることが判明した。掘削時にも遺物が混じった可能性がある。以下はこれをふまえて記述する。

Ａ２区西部に位置し、P141、144、145、253～255に切られる。P142を切る。平面形は南北に長軸をとる不整形を呈し、プランの一部は調査区外に続く。埋土中から完形に近いかわらけ、銅銭などが多



第34図　SD９、10、SK２、３実測図



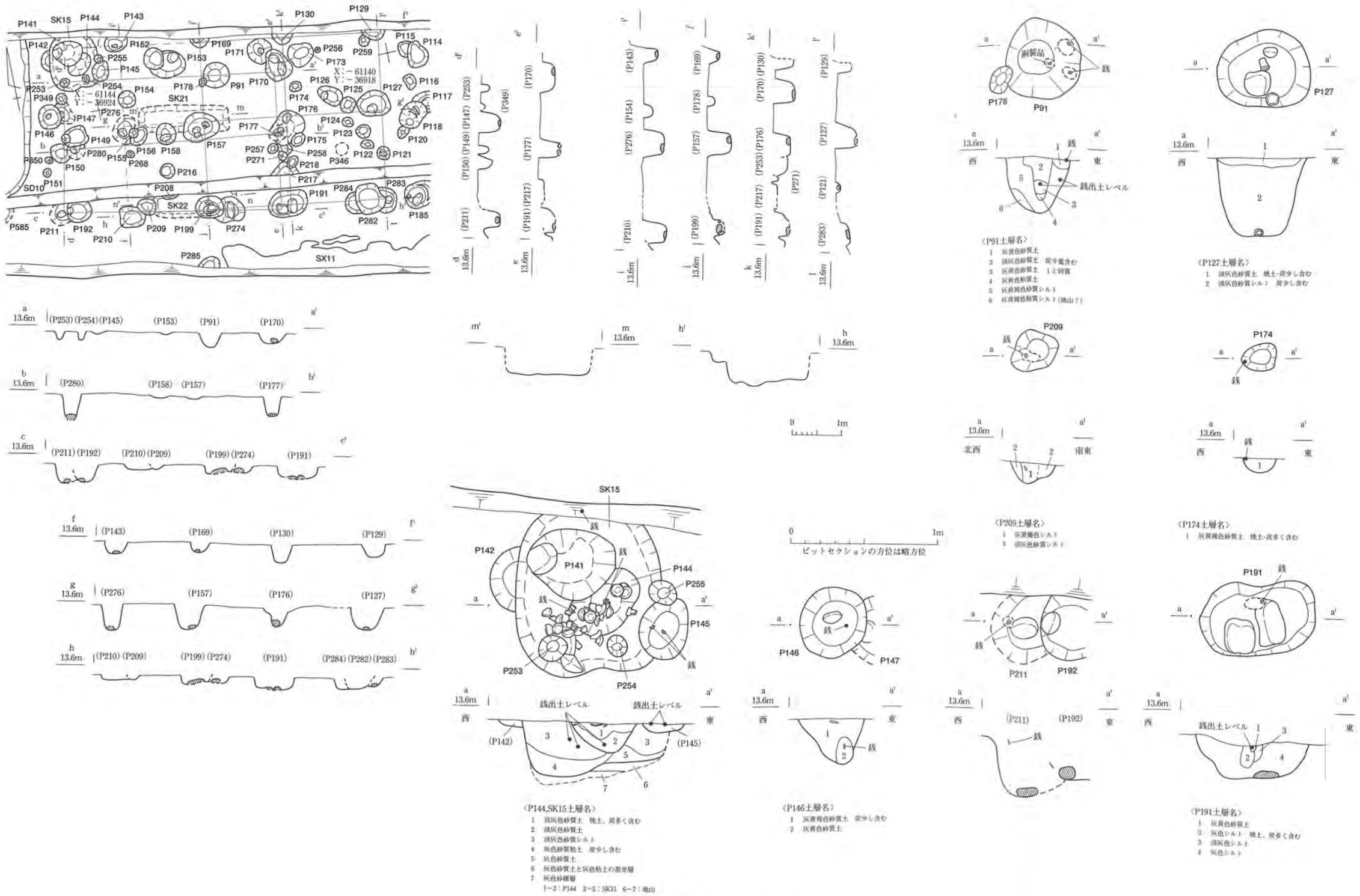
第35図　SB13、SK23実測図

数出土した。周辺にある柱穴と同様の機能を持つと考えられるが、石は検出していない。

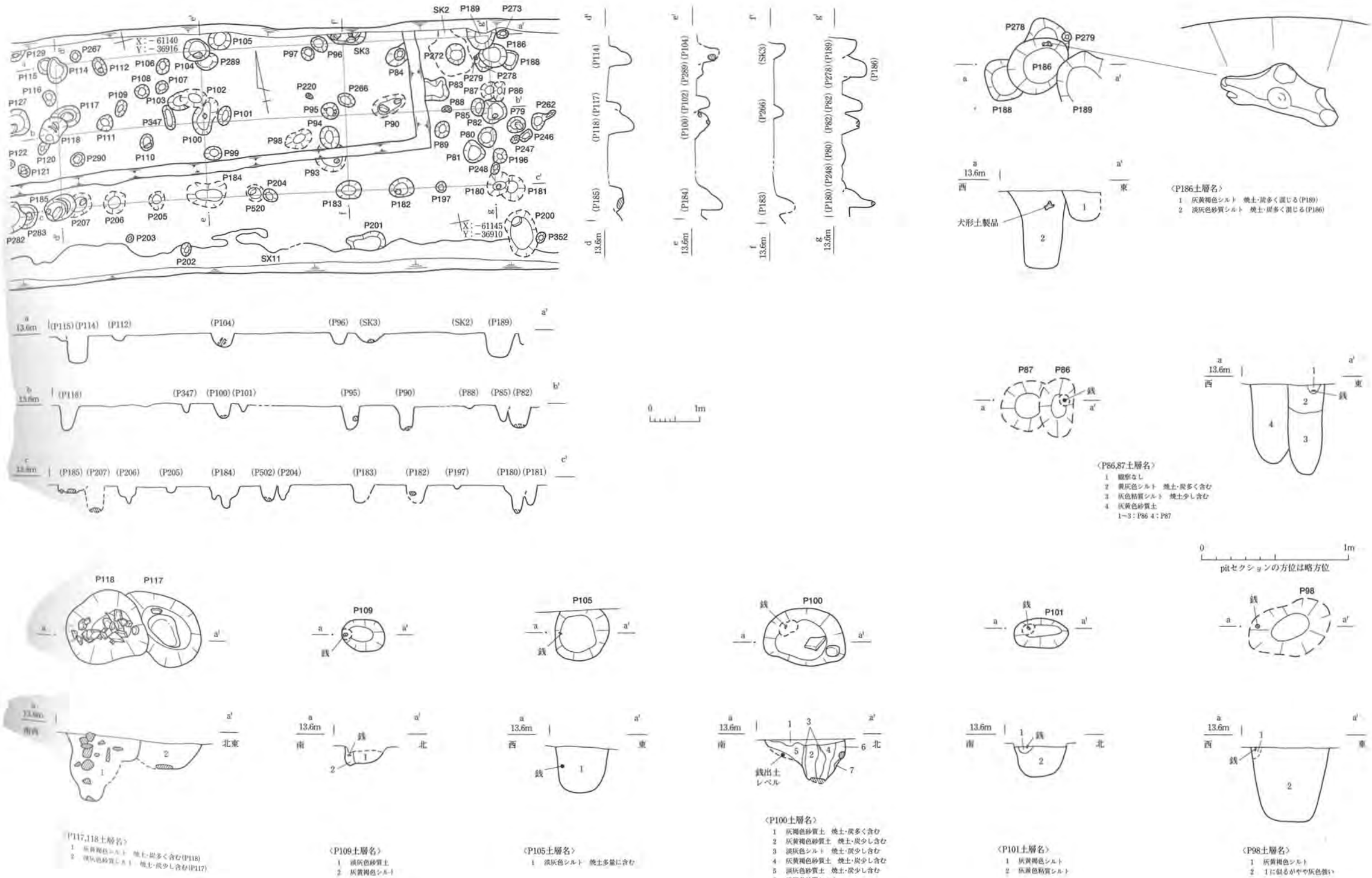
415は中国製磁器の青磁碗である。外面には線描蓮弁文が施される。416～421はかわらけである。418の内面には未貫通の穿孔が施される。422、423は銭貨で、422は熙寧元寶、423は景祐元寶である。

SB13～16の掘立柱建物について

A２区では多数のピットが検出され、そのうちのいくつかには掘り方底部に石が据えられていたことから、掘立柱建物があったことが考えられる。建物を想定する際には、距離、切り合い関係や石の有無などの他に、埋土中に焼土塊や炭を含むかどうかなどの要素が考慮の対象になった。周辺に焼土塊や炭を含む層（本報告第Ⅲ層）があるという状況でピットを掘削した場合、埋土にそれらが入り込むと考えられる。



第36図　SB14、15、SK15、21、22実測図



第37図 SB16実測図

検出したピットを埋土の状況で以下のように分類した。

①掘り方及び抜き取り痕のどちらにも焼土と炭を含まないもの（本報告４－１期）。

②掘り方には含まれず抜き取り痕にのみ含むもの（本報告４－１期）。

③掘り方に含まれ抜き取り痕には含まれないもの（本報告４－２期）。

④掘り方及び抜き取り痕の両方共に含むもの（本報告４－２期）。

今回の調査で①に含まれるピットで建物の想定はできなかったが、本章第4節で述べたA1区柱穴列は可能性がある。また、①と②のピットは焼土層形成以前に掘削されたもので、③と④のピットは焼土層形成以後に掘削されたものということで時期を細分できそうだが、ピット埋土に必ず焼土塊などが含まれるとは断言できないこと、一部で切り合い関係が逆転しているものがあることなどの理由により、今回の建物の復元では、焼土塊などが入るものと入らないピットに分けて検討した。

SB13（第35図、第59図424～429）

Ａ２区西部に位置し、SD８、９、10、SX６に切られる。確認範囲では東西２間（柱間３m）、南北１間（柱間2.3m）である。調査区外にピットを１基想定して復元した建物で、西側と南側に延びる可能性も考えられる。P135、194、214、251、348で構成され、P194、214以外には掘り方底部に石が据えられる。

424、425はP194出土遺物で、424は古瀬戸後Ⅳ期新段階の瓶子胴部である。425はかわらけである。426はP214出土遺物のかわらけである。427～429はP348出土遺物で、427は古瀬戸後Ⅳ期新段階の腰折皿、428、429はかわらけで、ともに灯明皿である。

SB14（第36図、第59図430～434）

Ａ２区西部に位置し、構成するピットでP191が後に述べるSB15と重複する。P170、177、191、211、253、280とで構成され、東西１間、南北２間である。柱痕または抜き取り痕埋土中に焼土と炭を含み、掘り方埋土中にはそれらを含まない。本来ならば焼土層形成以前の遺構となるが、前述の理由から本期と判断した。P253、149以外には掘り方底部に石を据えられる。

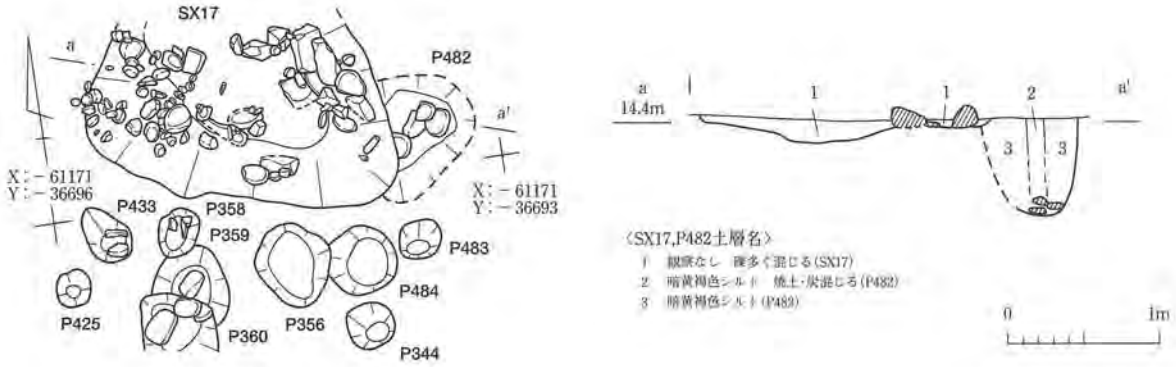
柱間は南北が1.4m、東西はその３倍の4.2mであることから同寸の1.4m間隔で並ぶ南のP210、199についても可能性を考えたが、対になる柱穴がないことを根拠に一連のものとはしなかった。P191は断面観察で柱状の堆積を確認し、その埋土中から銭貨が１枚出土した。P211は掘り方埋土中、検出面のほぼ同レベルで銭貨が1枚出土している。銭貨の周囲には円形に灰黄褐色シルトが堆積していた。この土は銭貨が出土した他のピットでも見られたが、意識的に埋められた痕跡だろうか。

430はP170出土のかわらけである。431、432はP211出土遺物で、431はかわらけ、432は前述の銭貨（景徳元寶）である。433、434はP191出土のかわらけである。

SB15（第36図、第59、60図435～462）

Ａ２区中央部に位置し、前述の通り、構成するピットでP191がSB14と重複する。東西３間、南北２間である。P127、129、130、143、157、169、176、191、199、210、276、283で構成され、掘り方埋土中に焼土と炭を含み、掘り方底部に石を据えるものが主体となる。柱間は東西、南北ともに1.9mである。P129、130以外は掘り方底部に石が据えられる。P143、276、210の南北列については、掘り方底部に石が入らないこと、埋土の様相が不明もしくは他と異なることから、本建物に含まれない可能性もあるが、柱穴間の距離が合うことから点線で図示した。P127の掘り方底部からはふいごの羽口、トリベが出土している。

435～441はP127出土遺物である。435は上記したふいごの羽口で、ピット掘り方の底部から出土した。体部の色は使用状況により３色に分かれ、それぞれの箇所が炉壁内、炉壁部分、炉壁外にあったことを示している。436、437はトリベである。ともに口縁部、体部に銅滓が付着する（詳細は第６章第７節参照）。436と437の胎土には籾殻が多く混和されている。438～440はかわらけである。440は鋳



第38図　SX17実測図

造作業に関連するかわらけで、内面底部に鉱滓（おそらく銅）が付着しており、胎土は二次被熱により硬化している。441は瀬戸産の丸碗を加工円盤にしたものだが、近世の時期で切り合っている遺構を見逃した可能性が高い。442、443はP129出土遺物で、442は古瀬戸後Ⅳ期新段階の腰折皿、443はかわらけである。444、445はP143出土のかわらけである。446～449はP157出土遺物で、446は古瀬戸後Ⅳ期新段階の擂鉢、447～449はかわらけである。450、451はP169出土のかわらけである。452～458はP176出土遺物で、452は中国製磁器の白磁皿（菊皿）である。体部外面の花弁の表現は簡略的である。453～458はかわらけで、454は鋳造作業に関連するかわらけで、内面底部に銅滓が付着しており、胎土は二次被熱により硬化している。459、460はP199出土遺物で、459は中国製磁器の染付碗、460はかわらけである。461はP210出土のかわらけである。

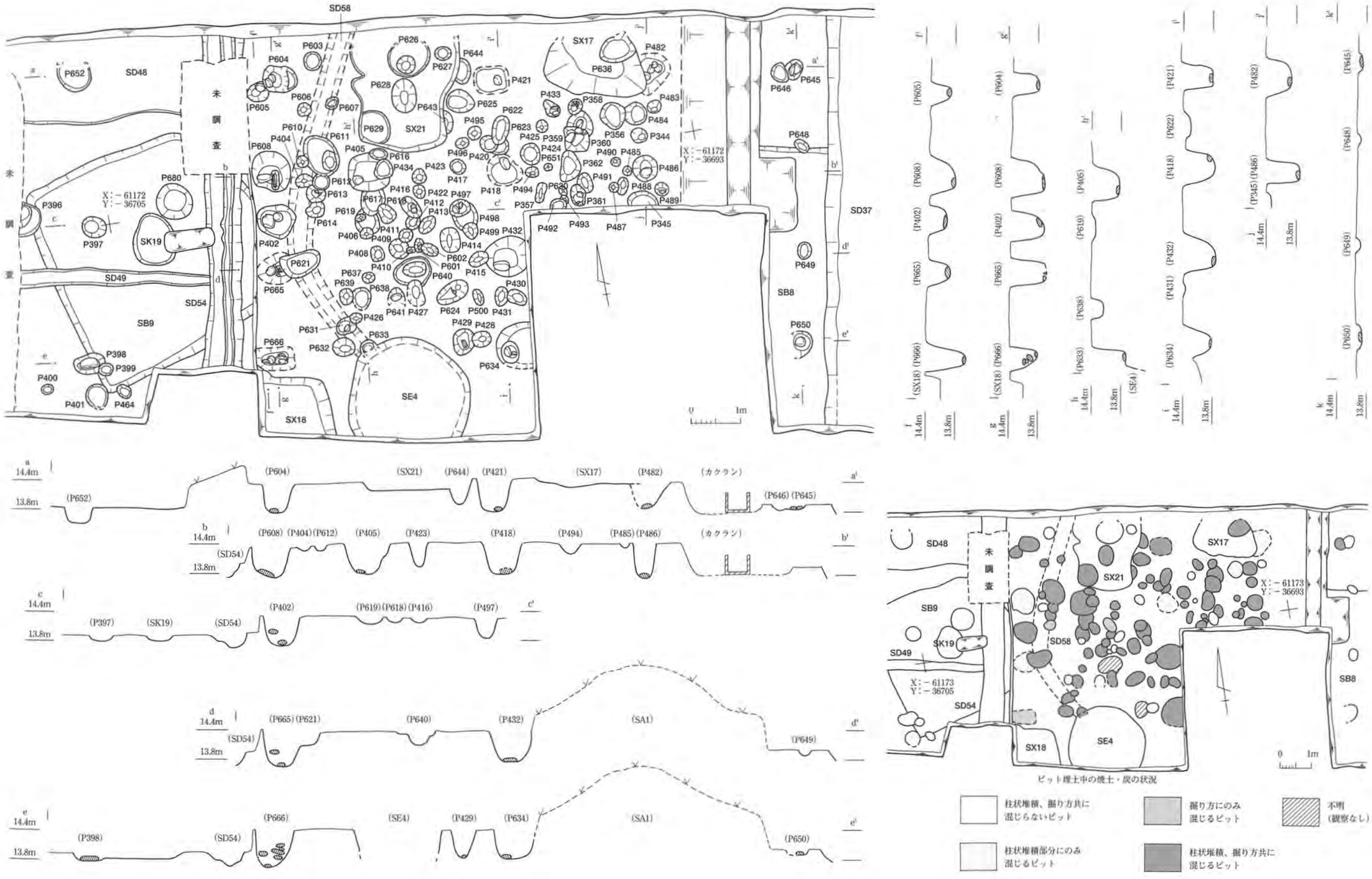
SB16（第37図、第60図462～485）

A２区東部に位置する。東西３間、南北２間で、柱間は東西が約3.0m、南北が約1.6mである。SK３、P82、95、100、104、114、118、180、183、184、185、189で構成され、P82以外は掘り方埋土中に焼土と炭を含む。SK３は埋土中に多くの礫が見られるが、掘り方底部に石はなく、いずれも根固めと思われる。またP95、114、118、183、184、189にも掘り方底部には石が据えられていなかった。P100の埋土中からは銭貨が１枚出土している。SB14で述べたP211と同様、銭貨の周囲にはやや不整形に灰黄褐色シルトが堆積していた。P118について、埋土中からは礫が多く出土し、断面観察では礫が鉛直方向に並ぶ様子が認められた。柱の抜き取り後に石が入れられた結果か。

462、463はSK３出土遺物で、462は北部系山茶碗、463はかわらけである。464はP82出土のかわらけである。465～468はP95出土遺物である。465は古瀬戸後Ⅳ期新段階の腰折皿、466～468はかわらけで、468はへそ皿である。469、470はP100出土遺物で、469は大窯大１段階の天目茶碗の高台と考えられるものを使用した加工円盤である。470は前述の銭貨（皇宋通寶）である。471～474はP104出土遺物である。471は中国製磁器の白磁皿、472は大窯第１段階の口広有耳壺である。473、474はかわらけである。475～480はP114出土遺物である。475、476は中国製磁器で、475は青磁の稜花皿、476は白磁皿である。477～479はかわらけである。480はトリベで、容量が小さく、また、器面には鉱滓が付着する。481はP118出土遺物で、古瀬戸後Ⅳ期新段階の腰折皿である。482はP180出土のかわらけである。483～485はP183出土遺物である。483、484は中国製磁器で、483は青磁碗、484は白磁碗である。485は古瀬戸後Ⅳ期新段階もしくは大窯第１段階の徳利である。

SK４（第45図）

A５区に位置する。平面形は不整形で、掘り方底部も平らではない。



第39図　A８区柱穴列、SD58実測図

SK18（第21図、第60図486～489）

Ａ８区東部の東方に位置する。P452を切り、P450に切られる。平面形は北西隅が張り出す不整形を呈する。底部はほぼ水平であり、直上から扁平な川原石が３つ出土した。また、埋土中からは完形のかわらけ、須恵器杯身が出土している。底部から２基のピットが掘り込まれている。２基とも同時期の遺構だが、本遺構に伴うものか、別のものかは検討できなかった。

486は７世紀前半の須恵器杯身である。487、488は北部系山茶碗、489はかわらけである。

SK20（第27図）

Ａ８区東部中央付近に位置し、SX19を切る。平面形は楕円形を呈し、南北に長軸をとる。確認した掘り方は浅く、また底部はほぼ平らであり、埋土には焼土と炭が混じる。

SX17（第38図、第60図490～498）

Ａ８区中央部に位置し、P482を切る。平面形は不整形を呈し、埋土中に多くの礫が混じる。礫には焼けているのがあった。確認した掘り方は浅く、また底部は平らではない。

490～494は古瀬戸後Ⅳ期新段階のもので、490は袴腰形香炉、491は天目茶碗、492は腰折皿、493、494は擂鉢である。494は二次被熱により釉調が変化している。495～497はかわらけで、496は鋳造作業に関連するかわらけで、内面底部に鉱滓が付着しており、胎土は二次被熱により硬化している。498は鉄釘である。

Ａ８区中央部柱穴列（第39図、第61図499～539）

Ａ８区中央部で検出したピットについて、SB13～16と同様の手法で掘立柱建物の復元を試みる。柱間の距離は1.9m、３m、4.5mなどいくつかの場合で試みたところ、複数のパターンが想定できたため、結局は建物を確定することができなかった。よって柱穴列の組み合わせとして、各パターンを記述する。対象としたピットはP397、398、402、405、417、418、421、429、432、482、486、497、498、499、604、605、608、619、624、633、634、637、644、645、649、650、652、665、666である。また、記述した以外の建物が復元できる可能性は十分あると考えられる。

パターン1：P405、421、418、432、633、634、637、482、486、645、649、650で構成される東西３間、南北３間の建物である。柱間は東西３m、南北1.9mで、調査区の北側と南側に続く可能性がある。中央２列の南北ラインについて、２基は調査区外での想定であり不確定である。またP645、649、650の南北ラインは、いずれも埋土中に焼土と炭が混じらない柱穴だが、柱間距離が等しいため可能性があるとし、点線で図示した。P405、637、633の南北ラインにおいては１箇所で柱穴がないためこのラインも点線での復元である。P637、649以外には掘り方底部に円礫が据えられる。

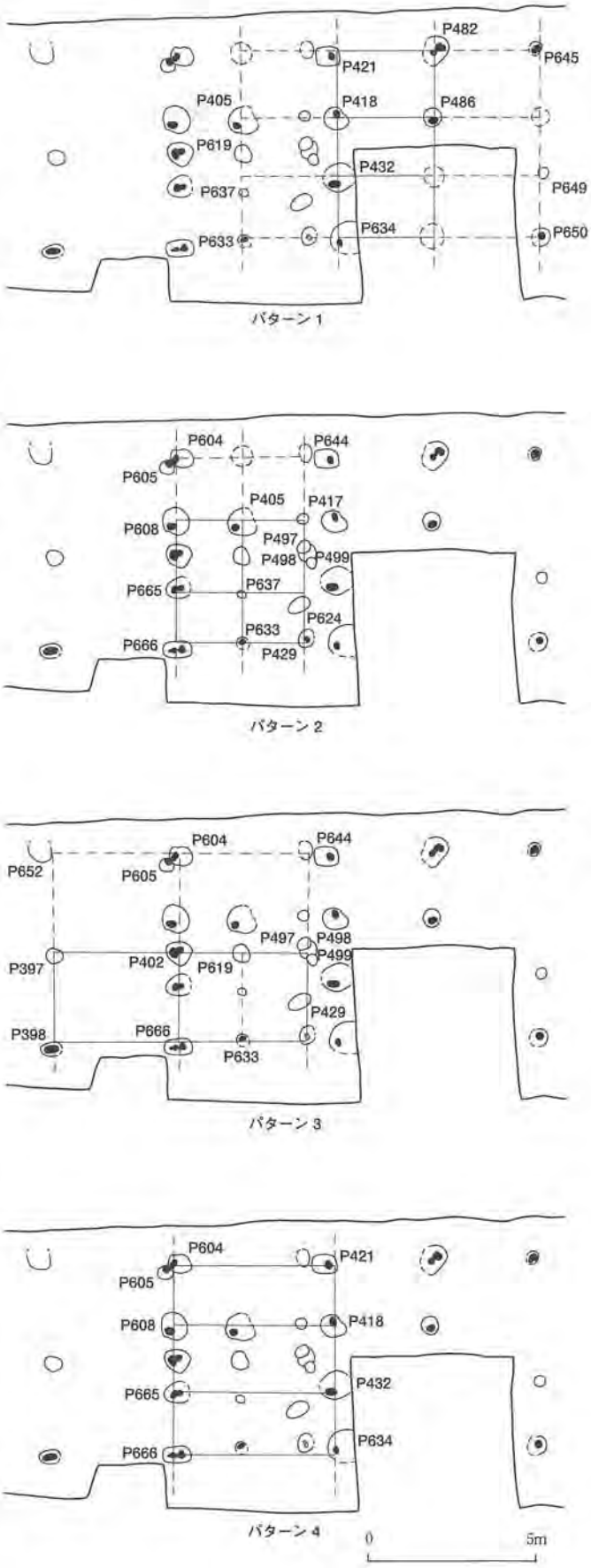
パターン2：P405、417、429、604（605）、608、633、637、624、644、665、666で構成される東西２間、南北３間の建物である。柱間は東西1.9m、南北1.9mで、調査区の北側と南側に続く可能性がある。P604(605)、644の東西ラインについて、中央の柱穴がないこと、P644がやや浅いことを理由に点線で図示した。P417、644、624、637以外には底部に円礫が据えられる。

パターン3：P397、398、402、429、497（498、499）、604（605）、644、652、666で構成される東西２間、南北２間の建物である。柱間は東西3.8m、南北３mで、調査区の北側と南側に続く可能性がある。P652、604(605)、644の東西ラインは、P652が位置的に若干ずれること、P644がやや浅いことから点線で図示した。またP619、633の南北ラインは位置的には良いが、他に対応するものがないため可能性は低いと思われる。P397、497（498、499）、644、652以外の掘り方底部には円礫が据えられる。

パターン4：P418、421、432、604（605）、608、634、665、666で構成される東西１間、南北３間の建

物である。柱間は東西4.5m、南北２mで、調査区の北側と南側に続く可能性がある。全ての柱穴の掘り方底部に円礫が据えられ、深さもほぼ13.8mと揃っている。

499、500はP402出土のかわらけである。501、502はP405出土のかわらけで、502は鋳造作業に関連するもので、胎土は二次被熱により硬化している。503はP417出土のかわらけである。504～506はP418出土遺物である。504、505はかわらけ、506は鉄釘である。507～510はP421出土遺物で、507は中国製磁器の染付皿である。508は土製品で、用途不明。509、510はかわらけである。511～516はP432出土遺物で、511は中国製磁器の白磁碗、512は古瀬戸後Ⅳ期新段階の筒形香炉である。513～516はかわらけで、515は鋳造作業に関連し、内面底部に鉱滓が付着しており、胎土は二次被熱により硬化している。517～520はP482出土遺物で、517は畿内系須恵器の杯身である。518は北部系山茶碗、519は鋳造作業に関連するかわらけで、胎土は二次被熱により硬化している。520はトリベである。521、522はP486出土のかわらけで、521は鋳造作業に関連し、胎土は二次被熱により硬化している。523、524はP497出土、525はP498出土のかわらけである。523の内面に施された横ナデは通常のものとは異なり、反時計回りである。526～529はP604出土遺物で、526は猿投産須恵器の杯身である。527は古瀬戸後Ⅳ期新段階の擂鉢、528、529はかわらけで、529の横ナデも反時計回りである。530～532はP608出土遺物で、530は中国製磁器の染付碗である。531、532はかわらけである。533はP634出土のかわらけ、534はP646出土の土錘である。535は産地不明の提瓶である。SB８を切るピットであるため埋土に混入したか。536～539はP665出土遺物で、536は器台か。537は北部系山茶碗、538、539はかわらけである。



第40図　Ａ８区柱穴列掘立柱建物想定図

ピットと出土遺物（第61～63図540～653）

本期に属するピットの内、特記すべき要素があるもの、または図示した遺物について記述する。

P86（第37図、第61図547）

Ａ２区東部に位置し、P87を切る。平面形は楕円形を呈し、深さは0.59mを測る。埋土中からは銭貨が１枚出土し、その周囲には他の埋土と異なる土が円柱状に堆積していた。

547は大窯第１段階の天目茶碗底部を加工円盤にしたものである。上記の銭貨は図示できなかった。

P91（第36図、第61図548～552）

Ａ２区中央部に位置し、P178に切られる。SB14、15の範囲内にある。平面形は円形を呈する。断面観察では柱状の堆積が認められ、そこから不明銅製品１点が出土した。また、掘り方埋土からは銭貨が２枚出土している。

548～550はかわらけ、551は上記の不明銅製品、552は上記の銭貨の内の１枚（開元通寶）である。

P98（第37図）

Ａ２区東部、SB16の範囲内に位置する。平面形は不整楕円形を呈する。埋土中から銭貨が１枚出土し、その周囲には灰黄褐色シルトが円柱状に堆積していた。

P101（第37図、第61図554）

Ａ２区中央部、SB16の範囲内に位置する。平面形は楕円形を呈する。掘り方埋土中からは銭貨が１枚出土し、その周囲には円柱状に灰黄褐色シルトが堆積していた。

554は上記の銭貨（至道元寶）である。

P105（第37図、第61図558～563）

Ａ２区中央部に位置し、平面形は円形を呈する。掘り方埋土中からは銭貨が１枚出土している。

558は大窯第１段階の平碗、559～563はかわらけである。上記の銭貨は図示できなかった。

P109（第37図、第61図564）

Ａ２区中央部、SB16の範囲内に位置する。平面形は楕円形を呈し、深さは0.15mである。掘り方埋土中から銭貨が１枚出土し、その周囲には円柱状に灰黄褐色シルトが堆積している。

564は上記の銭貨（元豊通寶）である。

P131（第35図、第62図570～573）

Ａ２区西部に位置し、SK23を切る。平面形は円形を呈し、深さは0.23m。検出面とほぼ同じレベルで、他の埋土とは異なるシルト質土中から銭貨が１枚出土している。

570～572はかわらけ、573は上記の銭貨（宣徳通寶）である。

P132（第35図、第62図574）

Ａ２区西部に位置し、SD９に切られる。P252を切る。平面形は楕円形を呈し、深さは0.10mと浅いが、埋土中、検出面とほぼ同じレベルから銭貨が１枚出土している。

575は上記の銭貨（元豊通寶）である。

P144（第36図、第62図579～585）

Ａ２区西部に位置し、P141に切られる。SK15を切る。平面形は楕円形を呈し、埋土中から多くのかわらけが出土した。また銭貨も１枚出土したが破損が激しく、図示できなかった。

579～585はかわらけである。

P145（第36図、第62図586）

Ａ２区西部に位置し、P285に切られる。SK15を切る。平面形は楕円形を呈し、深さは0.15m。検出面で銭貨が半分に割れた状態で出土した。

586は上記の銭貨（天聖元寶）である。

P146（第36図、第62図587～589）

A 2 区西方に位置し、P147を切る。平面形は円形を呈し、底部には石が据えられる。埋土中、灰黄色砂質土から銭貨が 1 枚出土した。

587は中国製磁器の青磁碗、588、589はかわらけである。上記の銭貨は図示できなかった。

P174（第36図、第62図594、595）

A 2 区中央部に位置する。SB15の範囲内に位置する。平面形は不整円形を呈し、深さは0.10m。検出面で銭貨が 1 枚出土した。

594は上記の銭貨（嘉祐通寶）で、595は玉状の不明銅製品である。

P186（第37図、第62図596）

A 2 区東部に位置し、P189に切られる。P188、278を切る。平面形は円形を呈し、深さは0.53m。掘り方埋土中、ピットの壁際から犬形土製品が逆位で出土した。

596は上記の犬形土製品である。左前足、両後足が欠損している。手づくね製で中実である。

P372（第28図、第63図624）

A 8 区西部に位置する。平面形は不整方形を呈し、底部には上部が平らな円礫があり、その上に木が残存していた。また、断面観察では柱状の灰褐色シルトの堆積を確認した。

624はかわらけである。

P465（第27図）

A 8 区東部中央付近に位置し、SX14を切る。平面形は楕円形を呈し、掘り方底部で石が据えられる。

P476（第27図、第63図628～630）

A 8 区東部中央付近に位置する。平面形は不整形で、掘り方の深さは0.05mと浅い。埋土には焼土と炭が混じっていた。また、銭貨が 3 枚重なった状態で出土した。

628～630は上記の銭貨（元祐通寶、熙寧元寶、皇宋通寶）である。

以下、その他のピット出土遺物について記述する。

540～608はA 2 区のピット出土遺物である。540～542はP79、543～546はP84、553はP99出土のかわらけである。555はP102出土の鉄釘である。556、557はP103、565はP110、566はP111、567はP116出土のかわらけである。568、569はP117出土遺物で、568はかわらけ、569は土錘である。575～578はP141、590はP149出土のかわらけである。591、592はP150出土遺物で、591はかわらけ、592は砥石である。593はP156出土、597はP188出土のかわらけである。598～602はP192出土遺物で、598は中国製磁器の白磁皿、599、600はかわらけ、601は土鈴の鳴子、602は針状の鉄製品である。602の表面には銀が付着しているようにも見える。603はP195出土のかわらけ、604はP198出土のトリベで、全面に鉱滓が付着している。605はP204出土の古瀬戸後Ⅳ期新段階の擂鉢である。606はP207出土遺物で、大窯第 1 段階の天目茶碗を利用した加工円盤である。607はP216出土のかわらけである。608はP257出土の朝鮮製陶器の壺である。

609～653はA 8 区中央部のピット出土の遺物である。609、610はP344出土遺物で、609は北部系山茶碗、610は銭貨（政和通寶）である。611はP345、612はP356、613はP357から出土した銭貨（順に元豊通寶、不明、熙寧元寶）である。614はP358出土の鋳造作業に関連するかわらけで、内面底部に鉱滓が付着しており、胎土は二次被熱により硬化している。615、616はP359出土遺物で、615はかわらけ、616は銭貨（景徳元寶）である。617～623はP360出土遺物で、617～622はかわらけ、623は砥石である。625はP423出土の須恵器杯蓋である。626、627はP433出土遺物で、626はかわらけ、627は鉄釘である。631はP483出土のかわらけである。632はP491出土、古瀬戸後Ⅳ期新段階の腰折皿である。633はP602、634はP606出土のかわらけで、ともに鋳造作業に関連し、胎土は二次被熱により硬化し

ている。635～637はP611出土遺物で、635は北部系山茶碗、636はかわらけ、637は銭貨（政和通寶）である。638はP613出土の瓦で箱熨斗と考えている。639、640はP616出土遺物で、639はかわらけ、640は鉄釘である。641～642はP617出土遺物で、641は古瀬戸後Ⅳ期新段階の腰折皿、642はかわらけ、643は土錘である。644～647はP625出土遺物で、644、645は古瀬戸後Ⅳ期新段階のもので、644は腰折皿、645は桶または袴腰形香炉である。646、647はかわらけである。648、649はP628出土のかわらけである。646、648は鋳造作業に関連するかわらけであり、胎土は二次被熱により硬化している。650～652はP636出土遺物で、650は古瀬戸後Ⅳ期新段階の袴腰形香炉、651、652はかわらけである。651は鋳造作業に関連するかわらけで、内面底部に鉱滓が付着し、胎土は二次被熱により硬化している。653はP685出土のかわらけである。

4期の遺構から出土した遺物

654～662はA２区検出遺構から出土した遺物である。654、655はP108出土遺物で、654は中国製磁器の白磁皿、655はかわらけである。656はP153出土のかわらけである。657、658はP158出土遺物で、657は中国製磁器の染付皿、658は犬形土製品の足である。659はP160出土のかわらけである。660、661はP206出土遺物で、660はかわらけ、661は丸碗の底部を利用した加工円盤である。時期は近世であるが、遺物が混入した可能性が高い。662はP585出土のかわらけD１類である。

第６節　５期の遺構と遺物

SA１（第41図、第63、64図663～716）

Ａ８区中央部に位置し、柱穴列、SX17を切る。南北に軸をとる堤で、現在は北側の金華排水路まで残存しており、本来は調査区の北にある鳥羽川まで続いていた。断面観察を行ったところ、中心部から幅と高さを増すように土が盛られている様子が確認できた。盛土を便宜的にⅠ～Ⅳ層に分け、遺物の様相を検討したが、時期的に大きな差はなかった。築造の時期は18世紀後葉～末葉と考えられる。堤は焼土と炭密集層（第Ⅲ層）の直上から造られると判断したが、平成13年度の鷺山仙道遺跡G区の調査では焼土と炭密集層の上に整地層が確認された。北側断面の19層に相当すると考えられる。出土遺物の大半は４期のものであることから、堤の築造時には周囲の土を削平し、戦国時代の遺構を破壊したと考えられる。

663～666はⅠ層出土遺物である。663は北部系山茶碗、664、665は古瀬戸後Ⅳ期新段階のもので、664は腰折皿、665は擂鉢である。666は時期不明の染付である。

667～682はⅡ層出土遺物である。667は須恵器の横瓶、668は北部系山茶碗である。669は５型式併行の北部系山茶碗か。670～674は古瀬戸後Ⅳ期新段階のもので、670、671は擂鉢、672は折縁深皿、673は天目茶碗、674は縁釉小皿である。675、676は大窯第１段階の擂鉢である。677～679はかわらけで、678は鋳造作業で使用され、胎土が硬化している。680～682は近世の陶磁器で、680、681は皿、682は太白手の染付碗である。

683～700はⅢ層出土遺物である。683、684はＭ２類のかわらけである。685は北部系山茶碗、686は中国製磁器の青磁皿である。687～689は古瀬戸後Ⅳ期新段階のもので、687、688は天目茶碗、689は壺底部である。690～692は大窯第１段階のもので、690、691は擂鉢、692は天目茶碗である。693～696はかわらけ、697は常滑産の火鉢、698は染付碗である。699は内耳鍋、700は鉄釘である。

701～716はⅣ層出土遺物である。701はＫ－14併行の須恵器の平頂蓋である。702～704は中国製磁器で702は白磁碗、703は白磁皿、704は染付碗である。705～708は古瀬戸後Ⅳ期新段階のもので、705、706は腰折皿、707、708は擂鉢である。707は二次被熱により釉調が変化している。709、710は大窯第１段階の擂鉢、711、712は大窯第３段階のもので、711は擂鉢、712は香炉である。713～715はかわらけで、714は鋳造作業に関連し、胎土が硬化している。716は金製品(?)である。

SD５（別添図３）

Ａ１区東部に位置し、柱穴列、SD１を切る。Ⅱ層上面より掘り込まれている。流路を南北にとり、両端は調査区外に延びる。断面形はV字形を呈する。

SD６（別添図３、第64図717）

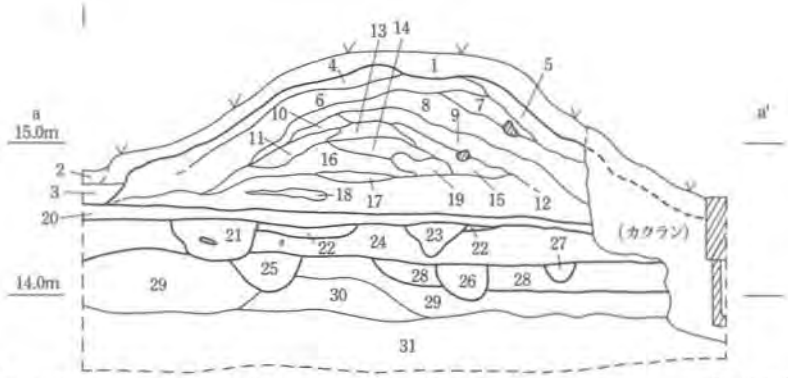
Ａ１区東部に位置し、柱穴列、SD１を切る。Ⅱ層上面より掘り込まれている。流路を南北にとり、両端は調査区外に延びる。断面形はU字形を呈する。

717は古瀬戸後Ⅳ期新段階の擂鉢である。

SD８（別添図１、第64図718～725）

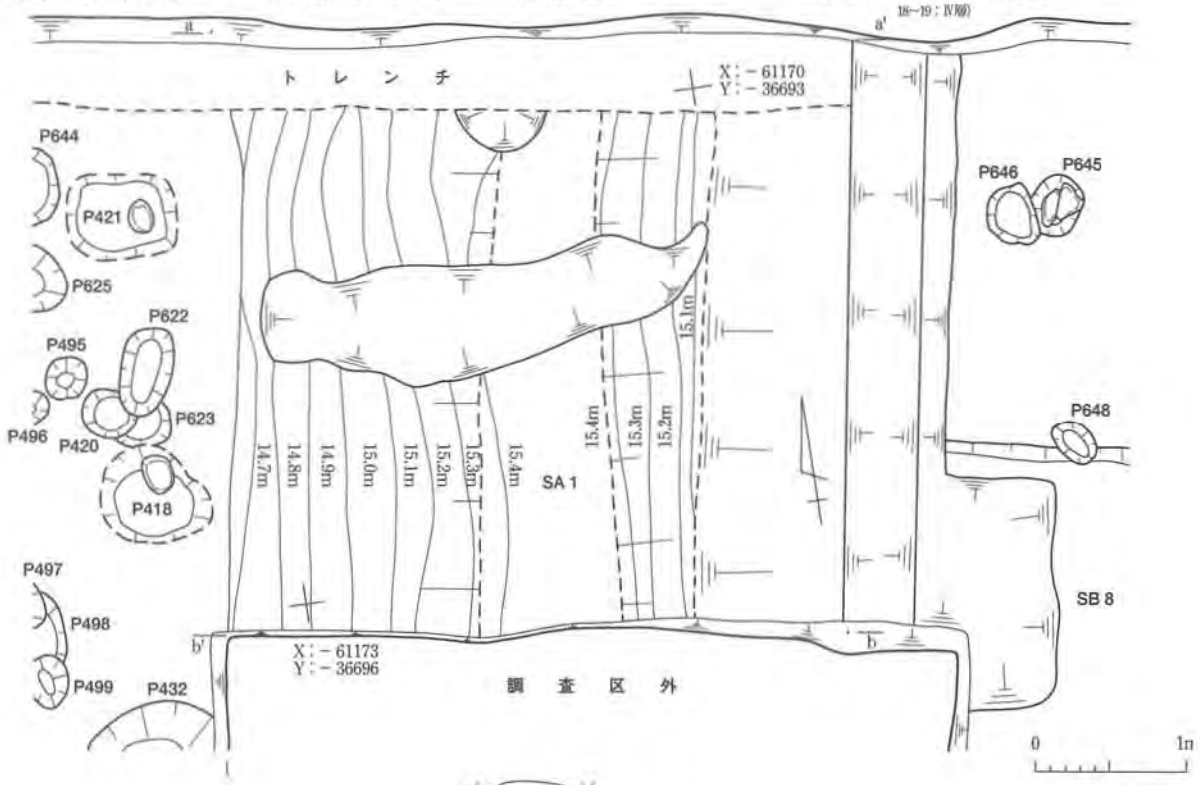
Ａ２区南側に位置し、SB14～16、SX11、上層遺構面検出のピットを切る。SX６に切られる。流路を東西にとり、東側は調査区外に延びる。断面形は不整V字形で、底部は西へ緩やかに傾斜する。

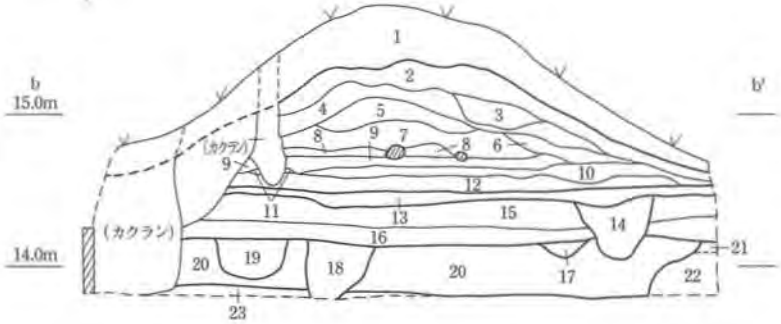
718は須恵器坏蓋、719は中国製磁器の青磁碗である。720は古瀬戸後Ⅳ期新段階の袴腰形香炉である。721、722は大窯第１段階のもので、721は仏餉具、722は平碗である。723は10型式古段階の常滑甕、724は染付碗、725は鎧茶碗である。



〈SA 1 土層名①〉

1 褐色土(表土 SA 1－1層)
2 茶褐色土(加耕作土)
3 茶褐色土 2と似るが締まる
4 褐色シルト 1と似るが締まる
5 褐色土 1より若干締まる
6 茶褐色シルト
7 茶色シルト やや砂気強い
8 褐色シルト 締まり強い
9 茶色シルト 締まり強い
10 暗褐色シルト かなり締まる
11 暗茶色シルト
12 黄茶色シルト 炭混じる
13 褐色シルト 炭混じる
14 黄褐色シルト 炭混じる
15 褐色シルト
16 茶褐色シルト 炭混じる
17 暗褐色シルト
18 灰褐色シルト
19 茶褐色シルト やや砂気強い
20 茶褐色シルト 焼土・炭多く混じる(第Ⅲ層)
21 茶褐色シルト 焼土・炭混じる(P685)
22 暗褐色シルト 焼土・炭混じる
23 茶灰褐色シルト(P686)
24 茶褐色シルト
25 黄灰褐色シルト(ピット)
26 灰褐色シルト(ピット)
27 黄褐色シルト(ピット)
28 黄灰褐色シルト(SB11)
29 黄褐色シルト 締まる(地山)
30 暗黄褐色粘質シルト(地山)
31 茶褐色砂質シルト(地山)
4～19：SA 1(4～8：Ⅱ層 9～17：Ⅲ層 18～19：Ⅳ層)





〈SA 1 土層名②〉

1 褐色土(表土 SA 1－1層)
2 茶色シルト 硬く締まる
3 明茶色シルト 硬く締まる
4 茶色シルト 焼土・炭混じる
5 暗黄褐色シルト 焼土・炭若干混じる
6 茶色シルト やや砂気ある
7 灰褐色シルト 焼土若干混じる
8 暗灰褐色シルト
9 茶褐色シルト 灰色・黄色シルト混じる
10 暗灰褐色シルト 炭少量混じる
11 黄褐色砂質土
12 茶褐色シルト 焼土若干混じる
13 暗褐色シルト 焼土・炭多く混じる(第Ⅲ層)
14 茶褐色シルト(ピット)
15 暗黄褐色シルト
16 暗茶褐色シルト やや粘質
17 灰褐色シルト(ピット)
18 暗灰褐色シルト(P687)
19 茶褐色シルト(ピット)
20 黄褐色シルト やや粘質(SB 8)
21 黄色シルト 灰褐色シルトブロック混じる(SB10)
22 黄褐色シルト 灰褐色シルトブロック混じる(SB10)
23 黄灰褐色シルト(地山)
2－12：SA 1(2：Ⅱ層 3～8：Ⅲ層 9～12：Ⅳ層)

第41図 SA 1 実測図

SX6（別添図１、第64、65図726～737）

Ａ２区西部に位置し、SD８、26、27、SK８、27、SB13、上層遺構面検出のピットを切る。平面形は方形を呈し、北側と西側は調査区外に延びる。掘り方底部は平らである。

726～728は中国製青磁で、726、727は碗、728は盤底部である。729～731は古瀬戸後Ⅳ期新段階の擂鉢で、732も擂鉢だが、時期は古瀬戸後Ⅳ期新段階もしくは大窯第1段階である。733は大窯第１段階の天目茶碗である。734はかわらけである。735～737は近世陶器である。

SD26（別添図１）

Ａ２区西部、SX６の底部で検出した。流路を東西にとり、西側は調査区外に延び、東側はSX６の東壁ライン以東では検出できない。断面形は扁平なU字形を呈する。掘り方がSX６の範囲と一致し、また埋土も似ることからSX６の一部と考えられる。

SD14（第29図）

Ａ５区西部に位置し、SD17に切られる。流路を南北にとり、両端は調査区外に延びる。掘り方の西側ラインも調査区外であるため、断面形、幅、深さなどは不明である。

SD16（第42図）

Ａ５区東部に位置し、SD18に切られる。東西に流路をとり、西側は徐々に浅くなり検出できなくなる。東側は調査区外に延びるが、Ａ６区西部でその続きは検出できなかった。残存する掘り方は非常に浅く、断面形は不明である。SD18、19とは同時期、同性格の遺構と考えられる。

SD18（第42図、第65図738～740）

Ａ５区東部に位置し、SD16を切る。SD19、P243、244に切られる。東西に流路をとり、西側は徐々に浅くなる。東側は調査区外だが、Ａ６区では検出できなかった。断面形は逆台形を呈する。

738はS字甕Ｄ２類である。739はかわらけ、740は大窯第３段階前半の擂鉢である。

SD19（第42図、第65図741～745）

Ａ５区東部に位置し、SD18を切る。SX10、P243、244に切られる。SD21との関係について、SD19完掘後にSD21を検出したため検討できなかった。東西に流路をとり、西側は徐々に浅くなり検出できなくなる。東側は調査区外に延びるが、Ａ６区西部でその続きは検出できなかった。断面形は扁平なU字形を呈する。

741、742は土師器で、741はS字甕C類、742は伊勢型甕である。743は北部系山茶碗、744は大窯第１段階の擂鉢、745はかわらけである。

SX10（第42図、第65図746）

Ａ５区東部に位置し、SD19を切る。平面形は方形を呈すると考えられ、東側と南側は調査区外に延びる。検出範囲が狭いため性格を決定できない。

746は瀬戸美濃産の天目茶碗で、時期は17世紀である。

SD22（第23図、第65図747）

Ａ７区中央部に位置する。流路を南北にとり、両端は調査区外に延びる。断面形は不明である。またSD31をSD22の底部で検出し、切り合いとして判断したが同一遺構の可能性も考えられる。

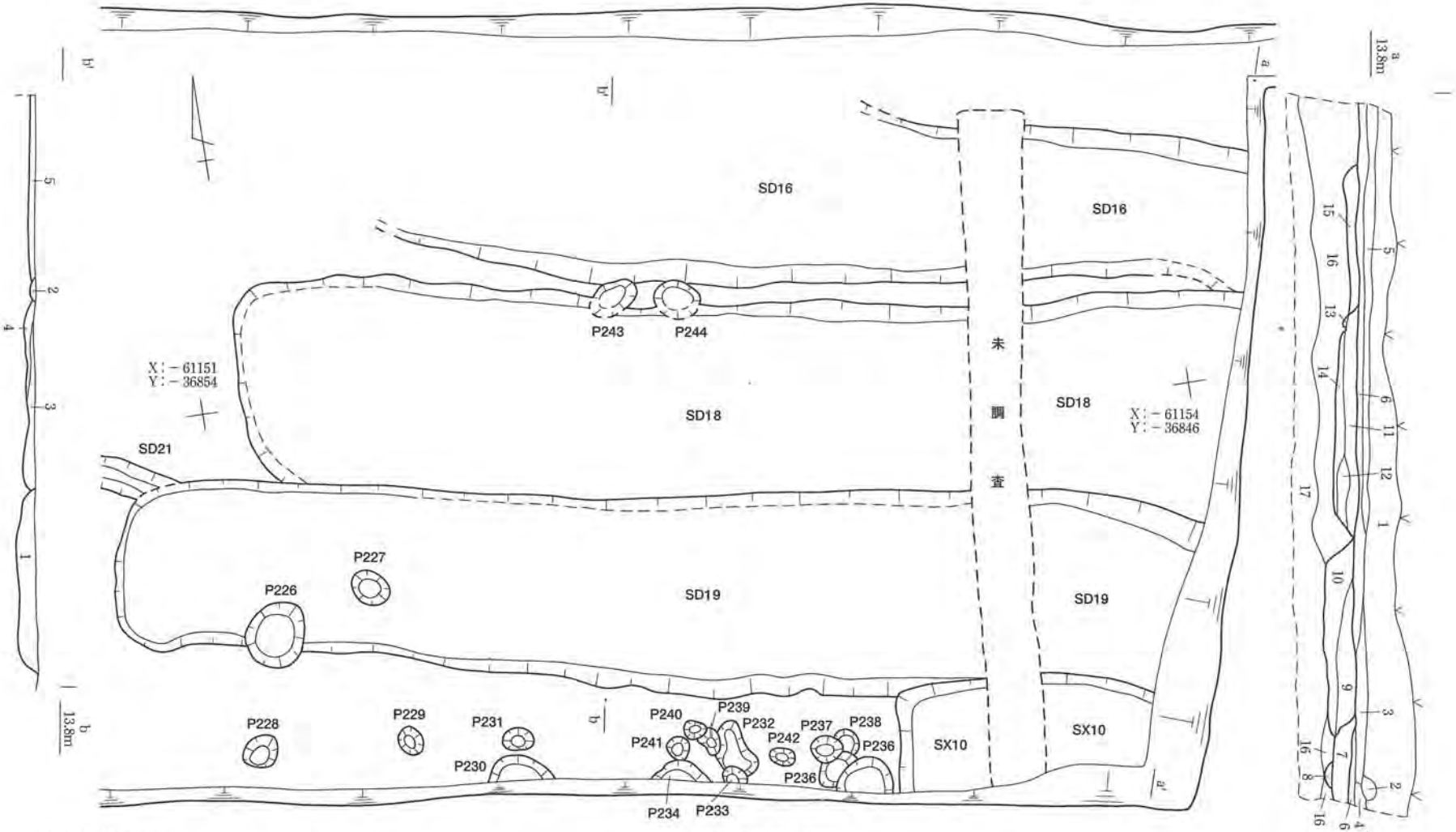
747は瀬戸美濃産の小杯で、時期は18世紀である。

SD23（第43図）

Ａ７区東部に位置し、P336に切られる。流路は南北にとり、両端は調査区外に延びる。断面形は扁平なU字形を呈する。掘り方北側のプランについて、調査区の北壁の観察では幅がかなり広がる様相を呈するが、埋土が酷似する別遺構が存在する可能性もある。

SD24、25、28（第43図）

Ａ７区西部に位置し、SB５を切る。SD５、６と同様、Ⅱ層上面より掘り込まれることから本期と



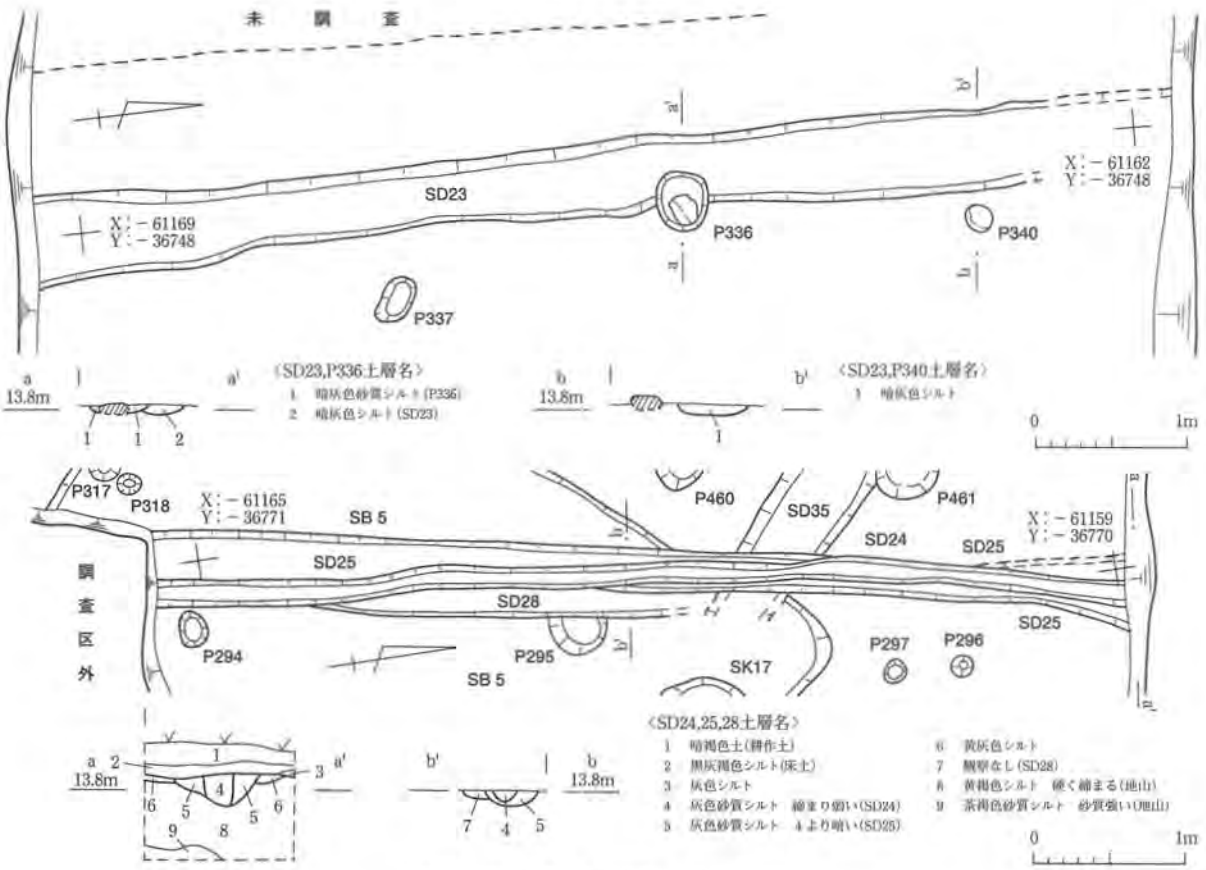
〈SD16,18,19土層名〉

1　灰褐色シルト　灰色シルト、黄色粘土ブロック混じる
2　茶褐色シルト　焼土・炭混じる(P243)
3　灰色砂質シルト
4　灰褐色シルト
5　灰褐色砂質シルト
|：SD19　3,4：SD18　5：SD16

〈SD16,18,19,SX10土層名〉

1　黒褐色土(耕作土)
2　灰色シルト
3　暗灰色砂質シルト
4　暗褐色土
5　暗灰色シルト(床土)
6　黄灰褐色シルト　鉄分多く混じる
7　灰褐色シルト
8　灰褐色砂質シルトと黄褐色粘質土の混合層(遺構)
9　茶褐色砂質シルト
10　灰色砂質シルト　黄色粘質土混じる
11　灰褐色シルト
12　茶色砂質土
13　茶灰色砂質シルト
14　灰色砂質シルト　黄色粘質土混じる
15　灰褐色砂質シルト
16　黄色粘質土　西方で茶色になる(地山)
17　茶褐色シルト(地山)
7：SX10　9,10：SD19　11～14：SD18　15：SD16

第42図　SD16、18、19、SX10実測図



第43図　SD23～25、28実測図

判断した。流路を南北にとり、SD24、25は両端は調査区外に延び、SD28の北側は徐々に浅くなり検出できなくなる。遺構の形状、埋土の様相から３条の溝は同一遺構の可能性も考えられる。

SX8（第44図、第65図748～768）

Ａ７区東端に位置する。平面形は不整方形を呈し、掘り方北側は調査区外に延びる。また底部はほぼ平らである。埋土は上部が砂質シルト、下部が砂質土である。本遺構の周辺は遺構が大変希薄であるが、本遺構については古墳時代から近世までの遺物が大量に出土した。

748～750は美濃須衛産の須恵器で、748は無台盤、749は盤、750は無台杯である。751、752は北部系山茶碗である。753～757は中国製磁器で、753、754は青磁碗、755～757は染付である。758は古瀬戸後Ⅳ期の甕、759は古瀬戸後Ⅳ期新段階の壺である。757、758は二次被熱しており、757は器面が赤く変色していることから、鋳造作業に関連する可能性も考えられる。760、761は擂鉢で、760は古瀬戸後Ⅳ期新段階、761は大窯第１段階である。762～766は近世陶磁器で、762は肥前産の磁器で器種はⅢか。763は瀬戸美濃産の香炉、764～766は肥前産の染付である。767は18世紀中頃の焙烙、768は土鈴である。

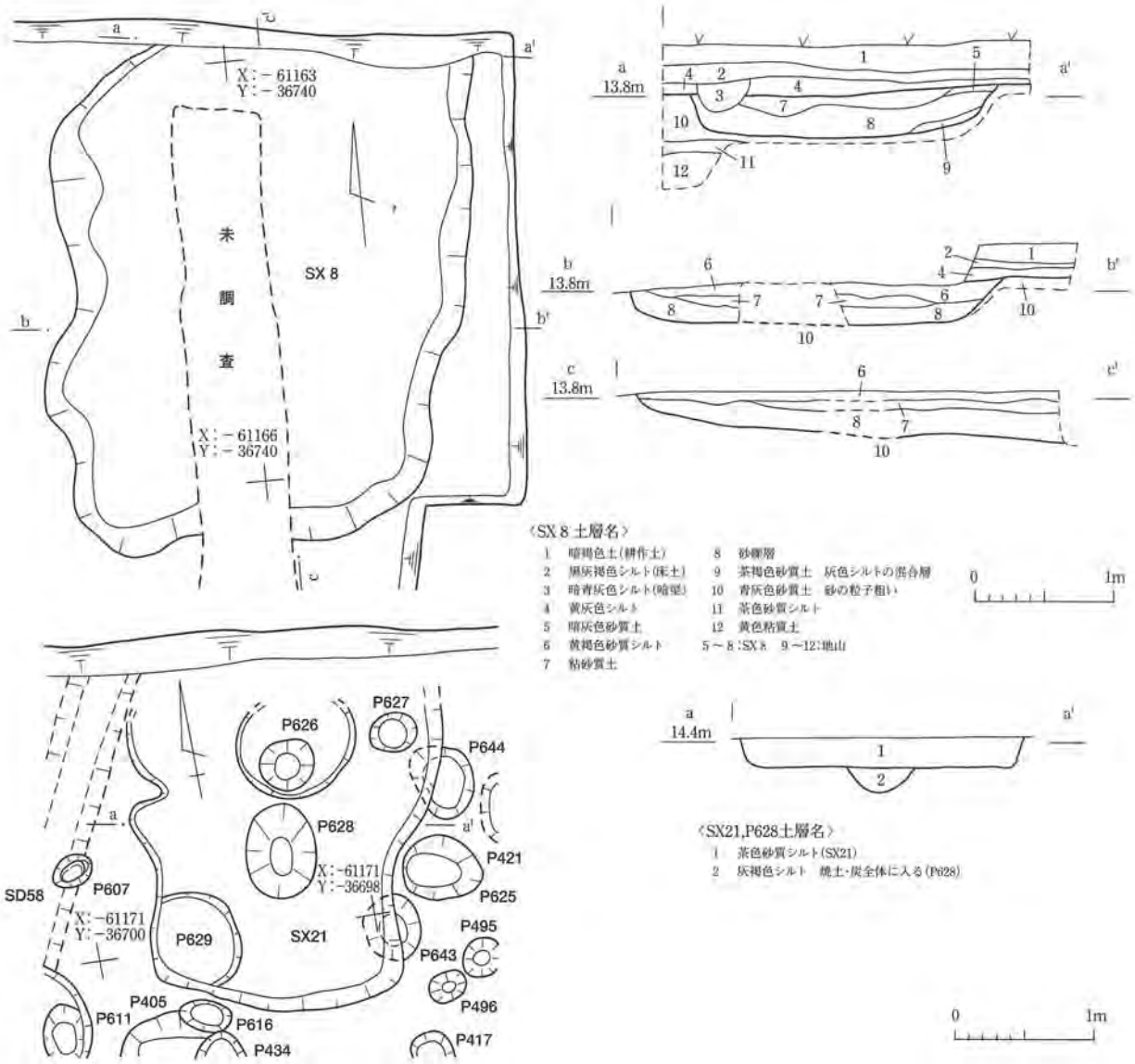
SX18（第22図、第65図769～773）

Ａ８区中央部上層遺構面で検出した。平面形は方形を呈すると考えられ、掘り方の西側と南側は調査区外に延びる。調査区南壁の断面観察で、本遺構は現況の畑耕作土の下面から掘り込まれていることが分かった。埋土には古墳時代から近代までの多くの遺物が混じっていた。

769は土師器の把手、770は須恵器の甕である。771は中国製青磁で器種は不明、772はかわらけである。773は焙烙で、時期は明治か。

SX21（第44図、第65図774）

Ａ８区中央部上層遺構面で検出し、同面で検出したピットを切る。平面形は不整方形を呈し、掘り



第44図　SX 8 、21実測図

方底部は平らである。遺構埋土は赤褐色シルトで、現況の畑耕作土と大変似ているが、かなり締まる。焼土や炭は混じらない。掘り込み面は確認できなかったが、埋土の状況、遺物の様相から本期と判断した。

774は古瀬戸後Ⅳ期新段階の腰折皿である。

第７節　その他の遺構と遺物

(1)時期不明遺構

SD13（第45図）

Ａ５区中央部に位置し、SK10を切る。流路を南北にとり、両端は調査区外に延びる。掘り方は浅く、断面形は不明である。

SD15（第30図）

Ａ５区中央部に位置し、SX７を切る。流路を南北にとり、北側は徐々に浅くなり、南側は暗渠により検出できなかった。断面形は不明。SX７を切ることから４－１期以降と考えられる。

SD17（第29図）

Ａ５区西部に位置し、SD14を切る。プランが途切れるが、位置、方向、埋土が似ることなどから同一の溝と判断した。流路を南北にとり、南側は攪乱に破壊される。両側は調査区に延びると考えられる。掘り方は浅く、断面形は扁平なU字形を呈する。

SD20（第45図）

Ａ５区中央部に位置する。プランが途切れるが、位置、方向、埋土が似ることから同一遺構と判断した。流路は南北にとる。掘り方の西側ラインと南側は暗渠により検出できなかった。北側は続くと考えられるが、調査区北側の断面では検出できなかった。掘り方は浅く、断面形は不明。

SD21（第45図）

Ａ５区に位置する。SD19との関係について、SD19掘削終了後に本遺構を検出したため検討できなかった。東西に流路をとる。西側の暗渠以西では検出できなかった。掘り方は浅く、断面形は扁平なU字形を呈する。

SD27（第30図）

Ａ２区西部、SX６底部で検出した。SX６、P194（SB13）、P195、P215に切られる。流路が北西－南東方向でSD51、52、56と同じであることから下層遺構の可能性があるが、遺物が少なく確定できなかった。断面形は逆台形を呈する。

SD33（第45図）

Ａ６区中央部に位置する。南北に流路をとり、南側は調査区外、北側は徐々に浅くなり検出できない。非常に浅く、断面形は不明である。切り合い関係がなく、遺物からも時期を確定できなかった。

SD53（第24図）

Ａ７区西部に位置し、SB６を切る。SD36に切られる。流路を南北にとり、北側は調査区外、南側はSD36に切られる。掘り方は非常に浅く、断面形は不明。切り合い関係から時期は４－１期以前と考えられる。

SD55（第45図）

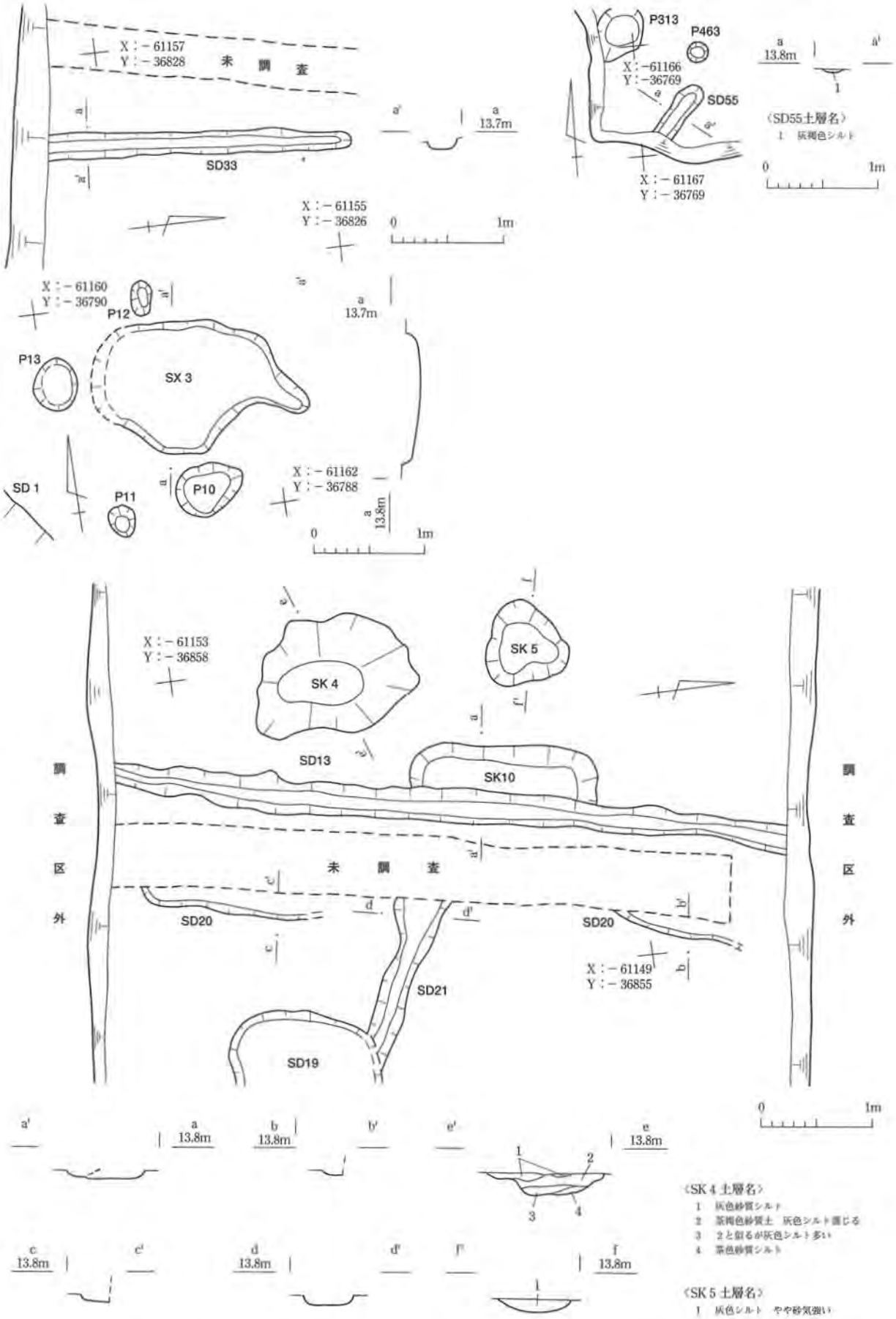
Ａ７区西部に位置する。細長いプランであることから溝と判断したが、狭い範囲での検出であるため断定は難しい。切り合い関係がなく、遺物からも時期を確定できなかった。

SK５（第45図）

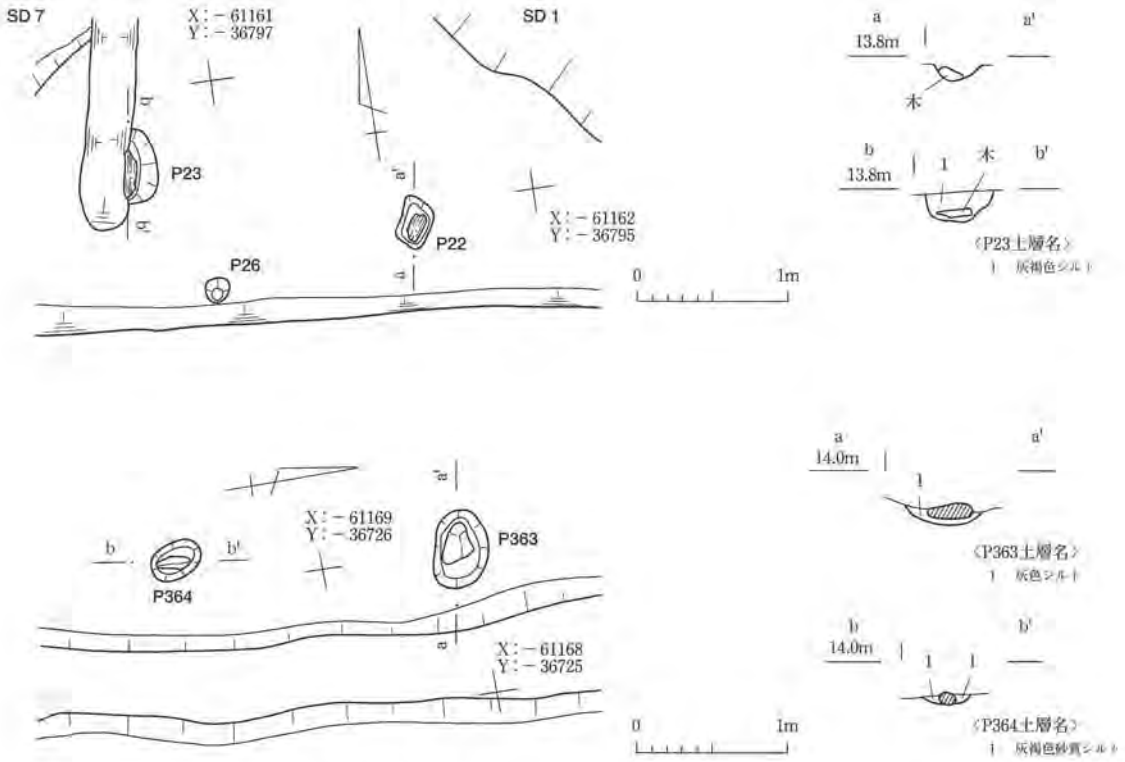
Ａ５区中央部に位置する。平面形は不整形を呈し、掘り方底部も平らではない。切り合い関係がなく、遺物からも時期を確定できなかった。

SK７（第29図）

Ａ５区西部に位置し、P225に切られる。平面形は楕円形を呈し、掘り方底部は平らである。遺物が少なく時期を確定できなかった。



第45図　SD13、20、21、33、55、SK 4 、 5 、10、SX 3 実測図



第46図　P22、23、363、364実測図

SK 9（第30図）

A 5 区中央部に位置する。平面形は不整楕円形を呈し、掘り方は非常に浅く、掘り方底部は平らである。切り合い関係がなく、遺物からも時期を確定できなかった。

SK10（第45図）

A 5 区中央部に位置し、SD13に切られる。平面形は方形を呈し、掘り方は非常に浅く、底部は平らである。遺物が少なく時期を確定できなかった。

SK16（第14図）

A 7 区に位置し、SD32に切られる。平面形は不整形を呈し、東西に長軸をとる。掘り方底部は平らでない。時期は、切り合い関係から 4 － 1 期以前である。

SK26（第27図）

A 8 区東部に位置し、SX19を切る。プランの半分は東側にある暗渠のため検出しておらず、平面形は不明である。埋土には焼土と炭が混じり、SK20と大変似ている。出土遺物がないが、切り合い関係、埋土の状況から 4 － 2 期以降と考えられる。

SX 3（第45図）

A 1 区東部に位置する。平面形は不整形を呈する。遺物は数点出土したが、取り上げの際にA 1 区東Ⅱ層のものと混じってしまったため、時期は不明である。

SX 4（第11図）

A 1 区東部に位置し、P 1 に切られる。P34を切る。平面形は楕円形を呈し、埋土には炭が混じる。位置的にSB 6 に関連する可能性があるが、A 1 区調査時にはSB 6 を検出していなかったため確定できなかった。また時期についてはSB 6 で記述した通りである。

SX20（第25図）

A 7 区西部に位置し、SD36、P454、455に切られる。平面形は方形を呈すると考えられる。掘り方西側はSD36と攪乱（A 1 区調査時の東壁の崩落部分）により不明。底部は平らである。切り合い関係

から４－１期以前と考えられる。

SX24（第21図）

Ａ８区東部の東端に位置し、SE３、P451に切られる。平面形は方形を呈すると考えられる。掘り方は浅く、また底部は平らである。切り合い関係から４－１期以前と考えられる。

SX25（第10図）

Ａ７区西部に位置し、SB５を切る炭窯集部分である。切り合い関係から１期以降と考えられる。

掘り方底部に石があるピット（第27、46図）

P17（Ａ１区）、P363（Ａ８区）、P364（Ａ８区）、P456（Ａ７区）、P474（Ａ８区）、P477（Ａ８区）、P478（Ａ８区）の掘り方底部には石が据えられていた。上記のピットのうち、断面観察において柱状の堆積が確認できたのはP456のみである。

掘り方内に木が残存するピット（第27、46図）

P22（Ａ１区）、P23（Ａ１区）、P24（Ａ１区）、P373（Ａ８区）、P473（Ａ８区）の掘り方内には木が残存していた。上記の石と同じ機能か、柱の残欠の可能性が考えられる。木はP22、23、373については底部で確認し、P24については立った状態で確認した。樹種はP22、23がヒノキ、P373がヒノキ属、P24がアカマツである（詳細は第６章第１、２節を参照）。

(2)層位出土遺物

Ａ１～Ａ８区の各層から出土した遺物について記述する。

Ａ１区東部Ⅰ層出土遺物（第65図775～778）

775、776は南部系山茶碗である。775は５型式の皿で、内面には漆と考えられる物質が残存している（第６章第３節）。777は中国製青磁の端反碗、778はかわらけである。775、776、778は、平成11年度の試掘調査トレンチ２を埋め戻した土を再掘削した際に出土した遺物である。よって、SD１の遺物である可能性が高い。777は暗渠の埋土から出土した。

Ａ１区西部Ⅰ・Ⅱ層出土遺物（第65図779～783）

779は須恵器の高杯で、長脚で二段透かしが施されるものである。780は灰釉陶器の椀、781は大窯第２もしくは第３段階の天目茶碗である。782はかわらけ、783は瀬戸美濃産の鐵茶碗である。

Ａ１区東部Ⅱ層出土遺物（第65、66図784～795）

784、785は須恵器で、784はこね鉢底部、785は７世紀後半～８世紀前半の無台杯である。786は灰釉陶器の皿、787は北部系山茶碗、788は中国製磁器の青磁碗である。789は古瀬戸中Ⅰ期の折縁深皿、790、791は古瀬戸後Ⅳ期新段階のもので、790は仏餉具、791は天目茶碗底部を加工円盤にしたものである。792は大窯第１もしくは第２段階の皿である。793、794はかわらけ、795は銅製品である。体部が大変薄く、表面には金メッキが施される。キャップ状の形状を呈することから、何かに被せて使用したと考えられる。

Ａ１区東部Ⅴ層出土遺物（第66図796）

調査区東端に確認トレンチを掘削した際に遺物が数点出土した。遺構を見逃したと考えられる。

796は南部系山茶碗の大平鉢底部である。

Ａ２区Ⅰ層出土遺物（第66図797～807）

797、798は中国製磁器で、797は青磁の端反碗、798は白磁の菊皿である。798の外面の花弁の表現は簡略的である。799～801は古瀬戸後Ⅳ期新段階の擂鉢、802はかわらけ、803は肥前の広東碗である。804～807は土製品で、804、805は犬形土製品、806、807は土錘である。犬形土製品はともに手づくね製で中実である。また２つの土錘の形状、大きさはほぼ同じである。

A２区Ⅱ層出土遺物（第66図808～815）

808は北部系山茶碗である。809、810は古瀬戸後Ⅳ期新段階のもので、809は縁釉小皿、810は擂鉢である。811は鋳造作業に関連するかわらけで、内面底部に鉱滓が付着しており、胎土は二次被熱により硬化している。812はその形状から十能と考えられる。813は器種不明の土師器であるが、形状は蓋状を呈する。814、815は土製品で、814は土鈴の鳴子、815は灯明皿の灯芯おさえである。

A２区Ⅳ層出土遺物（第66図816～823）

816は灰釉陶器の椀、817は中国製白磁碗で、口縁部が玉縁状になる。818は古瀬戸中Ⅰ期もしくは中Ⅱ期の卸皿、819は大窯第１段階の端反皿である。820～822はかわらけである。821は鋳造作業に関連するかわらけで、内面底部に銅滓が付着しており、胎土は二次被熱により硬化している。823は石鏃である。

A５区Ⅰ層出土遺物（第66図824～827）

824は美濃須衛産須恵器の鉄鉢である。825、826は灰釉陶器で、825は椀、826は皿である。827は大窯第２もしくは第３段階の擂鉢である。

A５区Ⅱ層出土遺物（第66図828～837）

828は須恵器で７世紀後葉の杯蓋である。829～831は中国製白磁で、829、830は碗、831は皿である。832は古瀬戸後Ⅳ期新段階の袴腰形香炉である。833、834はかわらけで、833は鋳造作業に関連するもので、胎土は二次被熱により硬化している。835～837は近世陶器である。

A６区Ⅰ層出土遺物（第66図838～841）

838は縁釉小皿、839、840は腰折皿で、３点とも時期は古瀬戸後Ⅳ期新段階である。841は近世後半の蚊燻しで、常滑産（赤物）である。

A７区Ⅰ層出土遺物（第66図842、843）

842、843は美濃須衛産須恵器で、842は杯蓋、843は有台盤で、内面に墨が付着することから転用硯と考えられる。

A７区Ⅱ層出土遺物（第67図844～847）

844、845は美濃須衛産須恵器の有台盤である。844は内面に墨が付着することから転用硯と考えられる。また高台内部には墨書「万」がある。846は近世陶器の蓋、847は土人形（エビス？）である。

A７区について、SD35とSK13、そして上記した842～845などの存在から、周辺には８世紀末～９世紀前葉の遺構があったことが予想できる。

A８区Ⅰ層出土遺物（第67図848）

848は土錘である。

A８区西部Ⅰ層出土遺物（第67図849、850）

849は灰釉陶器の椀、850は碗底部を利用した加工円盤である。時期と産地は不明。

A８区西部Ⅱ層出土遺物（第67図851～856）

851、852は土師器で、851は宇田型甕、852は壺である。853は須恵器坏蓋である。854は南部系山茶碗、855は北部系山茶碗である。856は土錘である。

A８区中央部Ⅰ・Ⅱ層出土遺物（第67図857～870）

857は須恵器の椀で、金属器の写しである。858、859は灰釉陶器の椀である。860は北部系山茶碗である。861、862は中国製磁器で、861は染付皿、862は白磁碗である。863、864は古瀬戸後Ⅳ期の壺、865は古瀬戸後Ⅳ期新段階の擂鉢である。866、867は大窯第１段階のもので、866は擂鉢、867は天目茶碗の底部を利用した加工円盤である。868はかわらけ、869は土師器の内耳鍋、870は土錘である。

A８区中央部Ⅲ層出土遺物（第67図871～891）

871は猿投産須恵器の杯身で、時期は７世紀中葉（I－101もしくはH－16）である。872～874は中国

製磁器で、872は青磁碗、873は白磁皿、874は染付碗である。875、876は古瀬戸後Ⅳ期のもので、875は根来型瓶子、876は小壺である。877～879は古瀬戸後Ⅳ期新段階のもので、877、878は天目茶碗、879は擂鉢である。880～884はかわらけで、880、882は鋳造作業に関連するもので、胎土は二次被熱により硬化している。880の内面底部には銅滓が付着している。また884の内面底部には弧状の刻線が7条ある。工具痕か。885は肥前の青磁香炉である。886、887は鉄釘、888は銭貨（熙寧元寶）、889は円形を呈すると思われる不明銅製品で、本調査出土の銅製品の中で、最大かつ最重量のものである。890、891は土製品で、890は人形（おそらく天神）、891は土鈴の鳴子である。

A８区中央部Ⅳ層出土遺物（第68図892～897）

892は古瀬戸後Ⅳ期の壺、893は古瀬戸後Ⅳ期新段階の直縁大皿である。894、895はかわらけである。896、897は土製品で、896はおそらく犬形土製品の胴部と思われるが、本調査出土の他の犬形土製品と比べると細く小さい。897は土錘である。

A８区中央部Ⅴ層出土遺物（第68図898、899）

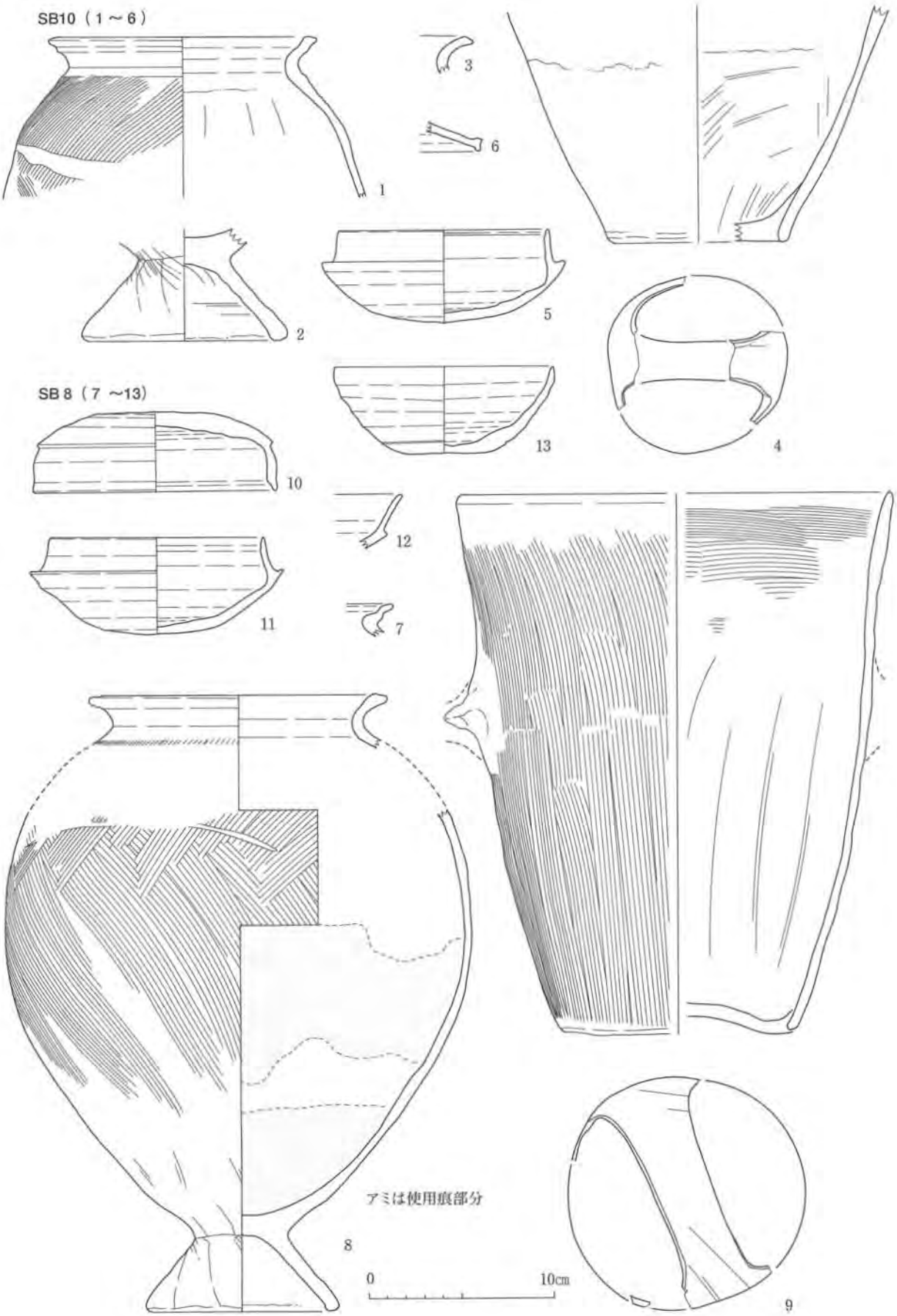
898、899は美濃須衛産須恵器で、898は杯蓋であり、金属器の写しか。899は平瓶である。本層は地山と考えているため、遺構を見逃した可能性が高い。

A８区東部Ⅰ層出土遺物（第68図900～903）

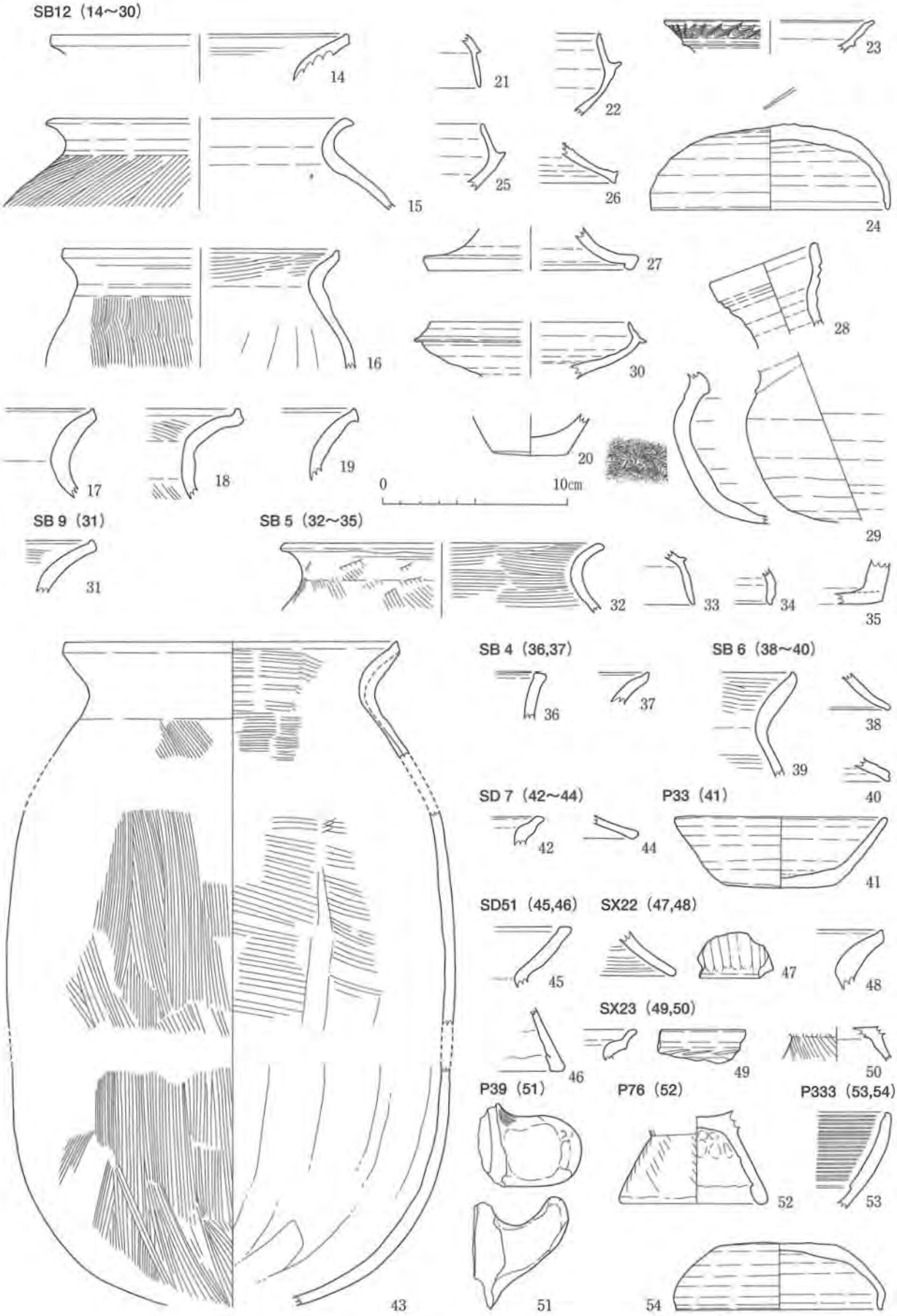
900は中国製の青磁皿、901は古瀬戸後Ⅳ期新段階の折縁大皿である。902、903はかわらけで、903は鋳造作業に関連するもので、内面底部には鉱滓が付着し、胎土は二次被熱により硬化している。

A８区東部Ⅱ層出土遺物（第68図904～907）

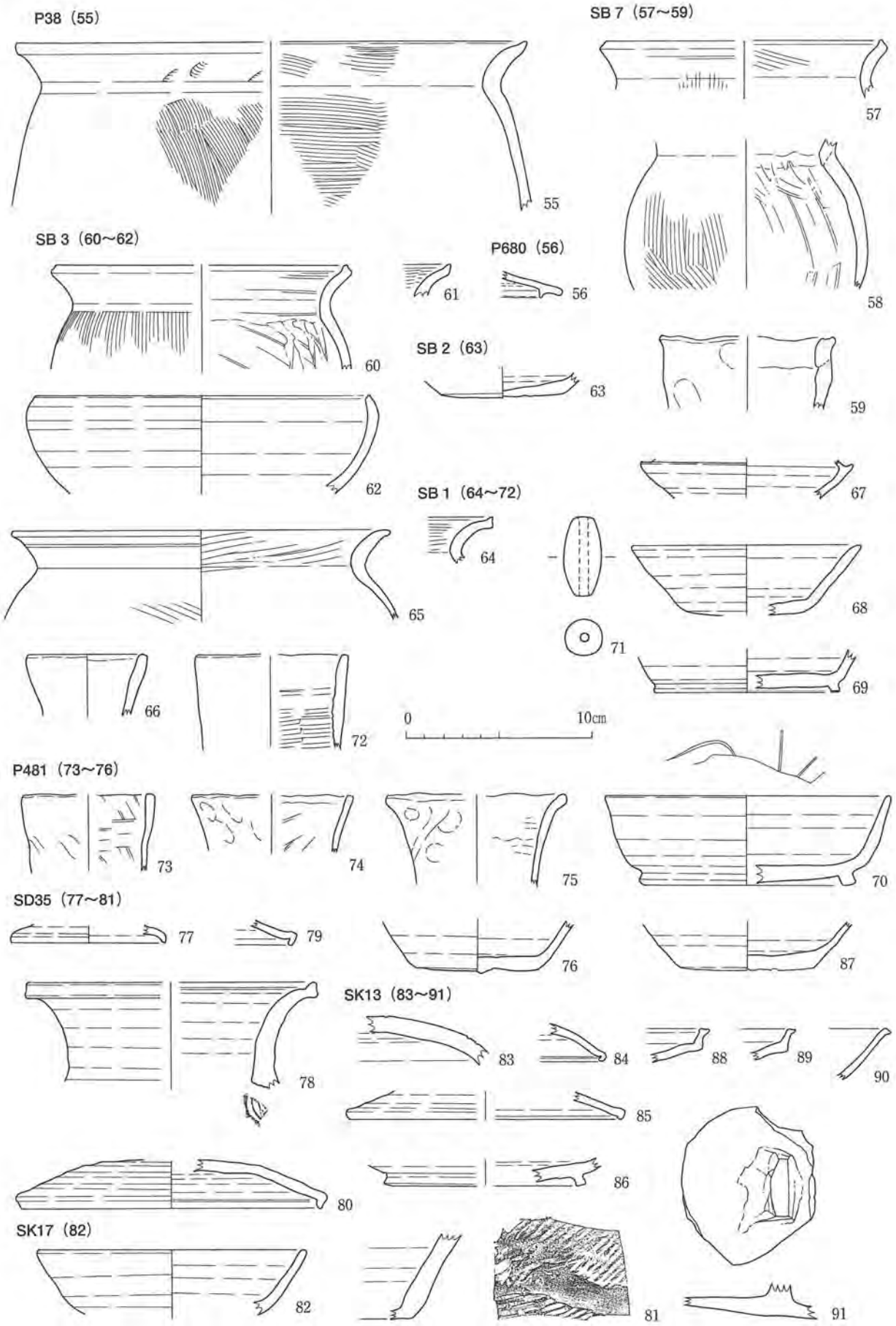
904はM3類のかわらけ、905は中国製の青磁碗、906は古瀬戸後Ⅳ期新段階の腰折皿である。907は土錘である。



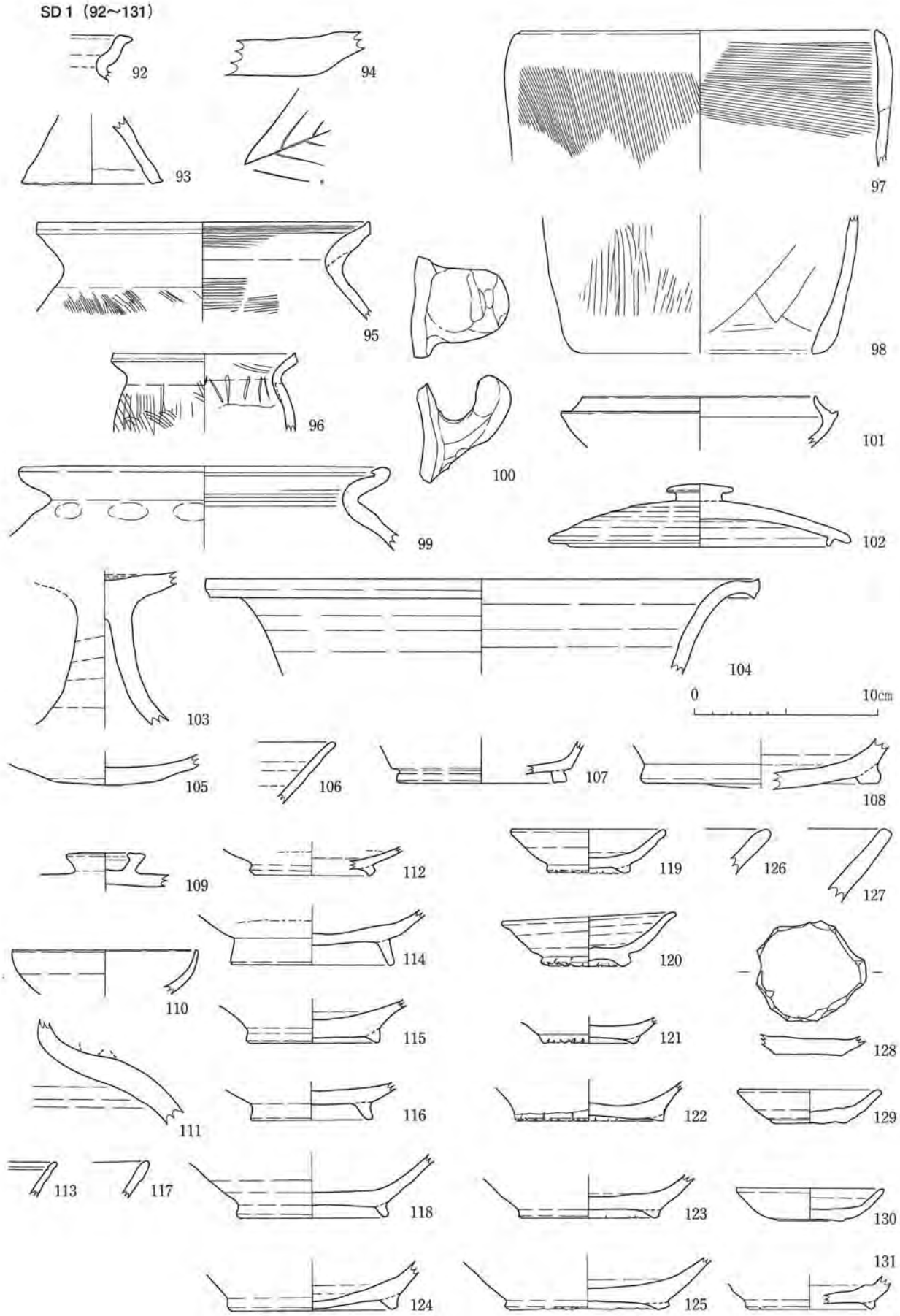
第47図　遺物実測図(1)


SB12（14～30）
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
0
10cm
SB 9（31）
31
SB 5（32～35）
32
33
34
35
SB 4（36,37）
36
37
SB 6（38～40）
38
39
40
SD 7（42～44）
42
44
P33（41）
41
SD51（45,46）
45
46
SX22（47,48）
47
48
SX23（49,50）
49
50
P39（51）
51
P76（52）
52
P333（53,54）
53
54
43

第48図　遺物実測図(2)

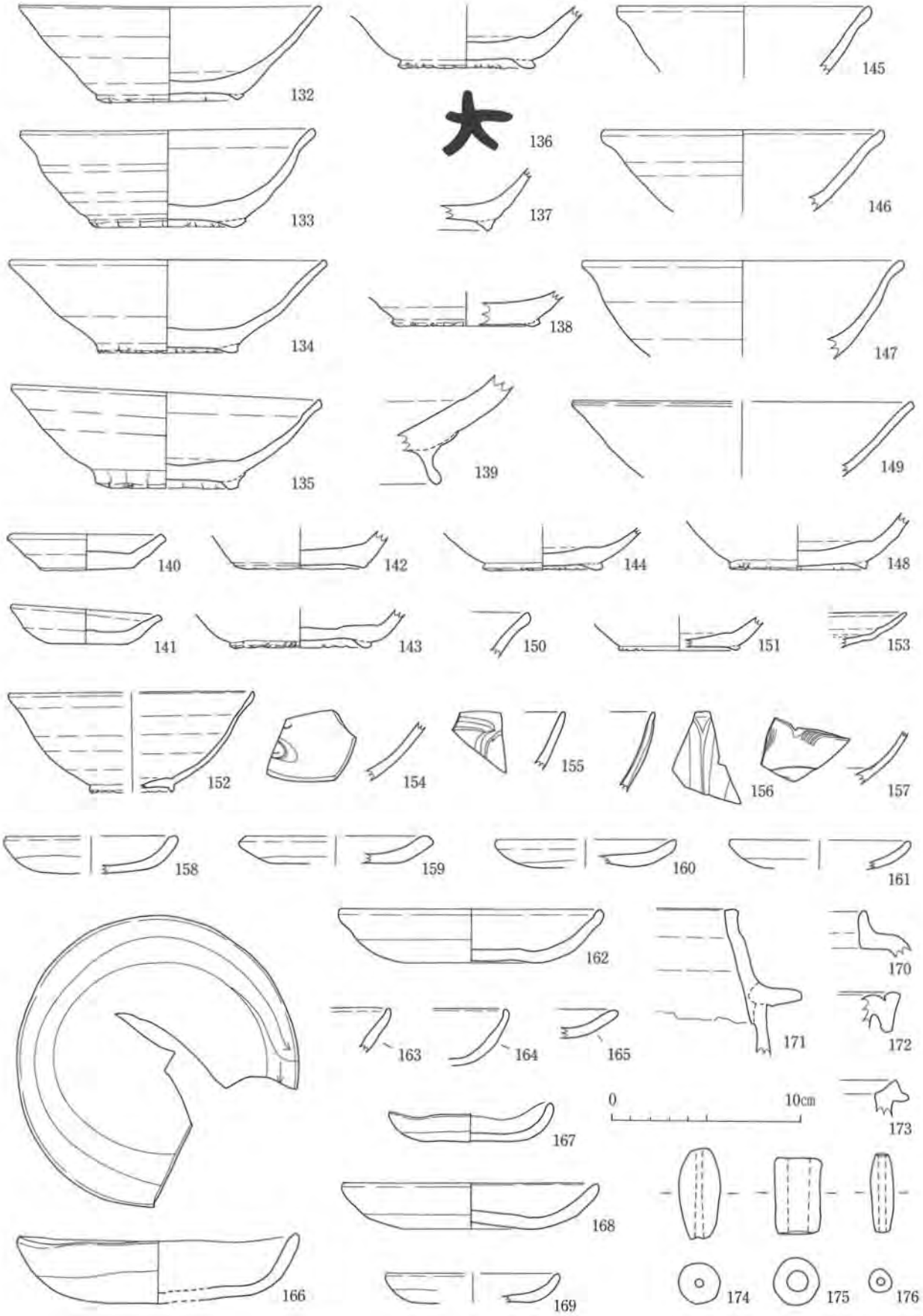

P38（55）
SB 7（57～59）
SB 3（60～62）
P680（56）
SB 2（63）
SB 1（64～72）
P481（73～76）
SD35（77～81）
SK13（83～91）
SK17（82）
0
10cm

第49図　遺物実測図(3)

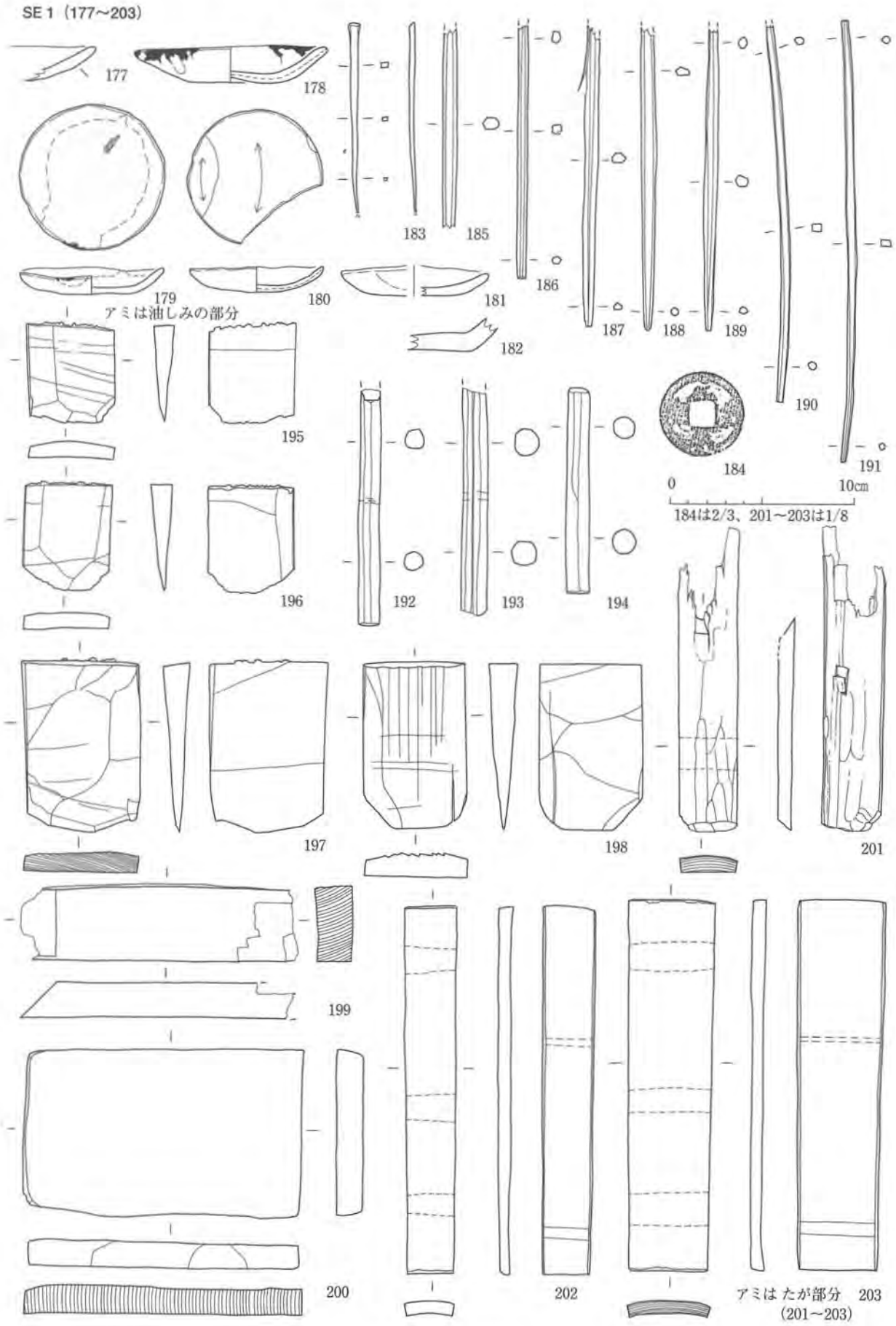

SD 1（92～131）
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
0
10cm
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131

第50図　遺物実測図(4)

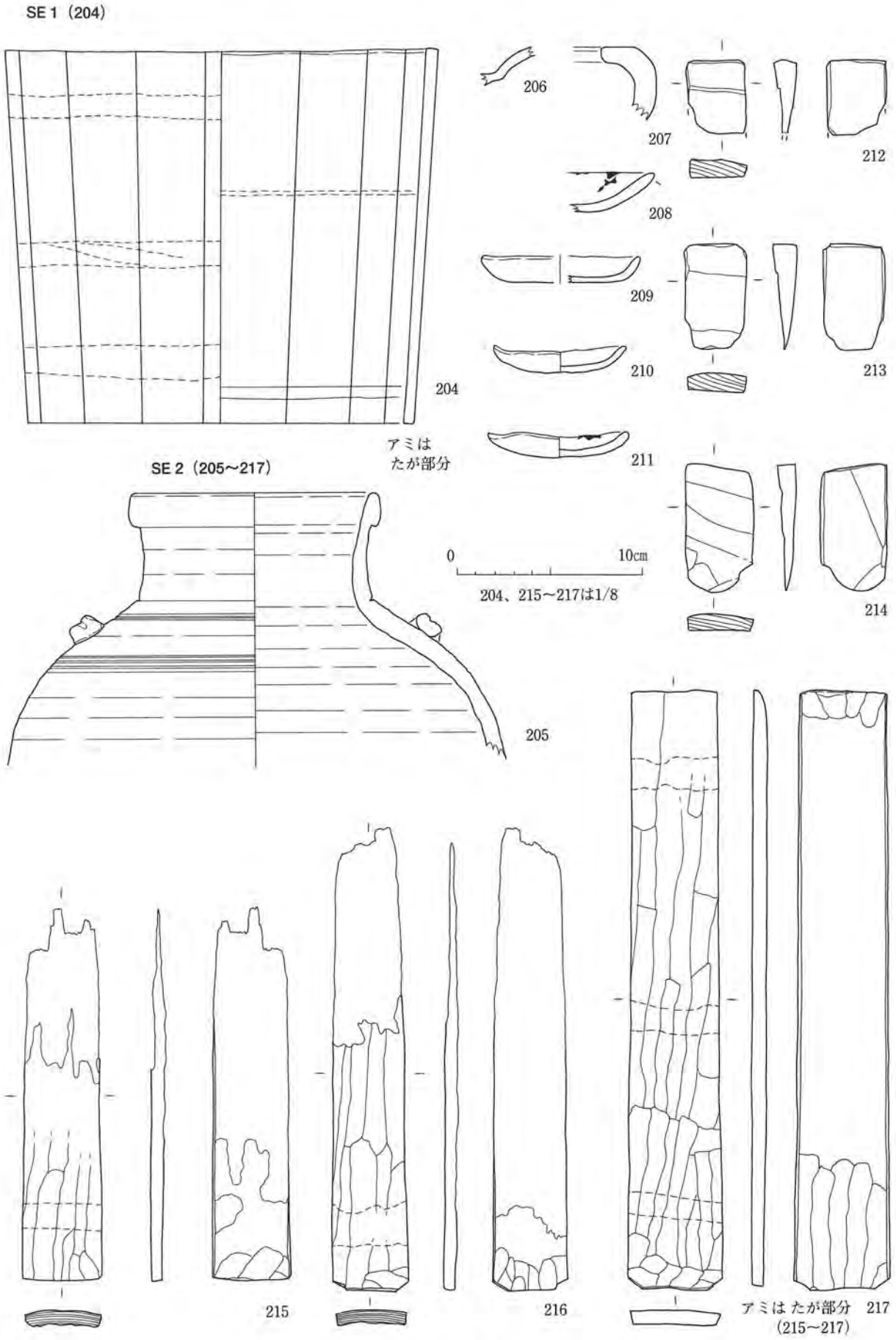
SD1（132～176）



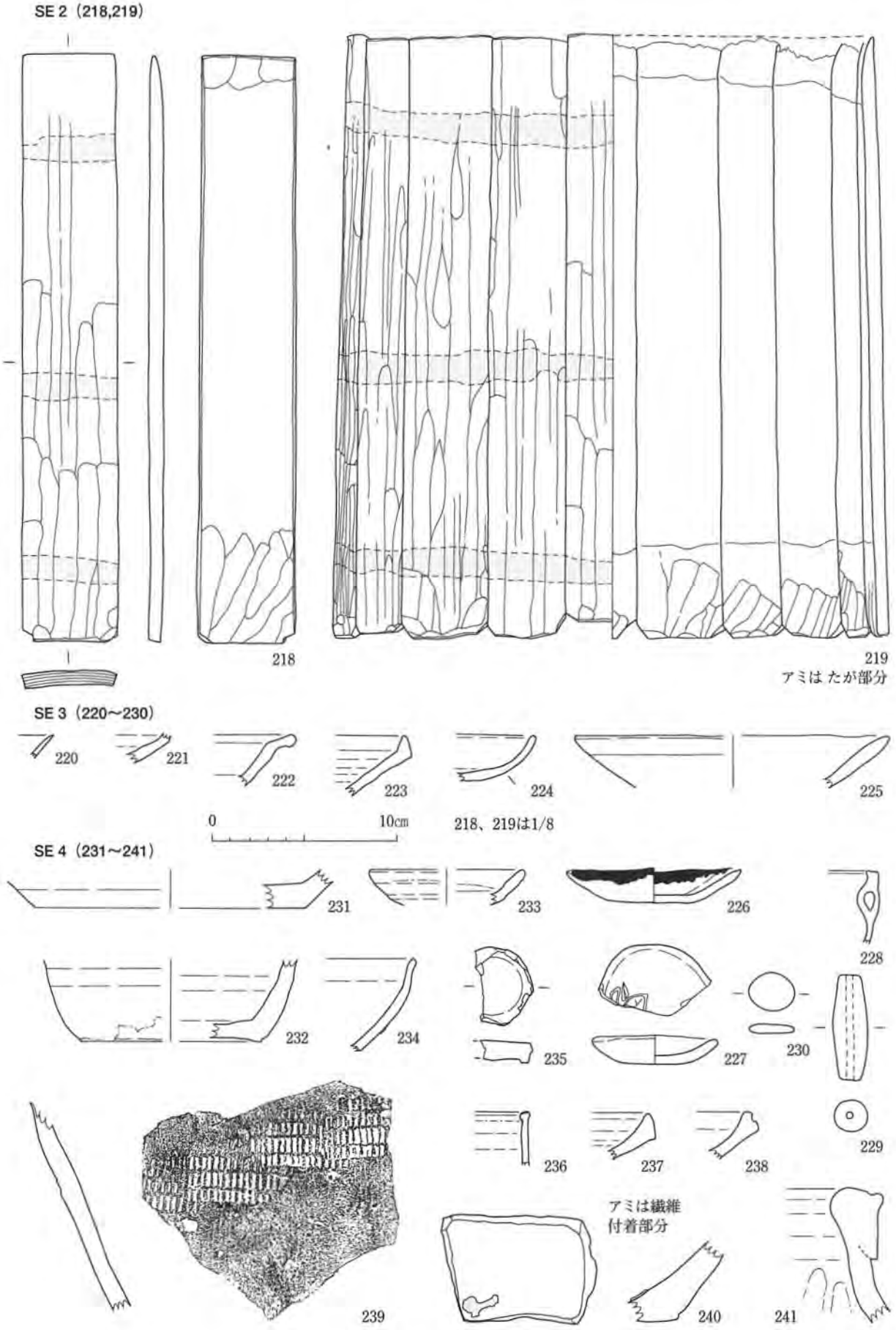
第51図　遺物実測図（5）


SE 1（177～203）
177
178
179
180
181
182
183
185
186
187
188
189
190
191
184
0
10cm
184は2/3、201～203は1/8
アミは油しみの部分
195
196
192
193
194
197
198
201
199
200
202
203
アミは たが部分
（201～203）

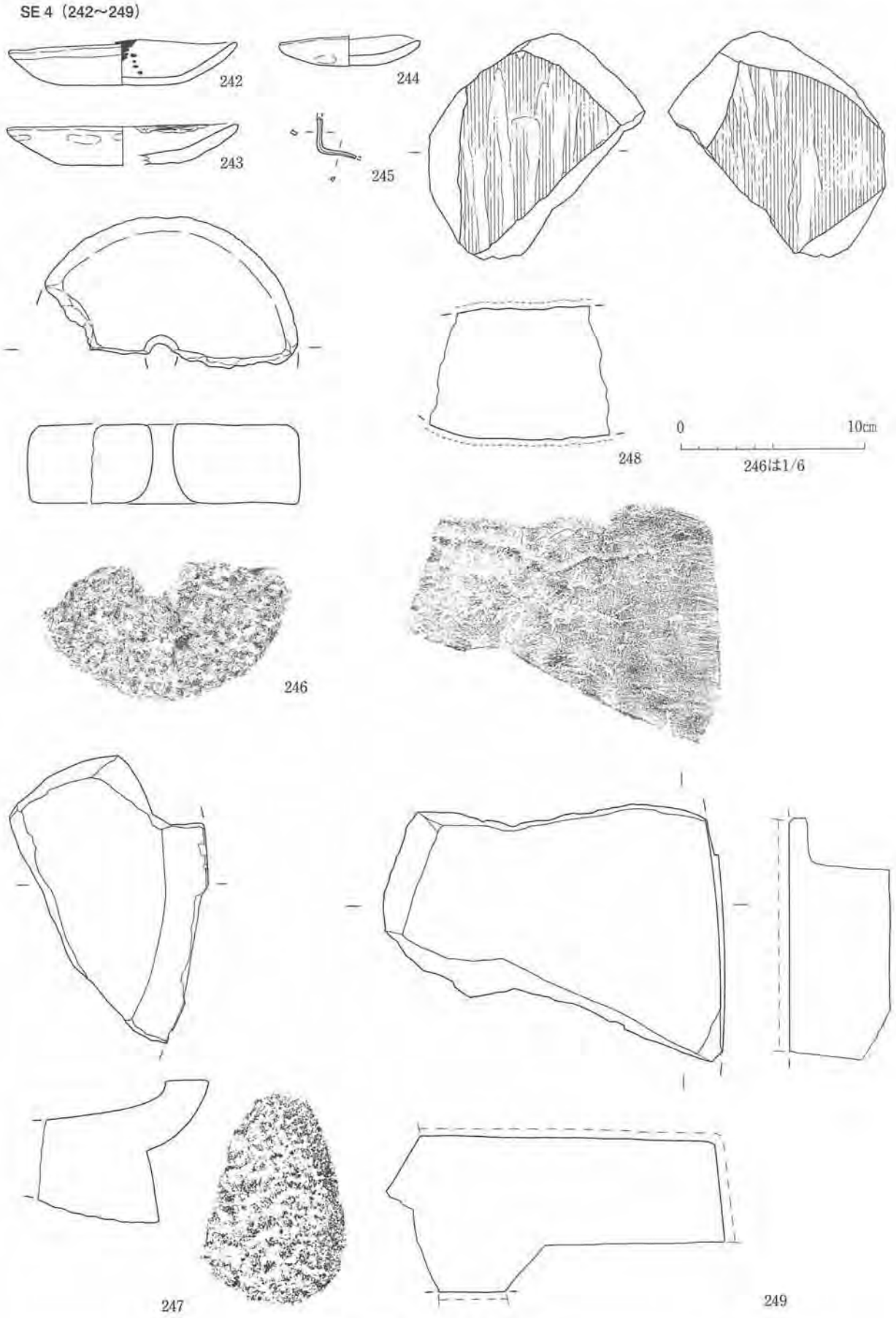
第52図　遺物実測図（6）


SE 1 (204)
204
アミは
たが部分
SE 2 (205～217)
205
206
207
208
209
210
211
212
213
214
0
10cm
204、215～217は1/8
215
216
アミは たが部分 217
(215～217)

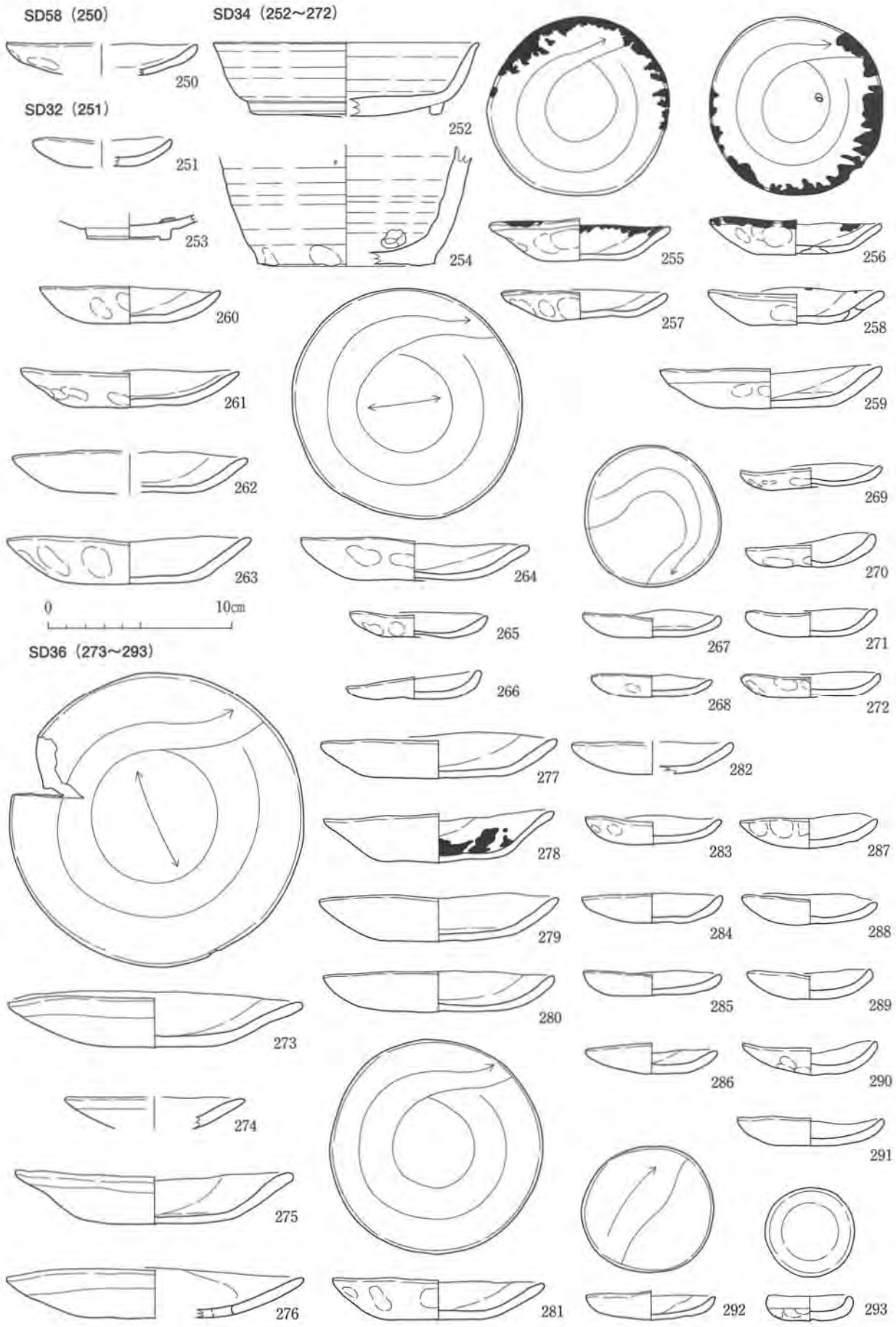
第53図　遺物実測図(7)


SE 2 (218,219)
218
219
アミは たが部分
SE 3 (220～230)
220
221
222
223
224
225
0
10cm
218、219は1/8
SE 4 (231～241)
231
233
226
228
232
234
235
227
230
229
236
237
238
239
アミは繊維
付着部分
240
241

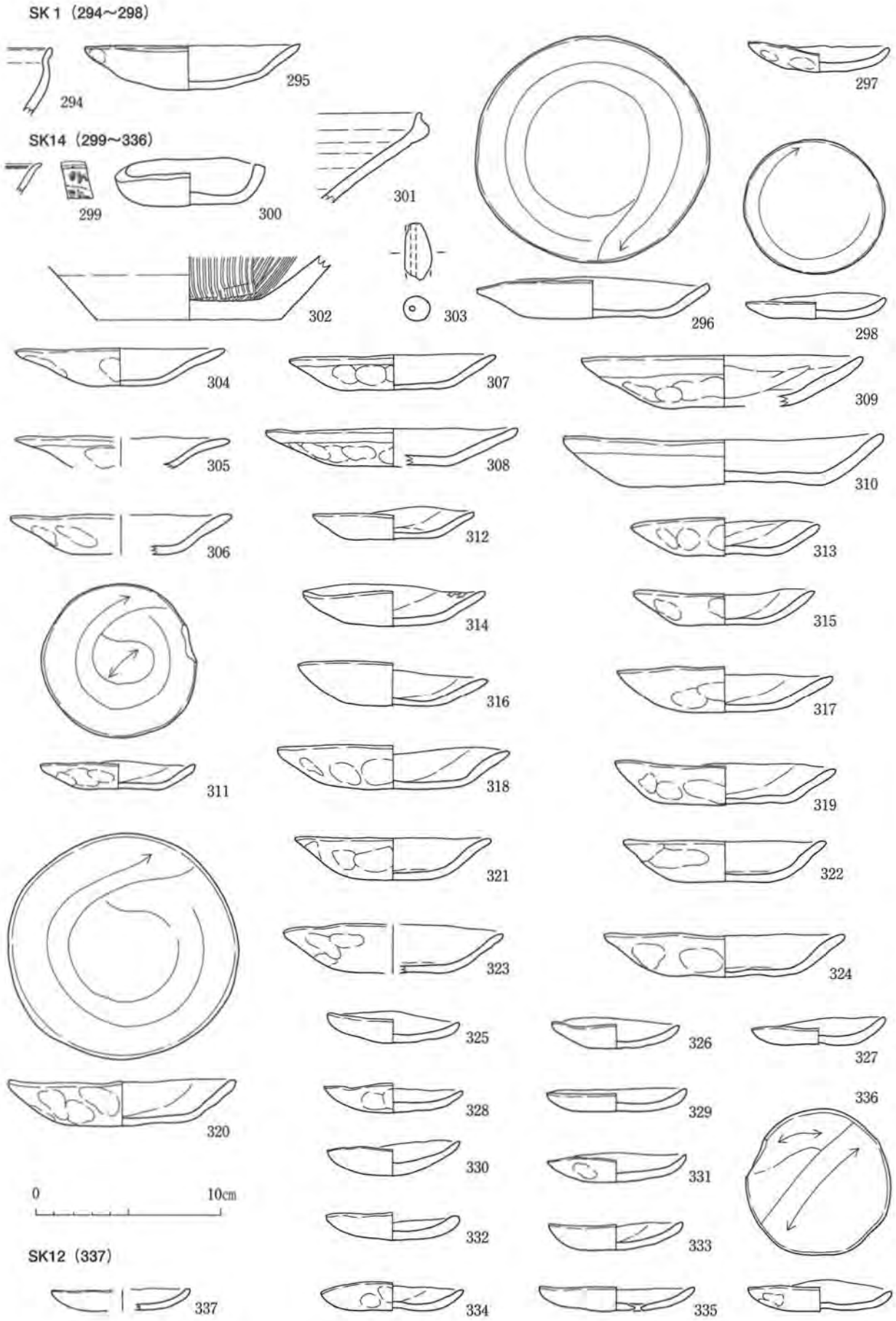
第54図　遺物実測図(8)



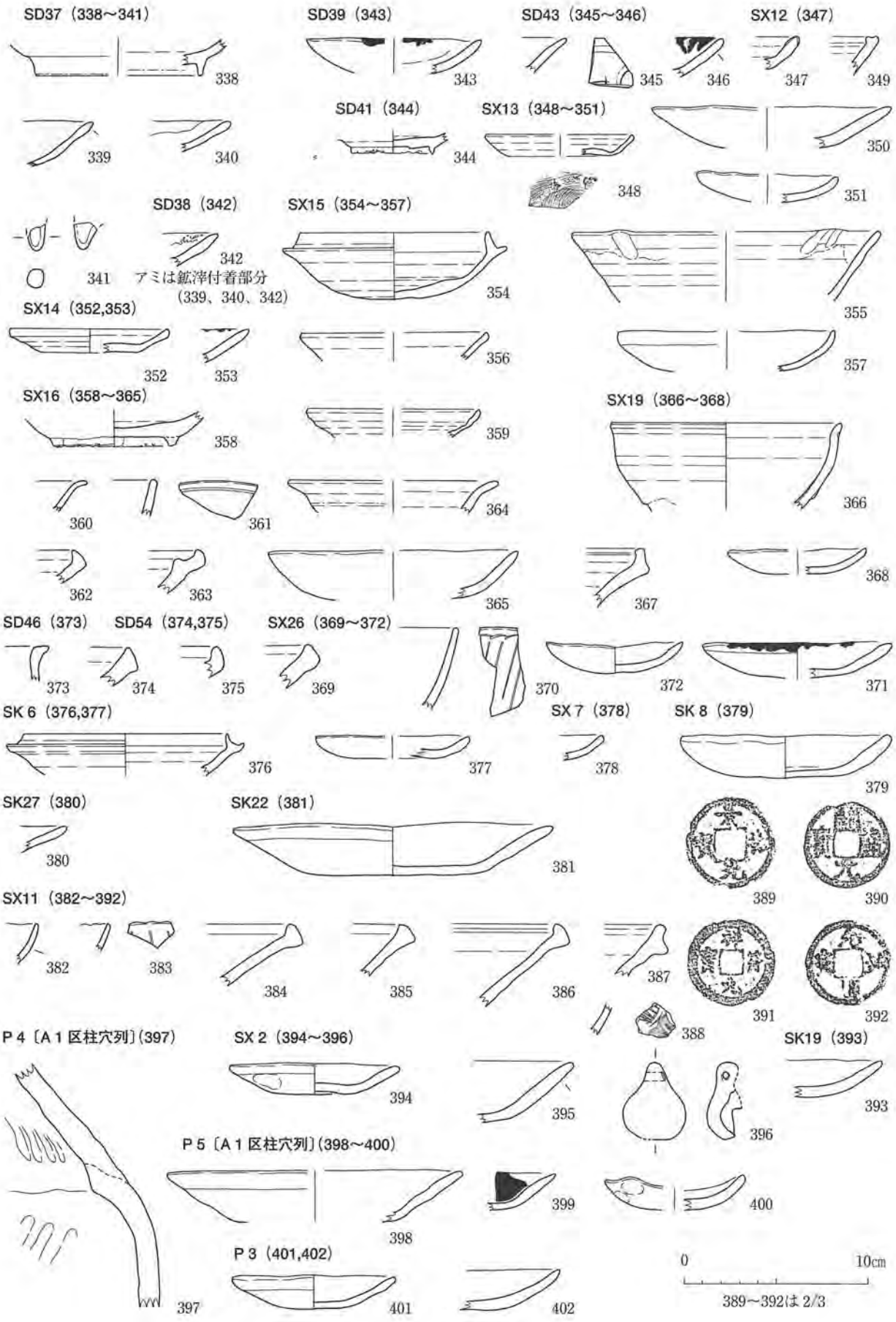
第55図　遺物実測図(9)



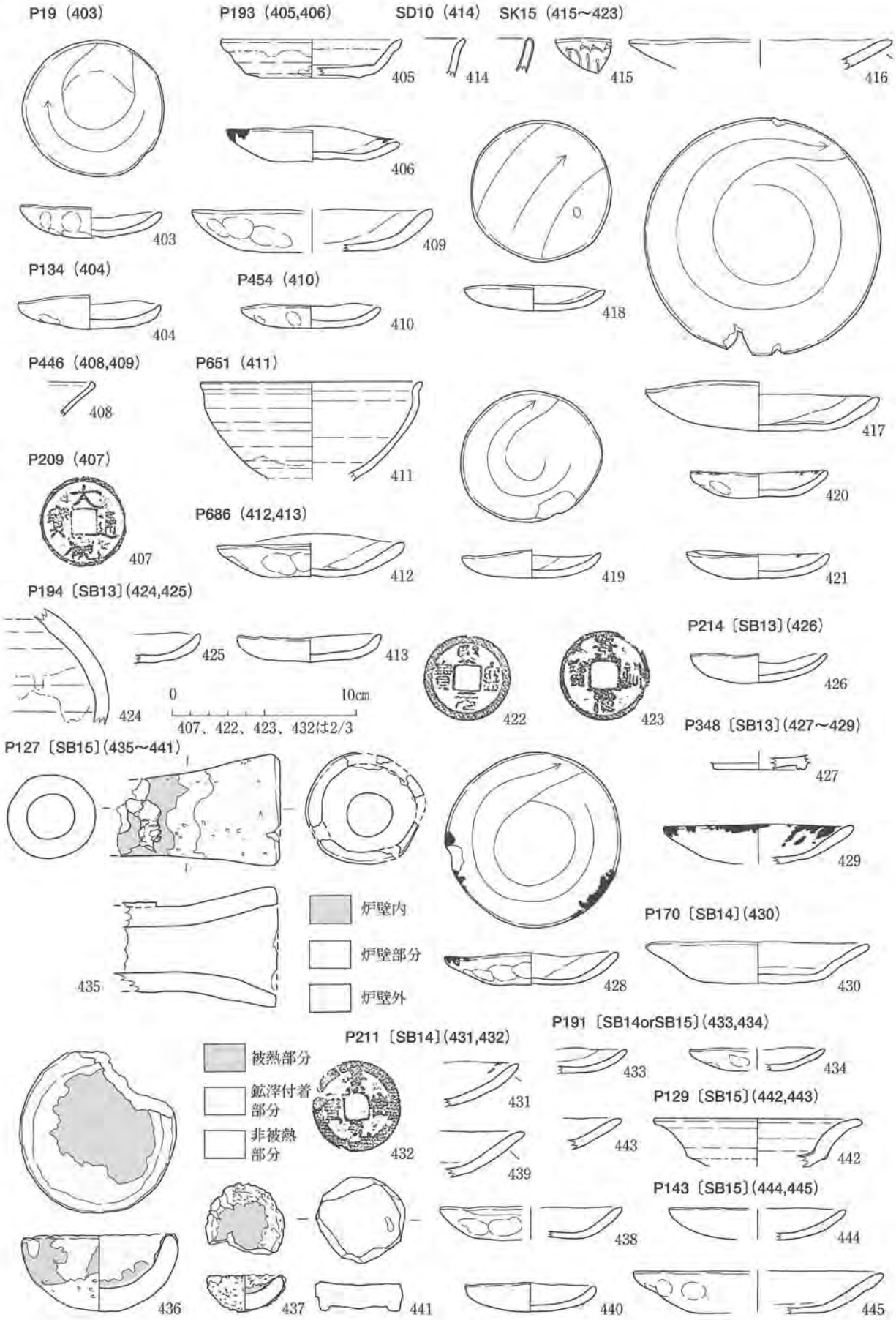
第56図　遺物実測図(10)



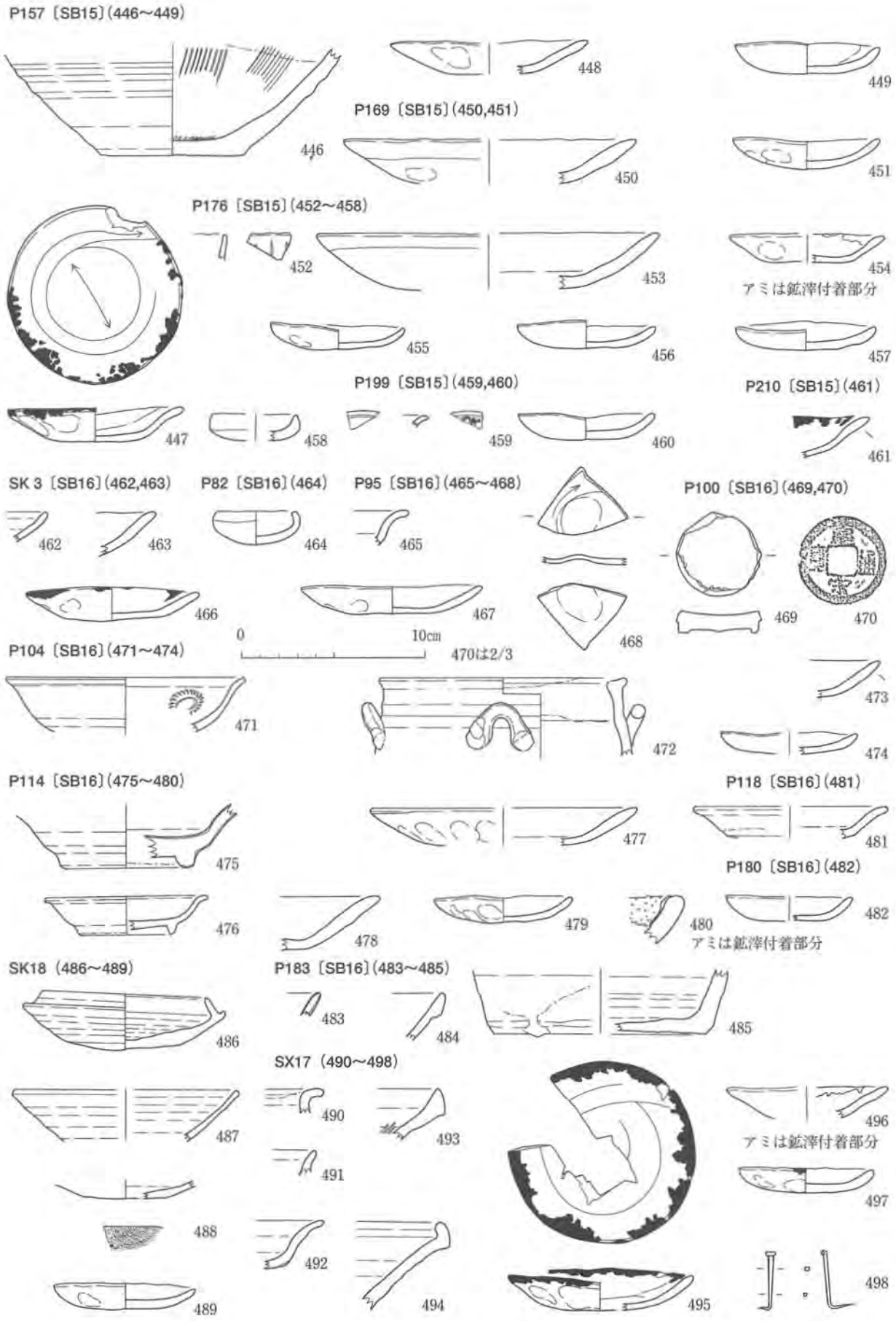
第57図　遺物実測図(11)



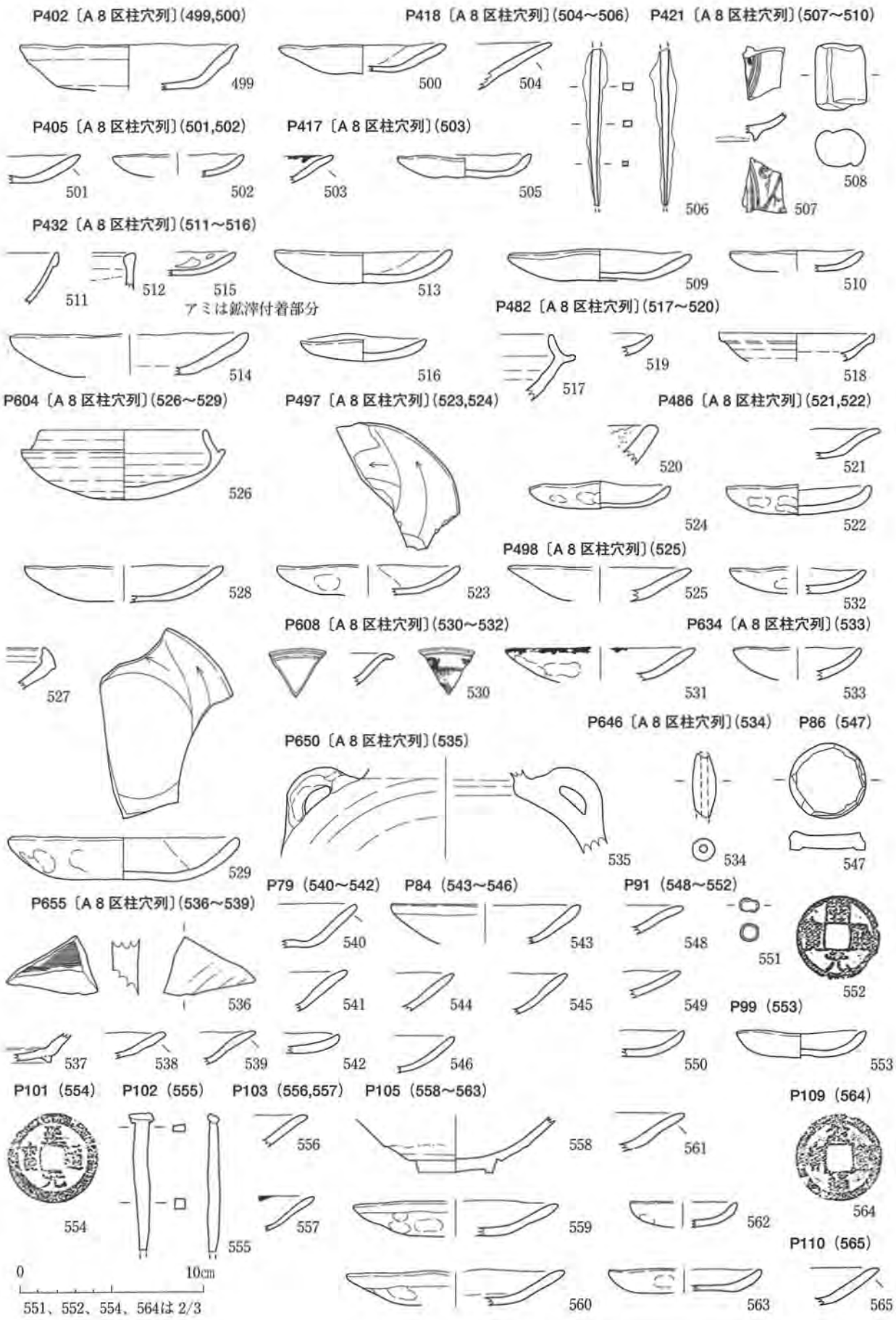
第58図　遺物実測図(12)



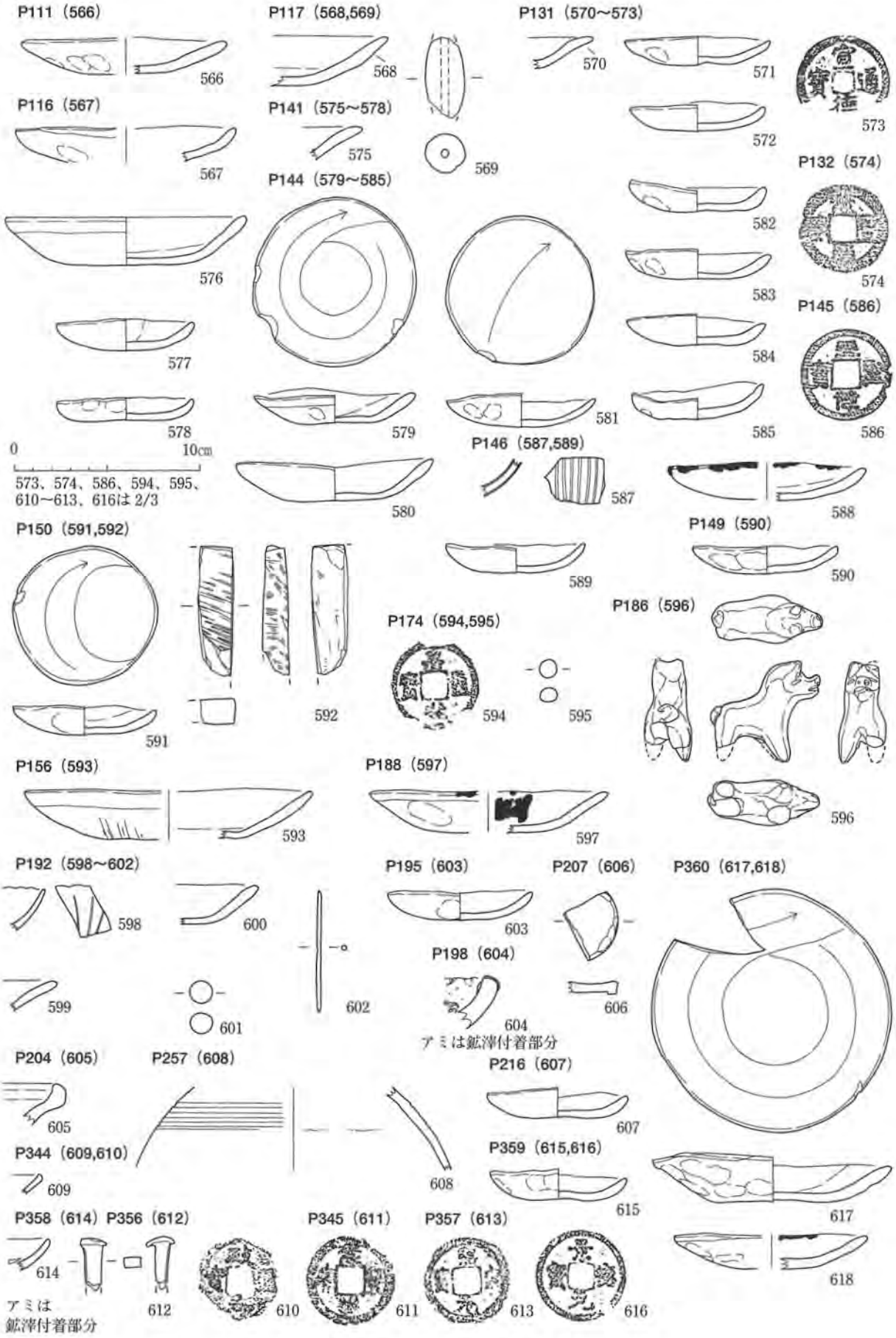
第59図　遺物実測図(13)



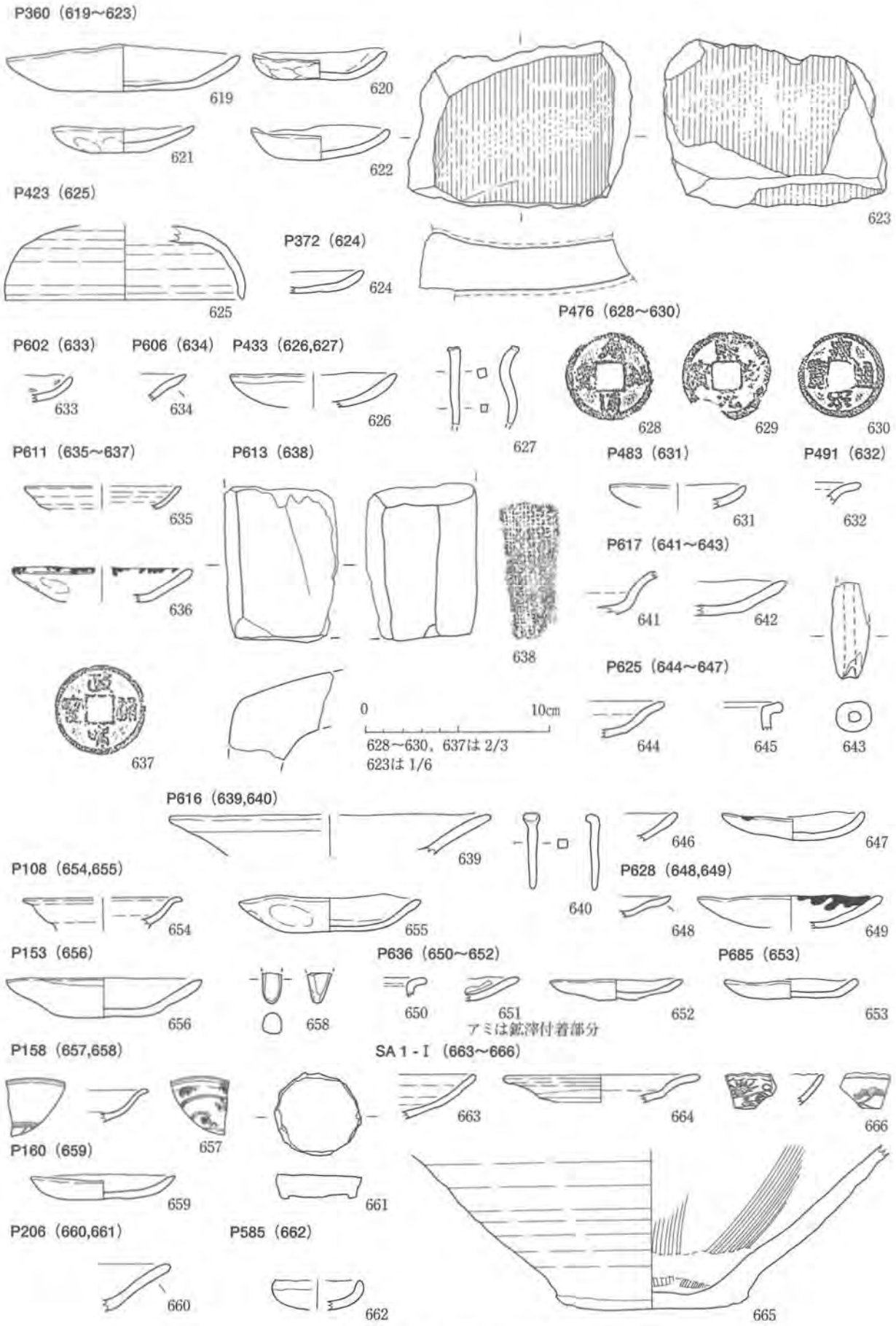
第60図　遺物実測図(14)



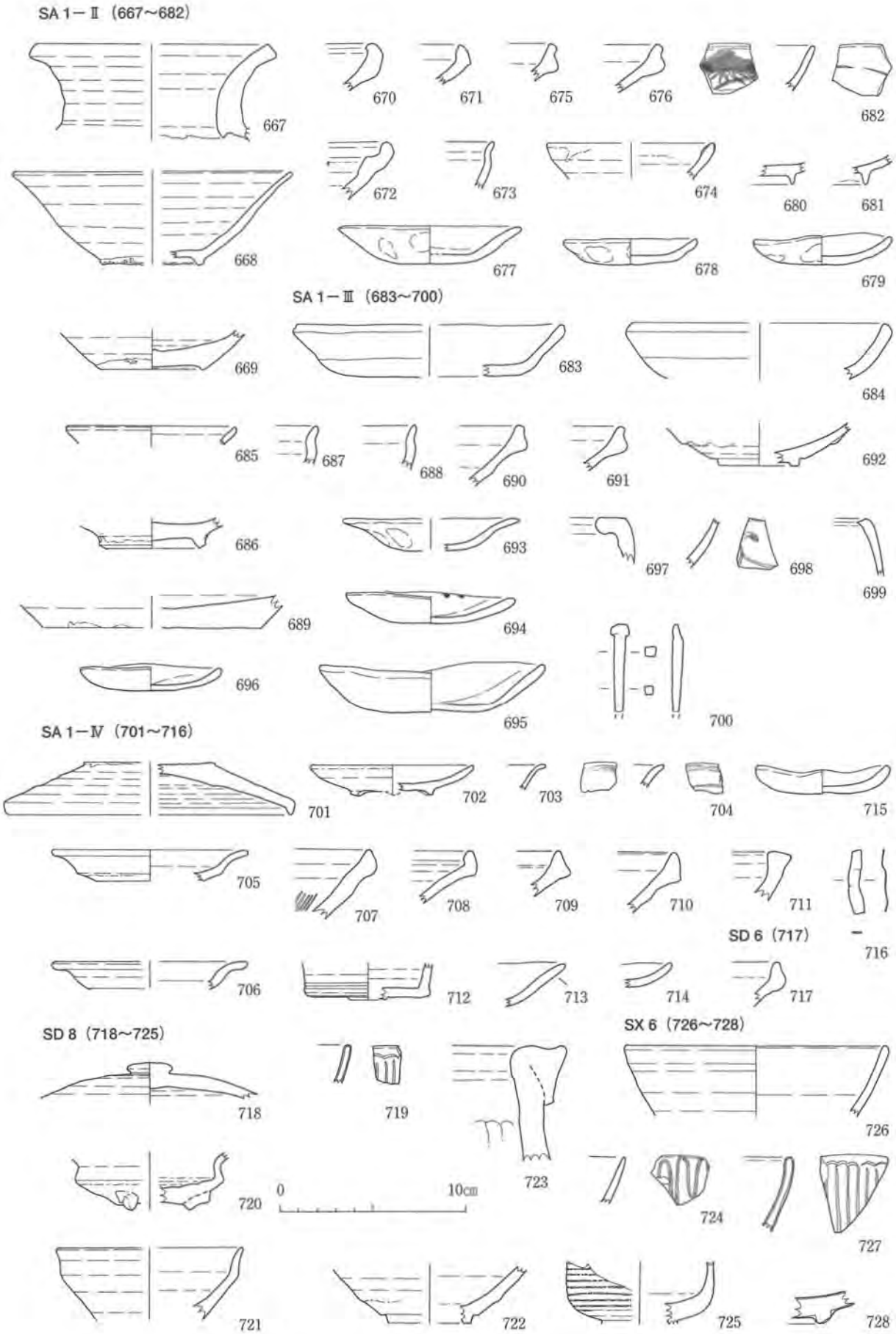
第61図　遺物実測図(15)



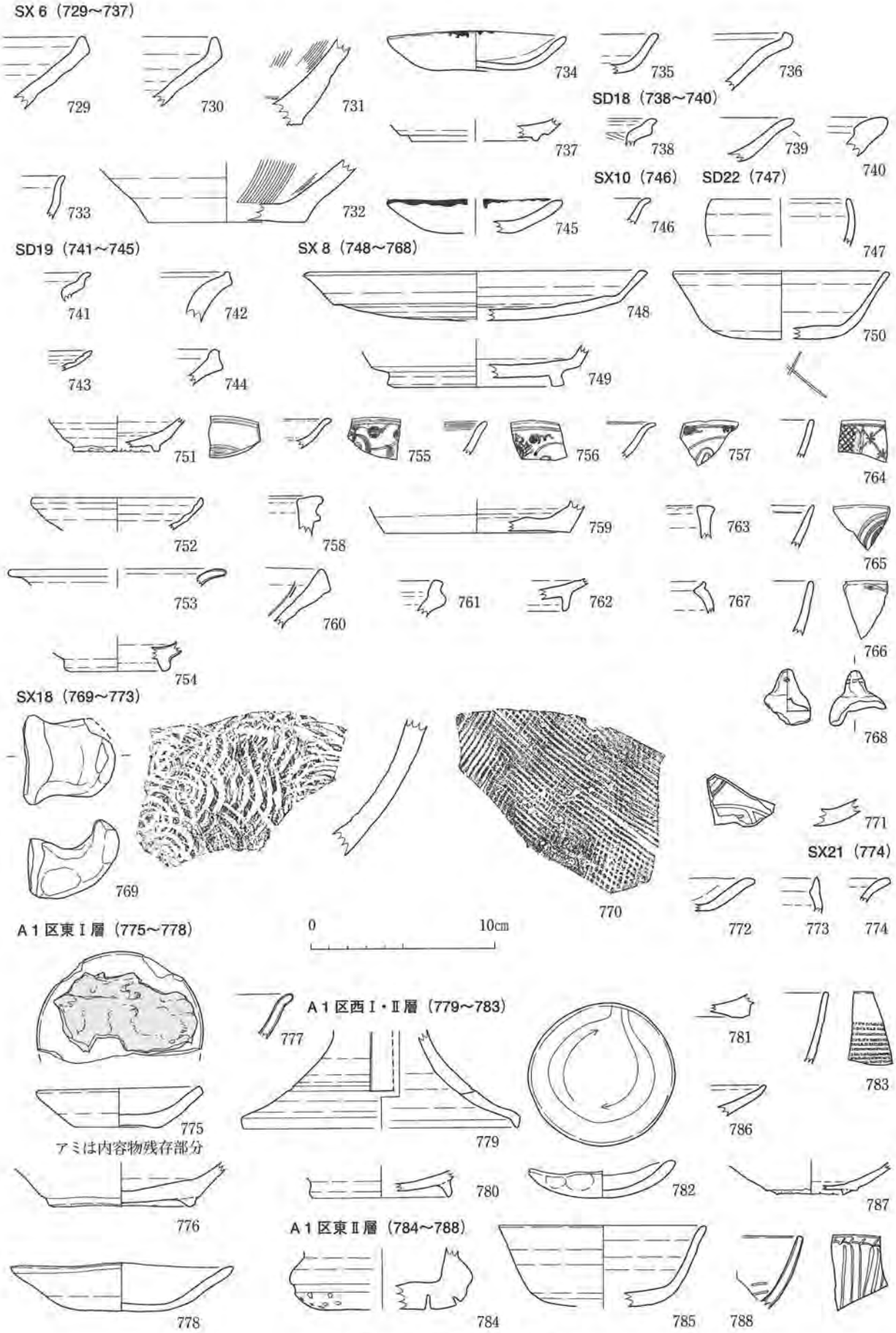
第62図　遺物実測図(16)



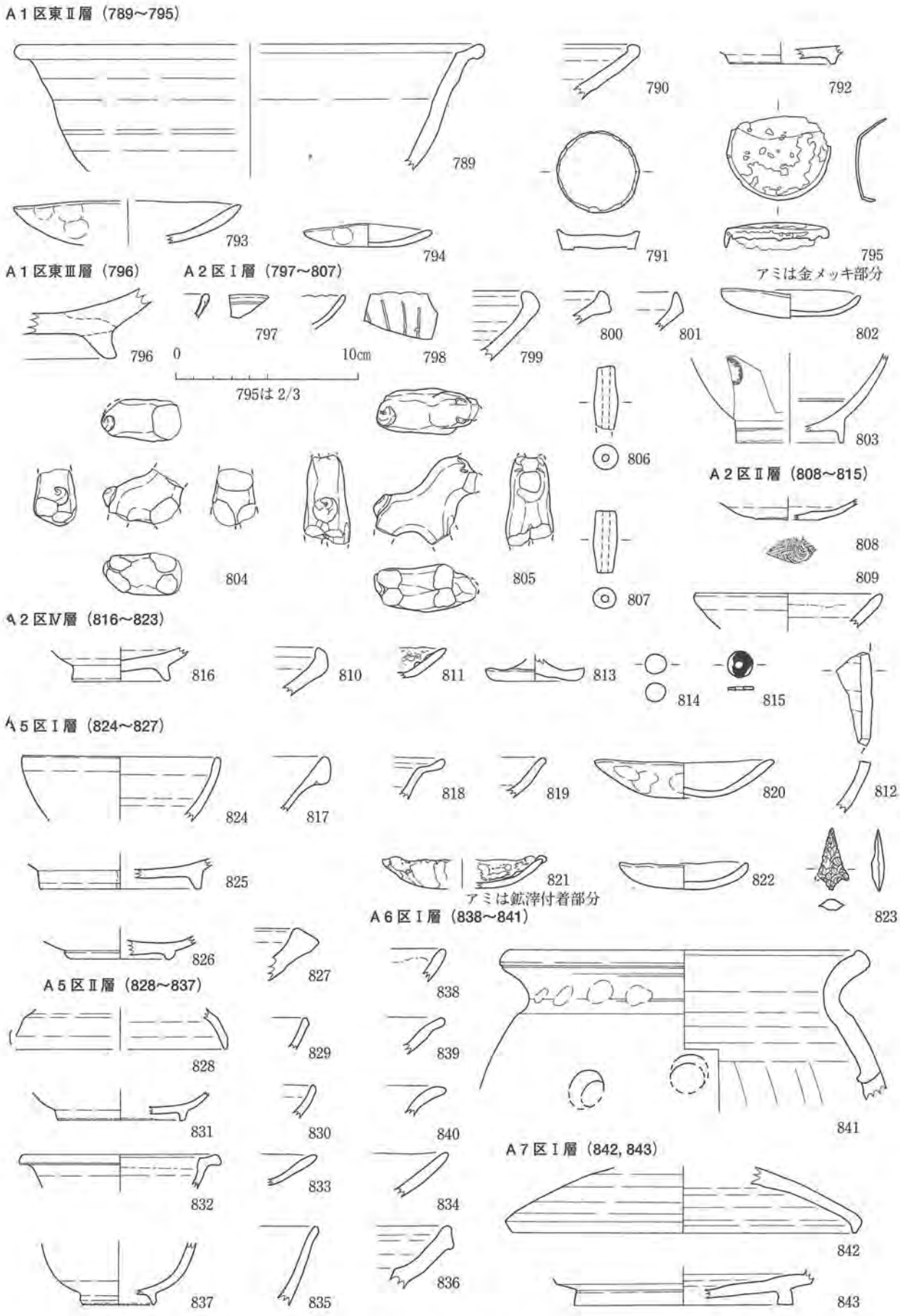
第63図　遺物実測図(17)



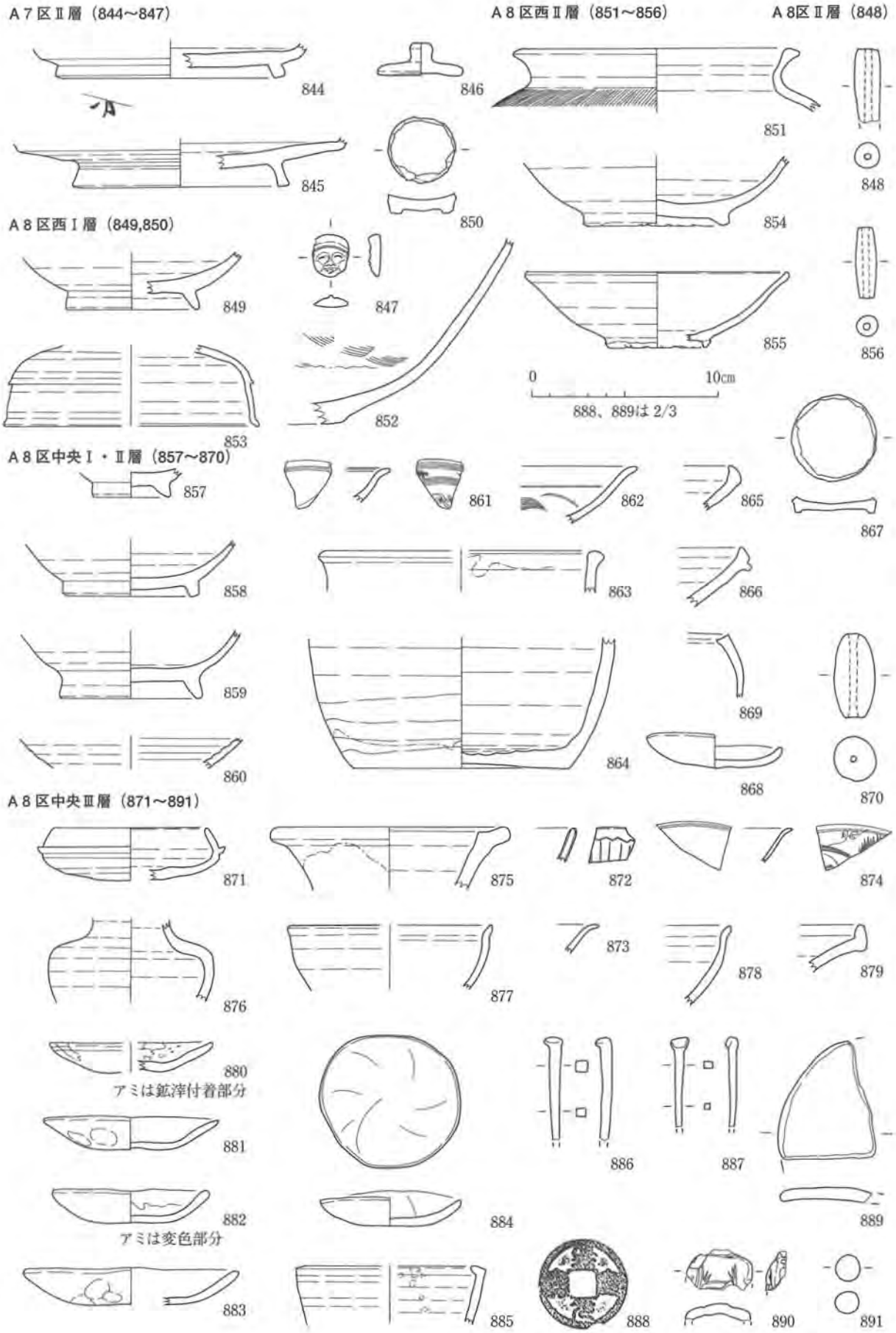
第64図　遺物実測図(18)



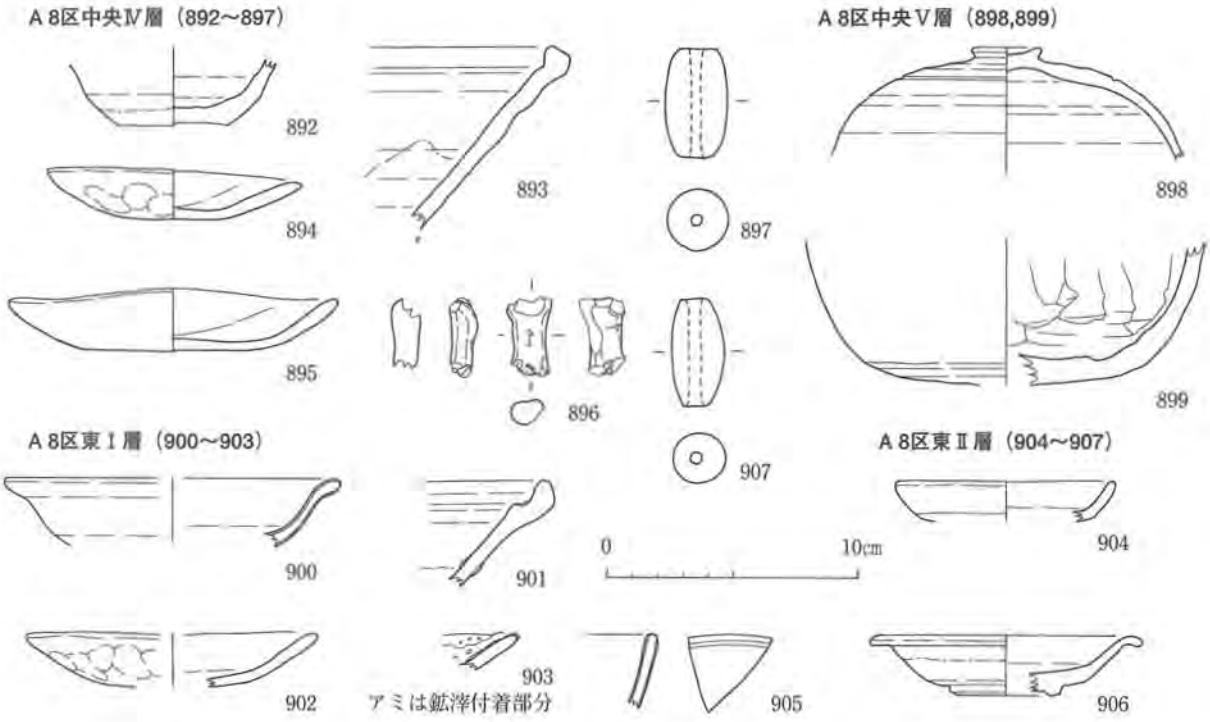
第65図　遺物実測図(19)



第66図　遺物実測図(20)



第67図　遺物実測図(21)



第68図　遺物実測図(22)

SB

番号	地区	時期	平面形	規模(m)	備考	図版
1	A7	2	正方形	一辺3.63、深0.13	北西壁にカマド	15
2	A7	2	長方形	長辺3.15、短辺(1.80)、深0.10		15
3	A7	2	方形	長辺4.38、短辺(3.13)、深(0.10)	北西壁にカマド	15
4	A7	1	方形	長辺3.03、短辺(1.78)、深0.08	北西壁にカマド	10
5	A7	1	長方形	長辺4.88、短辺3.63、深0.10		10
6	A7	1	方形	長辺(2.88)、短辺(2.63)、深0.08		11
7	A7	2	方形	長辺(3.75)、短辺(3.25)、深0.10	北西壁にカマド	14
8	A8	1	方形	長辺(5.83)、短辺(5.70)、深0.40	西壁にカマド	7
9	A8	1	正方形	一辺4.50、深0.15		9
10	A8	1	方形	一辺3.40、深0.25	北西壁にカマド	6
11	A8	－	不明	長辺(3.00)、短辺(2.55)、深0.13		6
12	A8	1	方形	長辺6.00、短辺(4.25)、深0.40		8
13	A2	4-2	－	東西6.15(2間)、南北2.66(1間)		35
14	A2	4-2	－	東西4.76(1間)、南北3.49(2間)		36
15	A2	4-2	－	東西5.78(3間)、南北(3.83)(2間)		36
16	A2	4-2	－	東西9.19(3間)、南北3.45(2間)		37

SE

番号	地区	時期	平面形	規模(m)	備考	図版
1	A1	4-1	不整円形	井戸側径0.75、掘方径2.73、深2.92		19
2	A6	4-1	円形	井戸側径(0.75)、掘方径(2.83)、深(1.15)		20
3	A8	4-1	円形	掘方径(3.03)、深(0.83)		21
4	A8	4-1	円形	掘方径(2.60)、深(1.53)		22

SD

番号	地区	時期	断面形	規模(m)	備考	図版
1	A1	3	扁平U字形	長(10.85)、幅3.80、深0.90		17
2	欠番					
3	欠番					
4	欠番					
5	A1	5	V字形	長(6.4)、幅0.45、深0.30		別2
6	A1	5	U字形	長(6.4)、幅0.55、深0.20		別3
7	A1	1	扁平U字形	長(7.40)、幅1.05、深0.13		17
8	A2	5	不整V字形	長(24.75)、幅(1.95)、深0.25		別1
9	A2	4-2	不明	長(2.60)、幅0.48、深0.08		34
10	A2	4-2	不明	長(3.48)、幅1.23、深0.10		34
11	A5	－	不明	長(2.50)、幅0.18、深0.05		29
12	A5	4-1	緩いV字形	長(6.25)、幅0.45、深0.23		29
13	A5	－	不明	長(6.00)、幅0.40、深0.05		45
14	A5	5	不明	長(6.25)、幅(0.78)、深0.28		29
15	A5	－	不明	長(2.75)、幅(0.38)、深0.05		30
16	A5	5	不明	長(6.88)、幅(1.35)、深0.10		42
17	A5	－	扁平U字形	長(6.25)、幅0.38、深0.10		29
18	A5	5	逆台形	長(8.13)、幅(1.68)、深0.18		42
19	A5	5	扁平U字形	長(8.75)、幅1.53、深0.25		42
20	A5	－	不明	長(5.38)、幅(0.25)、深0.05		45
21	A5	－	扁平U字形	長(1.70)、幅(0.60)、深0.08		45
22	A7	5	不明	長(7.63)、幅0.70、深0.15		23
23	A7	5	扁平U字形	長(7.63)、幅0.65、深0.08		43
24	A7	5	U字形	長(6.45)、幅0.18、深0.20		43
25	A7	5	緩いV字形	長(6.45)、幅0.25、深0.20		43
26	A2	5	扁平U字形	長(3.88)、幅0.78、深0.14		別1

SD

番号	地区	時期	断面形	規模(m)	備考	図版
27	A2	－	逆台形	長(2.63)、幅1.00、深0.33		30
28	A7	5	不明	長(2.38)、幅(0.20)、深0.05		43
29	A7	4-1	不明	長(5.58)、幅(0.23)、深(0.05)		23
30	欠番					
31	A7	4-1	U字形	長(7.63)、幅0.23、深0.15		23
32	A7	4-1	不明	長(3.90)、幅(1.05)、深0.18		24
33	A5	－	不明	長(2.70)、幅0.20、深0.06		45
34	A7	4-1	U字形	長(4.15)、幅0.50、深0.25		24
35	A7	2	扁平U字形	長(5.13)、幅0.63、深0.05		16
36	A7	4-1	U字形	長(7.50)、幅0.28、深0.33		24
37	A8	4-1	逆台形	長(8.25)、幅(1.38)、深0.33		26
38	A8	4-1	V字形	長(8.25)、幅0.33、深0.13		26
39	A8	4-1	扁平U字形	長(8.25)、幅(1.33)、深0.13		26
40	A8	4-1	不明	長(2.88)、幅0.25、深0.10		26
41	A8	4-1	緩いV字形	長(6.25)、幅0.25、深0.10		26
42	A8	4-1	扁平U字形	長(7.75)、幅(0.25)、深0.20		26
43	A8	4-1	緩いV字形	長(8.75)、幅1.00、深0.28		26
44	A8	4-1	不明	長(6.25)、幅(0.33)、深0.10		26
45	A8	4-1	不明	長(6.45)、幅(0.20)、深0.13		26
46	A8	4-1	緩いV字形	長(6.45)、幅0.25、深0.13		26
47	A8	4-1	不整U字形	長(4.83)、幅0.48、深0.20		26
48	A8	4-1	扁平U字形	長(10.00)、幅(1.03)、深0.08		26
49	A8	4-1	扁平U字形	長(3.83)、幅0.35、深0.08		9
50	A2	3	逆台形	長(4.80)、幅0.55、深0.20		13
51	A2	1	不整V字形	長(5.25)、幅(3.00)、深0.95		12
52	A2	－	扁平U字形	長(4.43)、幅0.75、深0.23		12
53	A7	－	不明	長(2.63)、幅(0.25)、深0.08		24
54	A8	4-1	不整V字形	長(6.67)、幅0.75、深0.25		9
55	A7	－	不明	長(0.55)、幅0.20、深0.04		45
56	A2	－	扁平U字形	長(5.75)、幅0.93、深0.30		12
57	A2	－	扁平U字形	長(1.45)、幅0.35、深0.05		13
58	A8	4-1	逆台形	長(6.94)、幅0.56、深0.40		別4

SK

番号	地区	時期	平面形	規模(m)	備考	図版
1	A1	4-1	長方形	長辺1.33、短辺1.03、深(0.50)		25
2	A2	4-2	不整形	長軸(0.98)、短軸0.75、深0.03		34
3	A2	4-2	不明	長軸(0.75)、短軸(0.25)、深0.30		34
4	A5	4-2	不整形	長軸1.53、短軸1.18、深0.23		45
5	A5	－	不整形	長軸0.78、短軸0.73、深0.13		45
6	A5	4-1	不整楕円形	長径(2.20)、短径1.30、深1.75		29
7	A7	－	楕円形	長径0.98、短径0.63、深0.08		29
8	A2	4-1	楕円形	長径(1.13)、短径0.93、深0.18	底部に石	30
9	A5	－	不整楕円形	長径0.93、短径0.75、深0.04		30
10	A5	－	方形	長辺1.68、短辺0.45、深0.08		45
11	A2	4-1	楕円形	長径(0.85)、短径0.53、深0.10		30
12	A7	4-1	不整楕円形	長径1.23、短径0.65、深0.18		25
13	A7	2	楕円形	長径0.88、短径0.46、深0.13		16
14	A7	4-1	長方形	長辺2.25、短辺1.10、深0.46		25
15	A2	4-2	不整形	長軸(1.05)、短軸0.98、深0.38		36
16	A7	－	不整形	長軸1.05、短軸0.88、深0.25		14
17	A7	2	楕円形	長径1.00、短径0.80、深0.23		16

第3表　遺構表(1)

SK

番号	地区	時期	平面形	規模(m)	備考	図版
18	A8	4-2	不整形	長軸1.00、短軸0.93、深0.43	底部にピット2基	21
19	A8	4-1	不整楕円形	長径1.05、短径0.80、深0.10		9
20	A8	4-2	楕円形	長径0.90、短径0.55、深0.15		27
21	A2	4-1	長方形	長辺(1.84)、短辺(0.56)、深0.56		36
22	A2	4-1	長方形	長辺(1.69)、短辺(0.49)、深0.75		36
23	A2	4-1	長方形	長辺(0.45)、短辺(0.41)、深(0.38)		35
24	A2	4-1	不明	長軸(1.00)、短軸(0.25)、深—		30
25	A2	—	不整形	長軸1.13、短軸0.53、深0.10		18
26	A8	—	不明	長軸(0.95)、短軸(0.55)、深(0.13)		27
27	A2	4-1	不明	長軸(1.13)、短軸(0.43)、深0.90		30
28	A8	4-1	楕円形	長径1.40、短径(0.83)、深0.40		28

SA

番号	地区	時期	平面形	規模(m)	備考	図版
1	A8	5	—	長(4.00)、幅(3.08)、高0.75	幹中建	41

SX

番号	地区	時期	平面形	規模(m)	備考	図版
1	A1	4-1	不整長方形	長辺(4.88)、短辺1.75、深0.10		32
2	A1	4-1	不整長方形	長辺(5.15)、短辺2.50、深0.20		32
3	A1	—	不整形	長軸(1.98)、短軸1.23、深0.15		46
4	A1	—	楕円形	長径0.85、短径0.63、深0.25		11
5	A6	4-1	長方形	長辺(3.75)、短辺2.13、深(0.13)		32
6	A2	5	方形	長辺(5.0)、短辺(4.3)、深0.23		別1
7	A5	4-1	方形	長辺2.58、短辺(2.95)、深0.08		30
8	A7	5	不整方形	長辺(3.68)、短辺3.00、深0.30		44
9	A5	1	不整形	長軸1.50、短軸1.23、深0.10		13
10	A5	5	方形	長辺(2.03)、短辺(0.95)、深0.15		42
11	A2	4-1	不明	長軸(15.75)、短軸(0.50)、深0.23		31
12	A8	4-1	方形	長辺(5.90)、短辺(1.90)、深(0.13)		27
13	A8	4-1	方形	長辺(6.00)、短辺(2.20)、深(0.15)		27
14	A8	4-1	方形	長辺(6.00)、短辺2.05、深(0.13)		27
15	A8	4-1	方形	長辺(6.00)、短辺(2.65)、深(0.10)		27
16	A8	4-1	不明	深0.13	範囲不明	27
17	A8	4-2	不整形	長軸2.10、短軸(1.18)、深0.15		38
18	A8	5	方形	長辺(1.63)、短辺(1.13)、深0.53		22
19	A8	4-1	方形	長辺(7.00)、短辺2.05、深0.08		27
20	A7	—	方形	長辺1.48、短辺(0.43)、深0.25		25
21	A8	5	不整方形	長辺(2.25)、短辺2.25、深0.21		44
22	A2	1	不整形	長軸(5.25)、短軸2.33、深0.20	溝状	13
23	A2	1	不整形	長軸(5.38)、短軸0.501.75、深0.25		13
24	A8	—	方形	長辺1.55、短辺(0.53)、深0.13		21
25	A7	—	円形	径 0.35、深0.10		10
26	A8	4-1	不明	—	範囲不明	27
27	A2	3	不明	—	範囲不明	13

P

番号	地区	時期	平面形	規模(m)	備考	図版
1	A1	—	楕円形	長径0.38、短径0.28、深0.07		11
2	A1	—	楕円形	長径0.50、短径0.40、深0.05		別3
3	A1	4-1	不明	長軸0.25、短軸(0.13)、深0.12		別3
4	A1	4-1	長方形	長辺(0.56)、短辺0.53、深0.25	底部に石	33
5	A1	4-1	楕円形	長軸(0.38)、短軸0.38、深0.15	底部に石	33
6	A1	—	楕円形	長径0.53、短径0.30、深0.13	底部に木	33
7	A1	—	円形	径0.30、深0.21		33
8	A1	—	円形	径0.34、深0.18	底部に木・石	33
9	A1	—	円形	径0.23、深0.13		33
10	A1	—	楕円形	長径0.63、短径0.48、深0.30		17
11	A1	—	楕円形	長径0.30、短径0.25、深0.21		17
12	A1	—	楕円形	長径0.34、短径0.19、深0.16		33
13	A1	—	楕円形	長径0.53、短径0.38、深0.06		33
14	A1	—	不整楕円形	長径0.38、短径0.19、深0.11		33
15	A1	—	不整円形	径0.75、深0.12		33
16	A1	—	不整円形	径0.53、深0.10		33
17	A1	—	円形	径0.38、深0.19		33
18	A1	—	不整円形	径0.28、深0.12		17
19	A1	4-1	円形	径0.23、深0.10		33
20	A1	—	楕円形	長径0.53、短径0.23、深0.07		33
21	A1	—	円形	径0.38、深0.04		17
22	A1	—	長方形	長辺0.30、短辺0.23、深0.13	底部に木	46
23	A1	—	不明	長軸0.50、短軸0.20、深0.20	底部に木	46
24	A1	—	不明	長軸(0.30)、短軸(0.15)、深0.33		33
25	A1	—	不整形	長軸(0.50)、短軸(0.35)、深0.21		別3
26	A1	—	円形	径(0.20)、深0.16		17
27	A1	—	円形	径0.28、深(0.26)		17
28	欠番					
29	A1	—	不整円形	径0.30、深0.03		33
30	A1	—	楕円形	長径0.38、短径0.30、深0.02		33
31	A1	—	円形	径0.34、深0.07		33
32	欠番					
33	A1	2	不明	幅0.25、深0.25	SB6に伴うか？	11
34	A1	—	円形	径0.40、深0.70		11
35	A1	—	楕円形	長径0.35、短径0.25、深0.23	SD1内検出	別1
36	A1	—	—	長0.23、幅0.20	SD1北壁の石	17
37	A6	—	円形	径0.15、深0.02		別2
38	A6	1	楕円形	長径0.45、短径0.35、深0.26		別2
39	A6	1	円形	径0.20、深0.03		別2
40	A6	—	円形	径0.25、深0.10		別2
41	A6	—	円形	径0.38、深0.20		別2
42	A6	—	円形	径0.25、深0.03		別2
43	A6	—	不整形	長軸0.48、短軸0.40、深0.20		別2
44	A6	—	円形	径0.35、深0.17		別2
45	A6	—	円形	径0.45、深0.24		別2
46	A6	—	円形	径0.45、深0.10		別2

P

番号	地区	時期	平面形	規模(m)	備考	図版
47	A6	—	楕円形	長径0.50、短径0.35、深0.09		別2
48	A6	—	楕円形	長径0.35、短径0.30、深0.13		別2
49	A6	—	円形	径0.40、深0.12		別2
50	A6	—	楕円形	長径0.45、短径0.40、深0.11		別2
51	A6	—	楕円形	長径0.40、短径0.30、深0.08		別2
52	欠番					
53	欠番					
54	A6	—	楕円形	長径0.30、短径0.20、深0.08		別2
55	A6	—	楕円形	長径0.50、短径(0.33)、深0.10		別2
56	A6	—	楕円形	長径0.50、短径0.40、深0.16		別2
57	A6	—	不整円形	径0.41、深0.22		別2
58	A6	—	円形	径0.40、深0.08		別2
59	A6	—	不整円形	径0.55、深0.10		別2
60	A6	—	楕円形	長径0.30、短径0.23、深0.05		別2
61	A6	—	不整円形	径0.30、深0.08		別2
62	A6	—	不整円形	径0.28、深0.05		別2
63	A6	—	円形	径0.40、深0.20		別2
64	欠番					
65	欠番					
66	A6	—	円形	径0.20、深0.08		別2
67	A6	—	円形	径0.35、深0.23		別2
68	A6	—	円形	径0.43、深0.12		32
69	A6	—	楕円形	長径0.33、短径0.25、深0.16		32
70	A6	—	楕円形	長径0.43、短径0.28、深0.12		32
71	A6	—	円形	径0.20、深0.10		別2
72	A6	—	楕円形	長径0.30、短径0.23、深0.09		32
73	A6	—	楕円形	長径0.40、短径(0.25)、深0.24		32
74	A6	—	楕円形	長径(0.38)、短径0.28、深0.16		32
75	A6	—	不整形	長軸(0.35)、短軸(0.20)、深0.04		別2
76	A6	1	不明	長軸(0.35)、短軸(0.28)、深0.25		32
77	A2	4-1	不整円形	径0.68、深0.15		35
78	欠番					
79	A2	4-2	円形	径0.38、深0.21		37
80	A2	4-2	不整円形	径0.38、深0.04		37
81	A2	4-1	不整形	長軸0.45、短軸0.41、深0.07		37
82	A2	4-2	不整形	長軸0.53、短軸0.49、深0.45	底部に石 SB16	37
83	A2	4-1	不整形	長軸(0.45)、短軸0.50、深0.15		37
84	A2	4-2	楕円形	長径(0.55)、短径0.40、深0.17		37
85	A2	4-2	楕円形	長径0.38、短径0.30、深0.34		37
86	A2	4-2	楕円形	長径(0.38)、短径(0.23)、深0.59		37
87	A2	4-1	円形	径0.28、深0.53		37
88	A2	4-2	不整楕円形	長径0.23、短径0.13、深0.08		37
89	A2	4-2	円形	径0.30、深0.04		37
90	A2	4-2	楕円形	長径0.73、短径0.43、深0.53	底部に石	37
91	A2	4-2	円形	径0.53、深0.19		36
92	欠番					
93	A2	4-2	円形	径0.64、深0.46		37
94	A2	4-2	楕円形	長径(0.45)、短径0.38、深0.10		37
95	A2	4-2	円形	径0.35、深0.49	SB16	37
96	A2	4-2	不整円形	径0.30、深0.26		37
97	A2	4-2	円形	径0.25、深0.08		37
98	A2	4-2	不整楕円形	長径(0.60)、短径(0.41)、深0.50		37
99	A2	4-2	楕円形	長径(0.38)、短径(0.26)、深0.14		37
100	A2	4-2	楕円形	長径(0.75)、短径0.41、深0.30	底部に石 SB16	37
101	A2	4-2	楕円形	長径0.41、短径0.26、深0.25		37
102	A2	4-2	楕円形	長径(0.56)、短径(0.38)、深0.30		37
103	A2	4-2	楕円形	長径(0.41)、短径(0.38)、深0.07		37
104	A2	4-2	不整楕円形	長径0.53、短径0.41、深0.30	底部に石 SB16	37
105	A2	4-2	円形	径0.49、深0.31		37
106	A2	4-1	円形	径0.26、深0.06		37
107	A2	—	不整円形	径0.26、深0.02		37
108	A2	4	円形	径0.30、深0.21		37
109	A2	4-2	楕円形	長径0.34、短径0.23、深0.15		37
110	A2	4-2	楕円形	長径0.34、短径0.30、深0.15		37
111	A2	4-2	不整円形	径0.34、深0.12		37
112	A2	4-2	楕円形	長径0.41、短径0.30、深0.23		37
113	欠番					
114	A2	4-2	不整楕円形	長径0.53、短径0.45、深0.53	SB16	37
115	A2	4-1	不明	長軸0.30、短軸(0.26)、深0.23		37
116	A2	4-2	不整長方形	長径0.26、短径0.23、深0.23		37
117	A2	4-2	楕円形	長径(0.60)、短径0.45、深0.23	底部に石	37
118	A2	4-2	不整楕円形	長径0.56、短径0.41、深0.48	SB16	37
119	欠番					
120	A2	4-2	不整楕円形	長径(0.23)、短径0.19、深0.23		37
121	A2	4-2	円形	径0.26、深0.11	底部に石	36
122	A2	—	楕円形	長径0.30、短径0.15、深0.08		36
123	A2	4-2	円形	径0.26、深0.09		36
124	A2	4-2	不整円形	径0.23、深0.08		36
125	A2	—	円形	径0.30、深0.07		36
126	A2	4-2	楕円形	長径0.53、短径0.38、深0.03		36
127	A2	4-2	不整楕円形	長径0.68、短径0.53、深0.45	底部に石 SB15	36
128	欠番					
129	A2	4-2	不明	長軸(0.49)、短軸(0.23)、深0.30	SB15	36
130	A2	4	不明	長軸(0.42)、短軸(0.26)、深0.38	SB15	36
131	A2	4-2	円形	径0.44、深0.23		35
132	A2	4-2	楕円形	長径0.55、短径0.44、深0.10		35
133	A2	4-1	円形	径0.38、深0.05		35
134	A2	4-1	円形	径0.30、深0.02		35
135	A2	4-2	円形	径0.49、深0.45	底部に石 SB13	35
136	A2	4-1	楕円形	長径0.45、短径0.38、深0.19		35
137	A2	4-2	不明	長軸(0.30)、短軸(0.15)、深0.27		35
138	A2	4-2	不明	長軸(0.30)、短軸(0.15)、深0.19		35
139	欠番					
140	欠番					

第4表　遺構表(2)

P

番号	地区	時期	平面形	規模	備考	図版
141	A2	4-2	不整円形	径0.60、深0.33		36
142	A2	—	不明	長軸(0.23)、短軸(0.15)、深0.15		36
143	A2	4-2	不明	長軸0.45、短軸(0.30)、深0.23	底部に石 SB15	36
144	A2	4-2	楕円形	長径0.56、短径(0.38)、深0.19		36
145	A2	4-2	楕円形	長径0.45、短径0.38、深0.15		36
146	A2	4-2	円形	径0.45、深0.31	底部に石	36
147	A2	4-1	不明	長軸(0.49)、短軸(0.23)、深0.45	底部に石	36
148	欠番					
149	A2	4-2	不整楕円形	長径0.53、短径0.41、深0.23		36
150	A2	4-2	円形	径0.42、深0.30		36
151	A2	4-2	円形	径0.15、深0.13		36
152	A2	4-2	不整円形	径0.38、深0.37		36
153	A2	4	楕円形	長径(0.75)、短径0.56、深0.26	底部に石	36
154	A2	4	円形	径0.38、深0.19		36
155	A2	4-2	円形	径0.19、深0.06		36
156	A2	4-2	楕円形	長径0.45、短径0.30、深0.19		36
157	A2	4-2	不整楕円形	長径0.75、短径0.56、深0.53	底部に石 SB15	36
158	A2	4	円形	径0.38、深0.23	底部に石	36
159	欠番					
160	A2	4	不明	幅0.25、深0.10	A2区東壁で確認	別1
161	A6	—	円形	径0.35、深0.06		別2
162	A6	—	円形	径0.38、深0.13		別2
163	A6	—	円形	径0.25、深0.05		別2
164	A6	—	不整形	長軸0.65、短軸0.40、深0.08		別2
165	A6	—	不明	長軸(0.20)、短軸(0.10)、深0.07		別2
166	A6	—	不明	長軸0.30、短軸(0.25)、深0.08		別2
167	A6	—	不整楕円形	長径0.35、短径0.25、深0.12		別2
168	A6	—	円形	径0.45、深0.10		別2
169	A2	4	不明	長軸(0.38)、短軸(0.19)、深0.23	底部に石 SB15	36
170	A2	4-2	不整楕円形	長径0.64、短径0.53、深0.45	底部に石 SB14	36
171	A2	4-2	不整円形	径0.98、深0.15		36
172	欠番					
173	A2	—	不整形	長軸0.53、短軸0.49、深0.24		36
174	A2	4-2	不整円形	径0.23、深0.10		36
175	A2	4-2	楕円形	長径0.34、短径0.23、深0.30		36
176	A2	4-2	楕円形	長径0.75、短径0.56、深0.38	底部に石 SB15	36
177	A2	—	楕円形	長径0.41、短径0.38、深0.41	底部に石 SB14	36
178	A2	—	円形	径0.15、深0.19		36
179	欠番					
180	A2	4-2	不整円形	径0.41、深0.60	底部に石 SB16	37
181	A2	4-2	円形	径0.53、深0.41		37
182	A2	4-2	楕円形	長径0.53、短径0.38、深0.38		37
183	A2	4-2	楕円形	長径0.53、短径0.38、深0.41	SB16	37
184	A2	4-2	不整楕円形	長径(0.79)、短径(0.53)、深0.45	SB16	37
185	A2	4-2	楕円形	長径0.64、短径0.53、深0.30	底部に石 SB16	37
186	A2	4-2	円形	径0.55、深0.53	犬形土製品出土	37
187	欠番					
188	A2	4-2	不整円形	径0.38、深0.29		37
189	A2	4	不明	長軸0.60、短軸(0.35)、深0.53	SB16	37
190	欠番					
191	A2	4-2	楕円形	長径0.83、短径0.53、深0.26	底部に石SB14or15	36
192	A2	4-2	円形	径0.53、深0.34	底部に石	36
193	A2	4-1	不明	長軸0.56、短軸(0.38)、深0.26	底部に石	35
194	A2	4-2	楕円形	長径0.26、短径0.19、深0.26	SB13	35
195	A2	4-2	不整円形	径0.34、深0.27		35
196	A2	4-2	円形	径0.30、深0.08		37
197	A2	—	円形	径0.23、深0.08		37
198	A2	4-2	楕円形	長径0.75、短径0.55、深0.10		別1
199	A2	4-2	楕円形	長径0.56、短径0.45、深0.19	底部に石 SB15	36
200	A2	4-1	楕円形	長径0.94、短径0.60、深0.36		31
201	A2	—	不明	長軸0.83、短軸(0.38)、深0.05		31
202	A2	—	楕円形	長径0.30、短径0.23、深0.07		31
203	A2	—	円形	径0.15、深0.18		31
204	A2	4-2	楕円形	長径0.34、短径0.26、深0.30		37
205	A2	—	不整円形	径0.34、深0.11		31
206	A2	4	円形	径0.45、深0.38		37
207	A2	4-2	不明	長軸(0.45)、短軸(0.41)、深0.56	底部に石	37
208	A2	4-2	不明	長軸(0.34)、短軸(0.08)、深0.15		36
209	A2	4-1	円形	径0.38、深0.15		36
210	A2	4-1	長方形	長辺0.53、短辺0.42、深0.10	底部に石 SB15	36
211	A2	4	不明	長軸(0.49)、短軸(0.45)、深0.41	底部に石 SB14	36
212	A2	4-1	不明	長軸(0.41)、短軸(0.15)、深0.23		35
213	A2	4	円形	径(0.20)、深0.20		35
214	A2	4-2	楕円形	長径0.19、短径0.15、深0.23	SB13	35
215	A2	4-2	円形	径0.26、深0.14		35
216	A2	4-2	円形	径0.30、深0.10		36
217	A2	4-2	不明	長軸(0.38)、短軸(0.49)、深0.11		36
218	A2	—	楕円形	長径0.30、短径0.19、深0.12		36
219	欠番					
220	A2	4-1	不整形	長軸0.15、短軸0.10、深0.12		37
221	A5	—	円形	径0.48、深0.12		別2
222	A5	—	不整形	長軸0.83、短軸0.60、深0.11		別2
223	A5	—	不明	長軸0.35、短軸(0.33)、深0.05		別2
224	A5	—	不整円形	径0.23、深0.02		30
225	A5	—	不整円形	径0.33、深0.05		29
226	A5	—	円形	径0.55、深0.09		42
227	A5	—	不整円形	径0.30、深0.05		42
228	A5	—	楕円形	長径0.65、短径0.30、深0.09		42
229	A5	—	円形	径0.25、深0.04		42
230	A5	—	不明	長軸(0.55)、短軸(0.20)、深0.05		42
231	A5	—	円形	径0.20、深0.03		42
232	A5	—	不整形	長軸(0.50)、短軸0.25、深0.04		42
233	A5	—	不明	長軸(0.20)、短軸(0.15)、深0.03		42
234	A5	—	不明	長軸(0.50)、短軸(0.18)、深0.04		42

P

番号	地区	時期	平面形	規模	備考	図版
235	A5	—	不明	長軸(0.45)、短軸(0.25)、深0.02		42
236	A5	—	不明	長軸(0.30)、短軸(0.20)、深0.03		42
237	A5	—	円形	径0.23、深0.03		42
238	A5	—	不明	長軸(0.30)、短軸(0.18)、深0.04		42
239	A5	—	不整形	長軸0.23、短軸0.15、深0.05		42
240	A5	—	楕円形	長径0.20、短径0.15、深0.05		42
241	A5	—	円形	径0.20、深0.04		42
242	A5	—	楕円形	長径0.20、短径0.15、深0.02		42
243	A5	—	楕円形	長径0.40、短径0.30、深0.05		42
244	A5	—	円形	径0.35、深0.02		42
245	A6	—	不明	長軸0.25、短軸(0.20)、深0.10		20
246	A2	4	長方形	長辺0.30、短辺0.19、深0.06		37
247	A2	—	円形	径0.15、深0.04		37
248	A2	—	楕円形	長径0.23、短径0.15、深0.08		37
249	欠番					
250	A2	—	不整形	長軸(0.49)、短軸(0.34)、深0.30		35
251	A2	4-2	不明	長軸(0.53)、短軸(0.34)、深(0.30)	底部に石 SB13	35
252	A2	4	不明	長軸(0.15)、短軸(0.15)、深0.19		35
253	A2	4-2	円形	径0.23、深0.19	SB14	36
254	A2	—	円形	径0.15、深0.15		36
255	A2	4	円形	径0.15、深0.07		36
256	A2	—	円形	径0.23、深0.17		36
257	A2	4-2	円形	径0.19、深0.11		36
258	A2	4-2	不明	長軸0.30、短軸(0.26)、深0.38		36
259	A2	4	円形	径0.23、深0.11		36
260	A2	—	円形	径0.25、深0.04		31
261	A2	—	楕円形	長径0.31、短径0.23、深0.05		31
262	A2	4	不整形	長軸0.60、短軸0.34、深0.13		37
263	欠番					
264	A2	—	楕円形	長径0.30、短径0.20、深0.13		別1
265	欠番					
266	A2	4-2	楕円形	長径0.35、短径0.25、深0.19		37
267	A2	—	円形	径0.23、深0.15		37
268	A2	4-1	円形	径0.15、深0.05		36
269	欠番					
270	欠番					
271	A2	4	円形	径0.19、深0.15		36
272	A2	4-1	円形	径0.40、深0.20	底部に石	37
273	A2	—	楕円形	長径0.25、短径0.20、深0.07		37
274	A2	4	不整形	長軸(0.68)、短軸0.53、深0.11	底部に石	36
275	A2	4	不明	長軸(0.25)、短軸(0.20)、深—		35
276	A2	4-1	楕円形	長径0.60、短径(0.38)、深0.53	底部に石 SB15	36
277	欠番					
278	A2	—	不明	長軸(0.40)、短軸(0.25)、深0.15		37
279	A2	—	円形	径0.08、深0.03		37
280	A2	4	不明	長軸(0.35)、短軸(0.30)、深0.36	底部に石 SB14	36
281	欠番					
282	A2	4-1	不整形	長軸0.64、短軸0.60、深0.26		36
283	A2	—	不明	長軸0.53、短軸(0.38)、深0.15	底部に石 SB15	36
284	A2	—	不明	長軸(0.45)、短軸(0.23)、深0.23		36
285	A2	4	不明	長軸(0.42)、短軸(0.30)、深0.05		36
286	欠番					
287	A2	—	楕円形	長径0.41、短径0.34、深0.08	底部に石	35
288	欠番					
289	A2	4-2	不明	長軸0.45、短軸(0.24)、深0.11		37
290	A2	4	円形	径0.30、深0.09	底部に石	37
291	A7	—	円形	径0.33、深0.10		15
292	A7	—	円形	径0.20、深0.07		10
293	A7	—	不整楕円形	長径0.33、短径(0.25)、深0.10		10
294	A7	—	不整楕円形	長径0.23、短径0.18、深0.05		10
295	A7	—	不明	長軸(0.35)、短軸(0.23)、深0.11		10
296	A7	—	不整楕円形	長径0.18、短径0.13、深0.07		10
297	A7	—	円形	径0.15、深0.05		10
298	A7	—	円形	径0.13、深0.60		10
299	A7	—	円形	径0.15、深0.13		10
300	A7	—	円形	径0.30、深0.08		16
301	A7	—	楕円形	長径0.40、短径0.31、深0.27		16
302	A7	—	円形	径0.43、深0.28		16
303	A7	—	円形	径0.33、深0.15		16
304	A7	—	不整楕円形	長径0.20、短径0.13、深0.06		10
305	A7	—	円形	径0.15、深0.05		10
306	A7	—	円形	径0.20、深0.03	底部に石	16
307	A7	—	円形	径0.45、深0.23		10
308	A7	—	不整楕円形	長径0.60、短径0.43、深0.25		16
309	A7	—	不明	長軸(0.56)、短軸0.50、深0.25		16
310	A7	—	円形	径0.23、深0.09		10
311	A7	—	円形	径0.20、深0.06		10
312	A7	—	楕円形	長径0.50、短径0.33、深0.15		10
313	A7	—	不整形	長軸0.45、短軸(0.40)、深0.44		10
314	A7	—	楕円形	長径0.25、短径0.20、深0.08		別3
315	A7	—	円形	径0.20、深0.05		別3
316	A7	—	不整円形	径0.38、深0.07		別3
317	A7	—	不整円形	径0.25、深0.10		10
318	A7	—	不整円形	径0.13、深0.05		10
319	A7	—	円形	径0.25、深0.06		別3
320	A7	—	不整円形	径0.45、深0.10		23
321	A7	—	楕円形	長径0.45、短径0.26、深0.09		別3
322	A7	—	円形	径0.26、深0.10		別3
323	A7	—	楕円形	長径0.35、短径0.28、深0.06		別3
324	A7	—	円形	径0.30、深0.10		別3
325	A7	—	円形	径0.40、深0.31		別3
326	A7	—	不整円形	径0.20、深0.11		別3
327	A7	—	楕円形	長径0.30、短径0.25、深0.13		別3
328	A7	—	楕円形	長径0.33、短径0.28、深0.13		別3

第5表　遺構表(3)

P

番号	地区	時期	平面形	規模	備考	図版
329	A7	—	円形	径0.30、深0.22		別3
330	A7	—	円形	径0.28、深0.06		別3
331	A7	—	円形	径0.20、深0.07		別3
332	A7	—	不整円形	径0.38、深0.11		別3
333	A7	1	不明	長軸(0.35)、短軸(0.25)、深0.14		別3
334	A7	1	円形	径(0.33)、深0.09		別3
335	A7	—	不明	長軸(0.40)、短軸(0.20)、深0.04		別3
336	A7	—	円形	径0.38、深0.05	底部に石	43
337	A7	—	楕円形	長径0.33、短径0.20、深0.07		43
338	A7	—	不明	長軸(0.53)、短軸(0.45)、深0.08		別3
339	A7	—	円形	径0.30、深0.05		別3
340	A7	—	不明	長辺0.20、短辺0.18、深—	石のみ	43
341	A7	—	不整円形	径0.55、深0.33		別3
342	A7	—	不明	長軸0.25、短軸0.15、深0.13		別3
343	A7	—	楕円形	長径0.25、短径0.15、深0.10		別3
344	A8	4-2	不整円形	径0.33、深0.13		39
345	A8	4-2	不明	長軸(0.68)、短軸(0.24)、深0.04		39
346	A2	4-1	円形	径0.23、深(0.15)		36
347	A2	—	楕円形	長径0.53、短径0.23、深0.19		37
348	A2	4-2	不整楕円形	長径0.60、短径0.38、深0.38	底部に石 SB13	35
349	A2	—	円形	径0.23、深0.11		36
350	A2	—	円形	径0.15、深0.08		36
351	A2	4	円形	径0.20、深0.08		31
352	A2	4	円形	径0.19、深0.15		31
353	欠番					
354	欠番					
355	欠番					
356	A8	4-2	不整楕円形	長径0.58、短径0.50、深0.36		39
357	A8	4-2	楕円形	長径0.41、短径0.19、深0.09		39
358	A8	4-2	不整楕円形	長径0.33、短径0.25、深0.11		39
359	A8	4-2	不明	長軸(0.50)、短軸0.50、深0.26		39
360	A8	4-2	正方形	一辺0.53、深0.20		39
361	A8	4-2	楕円形	長径0.45、短径0.34、深0.23		39
362	A8	—	楕円形	長径0.60、短径0.41、深0.23		39
363	A8	—	楕円形	長径0.53、短径0.35、深0.15		46
364	A8	—	楕円形	長径0.35、短径0.25、深0.10	底部に石	46
365	A8	—	不明	長軸(0.23)、短軸(0.20)、深0.04		別4
366	A8	—	円形	径0.30、深0.07		28
367	A8	—	円形	径0.28、深0.20		28
368	欠番					
369	A8	—	楕円形	長径0.43、短径0.28、深0.10		28
370	A8	—	円形	径0.30、深0.25		別4
371	A8	—	不整円形	径0.30、深0.14		28
372	A8	4-2	不整方形	長辺0.55、短辺0.53、深0.18	底部に石・木	28
373	A8	—	楕円形	長径0.48、短径0.38、深0.18	底部に木	28
374	A8	—	不明	長軸(0.35)、短軸(0.20)、深0.10		別4
375	A8	—	円形	径(0.35)、深0.05		別4
376	A8	—	円形	径0.40、深0.03		別4
377	A8	—	円形	径0.30、深0.11		別4
378	A8	—	不整形	長軸0.25、短軸0.20、深0.66		別4
379	A8	—	不整形	長軸0.40、短軸0.35、深0.15		別4
380	A8	—	不整円形	径0.35、深0.04		別4
381	A8	—	円形	径0.25、深0.11		別4
382	A8	—	円形	径0.43、深0.11		別4
383	A8	—	円形	径0.45、深0.11		別4
384	A8	—	不整楕円形	長径0.50、短径0.40、深0.14		別4
385	A8	—	長方形	長辺0.60、短辺0.53、深0.10		別4
386	A8	—	不整円形	径0.51、深0.15		別4
387	A8	—	不整円形	径0.40、深0.04		別4
388	A8	—	不整円形	径0.50、深0.06		別4
389	A8	—	円形	径0.25、深0.07		別4
390	A8	—	円形	径0.25、深0.05		別4
391	A8	—	楕円形	長径0.33、短径0.20、深0.06		別4
392	A8	—	円形	径0.20、深0.07		別4
393	A8	—	楕円形	長径0.28、短径0.20、深0.05		別4
394	A8	—	円形	径0.25、深0.05		別4
395	A8	—	不整形	長軸0.35、短軸0.30、深0.07	底部に石	別4
396	A8	—	不明	長軸(0.75)、短軸00.45、深0.10		9
397	A8	4-1	楕円形	長径0.50、短径0.40、深0.11		39
398	A8	—	不整楕円形	長径0.65、短径0.45、深0.15	底部に石	39
399	A8	—	円形	径0.28、深0.05		39
400	A8	4-1	楕円形	長径0.28、短径0.20、深0.07		39
401	A8	—	不整円形	径0.50、深0.05		39
402	A8	4-2	不整形	長軸0.83、短軸0.68、深0.60	底部に石	39
403	欠番					
404	A8	4-1	楕円形	長径(0.38)、短径0.26、深0.11		39
405	A8	4-2	隅丸方形	長辺(0.83)、短辺0.79、深0.62	底部に石	39
406	A8	4-2	円形	径0.23、深0.18		39
407	欠番					
408	A8	4-2	不整円形	径0.38、深0.08		39
409	A8	4-2	円形	径0.41、深0.28		39
410	A8	—	楕円形	長径(0.23)、短径0.11、深0.04		39
411	A8	4-2	円形	径0.26、深0.07		39
412	A8	4-2	円形	径0.26、深0.18		39
413	A8	—	楕円形	長径0.45、短径0.26、深0.09		39
414	A8	—	楕円形	長径0.53、短径0.41、深0.32		39
415	A8	4-2	楕円形	長径0.41、短径0.26、深0.24		39
416	A8	4-2	楕円形	長径0.53、短径0.38、深0.11		39
417	A8	4-2	不整円形	径0.34、深0.25		39
418	A8	4-2	不整形	長軸(0.75)、短軸(0.64)、深0.64	底部に石	39
419	欠番					
420	A8	4-2	円形	径0.30、深0.14		39
421	A8	4-2	隅丸長方形	長辺(0.70)、短辺(0.55)、深0.68	底部に石	39
422	A8	4-2	円形	径0.30、深0.24		39

P

番号	地区	時期	平面形	規模	備考	図版
423	A8	4-2	円形	径0.34、深0.49		39
424	A8	4-2	円形	径0.41、深0.09		39
425	A8	4-2	円形	径0.25、深0.09		39
426	A8	4-2	不整円形	径0.23、深0.20		39
427	A8	4-2	楕円形	長径0.53、短径(0.34)、深0.31		39
428	A8	4-2	楕円形	長径0.38、短径0.30、深0.15		39
429	A8	4-2	不整形	長軸0.53、短軸(0.43)、深0.56	底部に木	39
430	A8	—	楕円形	長径0.41、短径0.30、深0.14		39
431	A8	4-2	楕円形	長径0.38、短径0.30、深0.08		39
432	A8	4-2	円形	径0.83、深0.83	底部に石	39
433	A8	4-2	楕円形	長径0.43、短径0.30、深0.19		39
434	A8	4-2	不整円形	径0.38、深0.26		39
435	A8	—	円形	径0.40、深0.28		別4
436	A8	—	不整形	長軸0.50、短軸0.45、深0.37		別4
437	A8	—	円形	径0.45、深0.21		21
438	A8	—	楕円形	長径0.35、短径0.28、深0.12		21
439	A8	—	不整円形	径0.45、深0.20		21
440	A8	—	楕円形	長径0.40、短径0.30、深0.18		21
441	A8	—	楕円形	長径0.35、短径0.28、深0.18		21
442	A8	—	円形	径0.23、深0.17		21
443	A8	4-2	円形	径0.33、深0.10	底部に石	21
444	A8	—	円形	径0.40、深0.16		21
445	A8	—	楕円形	長径0.20、短径0.18、深0.07		21
446	A8	4-1	円形	径0.38、深0.20	底部に石	21
447	A8	—	楕円形	長径0.48、短径0.23、深0.25	底部に石	21
448	A8	—	円形	径0.30、深0.13	底部に石	21
449	A8	—	不整形	長軸0.73、短軸0.65、深0.15		21
450	A8	—	楕円形	長径0.55、短径0.40、深0.32		21
451	A8	—	楕円形	長径0.40、短径0.28、深0.18		21
452	A8	4-2	不明	長軸0.55、短軸0.43、深0.13		21
453	A7	—	円形	径0.15、深0.05		24
454	A7	4-1	円形	径0.30、深0.17		25
455	A7	—	不明	—		25
456	A7	—	円形	径0.35、深0.18	底部に石	15
457	A7	—	不整円形	径0.38、深0.11		14
458	A7	—	不整円形	径0.30、深0.10		16
459	A7	—	楕円形	長径0.38、短径(0.30)、深0.09		16
460	A7	—	不整形	長軸0.40、短軸0.33、深0.09		16
461	A7	—	不整円形	径0.43、深0.10		16
462	A7	—	楕円形	長径0.55、短径0.33、深0.11		16
463	A7	—	円形	径0.20、深0.07		45
464	A8	—	不整楕円形	長径0.33、短径0.23、深0.03		39
465	A8	—	楕円形	長径0.30、短径0.20、深0.05		27
466	A8	—	円形	径0.40、深0.14		27
467	A8	—	楕円形	長径0.45、短径0.30、深0.09		27
468	A8	4-2	楕円形	長径0.45、短径0.35、深0.25	底部に石	27
469	A8	—	楕円形	長径0.43、短径0.35、深0.22		27
470	A8	—	楕円形	長径0.55、短径0.45、深0.12		27
471	A8	—	円形	径0.35、深0.17		27
472	A8	4-1	円形	径0.25、深0.06		27
473	A8	—	不整形	長軸0.35、短軸0.30、深0.15	底部に木	27
474	A8	—	不整楕円形	長径0.60、短径0.45、深0.25	底部に石	27
475	A8	—	円形	径0.30、深0.11		27
476	A8	4-2	不整形	長軸0.55、短軸(0.50)、深0.05	銭貨3枚重なる	27
477	A8	—	楕円形	長径0.40、短径0.30、深0.10	底部に石	27
478	A8	—	楕円形	長径0.40、短径0.25、深0.08		27
479	A8	—	不明	長軸0.33、短軸(0.25)、深0.08		21
480	A8	—	楕円形	長径0.40、短径0.30、深0.09		別4
481	A7	2	不明	長軸0.35、短軸(0.10)、深—		15
482	A8	4-2	不整形	長軸(0.88)、短軸(0.75)、深0.63	底部に石	38
483	A8	4-2	不整円形	径0.28、深0.16		39
484	A8	4-2	不整円形	径0.48、深0.09		39
485	A8	4-2	円形	径0.19、深0.08		39
486	A8	4-2	円形	径0.56、深0.75	底部に石	39
487	A8	4-2	円形	径0.19、深0.23		39
488	A8	—	楕円形	長径0.38、短径0.23、深0.70		39
489	A8	4-2	円形	径0.30、深0.15		39
490	A8	—	円形	径0.19、深0.16		39
491	A8	4-2	楕円形	長径0.41、短径0.38、深(0.13)		39
492	A8	4-2	不明	長軸(0.38)、短軸(0.26)、深0.06		39
493	A8	—	不明	長軸(0.19)、短軸(0.08)、深0.04		39
494	A8	—	楕円形	長径0.30、短径0.23、深0.05		39
495	A8	4-2	円形	径0.25、深0.13		39
496	A8	4-2	楕円形	長径0.28、短径0.23、深0.12		39
497	A8	4-2	楕円形	長径0.45、短径0.34、深0.70		39
498	A8	4-2	不明	長軸0.53、短軸(0.49)、深0.20		39
499	A8	4-2	円形	径0.30、深0.43		39
500	A8	—	楕円形	長径0.34、短径0.23、深0.15		39
501	欠番					
502	A2	—	不明	長軸(0.48)、短軸(0.25)、深0.34	底部に石	13
503	A2	—	円形	径0.25、深0.15		13
504	欠番					
505	欠番					
506	欠番					
507	欠番					
508	欠番					
509	A2	—	円形	径0.58、深0.19		13
510	A2	—	不整円形	径0.50、深0.34		13
511	A2	—	不明	長軸(0.50)、短軸(0.25)、深0.22		12
512	欠番					
513	A2	—	円形	径0.25、深0.34		12
514	欠番					
515	欠番					
516	欠番					

第6表　遺構表(4)

P

番号	地区	時期	平面形	規模	備考	図版
517	欠番					
518	欠番					
519	欠番					
520	A2	4	円形	径(0.38)、深0.20	底部に石	37
521	欠番					
522	欠番					
523	欠番					
524	A2	－	円形	径0.45、深0.18		13
525	欠番					
526	欠番					
527	A2	－	円形	径0.48、深0.32		13
528	A2	－	円形	径0.55、深0.27		13
529	欠番					
530	A2	－	円形	径0.33、深0.16		13
531	欠番					
532	A2	－	不整楕円形	長径0.45、短径0.35、深0.20		別1
533	A2	－	円形	径0.25、深0.05		別1
534	A2	－	円形	径0.65、深0.31		別1
535	A2	－	円形	径0.30、深0.12		別1
536	欠番					
537	欠番					
538	欠番					
539	欠番					
540	欠番					
541	欠番					
542	欠番					
543	欠番					
544	欠番					
545	A2	－	円形	径0.50、深0.15		18
546	A2	－	不明	長軸(1.75)、短軸(0.20)、深0.21		13
547	A2	－	楕円形	長径0.70、短径0.50、深0.22		12
548	欠番					
549	欠番					
550	欠番					
551	欠番					
552	欠番					
553	欠番					
554	A2	－	楕円形	長径0.35、短径0.25、深0.24		別1
555	A2	－	楕円形	長径0.35、短径0.28、深0.06		別1
556	A2	－	円形	径0.25、深0.11		別1
557	A2	－	円形	径0.25、深0.14		別1
558	A2	－	不整長方形	長辺(0.63)、短辺0.45、深0.25		別1
559	欠番					
560	欠番					
561	欠番					
562	A2	－	円形	径0.25、深0.10		別1
563	欠番					
564	欠番					
565	欠番					
566	欠番					
567	A2	－	円形	径0.30、深0.16		別1
568	A2	－	円形	径0.58、深0.16		12
569	欠番					
570	欠番					
571	欠番					
572	欠番					
573	欠番					
574	欠番					
575	A2	－	円形	径0.38、深0.11		12
576	欠番					
577	欠番					
578	A2	－	円形	径0.23、深0.19		12
579	A2	－	円形	径0.25、深0.13		12
580	A2	－	円形	径0.25、深0.18		12
581	A2	－	不明	長軸(0.45)、短軸(0.28)、深0.15		12
582	A2	－	不明	長軸(0.43)、短軸(0.25)、深0.20		12
583	A2	－	円形	径0.28、深0.18		12
584	A2	－	円形	径0.35、深0.12		12
585	A2	4	不明	長軸(0.53)、短軸(0.34)、深0.38		35
586	欠番					
587	欠番					
588	A2	4	不明	長軸(0.41)、短軸(0.26)、深0.41		35
589	欠番					
590	欠番					
591	欠番					
592	欠番					
593	A2	－	円形	径0.33、深0.13		12
594	A2	－	不整楕円形	長径0.38、短径0.33、深0.14		12
595	A2	－	楕円形	長径0.48、短径0.35、深0.16		18
596	A2	－	円形	径0.25、深－		18
597	欠番					
598	欠番					
599	欠番					
600	欠番					
601	A8	4-2	楕円形	長径0.26、短径(0.19)、深0.25		39
602	A8	4-2	楕円形	長径0.38、短径0.23、深0.15		39
603	A8	4-1	円形	径0.38、深0.09		39
604	A8	4-2	楕円形	長径0.71、短径0.56、深0.60	底部に石	39
605	A8	4-2	円形	径0.41、深0.41	底部に石	39
606	A8	4-2	円形	径0.30、深0.17		39
607	A8	4-2	楕円形	長径0.30、短径0.25、深0.16	底部に石	39
608	A8	4-2	不整円形	径0.83、深0.68	底部に石	39
609	欠番					
610	A8	4-2	円形	径0.23、深0.24		39

P

番号	地区	時期	平面形	規模	備考	図版
611	A8	4-2	楕円形	長径0.90、短径0.64、深0.42		39
612	A8	4-2	円形	径0.34、深0.11		39
613	A8	4-2	円形	径0.38、深0.20		39
614	A8	－	楕円形	長径0.41、短径0.30、深0.18		39
615	欠番					
616	A8	4-2	楕円形	長径0.38、短径0.23、深0.10		39
617	A8	4-2	楕円形	長径0.49、短径(0.45)、深0.37		39
618	A8	4-2	楕円形	長径0.41、短径0.30、深0.11		39
619	A8	4-2	不整円形	径0.56、深0.15		39
620	欠番					
621	A8	4-2	楕円形	長径0.83、短径0.53、深0.26		39
622	A8	4-2	楕円形	長径0.60、短径0.33、深0.15		39
623	A8	4-2	不明	長軸(0.38)、短軸(0.23)、深0.15		39
624	A8	4-2	不明	長軸0.75、短軸0.38、深0.40		39
625	A8	4-2	不整楕円形	長径0.58、短径0.48、深0.46		39
626	A8	4-1	不明	長軸0.88、短軸0.60、深0.08		39
627	A8	－	楕円形	長径0.35、短径0.30、深0.11		39
628	A8	4-2	楕円形	長径0.68、短径0.50、深0.28		39
629	A8	4-2	不明	長軸(0.73)、短軸(0.58)、深0.20		39
630	A8	4-2	円形	径0.19、深0.09		39
631	A8	4-2	不整形	長軸(0.43)、短軸0.30、深0.20	底部に石	39
632	A8	－	楕円形	長径0.48、短径0.38、深0.37		39
633	A8	4-2	不明	長軸0.35、短軸0.23、深0.75		39
634	A8	4-2	不明	長軸(0.98)、短軸(0.73)、深0.60	底部に石	39
635	欠番					
636	A8	4-2	楕円形	長径0.75、短径0.56、深0.19		39
637	A8	－	不整円形	径0.26、深0.14		39
638	A8	4-2	楕円形	長径0.45、短径(0.38)、深0.26		39
639	A8	4-2	円形	径0.30、深0.29		39
640	A8	4-2	不整楕円形	長径0.79、短径(0.60)、深0.30		39
641	A8	－	不明	長軸0.38、短軸(0.30)、深0.24	底部に石	39
642	欠番					
643	A8	4-2	楕円形	長径0.50、短径0.40、深0.30		39
644	A8	4-2	不整楕円形	長径(0.53)、短径(0.43)、深0.49		39
645	A8	4-1	楕円形	長径0.43、短径0.33、深0.08	底部に石	39
646	A8	－	不整形	長軸0.38、短軸0.33、深0.15		39
647	欠番					
648	A8	4-1	楕円形	長径0.33、短径0.25、深0.08		39
649	A8	－	楕円形	長径0.40、短径0.30、深0.11		39
650	A8	－	不明	長軸0.58、短軸0.38、深0.11	底部に石	39
651	A8	4-1	円形	径0.15、深0.07		39
652	A8	－	円形	径0.70、深0.33		39
653	A8	－	円形	径0.40、深0.08		28
654	A8	－	不明	長軸(0.35)、短軸(0.20)、深0.10		28
655	欠番					
656	欠番					
657	欠番					
658	欠番					
659	欠番					
660	A8	－	不明	長軸0.43、短軸0.10、深－		28
661	A8	－	不整円形	径0.30、深0.07		6
662	欠番					
663	欠番					
664	欠番					
665	A8	4-2	楕円形	長径(0.75)、短径0.60、深0.75	底部に石	39
666	A8	4-2	隅丸長方形	長辺(0.78)、短辺0.48、深0.75	底部に石	39
667	欠番					
668	欠番					
669	A8	－	円形	径0.40、深0.10	底部に石	別4
670	欠番					
671	A8	－	楕円形	長径0.38、短径0.28、深0.36		6
672	欠番					
673	A8	－	楕円形	長径0.33、短径0.25、深0.12		6
674	A8	－	円形	径0.25、深0.10		8
675	A8	－	円形	径0.23、深0.10		8
676	欠番					
677	欠番					
678	欠番					
679	欠番					
680	A8	1	円形	径0.78、深0.25		39
681	欠番					
682	欠番					
683	欠番					
684	欠番					
685	A8	4-2	不明	幅0.58、深0.25	A8区北壁で確認	41
686	A8	4-1	不明	幅0.38、深0.20	A8区北壁で確認	41
687	A8	－	不明	幅0.45、深(0.35)	A8区南壁で確認	41
688	欠番					

第7表　遺構表(5)

遺構層位	地区	時期	弥生土器	土師器	焼塩土器	須恵器	灰釉陶器	山茶碗（南部系）	山茶碗（北部系）	常滑	古瀬戸	大窯	古瀬戸～大窯	かわらけ（戦国）	かわらけ（鋳造）	鋳造関連遺物	焼土塊	瓦質土器	中国青磁	中国白磁	中国染付	その他中国磁器	朝鮮陶磁器	中近世土師器	近世陶磁器	その他陶磁器	銅製品	鉄製品	金製品	土製品	石製品	木製品	有機物	その他	合計	遺構層位
SB1	A7	2		114	29	16																								1				1	161	SB1
SB2	A7	2		29	2	4																													35	SB2
SB3	A7	2		20		3								1																					24	SB3
SB4	A7	1		17													1																		18	SB4
SB5	A7	1		108		11	1	2						1																					123	SB5
SB6	A7	1		56		1								1																					58	SB6
SB7	A7	2		39	1	2											2																		44	SB7
SB8	A8	1		138		25		2	1					3	2																			1	172	SB8
SB9	A8	1		85		19		5						12			4									1									126	SB9
SB10	A8	1		77		19		1		1							4																		102	SB10
SB11	A8	—		26		8		2	1								1																		38	SB11
SB12	A8	1		509		87	3	6	2					21			1							1		1		1							632	SB12
SE1	A1	4-1		41		33	13	43	16	6	3			81	1											8	1	1				45	1		293	SE1
SE2	A6	4-1		45		15	3	2	3	9	4		10	35			110	1								3						5			245	SE2
SE3	A8	4-1		190		38	1	66	17	2	5		3	124	3		13		1					2		1				1	1				468	SE3
SE4	A8	4-1		153		56	5	35	22	25	11	1	17	142	13		6											8			5	1		2	502	SE4
SD1	A1	3		1362		631	89	596	43	5	2		2	228			10	1	3	1						6		8		3					2990	SD1
SD5	A1	5		8		4	1	1	1				1	2														1							19	SD5
SD6	A1	5		5		5	1	3	1		1		3	3																					22	SD6
SD7	A1	1		110		1		1																											112	SD7
SD8	A2	5		401		19	5	18	13	5	11	6	42	448	2		11		2						8	13		4		1	2			2	1013	SD8
SD9	A2	4-2		6		1								15			1																		23	SD9
SD10	A2	4-2		26		2		4	1	1				32												1								1	68	SD10
SD11	A5	—		2																						1									3	SD11
SD12	A5	4-1		4		1								2																					7	SD12
SD13	A5	—		6		1								3																					10	SD13
SD14	A5	5		5		2		1						6											1	1		1							17	SD14
SD15	A5	—		5									1	2																					8	SD15
SD16	A5	5		9										3																					12	SD16
SD18	A5	5		32		4	1		2	2	1	1	2	35	2				1					1		2									86	SD18
SD19	A5	5		72		6	3	2	3	2		1	7	101	8		2									1								1	209	SD19
SD20	A5	—												1																					1	SD20
SD22	A7	5		127		38	4	66	6				6	33	1						1				4									1	287	SD22
SD23	A7	5		11		9		1	1					7											3										32	SD23
SD24	A7	5		2		2								2																					6	SD24
SD25	A7	5		3				1						3																					7	SD25
SD26	A2	5		1																															1	SD26
SD27	A2	—		9		1								2																					12	SD27
SD29	A7	4-1		1				1						2																					4	SD29
SD31	A7	4-1		8				1						3																					12	SD31
SD32	A7	4-1		64		8		11		1				46	1				1							2									134	SD32
SD34	A7	4-1		35	1	9	1	6	1	1	2			206																					262	SD34
SD35	A7	2		39		12								1																					52	SD35
SD36	A7	4-1		21		8		5						128																				1	163	SD36
SD37	A8	4-1		246		42	5	25	10	1	1	2	17	89	22		7			1							1	1							470	SD37
SD38	A8	4-1		58		4		3	3					10	1											1									80	SD38
SD39	A8	4-1		124		12		10	4				2	11	2															1					166	SD39
SD40	A8	4-1		11		1		3																											15	SD40
SD41	A8	4-1		9		1			2								2																		14	SD41
SD42	A8	4-1		17				2						1																					20	SD42
SD43	A8	4-1		118		27	4	21	14	1	1		6	13					1							4									210	SD43
SD44	A8	4-1		14		3		1						4												1								1	24	SD44
SD45	A8	4-1		14		4		2						6												1									27	SD45
SD46	A8	4-1		7		4		2			1			1														2							17	SD46
SD47	A8	4-1		33		3	1	5	1		1			10						1															55	SD47
SD48	A8	4-1		158		25	4	15	6		4		3	68	5		7			2								2		1					300	SD48
SD49	A8	4-1		12		5		1						9	1											1									29	SD49
SD50	A2	3		8		5		4						3																					20	SD50
SD51	A2	1		30		1								1																					32	SD51
SD52	A2	—		2				1																											3	SD52
SD54	A8	4-1		26		9	1	6		1	2			15												2		2							64	SD54
SD55	A7	—		1		1																													2	SD55
SD56	A2	—		2																															2	SD56
SD57	A2	—		4										1																					5	SD57
SD58	A8	4-1		31		7	1	10	1					1																					51	SD58
SK1	A1	4-1		1		1	1	1			1			21																					26	SK1
SK2	A2	4-2												6			1																		7	SK2
SK3	A2	4-2		1					1					4																					6	SK3
SK4	A5	4-2		12		1							3	5			4																		25	SK4
SK5	A5	—		3		2		1																											6	SK5
SK6	A5	4-1		53		7		1						3																				1	65	SK6
SK7	A7	—												1																					1	SK7
SK8	A2	4-1		4				1	1					10																					16	SK8
SK9	A5	—												2																					2	SK9
SK10	A5	—												2												1									3	SK10
SK11	A2	4-1		1										2																					3	SK11
SK12	A7	4-1		4		1		1					1	23																					30	SK12
SK13	A7	2		34		53																													87	SK13
SK14	A7	4-1		142		16	1	21				2	4	1120			6		1		1				3	2				1					1320	SK14
SK15	A2	4-2		21		1		2						200			3		1								2			1					231	SK15
SK16	A7	—		5																															5	SK16
SK17	A7	2		13	7	2											2																		24	SK17
SK18	A8	4-2		163		14		36	4				1	50			17											1							286	SK18
SK19	A8	4-1		12		2		4						5																					23	SK19
SK20	A8	4-2		1		1					1						4																		7	SK20
SK21	A2	4-1		2				1																											3	SK21
SK22	A2	4-1		12		1		4	1					17																					35	SK22
SK23	A2	4-1												3																					3	SK23
SK25	A2	—				1																													1	SK25
SK27	A2	4-1		3		1		2	1					8																					15	SK27
SK28	A8	4-1		37		9		7	1					8						1															63	SK28
SA1	A8	5		1205		294	35	193	94	25	31	17	89	878	90	2	20		3	3	1	1		3	24	35	1	39	1	3			1	48	3136	SA1
SX1	A1	4-1		7		2	1	1					2	6														1							20	SX1
SX2	A1	4-1		9		4								7												1				1					22	SX2
SX4	A1	—		3					4																										7	SX4
SX5	A6	4-1		82		21		5			1	8		20	1											2									140	SX5

第８表　遺物集計表(1)

遺構層位	地区	時期	弥生土器	土師器	焼塩土器	須恵器	灰釉陶器	山茶碗（南部系）	山茶碗（北部系）	常滑	古瀬戸	大窯	古瀬戸～大窯	かわらけ（戦国）	かわらけ（鋳造）	鋳造関連遺物	焼土塊	瓦質土器	中国青磁	中国白磁	中国染付	その他中国磁器	朝鮮陶磁器	中近世土師器	近世陶磁器	その他陶磁器	鍋製品	鉄製品	金製品	土製品	石製品	木製品	有機物	その他	合計	遺構層位
SX6	A2	5		338		16	4	17	10	2	7	1	16	428			7		6	1				1	7	4		3							868	SX6
SX7	A5	4-1		28		6	1		2		1			11	1																			1	51	SX7
SX8	A7	5		1051		412	39	291	53	11	43	13	62	511	12		1		7	6	7	1		1	20	77		1		1				10	2630	SX8
SX9	A5	1		2		1								1																					4	SX9
SX10	A5	5		4									3	3	1										1										12	SX10
SX11	A2	4-2		198		11	2	15	10		6	1	20	210					1	1					2	1	5	2						1	486	SX11
SX12	A8	4-1		175		29	3	24	12		5	2	2	67	7		5									1		1							333	SX12
SX13	A8	4-1		395		56	3	62	30		4		8	116	3		9		1		1					1									689	SX13
SX14	A8	4-1		233		30	3	18	16					56	3		9									2		1							371	SX14
SX15	A8	4-1		229		38	4	37	14		1		6	32			11									1		1							374	SX15
SX16	A8	4-1		516		72	12	119	40		7	2	17	115			14		2	2	1				2	6		4							931	SX16
SX17	A8	4-2		34		8		8	2		10		7	186	8		2										1	2							268	SX17
SX18	A8	5		130		51	2	42	15	1	7		8	113	3		5		1		1			1	7			1						1	389	SX18
SX19	A8	4-1		88		23		16	7	1	3		6	43			9								1										197	SX19
SX20	A7	—		7																															7	SX20
SX21	A8	5		20		6		8	3		2	1	4	53	4											2		4						1	108	SX21
SX22	A2	1		96		1													1																98	SX22
SX23	A2	1		139		1											3																		143	SX23
SX24	A8	—		26			1	3	2																	1									33	SX24
SX25	A7	—		2																															2	SX25
SX26	A8	4-1		589		127	13	176	84	2	17	4	32	335	1		37		5						1	12		2		2					1439	SX26
SX27	A2	3		49		10	1	4						2														2							68	SX27
P2	A1	—		1																															1	P2
P3	A1	4-1				1								2																					3	P3
P4	A1	4-1						1		1																									2	P4
P5	A1	4-1												3																					3	P5
P7	A1	—																						1											1	P7
P10	A1	—		3				1						2																					6	P10
P14	A1	—		1				1						2																					4	P14
P15	A1	—					1		1					2																					4	P15
P16	A1	—				1																													1	P16
P17	A1	—		1																															1	P17
P18	A1	—		3				2																											5	P18
P19	A1	4-1												2																					2	P19
P20	A1	—				1								1																					2	P20
P21	A1	—		2																															2	P21
P23	A1	—						1																											1	P23
P24	A1	—						2						2																1					5	P24
P25	A1	—		1																															1	P25
P26	A1	—		1																															1	P26
P27	A1	—		1																															1	P27
P29	A1	—												1																					1	P29
P30	A1	—					1																												1	P30
P33	A1	2				1																													1	P33
P38	A6	1		3																															3	P38
P39	A6	1		2																															2	P39
P41	A6	—		2		1																													3	P41
P42	A6	—		2																															2	P42
P45	A6	—		17	26	1																													44	P45
P48	A6	—		2																															2	P48
P54	A6	—		1																															1	P54
P55	A6	—		4																															4	P55
P56	A6	—		1																															1	P56
P59	A6	—		4																															4	P59
P66	A6	—		3																															3	P66
P67	A6	—		1																															1	P67
P69	A6	—		2																															2	P69
P72	A6	—		1																															1	P72
P74	A6	—		1										1																					2	P74
P76	A6	1		5																															5	P76
P77	A2	4-1		4										5																					9	P77
P79	A2	4-2						2						11			13																		26	P79
P80	A2	4-2												5																					5	P80
P81	A2	4-1									1			7			1											1							10	P81
P82	A2	4-2		1										16	1		21																		39	P82
P83	A2	4-1		1					1					2																					4	P83
P84	A2	4-2		4										13																					17	P84
P85	A2	4-2												3			4											1							8	P85
P86	A2	4-2		2		1						1		7			28										1	1							41	P86
P87	A2	4-1		2		1								1																					4	P87
P89	A2	4-2							2																										2	P89
P90	A2	4-2		7				1						10	1		3											2							24	P90
P91	A2	4-2		5			1							65													3	4							78	P91
P93	A2	4-2		3		1								6																					10	P93
P94	A2	4-2				1								7														1							9	P94
P95	A2	4-2		6							2			27														1							36	P95
P96	A2	4-2		1										2																					3	P96
P97	A2	4-2												2																					2	P97
P98	A2	4-2																									1								1	P98
P99	A2	4-2												5			4																		9	P99
P100	A2	4-2		2		1	1		1			1		15			6										2			1					30	P100
P101	A2	4-2		1					1					7													1								10	P101
P102	A2	4-2		1				1						6														1							9	P102
P103	A2	4-2		2		1	1							22																					26	P103
P104	A2	4-2		1								2		32			13			1								3							52	P104
P105	A2	4-2		1		1		1				2		37			16																		58	P105
P106	A2	4-1												1																					1	P106
P108	A2	4		1										14	3					1								1		2					22	P108
P109	A2	4-2																									1								1	P109
P110	A2	4-2		2				1						14			1																		18	P110
P111	A2	4-2		2										21			1			1								2		1					28	P111
P112	A2	4-2						1						6																				1	8	P112
P114	A2	4-2		4				3						33		1	15		1	1								5			1				64	P114
P115	A2	4-1												1			2																		3	P115
P116	A2	4-2		1				1						9			3																		14	P116
P117	A2	4-2		3		1								48			11											3		1				1	68	P117

第9表　遺物集計表(2)

遺構層位	地区	時期	弥生土器	土師器	焼塩土器	須恵器	灰釉陶器	山茶碗（南部系）	山茶碗（北部系）	常滑	古瀬戸	大窯	古瀬戸～大窯	かわらけ（戦国）	かわらけ（鋳造）	鋳造関連遺物	焼土塊	瓦質土器	中国青磁	中国白磁	中国染付	その他中国磁器	朝鮮陶磁器	中近世土師器	近世陶磁器	その他陶磁器	銅製品	鉄製品	金製品	土製品	石製品	木製品	有機物	その他	合計	遺構層位
P118	A2	4-2		5		1			1		1			34			95											7							144	P118
P120	A2	4-2												5			1																		6	P120
P121	A2	4-2												3			1																		4	P121
P123	A2	4-2				2								8			5																		15	P123
P124	A2	4-2				1							1				10																		12	P124
P125	A2	—		2																															2	P125
P126	A2	4-2		1										2																					3	P126
P127	A2	4-2		8		2		2						59	1	3	4								1										80	P127
P129	A2	4-2									1			7																					8	P129
P130	A2	4		1				1						6			3											1							12	P130
P131	A2	4-2				1								47			2										1	3							54	P131
P132	A2	4-2				1		2						27													1	5							36	P132
P133	A2	4-1												6																					6	P133
P134	A2	4-1									1			2																					3	P134
P135	A2	4-2					1							6	1																				8	P135
P136	A2	4-1		2			1							2			1																		6	P136
P137	A2	4-2		1										10																					11	P137
P138	A2	4-2												3			1																		4	P138
P141	A2	4-2						1						114			8							1			1	1		1					127	P141
P143	A2	4-2				1								15																					16	P143
P144	A2	4-2		3			1							87			2										1	1							95	P144
P145	A2	4-2												17			1										1								19	P145
P146	A2	4-2		5										44					1																50	P146
P147	A2	4-1												1																					1	P147
P149	A2	4-2												64																1					65	P149
P150	A2	4-2		1										12																	1				14	P150
P151	A2	4-2												2																					2	P151
P152	A2	4-2		3					1					85			17											1							107	P152
P153	A2	4		1				1						34			2									1									39	P153
P154	A2	4				1		1						16																					18	P154
P155	A2	4-2												5																					5	P155
P156	A2	4-2												50			10																		60	P156
P157	A2	4-2		6		1					1			91			1																		100	P157
P158	A2	4												5							1							2		1					9	P158
P160	A2	4							1					2																					3	P160
P169	A2	4												15																					15	P169
P170	A2	4-2		3		2	1	4					1	33	1		12																		57	P170
P171	A2	4-2											1	6																					7	P171
P173	A2	—						3	1				1																						5	P173
P174	A2	4-2		1		1								2													2								6	P174
P175	A2	4-2												4			24																		28	P175
P176	A2	4-2		6		2		1						46	3	1	46			1								4						1	111	P176
P177	A2	—		3		2								9																					14	P177
P180	A2	4-2		1		1		1						25			7																		35	P180
P181	A2	4-2		2					1					7			7																		17	P181
P182	A2	4-2												5			5										1								11	P182
P183	A2	4-2		6		2		1					1	20			26		1	1								3							61	P183
P184	A2	4-2		10					1					28			9											2		1					51	P184
P185	A2	4-2		13		4		3						39																					59	P185
P186	A2	4-2		4				1					1	21			13											1		1					42	P186
P188	A2	4-2		2										8			23											1							34	P188
P189	A2	4						3						10			10											6						1	30	P189
P191	A2	4-2		23				4	1					49			10			2	1						1							1	92	P191
P192	A2	4-2		10		1		1						76			19			1							1	3		1					113	P192
P193	A2	4-1							1		1		1	17			1																		21	P193
P194	A2	4-2		1				1	1		1			8														1							13	P194
P195	A2	4-2		2				1						22			2											1							28	P195
P196	A2	4-2		1										1			7																		9	P196
P198	A2	4-2		5										12		1																			18	P198
P199	A2	4-2		11										45						1															57	P199
P200	A2	4-1		13		1		1					1	18																					34	P200
P201	A2	—		14							3			25													1	1							44	P201
P203	A2	—				1																													1	P203
P204	A2	4-2		4							1			4																					9	P204
P205	A2	—		1										1																					2	P205
P206	A2	4		7		4		1						21											1										34	P206
P207	A2	4-2		2				1	1			1		8														1							14	P207
P208	A2	4-2		1										1																					2	P208
P209	A2	4-1		7										19													1								27	P209
P210	A2	4-1		6										11																					17	P210
P211	A2	4		3		1		1						13													1	2							21	P211
P212	A2	4-1												1																					1	P212
P213	A2	4		1										25			3																		29	P213
P214	A2	4-2		1									1	3			1																		6	P214
P215	A2	4-2		4										2																					6	P215
P216	A2	4-2		1										23																					24	P216
P217	A2	4-2												1																					1	P217
P220	A2	4-1												1																					1	P220
P222	A5	—												1																					1	P222
P224	A5	—		3																															3	P224
P225	A5	—		4		1			1					1																					7	P225
P226	A5	—												1	1																				2	P226
P227	A5	—												1																					1	P227
P230	A5	—		1																															1	P230
P232	A5	—		1																															1	P232
P235	A5	—		3																															3	P235
P243	A5	—		1																															1	P243
P245	A6	—		1										1																					2	P245
P246	A2	4												1			3																		4	P246
P247	A2	—		1					1								2																		4	P247
P248	A2	—							1								2																		3	P248
P250	A2	—															1																		1	P250
P251	A2	4-2												5														2							7	P251
P252	A2	4		1										9																					10	P252
P253	A2	4-2				1								5			1																		7	P253
P255	A2	4												1																					1	P255

第10表　遺物集計表(3)

遺構層位	地区	時期	弥生土器	土師器	焼塩土器	須恵器	灰釉陶器	山茶碗（南部系）	山茶碗（北部系）	常滑	古瀬戸	大窯	古瀬戸～大窯	かわらけ（戦国）	かわらけ（鋳造）	鋳造関連遺物	焼土塊	瓦質土器	中国青磁	中国白磁	中国染付	その他中国磁器	朝鮮陶磁器	中近世土師器	近世陶磁器	その他陶磁器	銅製品	鉄製品	金製品	土製品	石製品	木製品	有機物	その他	合計	遺構層位
P257	A2	4-2												3									1					1								5	P257
P258	A2	4-2												6			1																			7	P258
P259	A2	4												1																						1	P259
P260	A2	—		1								*		1																						2	P260
P262	A2	4		2										5			3																			10	P262
P266	A2	4-2		1										7																						8	P266
P267	A2	—		2																																2	P267
P268	A2	4-1		1										4																						5	P268
P271	A2	4												1																						1	P271
P272	A2	4-1		2		1								5																						8	P272
P274	A2	4		7									1	29			1											1								39	P274
P275	A2	4												5																						5	P275
P276	A2	4-1												9																						9	P276
P280	A2	4		7										28																						35	P280
P282	A2	4-1		7		3		3						10																						23	P282
P283	A2	—							1																											1	P283
P284	A2	—				1			1																											2	P284
P285	A2	4												3																						3	P285
P289	A2	4-2												2																						2	P289
P290	A2	4		1				1						1																						3	P290
P294	A7	—		2																																2	P294
P302	A7	—		6																																6	P302
P303	A7	—		1		1																														2	P303
P304	A7	—		1																																1	P304
P312	A7	—		8		1																														9	P312
P313	A7	—		4																																4	P313
P322	A7	—		1																																1	P322
P328	A7	—		1																																1	P328
P329	A7	—		1																																1	P329
P333	A7	1	1	2		1																														4	P333
P334	A7	1		1																																1	P334
P339	A7	—		1																																1	P339
P342	A7	—		1																																1	P342
P343	A7	—												1																						1	P343
P344	A8	4-2		6		2			2																		1									11	P344
P345	A8	4-2												1			5										1									7	P345
P346	A2	4-1						1						3																						4	P346
P347	A2	—		2																							2									4	P347
P348	A2	4-2		3							1			26														2								32	P348
P351	A2	4		1				1						2																						4	P351
P352	A2	4		2										2																						4	P352
P356	A8	4-2		23		8		4	3		2			64	2		4										1	4								115	P356
P357	A8	4-2		3		3		2						1			2										1									12	P357
P358	A8	4-2		8		5							2	9	1		2											1								28	P358
P359	A8	4-2		6										9			2										1									18	P359
P360	A8	4-2		10		2		4						21			2														1					40	P360
P361	A8	4-2		23		3	1	7	1	1				15	1	1	30																			83	P361
P362	A8	—		6		2		1	1					12	1		89																			112	P362
P365	A8	—				1																														1	P365
P367	A8	—				1								1																						2	P367
P370	A8	—		4		2																														6	P370
P371	A8	—		1																																1	P371
P372	A8	4-2		3		2		2						1																						8	P372
P373	A8	—		1		1											3																			5	P373
P377	A8	—		2																																2	P377
P379	A8	—		5																																5	P379
P380	A8	—		1																																1	P380
P381	A8	—		2		1								1																						4	P381
P385	A8	—		3																																3	P385
P386	A8	—						1	1																											2	P386
P387	A8	—		2				1																												3	P387
P388	A8	—		1																																1	P388
P389	A8	—		1																																1	P389
P392	A8	—						1																												1	P392
P393	A8	—		3			1																													4	P393
P394	A8	—												1			1																			2	P394
P395	A8	—						1	1					1																						3	P395
P396	A8	—		4		2	1	1						1																						9	P396
P397	A8	4-1		9		2			3					4																						18	P397
P398	A8	—		6		1		1					1																							9	P398
P399	A8	—		5				1	1					2			2																			11	P399
P400	A8	4-1		8		2		3						3						1																17	P400
P401	A8	—		1										1												1										3	P401
P402	A8	4-2		24		8		16	2					13			124									1				1						189	P402
P404	A8	4-1		3				1						5			25																			34	P404
P405	A8	4-2		17		17	2	5	6	1	1			30	1		92																			172	P405
P406	A8	4-2		6		2			1					1			7																			17	P406
P408	A8	4-2		5		4		4						1			4													1						19	P408
P409	A8	4-2		4		2	1	1	1						1		9																			19	P409
P410	A8	—		1		1								1														1								4	P410
P411	A8	4-2		7			1	2						2																						12	P411
P412	A8	4-2		4		2		1	1					1																						9	P412
P413	A8	—		17			1	4																												22	P413
P414	A8	—		21		5		5									1																			32	P414
P415	A8	4-2		2				2						2			7																			13	P415
P416	A8	4-2		10				1						14	1		33														1					60	P416
P417	A8	4-2		21		8			1					37	4		34											4								106	P417
P418	A8	4-2		10		8	2	4	2					33			43											2								104	P418
P420	A8	4-2		8		1		2						3	1																					15	P420
P421	A8	4-2		32		8	1	6	2				1	39	2		36		2		1							7		1						138	P421
P422	A8	4-2		4		1		2						1			7																			15	P422
P423	A8	4-2		22		6		3						6			7																			44	P423
P424	A8	4-2												1																						1	P424
P425	A8	4-2		4					2					4			2																			12	P425
P426	A8	4-2		2				1	1					2			8																			14	P426
P427	A8	4-2		17		3		1	1		1			17	1		17									1		2								61	P427

第11表　遺物集計表(4)

遺構層位	地区	時期	弥生土器	土師器	焼塩土器	須恵器	灰釉陶器	山茶碗（南部系）	山茶碗（北部系）	常滑	古瀬戸	大窯	古瀬戸～大窯	かわらけ（戦国）	かわらけ（鋳造）	鋳造関連遺物	焼土塊	瓦質土器	中国青磁	中国白磁	中国染付	その他中国磁器	朝鮮陶磁器	中近世土師器	近世陶磁器	その他陶磁器	銅製品	鉄製品	金製品	土製品	石製品	木製品	有機物	その他	合計	遺構層位
P428	A8	4-2		2		2								5			3																		12	P428
P429	A8	4-2		12		4		3	3					14			5										1	1							43	P429
P430	A8	－							1								5																		6	P430
P431	A8	4-2		3										1																					4	P431
P432	A8	4-2		79		10		15		1	1			51	6		282			1								5						1	452	P432
P433	A8	4-2		7		2			1					9			4											2							25	P433
P434	A8	4-2		13		2		1	1		1			6			32										2								58	P434
P435	A8	－		1																															1	P435
P436	A8	－		3		3		2	1																								1		10	P436
P437	A8	－		4																															4	P437
P438	A8	－		1																															1	P438
P439	A8	－		2		1		3	1					3			1																		11	P439
P440	A8	－		1										8			3																		12	P440
P441	A8	－		5		2																													7	P441
P443	A8	4-2		5										1			1																		7	P443
P444	A8	－		3										1																					4	P444
P445	A8	－		2				1																											3	P445
P446	A8	4-1		11		1		1	1					7																					21	P446
P447	A8	－		7				2						2																					11	P447
P448	A8	－		4					1								1																		6	P448
P449	A8	－		11		1																													12	P449
P450	A8	－		16		1		2						3			6																1		29	P450
P451	A8	－				1			1					1			1																		4	P451
P452	A8	4-2		8				1						3																					12	P452
P454	A7	4-1		1		1		1						18																					21	P454
P455	A7	－		1																															1	P455
P460	A7	－		4				3						2																					9	P460
P464	A8	－		1																															1	P464
P466	A8	－		2					1					1																					4	P466
P467	A8	－		2																															2	P467
P468	A8	4-2		1										3			3																		7	P468
P470	A8	－															4																		4	P470
P472	A8	4-1												2																					2	P472
P474	A8	－		3				2						1																					6	P474
P476	A8	4-2																									3								3	P476
P477	A8	－		3		1	2							1																					7	P477
P481	A7	2		8	39	2																													49	P481
P482	A8	4-2		49		9	2	8	3		1			28	4	1	17											3							125	P482
P483	A8	4-2		4				1						3			2																		10	P483
P484	A8	4-2		10				4						8			1																		23	P484
P485	A8	4-2		1										1																					2	P485
P486	A8	4-2		28		8	1	4	3					18	3		6										1	1							73	P486
P487	A8	4-2		3				1						5			2																		11	P487
P488	A8	－		2				1																											3	P488
P489	A8	4-2		8				2						11			2									1									24	P489
P490	A8	－		1					1								1																		3	P490
P491	A8	4-2		8		5		1			1			7														1							23	P491
P492	A8	4-2		1										5			8											1							15	P492
P493	A8	－						1									2																		3	P493
P494	A8	－						1																											1	P494
P495	A8	4-2		1		1			1					2																					5	P495
P496	A8	4-2		1		1								2			4																		8	P496
P497	A8	4-2		10		2	2	5	1					20			32											1							73	P497
P498	A8	4-2		4		5		2						5			7																		23	P498
P499	A8	4-2		6		1	1	3						1			10																		22	P499
P500	A8	－						2									2																		4	P500
P503	A2	－		2																															2	P503
P509	A2	－		6																															6	P509
P510	A2	－		4		2																													6	P510
P513	A2	－		1																															1	P513
P520	A2	4		1										1																					2	P520
P524	A2	－		3																															3	P524
P527	A2	－		1																															1	P527
P528	A2	－		2																															2	P528
P534	A2	－		1																															1	P534
P535	A2	－		1																															1	P535
P545	A2	－		1																															1	P545
P546	A2	－		1																															1	P546
P554	A2	－						1																											1	P554
P558	A2	－		1		2		1																											4	P558
P580	A2	－		1																															1	P580
P581	A2	－		2				1																											3	P581
P585	A2	4		4		1								1																					6	P585
P588	A2	4												1																					1	P588
P593	A2	－		1																															1	P593
P596	A2	－		1																															1	P596
P601	A8	4-2		1		1								6			10											1							19	P601
P602	A8	4-2		8				1						2	2		1											1							15	P602
P603	A8	4-1		6		2		2						2												1									13	P603
P604	A8	4-2		17		10	2	8			1			20			8																		66	P604
P605	A8	4-2		9		4		1	1					14			8																		37	P605
P606	A8	4-2		3									1	5	1		1																		11	P606
P607	A8	4-2		3									2	2			1																		8	P607
P608	A8	4-2		37		22	3	8	1		1			32			66				1							1							172	P608
P610	A8	4-2		1										1																					2	P610
P611	A8	4-2		33		7	1	7	1		1		3	13	3		20										1								90	P611
P612	A8	4-2		4		4		1						4			20											1							34	P612
P613	A8	4-2		2		2			2					1			1																	1	9	P613
P614	A8	－		1		3		4	2								30																		40	P614
P616	A8	4-2		1				2						21			4											1							29	P616
P617	A8	4-2		5		8		3	4		1			13	1		34											1		1					71	P617
P618	A8	4-2		3		1		2						4			16																		26	P618
P619	A8	4-2		3		1			1					2			10																		17	P619
P621	A8	4-2		15		9		6						6			33											1							70	P621
P622	A8	4-2		7				5						2																					14	P622
P623	A8	4-2		2		2								1			2																		7	P623

第12表　遺物集計表(5)

遺構層位	地区	時期	弥生土器	土師器	焼塩土器	須恵器	灰釉陶器	山茶碗（南部系）	山茶碗（北部系）	常滑	古瀬戸	大窯	古瀬戸～大窯	かわらけ（戦国）	かわらけ（鋳造）	鋳造関連遺物	焼土塊	瓦質土器	中国青磁	中国白磁	中国染付	その他中国磁器	朝鮮陶磁器	中近世土師器	近世陶磁器	その他陶磁器	銅製品	鉄製品	金製品	土製品	石製品	木製品	有機物	その他	合計	遺構層位
P624	A8	4-2				1		2						14																						17	P624
P625	A8	4-2		24		2	1	2			3			96	8	1	2													1					140	P625
P626	A8	4-1		5		2	1	5	1					3																					17	P626
P628	A8	4-2		22		1		7						25	2		2																		59	P628
P629	A8	4-2		5		3								2	1		1																		12	P629
P630	A8	4-2		3										1																					4	P630
P631	A8	4-2		2		1							1	2			15																		21	P631
P633	A8	4-2		13		3		1						9			30											4			1				61	P633
P634	A8	4-2		17		4	1	13	2					20			16														1				74	P634
P636	A8	4-2		8		1		1			2			20	1																				33	P636
P638	A8	4-2		2		3								1																					6	P638
P639	A8	4-2						1					1	3			11																		16	P639
P640	A8	4-2		16		5	1	8						8			5																		43	P640
P643	A8	4-2		1				2						2																					5	P643
P644	A8	4-2		14		2	1	3						20			6																		46	P644
P645	A8	4-1		3										2																					5	P645
P646	A8	—		4		1																								1					6	P646
P648	A8	4-1		2									1	2																					5	P648
P650	A8	—				1																													1	P650
P651	A8	4-1										1		4																					5	P651
P652	A8	—		10		2	1										1																	1	15	P652
P653	A8	—		3																															3	P653
P654	A8	—		2																															2	P654
P660	A8	—		1		6																													7	P660
P661	A8	—																									1								1	P661
P665	A8	4-2	1	9		7	3	3						23			31																		77	P665
P666	A8	4-2		6		4	1	4						7			18																		40	P666
P669	A8	—		1																															1	P669
P675	A8	—		2																															2	P675
P680	A8	1		21		6								1																					28	P680
P685	A8	4-2		1		1								11													1								14	P685
P686	A8	4-1												3													1								4	P686
P687	A8	—		1				1																											2	P687
A1区Ⅰ				6		6	1					1	2	14		2																			32	A1区Ⅰ
A1区西Ⅰ・Ⅱ				178		99	13	94	15	2	7	3	11	138			12							1	5	6		6						4	594	A1区西Ⅰ・Ⅱ
A1区東Ⅰ				170		61	11	66	12		4			130	1	3			1						8			2							469	A1区東Ⅰ
A1区東Ⅱ				317		189	27	186	34	3	6	1	12	238			14		1	2					7	6	1	6							1050	A1区東Ⅱ
A1区Ⅱ・Ⅴ				15		3		2	2					1												2									25	A1区Ⅱ・Ⅲ
A1区西Ⅴ				2		1		1																											4	A1区西Ⅲ
A1区東Ⅴ				8		2		1					4	5												1									21	A1区東Ⅲ
A2区Ⅰ				348		38	9	19	18	4	24	3	19	302			14		2	1					33	21		4		4	2			6	871	A2区Ⅰ
A2区Ⅱ				541		15	4	27	7	7	10	7	21	375	1		3							1	22	7		10		2				7	1067	A2区Ⅱ
A2区Ⅳ				216		52	12	82	19		1	1	4	138	1		4		2	2						2	1	2			1				540	A2区Ⅳ
A5区Ⅰ				51		22	5	6	10	4	1	1	13	49	5										25	12		7						6	217	A5区Ⅰ
A5区Ⅱ				602		137	15	59	28	7	21	4	77	485	63		3		4	6					33	17		5		2				4	1572	A5区Ⅱ
A6区Ⅰ				113		40		3		2	4		7	31			4							3		8									7	222	A6区Ⅰ
A6区Ⅱ				27		3	1	5	1				2	7						1																47	A6区Ⅱ
A6区Ⅲ				4				1																		1									1	7	A6区Ⅲ
A7区Ⅰ				492		184	26	176	21	8	7	5	23	147			2		1	4				1	26	9								3	1135	A7区Ⅰ
A7区Ⅱ				1238		276	29	261	20	4	11	3	33	321	1		6		2	1	1				14	10		4		1			1	9	2246	A7区Ⅱ
A7区Ⅴ				5																															5	A7区Ⅴ
A8区Ⅰ				20	7	17	2	6	1				4	18			3								6	4				1					89	A8区Ⅰ
A8区西Ⅰ				222		92	11	52	15	3	3	2	14	82	5		1		5						12	16		5		1				5	546	A8区西Ⅰ
A8区西Ⅱ				812		204	24	179	35	3	9	3	30	174	8		14				4			1	35	2		3		2				9	1551	A8区西Ⅱ
A8区中央Ⅰ・Ⅱ				849		209	33	156	39	8	21	9	32	406	40		97			1	6			1	12	9	5	11		1	1			12	1958	A8区中央Ⅰ・Ⅱ
A8区中央Ⅲ				1531		279	54	221	51	6	45	7	53	1377	88		172		3	1	4			5	31	22	7	72		6	2			52	4089	A8区中央Ⅲ
A8区中央Ⅳ				309		71	12	74	12		9		2	277	13		11				1				1	3	5	7		3					810	A8区中央Ⅳ
A8区中央Ⅴ				41		16	1	4	2					6																					70	A8区中央Ⅴ
A8区東Ⅰ				348		100	28	70	36	4	7	3	24	143	16		7		1	1	1				12	13		2		2	1			10	829	A8区東Ⅰ
A8区東Ⅱ				2010		374	59	448	205	13	44	14	64	456	15		47		11	6	1			2	46	13		13		2				7	3850	A8区東Ⅱ
計			2	23159	112	5453	694	4844	1255	187	462	137	887	15248	515	16	2755	2	76	57	35	2	1	27	414	390	70	381	1	62	21	51	5	224	57345	計

第13表　遺物集計表(6)

番号	地区	遺構・層位	種類	器種	分類・時期	調整 外面	調整 内面	法量(cm) 口径	法量(cm) 器高	法量(cm) 底径	法量(cm) その他	備考
1	A8	SB10K	土師器	S字甕	D3類	(口)横ナデ (肩)1条横ハケ (体)羽状ハケ	(口)横ナデ	14.4	—	—	頸部径12.3 頸部高1.6	外面スス付着
2	A8	SB10K	土師器	S字甕	—	(脚)斜めハケ後斜めナデ(板状工具)	—	—	—	—	台基部径4.9 台端部径11.1 台高4.5	
3	A8	SB10	土師器	宇田型甕	—	(口)横ナデ	(口)横ナデ	—	—	—	頸部高1.4	
4	A8	SB10K	土師器	甑	A群	—	—	—	—	9.7		底部2孔
5	A8	SB10K	須恵器(畿内系)	杯身	TK47	(底)回転ヘラケズリ	—	11.4	5.0	—	受け部径13.1 受け部高1.7	口縁端部使用痕
6	A8	SB10K	須恵器(尾張)	杯蓋	8c末	—	—	—	—	—		降灰
7	A8	SB8	土師器	S字甕	C類	(口)横ナデ (体)斜めハケ	—	—	—	—	頸部高1.1	
8	A8	SB8K	土師器	宇田型甕	—	(口)横ナデ (肩)横ナデ (体)羽状ハケ (脚)斜めナデ(板状工具)	(口)横ナデ	(16.0)	—	—	頸部径13.4 頸部高1.7 台端部径10.4 台基部径5.0 台高4.0	外面スス付着 内面体部中央・底部使用痕
9	A8	SB8	土師器	甑	C群	(口)横ナデ (体)縦ハケ	(口)横ハケ (体)縦ケズリ	(23.4)	27.2	12.7		底部2孔
10	A8	SB8K	須恵器(畿内系)	杯蓋	TK47	(天)回転ヘラケズリ	—	13.1	4.3	—	口縁高2.5	
11	A8	SB8K	須恵器(畿内系)	杯身	TK47	(底)回転ヘラケズリ	—	11.6	5.3	—	受け部径13.6 受け部高1.7	降灰
12	A8	SB8	須恵器(猿投)	高杯(無蓋)	6c末～7c初	—	—	—	—	—	口縁高2.1	降灰
13	A8	SB8	須恵器(美濃須衛)	無台杯	7c中葉	(底)回転ヘラケズリ (底)ヘラ切り痕	—	11.7	4.7	6.7		
14	A8	SB12	土師器	壺?	—	(口)横ナデ	(口)横ナデ	(16.1)	—	—		
15	A8	SB12	土師器	宇田型甕	—	(口)横ナデ (体)斜めハケ	—	(16.6)	—	—	頸部径(14.5) 頸部高1.5	
16	A8	SB12	土師器	伊勢型甕	1類	(口)横ナデ (体)斜めハケ	(口)横ハケ	(15.0)	—	—	頸部径(13.3) 頸部高2.0	外面スス付着
17	A8	SB12	土師器	伊勢型甕	1類	(口)横ナデ	(体)横ハケ	—	—	—	頸部高3.0	
18	A8	SB12	土師器	伊勢型甕	2類	(口)横ナデ (体)斜めハケ	(口)横ハケ	—	—	—	頸部高2.5	外面スス付着
19	A8	SB12	土師器	伊勢型甕	2類	(口)横ナデ	—	—	—	—		
20	A8	SB12	土師器	壺?	—	—	—	—	—	4.0		底部スス付着
21	A8	SB12	須恵器(畿内系)	杯蓋	TK47	—	—	—	—	—	口縁高2.0	
22	A8	SB12	須恵器(畿内系)	杯身	TK47	—	—	—	—	—	受け部高1.5	
23	A8	SB12	須恵器(畿内系)	壺	6c前半	(口)波状文	—	(11.4)	—	—		
24	A8	SB12	須恵器(畿内系)	杯蓋	4or5型式	(天)回転ヘラケズリ	—	12.9	4.6	—		天井部ヘラ記号
25	A8	SB12	須恵器(畿内系)	杯身	4or5型式	—	—	—	—	—	受け部高1.5	
26	A8	SB12	須恵器(畿内系)	高杯	5～6型式	—	—	—	—	—		降灰
27	A8	SB12	須恵器(美濃須衛)	高杯	7c	—	—	—	—	—	脚端部径	
28	A8	SB12	須恵器(美濃須衛)	平瓶	7c前半	—	—	6.2	—	—		
29	A8	SB12	須恵器(美濃須衛)	平瓶	7c前半	(底)回転ヘラケズリ	—	—	—	—		外面体部ヘラ記号
30	A8	SB12	須恵器(美濃須衛)	杯身	7c中葉	—	—	(10.8)	3.0	—	受け部径12.4 受け部高0.8	
31	A8	SB9	土師器	伊勢型甕	2類	(口)横ナデ	(口)横ハケ	—	—	—		
32	A7	SB5	土師器	平底甕	B2類	(口)横ナデ (体)斜めハケ	(口)横ハケ	(17.4)	—	—	頸部径15.1 頸部高1.9	
33	A7	SB5	須恵器(畿内系)	杯蓋	5c末	—	—	—	—	—	口縁高2.5	
34	A7	SB5	須恵器(美濃須衛)	杯蓋?	—	—	—	—	—	—		降灰
35	A7	SB5	須恵器(美濃須衛)	瓶類	—	—	—	—	—	—		生焼
36	A7	SB4	土師器	壺?	—	—	—	—	—	—		
37	A7	SB4	土師器	伊勢型甕	1類	(口)横ナデ	—	—	—	—		
38	A7	SB6	土師器	杯部椀形高杯	—	—	—	—	—	—		
39	A7	SB6	土師器	伊勢型甕	1類	(口)横ナデ	(体)横ハケ	—	—	—	頸部高3.5	外面スス付着
40	A7	SB6	須恵器(美濃須衛)	高杯	7c前半	—	—	—	—	—		降灰
41	A1	P33	須恵器(美濃須衛)	無台杯	7c後葉	(底)回転ヘラケズリ	—	11.5	3.8	6.3		内面底部使用痕 降灰
42	A1	SD7	土師器	S字甕	D3類	(口)横ナデ	(口)横ナデ	—	—	—		
43	A1	SD7	土師器	伊勢型甕	1類	(口)横ナデ (体)斜めハケ	(口)～(体)上半横ハケ(体)下半縦ケズリ	18.2	—	—	頸部径15.4 頸部高2.8	外面スス付着
44	A1	SD7	須恵器(美濃須衛)	高杯	6c末～7c初	—	—	—	—	—		脚端部使用痕
45	A2	SD51	土師器	丸底壺?	—	(口)横ナデ	(口)横ナデ	—	—	—	頸部高2.8	
46	A2	SD51	土師器	S字甕	—	—	—	—	—	—		
47	A2	SX22	土師器	有段高杯	—	(脚)縦ミガキ	(脚)横ハケ	—	—	—		
48	A2	SX22	土師器	伊勢型甕	1類	(口)横ナデ	(口)横ハケ	—	—	—		
49	A2	SX23	土師器	S字甕	A類	(口)横ナデ 押引き刺突文	(口)横ナデ	—	—	—		
50	A2	SX23	土師器	S字甕	—	(脚)斜めハケ	—	—	—	—		外面スス付着
51	A6	P39	土師器	把手	—	(体)横ハケ	(体)横ハケ	—	—	—	長4.3 幅3.8 高5.5	
52	A6	P76	土師器	S字甕	D類?	(脚)斜めハケ	—	—	—	—	台基部径4.4 台端部径8.0 台高3.8	外面スス付着
53	A7	P333	土師器	有段高杯	元屋敷式	(口)斜めミガキ	(口)多条沈線(19条) (体)横ミガキ	—	—	—		
54	A7	P333	須恵器(美濃須衛)	杯蓋	7c中葉	(天)回転ヘラケズリ	—	11.0	3.5	—	最大径11.4 天井部6.3	口縁端部・内面天井部使用痕 内面に墨 杯身として使用
55	A6	P38	土師器	伊勢型甕	1類	(口)横ナデ (体)斜めハケ	(口)横ハケ (体)横ハケ	(27.6)	—	—	頸部径(24.8) 頸部高2.2	外面スス付着
56	A8	P680	須恵器(不明)	台付長頸壺蓋	6c末	—	—	—	—	—		
57	A7	SB7	土師器	伊勢型甕	2類	(口)横ナデ (体)縦ハケ	(口)横ハケ	(15.5)	—	—	頸部径13.8 頸部高2.0	外面スス付着
58	A7	SB7K	土師器	伊勢型甕	1類	(体)斜めハケ	(体)斜めハケ	—	—	—	頸部径(4.8) 胴部径(13.0)	外面スス付着
59	A7	SB7K	土師器	焼塩土器	美濃式2類	—	—	(9.4)	—	—		外面スス付着

第14表　遺物観察表(1)

番号	地区	遺構・層位	種類	器種	分類・時期	調整		法量(cm)				備考
						外面	内面	口径	器高	底径	その他	
60	A7	SB3	土師器	伊勢型甕	2類	(口)横ナデ (体)縦ハケ	(口)横ハケ (体)ハケ後ケズリ	(16.2)	—	—	頸部径(14.0) 頸部高2.1	外面スス付着
61	A7	SB3K	土師器	伊勢型甕	2類	(口)横ナデ	(口)横ハケ	—	—	—		外面スス付着
62	A7	SB3	須恵器(美濃須衛)	鉢	7c末～8c	(体)下半回転ヘラケズリ		16.4	—	—	最大径17.4	
63	A7	SB2	須恵器(美濃須衛)	無台杯	7c末～8c	(底)回転ヘラケズリ	—	—	—	6.6		
64	A7	SB1	土師器	伊勢型甕	2類	(口)横ナデ (体)斜めハケ	(口)横ハケ	—	—	—	頸部高1.7	外面スス付着
65	A7	SB1	土師器	平底甕	B2類	(口)横ナデ (体)斜めハケ	(口)横ハケ	20.6	—	—	頸部径17.8 頸部高1.9	外面スス付着
66	A7	SB1	土師器	焼塩土器	美濃式2類	—	—	6.6	—	—		外面スス付着
67	A7	SB1	須恵器(美濃須衛)	杯身	7c後葉	—	—	—	—	—	受部径11.5	
68	A7	SB1	須恵器(美濃須衛)	無台杯	7c後葉	(底)回転ヘラケズリ	—	12.5	(3.8)	6.2		
69	A7	SB1	須恵器(老洞？)	有台杯	7c後葉	—	—	—	—	10.0		内面底部・高台接地部使用痕
70	A7	SB1	須恵器(老洞？)	有台杯	7c後葉	—	(底)ヘラ状工具による文様	15.8	4.9	12.1		口縁端部・内面底部・高台接地部使用痕 胎土に川砂混じる
72	A7	SB1-P1	土師器	焼塩土器	美濃式2類	—	(体)横ハケ	(8.4)	—	—		外面スス付着
73	A7	P481	土師器	焼塩土器	美濃式2類	—	(体)横ナデ	(7.2)	—	—		外面スス付着
74	A7	P481	土師器	焼塩土器	美濃式2類	—	(体)ナデ	8.8	—	—		外面スス付着
75	A7	P481	土師器	焼塩土器	美濃式2類	—	—	(9.8)	—	—		内外面スス付着
76	A7	P481	須恵器(老洞？)	無台杯	7c後葉	(底)回転ヘラケズリ	—	—	—	6.4		内外面底部使用痕 胎土に川砂混じる
77	A7	SD35	須恵器(美濃須衛)	高杯	8c初	—	—	—	—	—	脚端部径8.4	降灰
78	A7	SD35	須恵器(美濃須衛)	横瓶	8c前半	—	(体)同心円当て具痕	—	—	—	頸部径11.0 頸部高5.3	降灰
79	A7	SD35	須恵器(美濃須衛)	杯蓋	8c後半	—	—	—	—	—		
80	A7	SD35	須恵器(美濃須衛)	杯蓋	8c末～9c初？	(天)回転ヘラケズリ	—	(16.8)	—	—		内面に墨 転用硯
81	A7	SD35	須恵器(尾張)	不明	—	(体)平行タタキ痕	—	—	—	—		
82	A7	SK17	須恵器(老洞？)	無台杯	7c後葉	—	—	14.6	—	—		口縁端部使用痕 胎土に川砂混じる
83	A7	SK13	須恵器(美濃須衛)	水瓶	8c～9c初	(体)沈線文	—	—	—	—		金属器写し 降灰
84	A7	SK13	須恵器(美濃須衛)	杯蓋	9c前葉	—	—	—	—	—		
85	A7	SK13	須恵器(美濃須衛)	杯蓋	9c前葉	—	—	(15.1)	—	—		降灰
86	A7	SK13	須恵器(美濃須衛)	有台杯	9c前葉	—	—	—	—	(10.8)		内面底部・高台接地部使用痕
87	A7	SK13	須恵器(美濃須衛)	無台杯	9c前葉	(底)回転ヘラケズリ	—	—	—	7.2		内外面底部使用痕
88	A7	SK13	須恵器(美濃須衛)	盤	9c前葉	—	—	—	—	—		
89	A7	SK13	須恵器(美濃須衛)	盤	9c前葉	—	—	—	—	—		
90	A7	SK13	須恵器(美濃須衛)	鉢？	9c前葉	(体)沈線文	—	—	—	—		
91	A7	SK13	須恵器(美濃須衛)	平瓶	9c前葉	—	—	—	—	—		降灰
92	A1	SD1	土師器	S字甕	D1類	—	—	—	—	—	頸部高1.8	
93	A1	SD1	土師器	くの字甕	—	—	—	—	—	—	台端部径7.6	
94	A1	SD1	土師器	壺	—	—	—	—	—	—		外面底部木葉痕
95	A1	SD1	土師器	伊勢型甕	1類	(口)横ナデ (体)斜めハケ	(口)横ハケ (体)横ハケ	18.0	—	—	頸部径15.0 頸部高2.5	
96	A1	SD1	土師器	伊勢型甕	2類	(口)横ナデ (体)ハケ	(口)横ハケ (頸)縦押引き刺突文	10.0	—	—	頸部径8.3 頸部高1.4	内面口縁部・外面スス付着
97	A1	SD1	土師器	甑	C群	(口)横ナデ (体)斜めハケ	(口)横ナデ (体)横ハケ	19.2	—	—		
98	A1	SD1	土師器	甑	C群	(体)縦ハケ	(体)斜めケズリ	(14.4)	—	—		
99	A1	SD1	土師器	伊勢型鍋	12c 1段階以前	(口)横ナデ	(口)横ハケ	20.0	—	—	頸部径16.5 頸部高1.8	内外面スス付着
100	A1	SD1	土師器	把手	—	—	—	—	—	—	長4.5 幅4.1 高5.9	外面下部スス付着
101	A1	SD1	須恵器(美濃須衛)	坏身	7c前半	—	—	12.7	—	—	受け部径15.0 受け部高0.8	口縁部使用痕
102	A1	SD1	須恵器(美濃須衛)	杯蓋	7c後葉	(天)回転ヘラケズリ	—	14.2	3.4	—	最大径16.4 摘み径3.8 摘み高0.9	
103	A1	SD1	須恵器(美濃須衛)	高坏	7c後半	—	—	—	—	—	脚基部径3.0	
104	A1	SD1	須恵器(美濃須衛)	甕	7c代	—	—	30.0	—	—		
105	A1	SD1	須恵器(美濃須衛)	無台杯	7c後半～8c	(底)回転ヘラケズリ	—	—	—	5.0		外面底部使用痕
106	A1	SD1	須恵器(美濃須衛)	無台杯	7c後半～8c	—	—	—	—	—		内面口縁部使用痕
107	A1	SD1	須恵器(美濃須衛)	有台杯	8c後半	—	—	—	—	9.2		高台接地部使用痕 降灰
108	A1	SD1	須恵器(美濃須衛)	長頸瓶	8c後半	—	—	—	—	13.0		高台より底部突出 高台接地部使用痕 降灰
109	A1	SD1	須恵器(美濃須衛)	杯蓋	8c後半	—	—	—	—	—	摘み径4.2 摘み高1.1	佐波理写し
110	A1	SD1	須恵器(美濃須衛)	鉄鉢	8c代	—	—	10.0	—	—		
111	A1	SD1	須恵器(美濃須衛)	不明	8c？	—	—	—	—	—		降灰
112	A1	SD1	灰釉陶器	椀	大原2 Ⅱ期新段階	—	—	—	—	6.8		
113	A1	SD1	灰釉陶器	椀	虎渓山1 Ⅲ期中段	—	(口)沈線1条	—	—	—		
114	A1	SD1	灰釉陶器	椀	虎渓山1 Ⅲ期中段	—	—	—	—	8.8		内面底部使用痕
115	A1	SD1	灰釉陶器	椀	丸石2 Ⅲ期新段階～Ⅳ期古段階	—	—	—	—	7.2		内面底部使用痕
116	A1	SD1	灰釉陶器	椀	明和27 Ⅳ期古段階	—	—	—	—	6.6		内面底部使用痕
117	A1	SD1	灰釉陶器	椀	明和27 Ⅳ期古段階	—	—	—	—	—		内面口縁部使用痕
118	A1	SD1	灰釉陶器	椀	明和27 Ⅳ期古段階	—	—	—	—	8.2		内面底部使用痕
119	A1	SD1	山茶碗(南部系)	小碗	4型式	—	—	8.4	2.4	4.6		内面底部使用痕
120	A1	SD1	山茶碗(南部系)	小碗	4型式	—	—	9.4	2.7	4.9		内面底部使用痕
121	A1	SD1	山茶碗(南部系)	小碗	4型式	—	—	—	—	5.0		内面底部使用痕
122	A1	SD1	山茶碗(南部系)	碗	4型式	—	—	—	—	8.0		内面底部使用痕
123	A1	SD1	山茶碗(南部系)	碗	4型式	—	—	—	—	7.6		内面底部使用痕
124	A1	SD1	山茶碗(南部系)	碗	4型式	—	—	—	—	9.2		内面底部使用痕
125	A1	SD1	山茶碗(南部系)	碗	4型式	—	—	—	—	8.8		内面底部使用痕
126	A1	SD1	山茶碗(南部系)	碗？	4型式	—	—	—	—	—		

第15表　遺物観察表(2)

番号	地区	遺構・層位	種類	器種	分類・時期	調整		法量(cm)				備考
						外面	内面	口径	器高	底径	その他	
127	A1	SD1	山茶碗(南部系)	碗?	5型式	—	—	—	—	—		
128	A1	SD1	山茶碗(南部系)	小皿(加工円盤)	5型式	—	—	—	—	—	径5.6 厚1.1	
129	A1	SD1	山茶碗(南部系)	小皿	5型式	—	—	7.8	1.9	4.1		内面底部使用痕
130	A1	SD1	山茶碗(南部系)	小皿	5型式	—	—	8.0	1.8	3.8		内面底部使用痕
131	A1	SD1	山茶碗(南部系)	碗	5型式	—	—	—	—	7.0		
132	A1	SD1	山茶碗(南部系)	碗	5型式	—	—	16.0	5.1	7.8		内面底部使用痕
133	A1	SD1	山茶碗(南部系)	碗	5型式	—	—	15.6	5.2	8.2		内面底部使用痕
134	A1	SD1	山茶碗(南部系)	碗	5型式	—	—	16.8	4.9	7.4		内面底部使用痕
135	A1	SD1	山茶碗(南部系)	碗	5型式	—	—	16.4	5.1	7.5		
136	A1	SD1	山茶碗(南部系)	碗	5型式	—	—	—	—	7.2		高台内墨書「大」 内面底部使用痕
137	A1	SD1	山茶碗(南部系)	碗	5型式	—	—	—	—	—		内面底部使用痕
138	A1	SD1	山茶碗(南部系)	碗	5型式	—	—	—	—	7.8		内外面に墨 内面底部使用痕
139	A1	SD1	山茶碗(南部系)	大平鉢	5型式	—	—	—	—	—		
140	A1	SD1	山茶碗(南部系)	小皿	6型式	—	—	8.4	1.9	5.1		内面底部使用痕
141	A1	SD1	山茶碗(南部系)	小皿	6型式	—	—	8.0	1.8	4.0		内面底部使用痕
142	A1	SD1	山茶碗(南部系)	碗	6型式	—	—	—	—	7.0		内面底部使用痕
143	A1	SD1	山茶碗(南部系)	碗	6型式	—	—	—	—	7.4		内面底部使用痕
144	A1	SD1	山茶碗(南部系)	碗	6型式	—	—	—	—	6.3		内面底部使用痕
145	A1	SD1	山茶碗(南部系)	碗	6型式	—	—	13.4	—	—		
146	A1	SD1	山茶碗(南部系)	碗	6型式	—	—	15.0	—	—		
147	A1	SD1	山茶碗(南部系)	碗	6型式	—	—	17.0	—	—		
148	A1	SD1	山茶碗(南部系)	碗	6型式	—	—	—	—	7.2		内面底部使用痕
149	A1	SD1	山茶碗(南部系)	碗	6型式新	—	—	18.0	—	—		
150	A1	SD1	山茶碗(南部系)	碗	7型式	—	—	—	—	—		
151	A1	SD1	山茶碗(北部系)	碗	白土原1	—	—	—	—	6.4		
152	A1	SD1	山茶碗(北部系)	碗	大畑大洞4新	—	—	(13.0)	5.3	4.5		内面底部使用痕
153	A1	SD1	山茶碗(北部系)	碗	生田2	—	—	—	—	—		
154	A1	SD1	青磁(中国)	碗	龍泉窯系Ⅰ類	—	文様	—	—	—		
155	A1	SD1	青磁(中国)	碗	龍泉窯系Ⅰ類	—	文様	—	—	—		
156	A1	SD1	青磁(中国)	碗	龍泉窯系Ⅲ類	蓮華弁文	—	—	—	—		
157	A1	SD1	白磁(中国)	碗?	白磁碗Ⅴ類	—	弧状の櫛目	—	—	—		平成11年度鷲山仙道遺跡試掘2トレンチ資料(24)と接合
158	A1	SD1	土師器	かわらけ	M2類	(口)横ナデ	(体)横ナデ	(9.2)	(1.9)	—		
159	A1	SD1	土師器	かわらけ	M2類	(口)横ナデ 端部に面	(体)横ナデ	(10.2)	(1.4)	—		
160	A1	SD1	土師器	かわらけ	M2類	(口)横ナデ	(体)横ナデ?	(9.6)	(1.5)	—		
161	A1	SD1	土師器	かわらけ	M2類	(口)横ナデ	(体)横ナデ	(9.6)	—	—		
162	A1	SD1	土師器	かわらけ	M2類	(口)横ナデ 端部に面	(体)横ナデ?	(14.0)	(2.8)	—		
163	A1	SD1	土師器	かわらけ	M2類	(口)横ナデ 端部に面	(体)横ナデ	—	—	—		
164	A1	SD1	土師器	かわらけ	M2類	(口)横ナデ 端部に面	(体)横ナデ	—	—	—		
165	A1	SD1	土師器	かわらけ	M3類	(口)横ナデ	(体)横ナデ	—	—	—		
166	A1	SD1	土師器	かわらけ	M3類	(口)横ナデ	(体)横ナデ	15.0	3.6	—		
167	A1	SD1	土師器	かわらけ	M3類	(口)横ナデ	(体)横ナデ	8.9	1.8	—		
168	A1	SD1	土師器	かわらけ	M3類	(口)横ナデ	(体)横ナデ	(13.6)	(2.4)	—		
169	A1	SD1	土師器	かわらけ	M3類	(口)横ナデ	(体)横ナデ?	(9.2)	(1.5)	—		
170	A1	SD1	瓦器	風炉?	—	(体)ミガキ	—	—	—	—		
171	A1	SD1	陶器(常滑)	羽釜	13c	(口)横ナデ	(口)横ナデ	—	—	—		生焼け
172	A1	SD1	陶器(常滑)	甕	6a型式	—	—	—	—	—		
173	A1	SD1	陶器(瀬戸美濃)	壺	古瀬戸後Ⅳ期新	鉄釉	鉄釉	—	—	—		
177	A1	SE1	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)横ナデ	(体)横ナデ	—	—	—		
178	A1	SE1	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	(10.4)	(1.9)	—		口縁部タール痕
179	A1	SE1	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	7.8	1.2	—		口縁部タール痕 内面油染み
180	A1	SE1	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	7.3	1.4	—		
181	A1	SE1	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	(8.0)	(1.5)	—		
182	A1	SE1	陶器(瀬戸美濃)	壺	古瀬戸後Ⅳ期	緑釉	緑釉	—	—	—		
205	A6	SE2	陶器(瀬戸美濃)	壺	古瀬戸後Ⅳ期新	鉄釉 (口)露呈	鉄釉	12.8	—	—		
206	A6	SE2	陶器(瀬戸美濃)	腰折皿	古瀬戸後Ⅳ期新	灰釉 (体)下半露呈	灰釉	—	—	—		
207	A6	SE2	瓦器	火鉢(浅鉢形)	—	(口)～(体)ミガキ	(口)端部ミガキ	—	—	—		
208	A6	SE2焼土	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)横ナデ	(体)横ナデ	—	—	—		
209	A6	SE2焼土	土師器	かわらけ	C2類	—	—	(8.4)	(1.4)	—		内面タール痕
210	A6	SE2	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	7.3	1.3	—		
211	A6	SE2	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	(7.5)	(1.5)	—		口縁端部タール痕
220	A8	SE3	白磁(中国)	不明	—	—	—	—	—	—		
221	A8	SE3	不明	不明	不明	—	—	—	—	—		
222	A8	SE3	陶器(瀬戸美濃)	底加目皿	古瀬戸中Ⅰor Ⅱ期	灰釉	灰釉	—	—	—		
223	A8	SE3	陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	古瀬戸後Ⅳ期新	緑釉	緑釉	—	—	—		二次被熱
224	A8	SE3	土師器	かわらけ	M2orM3類	(口)横ナデ	(底)一方向ナデ (体)横ナデ	—	—	—		
225	A8	SE3	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)一部横ナデ	(体)横ナデ	(17.0)	—	—		
226	A8	SE3	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	9.7	1.7	—		口縁部タール痕
227	A8	SE3	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ (体)刻線文 草?	(6.8)	(1.5)	—		
228	A8	SE3	土師器	内耳鍋	17c	(口)端部ナデ	—	—	—	—		外面スス付着
231	A8	SE4	陶器(瀬戸美濃)	壺	古瀬戸後Ⅳ期	鉄釉	鉄釉	—	—	(14.6)		
232	A8	SE4	陶器(瀬戸美濃)	壺	古瀬戸後Ⅳ期	鉄釉 (底)露呈	露呈	—	—	(9.8)		
233	A8	SE4	陶器(瀬戸美濃)	緑釉小皿	古瀬戸後Ⅳ期新	(口)灰釉	(口)灰釉	(8.4)	—	—		
234	A8	SE4	陶器(瀬戸美濃)	天目茶碗	古瀬戸後Ⅳ期新	鉄釉(体)下半露呈	鉄釉	—	—	—		
235	A8	SE4	陶器(瀬戸美濃)	天目茶碗(加工円盤)	古瀬戸後Ⅳ期新	緑釉	鉄釉	—	—	—	径4.3 厚1.2	
236	A8	SE4	陶器(瀬戸美濃)	香炉	古瀬戸後Ⅳ期新	灰釉	(口)灰釉	—	—	—		
237	A8	SE4	陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	古瀬戸後Ⅳ期新	緑釉	緑釉	—	—	—		
238	A8	SE4	陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	大窯第1段階	緑釉	緑釉	—	—	—		
239	A8	SE4	陶器(常滑)	甕	6a型式	押印文 (帯状連続施文)	—	—	—	—		

第16表　遺物観察表(3)

番号	地区	遺構・層位	種類	器種	分類・時期	調整		法量(cm)				備考
						外面	内面	口径	器高	底径	その他	
240	A8	SE4	陶器(常滑)	甕	—	—	—	—	—	—		内面漆をしみこませた繊維付着
241	A8	SE4	陶器(常滑)	甕	第10型式(新)	—	—	—	—	—		口縁端部使用痕
242	A8	SE4	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)一部横ナデ	(体)横ナデ	12.3	2.2	—		内面体部タール痕
243	A8	SE4	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	(12.5)	(2.3)	—		内面口縁部タール痕
244	A8	SE4	土師器	かわらけ	C2類	—	?	7.6	1.4	—		
250	A8	SD58	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	(10.4)	—	—		
251	A7	SD32	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	(7.6)	—	—		
252	A7	SD34	須恵器(老洞ケ)	有台杯	7c後葉	(底)回転ヘラケズリ	—	14.5	4.0	10.5		内面底部使用痕 高台より底部突出 胎土に川砂混じる
253	A7	SD34	陶器(瀬戸美濃)	腰折皿	古瀬戸後Ⅳ期新	(底)露呈	灰釉	—	—	4.6		内面底部トチン跡存
254	A7	SD34	陶器(瀬戸美濃)	口広有耳壺	古瀬戸後Ⅳ期新	鉄釉 (底)露呈	鉄釉	—	—	9.7		内面底部トチン跡存
255	A7	SD34	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)一部横ナデ	(体)横ナデ	9.7	2.1	—		口縁部タール痕
256	A7	SD34	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)一部横ナデ	(体)横ナデ	9.5	1.8	—		口縁部タール痕 底部穿孔
257	A7	SD34	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)一部横ナデ	(体)横ナデ	8.9	1.6	—		内面底部タール痕
258	A7	SD34	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)一部横ナデ	(体)横ナデ	9.7	1.8	—		口縁部タール痕 底部穿孔
259	A7	SD34	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)一部横ナデ	(底)一方向ナデ (体)横ナデ	12.2	2.2	—		
260	A7	SD34	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	9.7	1.8	—		
261	A7	SD34	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	11.6	2.1	—		
262	A7	SD34	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	(12.7)	(2.3)	—		
263	A7	SD34	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(底)一方向ナデ (体)横ナデ	(13.2)	(2.6)	—		
264	A7	SD34	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(底)一方向ナデ (体)横ナデ	12.5	2.0	—		
265	A7	SD34	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	7.3	1.2	—		
266	A7	SD34	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	7.4	1.1	—		
267	A7	SD34	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向円形ナデ	7.5	1.2	—		
268	A7	SD34	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	6.5	1.2	—		
269	A7	SD34	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	7.5	1.1	—		
270	A7	SD34	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	7.1	1.4	—		
271	A7	SD34	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	7.1	1.3	—		
272	A7	SD34	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ?	7.4	1.3	—		
273	A7	SD36	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)横ナデ	(底)一方向ナデ (体)横ナデ	15.8	2.7	—		
274	A7	SD36	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)横ナデ	(体)横ナデ	(9.8)	—	—		
275	A7	SD36	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)横ナデ	(底)一方向ナデ (体)横ナデ	15.1	2.6	—		
276	A7	SD36	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)横ナデ	(底)一方向ナデ (体)横ナデ	15.9	2.7	—		底部穿孔
277	A7	SD36	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(底)一方向ナデ (体)横ナデ	12.8	2.1	—		
278	A7	SD36	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	12.8	2.5	—		内面タール痕
279	A7	SD36	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	(13.0)	(2.3)	—		
280	A7	SD36	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	(12.6)	(2.0)	—		
281	A7	SD36	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	11.5	2.0	—		
282	A7	SD36	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	(8.7)	(1.6)	—		胎土黒褐色
283	A7	SD36	土師器	かわらけ	C2類	—	(底)一方向ナデ (体)一方向円形ナ	7.5	1.4	—		
284	A7	SD36	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	7.5	1.5	—		
285	A7	SD36	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	7.7	1.3	—		
286	A7	SD36	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	7.5	1.4	—		
287	A7	SD36	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	7.4	1.6	—		
288	A7	SD36	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	7.6	1.4	—		
289	A7	SD36	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	7.1	1.3	—		
290	A7	SD36	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	7.6	1.5	—		
291	A7	SD36	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	8.2	1.4	—		
292	A7	SD36	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	6.9	1.3	—		
293	A7	SD36	土師器	かわらけ	D1類	(口)横ナデ	(底)一方向ナデ (体)横ナデ	4.8	1.4	—		
294	A1	SK1	陶器(瀬戸美濃)	天目茶碗	古瀬戸後Ⅳ期新	鉄釉	鉄釉	—	—	—		
295	A1	SK1	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)横ナデ	(体)横ナデ	(11.6)	(2.4)	—		
296	A1	SK1	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	12.4	2.0	—		
297	A1	SK1	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	7.8	1.4	—		
298	A1	SK1	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向円形ナデ	7.5	1.3	—		
299	A7	SK14	染付(中国)	碗	染付碗B群	界線 唐草文	界線	—	—	—		
300	A7	SK14	土師器	鍋	—	—	—	8.3	2.2	5.4		底部を利用し、割れ口を研磨
301	A7	SK14	陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	大窯第1段階	緑釉	緑釉	—	—	—		
302	A7	SK14	陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	大窯第1段階	緑釉	緑釉	—	—	(10.0)		
304	A7	SK14	土師器	かわらけ	B1類	無調整	(口)横ナデ	(11.4)	(2.1)	—		
305	A7	SK14	土師器	かわらけ	B1類	(口)横ナデ	(口)横ナデ	(11.6)	—	—		
306	A7	SK14	土師器	かわらけ	B1類	無調整	(口)横ナデ	(12.0)	—	—		
307	A7	SK14	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)横ナデ	(口)横ナデ	(11.2)	(1.9)	—		
308	A7	SK14	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)横ナデ	(口)横ナデ	(13.6)	(2.1)	—		
309	A7	SK14	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)横ナデ	(底)一方向ナデ (体)横ナデ	14.9	2.9	—		
310	A7	SK14	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)横ナデ	(底)一方向ナデ (体)横ナデ	(17.4)	(2.7)	—		
311	A7	SK14	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(底)一方向ナデ (体)横ナデ	8.4	1.4	—		
312	A7	SK14	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	8.9	1.5	—		
313	A7	SK14	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	10.2	1.8	—		口縁部タール痕
314	A7	SK14	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	9.8	2.0	—		口縁部タール痕
315	A7	SK14	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	9.8	1.8	—		
316	A7	SK14	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(底)一方向ナデ (体)横ナデ	10.2	2.0	—		

第17表　遺物観察表(4)

番号	地区	遺構・層位	種類	器種	分類・時期	調整		法量(cm)				備考
						外面	内面	口径	器高	底径	その他	
317	A7	SK14	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	11.7	2.3	—		
318	A7	SK14	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(底)一方向ナデ (体)横ナデ	12.6	2.2	—		
319	A7	SK14	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	12.0	2.3	—		
320	A7	SK14	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(底)一方向ナデ (体)横ナデ	12.4	2.4	—		
321	A7	SK14	土師器	かわらけ	B2－c類？	—	(体)横ナデ	(10.6)	(2.3)	—		
322	A7	SK14	土師器	かわらけ	B2－c類？	—	(体)横ナデ	(11.0)	(2.2)	—		
323	A7	SK14	土師器	かわらけ	B2－c類？	—	(体)横ナデ	(11.8)	(2.7)	—		
324	A7	SK14	土師器	かわらけ	B2－c類？	—	(体)横ナデ	(13.0)	(2.4)	—		外面ハケ状工具痕
325	A7	SK14	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	7.1	1.4	—		
326	A7	SK14	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	7.1	1.4	—		
327	A7	SK14	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	7.4	1.2	—		へそ皿
328	A7	SK14	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	7.5	1.5	—		口縁部タール痕 内面接合痕
329	A7	SK14	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向円形ナデ	7.8	1.1	—		
330	A7	SK14	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向円形ナデ？	7.2	1.6	—		
331	A7	SK14	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	7.6	1.4	—		
332	A7	SK14	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向円形ナデ	7.2	1.2	—		
333	A7	SK14	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	7.2	1.4	—		口縁部タール痕
334	A7	SK14	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	7.7	1.2	—		へそ皿
335	A7	SK14	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	8.2	1.2	—		底部穿孔
336	A7	SK14	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	7.9	1.5	—		
337	A7	SK12	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	(7.5)	(1.2)	—		
338	A8	SD37	白磁(中国)	碗	白磁碗E群	—	—	—	—	(9.1)		
339	A8	SD37	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)横ナデ	不明	—	—	—		鋳造作業関連遺物 外面スス付着 内面鉱滓付着 二次被熱による硬化
340	A8	SD37	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	—	—	—		鋳造作業関連遺物 内面鉱滓付着 二次被熱による硬化
342	A8	SD38	土師器	かわらけ	B2－b類	—	不明	—	—	—		鋳造作業関連遺物 内面鉱滓付着 二次被熱による硬化
343	A8	SD39	土師器	かわらけ	B2－b類	—	不明					口縁部タール痕
344	A8	SD41	山茶碗(北部系)	碗	大畑大洞4古	—	—	—	—	4.5		内面底部使用痕
345	A8	SD43	青磁(中国)	碗	龍泉窯系Ⅰ類	凹線	凹線　刻線文	—	—	—		
346	A8	SD43	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)横ナデ	(体)横ナデ	—	—	—		口縁部タール痕
347	A8	SX12	陶器(瀬戸美濃)	緑釉小皿	古瀬戸後Ⅳ期新	(口)灰釉	(口)灰釉	—	—	—		二次被熱 鋳造作業関連遺物？
348	A8	SX13	山茶碗(北部系)	皿	大畑大洞4古	—	—	8.0	1.2	5.4		内面底部使用痕
349	A8	SX13	陶器(瀬戸美濃)	卸皿	古瀬戸後Ⅰ期	灰釉	灰釉	—	—	—		
350	A8	SX13	土師器	かわらけ	B2－b類	—	不明	(11.5)	—	—		
351	A8	SX13	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	(7.7)	—	—		
352	A8	SX14	山茶碗(北部系)	皿	白土原1	—	—	8.7	1.3	5.1		内面使用痕
353	A8	SX14	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	—	—	—		鋳造作業関連遺物 二次被熱による硬化
354	A8	SX15	須恵器(美濃須衛)	杯身	7c前半	(底)回転ヘラケズリ	—	10.3	3.6	—	受け部径12.1 受け部高0.8	内面底部使用痕 降灰
355	A8	SX15	灰釉陶器	輪花椀	明和27　Ⅳ期古段階	—	—	16.6	—	—		
356	A8	SX15	山茶碗(北部系)	碗	明和1～大畑大洞4	—	—	10.2	—	—		
357	A8	SX15	土師器	かわらけ	M4類	(口)横ナデ	(体)横ナデ	(11.7)	—	—		
358	A8	SX16	山茶碗(南部系)	碗	6型式	—	—	—	—	6.5		
359	A8	SX16	山茶碗(北部系)	碗	生田2	—	—	9.4	—	—		
360	A8	SX16	白磁(中国)	碗	白磁碗E群	—	—	—	—	—		
361	A8	SX16	青磁(中国)	碗	青磁碗E類	(口)凹線	—	—	—	—		
362	A8	SX16	陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	古瀬戸後Ⅳ期新	錆釉	錆釉	—	—	—		
363	A8	SX16	陶器(瀬戸美濃)	折縁深皿	古瀬戸後Ⅳ期新	灰釉	灰釉	—	—	—		二次被熱
364	A8	SX16	陶器(瀬戸美濃)	腰折皿	古瀬戸後Ⅳ期新	灰釉　(体)下半露呈	灰釉	(11.3)	—	—		
365	A8	SX16	土師器	かわらけ	B2－b類	—	不明	(13.5)	—	—		
366	A8	SX19	陶器(瀬戸美濃)	天目茶碗	古瀬戸後Ⅳ期新	鉄釉　(体)下半露呈	鉄釉	12.4	—	—		
367	A8	SX19	陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	古瀬戸後Ⅳ期新	錆釉	錆釉	—	—	—		二次被熱 鋳造関連遺物
368	A8	SX19	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	(7.5)	(1.3)	—		
369	A8	SX26	陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	古瀬戸後Ⅳ期新	錆釉	錆釉	—	—	—		
370	A8	SX26	陶器(瀬戸美濃)	丸碗	大窯第1段階	線描蓮弁文	—	—	—	—		全面無釉
371	A8	SX26	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)横ナデ	(口)横ナデ	(10.2)	(1.9)	—		口縁部タール痕
372	A8	SX26	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	7.5	1.5	—		内面底部接合痕
373	A8	SD46	陶器(瀬戸美濃)	香炉	古瀬戸後Ⅳ期新	鉄釉	鉄釉	—	—	—		二次被熱
374	A8	SD54	陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	古瀬戸後Ⅳ期新	錆釉	錆釉	—	—	—		
375	A8	SD54	陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	古瀬戸後Ⅳ期新	錆釉	錆釉	—	—	—		
376	A5	SK6	須恵器(美濃須衛)	杯身	7c後葉	—	—	11.0	—	—	受け部径12.8 受け部高0.5	
377	A5	SK6	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	(8.3)	(1.2)	—		
378	A5	SX7	土師器	かわらけ	C2類	—	不明	—	—	—		
379	A2	SK8	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	(11.5)	(2.3)	—		
380	A2	SK27	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	—	—	—		
381	A2	SK22	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)横ナデ	(体)横ナデ	(17.2)	(2.6)	—		
382	A2	SX11	土師器	かわらけ	M4類	(口)横ナデ	(体)横ナデ	—	—	—		
383	A2	SX11	白磁(中国)	蓋皿	白磁皿E群	—	—	—	—	—		花弁の表現簡略的
384	A2	SX11	陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	古瀬戸後Ⅳ期新	錆釉	錆釉	—	—	—		
385	A2	SX11	陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	古瀬戸後Ⅳ期新	錆釉	錆釉	—	—	—		
386	A2	SX11	陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	古瀬戸後Ⅳ期新	錆釉	錆釉	—	—	—		
387	A2	SX11	陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	大窯第1段階	錆釉	錆釉	(27.8)	—	—		
388	A2	SX11	染付(不明)	不明	—	—	—	—	—	—		
393	A8	SK19	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	—	—	—		
394	A1	SX2	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)横ナデ	(体)横ナデ	(9.2)	(1.7)	—		
395	A1	SX2	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)横ナデ	不明	—	—	—		
397	A1	P4(柱穴列)	陶器(常滑)	甕(赤物)	15～16c	(体)押印文	—	—	—	—		焼きが甘い
398	A1	P5(柱穴列)	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)横ナデ	(体)横ナデ	(16.0)	—	—		内面スス付着

第18表　遺物観察表(5)

番号	地区	遺構・層位	種類	器種	分類・時期	調整		法量(cm)				備考
						外面	内面	口径	器高	底径	その他	
399	A1	P5(柱穴列)	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	—	—	—		内面スス付着
400	A1	P5(柱穴列)	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	(7.6)	—	—		
401	A1	P3	土師器	かわらけ	B2－a類	口縁部若干ナデ	横ナデ	8.8	—	—		
402	A1	P3	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	—	—	—		
403	A1	P19	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向円形ナデ	7.4	1.5	—		内面接合痕
404	A2	P134	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	7.8	1.6	—		
405	A2	P193	陶器(瀬戸美濃)	緑釉小皿	古瀬戸後Ⅳ期新	(口)灰釉	(口)灰釉	9.6	2.1	5.4		内面底部使用痕
406	A2	P193	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	9.2	(1.6)	—		口縁部タール痕
408	A8	P446	山茶碗(北部系)	碗	大畑大洞4新～大洞東1	—	—	—	—	—		
409	A8	P446	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	(13.8)	(2.2)	—		
410	A7	P454	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向円形ナデ	(7.6)	(1.3)	—		
411	A8	P651	陶器(瀬戸美濃)	天目茶碗	大窯第1段階	鉄釉 (体)下半錆釉	鉄釉	(13.0)	—	—		
412	A8	P686	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)一部横ナデ	(体)横ナデ	10.0	1.9	—		
413	A8	P686	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	7.8	1.4	—		
414	A2	SD10	陶器(瀬戸美濃)	天目茶碗	古瀬戸後Ⅳ期新	鉄釉	鉄釉	—	—	—		
415	A2	SK15	青磁(中国)	碗	青磁碗B－Ⅳ類	線描蓮弁文	—	—	—	—		
416	A2	SK15	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)横ナデ	不明	(14.3)	—	—		
417	A2	SK15	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	12.8	2.4	—		口縁部タール痕
418	A2	SK15	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	7.7	1.3	—		内面未貫通の穿孔
419	A2	SK15	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向円形ナデ	7.4	1.4	—		
420	A2	SK15	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	(7.4)	(1.5)	—		内面口縁部タール痕
421	A2	SK15	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	7.6	1.4	—		内面口縁部タール痕
424	A2	P194(SB13)	陶器(瀬戸美濃)	瓶子	古瀬戸後Ⅳ期新	鉄釉	鉄釉 (体)下半回転ヘラケズリ	—	—	—		
425	A2	P194(SB13)	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	—	—	—		
426	A2	P214(SB13)	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	7.6	1.3	—		
427	A2	P348(SB13)	陶器(瀬戸美濃)	腰折皿	古瀬戸後Ⅳ期新	(底)露呈	灰釉	—	—	4.9		
428	A2	P348(SB13)	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	9.4	1.7	—		口縁部タール痕
429	A2	P348(SB13)	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	(10.2)	—	—		口縁部タール痕
430	A2	P170(SB14)	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	(12.0)	(2.1)	—		
431	A2	P211(SB14)	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)横ナデ	(体)横ナデ	—	—	—		口縁部タール痕
433	A2	P191 (SB14or15)	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	(7.3)	(1.2)	—		
434	A2	P191 (SB14or15)	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	—	—	—		
438	A2	P127(SB15)	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)横ナデ	(体)横ナデ	(9.9)	(1.7)	—		
439	A2	P127(SB15)	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)横ナデ	(体)横ナデ	—	—	—		
440	A2	P127(SB15)	土師器	かわらけ	C2類	—	不明	(7.1)	(1.5)	—		鋳造作業関連遺物 内面底部鉱滓付着 二次被熱による硬化
441	A2	P127(SB15)	陶器(瀬戸)	丸碗(加工円盤)	第5～7小期	露呈	うのふ釉	—	—	—	径4.6 厚1.6	
442	A2	P129(SB15)	陶器(瀬戸美濃)	腰折皿	古瀬戸後Ⅳ期新	灰釉 (底)露呈	灰釉	11.4	—	—		
443	A2	P129(SB15)	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	—	—	—		
444	A2	P143(SB15)	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	(9.6)	(1.7)	—		
445	A2	P143(SB15)	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	(13.5)	(2.2)	—		
446	A2	P157(SB15)	陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	古瀬戸後Ⅳ期新	錆釉	錆釉 (体)下半露呈	—	—	7.8		
447	A2	P157(SB15)	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(底)一方向ナデ (体)横ナデ	9.4	1.7	—		口縁部タール痕
448	A2	P157(SB15)	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	(10.7)	—	—		
449	A2	P157(SB15)	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	(7.9)	(1.6)	—		
450	A2	P169(SB15)	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)横ナデ	(体)横ナデ	(15.9)	(2.4)	—		
451	A2	P169(SB15)	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	(8.0)	(1.5)	—		
452	A2	P176(SB15)	白磁(中国)	輪皿	白磁皿E群	(体)花弁状凹線	—	—	—	—		花弁の表現簡略的的
453	A2	P176(SB15)	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)横ナデ	(体)横ナデ	(18.5)	—	—		
454	A2	P176(SB15)	土師器	かわらけ	B2－b類	—	不明	(8.4)	(1.5)	—		鋳造作業関連遺物 内面底部鋼滓付着 二次被熱による硬化
455	A2	P176(SB15)	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	7.5	1.2	—		
456	A2	P176(SB15)	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	7.5	1.4	—		
457	A2	P176(SB15)	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	7.6	(1.3)	—		
458	A2	P176(SB15)	土師器	かわらけ	D1類	(口)横ナデ	(体)横ナデ	(4.9)	—	—		
459	A2	P199(SB15)	染付(中国)	碗	染付碗B群	唐草文	界線	—	—	—		
460	A2	P199(SB15)	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	(7.4)	(1.2)	—		
461	A2	P210(SB15)	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)横ナデ	(体)横ナデ	—	—	—		口縁部タール痕
462	A2	SK3(SB16)	山茶碗(北部系)	碗	生田2	—	—	—	—	—		
463	A2	SK3(SB16)	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	—	—	—		
464	A2	P82(SB16)	土師器	かわらけ	D1類	(口)横ナデ	(体)横ナデ	(4.7)	(1.5)	—		
465	A2	P95(SB16)	陶器(瀬戸美濃)	腰折皿	古瀬戸後Ⅳ期新	灰釉 (体)下半露呈	灰釉	—	—	—		
466	A2	P95(SB16)	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	9.4	(1.5)	—		口縁部タール痕
467	A2	P95(SB16)	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	(9.8)	(1.5)	—		
468	A2	P95(SB16)	土師器	かわらけ	不明	不明	(体)横ナデ	—	—	—		へそ皿
469	A2	P100(SB16)	陶器(瀬戸美濃)	天目茶碗？(加工円盤)	大窯第1段階	露呈	灰釉	—	—	—	径4.6 厚1.2	
471	A2	P104(SB16)	白磁(中国)	皿	白磁皿E群	—	(体)凸線文 花	12.9	—	—		
472	A2	P104(SB16)	陶器(瀬戸美濃)	口広有耳壺	大窯第1段階	鉄釉	(口)鉄釉 端部露呈 (体)下半露呈	13.4	—	—		
473	A2	P104(SB16)	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)横ナデ	(体)横ナデ	—	—	—		
474	A2	P104(SB16)	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	(7.4)	—	—		
475	A2	P114(SB16)	青磁(中国)	稜花皿	—	(高)内部露呈	—	—	—	7.3		
476	A2	P114(SB16)	白磁(中国)	皿	白磁皿E群	(高)接地部露呈	—	8.9	2.1	5.3		
477	A2	P114(SB16)	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)一部横ナデ	(体)横ナデ	(14.4)	—	—		
478	A2	P114(SB16)	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	—	—	—		
479	A2	P114(SB16)	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	(7.5)	(1.5)	—		
481	A2	P118(SB16)	陶器(瀬戸美濃)	腰折皿	古瀬戸後Ⅳ期新	灰釉 (体)下半露呈	灰釉	(10.6)	—	—		
482	A2	P180(SB16)	土師器	かわらけ	C2類	—	不明	(6.8)	(1.1)	—		
483	A2	P183(SB16)	青磁(中国)	碗	龍泉窯系Ⅰ－5類	—	—	—	—	—		
484	A2	P183(SB16)	白磁(中国)	碗	白磁碗Ⅳ類	(口)玉縁状	—	—	—	—		
485	A2	P183(SB16)	陶器(瀬戸美濃)	徳利	古瀬戸後Ⅳ期新or大窯第1段階	鉄釉	鉄釉	—	—	11.5		内面底部・割口・外面露呈部スス付着

第19表　遺物観察表(6)

正　誤　表

116頁の表は誤りがありました。正しくは、下記の表になりますので訂正します。

番号	地区	遺構・層位	種類	器種	分類・時期	調整		法量(cm)				備考
						外面	内面	口径	器高	底径	その他	
486	A8	SK18	須恵器(美濃須衛)	杯身	7c前半	(底)回転ヘラケズリ	—	9.0	3.1	6.0	受け部径11.0 受け部高0.7	
487	A8	SK18	山茶碗(北部系)	碗	大洞東1～脇之島3	—	—	(12.3)	—	—		
488	A8	SK18	山茶碗(北部系)	碗	生田2	—	—	—	—	4.4		
489	A8	SK18	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	7.6	1.3	—		内面タール痕
490	A8	SX17	陶器(瀬戸美濃)	梅瓶形香炉	古瀬戸後Ⅳ期新	鉄釉	(口)鉄釉 (体)露呈	—	—	—		
491	A8	SX17	陶器(瀬戸美濃)	天目茶碗	古瀬戸後Ⅳ期新	鉄釉	鉄釉	—	—	—		
492	A8	SX17	陶器(瀬戸美濃)	腰折皿	古瀬戸後Ⅳ期新	灰釉 (底)露呈	灰釉	—	—	—		
493	A8	SX17	陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	古瀬戸後Ⅳ期新	錆釉	錆釉	—	—	—		
494	A8	SX17	陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	古瀬戸後Ⅳ期新	錆釉	錆釉	—	—	—		二次被熱
495	A8	SX17	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	9.9	1.9	—		口縁部タール痕
496	A8	SX17	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	(8.8)	—	—		鋳造作業関連遺物 内面鉱滓付着 二次被熱による硬化
497	A8	SX17	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	(7.3)	(1.3)	—		
499	A8	P402(柱穴列)	土師器	かわらけ	B1類(古)	(口)横ナデ	(体)横ナデ	(12.0)	—	—		
500	A8	P402(柱穴列)	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	(9.6)	(1.5)	—		
501	A8	P405(柱穴列)	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)横ナデ	(体)横ナデ	(9.2)	(1.6)	—		
502	A8	P405(柱穴列)	土師器	かわらけ	C2類	—	?					鋳造作業関連遺物 二次被熱による硬化
503	A8	P417(柱穴列)	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)横ナデ	(体)横ナデ	—	—	—		口縁部タール痕
504	A8	P418(柱穴列)	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)横ナデ	(体)横ナデ	—	—	—		
505	A8	P418(柱穴列)	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	7.3	1.4	—		
507	A8	P421(柱穴列)	染付(中国)	皿	染付皿B1群	唐草文	界線　文様	—	—	—		高台接地部・高台内側下半露呈
509	A8	P421(柱穴列)	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)横ナデ	(底)一方向ナデ (体)横ナデ	(9.3)	(1.7)	—		
510	A8	P421(柱穴列)	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	(7.2)	(1.1)	—		
511	A8	P432(柱穴列)	白磁(中国)	碗	白磁碗Ⅱ類	(口)玉縁状	—	—	—	—		
512	A8	P432(柱穴列)	陶器(瀬戸美濃)	筒形香炉	古瀬戸後Ⅳ期新	灰釉 (口)端部露呈	灰釉	—	—	—		
513	A8	P432(柱穴列)	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(底)一方向ナデ (体)横ナデ	(9.6)	(1.8)	—		
514	A8	P432(柱穴列)	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	(13.0)	(2.2)	—		
515	A8	P432(柱穴列)	土師器	かわらけ	C2類	—	不明	—	—	—		鋳造作業関連遺物 内面鉱滓付着 二次被熱による硬化
516	A8	P432(柱穴列)	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	6.7	1.4	—		
517	A8	P482(柱穴列)	須恵器(畿内系)	杯身	5～6型式			—	—	—		降灰
518	A8	P482(柱穴列)	山茶碗(北部系)	皿	明和1	—	—	8.4	—	—		
519	A8	P482(柱穴列)	土師器	かわらけ	C2類	—	不明	—	—	—		鋳造作業関連遺物 二次被熱による硬化
521	A8	P486(柱穴列)	土師器	かわらけ	B1類	無調整	(体)横ナデ	—	—	—		鋳造作業関連遺物 二次被熱による硬化
522	A8	P486(柱穴列)	土師器	かわらけ	C2類	—	不明	8.2	1.6	—		
523	A8	P497(柱穴列)	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ(反時計回り)	(10.0)	(1.6)	—		
524	A8	P497(柱穴列)	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	(7.7)	(1.3)	—		
525	A8	P498(柱穴列)	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	—	—	—		
526	A8	P604(柱穴列)	須恵器(猿投)	杯身	H－15	(底)回転ヘラケズリ	—	9.1	3.9	—	受け部径11.1 受け部高1.1	
527	A8	P604(柱穴列)	陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	古瀬戸後Ⅳ期新	錆釉	錆釉	—	—	—		
528	A8	P604(柱穴列)	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	—	—	—		
529	A8	P604(柱穴列)	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ(反時計回り)	(12.6)	(2.3)	—		
530	A8	P608(柱穴列)	染付(中国)	碗	染付碗B群	界線　唐草文?	界線	—	—	—		
531	A8	P608(柱穴列)	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	(10.4)	—	—		口縁部タール痕
532	A8	P608(柱穴列)	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	(7.4)	(1.3)	—		
533	A8	P634(柱穴列)	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	(7.0)	—	—		
535	A8	P650(柱穴列)	須恵器(不明)	提瓶	6c前半	(体)回転ヘラケズリ	—	—	—	—		降灰
536	A8	P665(柱穴列)	弥生土器?	器台?	不明	ミガキ	横ナデ	—	—	—		
537	A8	P665(柱穴列)	山茶碗(北部系)	碗	大畑大洞4古	—	—	—	—	—		内面底部使用痕
538	A8	P665(柱穴列)	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)横ナデ	(体)横ナデ	—	—	—		
539	A8	P665(柱穴列)	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)横ナデ	(体)横ナデ	—	—	—		
540	A2	P79	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)横ナデ	(体)横ナデ	—	—	—		
541	A2	P79	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	—	—	—		
542	A2	P79	土師器	かわらけ	C2類	—	不明	—	—	—		
543	A2	P84	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)横ナデ	(体)横ナデ	(10.4)	—	—		
544	A2	P84	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	—	—	—		
545	A2	P84	土師器	かわらけ	B2－b類	—	不明	—	—	—		
546	A2	P84	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	—	—	—		
547	A2	P86	陶器(瀬戸美濃)	天目茶碗(加工円盤)	大窯第1段階	錆釉	鉄釉	—	—	—	径4.1　厚1.0	
548	A2	P91	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	—	—	—		
549	A2	P91	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	—	—	—		
550	A2	P91	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	—	—	—		
553	A2	P99	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	(7.2)	(1.4)	—		
556	A2	P103	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	—	—	—		
557	A2	P103	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	—	—	—		口縁部タール痕
558	A2	P105	陶器(瀬戸美濃)	平碗	大窯第1段階	鉄釉 (体)下半～(底)錆釉	鉄釉	—	—	4.4		
559	A2	P105	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)横ナデ	(体)横ナデ	(11.2)	(1.9)	—		
560	A2	P105	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)横ナデ	(体)横ナデ	(11.9)	—	—		
561	A2	P105	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)横ナデ	(体)横ナデ	—	—	—		
562	A2	P105	土師器	かわらけ	C2類	—	不明	(5.8)	—	—		
563	A2	P105	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	(8.4)	—	—		
565	A2	P110	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)横ナデ	(体)横ナデ	—	—	—		
566	A2	P111	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	(11.0)	(1.8)	—		
567	A2	P116	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)一部横ナデ	(体)横ナデ	(11.8)	—	—		
568	A2	P117	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)横ナデ	(体)横ナデ	—	—	—		
570	A2	P131	土師器	かわらけ	B1類	(口)横ナデ	不明	—	—	—		
571	A2	P131	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	(7.7)	(1.5)	—		

第20表　遺物観察表(7)

正 誤 表

117頁の表は誤りがありました。正しくは、下記の表になりますので訂正します。

番号	地区	遺構・層位	種類	器種	分類・時期	調整		法量(cm)				備考
						外面	内面	口径	器高	底径	その他	
572	A2	P131	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	7.4	1.4	—		
575	A2	P141	土師器	かわらけ	B1類	無調整	不明	—	—	—		
576	A2	P141	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)横ナデ	(体)横ナデ	(12.9)	(2.6)	—		内面未完通の穿孔
577	A2	P141	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	(7.4)	(1.7)	—		
578	A2	P141	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	(7.4)	(1.2)	—		
579	A2	P144	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)一部横ナデ	(体)横ナデ	8.8	1.7	—		
580	A2	P144	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	(10.5)	(2.0)	—		
581	A2	P144	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	7.9	1.6	—		
582	A2	P144	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	7.4	1.5	—		
583	A2	P144	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	7.7	1.4	—		
584	A2	P144	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	7.5	1.5	—		
585	A2	P144	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	7.5	1.5	—		
587	A2	P146	青磁(中国)	碗	青磁碗B－Ⅳ類	線描蓮弁文	—	—	—	—		
588	A2	P146	土師器	かわらけ	B2－b類	無調整	横ナデ	(10.5)	(1.9)	—		口縁部タール痕
589	A2	P146	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	7.3	1.4	—		
590	A2	P149	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	(7.8)	(1.4)	—		
591	A2	P150	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	7.7	1.4	—		
593	A2	P156	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)横ナデ	(底)一方向ナデ (体)横ナデ	(15.4)	(2.6)	—		外面ハケ状工具痕
597	A2	P188	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)横ナデ	(底)一方向ナデ (体)横ナデ	(12.8)	(2.2)	—		内面タール痕
598	A2	P192	白磁(中国)	皿	白磁皿E群	(体)花弁状凹線	—	—	—	—		花弁の表現簡略的
599	A2	P192	土師器	かわらけ	B1類	無調整	不明	—	—	—		
600	A2	P192	土師器	かわらけ	B2－b類	—	不明	—	—	—		
603	A2	P195	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	(7.8)	(1.5)	—		
605	A2	P204	陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	古瀬戸後Ⅳ期新	鉄釉	鉄釉	—	—	—		二次被熱
606	A2	P207	陶器(瀬戸美濃)	天目茶碗(加工円盤)	大窯第1段階	鉄釉	鉄釉	—	—	—	径(4.4) 厚(0.7)	
607	A2	P216	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	7.4	1.4	—		
608	A2	P257	陶器(朝鮮)	瓶	李朝	(肩)凹線5条	—	—	—	—		雑釉
609	A8	P344	山茶碗(北部系)	碗	大畑大洞4古～新	—	—	—	—	—		
614	A8	P358	土師器	かわらけ	C2類	—	不明	—	—	—		鋳造作業関連遺物 内面鉱滓付着 二次被熱による硬化
615	A8	P359	土師器	かわらけ	C2類	—	不明	7.3	1.5	—		
617	A8	P360	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)一部横ナデ	(体)横ナデ	12.7	2.3			
618	A8	P360	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)一部横ナデ	(体)横ナデ	(10.4)	(1.9)			口縁部タール痕
619	A8	P360	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	(12.6)	(2.2)			
620	A8	P360	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	7.3	1.4			
621	A8	P360	土師器	かわらけ	C2類	—	不明	7.7	1.4			
622	A8	P360	土師器	かわらけ	C2類	—	不明	7.5	1.7			
624	A8	P372	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	—	—	—		
625	A8	P423	須恵器(畿内系)	杯蓋	3～4型式	(天)回転ヘラケズリ	—	13.0	—	—		口縁端部使用痕
626	A8	P433	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)横ナデ	不明	(9.0)	—	—		
631	A8	P483	土師器	かわらけ	C2類	—	不明	(7.4)	—	—		口縁部タール痕
632	A8	P491	陶器(瀬戸美濃)	腰折皿	古瀬戸後Ⅳ期新	灰釉	灰釉	—	—	—		
633	A8	P602	土師器	かわらけ	C2類	—	不明	—	—	—		鋳造作業関連遺物 内面鉱滓付着 二次被熱による硬化
634	A8	P606	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)横ナデ	(体)横ナデ	—	—	—		鋳造作業関連遺物 二次被熱による硬化
635	A8	P611	山茶碗(北部系)	皿	不明	—	—	(8.5)	—	—		
636	A8	P611	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)一部横ナデ	(体)横ナデ	(9.8)	—	—		口縁部タール痕
639	A8	P616	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)横ナデ	(体)横ナデ	(17.4)	—	—		
641	A8	P617	陶器(瀬戸美濃)	腰折皿	古瀬戸後Ⅳ期新	(体)灰釉 (底)露呈	灰釉	—	—	—		
642	A8	P617	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	—	—	—		
644	A8	P625	陶器(瀬戸美濃)	腰折皿	古瀬戸後Ⅳ期新	灰釉 (体)下半露呈	灰釉	—	—	—		
645	A8	P625	陶器(瀬戸美濃)	橋？香炉？	古瀬戸後Ⅳ期新	鉄釉	鉄釉	—	—	—		
646	A8	P625	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	—	—	—		鋳造作業関連遺物 二次被熱による硬化
647	A8	P625	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	7.9	1.4	—		
648	A8	P628	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)横ナデ	(体)横ナデ	—	—	—		鋳造作業関連遺物 二次被熱による硬化
649	A8	P628	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	(10.0)	—	—		内面口縁部タール痕
650	A8	P636	陶器(瀬戸美濃)	将棋形香炉	古瀬戸後Ⅳ期新	鉄釉	鉄釉	—	—	—		
651	A8	P636	土師器	かわらけ	B2－b類	—	不明	—	—	—		鋳造作業関連遺物 内面鉱滓付着 二次被熱による硬化
652	A8	P636	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	(7.0)	(1.2)	—		内面付着物
653	A8	P685	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	7.5	1.1	—		
654	A2	P108	白磁(中国)	皿	白磁皿E群	—	—	(8.6)	—	—		
655	A2	P108	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	(9.8)	(1.9)	—		
656	A2	P153	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)一部横ナデ	(体)横ナデ	(10.5)	(2.1)	—		
657	A2	P158	染付(中国)	皿	染付皿B1群	界線 唐草文	界線	—	—	—		
659	A2	P160	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	7.7	1.3	—		
660	A2	P206	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)横ナデ	(体)横ナデ	—	—	—		
661	A2	P206	陶器(瀬戸)	丸碗(加工円盤)	第5～7小期	露呈	灰釉	—	—	—	径4.6 厚1.3	
662	A2	P585	土師器	かわらけ	D1類	(口)横ナデ	不明	(4.9)	(1.6)	—		
663	A8	SA1－Ⅰ	山茶碗(北部系)	碗	脇之島3	—	—	—	—	—		
664	A8	SA1－Ⅰ	陶器(瀬戸美濃)	腰折皿	古瀬戸後Ⅳ期新	灰釉 (体)下半露呈	灰釉	(10.7)	—	—		
665	A8	SA1－Ⅰ	陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	古瀬戸後Ⅳ期新	鉄釉	鉄釉	—	—	(10.4)		内面底部擂り目消滅
666	A8	SA1－Ⅰ	染付(不明)	不明	近世以降？	界線 文様	花(色絵)	—	—	—		色剥げ落ちる
667	A8	SA1－Ⅱ	須恵器(美濃須衛)	横瓶	8c前半	—	—	(13.2)	—	—	頸部径9.4 頸部高4.5	降灰
668	A8	SA1－Ⅱ	山茶碗(北部系)	碗	大畑大洞4古	—	—	(15.0)	5.0	(5.7)		内面底部使用痕
669	A8	SA1－Ⅱ	山茶碗(北部系？)	碗	5型式併行	—	—	—	—	(8.1)		内面底部使用痕 内外面・割ロス付着
670	A8	SA1－Ⅱ	陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	古瀬戸後Ⅳ期新	鉄釉	鉄釉	—	—	—		
671	A8	SA1－Ⅱ	陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	古瀬戸後Ⅳ期新	鉄釉	鉄釉	—	—	—		
672	A8	SA1－Ⅱ	陶器(瀬戸美濃)	折縁深皿	古瀬戸後Ⅳ期新	灰釉	灰釉	—	—	—		

第21表　遺物観察表(8)

番号	地区	遺構・層位	種類	器種	分類・時期	調整		法量(cm)				備考
						外面	内面	口径	器高	底径	その他	
673	A8	SA1-Ⅱ	陶器(瀬戸美濃)	天目茶碗	古瀬戸後Ⅳ期新	鉄釉	鉄釉	—	—	—		
674	A8	SA1-Ⅱ	陶器(瀬戸美濃)	縁釉小皿	古瀬戸後Ⅳ期新	(口)灰釉	(口)灰釉	—	—	—		
675	A8	SA1-Ⅱ	陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	大窯第1段階	錆釉	錆釉	—	—	—		
676	A8	SA1-Ⅱ	陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	大窯第1段階	錆釉	錆釉	—	—	—		
677	A8	SA1-Ⅱ	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	(9.9)	(2.0)	—		
678	A8	SA1-Ⅱ	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	(7.1)	(1.4)	—		鋳造作業関連遺物 二次被熱による硬化
679	A8	SA1-Ⅱ	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	7.4	1.4	—		
680	A8	SA1-Ⅱ	磁器(不明)	皿	17c後半	—	(高)接地部露呈	—	—	—		
681	A8	SA1-Ⅱ	磁器(肥前)	皿	17c後半	—	(高)接地部露呈	—	—	—		
682	A8	SA1-Ⅱ	陶器(瀬戸美濃)	染付碗	18c後葉	文様	文様	—	—	—		太白手
683	A8	SA1-Ⅲ	土師器	かわらけ	M2類	(口)横ナデ 端部に面	(体)横ナデ	(14.6)	(2.8)	—		
684	A8	SA1-Ⅲ	土師器	かわらけ	M2類	(口)横ナデ 端部に面	(体)横ナデ	(14.2)	—	—		
685	A8	SA1-Ⅲ	山茶碗(北部系)	碗	生田2	—	—	9.2	—	—		
686	A8	SA1-Ⅲ	青磁(中国)	皿	龍泉窯系Ⅰ－5類	(高)接地部～内面露呈	(底)円形に露呈	—	—	5.7		釉と露呈部分の境は赤茶色に発色
687	A8	SA1-Ⅲ	陶器(瀬戸美濃)	天目茶碗	古瀬戸後Ⅳ期新	鉄釉	鉄釉	—	—	—		
688	A8	SA1-Ⅲ	陶器(瀬戸美濃)	天目茶碗	古瀬戸後Ⅳ期新	鉄釉	鉄釉	—	—	—		
689	A8	SA1-Ⅲ	陶器(瀬戸美濃)	壺	古瀬戸後Ⅳ期新	(底)露呈	(底)露呈	—	—	(11.7)		内面底部墨付着
690	A8	SA1-Ⅲ	陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	大窯第1段階	錆釉	錆釉	—	—	—		二次被熱
691	A8	SA1-Ⅲ	陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	大窯第1段階	錆釉	錆釉	—	—	—		
692	A8	SA1-Ⅲ	陶器(瀬戸美濃)	天目茶碗	大窯第1段階	(体)鉄釉 (底)錆釉	鉄釉	—	—	4.5		
693	A8	SA1-Ⅲ	土師器	かわらけ	B1類	無調整	(体)横ナデ	(9.6)	—	—		
694	A8	SA1-Ⅲ	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	(9.0)	(1.6)	—		
695	A8	SA1-Ⅲ	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	12.4	2.5	—		
696	A8	SA1-Ⅲ	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	7.5	1.3	—		
697	A8	SA1-Ⅲ	陶器(常滑)	火鉢(赤物)	近世	—	—	—	—	—		内面スス付着
698	A8	SA1-Ⅲ	染付(肥前)	碗	17c後半	文様(草花？)	—	—	—	—		
699	A8	SA1-Ⅲ	土師器	内耳鍋	～18c前半	—	(口)端部横ナデ	—	—	—		外面スス付着
701	A8	SA1-Ⅳ	須恵器(美濃須衛)	平頂蓋	9c前葉(K－14(井行)	—	—	(15.6)	2.8	—	天井部径(7.0)	降灰
702	A8	SA1-Ⅳ	白磁(中国)	皿	白磁皿D群	(高)抉り込み (口)端部露呈	—	8.8	1.6	4.4		高台内施釉
703	A8	SA1-Ⅳ	白磁(中国)	碗	白磁碗E群	—	—	—	—	—		
704	A8	SA1-Ⅳ	染付(中国)	碗	染付碗B群	文様	界線	—	—	—		
705	A8	SA1-Ⅳ	陶器(瀬戸美濃)	腰折皿	古瀬戸後Ⅳ期新	灰釉 (体)下半露呈	灰釉	(10.6)	—	—		
706	A8	SA1-Ⅳ	陶器(瀬戸美濃)	腰折皿	古瀬戸後Ⅳ期新	灰釉	灰釉	(10.5)	—	—		
707	A8	SA1-Ⅳ	陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	古瀬戸後Ⅳ期新	錆釉	錆釉	—	—	—		二次被熱
708	A8	SA1-Ⅳ	陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	古瀬戸後Ⅳ期新	錆釉	錆釉	—	—	—		
709	A8	SA1-Ⅳ	陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	大窯第1段階	錆釉	錆釉	—	—	—		
710	A8	SA1-Ⅳ	陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	大窯第1段階	錆釉	錆釉	—	—	—		
711	A8	SA1-Ⅳ	陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	大窯第3段階	錆釉	錆釉	—	—	—		
712	A8	SA1-Ⅳ	陶器(瀬戸美濃)	香炉	大窯第3段階	鉄釉	鉄釉	—	—	6.8		
713	A8	SA1-Ⅳ	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)横ナデ	(体)横ナデ	—	—	—		
714	A8	SA1-Ⅳ	土師器	かわらけ	C2類	—	不明	—	—	—		鋳造作業関連遺物 二次被熱による硬化
715	A8	SA1-Ⅳ	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	(7.2)	(1.3)	—		
717	A1	SD6	陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	古瀬戸後Ⅳ期新	錆釉	錆釉	—	—	—		
718	A2	SD8	須恵器(美濃須衛)	杯蓋	8c末～9c	—	—	—	—	—	横み径2.5 横み高0.6	
719	A2	SD8	青磁(中国)	碗	青磁碗B－Ⅳ類	線描蓮弁文	—	—	—	—		
720	A2	SD8	陶器(瀬戸美濃)	将棚形香炉	古瀬戸後Ⅳ期新	(体)鉄釉 (底)露呈	(体)鉄釉 (底)露呈	—	—	—	胴部径(8.0)	
721	A2	SD8	陶器(瀬戸美濃)	仏飯具	大窯第1段階	錆釉	錆釉	10.1	—	—		二次被熱
722	A2	SD8	陶器(瀬戸美濃)	平碗	大窯第1段階	(体)鉄釉 (底)錆釉	鉄釉	—	—	4.7		
723	A2	SD8	陶器(常滑)	甕	10型式(古)	—	—	—	—	—		
724	A2	SD8	染付(肥前)	碗	17c	網目文(1重)	—	—	—	—		
725	A2	SD8	陶器(瀬戸美濃)	鐙茶碗	18c末	灰釉	鉄釉	—	—	—		
726	A2	SX6	青磁(中国)	碗	青磁碗E類	—	—	14.2	—	—		
727	A2	SX6	青磁(中国)	碗	青磁碗B－Ⅳ類	線描蓮弁文	—	—	—	—		
728	A2	SX6	青磁(中国)	盤	—	—	—	—	—	—		
729	A2	SX6	陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	古瀬戸後Ⅳ期新	錆釉	錆釉	—	—	—		二次被熱
730	A2	SX6	陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	古瀬戸後Ⅳ期新	錆釉	錆釉	—	—	—		二次被熱
731	A2	SX6	陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	古瀬戸後Ⅳ期新	錆釉	露呈	—	—	—		
732	A2	SX6	陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	古瀬戸後Ⅳ期新or大窯第1段階	錆釉	錆釉	—	—	8.5		
733	A2	SX6	陶器(瀬戸美濃)	天目茶碗	大窯第1段階	鉄釉	鉄釉	—	—	—		
734	A2	SX6	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	(9.7)	(1.8)	—		へそ皿 口縁部タール痕
735	A2	SX6	陶器(美濃)	刷毛目皿	第5～6小期	灰釉	灰釉	—	—	—		
736	A2	SX6	陶器(瀬戸)	折縁鉢	第7小期	灰釉	灰釉	—	—	—		
737	A2	SX6	陶器(瀬戸美濃)	端反皿	17c	灰釉	灰釉 (高)接地部露呈	—	—	—		
738	A5	SD18	土師器	S字甕	D2類	—	—	—	—	—		
739	A5	SD18	土師器	かわらけ	B1類	(口)横ナデ	(体)横ナデ	—	—	—		
740	A5	SD18	陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	大窯第3段階前半	錆釉	錆釉	—	—	—		
741	A5	SD19	土師器	S字甕	C類	—	—	—	—	—		外面スス付着
742	A5	SD19	土師器	伊勢型甕	1類	(口)横ナデ	(口)横ハケ	—	—	—		
743	A5	SD19	山茶碗(北部系)	碗	生田2	—	—	—	—	—		
744	A5	SD19	陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	大窯第1段階	錆釉	錆釉	—	—	—		
745	A5	SD19	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	(8.9)	(1.9)	—		口縁部タール痕
746	A5	SX10	陶器(瀬戸美濃)	天目茶碗	17c	鉄釉	鉄釉	—	—	—		
747	A7	SD22	陶器(瀬戸美濃)	小杯	18c	灰釉	灰釉	(7.6)	—	—		
748	A7	SX8	須恵器(美濃須衛)	無台盤	8c末	(底)回転ヘラケズリ	—	18.5	2.7	15.3		内面底部使用痕
749	A7	SX8	須恵器(美濃須衛)	盤	8c末	—	—	—	—	9.5		高台接地部使用痕 内面底部墨付着
750	A7	SX8	須恵器(美濃須衛)	無台杯	8c	—	—	11.7	3.7	7.3		外面底部ヘラ記号 内外面底部使用痕
751	A7	SX8	山茶碗(北部系)	碗	大畑大洞4古	—	—	—	—	4.7		内面底部使用痕
752	A7	SX8	山茶碗(北部系)	碗	生田2	—	—	9.4	—	—		
753	A7	SX8	青磁(中国)	端反碗	15c	—	—	—	—	—		

第22表　遺物観察表(9)

番号	地区	遺構・層位	種類	器種	分類・時期	調整 外面	調整 内面	法量(cm) 口径	法量(cm) 器高	法量(cm) 底径	法量(cm) その他	備考
754	A7	SX8	青磁(中国)	碗	青磁碗B－Ⅳ類	—	—	—	—	5.8		外面底部露呈
755	A7	SX8	染付(中国)	皿	染付皿B1群	界線　唐草文	界線　(底)文様	—	—	—		
756	A7	SX8	染付(中国)	碗	染付碗B群	界線　唐草文	界線	—	—	—		
757	A7	SX8	染付(中国)	皿	染付皿B1群	界線　唐草文	界線	—	—	—		二次被熱 鋳造作業関連遺物？
758	A7	SX8	陶器(瀬戸美濃)	甕	古瀬戸後Ⅳ期	鉄釉　(口)端部露呈	鉄釉	—	—	—		二次被熱
759	A7	SX8	陶器(瀬戸美濃)	壺	古瀬戸後Ⅳ期新	鉄釉　(底)露呈	鉄釉	—	—	9.9		
760	A7	SX8	陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	古瀬戸後Ⅳ期新	錆釉	錆釉	—	—	—		
761	A7	SX8	陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	大窯第1段階	錆釉	錆釉	—	—	—		
762	A7	SX8	磁器(肥前)	皿？	17c後半	—	—	—	—	—		
763	A7	SX8	陶器(瀬戸美濃)	香炉	17c後半～18c	飴釉	飴釉	—	—	—		口縁端部露呈
764	A7	SX8	染付(肥前)	小丸碗	18c後半	界線　四方襷	—	—	—	—		
765	A7	SX8	染付(肥前)	広東碗	18c末～19c初	文様(同心円状)	界線	—	—	—		
766	A7	SX8	染付(肥前)	染付碗	不明	文様	—	—	—	—		
767	A7	SX8	土師器	焙烙	N類　18c中頃	—	—	—	—	—		外面スス付着
769	A8	SX18	土師器	把手	—	—	—	—	—	—	長さ3.6　幅4.2 高さ4.2	
770	A8	SX18	須恵器(美濃須衛)	甕	6c末～7c初	(体)平行タタキ痕	(体)同心円当て具痕	—	—	—		
771	A8	SX18	青磁(中国)	不明	龍泉窯系Ⅰ類	—	文様	—	—	—		
772	A8	SX18	土師器	かわらけ	B1類	無調整	(体)横ナデ	—	—	—		
773	A8	SX18	土師器	焙烙	明治か？	—	(口)ナデ	—	—	—		
774	A8	SX21	陶器(瀬戸美濃)	腰折皿	古瀬戸後Ⅳ期新	灰釉	灰釉	—	—	—		
775	A1	東Ⅰ	山茶碗(南部系)	皿	5型式	—	—	9.0	2.1	4.6		漆？残存
776	A1	東Ⅰ	山茶碗(南部系)	碗	4型式	—	—	—	—	8.0		内面底部使用痕
777	A1	東Ⅰ	青磁(中国)	端反碗	15c	—	—	—	—	—		
778	A1	東Ⅰ	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)横ナデ	(体)横ナデ	(12.0)	(2.6)	—		
779	A1	西Ⅰ・Ⅱ	須恵器(美濃須衛)	高杯	6c末～7c初	—	—	—	—	(15.0)		長脚二段透かし
780	A1	西Ⅰ・Ⅱ	灰釉陶器	碗	大原2　Ⅱ期新段階	—	—	—	—	7.7		内面底部使用痕
781	A1	西Ⅰ・Ⅱ	陶器(瀬戸美濃)	天目茶碗	大窯第2or第3段階	錆釉	鉄釉	—	—	—		
782	A1	西Ⅰ・Ⅱ	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向円形ナデ	7.7	1.7	—		
783	A1	西Ⅰ・Ⅱ	陶器(瀬戸美濃)	鉄茶碗	18c末	(口)鉄釉　(体)露呈	鉄釉	—	—	—		
784	A1	東Ⅱ	須恵器(美濃須衛)	こね鉢	6c末～7c前半	(底)刺突(棒状工具)	—	—	—	(9.9)		
785	A1	東Ⅱ	須恵器(美濃須衛)	無台杯	7c後半～8c前半	—	—	11.2	—	6.9		外面接地部使用痕
786	A1	東Ⅱ	灰釉陶器	皿	丸石2　Ⅲ期新段階～Ⅳ期古段階	—	—	—	—	—		
787	A1	東Ⅱ	山茶碗(北部系)	碗	大洞東1	—	—	—	—	3.6		
788	A1	東Ⅱ	青磁(中国)	碗	15c末～16c初	線描蓮弁文	刻線文	—	—	—		
789	A1	東Ⅱ	陶器(瀬戸美濃)	折縁深皿	古瀬戸中Ⅰ期	露呈	灰釉	25.6	—	—		
790	A1	東Ⅱ	陶器(瀬戸美濃)	仏餉具	古瀬戸後Ⅳ期新	錆釉	錆釉	—	—	—		
791	A1	東Ⅱ	陶器(瀬戸美濃)	天目茶碗(加工円盤)	古瀬戸後Ⅳ期新	錆釉	鉄釉	—	—	—	径4.6　厚1.1	
792	A1	東Ⅱ	陶器(瀬戸美濃)	皿	大窯第1or第2段階	灰釉	灰釉	—	—	5.8		
793	A1	東Ⅱ	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	(12.0)	—	—		
794	A1	東Ⅱ	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	(7.0)	(1.1)	—		
796	A1	東Ⅲ	山茶碗(南部系)	大平鉢	4型式	—	—	—	—	—		内面底部使用痕
797	A2	Ⅰ	青磁(中国)	端反碗	15c	(口)回線	—	—	—	—		
798	A2	Ⅰ	白磁(中国)	菊皿	白磁皿E群	(体)花弁状回線	—	—	—	—		花弁の表現簡略的
799	A2	Ⅰ	陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	古瀬戸後Ⅳ期新	錆釉	錆釉	—	—	—		
800	A2	Ⅰ	陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	古瀬戸後Ⅳ期新	錆釉	錆釉	—	—	—		
801	A2	Ⅰ	陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	古瀬戸後Ⅳ期新	錆釉	錆釉	—	—	—		
802	A2	Ⅰ	土師器	かわらけ	C2類	—	？	7.7	1.4	—		
803	A2	Ⅰ	染付(肥前)	広東碗	18c末～19c初	(高)界線　(体)文様	界線	—	—	5.9		
808	A2	Ⅱ	山茶碗(北部系)	碗	生田2	—	—	—	—	3.6		
809	A2	Ⅱ	陶器(瀬戸美濃)	緑釉小皿	古瀬戸後Ⅳ期新	露呈	(口)灰釉	(10.3)	—	—		
810	A2	Ⅱ	陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	古瀬戸後Ⅳ期新	錆釉	錆釉	—	—	—		
811	A2	Ⅱ	土師器	かわらけ	B2－b類	—	不明	—	—	—		鋳造作業関連遺物 内面鉱滓付着 二次被熱による硬化
812	A2	Ⅱ	陶器	十能	—	鉄釉	鉄釉	—	—	—	厚0.6	
813	A2	Ⅱ	土師器	蓋？	—	—	—	5.4	—	—		
816	A2	Ⅳ	灰釉陶器	椀	明和27　Ⅳ期古段階	—	—	—	—	5.3		
817	A2	Ⅳ	白磁(中国)	碗	白磁碗Ⅳ類			—	—	—		
818	A2	Ⅳ	陶器(瀬戸美濃)	卸皿	古瀬戸中Ⅰor中Ⅱ期	灰釉	灰釉	—	—	—		
819	A2	Ⅳ	陶器(瀬戸美濃)	端反皿	大窯第1段階	灰釉	灰釉	—	—	—		
820	A2	Ⅳ	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	(9.8)	(1.9)	—		
821	A2	Ⅳ	土師器	かわらけ	B2－b類	—	不明	(8.8)	—	—		鋳造作業関連遺物 内外面銅滓付着 二次被熱による硬化
822	A2	Ⅳ	土師器	かわらけ	C2類	—	一方向ナデ	7.2	1.4	—		
824	A5	Ⅰ	須恵器(美濃須衛)	鉄鉢	7c後半～8c	—	—	10.8	—	—		
825	A5	Ⅰ	灰釉陶器	椀	大原2　Ⅱ期新段階	—	—	—	—	9.0		
826	A5	Ⅰ	灰釉陶器	皿	虎渓山1　Ⅲ期中段	—	—	—	—	6.0		内面底部使用痕
827	A5	Ⅰ	陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	大窯第2or第3段階	錆釉	錆釉	—	—	—		
828	A5	Ⅱ	須恵器(美濃須衛)	杯蓋	7c後葉	—	—	11.6	—	—		
829	A5	Ⅱ	白磁(中国)	碗	白磁碗Ⅱ類	—	—	—	—	—		
830	A5	Ⅱ	白磁(中国)	碗	白磁碗Ⅱ類	—	—	—	—	—		
831	A5	Ⅱ	白磁(中国)	皿	白磁皿E群	—	—	—	—	7.0		
832	A5	Ⅱ	陶器(瀬戸美濃)	袴腰形香炉	古瀬戸後Ⅳ期新	鉄釉	(口)鉄釉　(体)露呈	11.1	—	—		
833	A5	Ⅱ	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	—	—	—		鋳造作業関連遺物 二次被熱による硬化
834	A5	Ⅱ	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	—	—	—		
835	A5	Ⅱ	陶器(瀬戸美濃)	碗	18c前半	灰釉　(体)回線	灰釉	—	—	—		
836	A5	Ⅱ	陶器(瀬戸)	擂鉢	第8～9小期	鉄釉	鉄釉	—	—	—		
837	A5	Ⅱ	陶器(瀬戸美濃)	端反碗	19c前半	灰釉	灰釉	—	—	4.1		
838	A6	Ⅰ	陶器(瀬戸美濃)	緑釉小皿	古瀬戸後Ⅳ期新	(口)灰釉	(口)灰釉	—	—	—		
839	A6	Ⅰ	陶器(瀬戸美濃)	腰折皿	古瀬戸後Ⅳ期新	灰釉　(体)下半露呈	灰釉	—	—	—		
840	A6	Ⅰ	陶器(瀬戸美濃)	腰折皿	古瀬戸後Ⅳ期新	灰釉	灰釉	—	—	—		
841	A6	Ⅰ	陶器(常滑)	蚊燻し(赤物)	近世後半	(頸)横ナデ	(口)横ナデ	20.2	—	—	頸部径17.0 頸部高3.6 孔径1.9	胴部穿孔 内面スス付着
842	A7	Ⅰ	須恵器(美濃須衛)	杯蓋	7c後半～8c初	(天)回転ヘラケズリ	—	19.4	—	—		

第23表　遺物観察表(10)

番号	地区	遺構・層位	種類	器種	分類・時期	調整		法量(cm)				備考
						外面	内面	口径	器高	底径	その他	
843	A7	I	須恵器(美濃須衛)	有台盤	8c末～9c初	—	—	—	—	11.9		内面底部墨付着 転用硯
844	A7	II	須恵器(美濃須衛)	有台盤	8c末～9c初	—	—	—	—	12.3		内面底部墨付着 転用硯 高台接地部使用痕 高台内墨書「万」
845	A7	II	須恵器(美濃須衛)	有台盤	8c末～9c初	—	—			11.6		内面底部・高台接地部使用痕
846	A7	II	陶器(瀬戸美濃)	皿	17～18c前半	鉄釉	露呈	4.6	1.7	—	摘み径1.2 摘み高1.0	
849	A8	西 I	灰釉陶器	椀	明和27 IV期古段階	—	—	—	—	7.3		内面底部使用痕
850	A8	西 I	陶器(不明)	碗(加工円盤)	近世？	露呈	灰釉	—	—	—	径3.6 厚1.0	高台接地部タール痕
851	A8	西 II	土師器	宇田型甕	—	(口)横ナデ (体)縦ハケ	(口)横ナデ	15.4	—	—		
852	A8	西 II	土師器	壺	—	—	(体)横ハケ	—	—	—		
853	A8	西 II	須恵器(畿内系)	杯蓋	TK47	(天)回転ヘラケズリ	—	(13.7)	—	—	口縁高2.3	
854	A8	西 II	山茶碗(南部系)	碗	4型式	—	—	—	—	7.8		内面底部使用痕
855	A8	西 II	山茶碗(北部系)	碗	大畑大洞4新	—	—	14.2	4.1	5.6		内面底部使用痕
857	A8	中央 I・II	須恵器(美濃須衛)	椀	7c中葉	—	—	—	—	4.2		金属器写し 内面底部・高台接地部使用痕
858	A8	中央 I・II	灰釉陶器	椀	大原9～虎渓山1 II期新段階～III期古	—	—	—	—	7.2		
859	A8	中央 I・II	灰釉陶器	椀	明和27 IV期古段階	—	—	—	—	7.6		内面底部・高台接地
860	A8	中央 I・II	山茶碗(北部形)	皿	生田2	—	—	—	—	—		
861	A8	中央 I・II	染付(中国)	皿	染付皿B1群	界線 唐草文	界線	—	—	—		
862	A8	中央 I・II	白磁(中国)	碗	白磁碗V類	—	凹線 弧状の櫛目 弧状の凹線	—	—	—		
863	A8	中央 I・II	陶器(瀬戸美濃)	壺	古瀬戸後IV期	鉄釉	鉄釉	(15.3)	—	—		
864	A8	中央 I・II	陶器(瀬戸美濃)	壺	古瀬戸後IV期	(体)鉄釉 下半回転ヘラケズリ (底)露呈	鉄釉	—	—	11.5		
865	A8	中央 I・II	陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	古瀬戸後IV期新	緑釉	緑釉	—	—	—		
866	A8	中央 I・II	陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	大窯第1段階	緑釉	緑釉	—	—	—		
867	A8	中央 I・II	陶器(瀬戸美濃)	天目茶碗(加工円盤)	大窯第1段階	緑釉	鉄釉	—	—	—	径4.6 厚0.9	
868	A8	中央 I・II	土師器	かわらけ	C2類	—	不明	7.5	1.4	—		
869	A8	中央 I・II	土師器	内耳鍋	～18c前半	—	(口)横ナデ	—	—	—		外面ススト付着
871	A8	中央III	須恵器(猿投)	杯身	7c中葉 (I－101otH－16)	(底)回転ヘラケズリ	—	8.2	2.8	6.8	受け部径10.0 受け部高1.0	口縁端部使用痕
872	A8	中央III	青磁(中国)	碗	青磁碗B－IV類	線描蓮弁文	—	—	—	—		
873	A8	中央III	白磁(中国)	皿	白磁皿E群	—	—	—	—	—		
874	A8	中央III	染付(中国)	碗	染付碗B群	界線 唐草文	界線	—	—	—		
875	A8	中央III	陶器(瀬戸美濃)	模索型瓶子	古瀬戸後IV期	(口)露呈 (体)鉄釉	露呈	12.8	—	—		
876	A8	中央III	陶器(瀬戸美濃)	小壺	古瀬戸後IV期	鉄釉	鉄釉	—	—	—	胴部径9.0	
877	A8	中央III	陶器(瀬戸美濃)	天目茶碗	古瀬戸後IV期新	鉄釉	鉄釉	11.0	—	—		
878	A8	中央III	陶器(瀬戸美濃)	天目茶碗	古瀬戸後IV期新	鉄釉	鉄釉	—	—	—		
879	A8	中央III	陶器(瀬戸美濃)	擂鉢	古瀬戸後IV期新	緑釉	緑釉	—	—	—		
880	A8	中央III	土師器	かわらけ	B2－a類	(口)横ナデ	不明	(8.8)	(1.6)	—		鋳造作業関連遺物 内外面鉛滓付着 外面吹きこぼれ痕 二次被熱による硬化
881	A8	中央III	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	(9.4)	(1.6)	—		
882	A8	中央III	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	(8.4)	(1.7)	—		鋳造作業関連遺物 二次被熱による硬化 内面一部変色
883	A8	中央III	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	(11.6)	(1.8)	—		
884	A8	中央III	土師器	かわらけ	C2類	—	不明	7.4	1.6	—		内面弧状の刻線(工具痕か？)
885	A8	中央III	青磁(肥前)	香炉	近世	—	露呈	10.2	—	—		
892	A8	中央IV	陶器(瀬戸美濃)	壺	古瀬戸後IV期	(体)鉄釉 (底)露呈	鉄釉	—	—	4.4		
893	A8	中央IV	陶器(瀬戸美濃)	直縁大皿	古瀬戸後IV期新	灰釉 (体)下半露呈	灰釉 (体)下半露呈	—	—	—		
894	A8	中央IV	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	10.0	1.8	—		
895	A8	中央IV	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	13.1	2.3	—		
898	A8	中央V	須恵器(美濃須衛)	杯蓋	6c後葉？	(天)回転ヘラケズリ	—	—	—	—	摘み径2.7 摘み高0.4	金属器写し？
899	A8	中央V	須恵器(美濃須衛)	平瓶	7c前半	(底)格子タタキ痕	(底)横ケズリ(ヘラ状工具)	—	—	(11.3)		
900	A8	東 I	青磁(中国)	皿	15c	—	—	13.3	—	—		
901	A8	東 I	陶器(瀬戸美濃)	折縁大皿	古瀬戸後IV期新	灰釉 (体)下半露呈	灰釉 (体)下半露呈	—	—	—		
902	A8	東 I	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(底)一方向ナデ (体)横ナデ	(11.6)	—	—		
903	A8	東 I	土師器	かわらけ	B2－b類	—	(体)横ナデ	—	—	—		鋳造作業関連遺物 内外面鉛滓付着 二次被熱による硬化
904	A8	東 II	土師器	かわらけ	M3類	(口)横ナデ	(体)横ナデ	(8.8)	—	—		
905	A8	東 II	青磁(中国)	碗	青磁碗E類	(口)凹線	—	—	—	—		
906	A8	東 II	陶器(瀬戸美濃)	腰折皿	古瀬戸後IV期新	灰釉 (体)下半～(底)回転ヘラケズリ 露呈	灰釉	10.8	2.4	4.5		

第24表　遺物観察表(11)

番号	地区	遺構・層位	種類	器種	法量(cm, g, cc)	備考
71	A7	SB1	土製品	土錘	長4.3 幅2.0 孔径0.5 重16.0	
174	A1	SD1	土製品	土錘	長4.8、径2.15、孔径0.45、重19.0	
175	A1	SD1	土製品	土錘	長4.0、径2.45、孔径1.2、重26.1	
176	A1	SD1	土製品	土錘	長4.1、径1.2、孔径0.4、重5.5	
183	A1	SE1	鉄製品	釘	長10.3 幅0.6 厚0.3	
184	A1	SE1	銅製品	銭貨(元豊通寶)	径2.35 厚0.11 重2.1	
185	A1	SE1掘方	木製品	箸	残長10.7 幅0.8 厚0.6	分析番号1 サワラ
186	A1	SE1	木製品	箸	残長13.7 幅0.5 厚0.6	分析番号8 サワラ
187	A1	SE1掘方	木製品	箸	残長16.3 幅0.7 厚0.5	分析番号3 サワラ
188	A1	SE1掘方	木製品	箸	残長16.4 幅0.8 厚0.5	サワラ
189	A1	SE1	木製品	箸	残長16.4 幅0.7 厚0.6	分析番号7 サワラ
190	A1	SE1	木製品	箸	長20.3 幅0.5 厚0.4	分析番号6 サワラ
191	A1	SE1掘方	木製品	箸	長23.9 幅0.5 厚0.4	分析番号5 ヒノキ
192	A1	SE1	木製品	棒状	残長12.5 直径1.4	分析番号51 シイノキ属
193	A1	SE1	木製品	棒状	残長12.9 直径1.1	分析番号52 シイノキ属
194	A1	SE1	木製品	棒状	残長11.1 直径1.3	
195	A1	SE1	木製品	楔	長5.5 幅4.8 厚1.1	分析番号54 サワラ
196	A1	SE1	木製品	楔	長5.9 幅4.7 厚1.1	
197	A1	SE1	木製品	楔	長9.4 幅6.4 厚1.4	
198	A1	SE1	木製品	楔	長9.0 幅5.6 厚1.6	分析番号53 サワラ
199	A1	SE1	木製品	角材	残長15.2 幅4.3 厚1.9	
200	A1	SE1	木製品	板材	残長15.2 幅9.2 厚1.5	
201	A1	SE1	木製品	桶側板	残長44.7 幅8.7 厚2.1	サワラ
202	A1	SE1	木製品	桶側板	長54.2 幅7.8 厚1.8	分析番号45 板目取り サワラ
203	A1	SE1	木製品	桶側板	長54.4 幅12.7 厚1.8	分析番号38 柾目取り サワラ
204	A1	SE1	木製品	桶	口径62.3 底径55.6 高54.0	
212	A6	SE2	木製品	楔	残長3.7 幅2.7 厚1.1	サワラ
213	A6	SE2	木製品	楔	長5.5 幅2.9 厚1.2	サワラ
214	A6	SE2	木製品	楔	長6.5 幅3.2 厚1.1	サワラ
215	A6	SE2	木製品	桶側板	残長53.9 幅11.4 厚1.8	分析番号10 板目取り サワラ
216	A6	SE2	木製品	桶側板	残長67.2 幅11.0 厚1.8	分析番号5 板目取り サワラ
217	A6	SE2	木製品	桶側板	長84.7 幅13.9 厚2.2	分析番号31 板目取り サワラ
218	A6	SE2	木製品	桶側板	長87.0 幅13.5 厚2.1	分析番号35 板目取り サワラ
219	A6	SE2	木製品	桶	上部径76.8 下部径80.8 高83.5～86.9	
229	A8	SE3	土製品	土錘	長5.6 径1.8 孔径0.5 重17.4	
230	A8	SE3	石製品	碁石	長軸2.4 短軸2.0 厚0.5 重4.1	
245	A8	SE4	鉄製品	釘	残長3.6 幅0.3 厚0.2	
246	A8	SE4	石製品	上臼	径29.8 高さ8.8 供給孔径2.5-5.0	
247	A8	SE4	石製品	下臼	高7.8	外面に調整痕
248	A8	SE4	石製品	砥石	残長12.1 残幅11.7 厚7.1	2面使用
249	A8	SE4	石製品	砥石？	残長18.2 残幅14.0 厚8.5	
303	A7	SK14	土製品	土錘	残長3.1 径1.4 孔径0.3 残重5.4	
341	A8	SD37	土製品	犬形土製品	残長1.4 残幅1.2 厚0.8	中実
389	A2	SX11	銅製品	銭貨(景祐元寶)	径2.49 厚0.13 重1.3	
390	A2	SX11	銅製品	銭貨(開元通寶)	径2.39 厚0.11 重1.8	
391	A2	SX11	銅製品	銭貨(排符元寶)	径2.43 厚0.12 重1.8	
392	A2	SX11	銅製品	銭貨(元祐通寶)	径2.39 厚0.13 重1.9	
396	A1	SX2	土製品	土鈴	高4.1 幅3.4 孔径0.4	
407	A2	P209	銅製品	銭貨(大観通寶)	径2.48 厚0.15 重2.1	
422	A2	SK15	銅製品	銭貨(熙寧元寶)	径2.38 厚0.13 重1.9	
423	A2	SK15	銅製品	銭貨(景祐元寶)	径2.48 厚0.12 重2.0	
432	A2	P211(SB14)	銅製品	銭貨(景德元寶)	径2.45 厚0.12 重1.6	
435	A2	P127(SB15)	土製品	ふいごの羽口	残長8.8 最大径6.5 最小径4.1 厚1.0	使用時の状態により3色に変色 胎土に籾殻混和
436	A2	P127(SB15)	土製品	トリベ	口径8.6 高さ4.1 厚さ1.1 容量73.1	内外面口縁部銅滓付着 内面体部・外面口縁部スス付着 胎土に籾殻多量に混和
437	A2	P127(SB15)	土製品	トリベ	口径4.3 高さ2.0 厚さ0.9 容量4.0	内面口縁部・外面全面銅滓付着
470	A2	P100(SB16)	銅製品	銭貨(皇宋通寶)	径2.46 厚0.13 重2.2	
480	A2	P114(SB16)	土製品	トリベ	厚1.0	外面口縁部・内面全面銅滓付着
498	A8	SX17	鉄製品	釘	長4.4 幅0.3 厚0.2	
506	A8	P418(柱穴列)	鉄製品	釘	残長8.5 幅0.5 厚0.4	
508	A8	P421(柱穴列)	土製品	不明	残長3.6 幅2.8 厚2.1 重20.2	蒲鉾状の2つの粘土塊が若干ずれて接合
520	A8	P482(柱穴列)	土製品	トリベ	厚0.9	
534	A8	P646(柱穴列)	土製品	土錘	残長3.5 径1.2 孔径0.4 残重4.0	
551	A2	P91	銅製品	不明	径0.5 高0.4 孔径0.3 重0.2	
552	A2	P91	銅製品	銭貨(開元通寶)	径2.36 厚0.13 重2.3	
554	A2	P101	銅製品	銭貨(至道元寶)	径2.50 厚0.13 重2.1	
555	A2	P102	鉄製品	釘	残長7.6 幅0.8 厚0.6	
564	A2	P109	銅製品	銭貨(元豊通寶)	径2.43 厚0.11 重1.8	
569	A2	P117	土製品	土錘	残長4.3 径2.1 孔径0.4 重16.5	
573	A2	P131	銅製品	銭貨(宣德通寶)	径2.54 厚0.13 残重1.4	
574	A2	P132	銅製品	銭貨(元豊通寶)	径2.46 厚0.13 重1.9	
586	A2	P145	銅製品	銭貨(天聖元寶)	径2.54 厚0.11 重1.9	
592	A2	P150	石製品	砥石	残長7.0 残幅1.9 厚1.4	使用面3面
594	A2	P174	銅製品	銭貨(嘉祐通寶)	径2.39 厚0.14 重2.0	
595	A2	P174	銅製品	不明	径0.4 高0.3 孔径0.2 重0.4	
596	A2	P186	土製品	犬形土製品	残長6.0 幅2.4 残高5.3 残重36.5	中実
601	A2	P192	土製品	鳴子	長軸1.2 短軸1.1 重1.4	
602	A2	P192	鉄製品	針？	長6.5 径0.2 重2.1	銹(？)が部分的に残る
604	A2	P198	土製品	トリベ	厚0.9	内面口縁・外面全面鉱滓付着 胎土に籾殻混和
610	A8	P344	銅製品	銭貨(政和通寶)	径2.18 厚0.13 重1.6	
611	A8	P345	銅製品	銭貨(元豊通寶)	径2.42 厚0.14 重2.8	
612	A8	P356	銅製品	不明	残長1.4 残幅0.8 厚0.3 重0.7	
613	A8	P357	銅製品	銭貨(熙寧元寶)	径2.44 厚0.12 重2.1	
616	A8	P359	銅製品	銭貨(景德元寶)	径2.47 厚0.13 重2.0	
623	A8	P360	石製品	砥石	長24.1 幅17.9 厚4.7-6.2	
627	A8	P433	鉄製品	釘	残長4.2 幅0.5 厚0.5	
628	A8	P476	銅製品	銭貨(元祐通寶)	径2.46 厚0.13 重2.4	
629	A8	P476	銅製品	銭貨(熙寧元寶)	径2.48 厚0.11 重1.6	
630	A8	P476	銅製品	銭貨(皇宋通寶)	径2.39 厚0.12 重2.5	
637	A8	P611	銅製品	銭貨(政和通寶)	径2.52 厚0.13 重3.1	

第25表　遺物観察表(12)

番号	地区	遺構・層位	種類	器種	法量(cm, g, cc)	備考
638	A8	P613	瓦	箱型斗？	残長8.6 残幅6.0 厚4.9	内面布目痕
640	A8	P616	鉄製品	釘	長4.1 幅0.8 厚0.5	
643	A8	P617	土製品	土錘	残長5.2 径2.2 重16.7	
658	A2	P158	土製品	犬形土製品	残長1.2 残幅1.0 残高1.7 残重1.8	中実
700	A8	SA1~Ⅲ	鉄製品	釘	残長4.8 幅0.5 厚0.5	
716	A8	SA1~Ⅳ	金製品？	不明	残長1.3 残幅0.3 厚0.06 残重0.3	
768	A7	SX8	土製品	土鈴	残高3.0 残幅2.5 孔径0.3	
795	A8	東Ⅱ	銅製品	不明	径2.9 厚0.07~0.11 残重2.9	金メッキ
804	A2	Ⅰ	土製品	犬形土製品	残長4.3 幅2.3 残高3.1 残重24.3	中実
805	A2	Ⅰ	土製品	犬形土製品	残長5.3 幅2.4 残高4.9 残重42.8	中実
806	A2	Ⅰ	土製品	土錘	残長3.4 径1.4 孔径0.4 残重6.3	
807	A2	Ⅰ	土製品	土錘	長3.4 径1.3 孔径0.4 重5.3	
814	A2	Ⅱ	土製品	鳴子	長軸1.2 短軸1.0 重1.2	
815	A2	Ⅱ	土製品	灯心おさえ	長軸1.5 短軸1.4 重0.5	両面スス付着
823	A2	Ⅳ	石製品	石鏃	長3.3 残幅1.7 厚0.6	チャート製
847	A7	Ⅱ	土製品	芥子面？	長2.3 幅2.0 厚0.6	
848	A8	Ⅰ	土製品	土錘	残長3.8 径1.4 孔径0.5 残重7.2	孔は未貫通
856	A8	西Ⅱ	土製品	土錘	長3.8 径1.1 孔径0.4 重5.0	
870	A8	中央Ⅰ・Ⅱ	土製品	土錘	長4.6 径2.2 孔径0.3 重22.0	
886	A8	中央Ⅲ	鉄製品	釘	残長5.5 幅0.6 厚0.6	
887	A8	中央Ⅲ	鉄製品	釘	残長4.8 幅0.5 厚0.4	
888	A8	中央Ⅲ	銅製品	銭貨(熙寧元寶)	径2.46 厚0.11 重1.9	
889	A8	中央Ⅲ	銅製品	不明(円形の製品か？)	径6.0 厚0.3 残重12.6	
890	A8	中央Ⅲ	土製品	人形(天神？)	残高2.1 残幅3.5 厚0.6	中空
891	A8	中央Ⅲ	土製品	鳴子	長軸1.5 短軸1.2 重2.2	
896	A8	中央Ⅳ	土製品	犬形土製品？	残長3.1 残幅1.8 残高1.0 残重4.3	
897	A8	中央Ⅳ	土製品	土錘	長4.1 径2.5 孔径0.6 重24.7	
907	A8	東Ⅱ	土製品	土錘	長4.3 径2.1 孔径0.6 重17.4	

第26表　遺物観察表(13)

第5章　ま　と　め

第1節　鷺山仙道遺跡の遺構変遷（第69図）

今回の調査では古墳時代から近世までの遺構を確認した。ここでは時期区分に従い、鷺山仙道遺跡における遺構変遷を概観する。

〔1期〕松河戸Ⅱ式併行期～古墳時代後期。

SB4～6、8～10、12、SD7、51、SX9、22、23を確認した。特にA8区中央部（下層）に竪穴住居が集中する。SB8を除き、竪穴住居は真北に対し軸を北西方向に振り、カマドは北西壁に位置する（SB4、10）。SX22、23も含めた溝状遺構については、軸を北西－南東方向にとるものが多い。地形に制約された結果とも考えられるが、それに直交する軸をもつSD7も存在する。

〔2期〕古代（7世紀後半～9世紀前葉）

SB1～3、7、SD35、SK13、17を確認した。竪穴住居の集中はA8区中央部からA7区西部に移る（7世紀後半～8世紀初）。住居の方向、カマドの位置などは1期の傾向と同じである。焼塩土器が多く出土し、また胎土に川砂が混じる須恵器が出土している。SD35、SK17は8世紀末～9世紀前葉の遺構で、該当期の須恵器が多く出土し、また第Ⅰ・Ⅱ層からも同時期の須恵器が出土していることから、この付近に遺構が存在した可能性が高い。

〔3期〕中世前期（南部系山茶碗4～7型式）

SD1、50、SX27を確認した。SD1については、第3章第1節で述べたように、旧地形の落ち込み部分を利用し掘削された溝と考えられる。また自然流路の可能性もある。

〔4－1期〕戦国時代　第Ⅲ層（焼土と炭密集層）形成以前

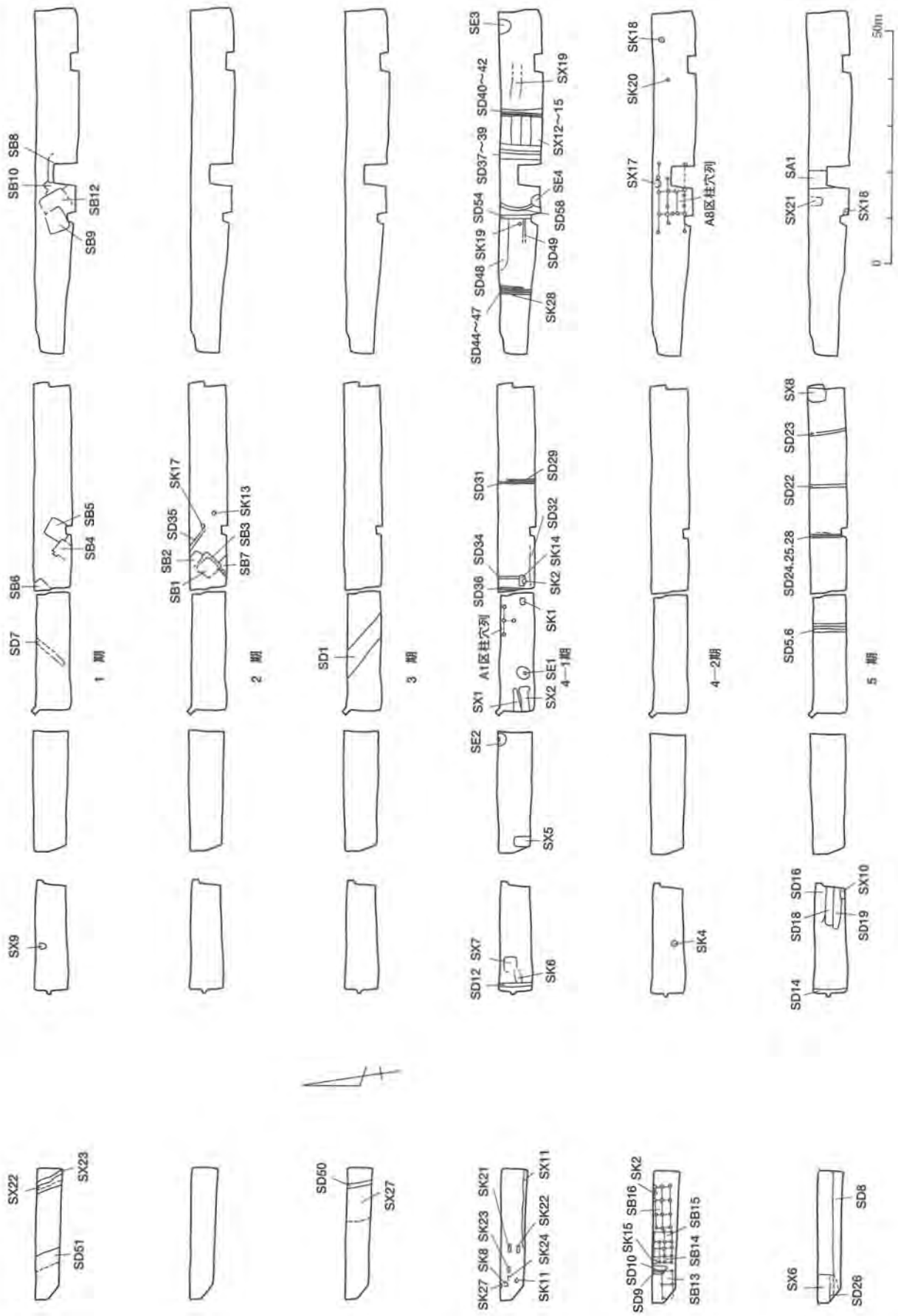
SE1～4、SK1、11、14、19、21～24、27、28、SD31、32、34、36～49、A1区柱穴列、SX1、2、5、11～16、19、26、その他ピットを確認した。SE2について、井戸側上部の埋土には焼土と炭が混じっていたため、最終的に埋まったのは4－2期と考えられる。A1区柱穴列とSE1とSE2、SK1とSK14、SD34とSD36は関連する遺構の可能性も考えられる。またSD37は区画溝の可能性がある。

〔4－2期〕戦国時代　第Ⅲ層形成以後

掘立柱建物SB13～16、SD9、10、SK2、4、15、18、20、A8区中央部柱穴列、SX17、その他ピットを確認した。このうちSB14は4－1期になる可能性があるが、第4章第5節で述べた理由により、本報告では本期に比定した。掘り方底部に石が入るピットは調査範囲内の多くの場所で確認できたことから、上記の遺構以外にも建物があった可能性が高い。

〔5期〕近世以降

SA1、SD5、6、8、14、16、18、19、22～26、28、SX6、8、10、18、21などを確認した。このうちSA1は遺物から18世紀後葉～末葉に造られたものと判断した。しかしそれ以降の遺物も混じることから、削平や造り直しが繰り返された可能性も考えられる。



第69図　主要遺構変遷図

第２節　鷺山地区の歴史的位置

ここでは、鷺山地区の歴史的位置について述べる。

縄文時代について、平成12年度に行われた鷺山市場遺跡での試掘調査で、遺構は見つかっていないが、縄文土器が多く出土する層（暗褐色砂質土）が確認された。

弥生時代については、平成12～13年度に行われた鷺山市場遺跡での本調査で竪穴住居などの遺構が確認されている。

古墳時代については、今回の調査でも古墳時代後半から古代の竪穴住居を12棟確認し、また平成13年度の鷺山市場遺跡、鷺山仙道遺跡の調査でも同時期の竪穴住居が確認されていることから、ここに集落があったと考えられる。鳥羽川の北側には上城田寺古墳群（平成３年度調査）、坂尻古墳群、山向古墳群、鶴山古墳群、鎌磨古墳群、中野古墳群、富塚古墳など（以上、未調査）が位置し（第１図参照）、鷺山地区の集落と関連する可能性も考えられる。

第１章第２節でも触れたが、古代には東山道が岐阜市内を通っていた。「古東山道」と「令制東山道」があるが、ここでは後者について述べる。

東山道のルートは各駅を結ぶ線から推定でき、鷺山地区の付近を通っていたとされている。駅を中心にルートを東から辿ると、信濃を抜けてきた東山道は、神坂を越えて坂本駅（中津川市）、大井駅（恵那市）、土岐駅（瑞浪市）、可児駅（御嵩町）、各務駅（各務原市東部）、岐阜市内の方県駅（長良雄総付近）、大野駅（大野町）、不破駅（大垣市北部）を通り、美濃国分寺（大垣市西北部）、美濃国府（垂井町）辺りを過ぎて、不破関（関ヶ原町）を越え滋賀県の瀬田駅に至る。

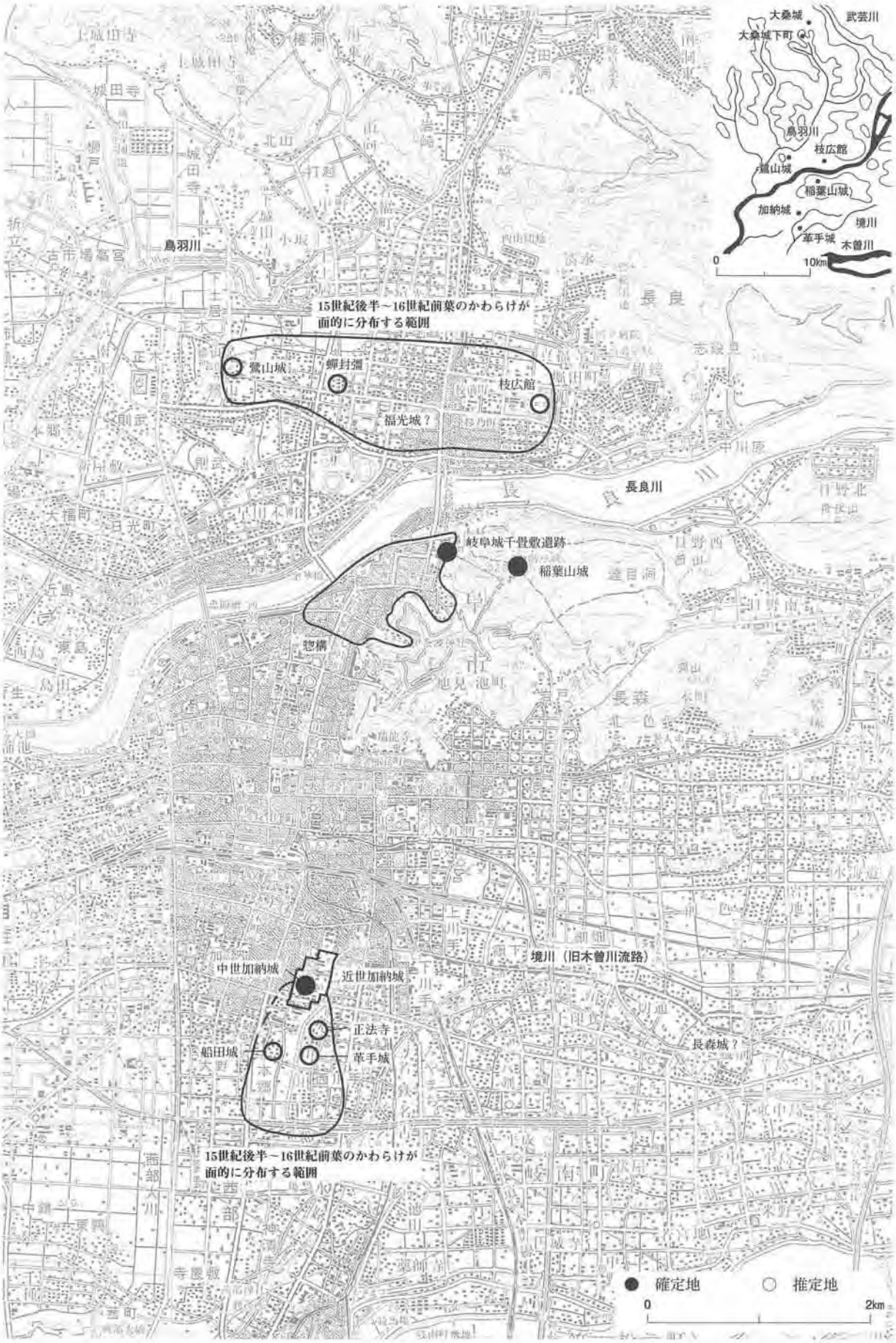
岐阜市内のルートを推定する場合、「センドウ」と読む小字が各地区に存在し、それらは東山道の名残であるという意見がある。長良から福光にかけてはその地名は見られないが、鷺山地区以西では残っている所がある。東から順に小字を拾っていくと、上土居仙古、下土居仙道、鷺山仙道、正木仙道、西木田仙道（現、木田１丁目）、西改田先道、又丸仙道、真正町政田仙道上・仙道下で、これらを結ぶラインが東山道である可能性がある。しかし、今回の調査で道路状遺構は確認できず、さらに平成12～13年度の鷺山市場遺跡と鷺山仙道遺跡の調査では、面積が広く、調査区が数ヶ所に分かれていたが、やはりそれと認められる遺構は確認されていない。

中世以降（特に戦国時代）は、岐阜市における守護所の変遷を概観し、その中での鷺山地区の位置を述べる（第70図）。

南北朝時代の動乱の折り、土岐氏は終始一貫して足利方について活躍したことから、美濃の守護職として任命され、以後戦国時代までの約200年間、土岐氏は美濃国の守護職を保持し続けた。

岐阜市内の土岐氏の本拠地について、記録に残る最古のものは市内南東部の長森城である。『土岐累代記』には、厚見郡革手に新城を築いて守護所とし、府城長森城には弟土岐宮内少輔直氏を配置した、とある。また『美濃明細記』や『新撰美濃志』には、切通村の中に長森城跡があったと記されている。しかしこれらの記述には確証がなく、また発掘調査などによる資料もないため、位置なども不確定というのが現状である。

守護所として確実な資料が残るのは革手城からで、その築城は土岐頼康の頃であるとされる。城は荒田川と境川を利用した環濠と土塁により守られており、革手城の西側には小守護代石丸氏の館船田城が、北側には土岐氏の氏寺である正法寺があった。正法寺の北側には斉藤妙椿の本館加納城（中世加納城）があった。革手城とその周辺は1495年に起こった船田合戦の舞台となり焦土と化してしまった。平成12、13年度の２度の調査では革手城に関連すると考えられる遺構が確認されている。また図中に示した境川は木曽川の旧流路で、尾張と美濃との境界であった。天正14年（1586）６月の大洪水



第70図　岐阜市内守護所位置図（国土地理院発行1：50,000地形図（岐阜・大垣）使用）

により、流路が現今の状態になると、両国の境界についても葉栗、中島、海西の3群を両国に分割する形で変更したといわれている。

次の守護所は福光城である。記録としては閏8月4日付の斎藤利綱書状（1509年か）があり、それによれば、福光御構普請のために国中から人夫が徴発されている、とある。この福光城については位置は確定していない。

天文元年（1532年）、美濃の守護所は枝広館に移る。現在の長良公園に位置し、市教育委員会による平成4年度の調査では館の堀と考えられる北西コーナー部分が確認された。館は方形で一辺は180m以上と推定される大規模なものだが、天文4年（1535）の長良川の大洪水により廃絶している。枝広館推定地周辺では、方形地区割りに沿って規則的に展開する区画溝が発掘調査で確認されている。

平成2～5年度に行われた分布調査の成果により、15世紀後半～16世紀前葉のかわらけが面的に分布する範囲が市内に2ヶ所あることがわかっている。岐阜市南部の革手城周辺と、長良川北側の東西約3㎞、南北約1㎞の範囲がそれに当たるが、この範囲は該当期の町の範囲を示す可能性があるとされている。後者の範囲内には西端に鷺山館推定地、東端に枝広館推定地、その他蟬封彊（せみどて）などがあり、前述の年代も考えると、この範囲が福光城下町もしくは枝広館周辺に形成された町の範囲を示しており、また、位置が不確定な福光城も範囲内にある可能性が高い。また第1章第2節でも述べたが、この範囲は江戸時代に書かれた『中島両以記文』内の「（前文略）鷺山より堀田（枝広館周辺、筆者注）迄之内侍屋敷・百姓屋敷入交り散々ニ有由、（後文略）」という記述と一致するとされる。今回の調査で確認した4期の遺構から出土した遺物もこの時期のものであることから、これらの遺構は福光城下町のものと考えることができる。鷺山地区では現在も調査が進行しており、該当期の遺構が数多く確認され、資料が充実してきている。

以後、守護所は現在の岐阜市の北、山県郡高富町内の大桑城に移され、16世紀半ば（1552年？）まで機能していたとされる。天文21年（1552）、このころ美濃の支配の実権を握っていた斎藤道三が土岐頼芸を国外に追放し、土岐氏は滅亡する。平成8～11年度に同町教育委員会により調査が行われており、詳細は既刊の報告書を参照されたい。

大桑城の廃絶後、繁栄の中心は再び岐阜市内、すなわち稲葉山城とその城下町に移り、稲葉山西麓には斎藤道三の居館があり、周囲には惣構が形成された。惣構内には大桑の住人、井ノ口の住民が町を形成し、信長の入城後には尾張の商工業者も移住した。また惣構の外には、御園、岩倉、中河原の3ヶ所に市場が立てられていた。

第1章第2節で鷺山の東麓にある鷺山館についてふれたが、これは約200年に及ぶ土岐氏の支配を打ち切った斎藤道三が、天文23年（1554）に隠退した際に居住した城である。弘治2年（1556）の長良川の合戦で、道三が斎藤義龍に討たれた後に廃城となった。未調査であるが地籍図の分析などから位置が推定されている。

関ヶ原の合戦以降は、徳川家康の命により加納城（近世加納城）が築城され、城主に奥平信昌が置かれた。加納城においては昭和50年から計14回の調査が行われており、近世加納城の遺構の下層では中世加納城の遺構が確認されている。

江戸時代以降については、鷺山地区に含まれる正木村、鷺山村、下土居村についてその支配体制から統合までを概観する。

17世紀初めの正木村は、日根野左京、大久保長安の2人の領主を置く幕府直轄領であった。しかし17世紀中頃になると、日根野氏の支配分が加納藩に移り、幕府直轄領が尾張藩領になる。それ以後約100年間はその状態が続くが、宝暦6年（1756）、加納藩主が永井尚陳になった時に加納藩領は幕府直轄領に移行され、笠松代官所の支配下に置かれた。

鷺山村は江戸時代の初期に石川光忠と堀直寄の2人の領主に支配されていた。石川の支配分は尾張

藩領、堀の支配分は幕府直轄領であった。17世紀中頃には後者は加納藩領になっており、宝暦 9 年（1759）からは大垣藩領所に組み込まれている。

土居村は、江戸時代の初期から約150年間加納藩領で、まだ上下の2か村には分離していなかったが、元和2年（1616）から正保 2 年（1645）の間に分村している。下土居村は宝暦 5 年（1755）に大垣藩領所となり、同13年（1763）には幕府直轄領に組み込まれ、笠松代官所の支配となった。

明治21年 4 月17日に市制及び町村制が頒布され、翌22年 4 月 1 日の町村制実施に先立って、全国的に町村の合併が断行された。岐阜市は明治22年 7 月 1 日に市制が施行されている。『岐阜県町村合併史』には、「方県郡正木村・下土居村・鷺山村を合併し、鷺山村を置く。鷺山はこの区域中著名であったのでこれを村名とした。正木は名古屋藩と笠松代官所に分属し、下土居は笠松代官所に属し、鷺山は大垣藩と名古屋藩士石河家に分属し、明治26年第 7 大区16小区であった。同17年下土居・鷺山は打越・則武（正木の間違い）とともに組合戸長役場を置き、同22年正木・下土居・鷺山の三か村は連合して組合村役場を置いた。」とある。この組合村役場は正木村心洞寺に置かれた。明治29年 4 月18日には「岐阜県郡廃置及郡界変更法」が公布され、翌30年 4 月 1 日から郡制が施行された。これにより鷺山村は、方県郡から稲葉郡に属することになる。のち昭和10年 6 月15日、鷺山村は同じ稲葉郡の三里村と共に岐阜市に編入され現在に至る。

第 1 章第 1 節で当地域は水との関わりが深いことを述べた。水害に備えたと考えられるSA1について、国島龍一氏所蔵の「伊自良・鳥羽・板谷川通堤御願墨引絵図」には本堤が赤色で描かれ、築造を申請していたことが分かる。絵図の年代は寛政 8 年（1796）とされている(1)。この申請が再築造の可能性もあるため確定することはできないが、今回の調査で18世紀後葉に比定できる瀬戸美濃産の太白手の染付碗が出土していることから、SA1の築造年代は18世紀末葉であることを可能性の 1 つとして挙げておきたい。また平成13年度にも本堤の調査を行っており（鷺山仙道遺跡G区）、その出土遺物を検討することでさらに確かな証拠が得られるのではないかと考えている。

註

(1)絵図に記載されている領主の肩書きと領地の関係から見ると、明和 8 年(1771)～天明元年(1781)の間と推測できる。

参考文献

伊藤實臣　1932　『美濃明細記』

内堀信雄　1991　「分布調査の成果から」　特別展『信長・秀吉の城と都市』図録

内堀信雄・小野木学・山田哲也・井川祥子・島田崇正　2002　「美濃地域における中世集落の様相」
『第9回東海考古学フォーラム　東海の中世集落を考える』

江崎頼澄　『土岐累代記』

岡田啓　1900　『新撰美濃志』

岐阜市　1980　『岐阜市史』通史編　原始・古代・中世

岐阜市　1978　『岐阜市史』史料編　近世二

岐阜市教育委員会　1999　『城之内遺跡ー長良公園整備事業に伴う緊急発掘調査ー(第 1 分冊)』

木本雅康　1996　「四　東山道ー山坂を越えてー」『古代を考える　古代道路』

黒坂修平　1992　『東山道の実証的研究』

小島道裕　1990　「戦国・織豊期の城下町　城下町における「町」の成立」『日本都市史入門Ⅱ　町』

鷺山史誌編集委員会　1988　『鷺山史誌』

高富町教育委員会　2001　『大桑城下町遺跡』

高田徹　内堀信雄　1994　「美濃における一五・一六世紀代の守護所の変遷」『守護所から戦国城下へ―地方政治都市論の試み―』

田島公　1993　「10　古代国家と東山道」『新版　古代の日本』第 7 巻　中部

土山公仁　1994　「革手復元」　特別展『土岐氏の時代』図録

松田之利ほか　2000　『岐阜県の歴史』

第３節　鷺山仙道遺跡の出土遺物について

今回の調査で出土したかわらけについて、口縁部の残存率が３分の１以上のもの、器高が測定できるものを対象とし、法量と分類について検討を行った（第71図）。またかわらけの出土量が最多のSK14のみの分析も行った（第72図）。全体について、ほとんどが12㎝以下の小法量で構成され、15㎝以上のものはあまり使用されなかった。細かく見ると、７㎝台、９～10㎝台、11～13㎝台、15㎝台、18㎝台の５法量のまとまりがある。７㎝台のほとんどがC2類、15㎝台と18㎝台についてはB2－a類のみである。また11～13㎝台の中には、器高がやや高いグループ（B2－c類？）が存在する。B2－a類とB２－b類について、９～10㎝台と11～13㎝台に集中するが、B2－b類については８㎝台のものが若干量であるが存在する。SK14についてもほぼ同じ傾向である。

B２－a類の口縁部に施されるナデ調整について、口縁部外面のナデ調整幅が狭い、もしくは部分的にしか施されない、という雑なつくりのものが目立つ。本遺跡のかわらけについてはナデ幅は口径に正比例する可能性が高い。このことは、法量の大きなものほど丁寧に作られることを示していると考えられる。

次に鋳造作業関連遺物について、今回の調査では、ピットをはじめとする４期の様々な遺構から、トリベ、ふいごの羽口、鉱滓が付着したかわらけ、焼土塊などが出土した。トリベは４ccと73.1ccのものがあり、それほど大きな製品を造っていなかったことがわかる。また、トリベと同様の使用方法が考えられ、トリベの出土数を凌駕したのが鉱滓が付着したかわらけで、同様の例は京都平安京左京八条二坊十四町・十五町跡、一乗谷朝倉氏遺跡に見られる。今回の調査での出土点数は515点を数え、分類別の点数は表27に示した。この数字については平成13年度鷺山仙道遺跡G区の調査でさらに多くの鉱滓が付着したかわらけが出土しており、その整理段階で補強や修正がされると思われる。

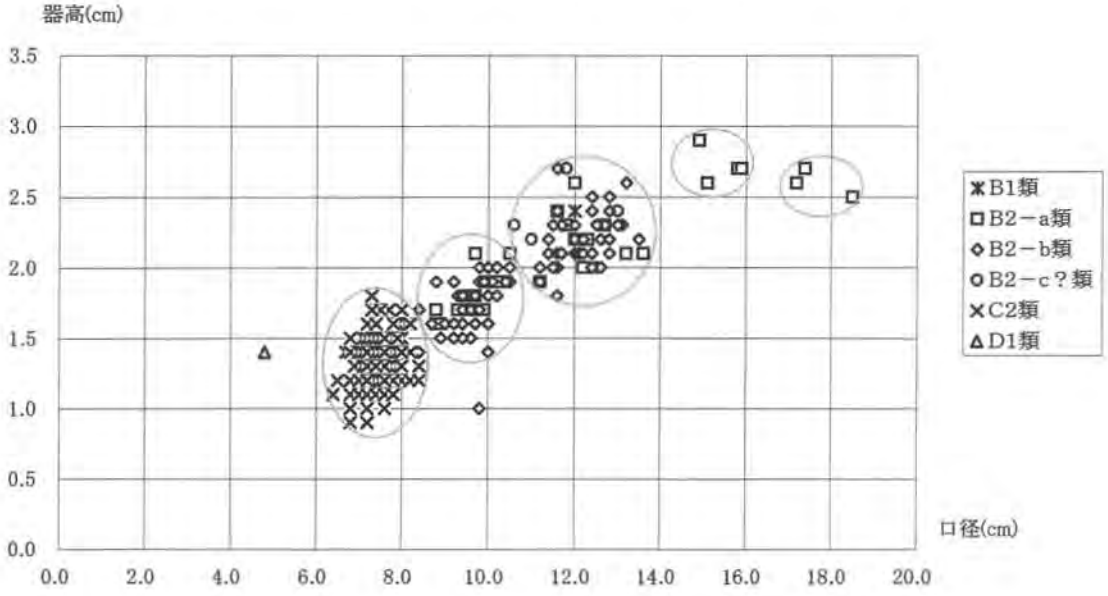
また以上の道具以外に多く出土したのが焼土塊である。当初は建物の壁土と考えていたが、他に鋳造作業に関わる遺物が多いことから、炉壁もしくは鋳型の可能性もある。しかし鉱滓の付着、鋳型様の凹凸、金属との接触部分見られる灰色に変色した部分などが観察できるものはなかった。

その他特徴的な遺物として、４期の遺構埋土から出土した銅銭、犬形土製品がある。柱穴から出土したものが多いが、掘り方底部ではなく埋土の途中で検出している。地鎮など祭祀行為の結果か。

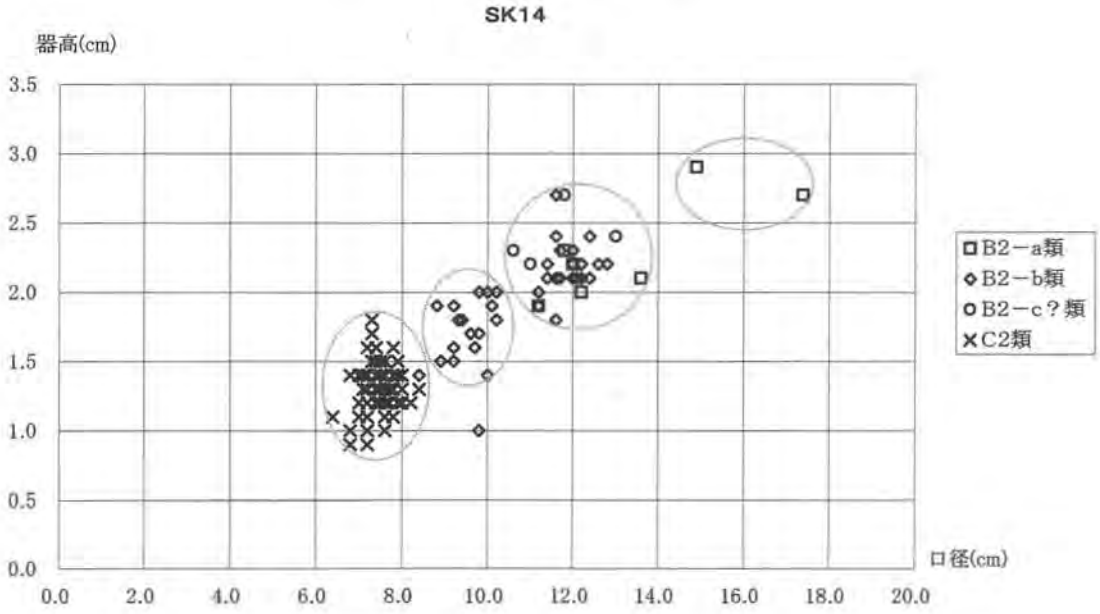
銅銭について種類が判別できるものは、唐代の開元通寶（初鋳年621年）が２枚、明代の宣徳通寶（初鋳年1433年）が１枚、その他は全て初鋳年が10世紀末から12世紀初めの北宋のものである。

犬形土製品は5点出土し、うち２点は４期のP186とSD37から出土している。岐阜県内では城之内遺跡（岐阜市）SD01、仲迫間遺跡（美濃加茂市）で出土例がある。また平成13年度鷺山仙道遺跡G区検出の土坑、大友府内町跡の青銅器製作関連遺構の付近、大坂城跡のトリベ集積遺構埋土、朝日西遺跡59D区東部の椀型滓やふいごの羽口が出土した付近のSD177埋土から犬形土製品が出土していることから、鋳造作業と犬形土製品が何らかの関係がある可能性がある。

参考文献
愛知県埋蔵文化財センター　1992　『朝日西遺跡』
朝日新聞社　1997　「シリーズ20都市の考古学　京都を掘る」『アサヒグラフ』1997.11.14　通巻3944号
岩田　隆　1994　「戦国城下町越前一乗谷」『守護所から戦国城下へ－地方政治都市論の試み－』
江浦　洋　2000　「大坂城跡出土の犬形土製品小考」『大阪文化財研究』第18号
大分市教育委員会・中世都市研究会　2001　「第4章－2　中世大友府内町跡の調査概要　第12次調査」『南蛮都市・豊後府内　都市と交易』
岐阜県教育委員会　1990　『城之内遺跡　長良高等学校体育館建設に伴う岐阜大学跡地の緊急発掘調査報告書』
(財)岐阜県文化財保護センター　1993　『仲迫間遺跡』
嶋谷和彦　1991　「織豊期の犬形土製品－出土遺跡の集成と資料の紹介を中心に－」『関西近世考古学研究』Ⅰ
鈴木正貴　2000　「尾張地域の鍛冶遺跡」考古学フォーラム定例会資料



第71図　かわらけ法量グラフ（全体）



第72図　かわらけ法量グラフ（SK14）

	M類	B1類	B2－a類	B2－b類	C2類
鋳造関連かわらけ(個)	0	9	83	126	142
総数(個)	78	219	1541	3226	4750
比率(%)	0	4.1	5.4	3.9	3.0

第27表　鋳造関連かわらけの分類別破片数

第４節　鷺山仙道遺跡検出の井戸について

今回の鷺山仙道遺跡の調査では合計4基の戦国時代に比定できる井戸状遺構を確認し、その中でもSE１とSE２については、井戸側の構造が結桶積みであることがわかった。本節ではまず濃尾平野における古代から近世までの井戸を対象として構造の変遷を中心に検討する。しかし、すでに多くの研究者がこの点についての論考を発表しているため、詳細はそちらに譲り、ここでは大きな流れを把握するにとどめる。その後に今回確認したSE１とSE２の意義について気づいた点を述べる。

検討の対象とした資料は、「井戸側の構造がわかるもの」かつ「時期が確定されているもの」とした。井戸側の壁を守るためには、板組み、石組み、曲物積み、結桶積みなど様々な構造が用いられる（第73図）が、中には何も構造物を用いない素掘りの井戸がある。これについては使用期間中も素掘りのままであったものと、井戸廃棄の際、構造物を抜き取るために掘り返した痕跡との判別が困難であると判断し対象外とした。また最下部に曲物が１～２個検出される例が多いが、板組み井戸の水溜部分であるのか、曲物積み構造の残欠であるかの判別が困難と判断し、これも対象外とした。

以上の条件により各資料を時期別に分けた場合、中世以前15基、中世前期34基、戦国時代前半（15世紀末～16世紀前葉）57基、戦国時代後半（16世紀後葉）41基、近世45基となり、必ずしも数的検討に耐えられる量とは言い難いが、検討の結果は図74のようになった。また、今まで論述されることが少なかった美濃地域の井戸も今回対象としたが、時代を問わず集成しても50基程度であり、さらに今回の条件を満たすものは13基となり、美濃地域における傾向を述べるのは時期尚早と思われる。

中世以前については板組み構造が７割弱、曲物積み構造が３割強という結果になった。板組みの内訳を見ると、縦板組みが横板組みを凌駕する[1]。

中世前期においても板組み構造が多く用いられるという傾向は変わらず、縦板組みが圧倒的に多いというのも同様である。またこの時期から結桶積み、石組み[2]が少量ではあるが用いられるようになる。その他には、常滑甕を用いた構造（阿弥陀寺遺跡SE1016）などが含まれる。

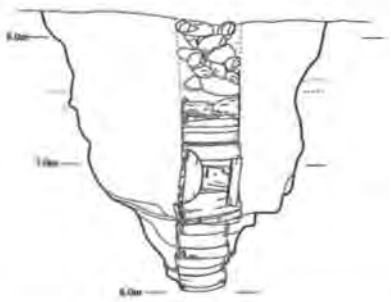
戦国時代前半に大きな変化がある。板組みと曲物積みの構造がほとんど見られなくなり、代わりに結桶積み構造が多く用いられるようになる。また石組みの比率はほとんど変化がない。戦国時代後半においては、板組みと曲物積みの構造が姿を消し、結桶積みと石組みのみとなる。

近世においても結桶積み構造が多く用いられるという傾向は同じである。それ以外の構造としては石組みの他に、瓦、漆喰、植物の茎などを用いるものがあり、技術的な多様化が見られる。

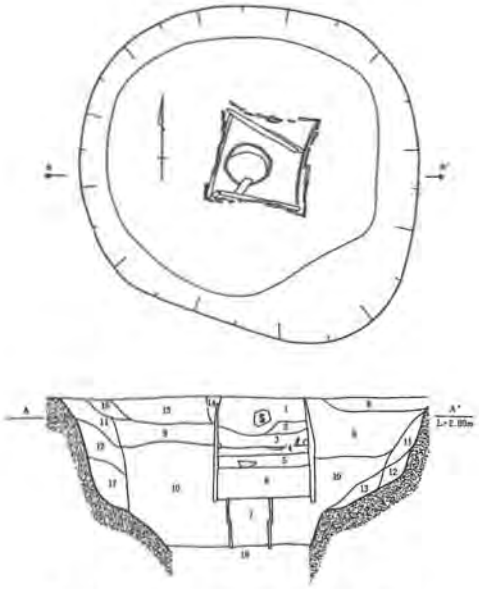
次に鷺山仙道遺跡検出のSE１とSE２について述べる。この２基の井戸は本報告４期に比定し、結桶積み構造であることは第４章第４節で記述した通りで、上述の傾向の中で見た場合、当時多く用いられた技術により造られた井戸ということができる。しかしながら、SE１の水溜部分には容器から転用された結桶が正位で設置されている。この構造については今回集成した資料（時期不明のものも含めて）に類例はなく、そのほとんどが水溜部分は素掘りであるか、積まれた桶の最下段が湧水層に達している。またSE１の残存していた井戸側の結桶部材について、その下端部は外面が厚く削られ、先端が鋭利に加工されているが、類例は清洲城下町遺跡に多く見られる。

SE２の井戸側に使用された結桶について、下端の両角が削られるという加工が施されていた（１段目の24枚中15枚、２段目は21枚全て）。清洲城下町遺跡62F区SK30に類例があるが、これは下端がさらに内側から削られ鋭利に加工されているが、SE２の桶部材にはその加工はない。

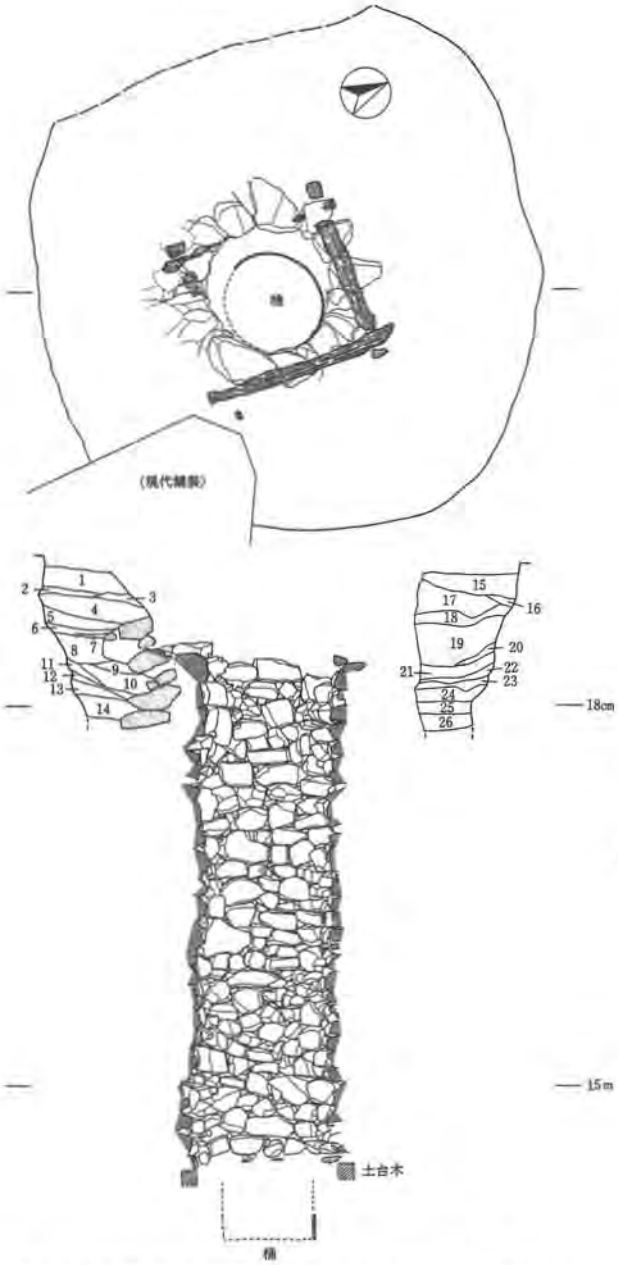
また、平成13年度の鷺山地区での調査でも石組みの井戸１基、結桶積みの井戸３基が確認されている。鷺山市場遺跡SK115の結桶は、今回の調査のSE２と同じ加工が施され、鷺山仙道遺跡G区SE１の結桶は、今回の調査のSE１もしくは上記した清洲城下町遺跡と同様の加工が施される。



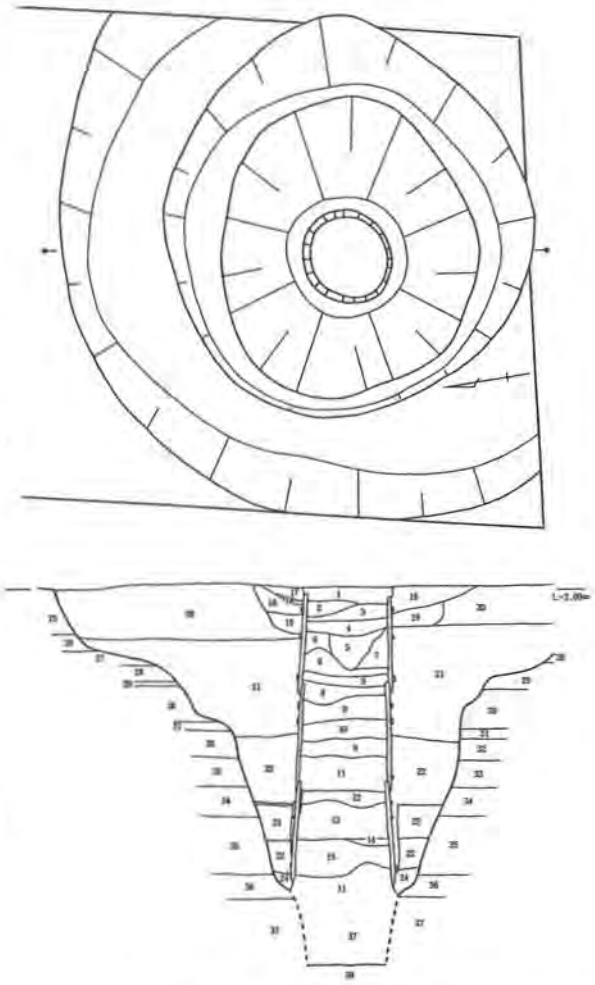
曲物積みの井戸（門間沼遺跡　95CSE01）



板組みの井戸（清洲城下町遺跡　SE110）



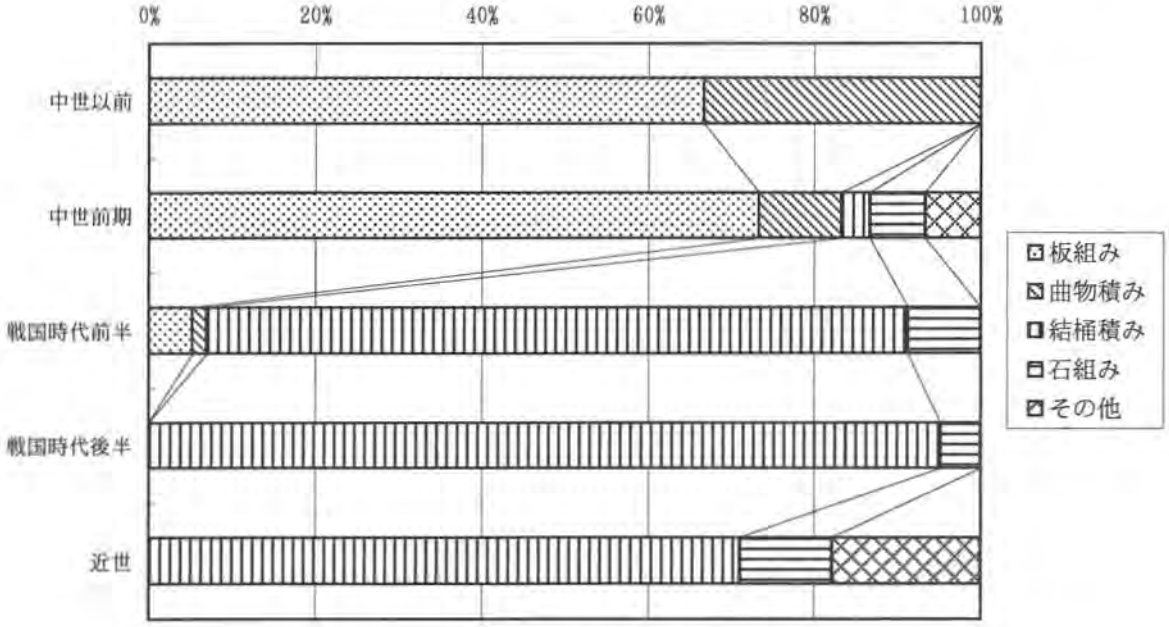
石組みの井戸（岐阜城千畳敷遺跡３次　SE2）一部改変



結桶積みの井戸（清洲城下町遺跡　SE120）

第73図　井戸側の種類

時期	板組	曲物積み	結桶積み	石組み	その他	総数
中世以前	10	5	0	0	0	15
中世前期	22	3	1	2	2	30
戦国時代前半	3	1	48	5	0	57
戦国時代後半	0	0	39	2	0	41
近世	0	0	32	5	8	45
計	35	9	120	14	10	188



第74図　井戸側構造の時期毎の比率

以上、濃尾平野の井戸側構造の変遷を概観し、今回検出した井戸の位置づけを検討したが、細かい技術面での差はあるものの、戦国時代前半という時間の中では、普通に見られる構造の井戸ということがわかった。また、今回この検討を行った際に気づいた今後の課題として、(1) 美濃地域の様相。(2) 結桶積み構造の井戸と石組み構造の井戸の違い。(3) 地上の構造（井桁、上屋など)、がある。

1について、前述の通り未だ資料数が少なく、ある一時期においての概観すらできないのが現状である。今後の資料の増加を待ちたい。2について、特に戦国時代以降、結桶積み構造の井戸が多く造られるようになるが、その中で石組みの井戸が一定の割合を占めている。石組みの構築は結桶積みの井戸に比べてかなり労力が必要と思われるが、それでもなお石組みの井戸が作り続けられるには何らかの理由があるのだろう。生活用水と飲み水の差、造る人もしくは使用する人の権力の差などが考えられているが、現段階でそれらを検討する資料を筆者は持っていない。ちなみに今回の集成で石組みの井戸が検出された遺跡を挙げると、愛知県では天白元屋敷遺跡、神領遺跡、清洲城下町遺跡、岐阜県では城之内遺跡、岐阜城千畳敷遺跡、重竹遺跡、加納城跡三の丸、下巾上遺跡、諸洞遺跡、和知城跡などがある。3の井桁については、未だに復元できる例は少ない。発掘調査において検出されるのは地下の構造であり、調査担当者や研究者の意識もそちらに向きがちである。しかし、近代・現代の井戸の調査、史料調査などアプローチする方法はあるはずである。また上屋について、今回のSE 1の調査に際して、検出段階でプランの周囲に小ピットを12基確認した。これが上屋か否かは確定できなかったが、今後、井戸調査においては検出段階でも注意が必要という教訓になった。

井戸に関する研究は、地域の様相と構造の変遷、遺跡の立地と構造との関わり、廃棄の際の祭祀な

ど多岐にわたる。資料の増加を待ち、成果を述べる場を作りたいと考えている。

註

(1)板組み構造の井戸側について、隅柱の有無、桟の有無などにより小分類が用いられることがあるが、筆者自身、それらの構造の差が時代的、技術的にどのような意義があるのか未だ理解していないため、今回は敢えて言及を避け、板の方向のみ述べることとした。

(2)石組み構造の場合（後の時代も同様であるが）、沈下を防ぐために、石組みの最下段の下に土台木を置くものが多い。

参考文献

宇野隆夫　1982　「井戸考」『史林』第65巻第5号

北村和宏　1997　「尾張平野における中世井戸の構造とその変遷に関する覚書」『(財)愛知県埋蔵文化財センター年報』平成8年度

鈴木正貴　2002　「中世井戸についての若干の考察ー愛知県下の事例を中心としてー」『第9回東海考古学フォーラム　東海の中世集落を考える』

鈴木正貴　1989　「清洲城下町遺跡出土の井戸桶に関する考察」『㈶愛知県埋蔵文化財センター年報』昭和63年度

報告書（検討の対象となった井戸を掲載したもののみ）

〔岐阜県〕

大垣市教育委員会　2000　『曽根城跡ー第4次発掘調査ー』

各務原市埋蔵文化財調査センター　1994　『宮塚遺跡A地区発掘調査報告書』

岐阜県教育委員会　1990　『城之内遺跡　長良高等学校体育館建設に伴う岐阜大学跡地の緊急発掘調査報告書』

㈶岐阜県文化財保護センター　1995　『下巾上遺跡　国道156号線道路拡幅工事に伴う緊急発掘調査報告書』

㈶岐阜県文化財保護センター　1995　『下巾上遺跡　国道156号線道路拡幅工事に伴う緊急発掘調査報告書』

㈶岐阜県文化財保護センター　1999　『諸洞遺跡・大坪遺跡　東海北陸自動車道建設工事に伴う緊急発掘調査報告書』

岐阜市遺跡調査会　1996　『堀田・城之内ー岐阜市堀田土地区画整理事業に伴う発掘調査ー』

岐阜市教育委員会　1997　『平成8年度岐阜市市内遺跡発掘調査報告書』

㈶岐阜市教育文化振興事業団　2000　『千畳敷Ⅲ ー岐阜公園再整備事業に伴う岐阜城千畳敷遺跡の緊急発掘調査ー』

関市教育委員会　1984　『重竹遺跡ーその3ー　東海北陸自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査告書』

〔愛知県〕

愛知県教育委員会　1983　『廻間遺跡』

㈶愛知県教育サービスセンター　愛知県埋蔵文化財センター　2000　『下津北山遺跡』

愛知県埋蔵文化財センター　1987　『土田遺跡』

愛知県埋蔵文化財センター　1990　『阿弥陀寺遺跡』

愛知県埋蔵文化財センター　1990　『清洲城下町遺跡』

愛知県埋蔵文化財センター　1990　『廻間遺跡』

愛知県埋蔵文化財センター　1991　『大溯遺跡』

愛知県埋蔵文化財センター　1991　『土田遺跡Ⅱ』

愛知県埋蔵文化財センター　1992　『朝日西遺跡』

愛知県埋蔵文化財センター　1992　『岩倉城遺跡』

愛知県埋蔵文化財センター　1992　『清洲城下町遺跡Ⅱ』

愛知県埋蔵文化財センター　1994　『清洲城下町遺跡Ⅲ　外町遺跡』

愛知県埋蔵文化財センター　1994　『清洲城下町遺跡Ⅳ』

愛知県埋蔵文化財センター　1996　『大毛沖遺跡』

愛知県埋蔵文化財センター　1996　『儀長正楽寺遺跡』

愛知県埋蔵文化財センター　1997　『田所遺跡』

愛知県埋蔵文化財センター　1999　『堀之内花ノ木遺跡遺跡』

愛知県埋蔵文化財センター　2001　『八王子遺跡遺跡』

海部郡甚目寺町教育委員会　1990　『森南遺跡』

春日井市教育委員会　2001　『神領遺跡発掘調査概要報告書』

名古屋市教育委員会　1986　『天白・元屋敷遺跡第二次発掘調査報告書』

名古屋市教育委員会　1997　『名古屋城三の丸遺跡　第8・9次発掘調査概要報告書』

名古屋市教育委員会　1997　『埋蔵文化財調査報告書27　天白元屋敷遺跡（第3次）』

名古屋市教育委員会　1996　『幅下小学校遺跡ー第4次発掘調査の概要ー』

第６章　自然科学分析

第１節　出土木製品の樹種同定

植田弥生（パレオ・ラボ）

(1) 平成11年度調査出土の木製品について

１．はじめに

ここでは、SE１（戦国時代）の井戸から出土した２つの桶の桶部材、箸や木片など、住居跡の一部と推定される柱根、溝から出土した材、地山から出土した木の樹種同定結果を報告する。

なお、SE１の桶は完形で出土し、桶の側板部材すべてについて、その樹種と木取りを調査した。

２．方法

片刃の剃刀を用いて材の横断面（木口）・接線断面（板目）・放射断面（柾目）の３方向を薄く剥ぎ取りスライドグラスの上に並べ、ガムクロラールで封入し永久プレパラートを作成した。光学顕微鏡を用いてこれらの材組織を観察し同定を行った。

3. 結果

樹種同定結果の一覧を第28表に示した。第29表に各製品または遺構ごとに検出された樹種を示し比較した。

[SE1桶部材]

桶は19枚の側板部材から構成されていた。桶部材①～⑲は配列順であり、19枚の樹種はすべてヒノキ属のサワラであった。木取りは、①～⑮が柾目取りの板で、⑯～⑲の連続４枚は板目取りであった。

上記の桶の上位にあった桶部材破片２点（一方は遺物番号201）もサワラであった。ただしこの上位の桶の部材①と②は同一である可能性もある。

[SE1出土の箸・加工品など]

SE１の枠外と枠内から出土した箸の樹種は、サワラ15点とヒノキ２点で、いずれもヒノキ属の２種であった。ヒノキの箸２点はいずれも枠外から検出された。箸の横断面の形状は、四角形・台形・五角形・六角形・多角形など様々で、各辺の長さも一定ではない形がほとんどである。また、箸の横断面の形状と使用樹種との間に関連性は特に無かった。箸の先端の削り方も、鉛筆のように先細りにしたもの（試料10、16、17）や、やや細くして立ち落としたもの（試料４、６、７、８）、楔型に削いでいるもの（試料１）など様々であった。箸は長さ約５～16cmの破損した破片がほとんどである。試料６の箸は、３破片が接合し、長さ21cmの両端が細くなった完形の箸であった。試料１の箸は、２破片からなり長さ27cmであるが、完形ではなかった。このほかにも取り上げ後の調査で試料２と試料３はそれぞれ接合するものが見つかった。相互の接合断面は、手で割った断面と似ている。接合された箸の部位数や破片個所からは、主に２個所以上で割っているように推測された。

SE１から出土した加工痕が明瞭な加工木はヤナギ属、加工痕のある丸棒と加工痕のない丸棒はいずれもシイノキ属、楔aと楔bはいずれもサワラであった。

[柱材とSD１の材]

柱材５点の樹種は、４点がヒノキ（P６、P８、P22、P23）、１点がアカマツ（P24）であった。SD１から出土した２つの木はいずれもヒノキであった。

[地山出土の木]

SD１の下部（地山）から出土した木１、木２、木３はケヤキであった。いずれの材もその長軸が南北方向にあり、材組織からは根材の可能性が高かったことから、木１、木２、木３は流路際に生育

していたケヤキの根張りが埋まっていたのかも知れない。ケヤキ材から離れた地点で出土した木4は、ムクノキであった。

[樹種記載]

以下に同定された樹種の材組織を分類群順に記載する。

(1)アカマツ *Pinus densiflora* Sieb. et Zucc. マツ科 図版24 1a-1c (P24 柱根)

垂直と水平の樹種道を持つ針葉樹材。分野壁孔は窓状。放射仮道管が放射組織の上下端にあり、その内壁は鋸歯状肥厚が顕著である。

アカマツは暖帯から温帯の低地や山地の陽光地に生育する。材は耐水性が高い。

(2)ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* Endl. ヒノキ科 図版24 2a-2c (P23 柱根)

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材。晩材部の量は少ない。分野壁孔はヒノキ型で1分野に主に2個、その孔口は斜めに細いレンズ状に開いている。

ヒノキは本州の福島県以南・四国・九州のやや乾燥した尾根や岩上に生育し、材は耐久性・切削性・割裂性にすぐれている。

(3)サワラ *Chamaecyparis pisifera* (Sieb. et Zucc.) Endl. ヒノキ科 図版24 3a-3c (桶部材①)

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材。同属のヒノキに比べ、晩材部の量は多く晩材部の仮道管の肥厚も厚い。分野壁孔はヒノキ型であるがその孔口は大きく楕円形に開いている。

サワラは、東北南部から中部地方の沢沿いの岩上に多く生育し、ヒノキより分布域が狭い。材はヒノキよりやや軽軟である。

(4)ヤナギ属 *Salix* ヤナギ科 図版25 4a-4c (加工木)

小型の管孔が単独または2～4個が複合して晩材部に向いゆるやかに径を減じている散孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一。放射組織は単列異性、道管との壁孔は大きく交互状に密在にする。

ヤナギ属は、暖帯から温帯の水湿地や丘陵地の日当りのよい所に生育する落葉高木または低木で多くの種類を含む。材質は軽軟で切削は容易だが耐朽性は低い。

(5)シイノキ属 *Castanopsis* ブナ科 図版25 5a-5c (丸棒)

やや楕円形の中型の管孔が間隔をあけて配列し、その後も数個の単独の管孔が放射方向に分布し、晩材部は非常に小型の管孔が火炎状に配列する環孔材。幅の狭い集合放射組織があり、その部分で年輪界は大きくずれる。道管の穿孔は単一。放射組織は単一同性と幅の狭い集合放射組織がある。シイノキ属の放射組織は単列が主体であるが、スダジイは樹心部に限り集合放射組織が現れ、ツブラジイは樹心以外でも現れることが報告されている。当試料は樹心部分であるため、集合放射組織の有無で種レベルまでの同定をすることはできない。

シイノキ属は、暖帯に生育する常緑性の高木で、照葉樹林の主要素である。関東以西・四国・九州に分布するツブラジイ(コジイ)と、本州の福島県と新潟県佐渡以南・四国・九州に分布するスダジイがある。

(6)ケヤキ *Zelkova serrata* (Thunb.) Makino ニレ科 図版25 6a－6c (木2)

年輪の始めに中型の管孔が1～2層配列し、晩材部は小型や非常に小型の管孔が多数集合して塊状・斜状に配列する環孔材。道管の穿孔は単一、小道管にはらせん肥厚がある。放射組織は異性、1～7細胞幅、上下端や縁に大型の結晶細胞があり、道管との壁孔は小さくて交互状に配列している。年輪始めの大型管孔の配列はやや不規則で、年輪界もやや不明瞭、放射組織は全般に大きいなど、根材または根張りの部位の材である可能性がある。

ケヤキは、暖帯下部から温帯の山中や川岸に生育する落葉高木である。材は堅い。

(7)ムクノキ *Aphananthe aspera* (Thunb.) Planch. ニレ科 図版26 7a-7c (木4)

やや小型の管孔が単独または2～3個が放射方向に複合しまばらに分布し、管孔の壁は厚く、帯状柔

組織が顕著な散孔材。道管の壁孔は交互状で横に伸びた孔口はつながり流紋となり、穿孔は単一。放射組織は異性、1～3細胞幅の紡錘形、上下端に方形・直立細胞が2～3層ほど単列であり、結晶細胞がある。放射組織と道管との壁孔は交互状に密在する。

ムクノキは、暖帯の山野に普通の落葉高木である。材は堅く丈夫である。

4．まとめ

SE 1の桶は19枚の側板部材から作られており、樹種はすべてサワラであった。またその上部の桶の側板部材の破片もサワラであった。岐阜城下の千畳敷遺跡では戦国時代後半の井戸底からは桶の約半分が残存して出土した。その部材の樹種は、サワラ11点、ヒノキ2点、ヒノキ属2点であった（植田、2000）。千畳敷遺跡の井戸桶では、サワラ以外にヒノキも少し使われていた事と年輪が非常に緻密であった点が当遺跡と異なる。しかし、主にサワラ材から構成され、木取りは板目取りも含まれるが柾目取りが圧倒的に多い点は、当遺跡と千畳敷遺跡の井戸桶は類似していた。

しかし柱根の樹種は、5点中4点がヒノキであり、SD 1から出土したピット関連の可能性がある東木もヒノキであった。ヒノキとサワラは同じヒノキ属の材であるが、柱にはサワラより優れた材質のヒノキを強く選択使用していたように樹種同定結果からは読み取れる。

当遺跡においてサワラは、井戸桶部材だけではなく多くの箸や楔に使われていた。箸に使われていた樹種は、様々な遺跡の報告を見ると（島地・伊東、1988など）、針葉樹がほとんどで特にヒノキあるいはヒノキ属が優占し、そのほかにヒノキ属のサワラやスギなどがやや目立つ。従って、箸材の樹種選択性は狭く、また江戸時代になると標高の高い山地や深山に生育するトウヒ属やカラマツ属などもわずかながら検出されるようになるが、時代変遷により箸の樹種選択性が大きく変化する傾向も見られない。当遺跡周辺では箸材の樹種の報告は少ないが、曽根城跡（岐阜県大垣市）の中世（15世紀末）の溝SD 1から出土したは箸6点も、ヒノキ属と報告されている（藤根・植田、1997）。当遺跡の戦国時代の箸も、やはり針葉樹のヒノキやサワラが使用されていたことが判った。今までの情報では近畿や関東の資料が圧倒的に多いが、全般的にはヒノキが優占する報告事例が多い中で、当遺跡の箸はヒノキよりサワラが圧倒的に優占していた結果は特徴的であった。桶の側板部材についても、遺跡全般的にはサワラよりヒノキやスギの使用例が多い（島地・伊東、1988、松葉、1999など）。報告が多い中で、当遺跡ではサワラが使われていた。当遺跡では柱材はヒノキが多く使用されていたので、桶にも適材であるヒノキが入手不可能な立地状況ではなかったはずである。なんらかの理由により、桶や箸にはサワラを選択したか、または代用して使用していたと推測される。鈴木は地域によってはまだ充分な資料が得られていないことを断った上で、全国の古代およびその前後の遺跡について優占する針葉樹に注目すると、モミ圏・ヒノキ圏・スギ圏・サワラ圏の木材利用文化圏が認められることを提唱している。当遺跡においても当初は、情報量の多い近畿と関東の中間に位置することから、ヒノキあるいはスギを主体にした木材利用を推定していた。しかし、実際に遺跡から出土した木製品の樹種調査結果は、ヒノキも使用しているがサワラの方がより多くの製品に活用しているようであった。鈴木が提唱した古代の木材利用文化圏（図75）では、当遺跡の位置はサワラ文化圏の西方に位置し、実際の調査結果の樹種利用とも符号していた。但しサワラ文化圏の西縁の境界線は、今まで情報量が少ないので不確定なまま線引きされたものであった。今回の当遺跡の調査はこのサワラ文化圏の広がりや、サワラ材利用の歴史性、木材利用と地域植生との関連性などを理解してゆく資料となると考えられる。

引用文献

植田弥生　2000　「岐阜城千畳敷遺跡井戸遺構の樹種同定」『千畳敷Ⅲ』 (財)岐阜市教育文化振興事業団

島地　謙・伊東隆夫編　1988　『日本の遺跡出土木製品総覧』　1-296　雄山閣

藤根　久・植田弥生　1997　『曽根八千町遺跡・曽根城跡出土木材の樹種』 104-112　図版34-39　『曽根八千町遺跡』　岐阜県大垣市教育委

員会
松葉礼子　1999　「溜池遺跡・汐留遺跡・墨田区三遺跡から出土した木製品の樹種から類推される近世江戸城周辺の木材消費」　59-70
『植生史研究』第7巻第2号
鈴木三男　2000　「第6章 木材」　151-187　『考古学と植物学』　同成社

古代の木材利用文化圏。遺跡出土材のデータから最も優先する針葉樹の樹種で代表し、各樹種の天然分布も加味して区分した。実線は境界が認められるもの、波線は不確定のもの、空白域はデータがなくて判断できないもの。

第75図　古代の木材利用文化圏（鈴木(2000)より引用）

試料No	出土位置	用途	樹種	時期	備考
1	ＳＥ１掘り方	箸	サワラ	戦国時代	横断面:六角形
2	ＳＥ１掘り方	箸	サワラ	戦国時代	横断面:多角形
3	ＳＥ１掘り方	箸	サワラ	戦国時代	横断面:多角形
4	ＳＥ１掘り方	箸	ヒノキ	戦国時代	横断面:多角形
5	ＳＥ１掘り方	箸	ヒノキ	戦国時代	横断面:台形
6	ＳＥ１枠内	箸	サワラ	戦国時代	横断面:多角形
7	ＳＥ１枠内	箸	サワラ	戦国時代	横断面:多角形
8	ＳＥ１枠内	箸	サワラ	戦国時代	横断面:五角形
9	ＳＥ１枠内	箸	サワラ	戦国時代	横断面:四角形
10	ＳＥ１枠内	箸	サワラ	戦国時代	横断面:四角形
11	ＳＥ１枠内	箸	サワラ	戦国時代	横断面:五角形
12	ＳＥ１枠内	箸	サワラ	戦国時代	横断面:四角形
13	ＳＥ１枠内	箸	サワラ	戦国時代	横断面:六角形
14	ＳＥ１枠内	箸	サワラ	戦国時代	横断面:四角形
15	ＳＥ１枠内	箸	サワラ	戦国時代	
16	ＳＥ１枠内	箸	サワラ	戦国時代	横断面:多角形
17	ＳＥ１枠内	箸	サワラ	戦国時代	横断面:多角形
18	Ｐ６	柱根	ヒノキ	戦国時代	
19	Ｐ８	柱根	ヒノキ	戦国時代	
20	Ｐ22	柱根	ヒノキ	戦国時代	
21	Ｐ23	柱根	ヒノキ	戦国時代	
22	Ｐ24	柱根	アカマツ	戦国時代	
23	Ｐ35西木		ヒノキ	戦国時代	
24	Ｐ35東木		ヒノキ	戦国時代	Pit関連か？
25	ＳＤ１下部地山	木1	ケヤキ	古墳時代以前	根材の可能性あり
26	ＳＤ１下部地山	木2	ケヤキ	古墳時代以前	根材の可能性あり
27	ＳＤ１下部地山	木3	ケヤキ	古墳時代以前	根材の可能性あり
28	ＳＤ１下部地山	木4	ムクノキ	古墳時代以前	
29	ＳＥ１	桶部材①	サワラ	戦国時代	柾目取り
30	ＳＥ１	桶部材②	サワラ	戦国時代	柾目取り
31	ＳＥ１	桶部材③	サワラ	戦国時代	柾目取り
32	ＳＥ１	桶部材④	サワラ	戦国時代	柾目取り
33	ＳＥ１	桶部材⑤	サワラ	戦国時代	柾目取り
34	ＳＥ１	桶部材⑥	サワラ	戦国時代	柾目取り
35	ＳＥ１	桶部材⑦	サワラ	戦国時代	柾目取り
36	ＳＥ１	桶部材⑧	サワラ	戦国時代	柾目取り
37	ＳＥ１	桶部材⑨	サワラ	戦国時代	柾目取り
38	ＳＥ１	桶部材⑩	サワラ	戦国時代	柾目取り
39	ＳＥ１	桶部材⑪	サワラ	戦国時代	柾目取り
40	ＳＥ１	桶部材⑫	サワラ	戦国時代	柾目取り
41	ＳＥ１	桶部材⑬	サワラ	戦国時代	柾目取り
42	ＳＥ１	桶部材⑭	サワラ	戦国時代	柾目取り
43	ＳＥ１	桶部材⑮	サワラ	戦国時代	柾目取り
44	ＳＥ１	桶部材⑯	サワラ	戦国時代	板目取り
45	ＳＥ１	桶部材⑰	サワラ	戦国時代	板目取り
46	ＳＥ１	桶部材⑱	サワラ	戦国時代	板目取り
47	ＳＥ１	桶部材⑲	サワラ	戦国時代	板目取り
48	ＳＥ１(上位桶)	桶部材①	サワラ	戦国時代	②と同体の可能性あり
49	ＳＥ１(上位桶)	桶部材②	サワラ	戦国時代	
50	ＳＥ１	加工木	ヤナギ属	戦国時代	
51	ＳＥ１	丸棒	シイノキ属	戦国時代	加工痕あり
52	ＳＥ１	棒2	シイノキ属	戦国時代	加工痕なし
53	ＳＥ１	楔a	サワラ	戦国時代	
54	ＳＥ１	楔b	サワラ	戦国時代	

第28表　出土木材の樹種同定結果

樹 種	井戸遺構				柱根	ＳＤ１	ＳＤ１ 地山	合計
	箸	桶部材	上位の 桶部材	加工木 棒・楔				
アカマツ					1			1
ヒノキ	2				4	2		8
サワラ	15	19	2	2				38
ヤナギ属				1				1
シイノキ属				2				2
ケヤキ							3	3
ムクノキ							1	1
合計	17	19	2	5	5	2	4	54

第29表　遺構別の出土樹種

(2) 平成12年度調査出土の木製品について

1．はじめに

平成12年度の発掘調査で検出されたSE 2 の 2 段の桶部材45点（上段24点、下段21点）、SE 2 出土の楔 1 点、SE 3 井戸出土材 1 点、ピットから出土した材 2 点、合計49点の樹種同定結果を報告する。これらの木製品は戦国時代の遺物である。SE 2 から約20m離れた地点には、同じ構造のSE 1 があり、桶部材はすべてサワラの材であった。今回も出土した桶部材のすべての樹種同定を行い、戦国時代の当地で利用された桶材の樹種選択をより詳細に知る資料とした。

2．方法

片刃の剃刀を用いて材の横断面（木口）・接線断面（板目）・放射断面（柾目）の 3 方向を薄く剥ぎ取りスライドグラスの上に並べ、ガムクロラールで封入し永久プレパラートを作成した。光学顕微鏡を用いてこれらの材組織を観察し同定を行った。

3．結果

樹種同定結果の一覧を第30表に示した。

井戸SE 2 の上段桶の部材24点と下段桶の部材21点は、すべてサワラであった。井戸桶の部材は、すべて板目取りの板材であり、柾目面で密着して接合するように組まれていた。ほとんどの部材は、放射方向の厚みは約 2 ㎝で接線方向の幅は 7 ～13㎝前後であった。しかし、上段の部材 1 －22と下段の部材 2 －16は、放射方向の厚みは約 2 ㎝で同様な厚さであったが、接線方向の幅は約 2 ～ 3 ㎝と狭く、板状ではなく角材であった。これらは、桶の隙間を埋める調整の役割を果たしていた材と思われる。部材の横断面に見られた年輪数は、 6 ～20年輪数のものが多かった。しかし、部材 2－3 と 2－8 の年輪は非常緻密で、25～30年輪数ほど数えられた。

SE 2 から出土した楔もサワラであった。

SE 3 、P372、P373出土材は、材組織の保存があまり良くないためヒノキ属であることまでしか同定できなかった。

[樹種記載]

サワラ *Chamaecyparis pisifera* (Sieb. et Zucc.)Endl. ヒノキ科　図版26 8a-8c(SE 2 桶部材1-5)

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材。同属のヒノキに比べ、晩材部の量はやや多く、晩材部の仮道管の肥厚も厚く、早材部から晩材部への移行がやや急である。また、早材部の分野壁孔はヒノキ型であるが、多くの壁孔はその孔口が大きく楕円形に開いている。このような形質から、ヒノキ属のサワラと同定した。

4．まとめ

SE 2 の上段桶部材24点とその下段桶部材21点は、すべてサワラであった。前年度に検出されたSE1の桶は、完形の形で出土した桶の部材19点とその上位の桶部材の破片もすべてサワラであった。従って、当遺跡の井戸桶にはサワラが多く選択使用されたようである。SE 1 の桶の部材の木取りは、柾目取りと板目取りがあり、柾目取りの材の方が圧倒的に多かった。しかし、SE 2 は、ほとんどが板目取りの材であり、柾目の部分で密着するように組まれていた。

岐阜城下の千畳敷遺跡から出土した戦国時代後半の井戸底に残存していた桶の約半分に当たる部材の樹種は、すべてヒノキ属に含まれるサワラまたはヒノキであり、サワラが圧倒的に多く検出された(植田、2000)。サワラは、中部地方を中心に分布する樹種であることから、当地域一帯はサワラの材の蓄材量が豊富で入手容易であったと推測される。また当遺跡の井戸桶は、ほぼ同一樹種（サワラ）で桶が製作されていること、上段と下段の各桶からそれぞれ 1 本ずつ検出された角材は桶の隙間をぴったりと埋める調整のためと思われこの角材もサワラであったことから、井戸に設置する目的でサワラの大木の材が調達されたと思われる。廃材や転用したような材は見られなかった。

引用文献
植田弥生　2000　「岐阜城千畳敷遺跡井戸遺構の樹種同定」『千畳敷Ⅲ』㈶岐阜市教育文化振興事業団

試料No.	出土位置	用途	樹種	時期	備考
1	ＳＥ２　上段井戸桶	部材1-0	サワラ	戦国時代	板目
2	ＳＥ２　上段井戸桶	部材1-1	サワラ	戦国時代	板目
3	ＳＥ２　上段井戸桶	部材1-2	サワラ	戦国時代	板目
4	ＳＥ２　上段井戸桶	部材1-3	サワラ	戦国時代	板目
5	ＳＥ２　上段井戸桶	部材1-4	サワラ	戦国時代	板目
6	ＳＥ２　上段井戸桶	部材1-5	サワラ	戦国時代	板目
7	ＳＥ２　上段井戸桶	部材1-6	サワラ	戦国時代	板目
8	ＳＥ２　上段井戸桶	部材1-7	サワラ	戦国時代	板目
9	ＳＥ２　上段井戸桶	部材1-8	サワラ	戦国時代	板目
10	ＳＥ２　上段井戸桶	部材1-9	サワラ	戦国時代	板目
11	ＳＥ２　上段井戸桶	部材1-10	サワラ	戦国時代	板目
12	ＳＥ２　上段井戸桶	部材1-11	サワラ	戦国時代	板目
24	ＳＥ２　上段井戸桶	部材1-12	サワラ	戦国時代	板目
23	ＳＥ２　上段井戸桶	部材1-13	サワラ	戦国時代	板目　角材
22	ＳＥ２　上段井戸桶	部材1-14	サワラ	戦国時代	板目
21	ＳＥ２　上段井戸桶	部材1-15	サワラ	戦国時代	板目
20	ＳＥ２　上段井戸桶	部材1-16	サワラ	戦国時代	板目
19	ＳＥ２　上段井戸桶	部材1-17	サワラ	戦国時代	板目
18	ＳＥ２　上段井戸桶	部材1-18	サワラ	戦国時代	板目
17	ＳＥ２　上段井戸桶	部材1-19	サワラ	戦国時代	板目
16	ＳＥ２　上段井戸桶	部材1-20	サワラ	戦国時代	板目
15	ＳＥ２　上段井戸桶	部材1-21	サワラ	戦国時代	板目
14	ＳＥ２　上段井戸桶	部材1-22	サワラ	戦国時代	板目
13	ＳＥ２　上段井戸桶	部材1-23	サワラ	戦国時代	板目
25	ＳＥ２　下段井戸桶	部材2-1	サワラ	戦国時代	板目
26	ＳＥ２　下段井戸桶	部材2-2	サワラ	戦国時代	板目
27	ＳＥ２　下段井戸桶	部材2-3	サワラ	戦国時代	板目
28	ＳＥ２　下段井戸桶	部材2-4	サワラ	戦国時代	板目
29	ＳＥ２　下段井戸桶	部材2-5	サワラ	戦国時代	板目
30	ＳＥ２　下段井戸桶	部材2-6	サワラ	戦国時代	板目
31	ＳＥ２　下段井戸桶	部材2-7	サワラ	戦国時代	板目
32	ＳＥ２　下段井戸桶	部材2-8	サワラ	戦国時代	板目から斜め
33	ＳＥ２　下段井戸桶	部材2-9	サワラ	戦国時代	板目
34	ＳＥ２　下段井戸桶	部材2-10	サワラ	戦国時代	板目
35	ＳＥ２　下段井戸桶	部材2-11	サワラ	戦国時代	板目
36	ＳＥ２　下段井戸桶	部材2-12	サワラ	戦国時代	板目
37	ＳＥ２　下段井戸桶	部材2-13	サワラ	戦国時代	板目
38	ＳＥ２　下段井戸桶	部材2-14	サワラ	戦国時代	板目
39	ＳＥ２　下段井戸桶	部材2-15	サワラ	戦国時代	板目
40	ＳＥ２　下段井戸桶	部材2-16	サワラ	戦国時代	板目　角材
41	ＳＥ２　下段井戸桶	部材2-17	サワラ	戦国時代	板目
42	ＳＥ２　下段井戸桶	部材2-18	サワラ	戦国時代	板目
43	ＳＥ２　下段井戸桶	部材2-19	サワラ	戦国時代	板目
44	ＳＥ２　下段井戸桶	部材2-20	サワラ	戦国時代	板目
45	ＳＥ２　下段井戸桶	部材2-21	サワラ	戦国時代	板目
46	ＳＥ２	楔	サワラ	戦国時代	
47	ＳＥ３	材	ヒノキ属	戦国時代	
48	Ａ８区Ｐ372	P372	ヒノキ属	戦国時代	
49	Ａ８区Ｐ373	P373	ヒノキ属	戦国時代	

第30表　出土木製品の樹種同定結果

第２節　花粉化石群集

新山雅広（パレオ・ラボ）

(1) 平成11年度調査の花粉化石群集について

１．はじめに

鷺山仙道遺跡は岐阜市下土居に所在する。ここでは、検出されたSE１の埋土、掘り方埋土（戦国時代）およびSD１の下位にある地山の堆積物（古墳時代以前）を用いて古植生の推定を試みた。

２．試料

花粉化石群集の検討は、合計５試料について行った。各試料は、以下の通りである

試料１　：SE１埋土より採取された。SE１埋土は深度3.0m程度であり、そのおよそ中部の深度約1.5mの地点で採取された。試料はオリーブ黒色～灰色粘土である。

試料２　：SE１埋土の最下層である桶枠内埋土より採取された。試料は灰色砂で粘土分を少し含む。

試料３　：SE１の掘り方埋土（深度約1.5m地点）より採取された。試料は灰色粘土である。

試料４　：SD１の下位に堆積する30層より採取された（第17図参照）。試料はオリーブ黒色～灰色砂質粘土で植物遺体を多く含む。

試料５　：SD１の下位に堆積する32層より採取された（第17図参照）。32層中には大型の木材遺体が含まれており、その周囲の粘土を採取した。試料は灰色粘土である。

３．方法

花粉化石の抽出は、試料約３～５ｇを10％水酸化カリウム処理（湯煎約15分）による粒子分離、傾斜法による粗粒砂除去、フッ化水素酸処理（約30分）による珪酸塩鉱物などの溶解、アセトリシス処理（氷酢酸による脱水、濃硫酸１に対して無水酢酸９の混液で湯煎約５分）の順に物理・化学的処理を施すことにより行った。なお、フッ化水素酸処理後、重液分離（臭化亜鉛を比重2.1に調整）による有機物の濃集を行った。プレパラート作成は、残渣を蒸留水で適量に希釈し、十分に攪拌した後マイクロピペットで取り、グリセリンで封入した。検鏡は、１ないし２枚のプレパラート全面を走査し、その間に出現した全ての種類について同定･計数した。その計数結果をもとにして、各分類群の出現率を樹木花粉は樹木花粉総数を基数とし、草本花粉およびシダ植物胞子は花粉･胞子総数を基数として百分率で算出した。ただし、クワ科は樹木と草本のいずれをも含む分類群であるが、区別が困難なため、ここでは便宜的に草本花粉に含めた。なお、複数の分類群をハイフンで結んだものは分類群間の区別が困難なものである。

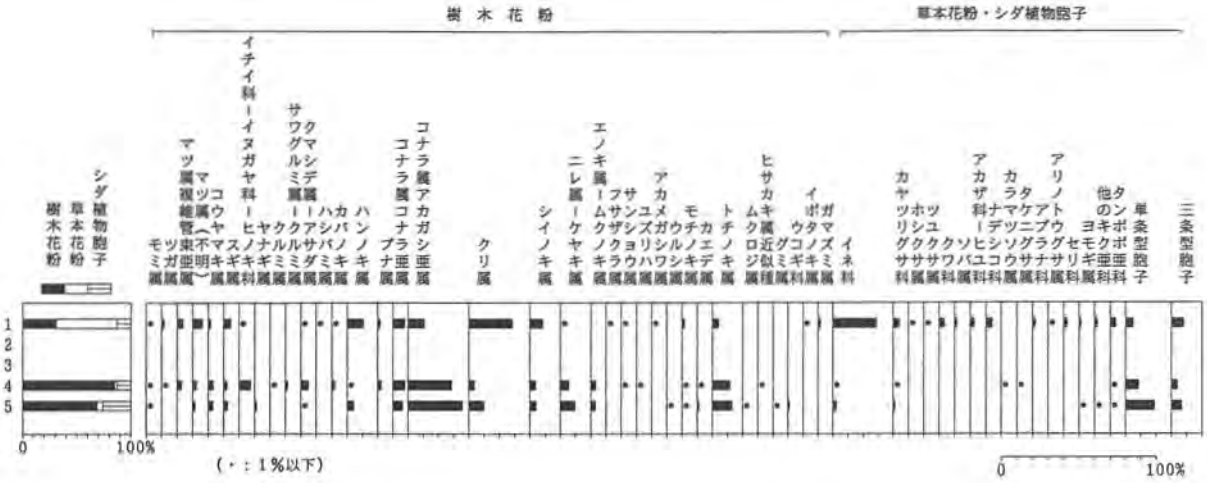
４．花粉化石群集の記載（第76、77図、第31、32表、図版27）

同定された分類群数は、樹木花粉35、草本花粉16、形態分類で示したシダ植物胞子２である。以下に、各試料の花粉化石群集の記載をする。

試料１：花粉化石の保存状態はあまり良好ではなく、非常に悪いものも多くみられた。樹木花粉の産出個数はやや少なく、樹木花粉の占める割合は約31％である。クリ属が約28％で最優占し、マツ属複維管束亜属（約４％、マツ属（不明）を含めると約10％）、ハンノキ属（約11％）、コナラ亜属（約８％）、アカガシ亜属（約11％）、シイノキ属（約８％）が比較的高率である。一方、草本花粉では、イネ科が約29％で最優占し、カヤツリグサ科、クワ科、アカザ科ーヒユ科、ナデシコ科、アブラナ科、セリ科、タンポポ亜科などが約２～４％で比較的目立つ。その他、ツユクサ属、ソバ属などが低率で出現する。

和名	学名	1	2	3	4	5
樹木						
モミ属	*Abies*	1	-	-	2	1
ツガ属	,*Tsuga*	2	-	1	1	-
マツ属複維管束亜属	*Pinus* subgen. *Diploxylon*	5	-	-	6	-
マツ属（不明）	*Pinus* (Unknown)	8	-	-	5	3
コウヤマキ属	*Sciadopitys*	2	-	-	7	6
スギ属	*Cryptomeria*	6	-	-	5	5
イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科	T.- C.	1	-	-	16	-
ヤナギ属	*Salix*	-	-	-	-	2
クルミ属	*Juglans*	-	-	-	2	-
サワグルミ属－クルミ属	*Pterocarya-Juglans*	-	-	-	3	-
クマシデ属－アサダ属	*Carpinus - Ostrya*	1	-	-	11	1
ハシバミ属	*Corylus*	1	-	-	-	-
カバノキ属	*Betula*	1	-	-	4	-
ハンノキ属	*Alnus*	14	-	-	2	8
ブナ属	*Fagus*	2	-	-	5	-
コナラ属コナラ亜属	*Quercus* subgen. *Lepidobalanus*	10	-	-	17	12
コナラ属アカガシ亜属	*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*	14	-	-	61	69
クリ属	*Castanea*	37	-	-	8	19
シイノキ属	*Castanopsis*	11	-	-	8	8
ニレ属－ケヤキ属	*Ulmus - Zelkova*	1	-	-	12	19
エノキ属－ムクノキ属	*Celtis-Aphananthe*	-	-	-	7	6
フサザクラ属	*Euptelea*	1	-	-	-	-
サンショウ属	*Zanthoxylum*	1	-	-	1	-
ユズリハ属	*Daphniphyllum*	-	-	-	1	-
アカメガシワ属	*Mallotus*	1	-	-	-	-
ウルシ属	*Rhus*	-	-	-	-	1
モチノキ属	*Ilex*	2	-	-	1	1
カエデ属	*Acer*	-	-	-	2	2
トチノキ属	*Aesculus*	5	-	-	25	25
ムクロジ属	*Sapindus*	-	-	-	-	1
ヒサカキ属近似種	cf. *Eurya*	-	-	-	1	-
グミ属	*Elaeagnus*	-	-	-	-	1
ウコギ科	Araliaceae	-	-	-	-	2
イボタノキ属	*Ligustrum*	1	-	-	-	-
ガマズミ属	*Viburnum*	2	-	-	-	-
草本						
イネ科	Gramineae	121	3	-	2	7
カヤツリグサ科	Cyperaceae	16	-	-	1	3
ホシクサ属	*Eriocaulon*	1	-	-	-	-
ツユクサ属	*Commelina*	2	-	-	-	-
クワ科	Moraceae	15	-	-	-	-
ソバ属	*Fagopyrum*	6	-	-	-	-
アカザ科－ヒユ科	Chenopodiaceae - Amaranthaceae	10	-	-	-	-
ナデシコ科	Caryophyllaceae	17	-	-	-	-
カラマツソウ属	*Thalictrum*	-	-	-	1	-
タケニグサ属	*Macleaya*	-	-	-	1	-
アブラナ科	Cruciferae	8	-	-	-	-
アリノトウグサ属	*Haloragis*	3	-	-	-	-
セリ科	Umbelliferae	10	-	-	-	-
ヨモギ属	*Artemisia*	5	-	-	-	2
他のキク亜科	other Tubuliflorae	7	-	-	-	2
タンポポ亜科	Liguliflorae	14	-	-	1	1
シダ植物						
単条型胞子	Monolete spore	21	1	-	22	53
三条型胞子	Trilete spore	34	1	1	10	19
樹木花粉	Arboreal pollen	130	0	1	213	192
草本花粉	Nonarboreal pollen	235	3	0	6	15
シダ植物胞子	Spores	55	2	1	32	72
花粉・胞子総数	Total Pollen & Spores	420	5	2	251	279
不明花粉	Unknown pollen	27	1	2	21	10

第31表　花粉化石一覧表
(1:SE1埋土(深度約1.5m),2:SE1埋土(最下層),3:SE1掘り方埋土,4:30層,5:32層)

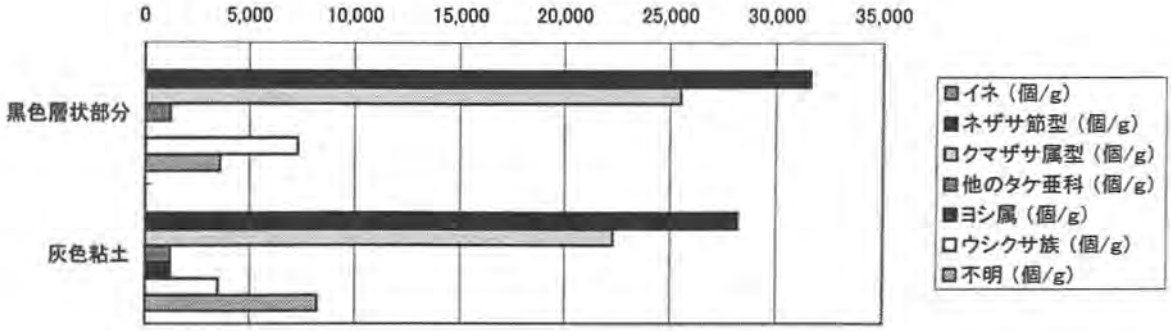


(樹木花粉は樹木花粉総数，草本花粉・胞子は総花粉・胞子数を基数として百分率で算出した)

第76図　花粉化石分布図

試料番号	イネ (個/g)	ネザサ節型 (個/g)	クマザサ属型 (個/g)	他のタケ亜科 (個/g)	ヨシ属 (個/g)	ウシクサ族 (個/g)	不明 (個/g)
黒色層状部分	0	31,600	25,500	1,200	0	7,300	3,600
灰色粘土	0	28,200	22,300	1,200	1,200	3,500	8,200

第32表　試料1g当たりのプラント・オパール個数



第77図　プラント・オパール分布図

試料２：十分な花粉化石が産出せず、花粉化石分布図として示すことはできなかった。樹木花粉は全く産出せず、草本花粉もイネ科のみが僅かに産出した。

試料３：十分な花粉化石が産出せず、花粉化石分布図として示すことはできなかった。樹木花粉はツガ属のみが僅かに産出し、草本花粉は全く産出しなかった。

試料４：樹木花粉の占める割合は約85％と高率である。その中で、アカガシ亜属が約29％で最優占し、次いでトチノキ属（約12％）、コナラ亜属（約８％）、イチイ科ーイヌガヤ科ーヒノキ科（約８％）、ニレ属ーケヤキ属（約６％）の順に出現する。その他、マツ属複維管束亜属、コウヤマキ属、クリ属、シイノキ属、エノキ属ームクノキ属がやや目立ち、ユズリハ属、モチノキ属、ヒサカキ属近似種などが低率で出現する。一方、草本花粉は、分類群数が非常に少なく、イネ科、カヤツリグサ科、カラマツソウ属、タケニグサ属、タンポポ亜科が僅かに出現した。

試料５：樹木花粉の占める割合は約69％である。その中で、アカガシ亜属が約36％で最優占し、次いでトチノキ属（約13％）、クリ属とニレ属ーケヤキ属（約10％）、コナラ亜属（約８％）の順に出現する。その他、コウヤマキ属、スギ属、ハンノキ属、シイノキ属、エノキ属ームクノキ属がやや目立ち、モチノキ属、カエデ属、ムクロジ属、グミ属、ウコギ科などが低率で出現する。一方、草本花粉は、分類群数が非常に少なく、イネ科、カヤツリグサ科、ヨモギ属、他のキク亜科、タンポポ亜科が僅かに出現した。シダ植物胞子は約26％と比較的高率である。

５．考察

１）古墳時代以前の古植生

試料４と試料５の花粉組成は概ね類似しており、アカガシ亜属が最優占する。従って、遺跡周辺には、アカガシ亜属を主体にシイノキ属、ユズリハ属、ヒサカキ属近似種などをまじえた照葉樹林が優勢であったことが予想される。また、落葉広葉樹のコナラ亜属、クリ属、ニレ属ーケヤキ属、トチノキ属、針葉樹のイチイ科ーイヌガヤ科ーヒノキ科なども主要な構成要素であり、トチノキ属は丘陵斜面部などに多く生育していたのであろう。樹木花粉の占める割合が高く、草本類は僅かしか出現しないことから、付近には人の影響のあるような開けた空間は、あまり存在していなっかったと思われる。

２）戦国時代の古植生

ここでは、試料１の花粉組成から遺跡周辺の古植生の推定を試みる。

遺跡周辺には、落葉広葉樹のクリ属、ハンノキ属、コナラ亜属、常緑広葉樹のアカガシ亜属、シイノキ属、針葉樹のマツ属複維管束亜属が主要な構成要素となる森林が成立していたのであろう。鎌倉時代より前に優勢であった照葉樹林は、林分を縮小したことが予想される。なお、クリ属はやや突出した出現をしたが、虫媒花であることから、比較的付近に生育していたことが予想され、付近に生育していたものが過大評価されている可能性も考えられる。一方、草本類は、イネ科を主体に、カヤツリグサ科、クワ科、アカザ科ーヒユ科、ナデシコ科、アブラナ科、セリ科、タンポポ亜科、ツユクサ属などが生育していたことが予想され、セリ科、ツユクサ属などは幾分湿った場所に生育していたであろう。また、ソバ属花粉が出現しており、付近でソバ栽培が行われていた可能性が考えられる。

なお、試料２と試料３は、十分な花粉化石が産出しなかった。試料２は、最下層の桶枠内埋土であるが、粘土分を含むものの砂が卓越していることが花粉化石が産出しない理由の１つと考えられる。上位の埋土である試料１では、花粉化石が保存されてはいたが、産出個数がやや少なく、保存状態もあまり良好ではなかった。花粉化石は水成堆積物である場合には良好に保存されるが、以上のような状況から、SE１埋土は水成堆積物ではあるが、安定した水成環境で堆積したのではない可能性が考えられる。一方、試料３は掘り方埋土であるが、粘土であるにも関わらず、花粉化石が保存されていないことから、水成堆積物ではないと考えられる。

(2) 平成12年度調査の花粉化石群集について

1．試料と方法

花粉化石群集の検討は、井戸（SE 2 、SE 3 ）遺構の埋土より採取された 2 試料について行った。SE 2 は、戦国時代の遺構で試料は灰色砂質粘土（南半中央 2 段目項部より約0.4m）である。SE 3（A 8 区東）は、同時期の遺構で試料は灰色砂質粘土（検出面より1.1m下）である。

花粉化石の抽出は、試料約 3 ～ 4 gを10%水酸化カリウム処理（湯煎約15分）による粒子分離、傾斜法による粗粒砂除去、フッ化水素酸処理（約30分）による珪酸塩鉱物などの溶解、アセトリシス処理（氷酢酸による脱水、濃硫酸 1 に対して無水酢酸 9 の混液で湯煎約 5 分）の順に物理・化学的処理を施すことにより行った。なお、フッ化水素酸処理後、重液分離（臭化亜鉛を比重2.1に調整）による有機物の濃集を行った。プレパラート作成は、残渣を蒸留水で適量に希釈し、十分に攪拌した後マイクロピペットで取り、グリセリンで封入した。検鏡は、プレパラート全面を走査し、その間に出現した全ての種類について同定･計数した。なお、複数の分類群をハイフンで結んだものは分類群間の区別が困難なものである。

和名	学名	SE2	SE3
樹木			
マツ属複維管束亜属	*Pinus* subgen. *Diploxylon*	-	2
スギ属	*Cryptomeria*	-	1
ヤマモモ属	*Myrica*	-	1
クマシデ属ーアサダ属	*Carpinus - Ostrya*	-	2
ハンノキ属	*Alnus*	-	1
ブナ属	*Fagus*	-	1
コナラ属コナラ亜属	*Quercus* subgen. *Lepidobalanus*	-	1
コナラ属アカガシ亜属	*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*	-	1
草本			
イネ科	Gramineae	2	3
アカザ科ーヒユ科	Chenopodiaceae - Amaranthaceae	-	1
他のキク亜科	other Tubuliflorae	-	1
タンポポ亜科	Liguliflorae	-	1
シダ植物			
三条型胞子	Trilete spore	-	1
樹木花粉	Arboreal pollen	0	10
草本花粉	Nonarboreal pollen	2	6
シダ植物胞子	Spores	0	1
花粉・胞子総数	Total Pollen & Spores	2	17
不明花粉	Unknown pollen	2	8

第33表　花粉化石一覧表

2．結果および若干の考察（図版28）

いずれの試料も十分な花粉化石が産出せず、花粉化石分布図として示すことができなかった。SE 2 は、同定された分類群はイネ科 2 個体のみである。SE 3 は、同定された分類群数は樹木花粉 8 、草本花粉 4 、形態分類で示したシダ植物胞子 1 である。樹木花粉では、針葉樹のマツ属複維管束亜属、スギ属、常緑広葉樹のヤマモモ属、アカガシ亜属、落葉広葉樹のクマシデ属ーアサダ属、ハンノキ属、ブナ属、コナラ亜属が産出した。草本花粉では、イネ科、アカザ科ーヒユ科、他のキク亜科、タンポポ亜科が産出した。試料は、井戸の埋土（粘質土）で、水付き堆積物と予想した試料である。花粉化石は、水成堆積物である場合には良好に保存されるが、花粉化石が殆ど産出しないことから、試料とした堆積物は水成環境で安定して堆積したものとは考え難い。従って、SE 2 、SE 3 は常時滞水した環境ではなかったことが予想される。なお、十分な花粉化石が産出しなかったため、周辺植生について推定することはできなかった。

第３節　Ａ１区東Ⅰ層出土山茶碗内残留物のFT-IR分析

藤根　久（パレオ・ラボ）

１．試料と方法

鷲山仙道遺跡の調査では、残留物（淡黄色）の入った山茶碗（13世紀）が出土した。ここでは、この残留物のフーリエ変換型赤外分光光度計により調べた。

試料は、山茶碗底部に接触している部分から一部（約１㎜角片）を取り出した後、臭化カリウム（KBr）結晶板に挟んで、約７トンで加圧して測定用錠剤を作成した（KBr錠剤法）。

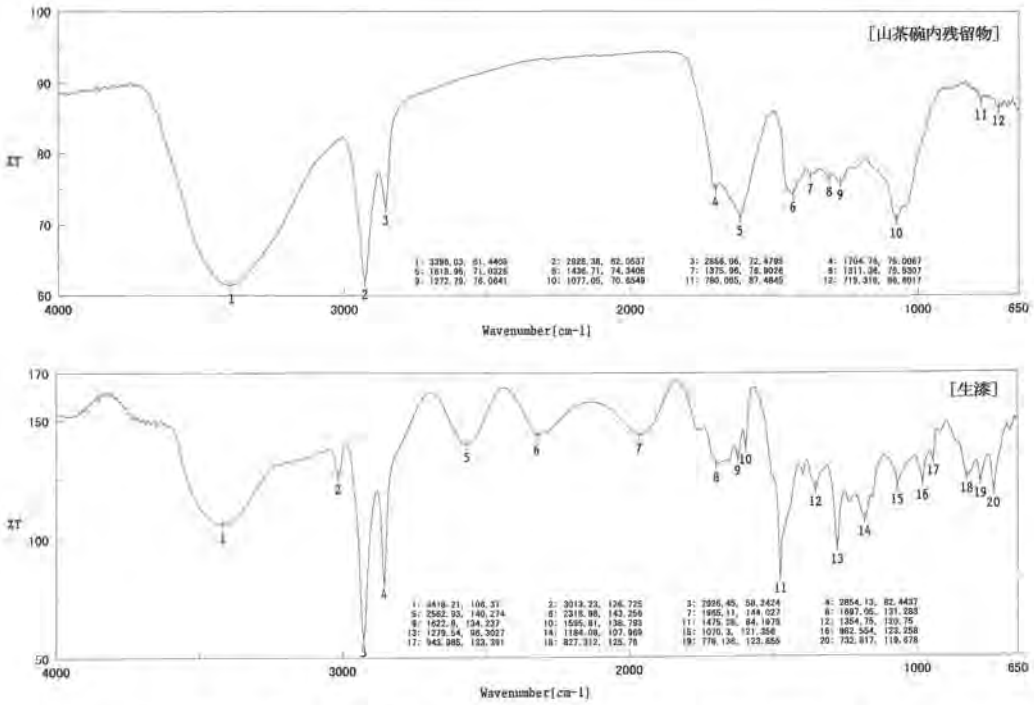
作成したKBr錠剤は、フーリエ変換型赤外分光光度計（FT-IR；日本分光㈱製FT/IR-410、IRT-30-16）を用いて透過法により赤外線吸収スペクトルを測定し、生漆の赤外線吸収測定スペクトルと比較して、残留物の同定を行った。

２．結果および考察

第78図に、山茶碗内残留物と生漆の赤外線吸収スペクトル図を示す。なお、縦軸は透過率（%T）、横軸が波数（Wavenumber;cm-1、カイザー）である。2400～3600cm-1のブロードな吸収は、カルボン酸に特徴的な吸収である。2926および2854cm-1の2本の吸収は、パラフィン炭化水素の吸収である。さらに、700～1600cm-1の複数の吸収は芳香族に見られる吸収である。

生漆の赤外吸収スペクトルでは複数の吸収が見られるが、このうち漆としては2926（生漆の№３）、2854（同№４）、1623（同№９）、1475（同№11）、1279（同№13）、1070（同№15）、827（同№18）、778（同№19）cm-1などが特徴的な吸収である。

残留物では、2400～3600cm-1（山茶碗残留物の№１）のブロードな吸収や2928（同№２）、2854（同№3）、1077（同№10）、780（同№11）cm-1など共通の吸収が複数見られた。こうしたことから、漆のスペクトルと完全に一致はしないが、遺跡試料であるため同じスペクトルは得られないが、漆の可能性は考えられる。



第78図　生漆および山茶碗内残留物のFT－IRスペクトル図

第４節　SK１・SK14埋土の寄生虫卵分析

鈴木　茂（パレオ・ラボ）

鷺山仙道遺跡で行われた発掘調査において、その形状からトイレ遺構と推測される土坑が検出された。ここでは、土坑より採取した土壌について行った寄生虫卵分析の結果・考察を以下に示し、検出土坑におけるトイレの可能性について検討した。

１．試料と分析方法

試料はSK１とSK14の埋積土で、このうちSK１はにぶい黄色～黄褐色の砂質シルトである。またSK14は暗灰黄色のシルト質粘土～砂質粘土である。これら２試料について以下の手順にしたがって寄生虫卵分析を試みた。

体積を測定した試料を遠沈管にとり、10％の水酸化カリウム溶液を加え20分間湯煎する。水洗後、0.5㎜目の篩にて植物遺体などを取り除き、傾斜法を用いて粗粒砂分を除去する。次に46％のフッ化水素酸溶液を加え20分間放置する。水洗後、比重分離（比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離）を行い、浮遊物を回収し、水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続けてアセトリシス処理（無水酢酸９：１濃硫酸の割合の混酸を加え３分間湯煎）を行う。この残渣に適容量のグリセリンを加え保存用とし、全容量を測定する。検鏡はこの残渣よりプレパラートを作成し（使用量測定）、全面に渡り検鏡した。なお糞便の混入については体積当りの寄生虫卵個数で判断されているが、SK１については体積の測定が難しい状況であったことから今回については測定を行っていない。

２．分析結果および考察

観察の結果、２試料とも１個体の寄生虫卵も検出されなかった。プレパラートの状況を図版28に示したが、少なめであるがイネ科花粉やソバ属、ベニバナ属などの花粉化石は認められるものの寄生虫卵は得られなかった。よってSK１およびSK14の埋積土には糞便の混入は無いと判断され、遺構がトイレである可能性は低いと推察される。

なお花粉化石はほかにスギやマツ属複維管束亜属、ハンノキ属などの樹木類、カヤツリグサ科、アカザ科ーヒユ科、アブラナ科、ヨモギ属などの草本類が観察されている。またSK14ではイネの機動細胞珪酸体も認められている（図版28）。

第５節　SX11盛土の蛍光X線分析

小村美代子（パレオ・ラボ）

１．はじめに

鷺山仙道遺跡から、固く絞まった土間状堆積層を伴う遺構が検出された。この遺構の性格は不明である。こうした土間状堆積物は、固めるのに「にがり」や「石灰」が使用されたのではないかと予想される。ここでは、２箇所の土間状堆積物について蛍光X線分析を行い、比較・検討をした。

２．試料と方法

試料は、東側と西側２箇所の土間状堆積層からそれぞれ採取した土壌９点、風化した礫１点、計10点である（第34表）。なお、東側と西側は約２m離れている。色の記載に関しては「新版　標準土色帖」に従った。

東側の土間状堆積層の試料を上位から1-1、1-2、1-3、1-4、1-5とした。西側の土間状堆積層の試料も同様に、上位から2-1、2-2、2-3、2-4、2-5とした。なお、1-1と2-1は遺構上位層で遺構とは関係がない。1-5と2-5は基盤層である。

試料は、約２g程度取り出し、植物の根や２㎜以上の小石を取り除いて乾燥させた後、セラミック乳鉢（成分Al_2O_3：93.4%、SiO_2：5%）で粉砕し粉末化した。これらの試料を電気炉で750度、6時間焼成し、試料中に含まれる有機物を取り除いた。この粉末を内径20㎜、厚さ５㎜の塩化ビニール製リングに詰め、500kgf/㎠の圧力をかけてプリケットを作成した。

測定は、波長分散型蛍光X線分析装置（㈱リガク製System3080）を使用し、データ処理システムDATAFLEX－152（検量線法）を用いて定量分析を行った。測定元素は、主成分元素（Na_2O、MgO、Al_2O_3、SiO_2、P_2O_5、K_2O、CaO、TiO_2、MnO、Fe_2O_3）と微量元素（Rb、Sr、Y、Zr、S）である。

３．分析結果

分析結果を第35表に示す。試料を主に構成する元素は、平均してSiO_2が約72%、Al_2O_3が約15%、Fe_2O_3が約４%、K_2Oが約３%となっている。遺構上位層である1-1、2-1は他試料よりCaOが0.83%と高い分析値を示す。2-2のみ試料が礫なので各元素の分析値が他の試料とは大きく異なっている。基盤層である1-5、2-5は全体的に各元素の分析値が上位層の試料と異なり、土壌の質が異なることを示す。

４．考察

この遺構の堆積構造は粘土やシルトあるいは礫混じり砂質土で埋められていることから、土間状構造と予想されている。

こうした土間状遺構では構築する際、固めるために「にがり」を加えることが予想される。「にがり」は豆腐を作る際、豆乳に加えて固める凝固剤である。にがりは一般的に海水を濃縮して食塩を作る時の副産物として得られるもので、「塩化マグネシウム（MgCl）」を主成分としている。この「塩化マグネシウム（MgCl）」中のマグネシウム（Mg）に注目して、試料の分析結果を見ると、基盤層である1-5、2-5のMgO約1.9%より高い分析値を示す試料はない。

また、同様に「石灰」で固めることも予想される。石灰の原料は「石灰岩（$CaCO_3$）」であり、動物の殻や骨格などが水底に堆積して生ずる岩石である。この「石灰岩（$CaCO_3$）」中のカルシウム（Ca）に注目して、試料の分析結果を見ると、基盤層である1-5、2-5のCaO約0.67%より際立って高い分析値を示す固結層の試料（1-2～1-4、2-2～2-4）はない。

よって今回の分析結果から、「にがり」、「石灰」の使用の可能性は低いと思われ、これら固結層は礫混じり砂質土を押し固めた堆積物と考える。各元素の分析値で約１%以上の分析値の違いがあるの

は、SiO_2とAl_2O_3のみであった。他の堆積物と土の質感が異なるのは、このSiO_2とAl_2O_3の含有量の差によるものと考えられる。SiO_2とAl_2O_3は、土壌の大部分を構成する成分である。また、粘土の質もこのSiO_2とAl_2O_3の割合に大きく左右される。一般的にAl_2O_3が多いほど粘土質であり、SiO_2が多いほど砂質である。1-5、2-5の試料はAl_2O_3が他試料よりも高く、また、肉眼で観察しても粘土分が多いことが確認できる。

引用文献
小山正忠・竹原秀雄編　農林水産省農林水産技術会議事務局監修　1992　『新版　標準土色帖』　日本色研事業株式会社発行

番号	地点	層位	試料	色相　明度/彩度	色
1-1	東側	遺構上位層	粘土質シルト	2.5Y 7/2	灰黄
1-2	東側	固結層	粘土質シルト	2.5Y 5/3	黄褐
1-3	東側	固結層	砂質シルト	2.5Y 6/3	にぶい黄
1-4	東側	固結層	粘土質シルト	2.5Y 7/2	灰黄
1-5	東側	基盤層	シルト質粘土	2.5Y 5/3	黄褐
2-1	西側	遺構上位層	粘土質シルト	2.5Y 5/2	暗灰黄
2-2	西側	固結層	風化した礫	2.5Y 7/4	浅黄
2-3	西側	固結層	シルト質粘土	2.5Y 7/3	浅黄
2-4	西側	固結層	シルト質粘土	2.5Y 5/4	黄褐
2-5	西側	基盤層	シルト質粘土	2.5Y 4/3	オリーブ褐

第34表　試料の特徴

番号	Na_2O	MgO	Al_2O_3	SiO_2	P_2O_5	K_2O	CaO	TiO_2	MnO	Fe_2O_3	TOTAL	Rb	Sr	Y	Zr	S
1-1	1.55	1.605	15.30	71.04	0.201	3.16	0.83	0.75	0.09	4.92	99.46	121.4	149.7	32.6	182.0	110.9
1-2	1.50	1.493	15.48	73.15	0.155	3.06	0.66	0.70	0.06	4.27	100.52	118.6	131.1	34.5	177.1	86.6
1-3	1.73	1.168	10.85	78.82	0.078	2.58	0.65	0.51	0.05	3.07	99.51	95.3	136.1	23.9	173.4	27.9
1-4	1.83	1.363	13.82	75.34	0.099	2.85	0.71	0.66	0.06	3.27	100.00	110.2	155.4	28.7	190.4	54.6
1-5	1.35	1.911	17.66	68.60	0.172	3.26	0.68	0.83	0.10	5.07	99.63	131.0	131.6	37.9	172.6	124.0
2-1	1.65	1.648	16.08	71.40	0.175	3.19	0.83	0.74	0.08	4.35	100.13	120.6	157.0	34.1	188.6	107.9
2-2	3.03	0.801	14.74	75.35	0.055	3.41	0.36	0.43	0.04	2.42	100.62	108.8	259.0	22.2	182.8	15.4
2-3	1.59	1.521	15.24	74.21	0.113	3.01	0.66	0.69	0.07	3.79	100.90	115.6	138.6	32.4	178.8	63.3
2-4	1.49	1.704	16.39	70.83	0.136	3.12	0.65	0.77	0.06	4.63	99.78	125.3	135.2	35.2	180.3	97.9
2-5	1.37	1.900	17.68	68.42	0.156	3.24	0.66	0.83	0.10	4.84	99.20	131.7	129.9	38.5	168.5	127.3
平均値	1.71	1.511	15.32	72.72	0.134	3.09	0.67	0.69	0.07	4.06	—	117.9	152.4	32.0	179.5	81.6

（化学組成）［主成分元素］Na_2O：酸化ナトリウム、MgO：酸化マグネシウム、Al_2O_3：酸化アルミニウム、SiO_2：酸化ケイ素、P_2O_5：酸化リン、K_2O：酸化カリウム、CaO：酸化カルシウム、TiO_2：酸化チタン、MnO：酸化マンガン、Fe_2O_3：酸化鉄
［微量元素］ Rb:ルビジウム、Sr:ストロンチウム、Y:イットリウム、Zr:ジルコニウム、S:硫黄

第35表　SX11固結層土壌等分析結果の主成分元素（単位：%）と微量元素（単位：ppm）

第６節　赤色漆質物の成分および化学組成

藤根　久（パレオ・ラボ）

１．試料と方法

試料は、SX11およびSK14から出土した赤色の漆質物である（図版29－1、2）。これら漆質物の周辺には、黒色木質様物を伴うことから、木胎を伴う赤色漆と考えられる。

ここでは、顕微による赤外分光分析により漆の確認を行い、蛍光X線分析により赤色部の化学組成を検討した。

赤外分光分析は、いずれも試料の一部からカッターなどを用いて約１㎜角片を取り出し、臭化カリウム（KBr）結晶板に挟んで、約７トンで加圧して測定用錠剤を作成した（KBr錠剤法）。分析は、フーリエ変換型顕微赤外分光光度計（日本分光㈱製FT/IR-410、IRT-30-16）を用いて透過法により赤外線吸収スペクトルを測定した。

蛍光X線分析は、赤色部１㎜角片程度を取り出し、両面テープに貼り付けて定性的に調べた。分析は、セイコー電子工業(株)製のエネルギー分散型蛍光X線分析計SEA-2001Lを用いた。X線発生部の管球はロジウム（Rh）ターゲット、ベリリウム（Be）窓、X線検出器はSi（Li）半導体検出器である。測定条件は、測定時間300秒、照射径10㎜角片、電流50および63μm、電圧50KV、試料室内真空である。

２．結果および考察

a．赤外分光分析

第79図に、SX11・SK14から出土した赤色の漆質物と標準試料生漆の赤外線吸収測定スペクトルを示す。生漆は、粘質のある生漆を長期間放置して固体化した試料を測定した。なお、縦軸は透過率(%T)、横軸が波数（cm-1、カイザー）である。

第79図を見ると、両者が複数箇所の吸収位置において一致していることが分かる。3449cm-1前後のブロードな吸収は、カルボン酸に特徴的な吸収である。2926および2852cm-1の２本の吸収は、パラフィン炭化水素の吸収である。さらに、700～1600cm-1の複数の吸収は芳香族に見られる吸収である。

標準試料生漆の赤外吸収スペクトルでは複数の吸収が見られ、3449cm-1前後のブロードな吸収をはじめ、2928、2856、1709、1626、1450、1276、1058cm-1などに生漆に特徴的な吸収が見られる。

一方、検討した漆質物は、3449cm-1前後のブロードな吸収をはじめ複数の吸収において、生漆の吸収位置にほぼ一致していることから、両試料は漆と同定される。

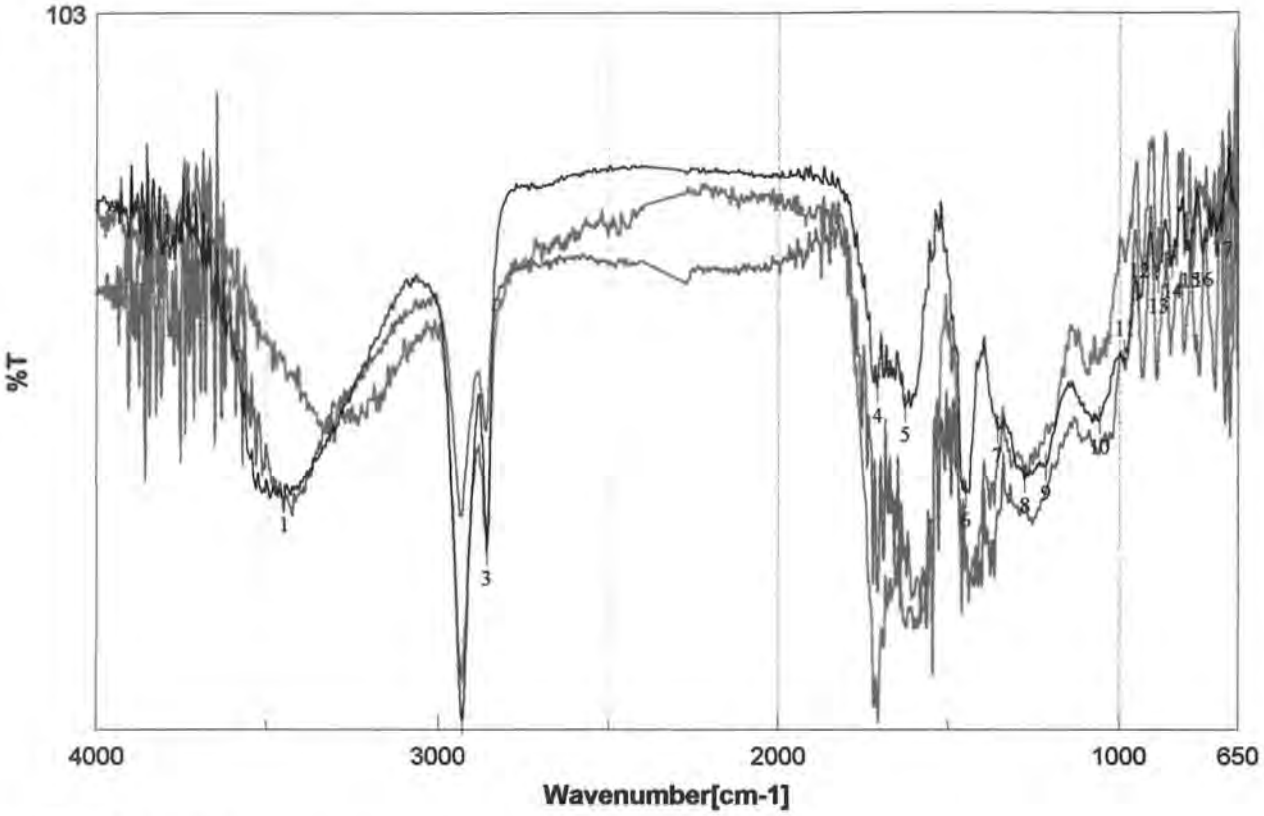
b．蛍光X線分析

第80図に、各試料の蛍光X線スペクトル図を示す。測定の結果、いずれの試料から水銀（Hg）や鉄(Fe）が検出された。ただし、SX11は取り出した試料が少ないため、相対的にピークは低い。

なお、亜鉛（Zn）は、使用した両面テープに含まれる元素である。また、ロジウム（Rh）は、検出器からの元素であり、試料とは関係がない。

その他の元素として、アルミニウム（Al)、ケイ素（Si)、カルシウム（Ca）が検出された。

以上のことから、これら赤色物は、水銀朱を用いた赤色漆である。

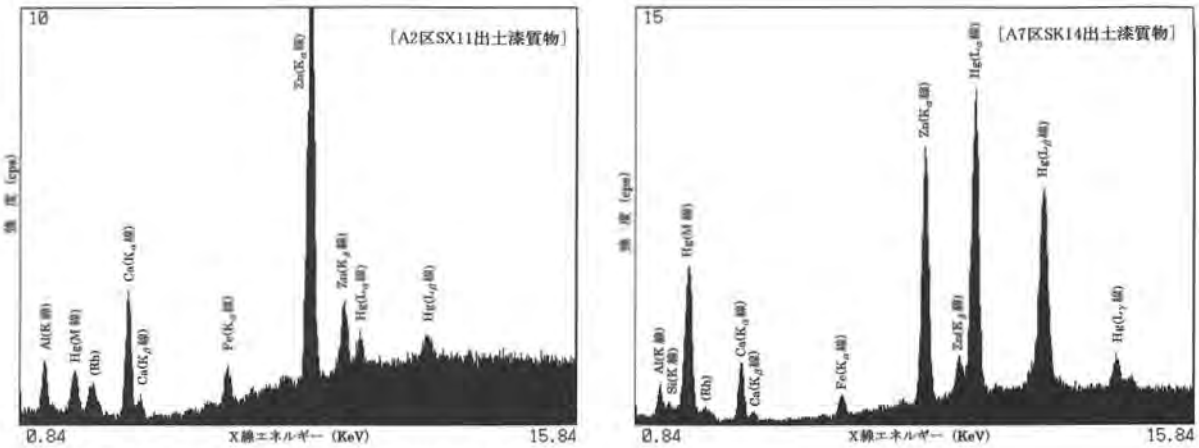


ピーク検出結果

No.	位置	強度	No.	位置	強度
1:	3449.06	93.5368	10:	1057.76	95.0634
2:	2928.38	89.1931	11:	984.48	96.3618
3:	2856.06	92.4929	12:	942.06	97.4739
4:	1709.59	95.6852	13:	887.09	97.8304
5:	1626.66	95.3059	14:	844.67	98.1212
6:	1450.21	93.6168	15:	792.60	98.3351
7:	1355.71	94.8849	16:	755.96	98.3444
8:	1276.65	93.9144	17:	699.07	98.9334
9:	1215.90	94.1453			

a生漆.jws
鷲山仙道SK14.jws
鷲山仙道SX11.jws

第79図　漆質物および標準生漆のFT-IRスペクトル図
縦軸が透過率（%T）、横軸が波数（cm−1、カイザー）



第80図　赤色漆質物の蛍光X線スペクトル図
Al；アルミニウム，Siケイ素，Ca;カルシウム，Fe;鉄，Zn；亜鉛，Hg;水銀，Rh;ロジウム(管球から)

第７節　遺物付着物の成分分析

(1) 常滑甕付着繊維の顕微赤外分光分析

藤根　久（パレオ・ラボ）

１．試料と方法

鷲山仙道遺跡では、戦国時代初頭と推定される常滑焼の甕に布繊維が付着した状態で出土した（図版15、29－3）。ここでは、この布の繊維部について顕微赤外分光分析を行った。

試料は、平織り布の繊維質部（図版29－4、5）である。

赤外分光分析は、取り出した試料をアルコールにより超音波洗浄した後、乾燥した。試料の一部からカッターなどを用いて約１㎜角片を取り出し、臭化カリウム（KBr）結晶板に挟んで、約７トンで加圧して測定用錠剤を作成した（KBr錠剤法）。分析は、フーリエ変換型顕微赤外分光光度計（日本分光㈱製FT/IR-410、IRT-30-16）を用いて透過法により赤外線吸収スペクトルを測定した。

２．結果および考察

第81図上段には、布繊維部のほか標準試料としての生漆の赤外線吸収測定スペクトルを示した。また、下段には、布繊維部のほか標準試料としての真綿、ワタ属、麻の各繊維の赤外線吸収測定スペクトルを示した。なお、縦軸は透過率（%T）、横軸が波数（cm-1、カイザー）である。

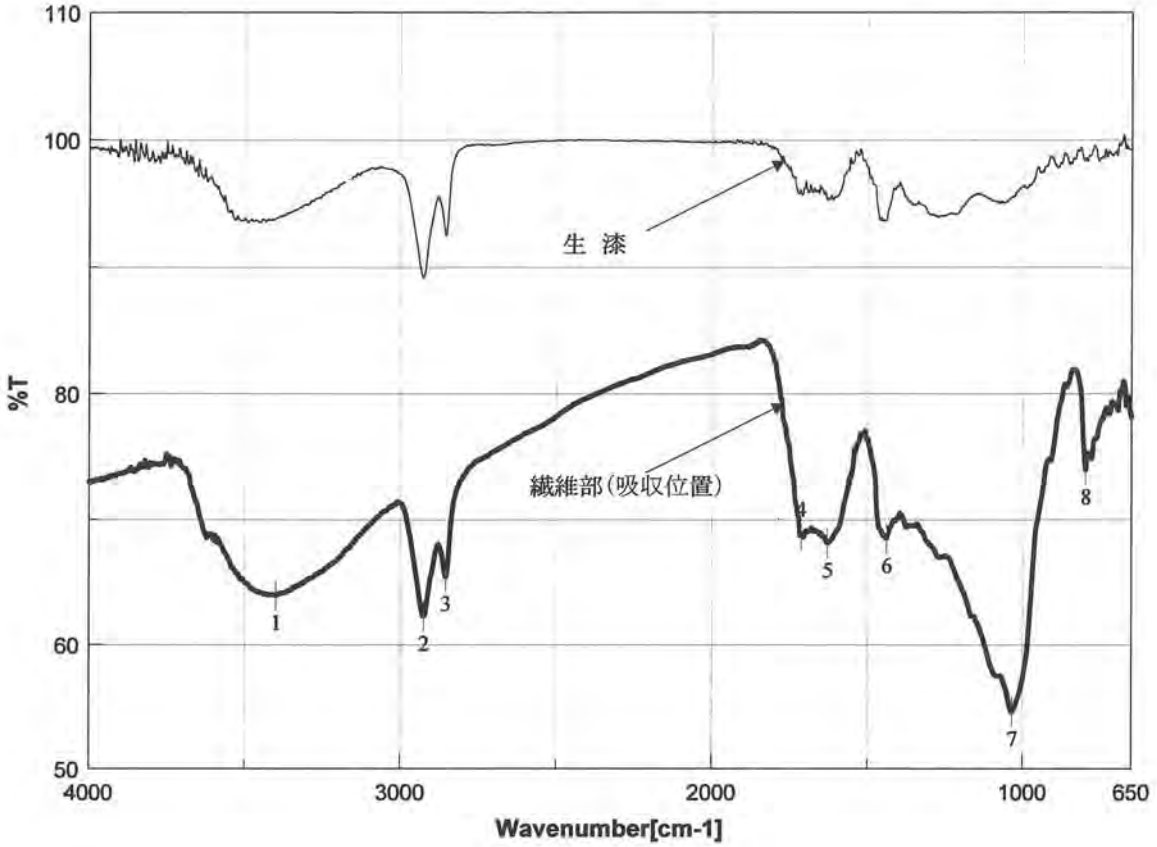
番号で示した布繊維部の吸収スペクトルの波数（cm-1、カイザー）は、以下の通りである。№1；3398、№2；2926、№3；2855、№4；1711、№5；1627、№6；1438、№7；1035、№8；798である。

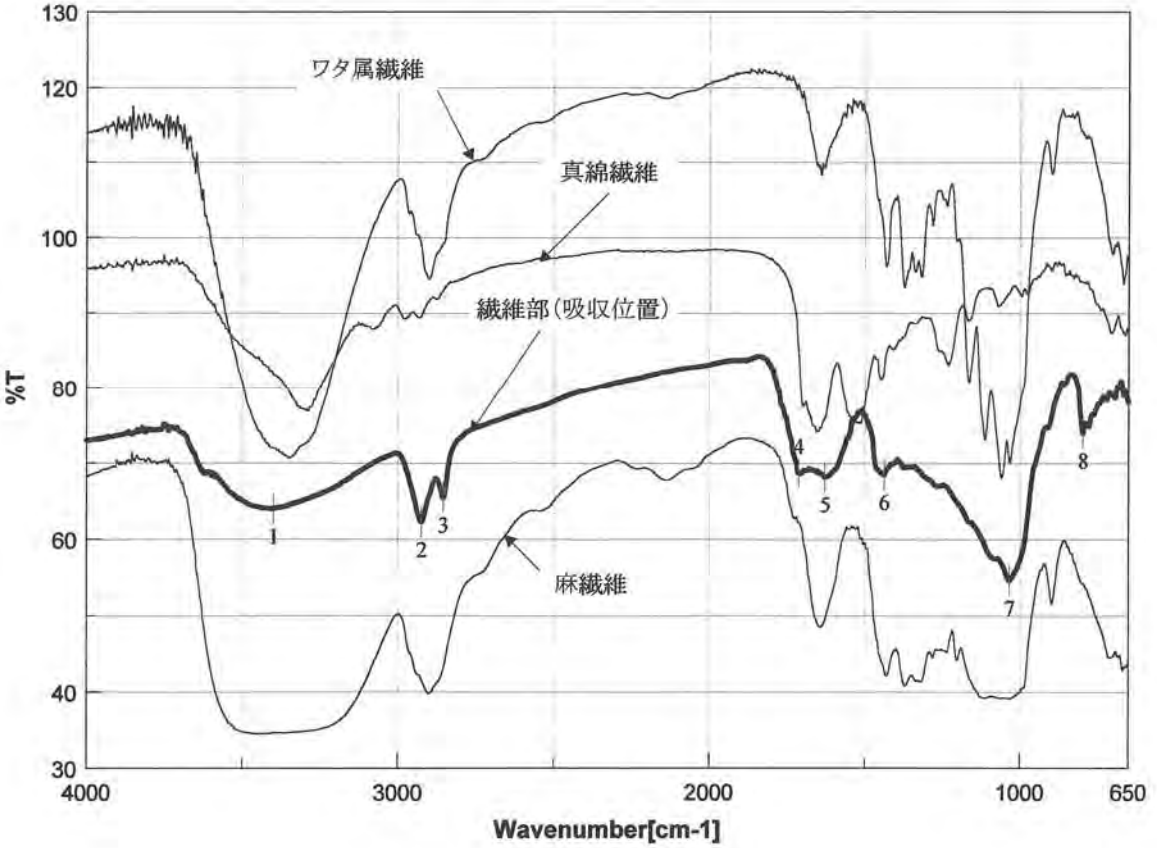
第81図上段を見ると、標準試料としての生漆と、№2から№6、№8などで類似したスペクトルを示している。

一方、下段に示した繊維として真綿、アオイ科ワタ属、麻の各繊維の赤外線吸収スペクトルと比較した場合、主たる吸収ピークでは一致するものは見られなかった。

このように繊維部から生漆により近い成分が検出され、本来の繊維の材質は漆の浸透により明確でないことが分かった。

この繊維は、明らかに撚糸の平織りを施した布状物の一部であるが、保護材として漆質が浸透していたために、こうした部分が比較的良好に残存したものと考えられる。





第81図　繊維部・生漆(上段)および標準繊維試料(下段)のFT−IRスペクトル図
縦軸が透過率(%T)、横軸が波数(cm−1、カイザー)

(2) トリベ・羽口・かわらけ付着金属の成分分析

藤根 久、小村美代子（パレオ・ラボ）

1．試料と方法

試料は、トリベ（A２区P127、図版29－6～8、図版30－9）と鞴の羽口（A２区P127、図版30－10～13）及びかわらけ3点（A２区P176、A２区Ⅳ層、A８区Ⅲ層、図版30－14～16）である。これらの試料の表面には、金属質の付着物が見られたことから、これらの成分を蛍光X線分析により分析した。

いずれの試料も、非破壊で測定するため、測定部分について筆を用いてアルコール洗浄した。

蛍光X線分析は、セイコー電子工業㈱製のエネルギー分散型蛍光X線分析計SEA-2001Lを用いた。X線発生部はロジウム（Rh）管球、ベリリウム（Be）窓、X線検出器はSi（Li）半導体検出器である。測定条件は、測定時間300秒、照射径10㎜、電流4～6μm、電圧50KV、試料室内真空である。

2．結果

[トリベ（A２区P127）；第82図、図版29－6～8、図版30－9]

測定部は、口縁部（測定位置１；赤色付着部）、胴中央部（測定位置２；黒色～暗赤色部）の２ポイントである。

測定結果は、いずれの測定位置からも金属元素として銅（Cu）、鉄（Fe）が顕著に検出された。なお、砒素（As）、鉛（Pb）も低率ながら検出された。その他の元素では、アルミニウム（Al）、カリウム（K）、カルシウム（Ca）、チタン（Ti）、マンガン（Mn）などの胎土成分も検出された。

平面測定でないため定量分析は適当でないが、これら金属元素のピークの出現度合から、このトリベは、銅を主体とした金属を扱ったものと推定される。なお、金属銅の赤色部が多く見られること、また口縁内側や外側には銅の緑青が認められることからも、銅が主体と考える。

このトリベの胎土中には、イネ籾が多量に含まれており、これらイネ籾が混和材的な役割を持っていることが考えられる。なお、このイネ籾を含めた胎土の放射性炭素年代測定（AMS法）では、5,095±35yrBP（δ^{13}補正後の年代値）が得られ、材料の粘土に近い年代値と思われる。

[鞴の羽口（A２区P127）；第83図、図版30－10～13]

測定部は、外側の淡赤色部（測定位置１、２）の２ポイントである。

測定結果は、写真位置２では銅（Cu）は低率であるが、金属元素として鉄（Fe）、銅（Cu）が検出された。その他の元素では、アルミニウム（Al）、カリウム（K）、カルシウム（Ca）、チタン（Ti）、マンガン（Mn）などの胎土成分も検出された。

平面測定でないため定量分析は適当でないが、これら金属元素のピークの出現度合から、この鞴の羽口は、銅を主体とした金属を扱ったものと推定される。

トリベと同様、この羽口の胎土中には、イネ籾が多量に含まれており、これらイネ籾が混和材的な役割を持っていることが考えられる。

[かわらけ３点（A２区P176、A２区Ⅳ層、A８区Ⅲ層）；第84図、図版30－14～16]

測定部は、A２区P176出土かわらけの黒色部（測定位置１）、A２区Ⅳ層出土かわらけの青緑色部（測定位置２）、口縁部暗赤色部（測定位置３）、A８区Ⅲ層出土かわらけの黄色部（測定位置４）の４ポイントである（図版30－14～16）。

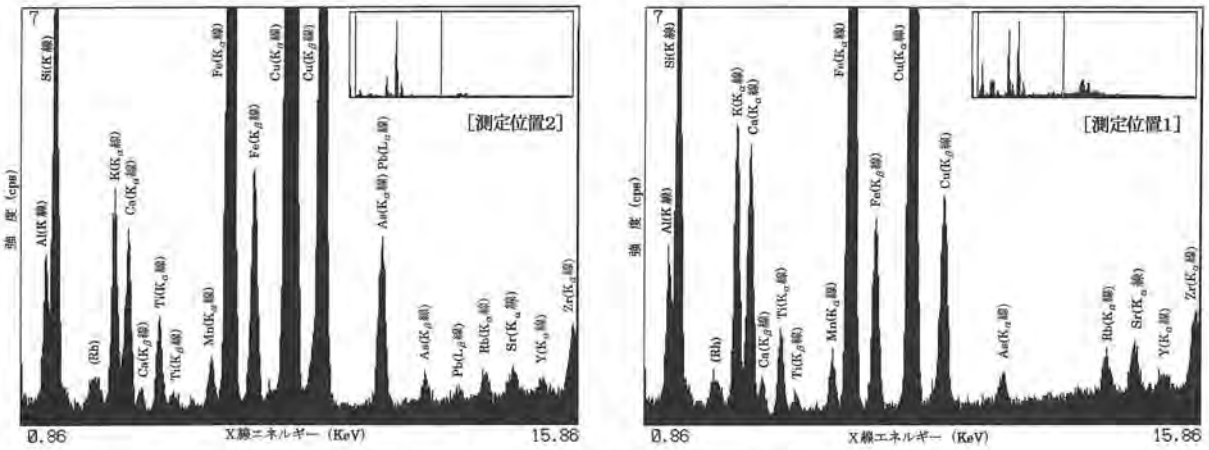
測定結果は、いずれの測定位置からも金属元素として銅（Cu）、鉄（Fe）が顕著に検出された（第84図）。なお、ニッケル（Ni）、亜鉛（Zn）、スズ（Sn）、鉛（Pb）、インジウム（In）も低率ながら検出された。その他の元素としては、ケイ素（Si）、カリウム（K）、カルシウム（Ca）、チタン（Ti）、マンガン（Mn）等も検出された。ロジウム（Rh）は蛍光X線分析装置に関係する元素で試料とは関係ない。平面測定ではないため定量分析は適当でないが、これら金属元素のピークの出現度合から、

これらかわらけは銅を主体とした金属を扱ったものと推定される。

なお、各試料の詳細や検出された元素を第36表にまとめる。

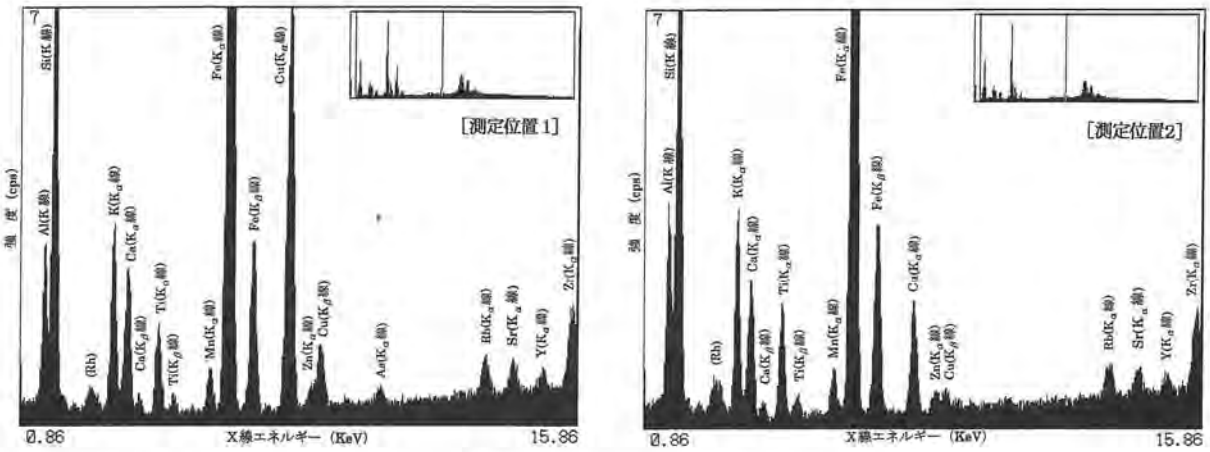
遺物	測定位置	色	出土地点	検出された元素	主な構成元素
トリベ	1	赤	A2区 P127	Al,Si,K,Ca,Ti,Mn,Fe,Cu,As,Rb,Sr,Y,Zr,Sn,Ba	Cu,(Fe)
	2	黒～暗赤	A2区 P127	Al,Si,K,Ca,Ti,Mn,Fe,Cu,As,Rb,Sr,Y,Zr,Sn,Pb	Cu,(Fe)
鞴の羽口	1	淡赤	A2区 P127	Al,Si,K,Ca,Ti,Mn,Fe,Cu,Zn,As,Rb,Sr,Y,Zr,Ba	Fe,(Cu)
	2	淡赤	A2区 P127	Al,Si,K,Ca,Ti,Mn,Fe,Cu,Zn,As,Rb,Sr,Y,Zr,Ba	Fe,(Cu)
かわらけ	1	黒	A2区 P176	Si,K,Ca,Ti,Mn,Fe,Ni,Cu,Zn,Rb,Sr,Zr,In,Sn,Pb	Cu,(Fe,Sn,Pb)
	2	青緑	A2区 IV層	Si,K,Ca,Ti,Mn,Fe,Ni,Cu,Zn,Zr,In,Sn,Pb	Cu,(Fe,Sn,Pb)
	3	暗赤	A2区 IV層	Si,K,Ca,Ti,Mn,Fe,Ni,Cu,Zn,Rb,Sr,Zr,In,Sn,Pb	Cu,(Fe,Sn,Pb)
	4	黄	A8区 III層	Si,P,K,Ca,Ti,Mn,Fe,Ni,Cu,Zn,Rb,Sr,Zr,In,Sn,Pb	Cu,(Fe,Sn,Pb)

第36表　各試料の詳細と検出された元素



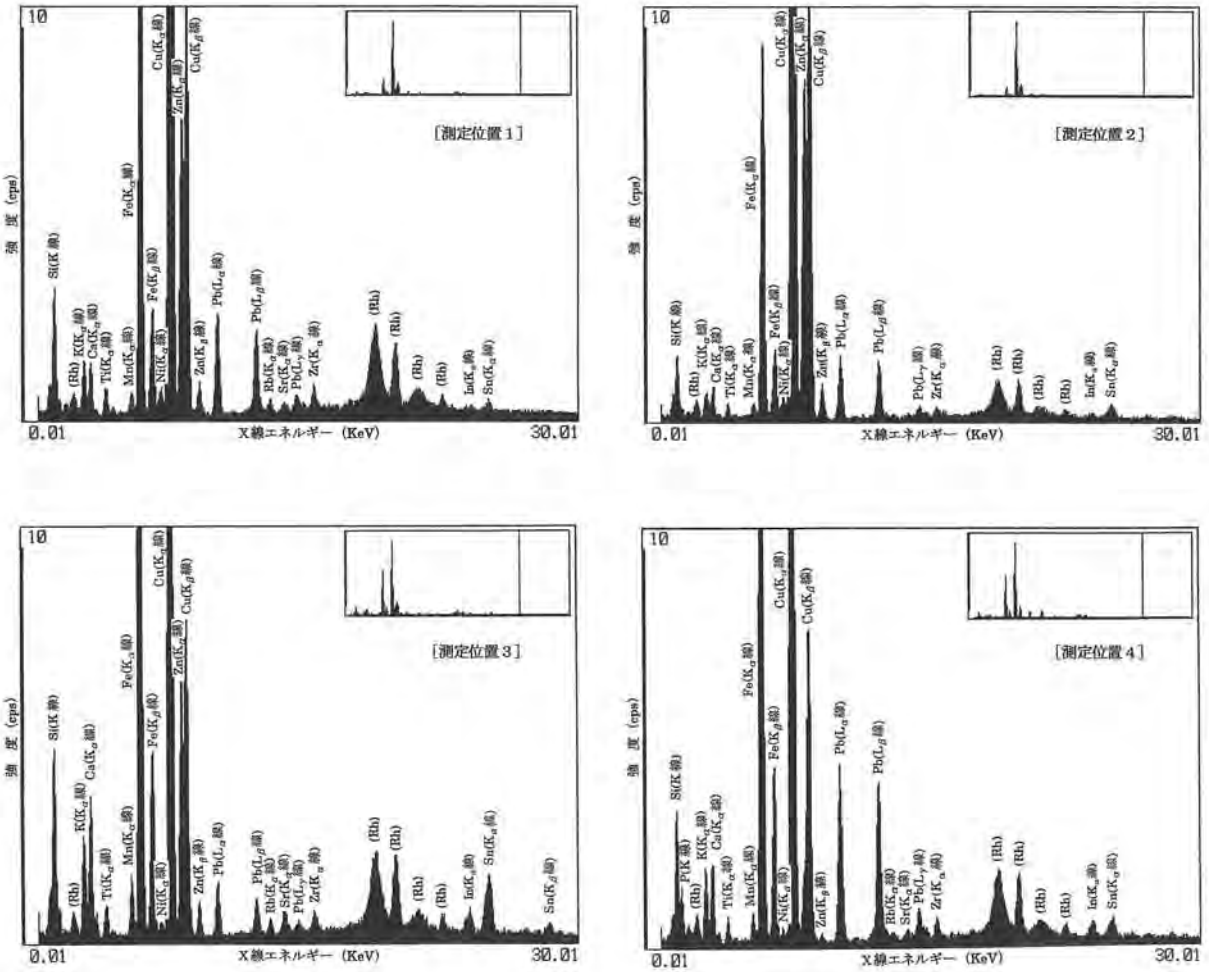
第82図　トリベ（A２区P127）の各測定位置での蛍光X線スペクトル図

〔元素記号〕Al;アルミニウム,Si;ケイ素,K;カリウム,Ca;カルシウム,Ti;チタン,Mn;マンガン,Fe;鉄,Cu;銅,
As;砒素,Pb;鉛,Rb;ルビジウム,Sr;ストロンチウム,Y;イットリウム,Zr;ジルコニウム,Rh;ロジウム（管球から）



第83図　鞴の羽口（A２区P127）の各測定位置での蛍光X線スペクトル図

〔元素記号〕Al;アルミニウム,Si;ケイ素,K;カリウム,Ca;カルシウム,Ti;チタン,Mn;マンガン,Fe;鉄,Cu;銅,Zn;亜鉛,As;砒素,Pb;鉛,Rb;ルビジウム,Sr;ストロンチウム,Y;イットリウム,Zr;ジルコニウム,Rh;ロジウム(管球から)



第84図　かわらけの各測定位置での蛍光X線スペクトル図

〔元素記号〕Si;ケイ素,P;リン,K;カリウム,Ca;カルシウム,Ti;チタン,Mn;マンガン,Fe;鉄,Ni;ニッケル,Cu;銅,Zn;亜鉛,Rb;ルビジウム,Sr;ストロンチウム,Zr;ジルコニウム,In;インジニウム,Sn;スズ,Pb;鉛,Rh;ロジウム(管球から)

第８節　検出遺構・遺物の年代測定

山形 秀樹（パレオ・ラボ）

１．はじめに

鷲山仙道遺跡より検出されたトリベ付着物、炭化種子、および種子の加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を実施した。

２．試料と方法

試料は、P127から出土したトリベより採取した付着物1点、P119、P129、P176から、それぞれ採取した炭化種子（オオムギ）３点、SE１より採取した種子（モモ）１点の併せて５点である。

これら試料は、酸・アルカリ・酸洗浄を施して不純物を除去し、石墨（グラファイト)に調整した後、加速器質量分析計（AMS）にて測定した。測定された14C濃度について同位体分別効果の補正を行なった後、補正した14C濃度を用いて14C年代を算出した。

３．結果

第37表に、各試料の同位体分別効果の補正値（基準値-25.0‰）、同位体分別効果による測定誤差を補正した14C年代、14C年代を暦年代に較正した年代を示す。

14C年代値（yrBP）の算出は、14Cの半減期としてLibbyの半減期5,568年を使用した。また、付記した14C年代誤差（±１σ）は計数値の標準偏差σに基づいて算出し、標準偏差（One sigma）に相当する年代である。これは試料の14C年代が、その14C年代誤差範囲内に入る確率が68%であることを意味する。

なお、暦年代較正の詳細は、以下の通りである。

暦年代較正

暦年代較正とは、大気中の14C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された14C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の14C濃度の変動、および半減期の違い（14Cの半減期5,730±40年）を較正し、より正確な年代を求めるために、14C年代を暦年代に変換することである。具体的には、年代既知の樹木年輪の詳細な測定値を用い、さらに珊瑚のU-Th年代と14C年代の比較、および海成堆積物中の縞状の堆積構造を用いて14C年代と暦年代の関係を調べたデータにより、較正曲線を作成し、これを用いて較正暦年代を算出する。

較正暦年代の算出にCALIB 4.3（CALIB 3.0のバージョンアップ版）を使用した。なお、暦年代較正値は14C年代値に対応する較正曲線上の暦年代値であり、１σ暦年代範囲はプログラム中の確率法を使用して算出された14C年代誤差に相当する暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値はその１σ暦年代範囲の確からしさを示す確率であり、10%未満についてはその表示を省略した。１σ暦年代範囲のうち、その確からしさの確率が最も高い年代範囲については、表中に下線で示した。

４．考察

各試料は、同位体分別効果の補正および暦年代較正を行なった。暦年代較正した１σ暦年代範囲のうち、その確からしさの確率が高い年代範囲に注目すると、トリベ付着物についてはcal BC 3875 - 3805年、炭化種子および種子については16世紀後半がそれぞれより確かな年代値の範囲として示された。

参考文献
中村俊夫　2000　「放射性炭素年代測定法の基礎.日本先史時代の14C年代」　p.3-20.

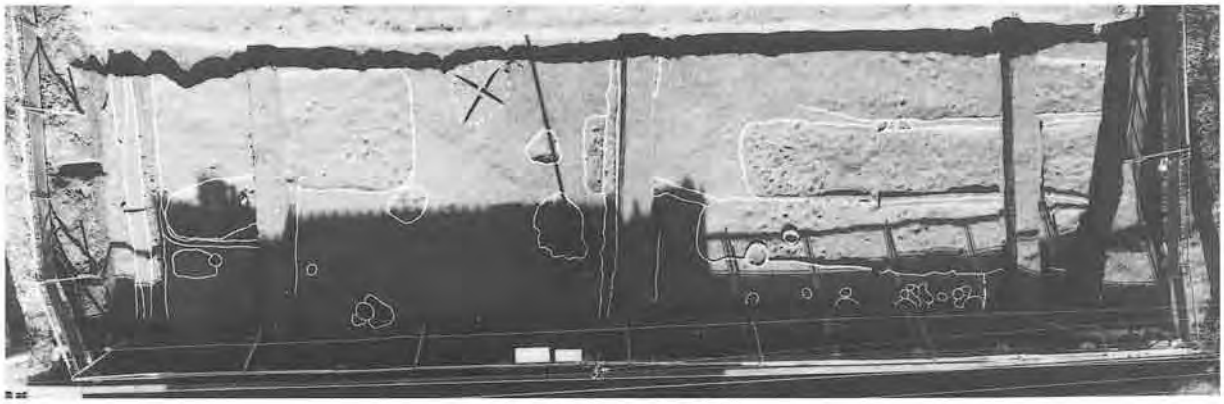
Stuiver, m. and Reimer, P. J. 1993 Extended 14C Database and Revised CALIB3.0 14C Age Calibration Program, Radiocarbon, 35, p.215-230.
Stuiver,m., Reimer,P.J., Bard,E., Beck,J.W., Burr,g.S., Hughen,K.A., Kromer,B., mcCormac,F.g., v.d. Plicht,J., and Spurk,m. 1998 INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration, 24,000-0 cal BP, Radiocarbon, 40, p.1041-1083.

測定番号 (測定法)	試料データ	$\delta^{13}C_{PDB}$ (‰)	^{14}C年代 (yrBP±1σ)	^{14}C年代を暦年代に較正した年代	
				暦年代較正値	1σ暦年代範囲
PLD-922 (AMS)	トリベ付着物 A2区 P127	-24.8	5095±35	cal BC 3945	cal BC 3960 - 3935 (24.2%) cal BC 3875 - 3805 (75.8%)
PLD-952 (AMS)	炭化種子（オオムギ） A2区 P119 4段目石の回り	-25.1	355±25	cal AD 1495 cal AD 1600 cal AD 1615	cal AD 1480 - 1520 (44.5%) cal AD 1575 - 1625 (55.5%)
PLD-953 (AMS)	炭化種子（オオムギ） A2区 P176	-26.4	355±25	cal AD 1495 cal AD 1505 cal AD 1600 cal AD 1615	cal AD 1485 - 1520 (43.8%) cal AD 1575 - 1625 (56.2%)
PLD-954 (AMS)	炭化種子（オオムギ） A2区 P176 埋土	-25.5	340±25	cal AD 1520 cal AD 1595 cal AD 1620	cal AD 1495 - 1525 (31.7%) cal AD 1555 - 1600 (47.5%) cal AD 1610 - 1630 (20.8%)
PLD-1003 (AMS)	種子（モモ） A1区 SE1	-27.6	330±25	cal AD 1520 cal AD 1580 cal AD 1625	cal AD 1510 - 1530 (19.0%) cal AD 1545 - 1600 (57.5%) cal AD 1615 - 1635 (20.9%)

第37表　放射性炭素年代測定および暦年代較正の結果

A 1 区全景（上方が北）

A 2 区下層遺構面全景（上方が北）



A 5 区全景（上方が北）

A 8 区全景（上方が北）

図版 2

A 2 区表土除去作業（西から）

A 6 区作業風景（西から）

SB 9 ・10・12完掘状況（北から）

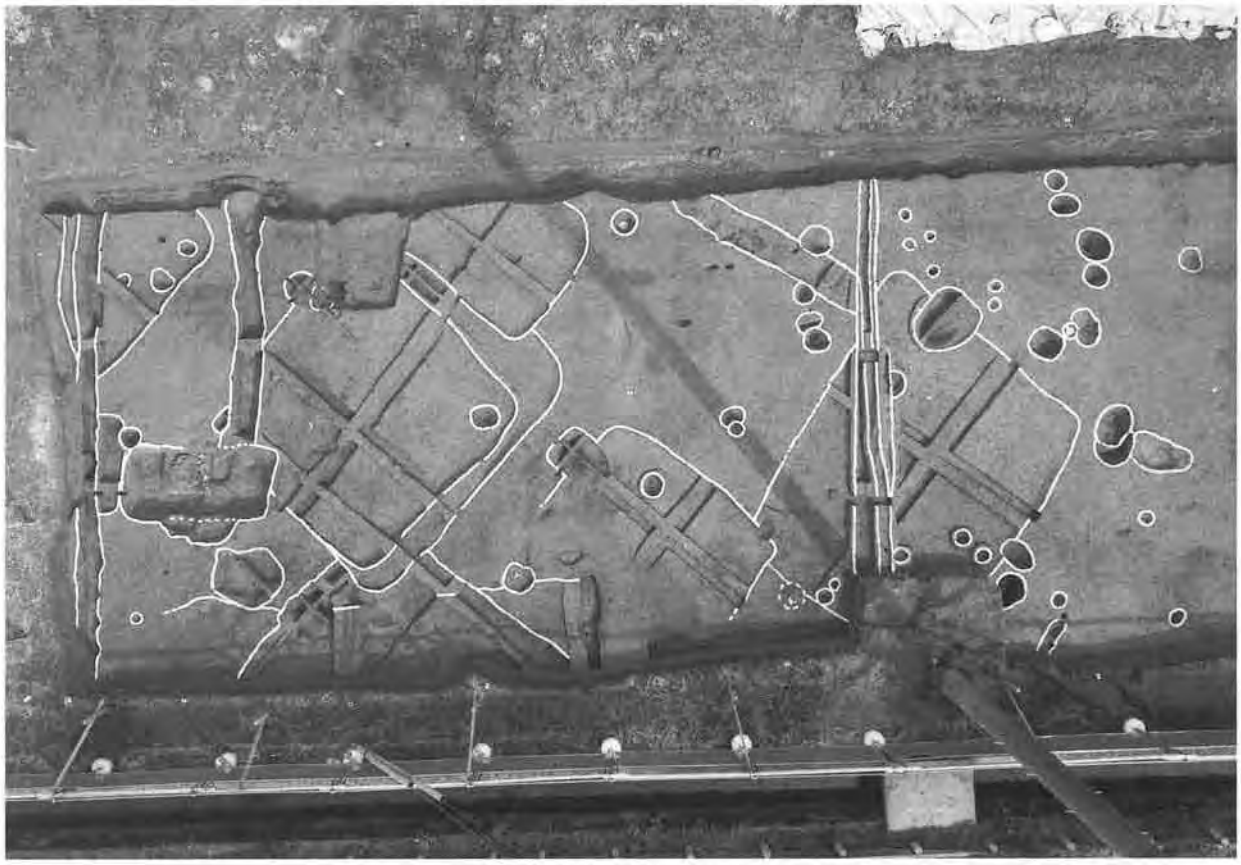
SB 8 ・10・11完掘状況（北から）

SB10カマド断面（東から）

SB 8 甑出土状況（南から）

SB 8 カマド遺物出土状況（東から）

SB 8 カマド遺物出土状況（西から）



A 7 区西側完掘状況（上空から）

SD 7 完掘状況（南西から）

SD51掘削状況（南から）

SK13遺物出土状況（南から）

図版 4

SD 1 完掘状況（南東から）

SD 1 断面（北西から）

SD 1 作業風景（西から）

SE 1 掘削状況（東から）

SE 1 箍（たが）検出状況（北から）

SE 1 桶側板残存状況（北から）

SE 1 水溜めの桶（北から）

SE 2 掘削状況（南から）

SE 2 掘削状況（南から）

SE 2 断面（南から）

SE 2 作業風景（東から）

SE 3 と周辺（北から）

SE 4 掘削状況（西から）

SE 4 断面（北から）

図版 6

SK１検出状況（南から）

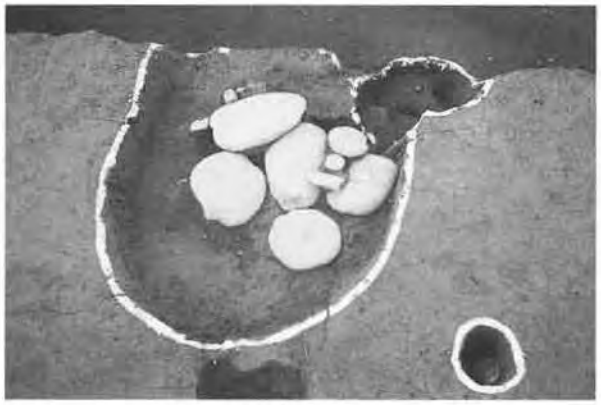
SK１断面（東から）

SK１完掘状況（東から）

SD34・36・SK14掘削状況（南から）

SK14断面（南から）

SK14遺物出土状況（東から）



SK 8 完掘状況（南から）

SK27掘削状況（南から）

SK28掘削状況（北から）

SD37～39完掘状況（北から）

P 8 完掘状況（東から）

P16検出状況（西から）

P19完掘状況（南東から）

P24完掘状況（東から）

図版 8

SX11検出状況（東から）

SX11検出状況（北から）

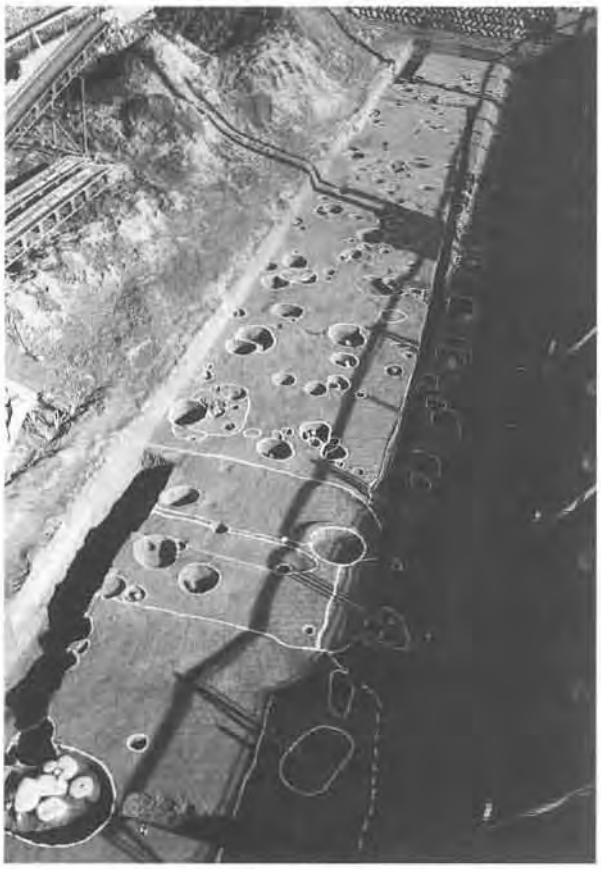
SX11断面（北から）

SX11銭貨出土状況（北から）

SX11作業風景（西から）

SX17掘削状況（北から）

SK18完掘状況（南から）



A２区上層遺構面完掘状況（西から）

A８区中央部完掘状況（北から）

A８区中央部作業風景（北東から）

P91銅製品出土状況（南から）

P131銭貨出土状況（南から）

P211銭貨出土状況（南から）

P211出土銭貨（西から）

図版 10

P209銭貨出土状況（南から）

P144遺物出土状況（南から）

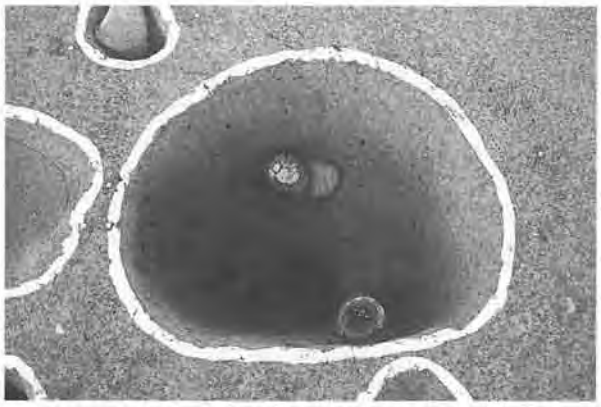
P418完掘状況（南から）

P360遺物出土状況（東から）

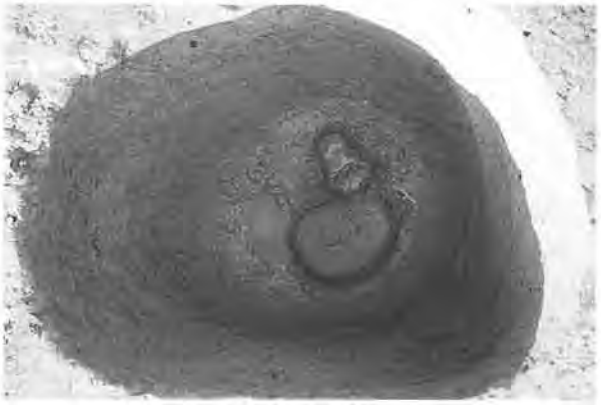
P186犬型土製品出土状況（北東から）

A２区作業風景（東から）

P186出土犬型土製品（東から）



P127坩堝出土状況（南から）



P127ふいごの羽口出土状況（南から）

SA 1 調査前状況（南から）

SA 1 作業風景（北東から）

SD 8 完掘状況（東から）

SA 1 南側断面（北から）

現地公開（平成11年度調査）

図版 12

8

8

8

9

9

10

11

図版 13

1

2

4

5

65

4

75

70

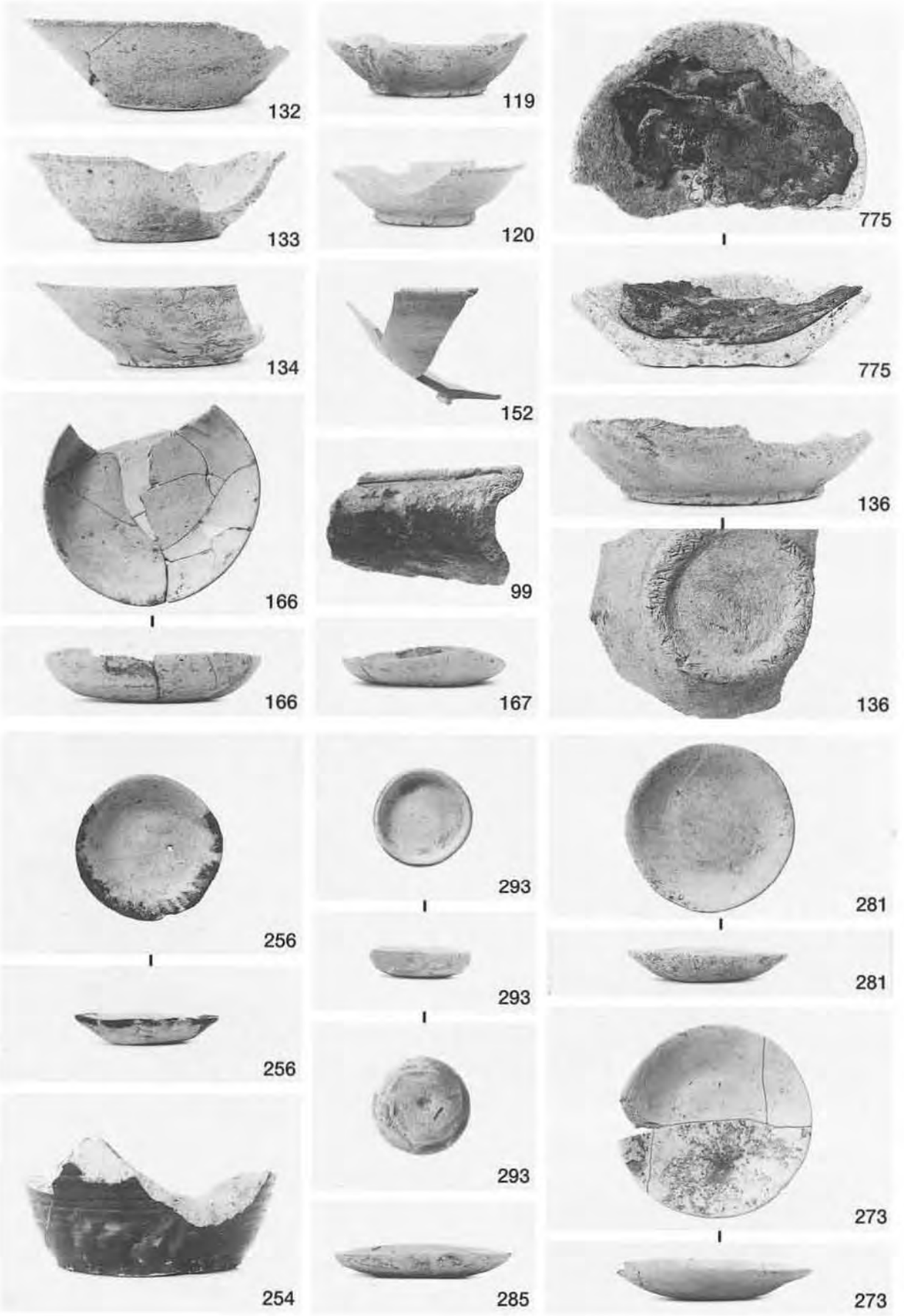
102

43

41

52

図版 14


132
119
775
133
120
775
134
152
136
166
99
136
166
167
256
293
281
293
281
256
293
273
254
285
273

310

310

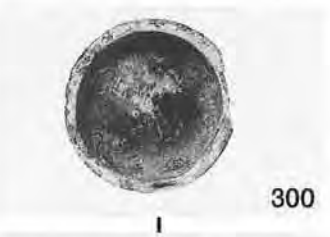
316

316

301

311

311


300

300

205

228

247

179

179

240

240

665

520

880

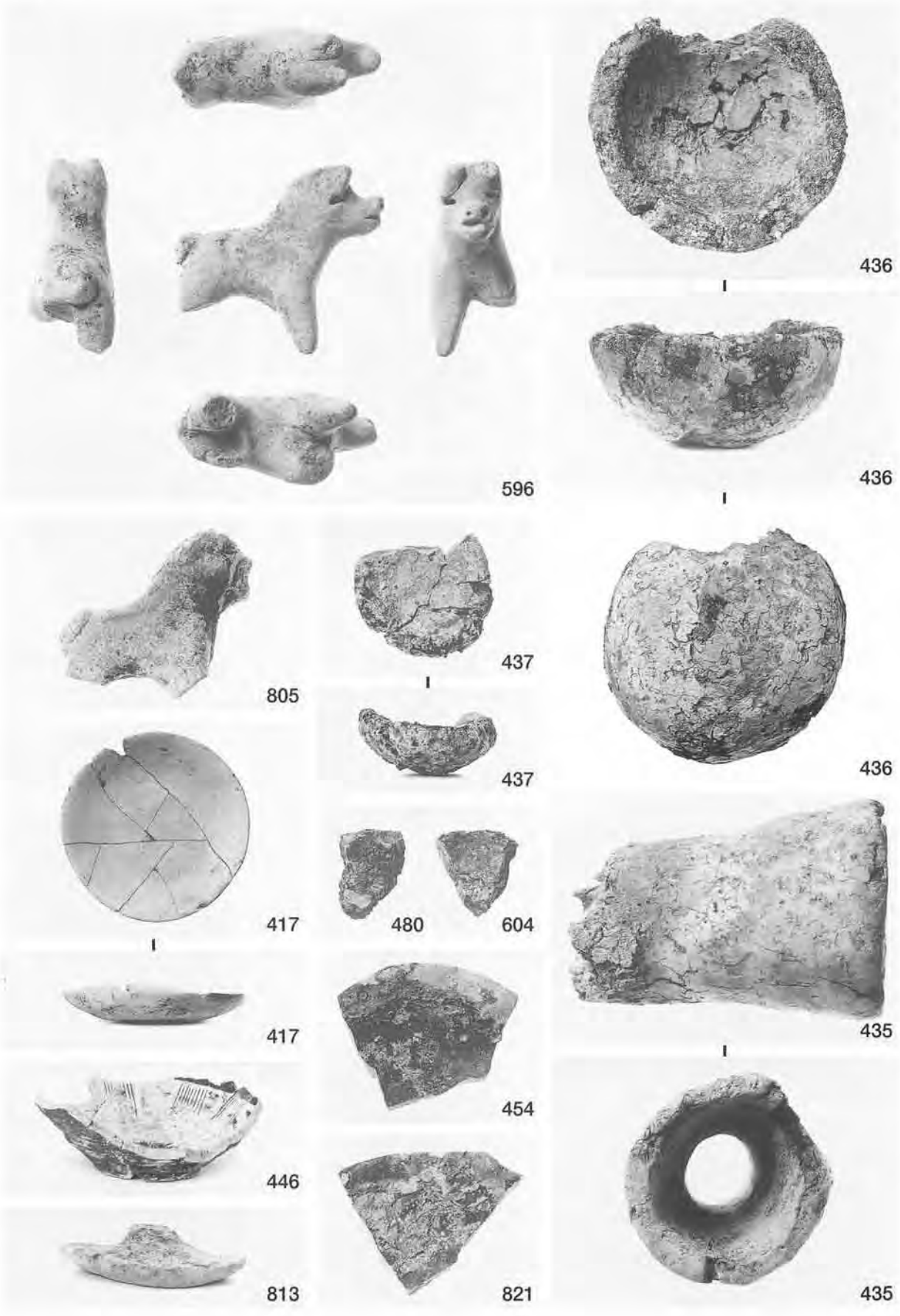
339

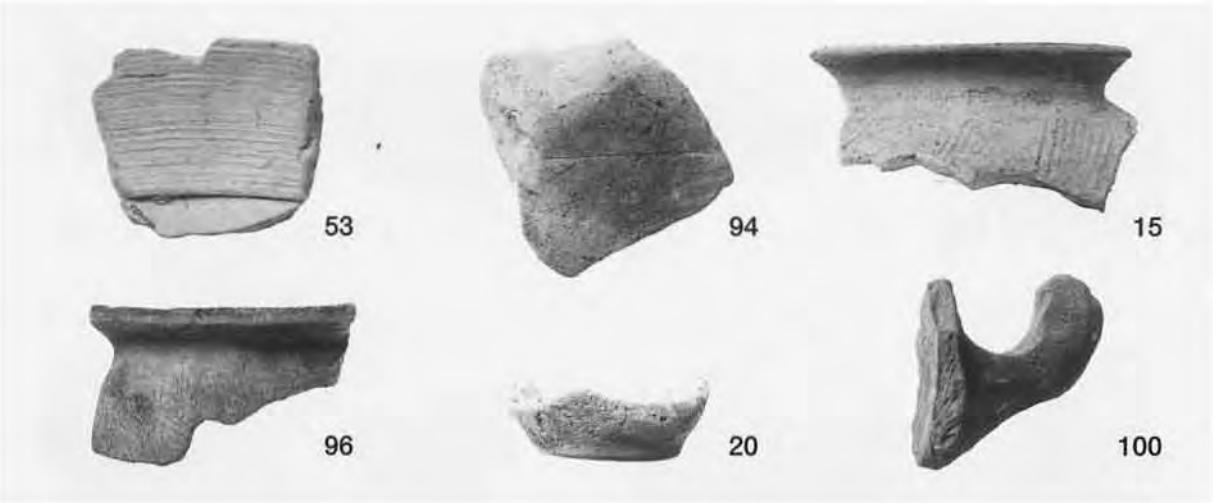
884

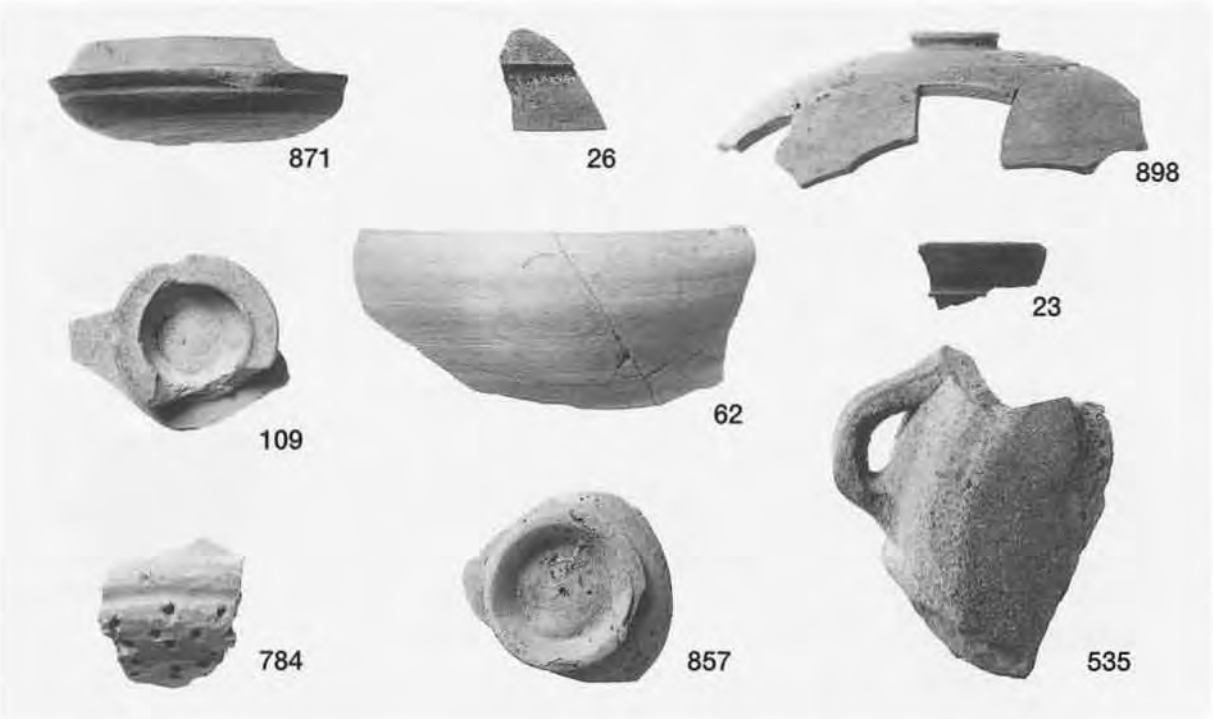
884

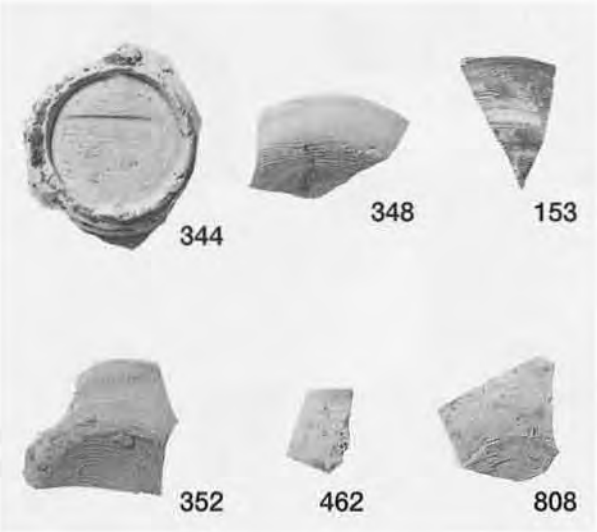
882

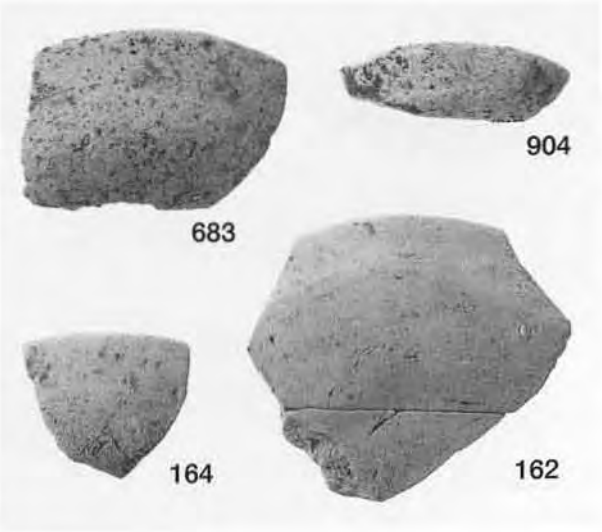
図版 16


596
436
436
805
437
437
436
417
480
604
417
435
454
446
813
821
435


53
94
15
96
20
100


871
26
898
23
109
62
784
857
535


344
348
153
352
462
808


904
683
164
162

図版 18

366

294

878

877

717

493

799

708

645

832

173

876

789

222

818

901

442

906

664

705

253

405

674

809

838

233

236

710

709

691

387

411

733

558

721

792

472

712

740

207

170

697

171

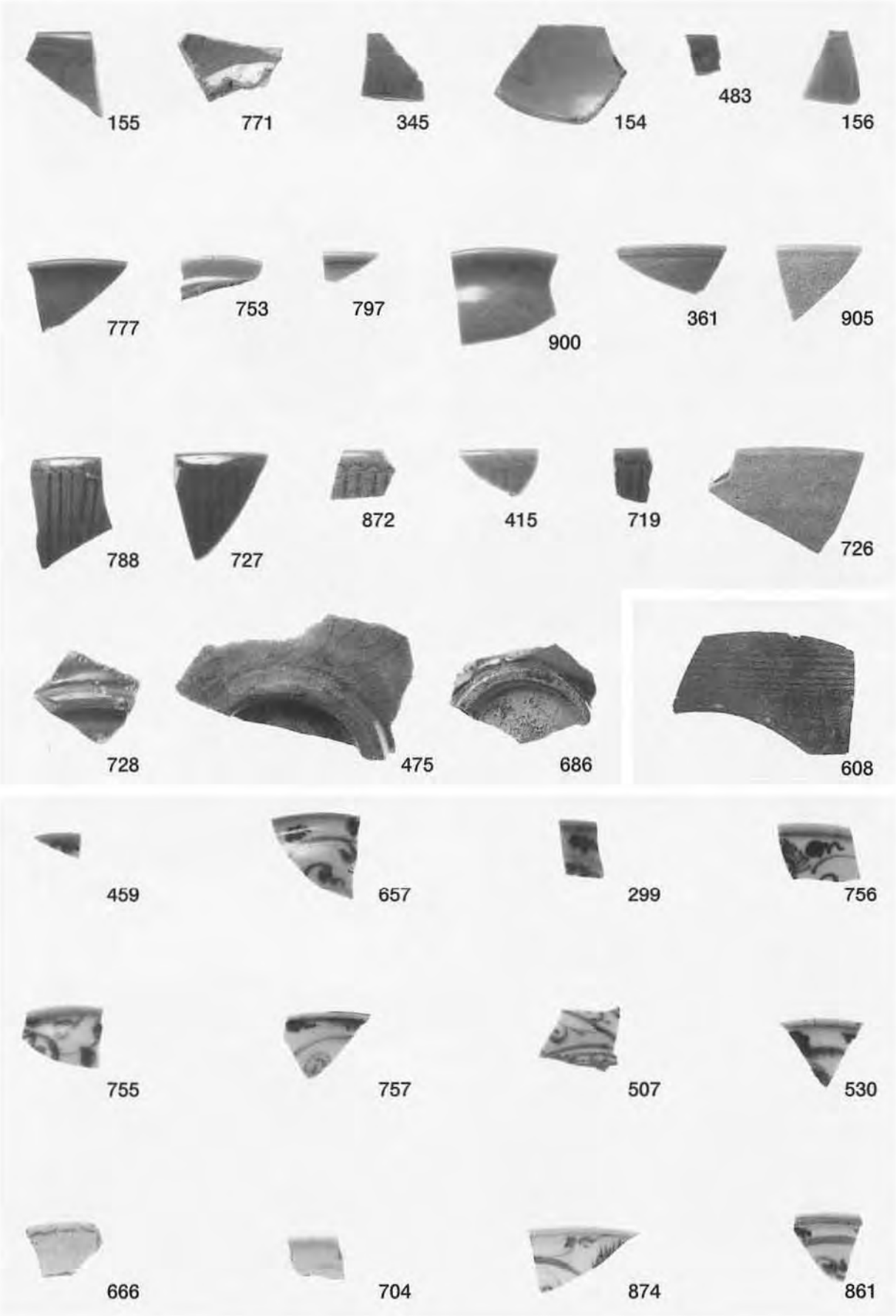
172

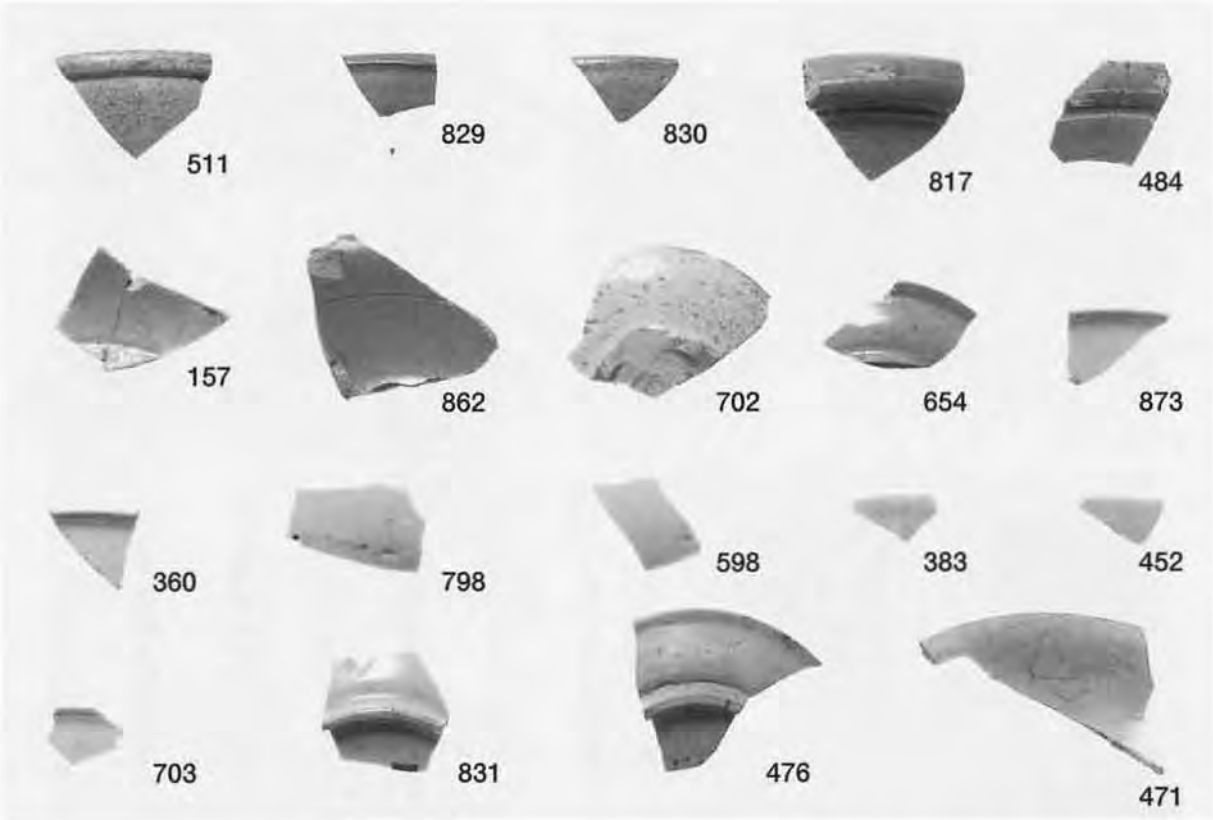
723

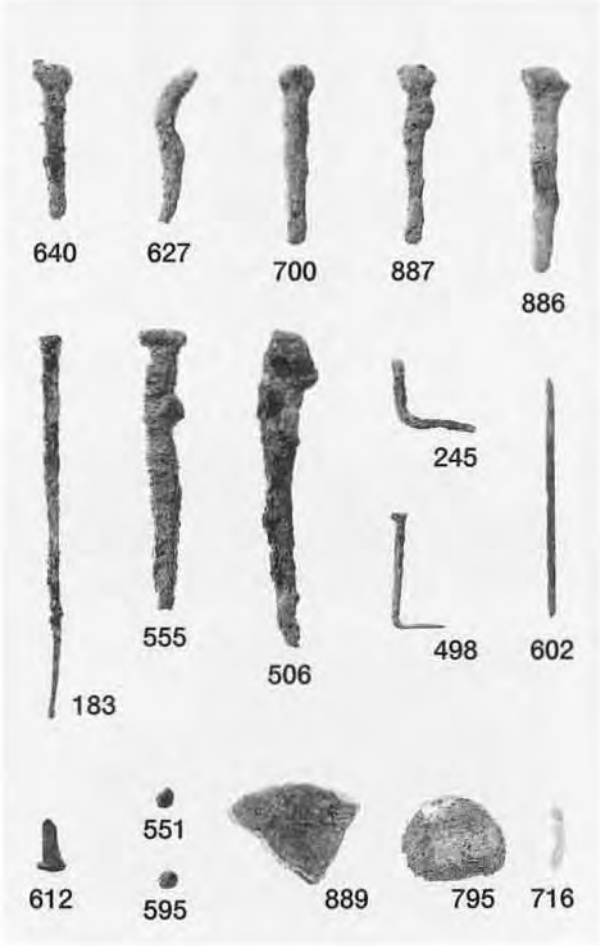
241

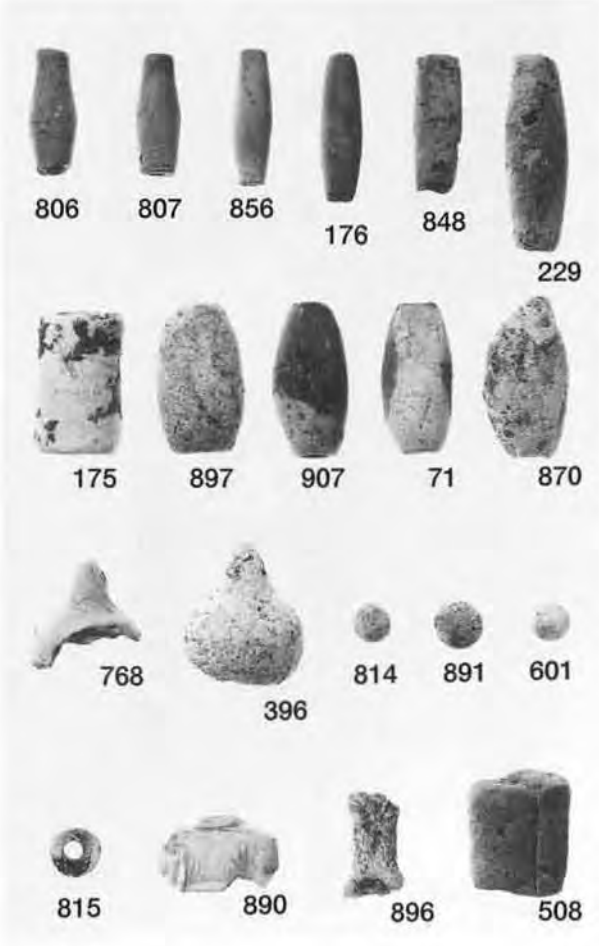
841

図版 20

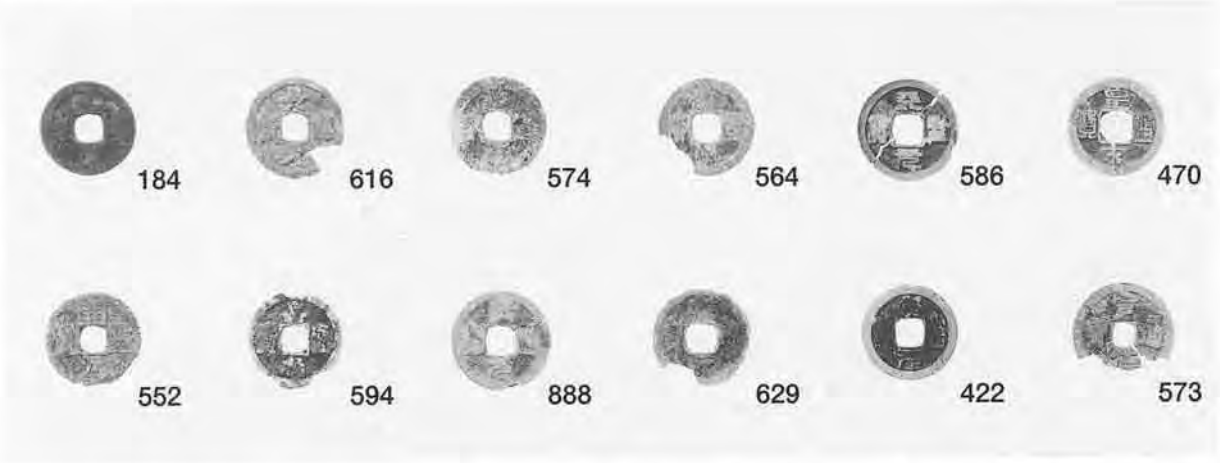

155
771
345
154
483
156
777
753
797
900
361
905
788
727
872
415
719
726
728
475
686
608
459
657
299
756
755
757
507
530
666
704
874
861

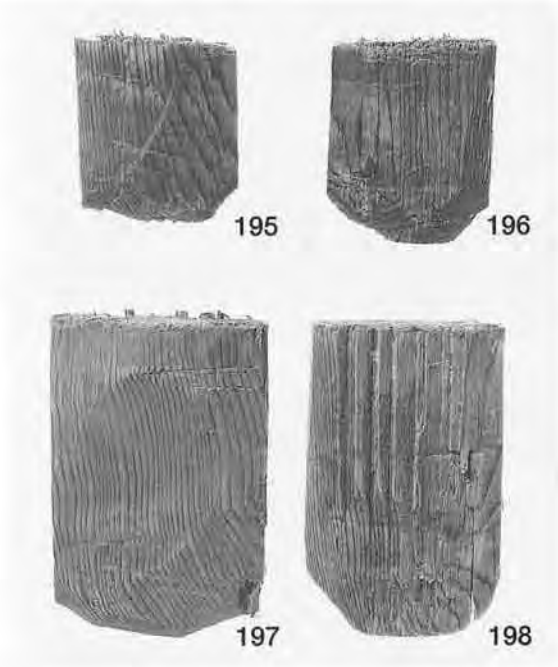

511
829
830
817
484
157
862
702
654
873
360
798
598
383
452
703
831
476
471

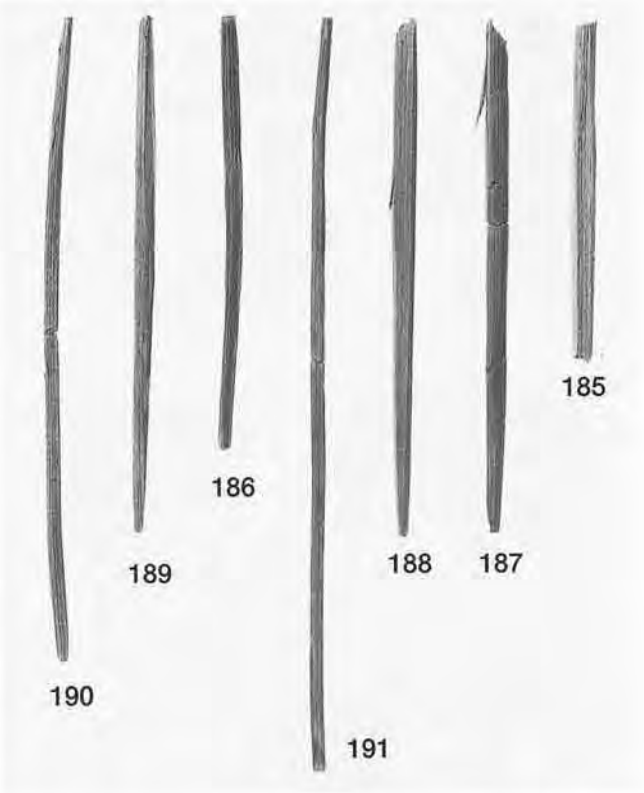

640
627
700
887
886
183
555
506
245
498
602
612
551
595
889
795
716

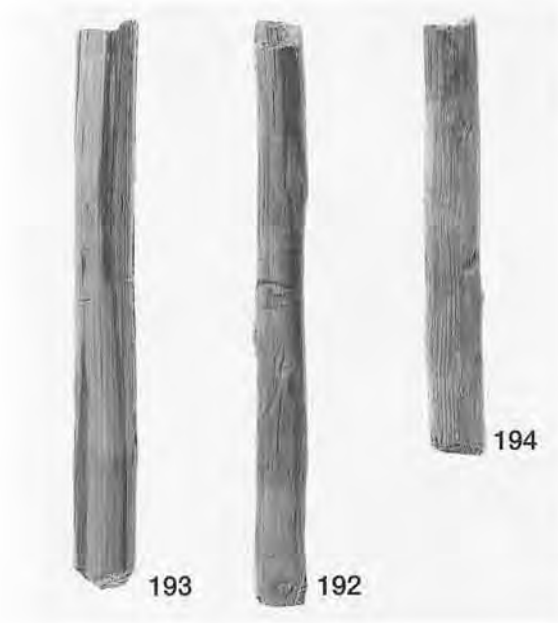

806
807
856
176
848
229
175
897
907
71
870
768
396
814
891
601
815
890
896
508

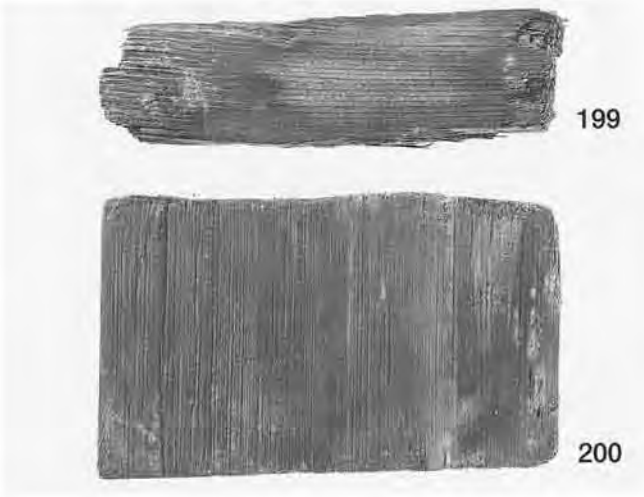
図版 22

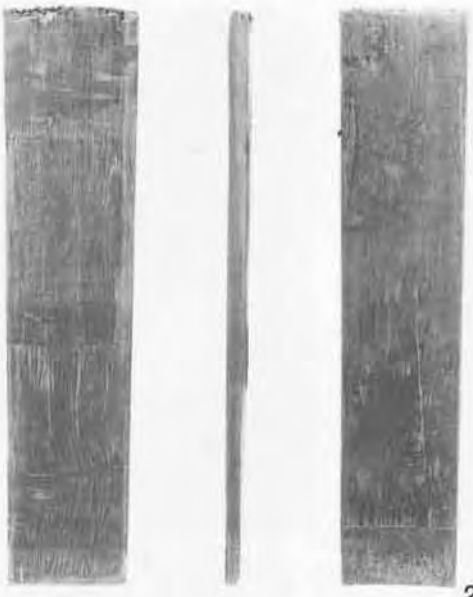

184
616
574
564
586
470
552
594
888
629
422
573


195
196
197
198


185
186
189
188
187
190
191


194
193
192


199
200



203

219

204

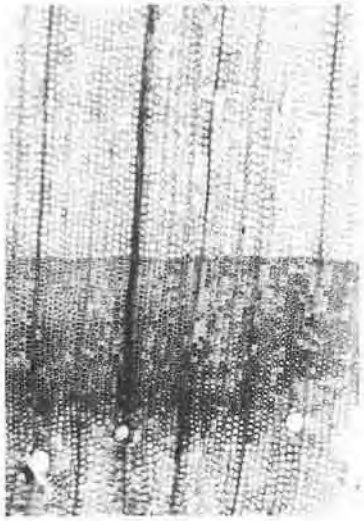
219

204

219

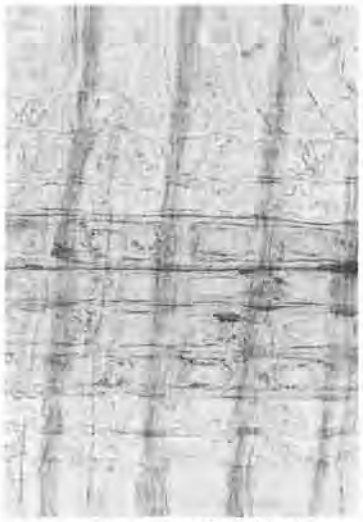
図版 24

bar:

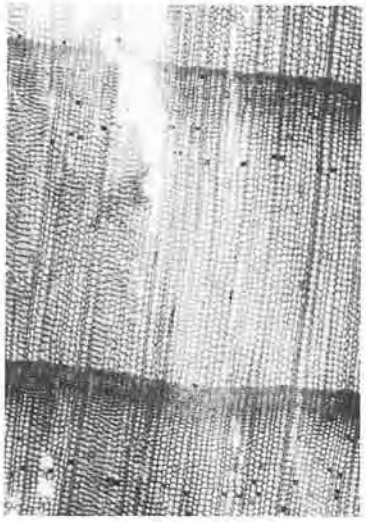


1 a アカマツ(横断面)
P24柱根　bar:0.5㎜

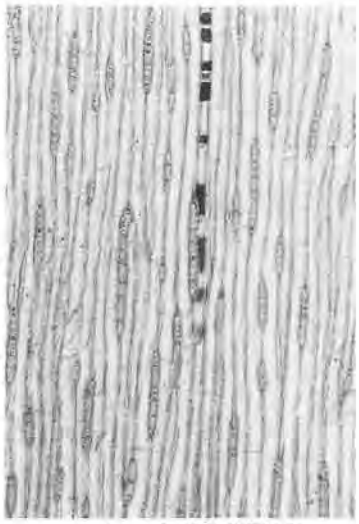
1 b アカマツ(接線断面)
P24柱根　bar:0.2㎜



1 c アカマツ(放射断面)
P24柱根　bar:0.05㎜



2 a ヒノキ(横断面)
P23柱根　bar:0.5㎜



2 b ヒノキ(接線断面)
P23柱根　bar:0.2㎜

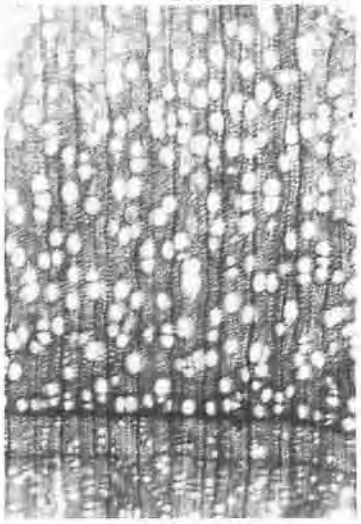
2 c ヒノキ(放射断面)
P23柱根　bar:0.05㎜

3 a サワラ(横断面)
桶部材①　bar:0.5㎜

3 b サワラ(接線断面)
桶部材①　bar:0.2㎜

3 c サワラ(放射断面)
桶部材①　bar:0.05㎜

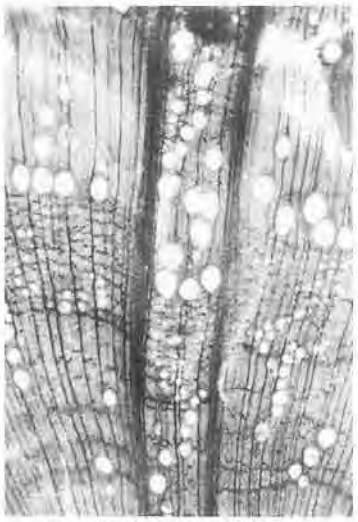
bar:



4 a ヤナギ属（横断面）
加工木　bar:0.5㎜

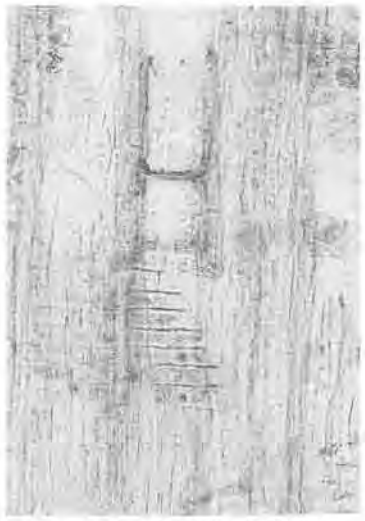
4 b ヤナギ属（接線断面）
加工木　bar:0.2㎜

4 c ヤナギ属（放射断面）
加工木　bar:0.1㎜

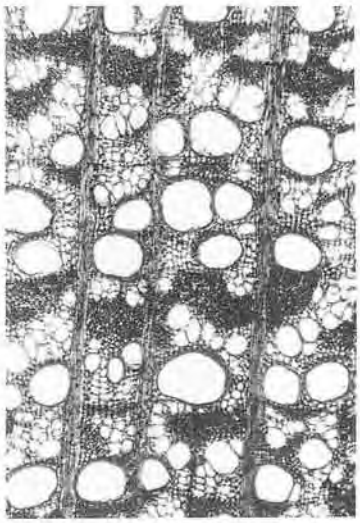


5 a シイノキ属（横断面）
丸棒　bar:0.5㎜

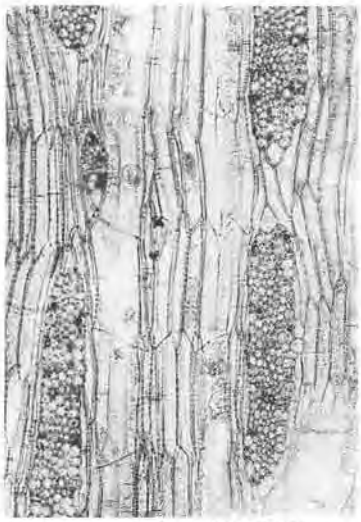
5 b シイノキ属（接線断面）
丸棒　bar:0.2㎜



5 c シイノキ属（放射断面）
丸棒　bar:0.1㎜



6 a ケヤキ（横断面）
木２　bar:0.5㎜



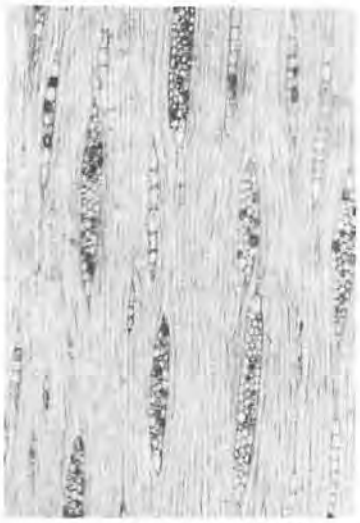
6 b ケヤキ（接線断面）
木２　bar:0.2㎜

6 c ケヤキ（放射断面）
木２　bar:0.1㎜

図版 26

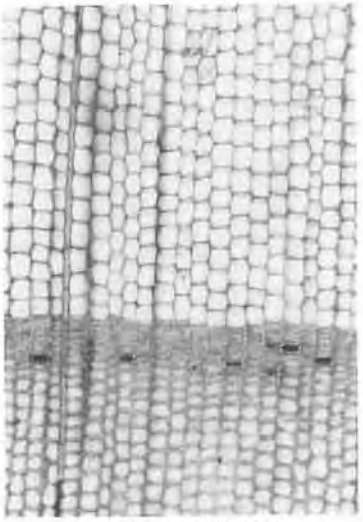
bar:

7 a ムクノキ(横断面)
木 4　bar:0.5㎜



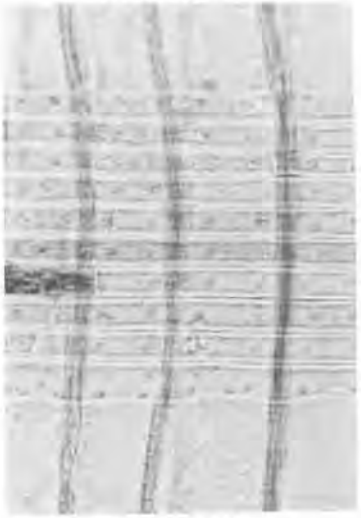
7 b ムクノキ(接線断面)
木 4　bar:0.2㎜

7 c ムクノキ(放射断面)
木 4　bar:0.1㎜

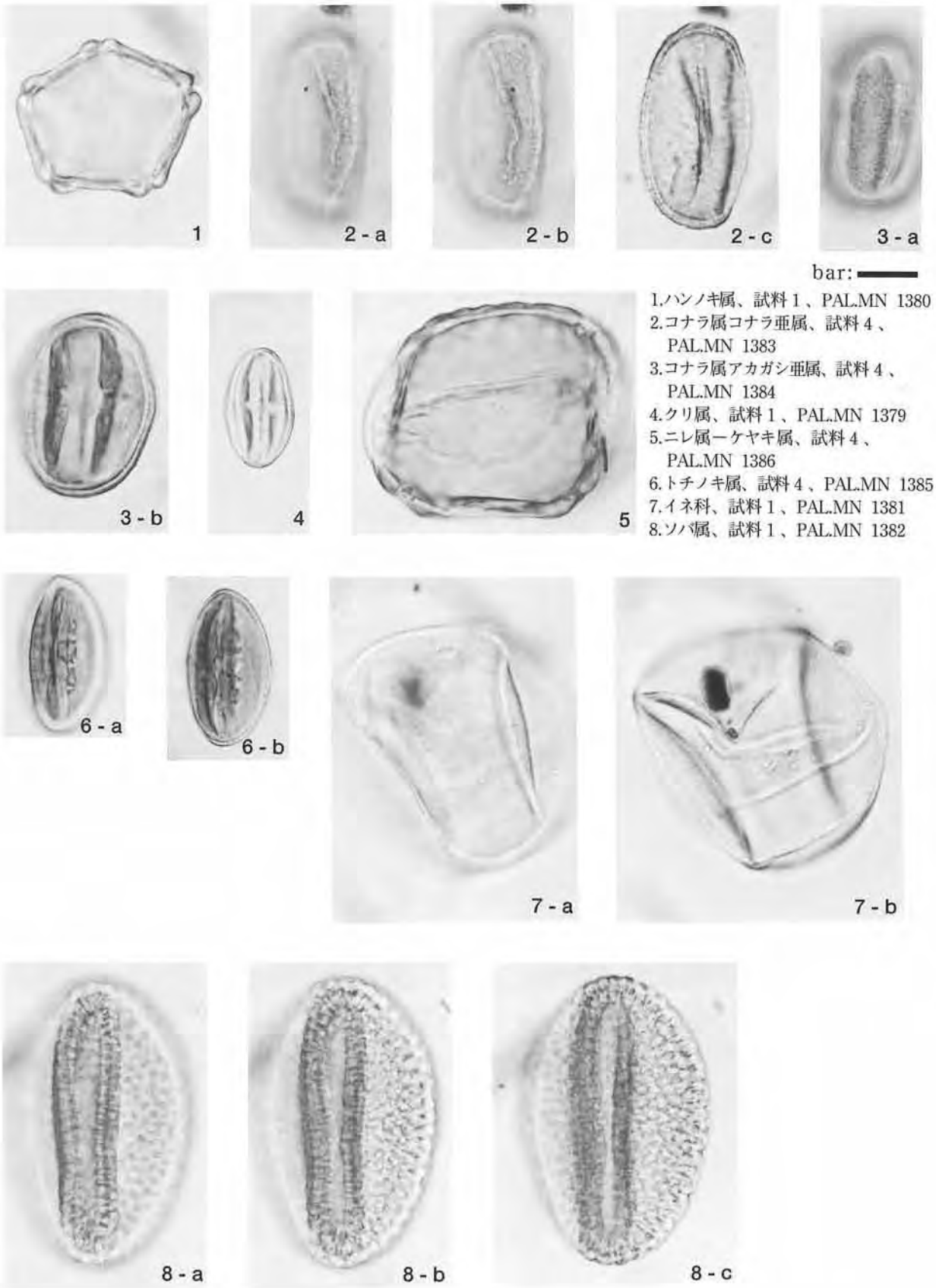


8 a サワラ(横断面)
SE 2　桶部材 1 - 5　bar:0.2㎜

8 b サワラ(接線断面)
SE 2　桶部材 1 - 5　bar:0.2㎜



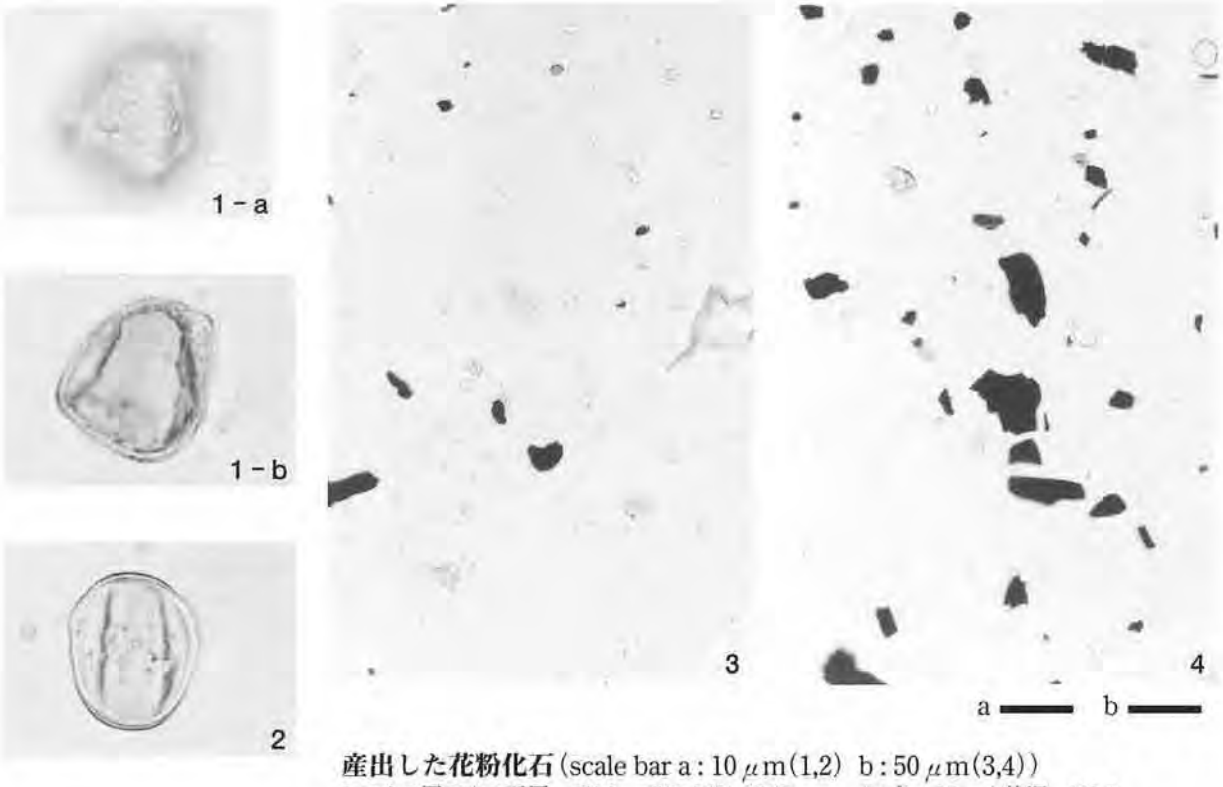
8 c サワラ(放射断面)
SE 2　桶部材 1 - 5　bar:0.05㎜



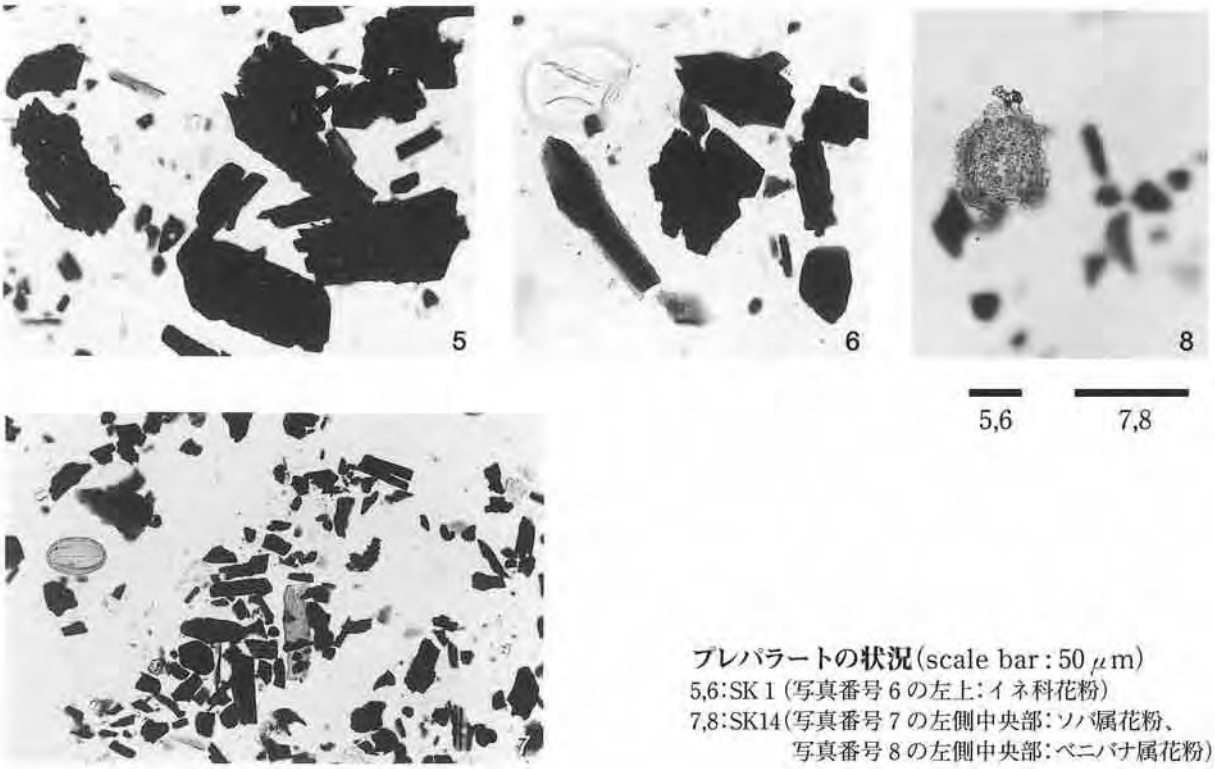
1.ハンノキ属、試料 1 、PAL.MN 1380
2.コナラ属コナラ亜属、試料 4 、PAL.MN 1383
3.コナラ属アカガシ亜属、試料 4 、PAL.MN 1384
4.クリ属、試料 1 、PAL.MN 1379
5.ニレ属ーケヤキ属、試料 4 、PAL.MN 1386
6.トチノキ属、試料 4 、PAL.MN 1385
7.イネ科、試料 1 、PAL.MN 1381
8.ソバ属、試料 1 、PAL.MN 1382

産出した花粉化石 (scale bar : 10 μm)

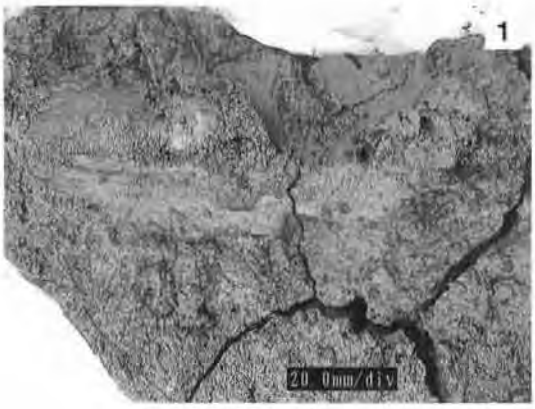
図版 28



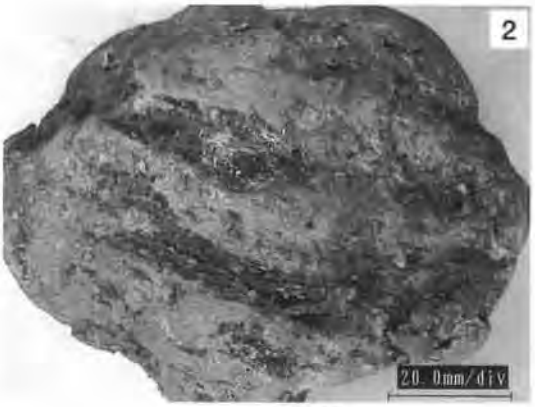
産出した花粉化石（scale bar a : 10 μm(1,2)　b : 50 μm(3,4)）
1.コナラ属コナラ亜属、SE 3 、PAL.MN 1536　　3.プレパラート状況、SE 2
2.コナラ属アカガシ亜属、SE 3 、PAL.MN 1535　　4.プレパラート状況、SE 3



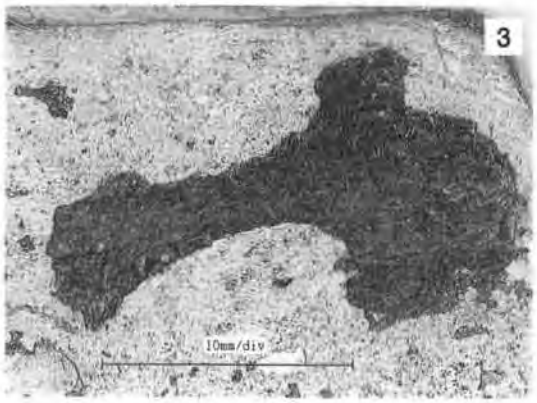
プレパラートの状況（scale bar : 50 μm）
5,6:SK 1（写真番号 6 の左上:イネ科花粉）
7,8:SK14（写真番号 7 の左側中央部:ソバ属花粉、
写真番号 8 の左側中央部:ベニバナ属花粉）



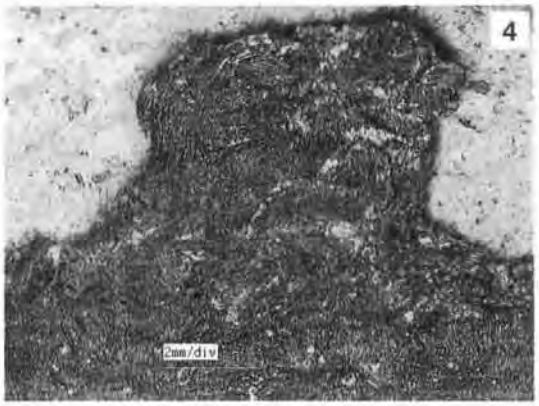
SX11出土漆



SK14出土漆

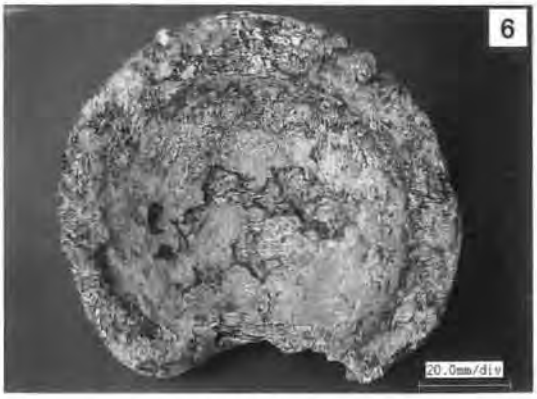


甕付着繊維の状況



甕付着繊維部拡大(右上部)

甕付着繊維部拡大(右下部)



P127出土トリベ

P127出土トリベ胎土中のイネ籾

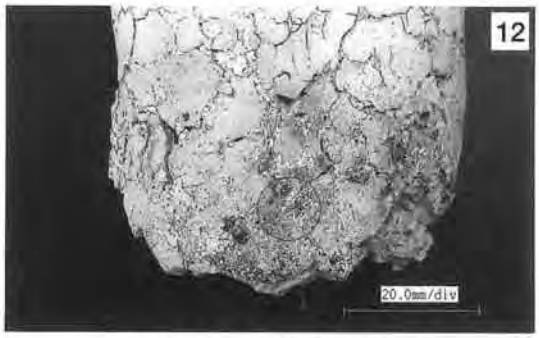
P127出土トリベ測定位置 1

図版 30

P127出土トリベ測定位置 2

P127出土鞴の羽口

P127出土鞴の羽口胎土中のイネ籾



P127出土鞴の羽口測定位置 1

P127出土鞴の羽口測定位置 2

鋳造関連かわらけ(P176)測定位置 1

鋳造関連かわらけ(A 2 区Ⅳ層)測定位置 2,3

鋳造関連かわらけ(A 8 区Ⅱ層)測定位置 4

報告書抄録

フリガナ	サギヤマセンドウイセキ
書名	鷺山仙道遺跡
副書名	岐阜市鷺山・下土居土地区画整理事業における太平町下西郷線に伴う緊急発掘調査
巻次	
シリーズ名	(財)岐阜市教委文化振興事業団
シリーズ番号	第10集
編著者名	高木　晃・植田弥生・新山雅弘・藤根　久・鈴木　茂・小村美代子・山形秀樹
編集機関	財団法人　岐阜市教育文化振興事業団
所在地	〒500－8245　岐阜市上川手770番地
発行年月日	平成14年10月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積(㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
鷺山仙道遺跡	岐阜市 下土居乙井	21201	G33G08651	35° 26′ 50″	136° 45′ 41″	1999.12.24 ～ 2002.11.22	1,900	岐阜市鷺山・下土居土地区画整理に伴う緊急調査

所収遺跡名	主な時代	種別	主な遺構		主な遺物	特記事項
鷺山仙道遺跡	古墳時代		竪穴住居 溝 不明遺構	7 2 3	土師器・須恵器	
	古代		竪穴住居 溝 土坑	4 1 2	土師器・須恵器・ 灰釉陶器・焼塩土器	
	中世		溝 不明遺構	2 1	山茶碗・かわらけ・ 輸入陶磁器	
	戦国時代		掘立柱建物 井戸 溝 土坑 不明遺構	4 4 23 19 13	瀬戸美濃産陶器・ 輸入陶磁器、かわらけ・ トリベ・ふいごの羽口・ 焼土塊・銭貨・桶・箸・釘	
	近世以降		堤状遺構 溝 不明遺構	1 13 5	土師器・ 瀬戸美濃産陶磁器・ 肥前産磁器	

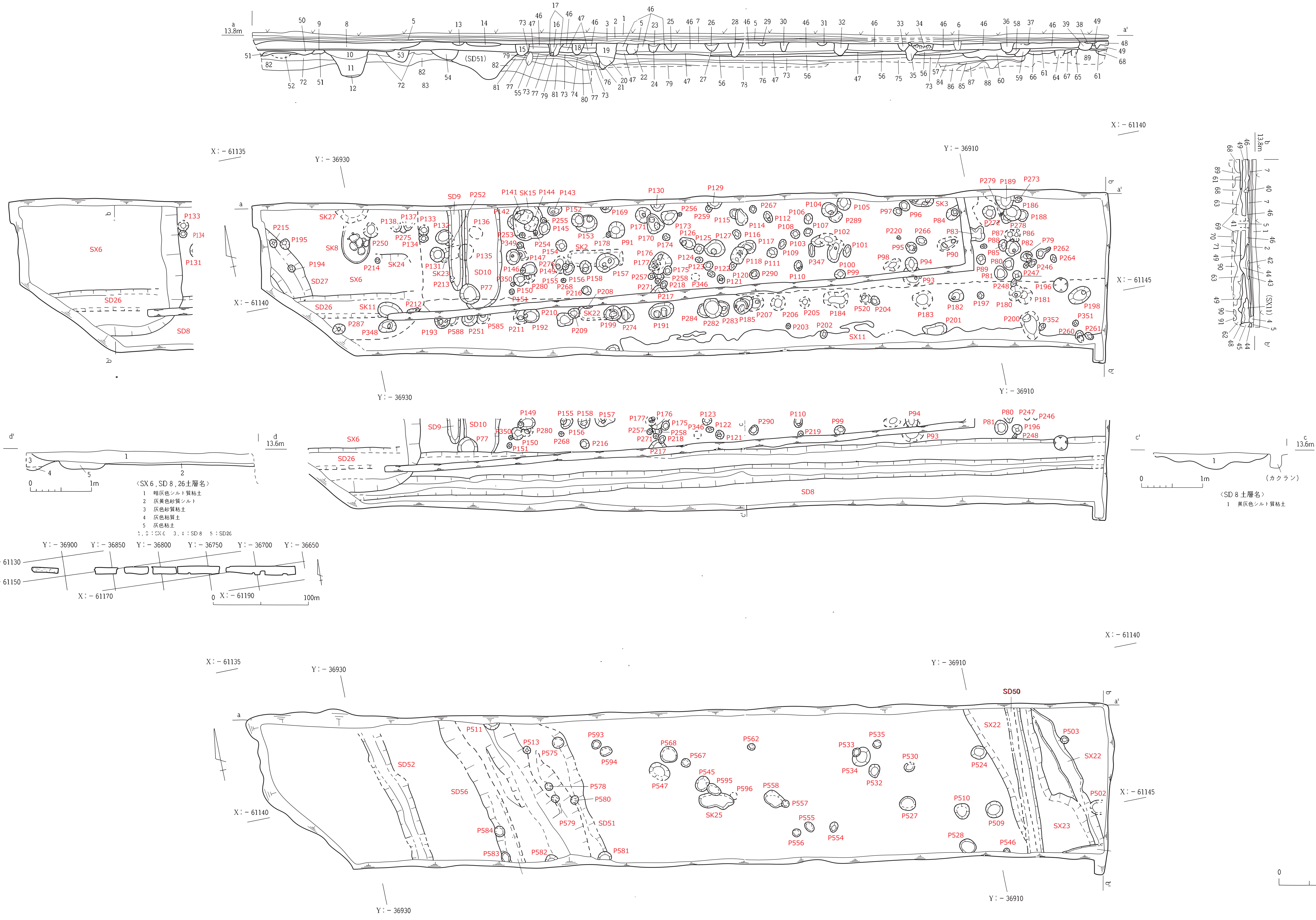
鷺山仙道遺跡

―岐阜市鷺山・下土居土地区画整理事業における太平町下西郷線に伴う緊急発掘調査―

平成14年10月

発行　㈶岐阜市教育文化振興事業団
岐阜市上川手770番地

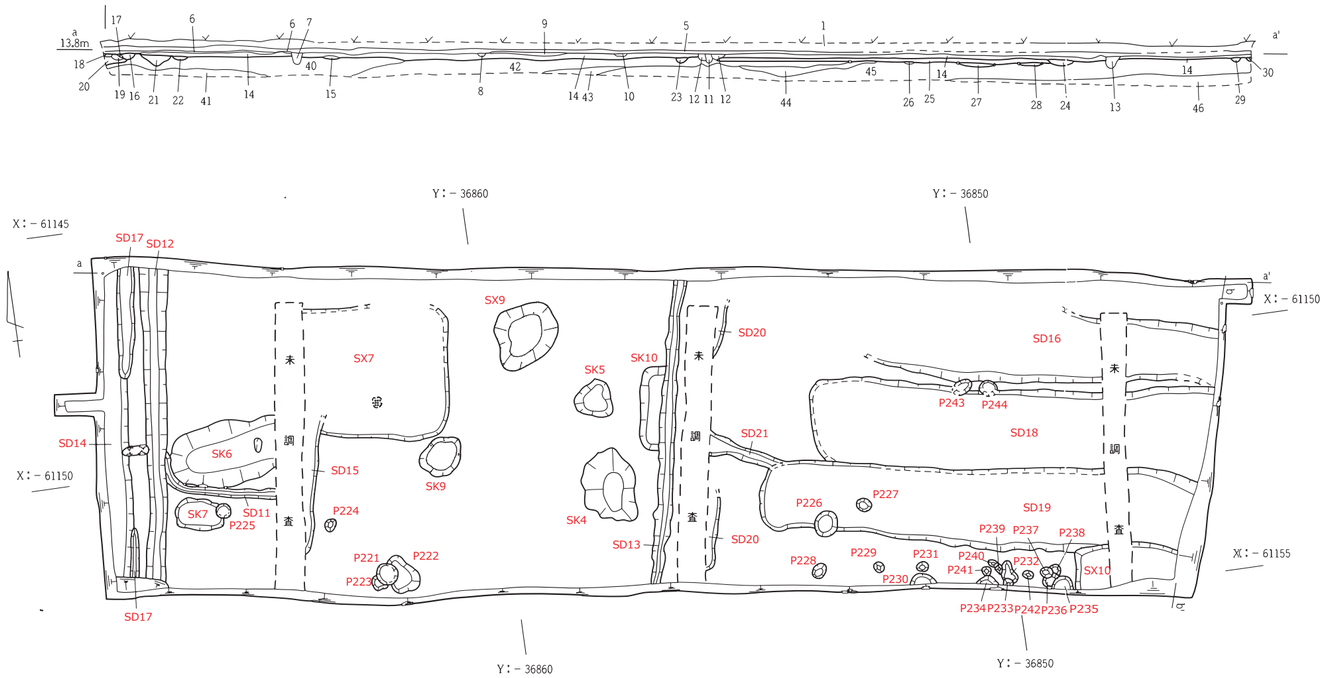
印刷　ヨツハシ株式会社
岐阜市黒野南1丁目90

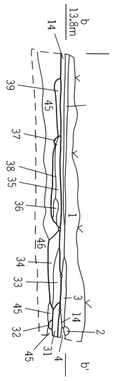


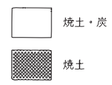
〈A 2 区土層名〉

1　暗灰色シルト(耕作土)
2　暗灰色シルト　やや締まる(床土)
3　灰色粘質土
4　灰色シルト
5　淡灰色シルト
6　観察なし(暗渠)
7　褐灰色シルト
8　灰色粘質土
9　灰褐色粘質シルト
10　灰黄褐色砂質土(SK27)
11　黄灰色砂質土(SK27)
12　淡青灰色粘土(SK27)
13　褐灰色シルト(SD 9)
14　褐灰色シルト(SD10)
15　観察なし(SK15)
16　灰褐色土　やや締まる(P143)
17　灰黄褐色砂質土(P143)
18　灰黄褐色砂質土(ピット)
19　灰黄褐色砂質土　焼土・炭若干混じる
20　淡灰色砂質土
21　褐灰色シルト
22　灰黄褐色砂質土
23　灰黄褐色砂質土　焼土・炭若干混じる(P130)
24　観察なし(P130)
25　灰黄褐色砂質土　焼土・炭少し混じる
26　灰黄褐色砂質土　焼土・炭多く混じる(P129)
27　灰黄褐色砂質土(P129)
28　灰黄褐色砂質土(P113)
29　灰黄褐色砂質土
30　灰黄褐色砂質土　褐色土混じる
31　灰黄褐色砂質土　焼土・炭多く混じる
32　灰黄褐色砂質土(P105)
33　灰黄褐色砂質土　褐色土混じる(P96)
34　黄灰色砂質土(SK 3)
35　灰黄褐色砂質シルト
36　灰黄褐色シルト　焼土・炭多く混じる(P189)
37　観察なし(遺構)
38　観察なし(遺構)
39　黄褐色粘質シルト　暗褐色土混じる(遺構)
40　観察なし
41　観察なし(P160)
42　灰色砂質粘土(SD 8 ？)
43　灰色砂質土(SD 8 ？)
44　灰色粘質土(SD 8)
45　灰色砂質シルト(遺構)
46　淡灰黄褐色砂質土
47　淡灰色砂質土
48　灰色粘質シルト
49　淡黄灰色粘質シルト
50　淡灰色土
51　黄褐色シルト質砂層
52　灰黄色細砂層
53　灰黄褐色砂質土(SD52？)
54　灰色細砂層(SD56)
55　観察なし
56　淡灰色シルト(SX27)
57　黄褐色砂質シルト(SX27)
58　淡黄灰色シルト(SD50)
59　褐灰色シルト(SX23)
60　灰色粘質シルト(SX22)
61　灰黄褐色シルト
62　灰褐色粘質土
63　黄褐色粘土
64　遺構埋土
65　遺構埋土
66　褐灰色粘質土
67　黄淡灰色粘質シルト
68　灰褐色シルト質砂層
69　灰黄褐色粘質土
70　黄褐色粘質土
71　灰色粘土
72　灰色砂質シルト
73　淡灰色シルト
74　淡灰色砂質土
75　灰色粘質シルト
76　淡灰色砂質粘土
77　砂礫層
78　青灰色シルト質砂層
79　青灰色粘質土
80　灰色粘質土
81　黄灰色シルト質砂層
82　砂層
83　砂礫層
84　灰色粘質土
85　灰黄褐色粘質土　締まる
86　灰黄褐色粘質土　締まりなし
87　灰色砂層
88　黄橙色砂層
89　暗褐色砂層
90　灰色砂質粘土
91　黄褐色粘土
62～91：地山

別添図1　A 2 区全体図

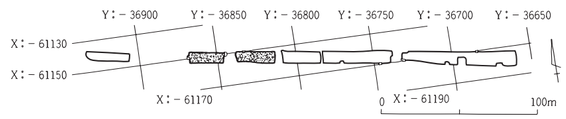


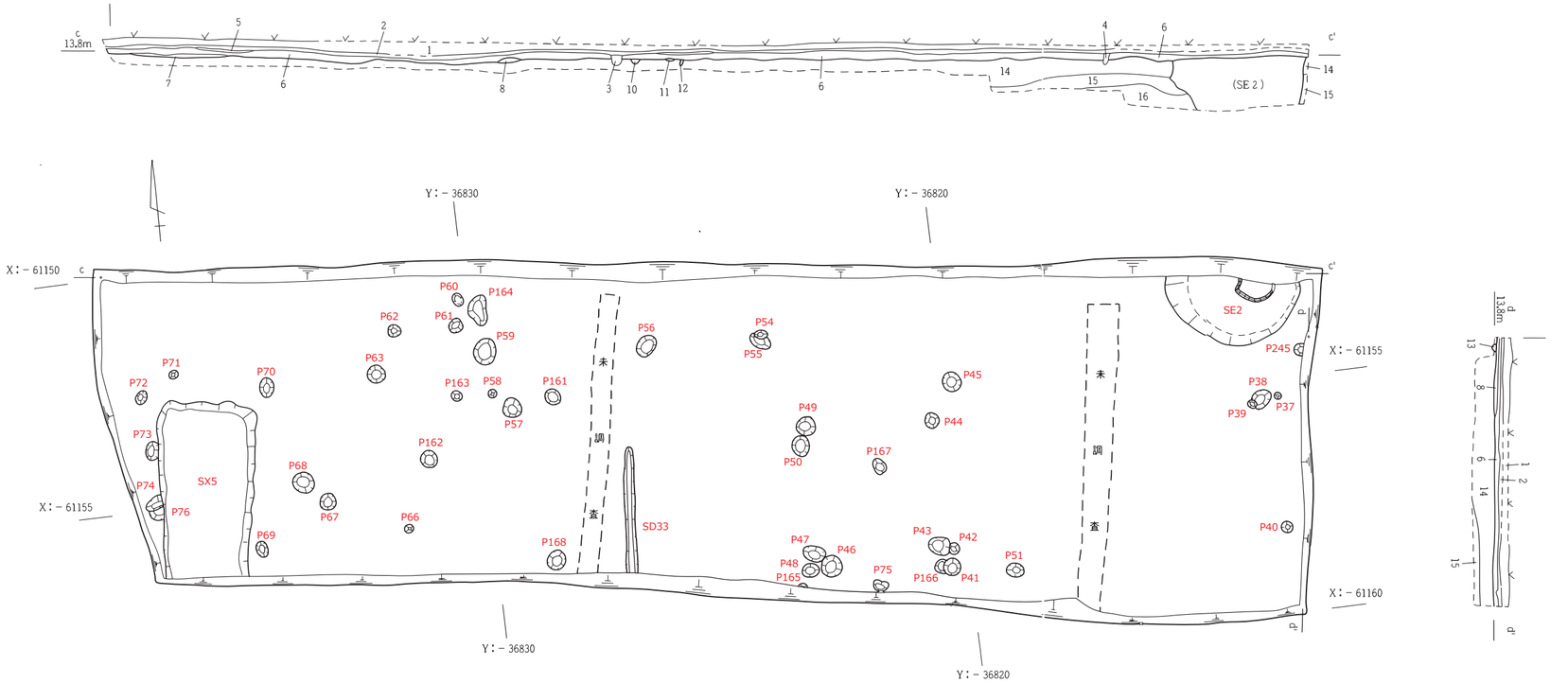




〈A５区土層名〉

1　黒褐色土(耕作土)
2　灰色シルト
3　暗灰色砂質シルト
4　暗褐色土
5　暗灰色シルト(床土)
6　灰褐色シルト　やや締まる
7　灰褐色シルト　黄色土ブロック混じる(暗渠　竹残存)
8　暗褐色土　５より若干明るい
9　８と似る　締まり強い
10　暗灰色粘質シルト
11　灰褐色シルト　黄色土ブロック混じる(暗渠　竹残存)
12　灰褐色砂質シルト
13　黄色粘質土と灰褐色シルトの混合層(暗渠　竹残存)
14　黄灰褐色シルト　鉄分多い
15　明灰褐色シルト
16　黄灰色シルト　やや粘質(SD17)
17　灰色シルト(SD14)
18　灰色粘質シルト(SD14)
19　灰色シルト　やや砂質(SD14)
20　灰褐色シルト(SD14)
21　灰色粘質シルト(SD12)
22　茶色砂質土(遺構)
23　灰褐色砂質シルト(SD13)
24　黒灰褐色シルト　黄色ブロック混じる(遺構)
25　灰褐色シルト　焼土若干混じる(SD16？)
26　茶色砂質シルト(遺構？)
27　黄褐色粘質シルト(遺構？)
28　茶褐色砂質シルト(遺構？)
29　灰色砂質シルト(遺構)
30　灰色シルト　やや粘質(遺構)
31　灰褐色シルト(SX10)
32　灰褐色砂質シルトと黄色粘質土の混合層(遺構)
33　茶褐色砂質シルト(SD19)
34　灰色砂質シルト　黄色粘質土混じる(SD19)
35　灰褐色シルト(SD18)
36　茶色砂質土(SD18)
37　茶灰色砂質シルト(SD18)
38　灰色砂質シルト　黄色粘質土混じる(SD18)
39　灰褐色砂質シルト(SD16)
40　黄褐色シルト
41　茶褐色砂質土
42　茶色砂質土(41と同一か？)
43　明茶色シルト
44　暗黄色砂質シルト
45　茶色粘質土　東の方で黄色になる
46　茶褐色シルト
40～46：地山

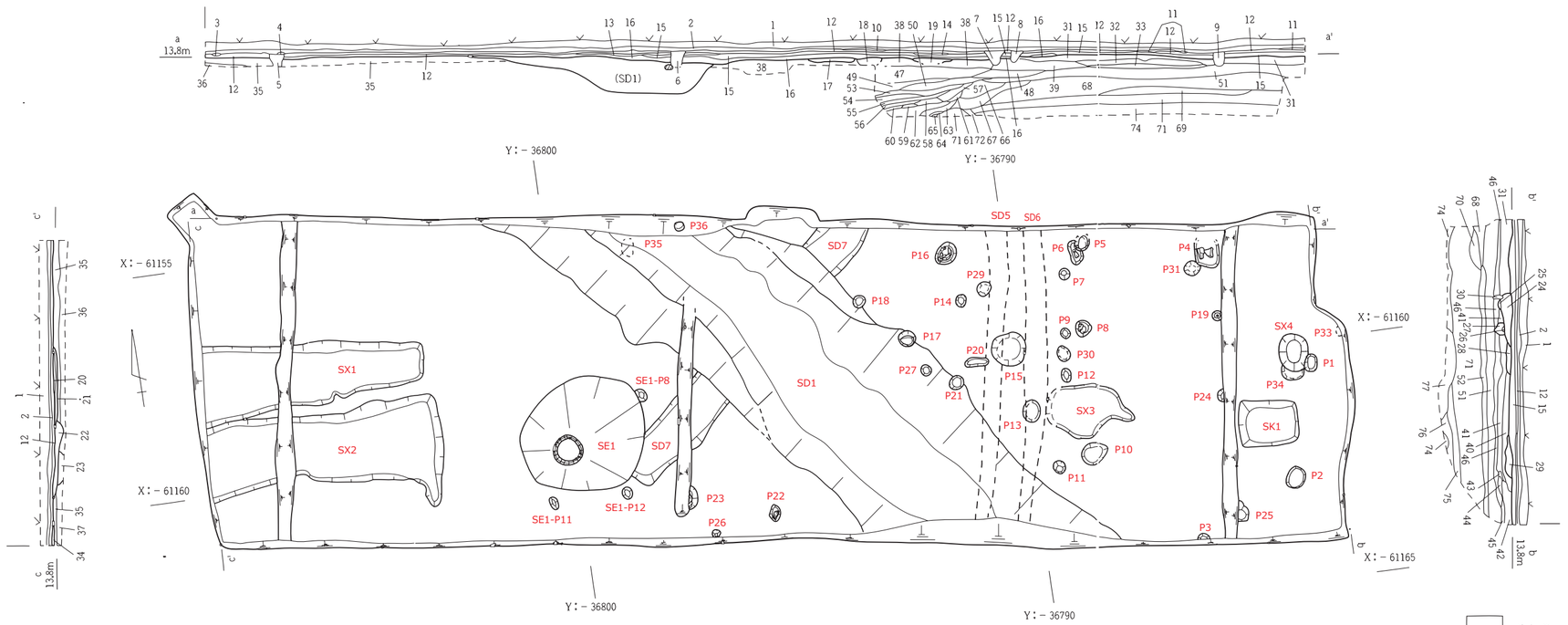




〈A６区土層名〉

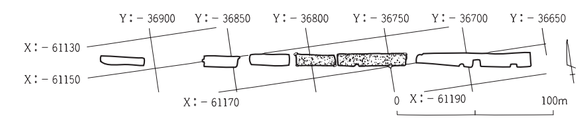
1　暗茶褐色土(耕作土)
2　暗灰褐色シルト(床土)
3　灰褐色シルト　やや粘質(暗渠　竹残存)
4　灰褐色シルト(暗渠　竹残存)
5　灰褐色シルト
6　黄灰色シルト
7　黄褐色シルト
8　灰褐色砂質土
9　灰色砂質シルト　鉄分多い
10　灰褐色砂質シルト
11　暗灰色シルト
12　暗褐色シルト(杭の痕跡？)
13　灰褐色シルト(P245)
14　黄色粘質土(地山)
15　茶色砂質シルト(地山)
16　茶色シルト　15より粘性強い(地山)

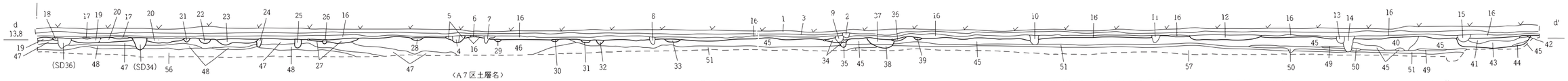
別添図２　A５、６区全体図



〈A１区土層名〉

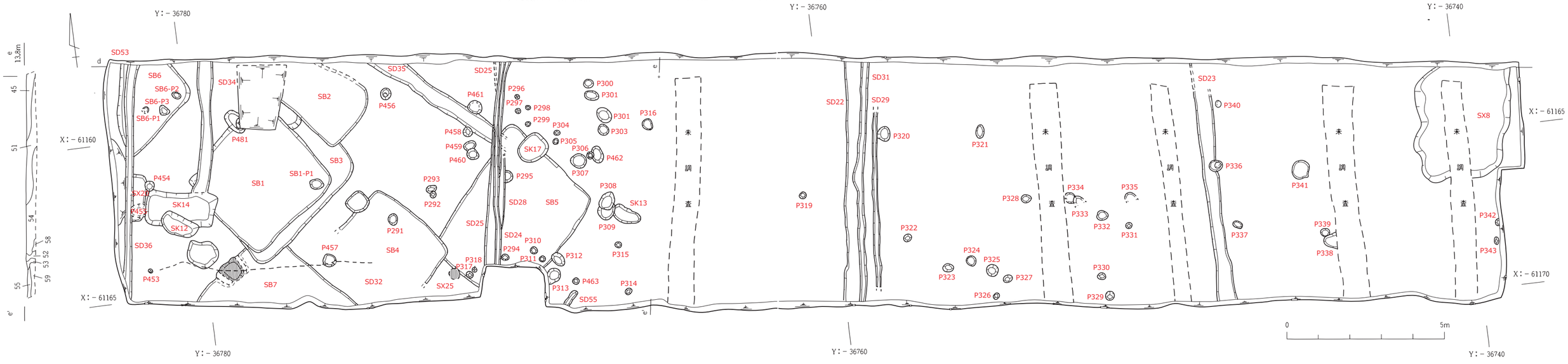
1 暗褐色土（耕作土）
2 暗灰色砂質シルト（床土）
3 灰色砂質シルト
4 黒灰色粘質土（暗渠　竹残存）
5 灰色砂質シルト（暗渠　竹残存）
6 灰褐色土　黄色ブロック混じる（暗渠　竹残存）
7 灰色砂質シルト（SD５）
8 灰色砂質シルト（SD６）
9 黄色砂質土　灰色ブロック混じる（暗渠　竹残存）
10 灰褐色砂質シルト
11 灰色砂質シルト
12 黄色砂質シルト
13 黄褐色土
14 既窯なし
15 灰褐色土　鉄分多く含む
16 灰褐色土
17 褐色シルト（SD７）
18 黄色粘質土　若干シルト質
19 灰褐色シルト
20 茶褐色シルト（SX１）
21 灰褐色シルト（SX１）
22 暗灰褐色砂質シルト（SX２）
23 黄褐色粘質土（SX２？）
24 黄褐色土
25 暗灰色土
26 黄褐色土
27 灰褐色土
28 黄灰色砂質土　鉄分多く含む
29 茶色シルト（盛構？）
30 暗灰色砂質シルト
31 黄褐色砂質シルト
32 暗黄色砂質シルト
33 橙色土
34 灰色砂質シルト（盛構？）
35 暗黄灰色砂質シルト（31と同一層か？）
36 黄色粘質土（51と同一層か？）
37 黄褐色砂質シルト
38 黄色粘質土
39 既窯なし
40 茶褐色砂質シルト
41 暗赤褐色砂質シルト
42 茶色砂質シルト
43 黄色土ブロック
44 茶色砂質シルト
45 橙色シルト
46 茶色砂質シルト（盛構？）
47 茶色砂質シルト
48 黄灰色砂質シルト
49 黄灰色砂質シルト
50 黄色砂質土
51 黄色粘質土（36と同一層か？）
52 茶褐色粘質土
53 黄色砂質土、灰色砂質土の混合層
54 茶色砂質土
55 暗灰色砂質土　炭混じる
56 茶褐色砂層　東方で黄色強い
57 黄茶色砂質土
58 灰色砂質土
59 黄色砂質土
60 黒灰色砂質土
61 灰褐色砂質シルト
62 黄褐色砂層
63 灰褐色砂層
64 黄褐色砂層
65 暗灰色砂層
66 茶色砂質シルト　東方で青灰色に変化
67 灰褐色粘質土　東方で灰色強くなる
68 黄褐色砂質シルト　上部に鉄分混じる
69 茶褐色シルト
70 黄褐色砂質土、砂の粒子粗い
71 茶褐色シルト　黒灰色の砂混じる
72 灰色砂質土　鉄分多く混じる
73 黒灰色粘質土
74 茶褐色粘質土　炭混じる
75 茶色砂質シルト　黒灰色の砂混じる
76 灰白色粘質土
31－76：地山（53－67：流路による堆積？）



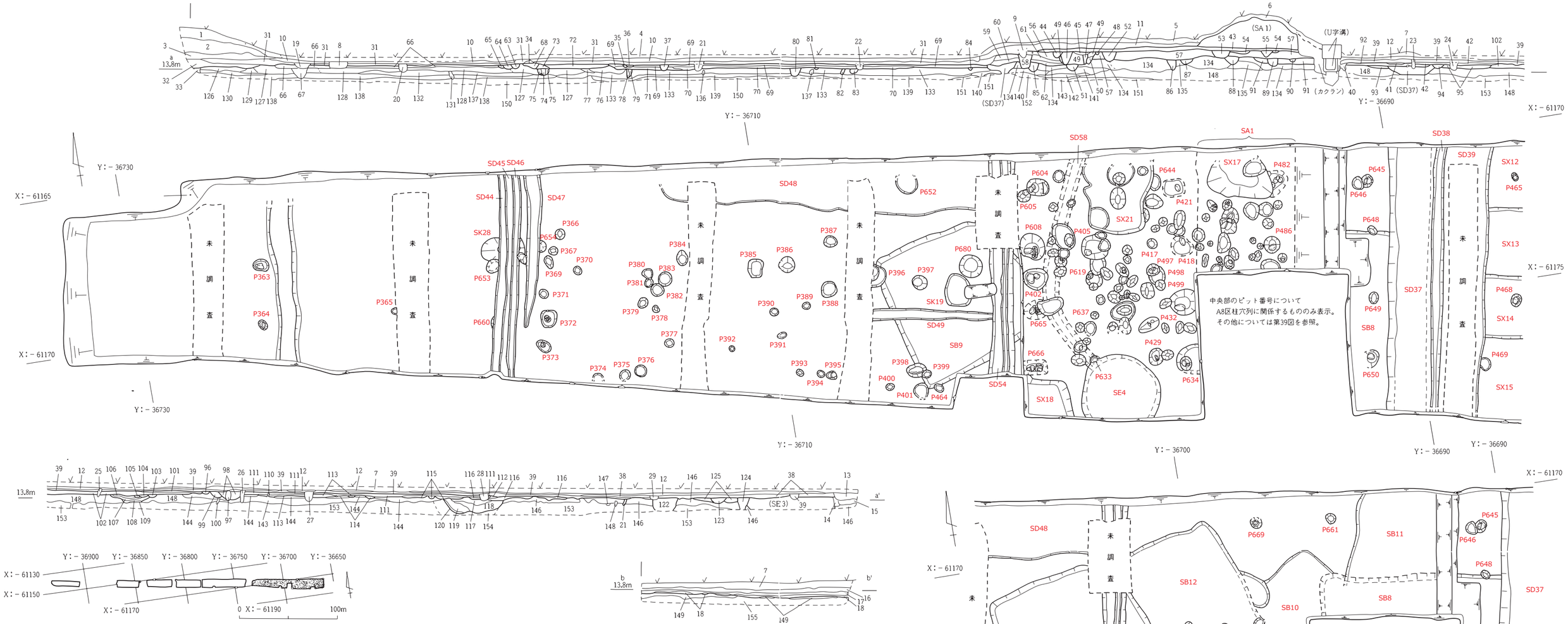


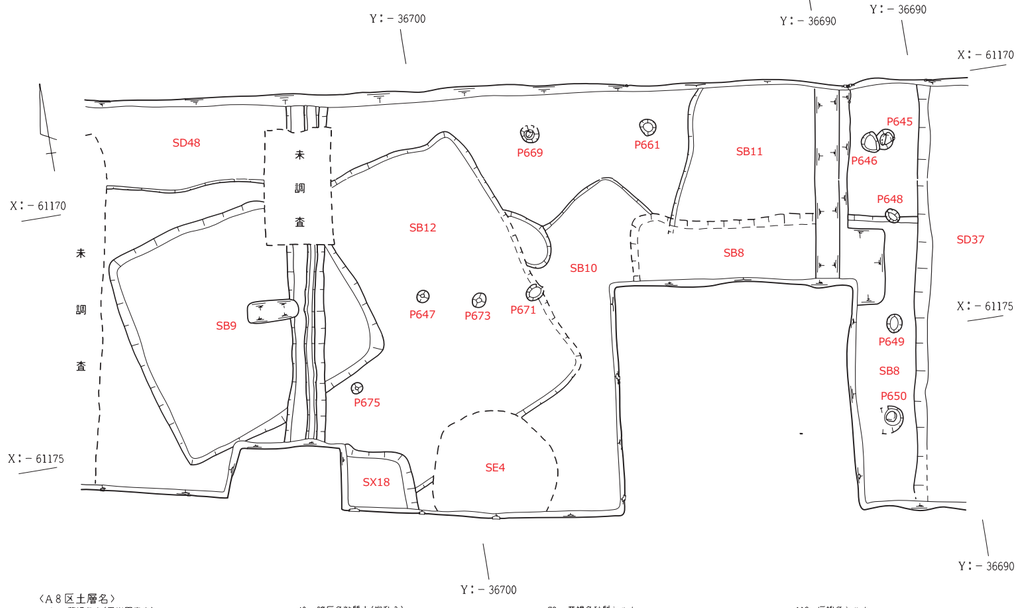
〈A７区土層名〉

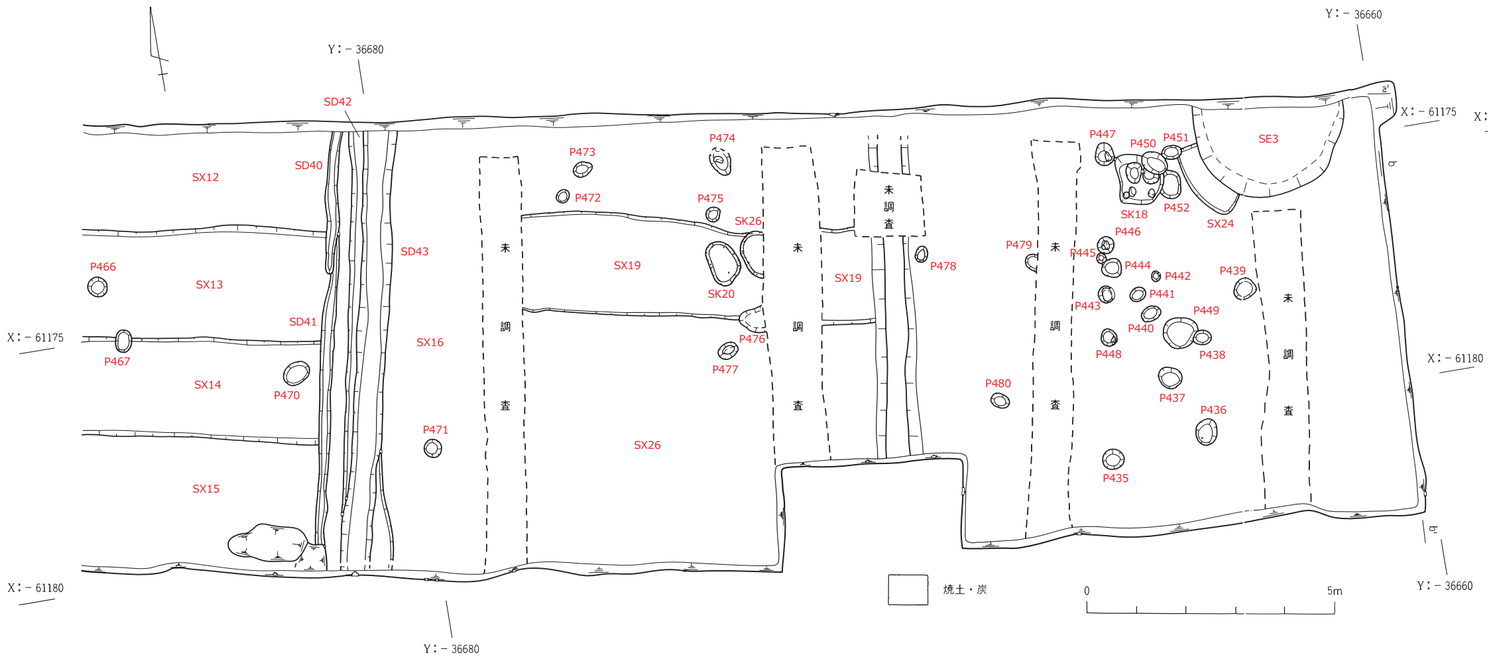
1 暗褐色土（耕作土）
2 灰色シルト
3 黒灰褐色シルト（床土）
4 灰色砂質シルト　締まり弱い（SD24）
5 灰色砂質シルト　４よりやや暗い（SD25）
6 灰色シルト
7 暗灰色砂質シルト　硬く締まる
8 暗灰色シルト（暗渠　竹残存）
9 茶褐色シルト
10 灰褐色砂質シルト（暗渠　竹残存）
11 暗灰色シルト（暗渠　竹残存）
12 暗青灰色シルト（SD23？）
13 暗青灰色シルト（暗渠　竹残存）
14 灰色粘質土　礫多く混じる
15 暗青灰色シルト（暗渠　竹残存）
16 黄灰色シルト
17 灰色砂質シルト
18 暗灰色シルト（SD53）
19 灰褐色砂質シルト（SB６）
20 灰茶褐色シルト　炭混じる（盛構？）
21 灰茶色シルト　炭混じる
22 茶色砂質シルト　灰色シルトブロック混じる
23 灰褐色砂質シルト　炭混じる
24 茶褐色砂質シルト　黄色粘土ブロック混じる
25 茶褐色砂質シルト　上部に灰褐色シルト混じる
26 灰褐色砂質シルト
27 黄灰色シルト　硬く締まる
28 灰色シルト
29 灰色シルト
30 暗褐色シルト　炭混じる
31 黄色砂質シルト、青灰色砂質シルトの混合層
32 灰白色砂質シルト、黄色砂質シルトの混合層
33 灰色砂質シルト
34 灰色シルト（SD22）
35 灰褐色砂質シルト（SD31）
36 灰色シルト　硬く締まる
37 灰色シルト（盛構）
38 茶褐色砂質土　やや粘性あり（盛構）
39 灰褐色砂質シルト　褐色粘質土ブロック混じる
40 黄褐色シルト
41 灰褐色シルト（SX８）
42 暗灰色砂質土（SX８）
43 暗灰褐色砂礫層（SX８）
44 茶褐色砂質土、灰色シルトの混合層（SX８）
45 青灰色砂質土　東方で砂の粒子粗くなる
46 黄褐色シルト　硬く締まる
47 茶褐色砂質シルト　砂質強い
48 茶褐色シルト
49 黄白色砂質シルト　砂気がかなり強い
50 茶色砂質シルト
51 茶色砂質シルト
52 灰褐色砂質シルト
53 黄褐色シルト
54 黄色粘質シルト
55 黄褐色シルト
56 黄色粘質土（57、59と同一層か？）
57 黄色粘質土（56、59と同一層か？）
58 黄灰褐色砂質シルト
59 黄色粘質土（56、57と同一層か？）
45－59：地山



別添図３　Ａ１、７区全体図







別添図４　Ａ８区全体図

〈A８区土層名〉

1　茶褐色土（果樹園表土）
2　茶色土と黄色粘土ブロックの混合層（果樹園盛り土）
3　灰色砂質シルト（果樹園盛り土）
4　茶褐色土（田の耕作土）
5　茶褐色土（畑耕作土）
6　褐色土（SA１部分表土）
7　褐色シルト（耕作土）
8　暗灰色シルト
9　茶色シルト　締まり弱い
10　灰色シルト　締まりなし
11　茶褐色土　５と似るがかなり締まる
12　茶褐色シルト（床土）
13　灰褐色シルト　黄色粘質土ブロック混じる
14　褐色砂質シルト
15　黄褐色粘質シルト
16　暗灰色シルト　締まり強い（撹乱の一部？）
17　黒灰色粘質シルト　喰混じる（撹乱）
18　灰色砂質シルト（撹乱）
19　灰色シルト　若干砂気あり
20　灰色シルト（暗渠）
21　灰褐色シルト（暗渠）
22　茶褐色シルト（暗渠）
23　暗灰色シルト　締まりなし　杭跡？
24　灰褐色シルト（暗渠　竹抜存）
25　灰褐色シルト
26　灰褐色粘質土　杭跡？
27　灰褐色シルト（暗渠　円礫混じる）
28　黄褐色シルト　鉄分多い（暗渠　円礫混じる）
29　茶褐色シルト　硬く締まる（暗渠　円礫混じる）
30　灰褐色シルト（暗渠　円礫混じる）
31　暗灰色シルト　やや粘質　締まりなし
32　灰褐色シルト
33　礫層なし
34　暗黄色砂質シルト
35　灰茶色シルト
36　暗灰色シルト
37　灰色シルト　若干砂質
38　灰茶色シルト　若干砂質
39　灰褐色砂質シルト　黄色シルトブロック混じる
40　暗灰色粘質土（撹乱？）
41　黄灰色シルト
42　黄灰褐色シルト
43　茶褐色シルト　焼土・炭多く混じる
44　茶褐色シルト　中央部分に焼土・炭混じる
45　茶褐色シルト　締まりない
46　茶褐色シルト　中央部分に焼土・炭混じる
47　褐色シルト　締まり弱い
48　茶色シルト　焼土・炭多量に混じる（道構）
49　黄灰色シルト（SD58）
50　茶褐色シルト
51　茶褐色シルト　若干粘質
52　茶褐色シルト　中央部分に焼土・炭混じる
53　茶褐色シルト　焼土・炭混じる（P685）
54　暗褐色シルト　焼土・炭若干混じる
55　茶灰褐色シルト（P686）
56　褐色シルト　締まりなし
57　茶褐色シルト
58　灰茶褐色シルト　焼土・炭が混じる（道構）
59　茶褐色シルト
60　明灰茶色シルト
61　褐色シルト　締まりなし
62　茶褐色シルト
63　灰褐色シルト（SD44）
64　暗灰色シルト　若干黄色になる（SD45）
65　暗灰色シルト（SD46）
66　灰褐色シルト
67　灰褐色砂質シルト
68　灰褐色シルト（SD47）
69　灰色シルト　黄色強い（SD48？）
70　灰褐色シルト（SD48？）
71　灰褐色シルト（SD48？）
72　灰色シルト
73　礫層なし
74　灰褐色シルト　焼土・炭混じる（ピット柱痕）
75　茶灰褐色砂質シルト（ピット掘方）
76　黄褐色シルト
77　灰褐色シルト
78　黄色粘質シルト
79　黄褐色砂質シルト
80　灰茶褐色粘質シルト（道構）
81　暗灰褐色粘質土
82　黄褐色粘質土
83　灰茶褐色シルト（道構？）
84　茶褐色シルト　暗灰褐色シルト混じる（道構？）
85　灰褐色シルト
86　黄褐色シルト
87　灰褐色シルト（道構）
88　黄灰褐色シルト
89　灰褐色シルト
90　黄褐色シルト
91　黄灰褐色シルト（SB11）
92　黄灰褐色シルト
93　黄褐色シルト
94　暗灰色シルト（SD38）
95　灰褐色シルト　若干褐色強い（SD39）
96　暗灰色シルト（SD40）
97　灰色粘質土　非常に硬い（道構？）
98　灰褐色シルト（SD43）
99　灰茶色シルト（SD42）
100　礫層なし
101　灰褐色シルト
102　灰褐色シルト　黄色シルト混じる
103　茶褐色シルト
104　褐色シルト　暗灰色シルト混じる
105　褐色シルト　焼土・暗灰色シルト混じる
106　茶褐色シルト　若干砂質　焼土混じる
107　暗青灰色シルト　非常に硬い
108　灰色砂質シルト　硬く締まる
109　暗黄灰色砂質シルト
110　灰褐色粘質土　礫層？
111　灰褐色シルト　硬く締まる
112　灰色砂質シルト
113　灰褐色シルト　焼土混じる
114　灰褐色シルト　焼土混じる
115　黄褐色砂質シルト　灰褐色シルト・焼土混じる
116　黄褐色砂質シルト　硬く締まる
117　茶褐色砂質シルト
118　灰褐色シルト
119　茶褐色粘質シルト
120　暗黄色粘質土
121　黄色粘質土　杭跡？
122　灰褐色粘質シルト　灰色砂質土ブロック混じる
123　灰褐色砂質シルト
124　黒灰色粘質土（道構）
125　灰黄白色砂質シルト
126　黄灰白色シルト
127　茶褐色砂質シルト　砂気強い
128　灰色砂質シルト　砂気強い
129　灰茶色砂質シルト
130　灰色砂質土　若干シルト質
131　黄褐色粘質土
132　茶色砂質土
133　茶褐色砂質土　若干シルト質
134　黄褐色シルト　西方で灰褐色シルト　締まり強い
135　暗黄褐色粘質シルト（地山）
136　黄褐色粘質土
137　黄褐色粘質土
138　茶褐色砂質シルト
139　茶色砂質シルト　砂気強い
140　茶褐色砂質シルト　一部黄色強い
141　黄褐色粘質シルト
142　茶色砂質シルト　均質
143　灰褐色砂質土　黄色ブロック混じる
144　茶色シルト　硬く締まる
145　灰色粘質土　黄色粘質土混じる
146　暗灰色砂質土
147　灰黄色砂質シルト
148　茶褐色砂質シルト
149　茶色砂質シルト
150　黄褐色粘質土
151　黄褐色粘質シルト
152　黄色粘質土
153　黄色粘質土
154　灰白色粘質土
155　黄褐色粘質土
126～155：地山